

蔵王町文化財調査報告書 第13集

十郎田遺跡 1

— 経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備事業)に伴う緊急発掘調査 —



2011年(平成23年)11月

宮城県刈田郡蔵王町教育委員会

十郎田遺跡 1

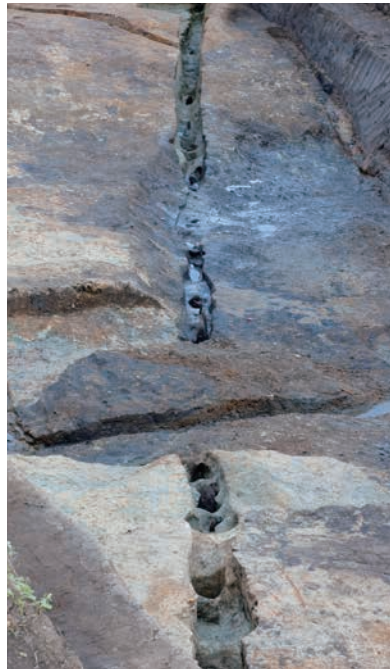
— 経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備事業)に伴う緊急発掘調査 —



5区 SA235 材木堀跡南東隅周辺（南東から）



1区 SA28 材木堀跡（東から）



5区 SA235 材木堀跡（西から）



1区 SD162 大溝跡（東から）



5区 SA235 材木堀跡（断面・北から）



5区 SA235 材木堀跡（柱材・北から）



1区 SD162 大溝跡（断面・東から）



1区 SI163 竪穴住居跡 (南東から・5世紀中頃～後半)



1区 SI163 竪穴住居跡 K4 土坑 (遺物出土状況・西から)



3区 SI51 竪穴住居跡 (南から・7世紀後半)



4区 SI4 竪穴住居跡 (南から・7世紀後半)



3区 SI52 竪穴住居跡 (南西から・7世紀後半)



3区 SI52 竪穴住居跡 (カマド付近・南西から)



5区 SI225 竪穴住居跡 (南から・7世紀後半)



5区 SI225 竪穴住居跡 (カマド付近・南から)



1区 SI163 豎穴住居跡出土遺物 (5世紀中頃～後半)



3区 SI52 豎穴住居跡出土遺物 (7世紀後半)



4区 SI4 豎穴住居跡出土遺物 (7世紀後半)



4区 S19 竪穴住居跡出土遺物 (7世紀後半)



5区 S1225 竪穴住居跡出土遺物 (7世紀後半)



2区 SK41 土坑出土遺物 (9世紀中葉～後半)

序 文

蔵王山麓の豊かな自然環境に恵まれた蔵王町は、大昔から大変住み良いところだったのでしょう。地域に残された数多くの遺跡が、悠久の時をこえてそのことを力づよく物語っています。

地中に埋もれた太古の人々の生活の痕跡である遺跡は、タイムカプセルに例えられます。何百年、何千年という長い年月にわたって土中に保存されてきた太古の人々の暮らしぶりや自然現象の情報が、発掘調査という開封作業を経て現代に生きる私たちに伝えられるのです。遺跡とはまさに、先人たちが残したかけがえのないタイムカプセルと言えるでしょう。

私たちは、遺跡というタイムカプセルから何を読み取り、どのように活かしていくべきでしょうか。平成23年3月11日、東日本大震災というはかり知れない苦しみと悲しみに突如として襲われた私たちは現在、それを何とか乗り越え、懸命に立ち上がろうとしています。歴史を振り返れば、私たちの暮らす東北地方はこれまでも多くの自然災害を経験してきました。それでも先人たちは、その度に力強く復興を遂げたのです。そうした自然災害の爪跡と、先人たちのたくましい生きざまが、宮城県内のいくつかの遺跡の発掘調査で発見されていました。このような、遺跡に残されたメッセージを読み解き、社会に発信すること、得られた情報を活かし、そこに暮らす人々の福利に貢献させることのできる社会を作り上げること、それこそがこれからの私たちに課せられた使命と言えるのではないのでしょうか。

本書では、県営ほ場整備事業の実施に先立って平成19・20年度に実施した十郎田遺跡の発掘調査成果についてご報告します。発掘調査と整理作業の実施にあたっては、宮城県教育庁文化財保護課、宮城県大河原地方振興事務所、蔵王町土地改良区、小村崎区をはじめ、多くの各位よりご指導ご協力を賜りました。篤く御礼申し上げます。

本遺跡に残されていた先人たちからのメッセージは実に豊富ですが、特筆すべきは飛鳥時代の大規模な移民集落の存在が確認されたことです。この発見によって、当時この地域が律令国家による東北地方支配の足がかりとして重視されていたことがわかりました。本書にまとめられた学術的成果、すなわち先人たちが残したメッセージが、郷土の歴史解明に役立てられるとともに、町民各位の郷土愛の糧となり、地域発展の基礎となっていくことを願い序とします。

平成23年11月

蔵王町教育委員会
教育長 佐藤 茂廣

例 言

1. 本書は、蔵王町大字小村崎字十郎田・宮前地内に所在する十郎田遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の発掘調査は、経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う事前調査として行なったものであり、発掘調査から整理作業および本書の作成に至る一連の業務は、調査原因となった事業の主体者である宮城県大河原地方振興事務所を委託者、蔵王町を受託者とする業務委託契約を締結し、蔵王町教育委員会が平成 19・20 年度に発掘調査・基礎整理作業、平成 22・23 年度に本整理・報告書作成作業を実施した。
3. 本書で報告する遺構のうち、4 区で確認した SE66 井戸跡については多量の木製品が出土していることから、蔵王町文化財調査報告書第 14 集「十郎田遺跡 2」において別途詳細を報告する。また、本発掘調査で出土した木製遺物を試料として実施した放射性炭素年代測定（AMS 分析）および樹種同定分析の結果についても同書に収録するので併せて参照されたい。
4. 本遺跡の発掘調査と整理作業は蔵王町教育委員会が主体となり、教育総務課文化財保護係が担当した。職員体制は下記のとおりである。

教 育 長 山田 紘（H19~22） 佐藤 茂廣（H23）

教育総務課長 我妻 一（H19） 大沼 芳國（H20~22） 高野 正人（H23）

課 長 補 佐 阿部 宏（H19~21） 高野 正人（H22） 佐藤 浩明（H23）

文化財保護係長 佐藤 洋一 主 事 鈴木 雅

文化財臨時職員 庄子 善昭（H19~23）・小泉 博明・庄子 裕美・一條 隼・重森 直人（H19）・
我妻 なおみ・鈴木（山戸）和美（H20~23）・安倍 奈々子・古田 和誠（H20）・
渡邊 香織（H22~23）・中沢 祐一（H22）

発掘調査作業員 芦立 清・太田 忠義・大庭 慶志郎・加藤 初子・亀井 勇二・熊坂 信子・小杉 佐和子・
後藤 扶美江・小林 四郎・小林 美智子・佐藤 和子・佐藤 貴美子・佐藤 照子・
佐藤 福治・佐藤 義晴・眞貝 誠一・鈴木 光一・鈴木 勝・竹内 恂子・樋口 良子・
堀内 博・山家 次郎・吉田 三郎（H19~20）・我妻 ひろい・加藤 洋一・菊地 茂・
鈴木 初江・樋口 豊一・横山 清蔵（H19）・我妻 英子・我妻 儀八・我妻 武夫・
浅沼 一郎・佐藤 かおる・清野 政男（H20）

室内整理作業員 我妻 英子・小杉 佐和子・小林 四郎・小林 美智子・佐藤 かおる・
佐藤 貴美子（H19~20・22~23）・我妻 大（H19）・岩佐 若奈（H19・22~23）・
竹内 恂子（H20）・大庭 慶志郎・佐藤 恵子・佐藤 里栄・松田 律子（H22~23）

5. 本書の作成に先立ち、第 1 回蔵王町出土遺物検討会「円田盆地周辺における 7~8 世紀の土器様相」（平成 21 年 4 月 25 日、会場：蔵王町ふるさと文化会館、主催：蔵王町教育委員会・宮城県考古学会古墳古代研究部会）を開催し、県内外の考古学研究者等 44 名の参加を得て意見交換を行なった。
6. 本遺跡の発掘調査および資料整理と本書の作成に際し、以下の諸機関・諸氏よりご指導・ご助言ならびにご協力を賜った。ここに記して深甚より謝意を表します。

宮城県教育庁文化財保護課・宮城県考古学会古墳古代研究部会

植松 暁彦・大久保 弥生・大場 正善・鹿又 喜隆・川崎 利夫・工藤 信一郎・佐川 正敏・櫻井 友梓・
佐藤 鎮雄・佐藤 敏幸・菅原 祥夫・鈴木 芳英・辻 秀人・長島 榮一・早瀬 亮介・村田 晃一・
柳澤 和明・山田 しょう・第 1 回蔵王町出土遺物検討会参加者各位（敬称略・五十音順）

7. 本発掘調査における現場写真撮影に使用した機材等は以下のとおりである。
カメラ：NikonD100・NikonD70s / レンズ：AF-S NIKKOR 18-70mm f3.5~4.5G ED
8. 遺物の写真撮影は、庄子 善昭が担当した。撮影に使用した機材等は以下のとおりである。
カメラ：NikonD90 / レンズ：AF MICRO NIKKOR 60mm F:2.8 D / ストロボ：SUNPAK auto544 /
赤外線カメラ：SONY MVC-FD7 (改) / 赤外線 LED ライト：AE-LED56 /
撮影ソフトウェア：Nikon Camera Control Pro2 / 現像ソフトウェア：Adobe Photoshop Lightroom3 ver.3.0
9. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、画像処理、レイアウトには下記のソフトウェアを使用した。
Adobe Photoshop6.0・CS4 / Adobe Illustrator10.0・CS4 / Adobe InDesignCS4
10. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、遺物実測図の作成およびトレース、遺物拓本、遺物写真撮影、図版レイアウトなどは文化財臨時職員が中心となり、室内整理作業員がこれを助けた。
11. 本発掘調査の整理作業は、下記の調査員が中心となり、調査員全員で協議しながら進めた。
遺構：我妻 なおみ、土師器・須恵器・木製品：庄子 善昭・鈴木 和美・小泉 博明、
縄文土器・陶磁器：渡邊 香織、石器：中沢 祐一・安倍 奈々子、統括：鈴木 雅・庄子 善昭
12. 本書の執筆は、調査員全員の協議を経て鈴木 雅が執筆・編集し、佐藤 洋一・鈴木 和美が校正・照合を担当した。
13. 本発掘調査の成果については、下記においてその概要を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先するものである。
蔵王町十郎田遺跡 発掘調査成果見学会 (平成 20 年 10 月 19 日)
平成 20 年度 宮城県遺跡調査成果発表会 (口頭・紙上発表)
「蔵王町十郎田・窪田遺跡―県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の概要―」
(平成 20 年 12 月 13 日、会場：東北大学 片平さくらホール、主催：宮城県考古学会)
第 35 回 古代城柵官衙遺跡検討会 (口頭・紙上発表)
「宮城県刈田郡蔵王町十郎田遺跡―平成 19・20 年度発掘調査成果の概要―」
(平成 21 年 2 月 21・22 日、会場：ホテル東日本盛岡、主催：古代城柵官衙遺跡検討会)
平成 21 年度 宮城県考古学会研究発表会 特集：7 世紀の集落遺跡 (口頭・紙上発表)
「十郎田・窪田遺跡」 (平成 21 年 5 月 17 日、会場：東北歴史博物館、主催：宮城県考古学会)
宮城考古学 第 12 号 特集 2：7 世紀の集落遺跡 (紙上発表)
「十郎田遺跡の 7 世紀集落」 (平成 22 年 5 月 16 日、発行：宮城県考古学会)
14. 本発掘調査で出土した遺物および写真・図面等の記録資料については、蔵王町教育委員会が一括して永久保管している。

凡 例

1. 本発掘調査における測量原点の座標値は、日本測地系に基づく平面直角座標第 X 系による。測量成果表は第 6 図に示した。なお、方位は座標北を表している。
2. 本発掘調査では、調査区内に工事用測量基準杭を基準として 3m グリッドを設定し、東西・南北方向に数字を付した。グリッドの局地座標における北は日本測地系に基づく平面直角座標第 X 系における座標北を基準として東に 6.3°の方位である。
3. 第 3 図は、5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査における地形分類図「白石」の一部を使用した。

4. 第4図は、国土地理院による2万5千分の1地形図の電子国土配信データおよび日本高密メッシュ標高データをもとに風景CG作成ソフトウェア「カシミール3D」を使用して作成した。
5. 写真図版1-2は、国土地理院による空中写真の電子国土配信データの一部を使用した。
5. 本書で使用した土色の記述については、「新版標準土色帖」（小川・竹原2005）を参照した。
6. 本書で使用した遺構番号は、遺構種別に関わらず調査時に付された連続する番号を使用した。
7. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。
S I：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S A：柱穴列、S D：溝跡・河川跡、S E：井戸跡、
S K：落とし穴状土坑・土坑、S X：水溜状遺構・焼成遺構・性格不明遺構
8. 遺構・遺物実測図の縮尺は下記の通りで、それぞれ図中にスケールを付して示した。
調査区配置図：1/4000、遺構配置図：1/400
竪穴住居跡：1/60、掘立柱建物跡・柱列跡：1/100（断面図：1/60）
土坑・井戸跡：1/60、溝跡：1/100・1/200（断面図：1/60）
土器・陶磁器・土製品・木製品：1/3・1/4、礫石器：2/3・1/3、打製石器：1/1・2/3
9. 遺構断面図に付した土層注記表の備考欄では、下記の略号を使用して記載した。
（柱掘）：柱穴掘方埋土、（柱痕）：柱痕跡、（柱抜）：柱材抜き取り痕跡、（柱切）：柱材切り取り痕跡、
（堆）：堆積土、（崩）：崩落土、（構）：構築土、（人為）：人為的埋土（特記ないときは自然堆積土）
10. 遺構の説明では下記の表記方法を使用して記載した。
方 位：（例）北を基準として東に10度傾く：「N - 10° - E」
重複関係：（例）AよりBが新しい：「A → B」、重複関係にあるが新旧関係が不明：「A - B」
柱間寸法：柱痕跡が確認されなかった柱穴は中心点を基準に計測し、（ ）付きで示した。
11. 遺物観察表で、器面調整・加工の前後関係が確認でき、Aの痕跡よりBの痕跡が新しい場合「A → B」、前後関係が不明の場合「A・B」のように記載した。また、（ ）内の数値は残存値である。
12. 引用文献および執筆にあたり参考にした文献については巻末に一括して掲載した。

調査要項

遺 跡 名：十郎田遺跡（宮城県遺跡登録番号：05105 遺跡記号：TZ）

所 在 地：宮城県刈田郡蔵王町大字小村崎字十郎田・宮前地内

発掘調査面積：9,099㎡（事前調査分 5,452㎡、確認調査分 3,647㎡）

調 査 期 間：平成19年8月24日～平成20年1月15日（1~4区）

平成20年7月7日~11月7日（5区）

調 査 原 因：経営体育成基盤整備事業円田2期地区区画整理工事（県営ほ場整備事業）

調 査 主 体：蔵王町教育委員会 教育長 山田 紘

調 査 担 当：蔵王町教育委員会教育総務課文化財保護係

調 査 員：佐藤 洋一 鈴木 雅（教育総務課文化財保護係）

庄子 善昭（H19・20）・小泉 博明・庄子 裕美・一條 隼・重森 直人（H19）

我妻 なおみ・山戸 和美・安倍 奈々子・古田 和誠（H20）

調 査 指 導：宮城県教育庁文化財保護課

調 査 協 力：宮城県大河原地方振興事務所 蔵王町土地改良区 蔵王町小村崎区

目 次

序 文 例 言 凡 例 調査要項 目 次

第 1 章 遺跡の概要	1
第 1 節 遺跡の位置と地理的環境	1
第 2 節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第 2 章 調査に至る経緯	10
第 3 章 調査の方法と経過	11
第 4 章 調査の結果	15
第 1 節 基本層序	15
第 2 節 発見された遺構と遺物	15
1 1 区	16
2 2 区	37
3 3 区	48
4 4 区	80
5 5 区	124
6 その他の出土遺物	183
第 5 章 考察	199
第 1 節 遺物の特徴と編年的位置づけ	199
第 2 節 遺構の特徴と遺跡の性格	215
第 3 節 十郎田遺跡の 7 世紀集落をめぐる諸問題	225
第 6 章 総括	235
引用・参考文献	236
写 真 図 版	
遺跡遠景	1
遺構	2～52
遺物	53～73
解 説	
報 告 書 抄 録	

挿図目次

第 1 図	蔵王町の位置	1	第 42 図	SB106 掘立柱建物跡	56
第 2 図	遺跡の位置と周辺の地形	1	第 43 図	SB107・138 掘立柱建物跡	57
第 3 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第 44 図	SB139 掘立柱建物跡	58
第 4 図	白石川流域における 7～8 世紀の主な遺跡	7	第 45 図	SB195・327 掘立柱建物跡	59
第 5 図	現況測量図・調査区配置図	12	第 46 図	SB331・342 掘立柱建物跡	60
第 6 図	調査区設定図と主要な遺構の分布	12	第 47 図	SB343・345 掘立柱建物跡	61
第 7 図	1 区遺構配置図	17	第 48 図	SB328・344 掘立柱建物跡	62
第 8 図	SI163 竪穴住居跡	19	第 49 図	SA111・324・326 柱列跡、SA324 柱列跡出土遺物	63
第 9 図	SI163 竪穴住居跡出土遺物 (1)	20	第 50 図	SA325 柱列跡	64
第 10 図	SI163 竪穴住居跡出土遺物 (2)	21	第 51 図	SA329・330・335 柱列跡	65
第 11 図	SI165 竪穴住居跡	22	第 52 図	SA334・336・337・340・341 柱列跡	66
第 12 図	SI165 竪穴住居跡出土遺物	23	第 53 図	SA338・339 柱列跡	67
第 13 図	SB354 掘立柱建物跡	23	第 54 図	SE36・144 井戸跡、SK110 土坑	68
第 14 図	SB358・359・360 掘立柱建物跡	24	第 55 図	SK101・102・103 土坑	69
第 15 図	SB352・353・355・356・361 掘立柱建物跡	25	第 56 図	SK112・117・118・125・131・142・143・212 土坑	70
第 16 図	SA351・357 柱列跡	26	第 57 図	SK112・125・212 土坑出土遺物、 SK128・136・152・154・156 土坑	71
第 17 図	SA28 材木堀跡出土遺物	26	第 58 図	SK108・119・120・126・134・140・ 147・149・150・153 土坑	72
第 18 図	SA28・167 材木堀跡	27	第 59 図	SK148・157・158・160・202・203 土坑	73
第 19 図	SE18 井戸跡、SK164・172 土坑	28	第 60 図	SD24・109・122・123 溝跡	75
第 20 図	SK12・16・17・19・26・27・180 土坑、 SK180 土坑出土遺物	29	第 61 図	SD38・155 溝跡	76
第 21 図	SK29・30・32・33・45・170・173・174 土坑	30	第 62 図	SD50・105・116 溝跡	77
第 22 図	SK175・176・178・183・184・186・ 196・197・200 土坑	31	第 63 図	SD24・38・50・122・123 溝跡出土遺物、 SD124・132 溝跡	78
第 23 図	SD161・162・166・177・179・181・ 185 溝跡、SD161 溝跡出土遺物	33	第 64 図	SD114・115・129 溝跡、SX135・137 性格不明遺構	79
第 24 図	SD162・SD185 溝跡出土遺物	35	第 65 図	4 区遺構配置図	81
第 25 図	SD13・14・15・168・198・199・201 溝跡	36	第 66 図	SI4 竪穴住居跡 (1)	84
第 26 図	SX169 畝溝状遺構	37	第 67 図	SI4 竪穴住居跡 (2)	85
第 27 図	2 区遺構配置図	38	第 68 図	SI4 竪穴住居跡出土遺物	86
第 28 図	SI2 竪穴住居跡	39	第 69 図	SI5a 竪穴住居跡	87
第 29 図	SB367・369 掘立柱建物跡	40	第 70 図	SI5b 竪穴住居跡	88
第 30 図	SB370・371・372 掘立柱建物跡、SA40 柱列跡	41	第 71 図	SI5c・SI6 竪穴住居跡	89
第 31 図	SB365・366 掘立柱建物跡	42	第 72 図	SI5b・SI5c・SI6 竪穴住居跡出土遺物	90
第 32 図	SA368 柱列跡、SK39・41・44・47 土坑	43	第 73 図	SI9 竪穴住居跡	91
第 33 図	SK41 土坑出土遺物 (1)	44	第 74 図	SI9 竪穴住居跡出土遺物	92
第 34 図	SK41 土坑出土遺物 (2)	45	第 75 図	SI10 竪穴住居跡	94
第 35 図	SK190・191・192・194 土坑	46	第 76 図	SI10 竪穴住居跡出土遺物	95
第 36 図	SD1・42・49・189・193 溝跡	47	第 77 図	SB20 掘立柱建物跡	96
第 37 図	3 区遺構配置図	49	第 78 図	4 区西部掘立柱建物跡群	97
第 38 図	SI51・52 竪穴住居跡、SX188・211 性格不明遺構	51	第 79 図	SB21 掘立柱建物跡	99
第 39 図	SI51 竪穴住居跡出土遺物	54	第 80 図	SB22 掘立柱建物跡	100
第 40 図	SI113 竪穴住居跡	54	第 81 図	SB23 掘立柱建物跡、出土遺物	101
第 41 図	SI52 竪穴住居跡出土遺物	55	第 82 図	SB283・285・286 掘立柱建物跡	102
			第 83 図	SB305・309 掘立柱建物跡	103
			第 84 図	SB313 掘立柱建物跡、出土遺物	104
			第 85 図	SB373 掘立柱建物跡	105
			第 86 図	SB374 掘立柱建物跡	106

第87図	SB281・284・287・288・290 掘立柱建物跡…	107	第133図	SI225 竪穴住居跡(1) ……	158
第88図	SB291・294・295・298・302 掘立柱建物跡…	108	第134図	SI225 竪穴住居跡(2) ……	159
第89図	SB299・301・304・308 掘立柱建物跡…	109	第135図	SI225 竪穴住居跡(3)、出土遺物(1) ……	160
第90図	SB306・311・314・364 掘立柱建物跡…	110	第136図	SI225 竪穴住居跡出土遺物(2) ……	161
第91図	SB307・312 掘立柱建物跡、SA282・297・ 289・303 柱列跡、SA282 柱列跡出土遺物…	111	第137図	SI226 竪穴住居跡、出土遺物 ……	163
第92図	SA292・293・296・300・310 柱列跡…	112	第138図	SI228・229 竪穴住居跡、SI229 竪穴住居跡出土遺物…	164
第93図	SA34・315 柱列跡 ……	113	第139図	SI230 竪穴住居跡、出土遺物 ……	165
第94図	SA76 材木堀跡、SE11・57 井戸跡、 SE11 井戸跡出土遺物 ……	114	第140図	SI231 竪穴住居跡(1) ……	166
第95図	SE59・60・65 井戸跡、SE59 井戸跡出土遺物…	115	第141図	SI231 竪穴住居跡(2)、出土遺物 ……	167
第96図	SE66 井戸跡 ……	116	第142図	SI244 竪穴住居跡 ……	168
第97図	SK3・55・58・71 土坑 ……	117	第143図	SB247・259 掘立柱建物跡 ……	169
第98図	SK58・71 土坑出土遺物、SK64・67・68・80 土坑…	118	第144図	SB256 掘立柱建物跡(1) ……	170
第99図	SK69・70・78・322・348 土坑 ……	119	第145図	SB256 掘立柱建物跡(2)、出土遺物 ……	171
第100図	SD8・74 溝跡、SD8 溝跡出土遺物 ……	120	第146図	SB262・275 掘立柱建物跡 ……	172
第101図	SD63・72・75 溝跡 ……	121	第147図	SB277 掘立柱建物跡、SA246 柱列跡…	173
第102図	SX62 畝溝状遺構 ……	122	第148図	SA254・278 柱列跡 ……	174
第103図	SX53 水溜め状遺構、出土遺物 ……	123	第149図	SA279・280 柱列跡 ……	175
第104図	5区遺構配置図 ……	125	第150図	SE258 井戸跡、SK243・249・252 土坑、 SE258 井戸跡出土遺物 ……	176
第105図	SI205a 竪穴住居跡(1) ……	127	第151図	SA235 材木堀跡 ……	177
第106図	SI205a 竪穴住居跡(2) ……	128	第152図	SK253 土坑、出土遺物 ……	179
第107図	SI205b 竪穴住居跡(1) ……	129	第153図	SK257・267 土坑、出土遺物 ……	180
第108図	SI205b 竪穴住居跡(2) ……	130	第154図	SK248・255・265・268・269・274 土坑…	181
第109図	SI206 竪穴住居跡(1) ……	131	第155図	SD234・242 溝跡 ……	182
第110図	SI206 竪穴住居跡(2)、出土遺物 ……	132	第156図	SD233・264・270・273 溝跡 ……	183
第111図	SI207 竪穴住居跡(1) ……	133	第157図	柱穴跡出土遺物 ……	186
第112図	SI207 竪穴住居跡(2)、出土遺物 ……	134	第158図	遺構外出土遺物(1) ……	187
第113図	SI208 竪穴住居跡 ……	135	第159図	遺構外出土遺物(2) ……	188
第114図	SI209a 竪穴住居跡(1) ……	136	第160図	遺構外出土遺物(3) ……	189
第115図	SI209a 竪穴住居跡(2) ……	137	第161図	遺構外出土遺物(4) ……	190
第116図	SI209a・b 竪穴住居跡 ……	138	第162図	遺構外出土遺物(5) ……	191
第117図	SI209b 竪穴住居跡出土遺物 ……	139	第163図	第1群土器 ……	200
第118図	SI213 竪穴住居跡(1) ……	140	第164図	第2群土器分類図(1) ……	200
第119図	SI213 竪穴住居跡(2)、出土遺物 ……	141	第165図	第2群土器分類図(2) ……	201
第120図	SI214 竪穴住居跡 ……	142	第166図	第2群土器分類図(3) ……	202
第121図	SI215 竪穴住居跡(1) ……	143	第167図	第2群土器分類図(4) ……	203
第122図	SI215 竪穴住居跡(2)、出土遺物 ……	144	第168図	第2群土器分類図(5) ……	204
第123図	SI217 竪穴住居跡(1) ……	145	第169図	第2群土器(1) ……	206
第124図	SI217 竪穴住居跡(2) ……	146	第170図	第2群土器(2) ……	207
第125図	SI217 竪穴住居跡出土遺物 ……	147	第171図	第2群土器(3) ……	208
第126図	SI218 竪穴住居跡(1) ……	148	第172図	第3群土器 ……	209
第127図	SI218 竪穴住居跡(2) ……	149	第173図	第4群土器 ……	210
第128図	SI218 竪穴住居跡出土遺物 ……	150	第174図	第5群土器 ……	210
第129図	SI219 竪穴住居跡 ……	151	第175図	第6群土器 ……	211
第130図	SI220a・b 竪穴住居跡 ……	152	第176図	第7群土器 ……	212
第131図	SI220a・221・222 竪穴住居跡出土遺物…	154	第177図	第8群土器(中世の土器・陶磁器) ……	213
第132図	SI223 竪穴住居跡、出土遺物 ……	155	第178図	石製品・鉄製品・土製品 ……	213
			第179図	各遺構の暦年較正年代範囲 ……	216

第180図	主要遺構重複関係図	219
第181図	SB256・259 掘立柱建物跡	220
第182図	Ⅱ期 主要遺構配置図	221
第183図	東北地方の古代城柵・官衙・関連遺跡	226
第184図	円田盆地北部における律令制導入期の考古学的動向	227

第185図	円田盆地における古墳時代～律令期の遺跡編年	229
第186図	円田盆地における律令制導入期の遺跡形成	229
第187図	塩沢北遺跡、六角遺跡出土土器	231

表目次

第1表	周辺の遺跡	3
第2表	基本層序	15
第3表	遺構観察表 竪穴住居跡	192
第4表	遺構観察表 掘立柱建物跡(1)	193
第5表	遺構観察表 掘立柱建物跡(2)	194

第6表	遺構観察表 柱列跡・材木堀跡	195
第7表	遺構観察表 土坑(1)	196
第8表	遺構観察表 土坑(2)・溝跡(1)	197
第9表	遺構観察表 溝跡(2)・井戸跡・性格不明遺構	198
第10表	各遺構出土遺物の年代	215
第11表	放射性炭素年代測定結果から推定される遺構の機能時期	217
第12表	遺構の機能時期と土器群	218

写真目次

写真1	湯坂山B遺跡第3a・b号竪穴住居跡(大木9式期)	5
写真2	湯坂山B遺跡出土遺物(大木9式)	5
写真3	願行寺遺跡出土土偶(晩期)	5
写真4	円田地区出土長頸壺	6
写真5	立目場遺跡出土土器(塩釜式・南小泉式)	6
写真6	中沢A遺跡出土土器(南小泉式)	6
写真7	窪田遺跡SI101竪穴住居跡(南小泉式期)	6
写真8	六角遺跡SI753竪穴住居跡(7世紀中頃～後半)	8
写真9	六角遺跡第2・3群土器(7世紀中頃～後半・8世紀前半～中頃)	8
写真10	都遺跡出土土器(7世紀中頃～後半)・軒平瓦(8世紀中葉)	8

写真11	窪田遺跡SI1竪穴住居跡出土土器(7世紀末～8世紀前葉)	8
写真12	前戸内遺跡SB10掘立柱建物跡(平安時代)	8
写真13	丈六阿弥陀如来坐像(12世紀・保昌寺)	8
写真14	刈田嶺神社本殿(享保3年[1718年]建築)	9
写真15	我妻家住宅(宝暦3年[1753年]建築)	9
写真16	十郎田遺跡遠景(東から)	10
写真17	十郎田遺跡近景(5区周辺、南から)	11
写真18	表土掘削作業(4区)	11
写真19	遺構確認作業(5区)	13
写真20	竪穴住居跡の精査(3区)	13
写真21	発掘調査成果見学会(5区)	13
写真22	遺物接合作業	14
写真23	遺物修復作業	14
写真24	遺物実測作業	14
写真25	雨上がりの虹(5区・遺構の精査)	14

第1章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と地理的環境

宮城県南部の蔵王連峰東麓に位置する蔵王町は、東は村田町と大河原町、西は蔵王連峰をはさんで山形県、南は白石市、北は川崎町と境を接する（第1図）。町域は東西23km、南北13kmで面積は152.85km²を占め、海拔標高は最高点が西端の屏風岳で1,825m、最低点が東南部の松川と白石川の合流点で20mを測る。町域の西部が主に蔵王連峰に連なる山林原野で、東部の松川流域と円田盆地に田園地帯が形成されている。西部は蔵王国立公園に含まれ、遠刈田温泉などが蔵王観光の基地となっているほか、東部の丘陵部を中心に果樹園が営まれ、県内有数の果樹生産地となっている。



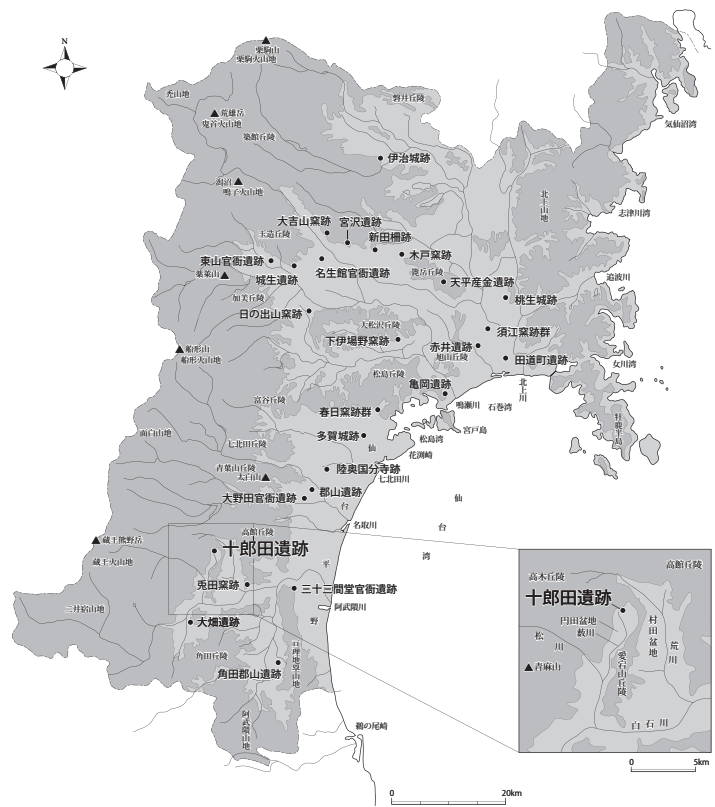
第1図 蔵王町の位置

十郎田遺跡は宮城県刈田郡蔵王町大字小村崎字十郎田・宮前地内に所在する。蔵王町役場の北東約3.9kmに位置し、円田盆地北西部にある標高93mの低平な舌状丘陵上に立地する（第2・3図）。

円田盆地は松川の支流である藪川をはじめとする複数の中小河川によって形成された沖積地である。藪川は盆地中央部から東縁に沿って緩やかに蛇行しながら南流し、盆地周囲の丘陵からは無数の小規模な沢が流入している。盆地は南をのぞく三方を丘陵で囲まれており、盆地底面の範囲は東西約1.2km、南北約3.5kmにおよぶ。藪川流域は自然堤防が未発達で、盆地底部に湿地帯を形成しており、盆地の南側は松川との合流地点に向かって開けている。

円田盆地を三方から囲む丘陵のうち、北側から西側にかけては高木丘陵と呼ばれ、蔵王山系の東麓部にあたる。東側は高木丘陵から細長く派生した愛宕山丘陵と呼ばれる小丘陵が南へ延び、さらに東側の村田盆地との地形的な境界をなしている。標高は高木丘陵東端部で約130m、愛宕山丘陵頂部で約170m、盆地南端で約80mである。

愛宕山丘陵はやや急な傾斜をもつ丘陵地で、小規模な沢によって開析された比高差の大きい舌状の小丘陵が連続的に連なっている。盆地東縁に連なるこの舌状小丘陵上には南部で中沢A遺跡、立目場遺跡、台遺跡、塩沢北遺跡などが立地

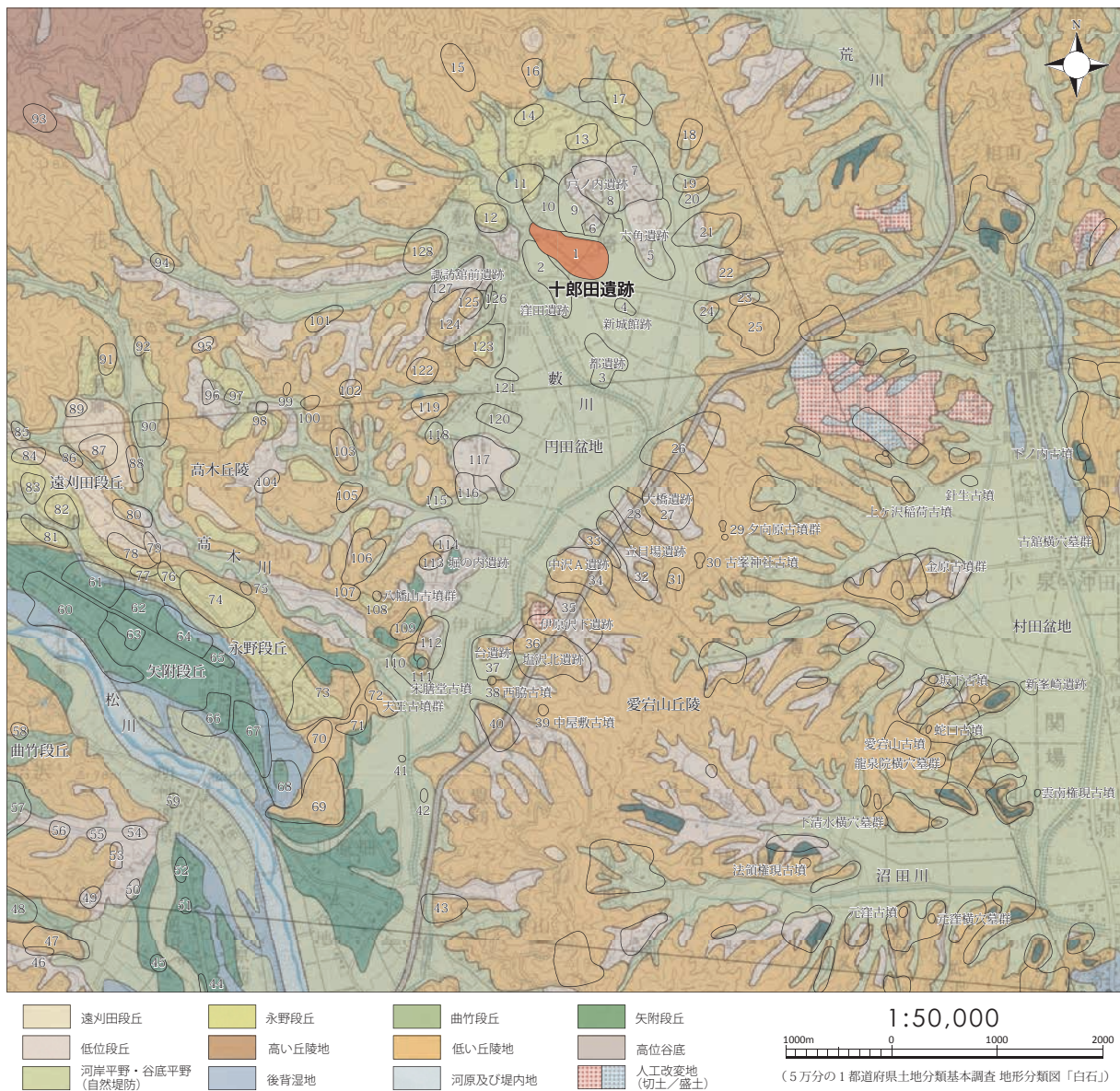


第2図 遺跡の位置と周辺の地形

し、北部では盆地底面との比高差が小さい丘陵末端部に車地蔵遺跡、鍛冶屋敷遺跡などが立地する。一方、高木丘陵は比較的なだらかな傾斜をもち、特に盆地北部では丘陵端部が緩やかに標高を減じつつ盆地中央部まで達している。盆地北西縁に連なるこの低平な丘陵上には本遺跡のほか六角遺跡、窪田遺跡、都遺跡などが立地し、西縁の中南部では諏訪館前遺跡、宋膳堂遺跡などが立地する。

近代以降の明治40年代及び昭和20年代以降に行なわれた耕地整理の結果、遺跡の立地する地形の多くが消失し、円田盆地の大半は水田地帯となった。特に昭和37~38年の藪川堤防改修工事とほ場整備以降、ほぼ現在の景観が形成された。耕地整理以前の明治40年の帝国陸地測量部による測量図からは、遺跡の多くが低平な丘陵や微高地上の畑地として利用されていたことが窺い知られる（宮城県教育委員会2003）。このため、現在の盆地底面は地形的な変化に乏しい景観を呈しているが、本来は遺跡が立地する微高地と小規模な沢状の低地とが複雑に入り組んだ景観であったと考えられる。

本遺跡は、盆地西側の高木丘陵の裾部から派生し、盆地北西縁から南東方向に細長く伸びる低平な舌状丘陵上に立地する。本遺跡の南東600mの丘陵末端部には新城館跡が立地し、丘陵の南西縁に沿って藪川の支流である川久保川の旧河道がある。この旧河道を挟んで南側に隣接する舌状丘陵上には窪田遺跡と都遺跡が立地し、その丘陵の南西縁に沿って藪川が流れている。



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

蔵王町における周知の遺跡は現在 190 か所を数える。その多くは町域の東部に分布し、蔵王連峰から派生する丘陵部と青麻山東麓部、松川流域と円田盆地の平野部などに立地する（第3図・第1表）。旧石器時代から近世に至るまで多数の遺跡が形成されているが、大略的に見て縄文時代の遺跡は蔵王連峰の東麓部から延びる高木丘陵上と青麻山東麓部の標高 150~250 m 付近に、弥生時代中期以降の遺跡は円田盆地とその周辺の丘陵辺縁部の標高 80~100m 付近に立地する傾向が見られる。

第1表 周辺の遺跡（番号は第3図に対応）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	十郎田遺跡	集落・散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	65	愛宕山遺跡	散布地	縄文前～後・古代
2	窪田遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	66	西浦遺跡	集落・散布地	縄文早～後・弥生・古代
3	都遺跡	集落・散布地	縄文後・弥生・古墳・奈良・平安	67	東浦遺跡	散布地	縄文中・後・弥生・古墳・古代
4	新城館跡	散布地・城館	奈良・平安・中世	68	下永野 B 遺跡	散布地	奈良・平安
5	六角遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	69	矢附館跡	城館	中世
6	西小屋館跡	城館	中世	70	下永向山遺跡	散布地	縄文中・弥生・古代
7	原遺跡	散布地	縄文・古代	71	蟹沢遺跡	散布地	弥生
8	戸ノ内遺跡	集落・散布地	奈良・平安・中世	72	天王古墳群 天王遺跡	円墳・散布地	縄文早・中・弥生・古墳・古代
9	西屋敷遺跡	集落・散布地	古代・中世	73	上野遺跡	散布地	縄文中・弥生・平安
10	前戸内遺跡	集落・散布地	旧石器？・縄文後・奈良・平安・中世	74	高木遺跡	散布地	縄文中
11	稲荷林遺跡	散布地	縄文早・古墳・奈良・平安	75	高木 B 遺跡	散布地	縄文
12	平沢館跡	城館	中世	76	鞆堂山遺跡	散布地	縄文中・後・弥生・古代
13	後原遺跡	散布地	古代	77	上曲木 A 遺跡	散布地	縄文早・弥生・古代
14	大久保遺跡	散布地	古代	78	上曲木 B 遺跡	散布地	縄文早～中・古代
15	兵衛館跡	城館	中世	79	桔橋山 B 遺跡	散布地	縄文
16	鹿野遺跡	散布地	古代	80	土橋遺跡	散布地	縄文後・弥生
17	磯ヶ坂遺跡	散布地	縄文・奈良・平安	81	上曲木 E 遺跡	散布地	縄文前・中
18	清上遺跡	散布地	古代	82	上曲木 D 遺跡	散布地	縄文前・中
19	三の輪遺跡	散布地	古墳・奈良・平安	83	上曲木 C 遺跡	散布地	縄文早・中
20	車地蔵遺跡	散布地	近世・古代	84	八幡平遺跡	散布地	縄文前・中・古代
21	鍛冶屋敷遺跡	散布地	縄文中～晩・古代	85	入山遺跡	散布地	縄文前・弥生・古代
22	上葉の木沢遺跡	散布地	古代	86	手代木 B 遺跡	散布地	縄文早・後・古代
23	山崎遺跡	散布地	縄文早	87	湯坂山 B 遺跡	集落	縄文中～晩・弥生
24	中葉の木沢遺跡	散布地	縄文・弥生・古代	88	湯坂山遺跡	散布地	縄文中～晩
25	北割山遺跡	散布地	縄文・弥生	89	根無藤遺跡	散布地	縄文早～晩・古代
26	赤鬼上遺跡	集落	弥生・平安・中世	90	円田入 B 遺跡	散布地	縄文早・中
27	大橋遺跡	集落	縄文後・弥生・古墳・平安	91	根無藤館跡	城館	中世
28	屋木戸内遺跡	散布地	弥生・古代	92	円田入 C 遺跡	散布地	縄文
29	夕向原古墳群	前方後円墳 円墳	古墳	93	四方坂館跡	城館	中世
30	古峯神社古墳	円墳	古墳	94	町尻遺跡	散布地	縄文
31	愛宕山遺跡	散布地	弥生	95	三本槻 A 遺跡	散布地	縄文早
32	立目場遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳	96	入青木遺跡	散布地	縄文
33	中沢 B 遺跡	散布地	弥生・古墳・古代	97	山中遺跡	散布地	平安
34	中沢 A 遺跡	散布地	縄文早・弥生・古墳・古代～中世	98	青木遺跡	散布地	平安
35	伊原沢下遺跡	集落	古墳	99	角山 A 遺跡	散布地	古代
36	塩沢北遺跡	集落	弥生・古墳・平安	100	角山 B 遺跡	散布地	縄文
37	台遺跡	散布地・水田	弥生・古墳・平安・中・近世	101	三本槻 B 遺跡	散布地	縄文・平安
38	西脇古墳	円墳	古墳	102	新並遺跡	散布地	縄文中
39	中屋敷古墳	円墳	古墳	103	築館館跡	城館	中世
40	大山遺跡	集落	縄文早・弥生・古墳前	104	荻の窪遺跡	散布地	縄文晩・弥生
41	鉦附神社古墳	円墳？	古墳？	105	鳥山遺跡	散布地	縄文中・古代
42	豊向遺跡	散布地	古墳	106	花桶館跡	城館	中世
43	東山遺跡	集落	縄文早・平安	107	見継遺跡	散布地	縄文
44	逆川遺跡	散布地	縄文早・前	108	八幡山古墳群	円墳・方墳	古墳
45	小原遺跡	散布地	縄文晩	109	土ヶ市遺跡	散布地	弥生・古代
46	欠山遺跡	散布地	縄文後	110	戸の内脇遺跡	散布地	縄文早・中・弥生・古墳・平安・中世
47	曲竹小屋館跡	城館	中世	111	宋膳堂古墳	円墳	古墳
48	淡島山遺跡	散布地	縄文後・古代	112	宋膳堂遺跡	散布地	弥生・古墳・平安
49	岩蔵寺遺跡	散布地	縄文晩・古代	113	寺坂遺跡	散布地	平安
50	妙見遺跡	散布地	縄文晩	114	堀の内遺跡	集落・散布地	縄文・弥生・古墳・古代
51	下原遺跡	散布地	縄文中	115	清水遺跡	散布地	弥生・平安
52	上原遺跡	散布地	縄文後	116	白山遺跡	集落・散布地	弥生・古墳
53	清水遺跡	散布地	縄文・弥生	117	本宿前遺跡	集落・散布地	縄文早・弥生・古代・中世
54	日向前遺跡	散布地	縄文早～晩・古代	118	沢遺跡	散布地	古代
55	八卦遺跡	散布地	縄文後	119	北境遺跡	散布地	縄文早・弥生・古代
56	市ノ沢遺跡	散布地	弥生・古代	120	中郷遺跡	集落・散布地	縄文早・中・弥生・平安・中～近世
57	鍛冶沢遺跡	散布地	縄文早・中～晩・弥生・古代	121	堂の入遺跡	散布地	弥生・古代・中世
58	馬越遺跡	散布地	縄文中	122	大柿内遺跡	散布地	弥生
59	白九頭龍古墳	古墳	古墳	123	小高遺跡・経塚	散布地・経塚	縄文・弥生・古代・中世
60	十文字遺跡	散布地	縄文中	124	諏訪館遺跡	散布地	弥生・古墳
61	曲木遺跡	散布地	縄文中	125	諏訪館跡	城館	中世
62	寺門前遺跡	散布地	縄文中・後	126	諏訪館横穴墓群	横穴墓？	古墳？
63	谷地遺跡	散布地	縄文中～晩	127	諏訪館前遺跡	集落・散布地	縄文晩・弥生・古墳・平安
64	西浦 B 遺跡	集落・散布地	縄文中～晩・弥生・平安	128	丈六遺跡	散布地	古代

こうした様相の違いは、概ね当時の人びとの生業形態の変化に伴うものと考えられる。縄文時代の食料獲得の場は主に丘陵地に繁茂した森林であり、弥生時代中期以降の食料生産の場は低湿地に作られた水田であったことを示している。後述するが、蔵王町内における稲作の開始を裏付けるものとしては、籾殻の圧痕がある弥生土器片や、古墳時代の水田跡がある。なお、縄文時代の集落が低湿地の周辺に作られることはなかったが、低平な丘陵と湿地の入り組んだ円田盆地北部の一带は、縄文時代には狩猟の場として利用されていた。以下、各時代・時期における蔵王町周辺の考古学的様相を概観する。

(1) 旧石器時代

宮地区の持長地遺跡、鉄砲町遺跡、明神裏遺跡、小村崎地区の前戸内遺跡が知られている。持長地遺跡では黄褐色ローム漸移層下部よりナイフ形石器が単独出土した（宮城県教育委員会 1980b）。石刃を素材として基部の両側縁に刃潰し加工を施すもので、茂呂型ナイフ形石器の範疇に含まれる。鉄砲町遺跡では彫刻刀形石器が採集されている。大型の石刃の末端側に施した急角度剥離面を打面として側縁に槌状剥離面を作出するもので、小坂型彫刻刀形石器の範疇に含まれる。明神裏遺跡では細石刃と槍先形尖頭器が採集されたというが、詳細は不明である。小村崎地区の前戸内遺跡では槍先形尖頭器が採集されている。このほか、宮地区の二屋敷遺跡（縄文時代中期末～後期前葉）では石刃の基部両側縁に二次加工を施したナイフ形石器に類似する石器が出土しているが、本地域では縄文時代中期末から後期初頭にかけて山形県寒河江川流域の集落から珪質頁岩製の石刃が交易品として搬入されたことが分かっており（会田 2000）、層位的裏付けを伴わない石刃製石器の旧石器としての時期判定には注意を要する。

以上のことから、持長地遺跡と鉄砲町遺跡については後期旧石器時代後半期、明神裏遺跡と前戸内遺跡については後期旧石器時代終末期に属する可能性が考えられる。しかし、いずれも単独出土ないしは採集資料のため、明確な時期や遺跡の性格については不明な点が多い。

なお、円田盆地の東側に隣接する村田盆地東縁の新川流域では玉髓が産出し、これを利用して石器製作を行なった原産地遺跡が点在する（新川流域遺跡群、大場 2004）。このうち、村田町小泉地区の賀籠沢遺跡では 2003~2006 年度にかけて東北学院大学による学術発掘調査が行なわれ、後期旧石器時代の在地型原産地遺跡の様相が明らかにされた（東北学院大学文学部歴史学科佐川ゼミナール 2006）。今のところ蔵王町内における旧石器時代の人びとの暮らしぶりは明らかになっていないが、このような原産地遺跡に関連して残された遺跡が今後発見される可能性は十分に考えられる。

(2) 縄文時代

草創期については明確な遺跡が発見されていない。周辺地域でも白石市福岡深谷地区の高野遺跡で槍先形尖頭器が、同大鷹沢地区の小菅遺跡、戸谷沢遺跡で局部磨製石斧が採集されている程度で、具体的な様相は明らかでない。早期の遺跡には宮地区の明神裏遺跡、沢入 D 遺跡、円田地区の手代木遺跡、三本槻 A 遺跡、遠刈田地区の北原尾遺跡、前期の遺跡には宮地区の長峰遺跡、八幡平遺跡、円田地区の入山遺跡、愛宕山遺跡、中期の遺跡には宮地区の上原田遺跡、円田地区の高木遺跡、鞆堂山遺跡、湯坂山 B 遺跡、後期の遺跡には宮地区の二屋敷遺跡、山田沢遺跡、一本木遺跡、円田地区の西浦 B 遺跡、晩期の遺跡には宮地区の下別当遺跡、願行寺遺跡、沢北遺跡、曲竹地区の鍛冶沢遺跡などがある。

鞆堂山遺跡では主に大木 8 b 式期の竪穴住居跡 5 軒、貯蔵穴 23 基、土坑墓 1 基などが発見され、竪穴住居跡は貯蔵穴・柱穴群を挟むように北西側と南東側に分布していた。湯坂山 B 遺跡では主に大木 9 式期の竪穴住居跡 13 軒、貯蔵穴 8 基などが発見され、多量の土器・石器と土笛が出土している（写真 1・2）。竪穴住居跡は複式炉を伴うもので、直径 9m に及ぶ大型のものもみられる。西浦 B 遺跡では後期初頭～前葉前半期の貯蔵穴・掘立柱建物跡群が発見されている（蔵王町教育委員会 2011a）。二屋敷遺跡では

中期末の竪穴住居跡 5 軒、後期初頭～前葉の炉跡 2 基、土器埋設遺構 4 基、配石遺構などが発見され、遺物包含層から多量の遺物が出土している（宮城県教育委員会 1984）。願行寺遺跡では晩期の屈折土偶が採集されている（写真3）。鍛冶沢遺跡では大洞 BC-C1 式期の土器埋設遺構や弥生時代初頭の再葬墓と、その周囲に弧状に配置された掘立柱建物跡群が発見されている（宮城県教育委員会 2010）。

遺跡の分布状況を見ると、早期の遺跡は小規模なものが多く、高木丘陵から青麻山東麓部にかけての広範囲に点在し、遠刈田地区から白石市福岡深谷地区にかけての不忘山東麓部にまとまった分布域を形成する。前期の遺跡数はやや少なくなるが、高木丘陵上と青麻山東麓部に点在する。中期から後期にかけては高木丘陵上に大きな集落が形成され、集中的な遺跡分布域となっている。一方、青麻山東麓部では後期になると多くの集落が形成され、晩期まで継続する大規模な集落がみられる。

このように、時期による分布域の移動と、微地形選択の志向性に変化は見られるものの、縄文時代のおよそ 1 万数千年間を通して本地域における当時の人びとの生活の中心は蔵王山東麓部から延びる高木丘陵上と、青麻山東麓部にあったと言って良い。なお、円田盆地北部の小村崎地区にある窪田遺跡、六角遺跡、原遺跡、平沢地区の都遺跡、中組遺跡などでは縄文時代のものと考えられる落とし穴状土坑が見つかり、低湿地に面した低平な丘陵裾部が狩猟の場として利用されていたことが分かっている。



写真1 湯坂山B遺跡第3a・b号竪穴住居跡（大木9式期）



写真2 湯坂山B遺跡出土遺物（大木9式）



写真3 願行寺遺跡出土土偶（晩期）

（3）弥生時代

縄文時代晩期から継続する宮地区の沢北遺跡、曲竹地区の鍛冶沢遺跡、これに後続する柵形囲式期の遺跡には宮地区の長峰遺跡、円田地区の清水遺跡、西浦遺跡、塩沢地区の宋膳堂遺跡、東根地区の立目場遺跡、円田式期の遺跡には東根地区の大橋遺跡、塩沢地区の台遺跡、上野遺跡、塩沢北遺跡、平沢地区の都遺跡、円田地区の西浦遺跡、十三塚式期の遺跡には東根地区の愛宕山遺跡、立目場遺跡、天王山式期の遺跡には東根地区の愛宕山遺跡、塩沢地区の天王遺跡、平沢地区の赤鬼上遺跡などがある。

柵形囲式期以前の遺跡は、鍛冶沢遺跡などのように縄文時代晩期の立地を踏襲しながら、一部円田盆地周縁部の丘陵に立地している。円田式期になると円田盆地周縁部に急速に展開し、遺跡数も急増する。遺構が調査された例は皆無であるが、稲作が受容されたと考えるのに十分な変化と言える。円田地区では伊東信雄（1955）による「円田式」命名の標識資料となった長頸壺が出土している（写真4）。十三

塚式期から天王山式期にかけてはこうした流れを引き継ぐ一方、愛宕山遺跡のように標高の高い丘陵上に立地する遺跡も見られる。なお、都遺跡(円田式、蔵王町教育委員会 2005)、大橋遺跡(天王山式、宮城県教育委員会 1980b) で出土した土器片の表面には籾殻の圧痕が観察されている。

(4) 古墳時代

前期(塩釜式期)の遺跡には東根地区の大橋遺跡、伊原沢下遺跡、円田地区の堀の内遺跡、中期(南小泉式期)の遺跡には小村崎地区の都遺跡、窪田遺跡、東根地区の中沢A遺跡、台遺跡などがあるが、後期(住社式期~栗田式期前半)の遺跡は明瞭には確認されていない。高塚古墳には宮地区の明神裏古墳、東根地区の夕向原古墳群、古峯神社古墳、塩沢地区の宋膳堂古墳、天王古墳、西脇古墳、中屋敷古墳、八幡山古墳がある。

古墳時代の遺跡は弥生時代の立地を踏襲し、円田盆地周縁部に集中している。前期の大橋遺跡、伊原沢下遺跡は宮城県内における塩釜式最古段階の(宮城県教育委員会 1980b)、中沢A遺跡は南小泉式最古段階の遺跡として知られ、当該地域が周辺地域に先駆けて新しい文化要素を受容していたことが窺われる(写真6、蔵王町教育委員会 2007)。六角遺跡では塩釜式期、立目場遺跡(写真5)では塩釜式・南小泉式期、窪田遺跡(写真7)、都遺跡では南小泉式期の竪穴住居跡が調査されている。前期の堀の内遺跡では、後北C2-D式に位置づけられる続縄文土器が出土し(蔵王町教育委員会 1997)、北方地域との関係性が窺われる。

また、盆地を取り囲む丘陵上に多くの高塚古墳が築かれている。古峯神社古墳は主軸長38m、夕向原1号墳は主軸長57mの前方後円墳(藤沢 2000)、宋膳堂古墳は直径約30mの円墳で、埴輪が採集されている。明神裏古墳は昭和31年に発掘調査され、凝灰岩板石によって築造された箱式石棺が確認されている。

なお、円田盆地を含む白石川流域では、合計130か所の古墳・古墳群・横穴墓群が知られており、東北地方の中でも古墳分布が濃密な地域のひとつである(藤沢 1998)。円田盆地の東側に隣接する村田盆地には村田町関場地区の愛宕山古墳(前期、前方後円墳、主軸長90m、県指定文化財)、沼辺地区の千塚山古墳(前期、前方後円墳、主軸長85m)、薄木地区の法領権現古墳(中期、前方



写真4 円田地区出土長頸壺



写真5 立目場遺跡出土土器(塩釜式・南小泉式)



写真6 中沢A遺跡出土土器(南小泉式)



写真7 窪田遺跡 S1101 竪穴住居跡(南小泉式期)

後円墳、主軸長 64m) など多数の古墳が築造され(村田町教育委員会・千塚山古墳測量調査団 1992)、関場地区の新峯崎遺跡(中期)では祭祀遺構が確認されている(村田町教育委員会 1991)。また、円田盆地の南西約 10km に位置する白石盆地には、白石市大鷹沢地区の瓶ヶ森古墳(前方後円墳、主軸長 56m)、鷹巣 20 号墳(前方後円墳、主軸長 18m)を含む鷹巣古墳群(中期)などが形成されている。

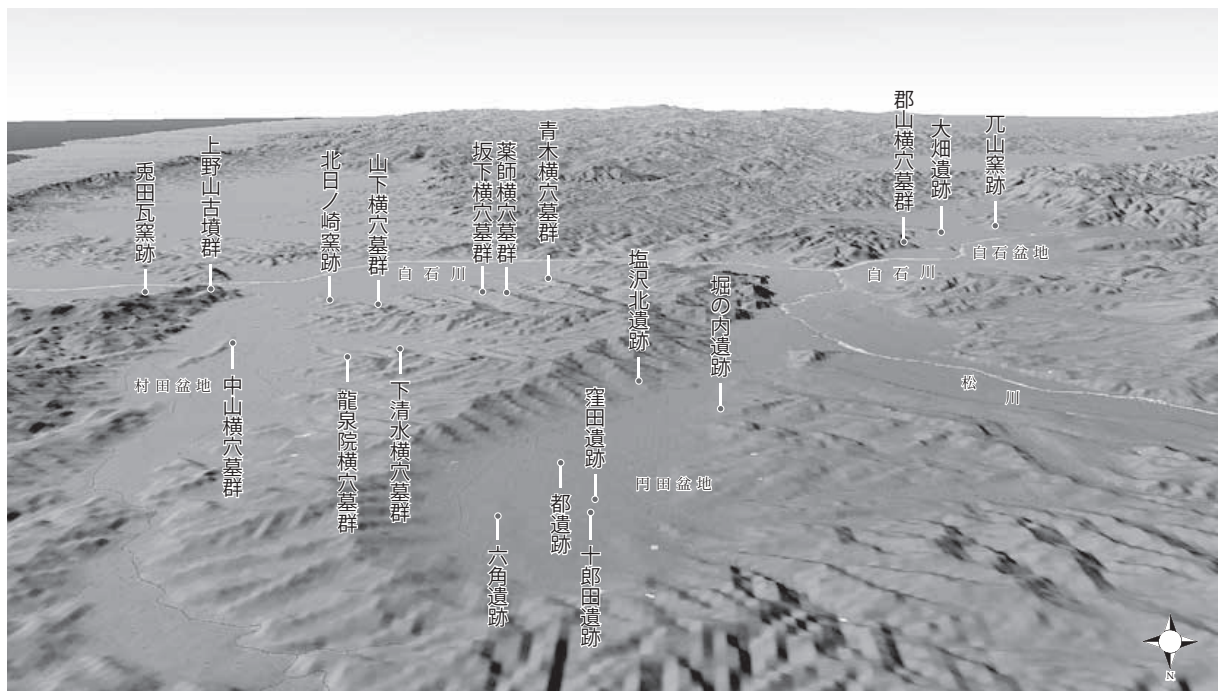
(5) 古代

飛鳥(栗田式期後半)・奈良(国分寺下層式期)・平安時代(表杉ノ入式期)の遺跡としては 100 か所以上が知られ、このうち発掘調査が行なわれた遺跡としては宮地区の二屋敷遺跡、矢附地区の東山遺跡、塩沢地区の塩沢北遺跡、円田地区の堀の内遺跡、平沢地区の窪田遺跡、都遺跡、赤鬼上遺跡、小村崎地区の戸ノ内遺跡、六角遺跡、十郎田遺跡、前戸内遺跡などがある。また、現在その所在を確認できないが平沢地区の諏訪館横穴墓群がある。

飛鳥・奈良・平安時代の遺跡は、円田盆地周辺に多く分布する一方、町東部の丘陵麓部の広い範囲に分布するようになり、生活領域が拡大したことが窺われる。六角遺跡では 8 世紀前半頃の大溝による区画施設を伴う集落跡を確認した。当時の在地の土師器とは異なる関東系土師器を主体的に伴っており、関東型カマドをもつ竪穴住居跡も確認されている(写真 8・9、蔵王町教育委員会 2008)。関東系土師器は窪田遺跡(写真 11)、堀の内遺跡、都遺跡、戸ノ内遺跡でも出土している(蔵王町教育委員会 1997・2005・2009a・2011b)。都遺跡では遺跡中枢部が削平により残存しないものの、8 世紀前半の多賀城創建期(奈良時代初頭)に位置づけられる軒平瓦が採集されているのをはじめ、大型の掘立柱建物跡と材木堀による区画施設が確認されており、当時の円田盆地を中心とする地域の経営に関する官衙関連施設が営まれていた可能性がある(写真 10、蔵王町教育委員会 2005)。

また、前戸内遺跡では平安時代の掘立柱建物跡群が確認され、墨書土器が出土している(写真 12、蔵王町教育委員会 2009c)。東山遺跡では、平安時代の竪穴住居跡と土器溜遺構が確認され、灰釉陶器、転用硯のほか、墨書土器が多量に出土している(宮城県教育委員会 1981)。

なお、村田盆地では村田町関場地区の龍泉院横穴墓群(7 世紀中頃～後半)、村田盆地南側の白石川流域では大河原町福田地区の山下横穴墓群、金ヶ瀬地区の青木横穴墓群など多くの横穴墓群が分布する



第 4 図 白石川流域における 7~8 世紀の主な遺跡(鳥瞰図)

ほか、柴田・村田町にまたがる上野山丘陵上に総数 314 基を数え東北最大規模の高塚古墳群とされる上野山古墳群（7 世紀後半～8 世紀初頭、柴田町・村田町・大河原町共同推進事業協議会 1995）が形成されている。白石盆地では白石市郡山地区に郡山横穴墓群（7～8 世紀、白石市教育委員会 1982）などが形成されている。

また、官衙関連遺跡として 8 世紀前半頃の可能性のある倉庫院跡が確認され苅田郡衙跡と考えられている白石市大畑地区の大畑遺跡（宮城県教育委員会 1995）がある。生産遺跡としては多賀城創建期に先行する瓦を生産し、未発見の柴田郡衙への供給が推定される柴田町船迫地区の兎田瓦窯跡、大畑遺跡に瓦を供給した白石市八幡町地区の兀山窯跡（8 世紀前半頃）、須恵器を生産した村田町沼辺地区の北日ノ崎窯跡（7 世紀後半・7 世紀末～8 世紀初頭、村田町教育委員会 1988）などがある（第 4 図）。

このほか、平沢地区に現存する丈六阿弥陀如来坐像（写真 13、県指定文化財）は平安時代末期の作風とされ、奥州藤原氏との関係性を示唆している。また、丈六阿弥陀堂があったとされる平沢字丈六地区には、阿弥陀堂の参道杉並木の一本が現生し、平沢弥陀の杉（県指定天然記念物）と呼ばれている。

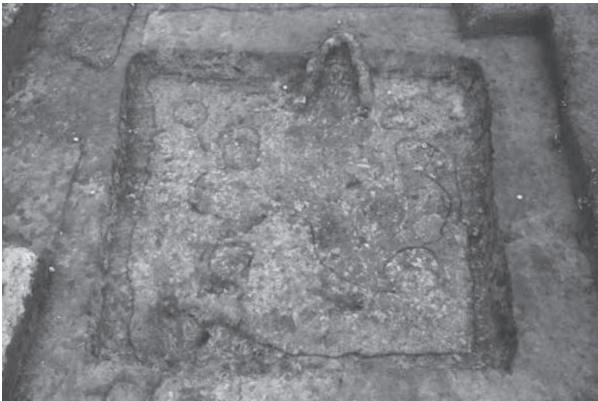


写真 8 六角遺跡 SI753 竪穴住居跡（7 世紀中頃～後半）



写真 9 六角遺跡第 2・3 群土器（7 世紀中頃～後半・8 世紀前半～中頃）



写真 10 都遺跡出土土器（7 世紀中頃～後半）・軒平瓦（8 世紀前半）



写真 11 窪田遺跡 SI1 竪穴住居跡出土土器（7 世紀末～8 世紀前半葉）

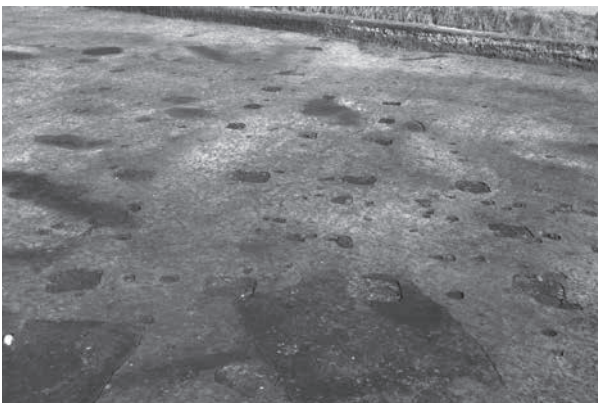


写真 12 前戸内遺跡 SB10 掘立柱建物跡（平安時代）



写真 13 丈六阿弥陀如来坐像（12 世紀・保昌寺）

(6) 中世

宮地区の宮城館跡、山家館跡、館の山城跡、曲竹地区の曲竹小屋館跡、円田地区の花楯館跡、棚村館跡、小村崎地区の西小屋館跡、兵衛館跡、平沢地区の諏訪館跡、矢附地区の矢附館跡などがあり、町東部の丘陵上に多くの城館が築かれている。宮地区の青竹遺跡では掘立柱建物跡・柱列跡・溝跡などの遺構群が確認され、隣接する館の山城跡と一体をなした施設と考えられている（蔵王町教育委員会 2009b）。また、小村崎地区の戸ノ内遺跡（蔵王町教育委員会 2009a）、西屋敷遺跡、十郎田遺跡などで掘立柱建物跡群が確認されているほか、宮地区の持長地遺跡では掘立柱建物跡群に伴って常滑系陶器、馬具、鉄鈴、刀子などが出土している（宮城県教育委員会 1980b）。このほか、発掘調査は行なわれていないが、宮地区の願行寺遺跡は中世～近世の寺院跡と推定されている。安永風土記に「役小角叔父山之坊願行寺跡」とあり、「宮本坊蓮蔵寺書出」によれば奥州藤原氏の保護を受けて最盛期には四十八坊を持つ勢いであったという。また、前述の白九頭龍古墳には、文治の役（1189）で源頼朝軍に討ち取られた藤原国衡の遺骸を埋葬して弔ったとの伝説が残り、墳頂部には白九頭龍大明神の祠が建てられている。

(7) 近世以降

小村崎地区の車地蔵遺跡では近世の有力者層の屋敷地の一部と考えられる掘立柱建物跡、区画溝跡、水溜め状遺構（水場遺構）などの遺構群が確認された（蔵王町教育委員会 2006）。伊達家家臣の高野家が拝領した平沢地区の平沢要害跡は後世の改変で遺構は失われたが、江戸時代の絵図に本丸・二の丸・水堀と、南側に屈折する大手が見え、小規模ながらも近世城郭のような構造であったことが窺える。また、遠刈田地区の岩崎山金窟址では戦国末期には採掘が開始されていたとみられ、江戸初期には仙台藩主伊達家の命により採掘されていた。

現存する近世の建造物としては、平沢地区の日吉神社本殿（江戸中期）、宮地区の刈田嶺神社本殿（写真 14、江戸中期、県指定文化財）、曲竹地区の我妻家住宅（写真 15、江戸中期、国指定重要文化財）、小村崎地区の奥平家住宅（江戸後期、町指定文化財）などがある。日吉神社は高野家の領地替えの時に伊達郡より遷座され、刈田嶺神社は刈田郡総鎮守として白石城主片倉家の保護を受けた。

また、近世には奥州街道が宮地区を通り、さらに宮宿から分かれて永野宿、猿鼻宿を經由し、四方峠、笹谷峠を越えて山形へ至る羽前街道が通っていた。平沢地区には羽前街道の古道の一部が保存され（旧羽前街道保存地区）、藩政時代の街道の景観を今に伝えている。

近代の遺構としては遠刈田地区の遠刈田製鉄所高炉跡、軽便鉄道跡などがある。遠刈田製鉄所高炉跡は当時最先端の設計で明治時代後期に建てられたもので、近代製鉄遺構としては国内で唯一、基礎部分が現存する。明治時代後期から大正時代にかけて大河原～遠刈田間を結んだ軽便鉄道は、現在の道路あるいは路地として、その路線敷きの名残を留めている。



写真 14 刈田嶺神社本殿（享保 3 年 [1718 年] 建築）



写真 15 我妻家住宅（宝暦 3 年 [1753 年] 建築）

第2章 調査に至る経緯

蔵王町北東部の円田盆地に広がる水田地帯を対象とした経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）では、昭和63年度に盆地南部（円田1期地区）の事業計画が策定され、同年に埋蔵文化財保存協議が実施された。この結果を受け、同年から平成2年度にかけて事業実施区域内に存在する埋蔵文化財包蔵地の遺構確認調査および事前調査が宮城県教育庁文化財保護課により実施された（宮城県教育委員会1989・1990・1991b）。一方、盆地中・北部（円田2期地区）の事業計画は平成8年度に策定され、平成12年度には事業年次計画が提示された。事業実施予定区域は多数の埋蔵文化財包蔵地を含んでいたことから、平成8年度より文化財保護側の宮城県教育委員会、蔵王町教育委員会と原因者側の宮城県大河原地方振興事務所、蔵王町土地改良区の四者による埋蔵文化財保存協議が開始された。

平成11年度の協議において事業実施区域内における埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布調査が必要であるとの判断がなされ、平成12年度に蔵王町教育委員会が分布調査を実施した結果、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が大きく広がることが判明した。この結果を基に再協議を実施し、埋蔵文化財包蔵地の破壊される面積をできるだけ少なくするよう事業計画を大幅に見直すことが決定した。平成13年度には大河原地方振興事務所より、水田および畑地となる部分については、地下の遺構を保護するよう適宜盛土を行なうとともに、幹線農道以外の作業用道路については未舗装の砂利道として事前調査対象範囲をできるだけ減少させる見直し案が提示され、合意に達した。

平成13・14年度には宮城県教育庁文化財保護課と蔵王町教育委員会によって事業実施区域内の遺構確認調査が実施され（宮城県教育委員会2002・2003）、この結果を踏まえた協議により、遺構の存在する部分については基本的に盛土による現状保存を行ない、計画田面が遺構面よりも下がる切土部分と、道路・水路の建設に伴って遺構面が掘削される部分について事前調査を実施することが決定した。平成14年度には事業実施区域のうち県道の南側部分を平成15・16年度に、北側部分を平成17~21年度に順次施工する事業計画が提示され、これに先立って平成15年度に南側部分を、平成17~20年度に北側部分を対象とする計14遺跡の事前調査計画が策定された。なお、その後の事業計画見直しなどにより、北側部分の調査年度を平成23年度まで延長することで合意している。

蔵王町教育委員会は宮城県教育庁文化財保護課の協力を得て、平成15・16年度に都遺跡、窪田遺跡（南部）、新城館跡（蔵王町教育委員会2005）、平成17年度に車地蔵遺跡、鍛冶屋敷遺跡、原遺跡、上葉の木沢遺跡、中葉の木沢遺跡（蔵王町教育委員会2006）、平成18・19年度に六角遺跡（蔵王町教育委員会2008）、平成19・20年度に戸ノ内遺跡（蔵王町教育委員会2009a）、平成20年度に窪田遺跡（北部、蔵王町教育委員会2011b）の発掘調査を実施してきた。本書で報告するのは、平成19・20年度に実施した十郎田遺跡の調査成果である。

なお、このほかに前戸内遺跡（H20・21年度）、西屋敷遺跡・磯ヶ坂遺跡（H21年度）の発掘調査を実施している。また、平成23年度には集落道改修に伴う発掘調査を実施する計画である。これらについては、平成24年度までに順次発掘調査報告書を刊行して本事業計画にかかわる遺跡の事前調査を終了する計画となっている。

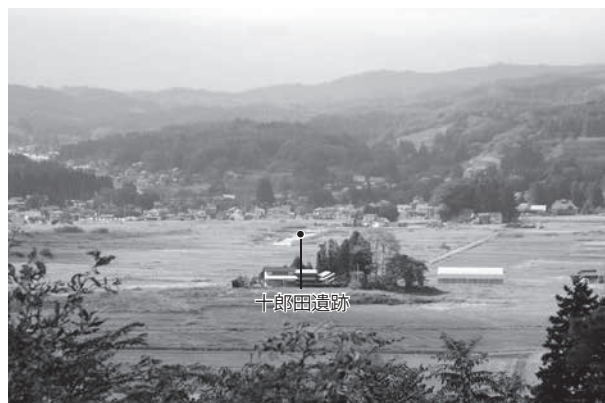


写真16 十郎田遺跡遠景（東から）

第3章 調査の方法と経過

本遺跡は、円田盆地西側の高木丘陵の裾部から派生し、盆地北西縁から南東方向に細長く延びる低平な舌状丘陵上に立地する。本遺跡の南東600mの丘陵末端部には新城館跡が立地し、丘陵の南西縁に沿って藪川の支流である川久保川の旧河道がある。この旧河道を挟んで南側に隣接する舌状丘陵上には窪田遺跡と都遺跡が立地し、その丘陵の南西縁に沿って藪川が流れている。遺跡の現況は畑地および水田で、地表面に遺物の散布が見られた。遺跡西部には標柱を設置して周知が図られていた。

平成8年度に開始された県営ほ場整備事業計画に伴う埋蔵文化財保存協議（事業主側：宮城県大河原地方振興事務所・蔵王町土地改良区、文化財保護側：宮城県教育委員会・蔵王町教育委員会）において本遺跡範囲のほぼ全域が事業計画範囲に含まれることが判明したため、遺跡範囲における遺構分布状況と遺構面深度の把握を目的とした綿密な遺構確認調査を平成14年度に実施した。

この結果、南東方向に緩く傾斜する舌状丘陵頂部の平坦面（東西約500m、南北約180m、標高約90~99m）を中心に竪穴住居跡17軒、掘立柱建物跡9棟、材木堀跡3条をはじめとする多数の遺構が確認された。遺構の時期は縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代にわたり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡は7世紀後半～奈良時代を主体とするものと考えられた。また、遺跡北西部では灰白色火山灰が堆積する幅3.0m以上の東西方向の大溝跡、南東部では東西・南北方向の布掘幅40cm、柱痕跡20~25cmの材木堀跡と、これに隣接して小区画畦畔の水田跡が確認され、この時期に属する可能性が考えられた。

平成17年度には最終的な事業設計案が提示され、田面となる部分は原則として盛土によって遺構面を保護し、止むを得ず切土が発生する道路・水路の予定範囲について事前調査を実施して文化財保護法上必要な措置としての記録保存を図るという基本方針で合意に達した。

本遺跡の事前調査については、平成19年度に業務委託契約（委託者：宮城県大河原地方振興事務所、受託者：蔵王町）を締結し、着手した。調査は当初単年度で完了する計画であったが、想定を上回る多数の遺構が密集して確認され、さらに天候不順の影響により年度内の完了が困難となった。このため、平成20年度に改めて本遺跡の一部と窪田遺跡北部を対象とする業務委託契約を締結し、調査を実施した。

発掘調査は、道路・水路の整備によって遺構面が削平される範囲を対象としたものである。遺跡範囲内に計画された水路・作業道予定地に1~5区を設定し、順次調査を実施した（第5図）。確認した遺構のうち、工事で掘削の及ばない範囲（主に作業道予定地）については遺構の分布状況を記録するに留め、工事による破壊を免れない範囲（主に水路予定地）について遺構の精査を実施した。調査期間は平成19年8月24日～平成20年1月15日（約4.5か月間、1~4区）、平成20年7月7日～11月7日（約



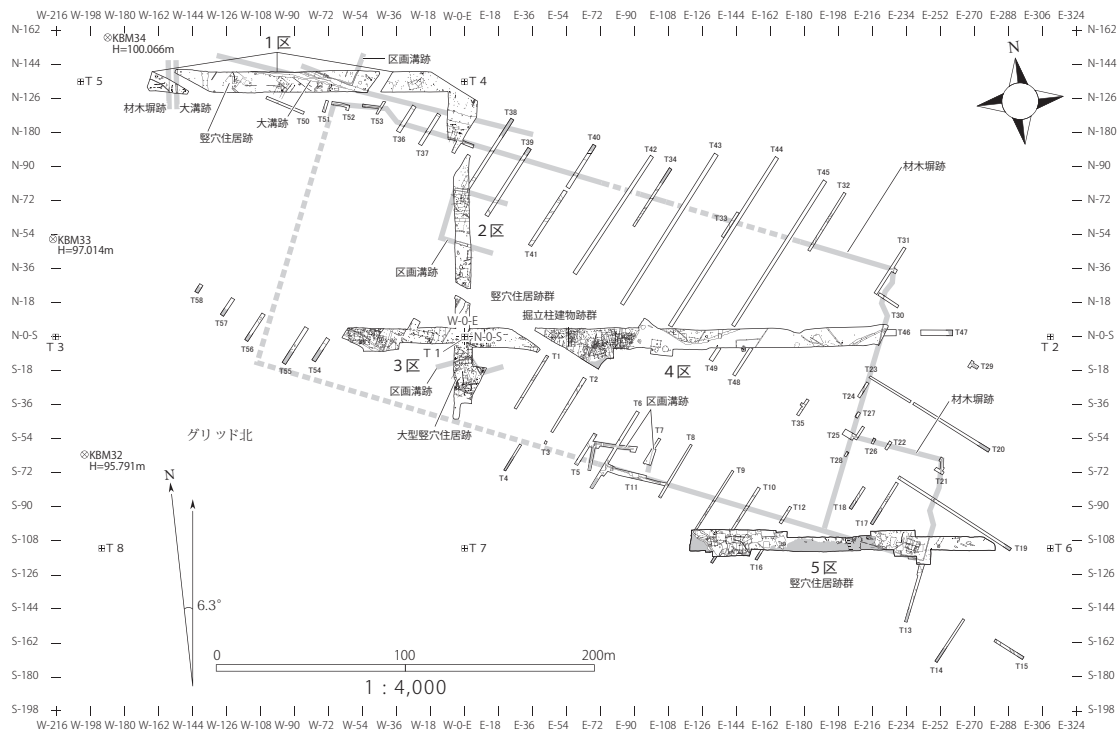
写真17 十郎田遺跡近景（5区周辺、南から）



写真18 表土掘削作業（4区）



第5図 現況測量図・調査区配置図



第6図 調査区設定図と主要な遺構の分布

基準点	局地座標系		点名	国家座標系		比高基準点	
	南北	東西		X座標	Y座標		
T 1	N-0-S	W-0-E	K-81	-208193.321	-12879.113	点名	KBM-33
T 2	N-0-S	E-310	K-51	-208226.623	-12566.883	標高	H=97.014m
T 3	N-0-S	W-216.3	K-91	-208180.838	-12996.149	区分	3級水準点

4 か月間、5 区) の計 8.5 か月間を要した。調査面積は、事前調査分約 5,452㎡、確認調査分約 3,647㎡の合計約 9,099㎡に及んだ。

調査の方法は重機による表土除去の後、手作業による遺構確認と遺構精査を行なった。確認した遺構は竪穴住居跡 41 軒、掘立柱建物跡 66 棟、柱列跡 38 条、井戸跡 10 基、土坑 107 基、溝跡 47 条、水溜め状遺構 1 基、畝溝状遺構 1 基、性格不明遺構 5 基、柱穴多数である。

本発掘調査の測量基準点は作業道計画路線上に打設された工事用基準杭を機械設置点および方位視準点として使用し、測量基準線に平行・直交する 3 m グリッドを設定した。図面についてはトータルステーションを用いて設定した 3m グリッドを利用してすべて手実測で作成し、遺構は必要に応じて 1/20 縮尺の平面図・断面図を作成した。また、デジタル一眼レフカメラおよび 35mm モノクロームフィルムを用いて、必要に応じて遺構の検出状況と土層断面、完掘状況、遺物の出土状況および調査区全景などの記録写真を撮影した。デジタルデータについては DVD-ROM に記録して保管した。出土遺物は調査区および遺構、出土層位別に取り上げた。

平成 20 年 10 月 17 日には発掘調査成果の報道発表を行ない、河北新報・朝日新聞・読売新聞各紙の 18 日付朝刊県内版で「蔵王で囲郭集落跡を発見 県南初 7 世紀後半」などと報じられた。19 日には住民向けの発掘調査成果見学会を開催し、町民および県内研究者など約 100 名の参加があった。見学会では発掘調査現場 (5 区) と出土遺物を公開して調査成果の概要を説明した。

整理作業は平成 19・20 年度にそれぞれ当該年度調査成果の基礎整理のための業務委託契約を締結し、平成 19 年 12 月 7 日～平成 20 年 3 月 24 日の約 3.5 か月間と、平成 20 年 11 月 10 日～平成 21 年 3 月 25 日の約 4.5 か月間の工程でそれぞれ実施した。本遺跡の調査成果については出土遺物の洗浄と注記、接合と修復の作業を実施したほか、図面と写真などの記録類の基礎的な整理作業を実施した。また、出土遺物のうち木製遺物の一部については株式会社加速器分析研究所に委託して放射性炭素年代測定および樹種同定を実施し (「十郎田遺跡 2」所収)、SE66 井戸跡出土木製品の一部については糖アルコール法による保存処理を実施した。

なお、本整理作業の実施に先立ち、宮城県考古学会古墳古代研究部会との共同主催により平成 21 年 4 月 25 日に第 1 回蔵王町出土遺物検討会「円田盆地周辺における 7~8 世紀の土器様相」を開催した。考古学研究者等 44 名の参加があり、本遺跡出土資料を含む当該期の土器について意見交換を行なった。

平成 22 年度には平成 19・20 年度調査成果の



写真 19 遺構確認作業 (5 区)



写真 20 竪穴住居跡の精査 (3 区)



写真 21 発掘調査成果見学会 (5 区)

本整理のための業務委託契約を締結し、平成22年6月1日～平成23年3月25日の約8か月間の工程で実施した。本遺跡の調査成果については出土遺物の実測と写真撮影、実測図・遺構図トレースを実施した。また、出土遺物のうち木製遺物の一部について株式会社加速器分析研究所に委託して放射性炭素年代測定を行なった（「十郎田遺跡2」所収）。平成23年度には平成21年度調査成果の本整理と本書の作成のための業務委託契約を締結し、平成23年5月11日～11月25日の約6.5か月間の工程で実施した。本遺跡の調査成果については、本書の執筆・編集と印刷・製本を実施した。

遺構図については、手実測で作成した図面をイメージスキャナとビットマップ画像編集ソフトウェアを用いてデジタル画像化し、調査員が作成した遺構調書を参照しながらパソコン内でベクトル画像編集ソフトウェアを用いてデジタルトレースを行なった。遺物については、水洗洗浄の後に注記を行ない、可能な限り接合と修復を行なった上で遺物調書を作成し、遺物の性格と残存状況などに応じて実測図あるいは拓本を作成した。遺物の実測図についてはすべて手作業により作成し、トレース図については木製遺物はデジタルトレース、それ以外は手作業により作成した。実測図等の作成が終了した遺物については、デジタル一眼レフカメラを用いて写真撮影を行なった。

以上の経過を経て作成した遺構・遺物調書をもとに執筆した本文と、遺構・遺物の写真・図面等のレイアウトおよび編集作業をDTPソフトウェアを用いて実施し、本書の印刷・製本を完了した。



写真 22 遺物接合作業



写真 23 遺物修復作業



写真 24 遺物実測作業



写真 25 雨上がりの虹（5区東部・南から・遺構の精査）

第4章 調査の結果

第1節 基本層序

調査区により立地条件と土層の堆積状況に違いが見られるが、基本層序はⅠ～Ⅷ層に大別される。Ⅰ層は表土ないしは現耕作土で、層厚は15~25cm程度である。Ⅱ層は旧表土ないしは旧耕作土で、層厚は10~30cm程度である。近世～近代の陶磁器片などを含む。Ⅲ層は黒ボクと称される黒色火山灰土で、層厚は20~40cm程度である。縄文土器片などを含む。丘陵斜面部に堆積し、斜面下部では複数の再堆積層を形成する。Ⅳ層はⅢ層下部とⅤ層上部に形成された漸移層で、層厚は20cm程度である。Ⅴ層は黄褐色ローム層で、層厚は30~40cm程度、Ⅵ層は白色粘土層で、層厚は30~50cm程度である。Ⅶ層は猿岩と称される凝灰質シルトで、川崎スコリア層（板垣1981）に相当するとみられる。

調査区内ですべての層序を確認した地点はなく、耕作および削平などによりⅠ層またはⅡ層の直下でⅢ層より下位の層を確認した地点が多かった。遺構はⅢ層上面あるいはⅣ～Ⅶ層の削平面で確認した。以上の状況を考慮すれば、確認した遺構の多くが本来はⅢ層上面から掘り込まれたものと考えられる。

第2表 基本層序

層名	土性	性格	層厚	備考
Ⅰ層	黒褐色シルト	表土・現耕作土	15~25cm	
Ⅱ層	黒色シルト	旧表土・旧耕作土	10~30cm	近世～近代の陶磁器片を含む
Ⅲ層	黒色シルト	黒色火山灰	20~40cm	古代～中世の遺構掘り込み面
Ⅳ層	暗褐色シルト	漸移層	20cm	
Ⅴ層	黄褐色粘土	黄褐色ローム	30~40cm	
Ⅵ層	白色粘土	水成堆積	30~50cm	
Ⅶ層	凝灰質シルト	川崎スコリア（Za-Kw）	20~40cm	2.6~3.1万年前
Ⅷ層	白色粘土	水成堆積	20cm~	砂礫を含む

第2節 発見された遺構と遺物

確認した遺構は、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡66棟、柱列跡38条、井戸跡10基、土坑107基、溝跡47条、水溜め状遺構1基、畝溝状遺構1基、性格不明遺構5基、柱穴多数である。遺構はすべての調査区で確認され、3区から4区西部では掘立柱建物跡、5区では竪穴住居跡を主体とする多数の遺構が特に密集して確認された。4区中央部から東部にかけては前回のほ場整備に伴う整地工事による削平が著しく、地形の改変とともに多数の遺構が既に消失したものと考えられた。

出土した遺物は、竪穴住居跡などから出土した土師器を主体に、ロクロ土師器、須恵器、中世陶器、近世陶磁器、縄文土器、土製品、木製品、漆器、石器、石製品、鉄製品などである。土師器は古墳時代中期・飛鳥時代後半・奈良時代前半、ロクロ土師器は平安時代初頭～中頃のものがある。中世陶器は13世紀頃のものと考えられる。また、木製品は中世前葉の挽物椀・小皿未製品などが井戸跡から多量に出土している。出土遺物の修復後総量は遺物収納コンテナ（44×60×15cm）で120箱分である。

出土した遺物の特徴と放射性炭素年代測定結果などから、確認した遺構は主に5世紀中頃～後半（古墳時代中期）、7世紀後半（飛鳥時代後半）、7世紀末～8世紀前半（奈良時代前半）、8世紀末～9世紀初頭（平安時代初頭）、9世紀前葉～中葉（平安時代前葉前半）、9世紀中葉～後半（平安時代前葉後半）、9世紀末～11世紀前半（平安時代中葉）、13世紀（中世前葉）に位置づけられる。以下、発見された遺構と遺物について調査区ごとに詳述する。なお、遺構は全体の様相が把握でき特徴的なもの、遺物が出土しているものについて記述し、章末にすべての遺構の観察表を作成して掲載した。

1.1区

遺跡範囲の北西部に位置し、東西175m、南北43mの範囲に幅10~15mで逆L字形に延びる調査区である。調査区内はほぼ平坦で、東へ向かって緩やかに傾斜し、東端部では北東向緩斜面となる。遺構確認面は現地表面から深さ10~25cmのV~VI層上面である。遺構は竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡9棟、柱列跡4条、溝跡14条、井戸跡1基、土坑29基、性格不明遺構1基を確認した(第7図、写真図版2・3)。

(1) 竪穴住居跡

【SI163 竪穴住居跡】(第8-10図、写真図版4・53・54)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SK186・SK187 → SI163 → SB358・SD181

〔規模・形状〕長辺7.70m、短辺6.40m／方形／調査区外北側へ一部延びる

〔方向〕西辺：N-43°-E

〔壁面〕残存しない。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。削平により一部残存しない。床面を覆う堆積土は地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマド推定位置を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅14~28cm、底幅8~16cm、深さ7~18cmで横断面形がU字形を呈する。底面は北西から南東に向かって傾斜する。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居西辺中央部付近の床面で被熱による赤色硬化範囲を確認した。平面形が長軸76cm、短軸60cmの楕円形で皿状に浅く窪んでおり、カマド燃焼部底面と考えられる。また、右脇に凝灰岩切石が据えられており、カマド側壁骨材の一部と考えられる。

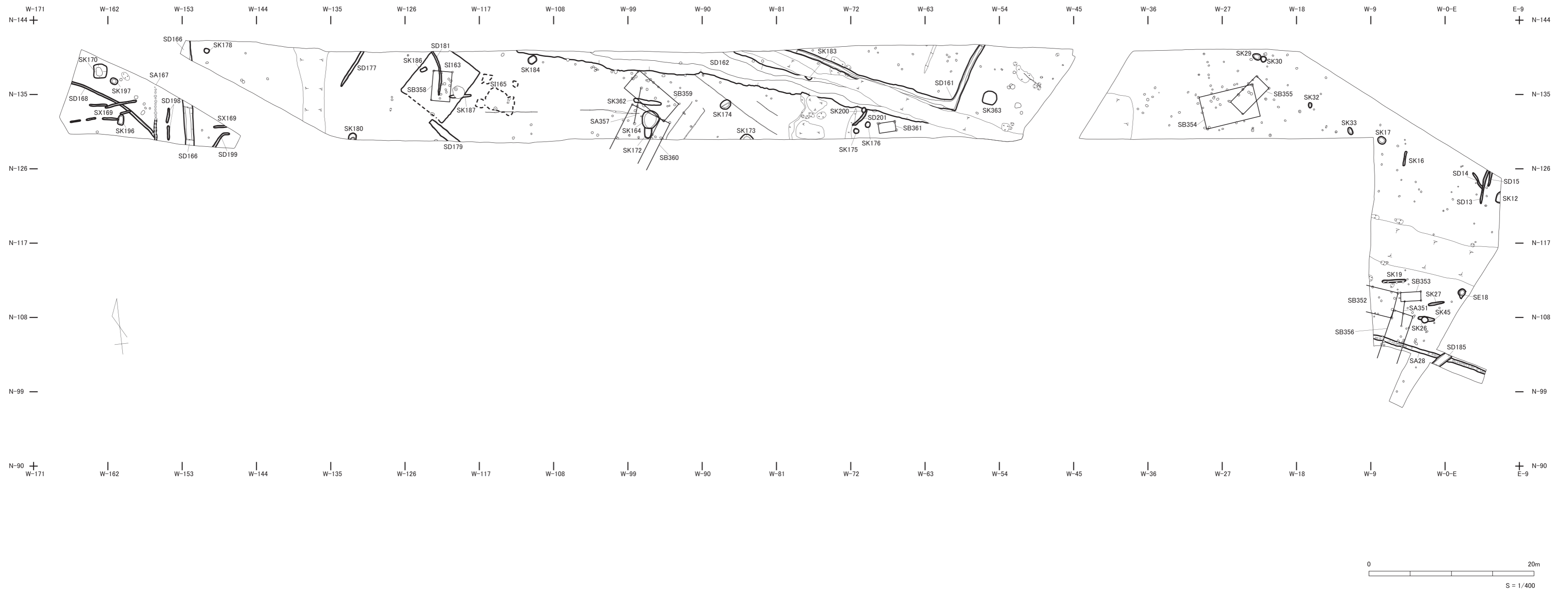
〔貯蔵穴〕住居床面の北東部で土坑4基(K1~K4)、南東隅で土坑1基(K5)を確認した。K1は平面形が長軸63cm、短軸46cmの楕円形、断面形は深さ58cmのU字形を呈する。K2は平面形が長軸140cm、短軸100cmの不整形、断面形は深さ52cmの不整逆台形を呈する。K3は平面形が直径70cmの略円形、断面形は深さ33cmのU字形を呈する。K4は平面形が長軸155cm、短軸142cmの略円形、断面形は深さ90cmの不整なU字形を呈する。K5は平面形が長

軸88cm、短軸43cmの不整隅丸方形、断面形は深さ18cmの逆台形を呈する。K1~K3・K5の堆積土は地山ブロックを含む黒褐色・暗褐色シルトなどで、人為的埋土と考えられる。K4の堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトなどで、壁際の崩落土および自然堆積土と考えられる。K4堆積土3~4層の東壁~底面にかけて多量の土器類が廃棄された状態で出土した。

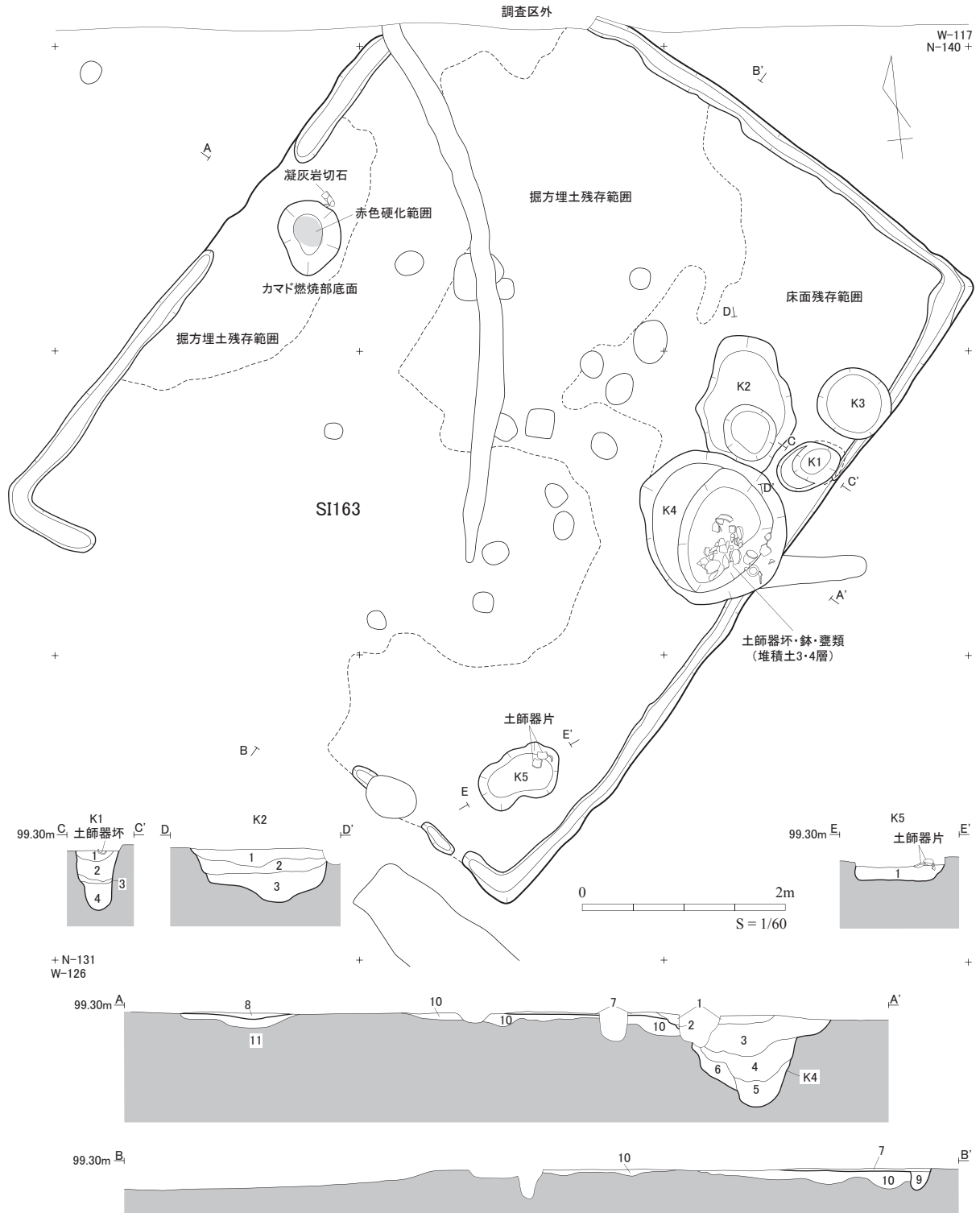
〔出土遺物〕住居内堆積土より土師器甕(第10図1)、K1堆積土より土師器坏(第9図2・4)、K2堆積土より土師器坏(第9図7)・ミニチュア土器(第9図13)、K4堆積土より土師器坏(第9図1・3・5・6・8)・鉢(第9図9)・甕(第9図11・12、第10図2~4)・小型甕(第9図10)が出土した。

坏はいずれも丸底で、体部から口縁部にかけて内弯するもの(第9図1・4)、体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が内弯して口縁部が外反するもの(第9図2・3)、体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が内弯して短い口縁部が直立または外反するもの(第9図5~8)がある。いずれも内面にヨコナデ→ヘラミガキ調整、外面にヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ調整を施す。第9図9は体部から口縁部にかけて逆八の字状に開く鉢で、内面の体部にユビナデ・口縁部にヨコナデ→体部~口縁部に粗いヘラミガキ調整、外面の口縁部にヨコナデ→体部に縦方向のヘラケズリ→粗いヘラミガキ調整を施す。小型甕(第9図10)は平底で胴部中位に最大径を持ち、胴部最大径と器高がほぼ等しい。外面の口縁部にヘラナデ→ヨコナデ調整、体部に縦方向のヘラナデ→横方向のヘラナデ調整を施す。外面の口縁部~胴上部に炭化物の付着がみられる。甕は平底で胴部中位に最大径を持ち、球胴状のもの(第10図3・4)と、長胴気味のもの(第10図1・2)とがある。いずれも内面にヘラナデ→ヘラミガキ調整、外面にヘラナデまたはケズリ→ヘラミガキ調整を施す。第9図12は頸部に貼瘤をもつ。第9図11は外面の口縁部にヨコナデ調整、内面の口縁部にハケメ→ヨコナデ・胴部にヘラナデ調整を施す。ミニチュア土器は鉢または甕形で下半部が残存する。内外面にユビナデ調整を施す。

このほか、K1・K2・K4・K5堆積土・住居掘方埋土・遺構確認面より土師器坏・壺・甕・甌などが出土した。土師器坏は内外面にミガキ調整を施し、炭化物の付着が見られる。壺は外面に赤彩を施すものと、内外面にミガキ調整を施すものがある。甌は無底式のもの、単孔式のものがある。



第7図 1区遺構配置図



SI163 竪穴住居跡 A-A'・B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (K4 堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (K4 堆)
3	10TR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム・炭化物粒を少量含む 遺物包含層 (K4 堆)
4	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を少量含む 遺物包含層 (K4 堆)
5	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (K4 堆)
6	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (K4 堆・壁崩)
7	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む (住掘)
8	10YR2/3 黒褐	シルト	焼土粒を含む 炭化物粒を少量含む (竈堆)
9	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (周溝掘)
10	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)
11	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (住掘)

SI163 竪穴住居跡 K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SI163 竪穴住居跡 K2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 焼土ブロックを含む
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 焼土粒・炭化物粒を少量含む

SI163 竪穴住居跡 K5 E-E'

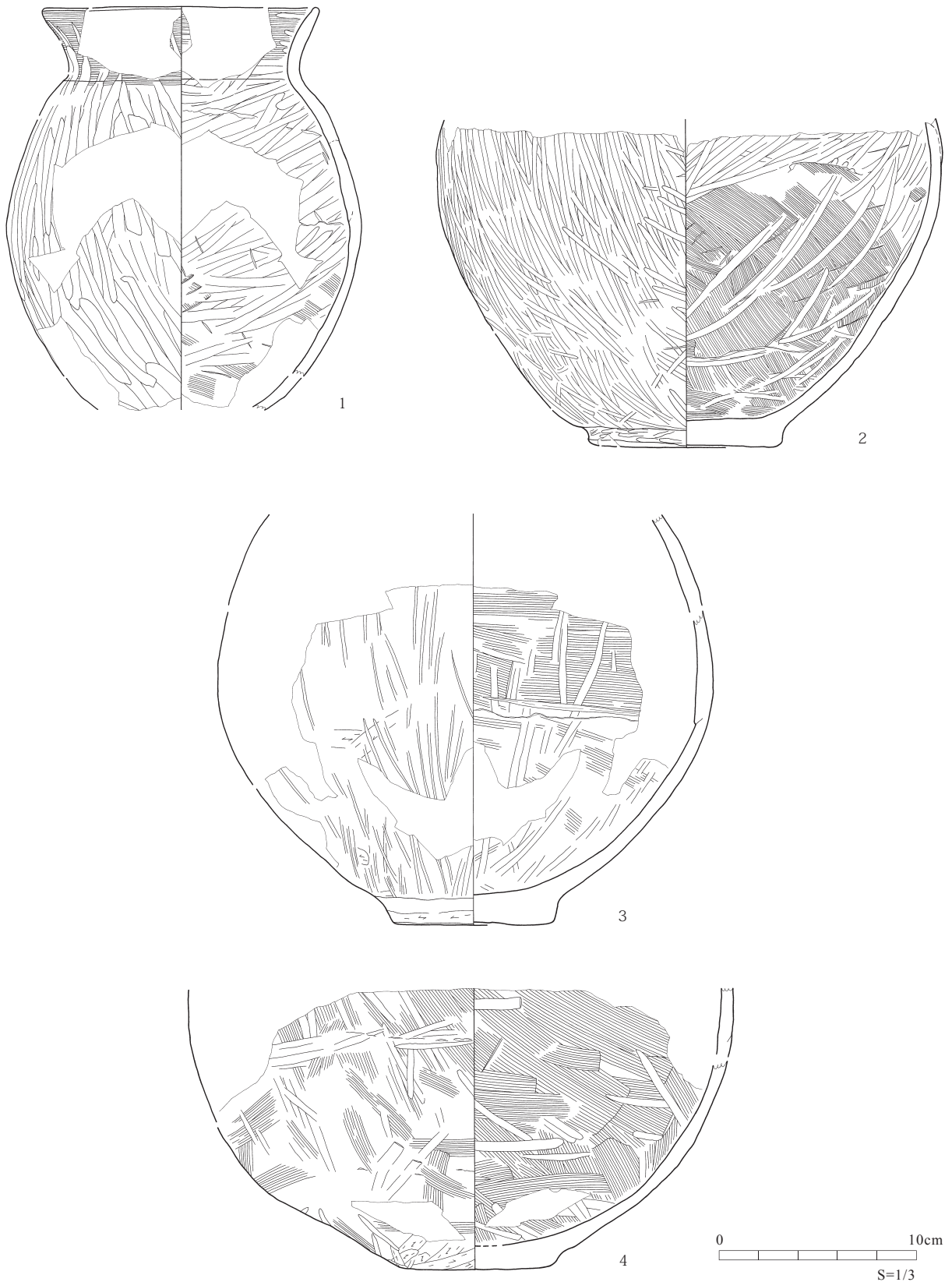
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (人為)

第8図 SI163 竪穴住居跡



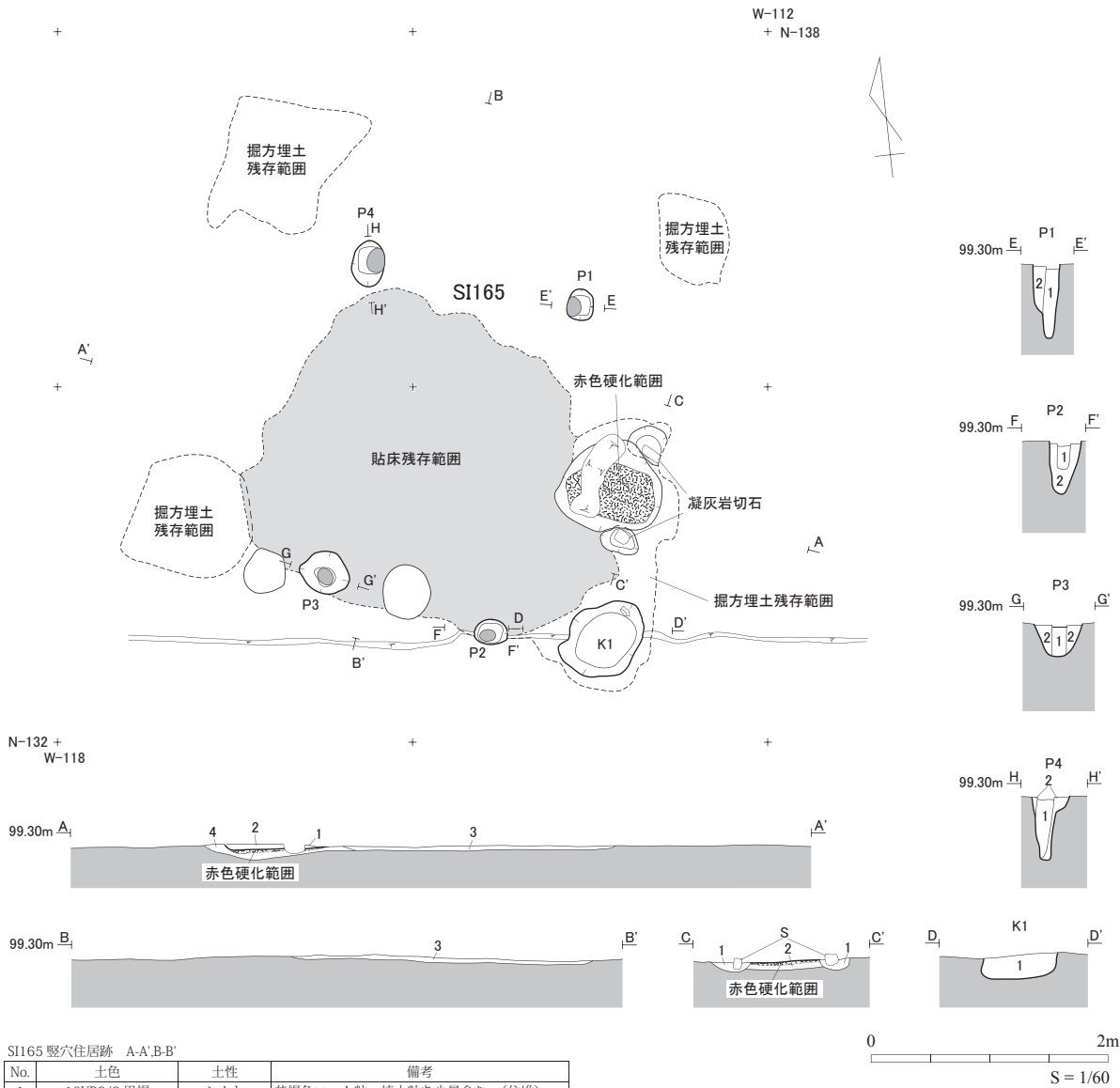
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI163	K4 堆積土 3層・Pot.22	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→(体)ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ・(体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	12.7	-	5.2	略完形	012	53-1
2	SI163	K1 堆積土 4層	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ナデ→ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ→一部ヘラミガキ、(体)ナデ→ヘラミガキ、(底)ケズリ→一部ヘラミガキ	14.8	-	6.1	4/5	006	53-3
3	SI163	K4 堆積土	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ、(体)ナデ→ヘラミガキ、(底)ケズリ→ヘラミガキ	14.3	-	6.0	4/5	014	53-4
4	SI163	K1 堆積土 1層	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ヘラナデ→ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(底)ケズリ→ヘラミガキ、※口縁部に指紋	12.3	-	7.9	4/5	049	53-2
5	SI163	K4 堆積土 3層・Pot.11	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ、(体)ヘラミガキ、(底)ケズリ	(13.4)	-	9.4	3/5	013	53-5
6	SI163	K4 堆積土 3層	土師器	坏	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ヘラナデ→ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ケズリ→ヘラミガキ、(底)ケズリ→ヘラミガキ、※外面磨減著しい	(12.2)	-	11.1	1/3	046	53-6
7	SI163	K2 堆積土 3層	土師器	坏	内面:(体)ヘラナデ→(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体~底)ケズリ→ヘラミガキ、※外面磨減著しい	(10.6)	-	11.3	2/3	050	53-7
8	SI163	K4 堆積土 3層・Pot.3	土師器	坏	内面:(体)ヘラナデ→(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体下)ユビナデ、外面:(口)ヨコナデ、(体)ナデ→ヘラミガキ	13.5	-	12.6	4/5	017	53-9
9	SI163	K4 堆積土 3層・Pot.4	土師器	鉢	内面:(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(体)ユビナデ→ヘラミガキ、外面:(口)ヨコナデ→縦方向ヘラケズリ→ヘラミガキ、(底)ヘラミガキ	12.9	6.2	10.5	略完形	015	53-8
10	SI163	K4 堆積土	土師器	小型甕	内面:(口)ヨコナデ、(体)ヘラナデ、(体下)ユビナデ、外面:(口)ヘラナデ→ヨコナデ、(体)縦方向ヘラナデ→横方向ヘラナデ、(底)ナデ、※外面(口~胴上)炭化物付着	(14.7)	9.2	15.5	4/5	018	53-10
11	SI163	K4 堆積土	土師器	甕	内面:(口)ハケメ・(胴)ヘラナデ→(口)ヨコナデ、外面:(口)ヨコナデ、(胴)ナデ?	-	-	(5.4)	一部	019	53-12
12	SI163	K4 堆積土 3層・Pot.25	土師器	甕	内面:ヘラミガキ、外面:ヨコナデ→ヘラミガキ、※頸部に貼瘤	(14.5)	-	(7.5)	一部	009	53-11
13	SI163	K2 堆積土	土師器	ミニチュア	内面:ユビナデ、外面:ユビナデ	-	-	(2.9)	2/3	051	53-13

第9図 SI163 竪穴住居跡出土遺物 (1)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI163	堆積土	土師器	甕	内面：(口)ヨコナデ→ヘラミガキ、(胴)ヘラナデ→ヘラミガキ、外面：(口)ヨコナデ→(胴)ヘラミガキ	14.1	-	(20.6)	1/2	010	54-2
2	SI163	K4 堆積土 3層	土師器	甕	内面：ヘラナデ→ヘラミガキ、外面：ナデ?→ヘラミガキ、(底)ケズリ?→ヘラミガキ	-	9.9	(16.7)	1/4	007	54-1
3	SI163	K4 堆積土 3層	土師器	甕	内面：ヘラナデ→ヘラミガキ、外面：ケズリ→ヘラミガキ、(底)ヘラミガキ→ヘラケズリ	-	8.2	(20.9)	1/2	016	54-3
4	SI163	K4 堆積土	土師器	甕	内面：ヘラナデ(幅広→幅狭)→ヘラミガキ、外面：(胴)ナデ(幅広→幅狭)→(底付近～底)ヘラケズリ→(胴)ヘラミガキ 二次被熱により赤色化 楕円形に歪む	-	7.7	(14.3)	胴下半部	008	54-4

第10図 SI163 竪穴住居跡出土遺物 (2)



SI165 竪穴住居跡 A-A',B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を少量含む (住堆)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	焼土粒を多量に含む (竈堆)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (貼床)
4	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (竈底面構)

SI165 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を多量に含む (竈側壁構築材掘)
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (竈底面構)

SI165 竪穴住居跡 K1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む 焼土粒・炭化物粒を含む

SI165 竪穴住居跡 P1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

SI165 竪穴住居跡 P2 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

SI165 竪穴住居跡 P3 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI165 竪穴住居跡 P4 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

第11図 SI165 竪穴住居跡

【SI165 竪穴住居跡】(第11~12図、写真図版3・54)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長辺4.50m以上、短辺4.00m以上／方形

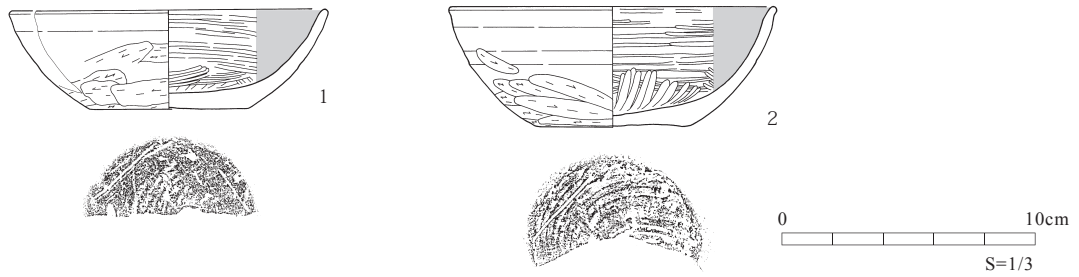
〔方向〕東辺：N-20°-E

〔壁面〕残存しない

〔床面・堆積土〕削平により床面は残存しない。地山ブロックを多く含む褐色粘質シルトによる貼床土が残

存し、硬化している。カマド燃焼部にのみ残存する堆積土は地山・焼土粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕4か所確認した。P1・P4は住居平面形の対角線上、P2・P3は住居南辺付近に位置する。柱穴掘方の平面形は長軸25~43cm、短軸22~46cmの隅丸方形・楕円形を呈する。深さは28~72cmで、いずれも平面形が直径10~13cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI165	K1 堆積土	ロクロ土師器	环	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ，(底) 糸切り→手持ちヘラケズリ ※胎土に直径 2mm 程度の黒色の礫を多く含む	(12.7)	(6.3)	3.9	2/5	053	54-5
2	SI165	K1 堆積土	ロクロ土師器	环	内面：横方向ヘラミガキ→放射状ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ，(底) 回転糸切り→無調整	(13.0)	(6.2)	4.7	1/2	052	54-6

第 12 図 SI165 竪穴住居跡出土遺物

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド〕住居東辺やや南寄りに付設されている。燃燒部の一部が残存する。燃燒部底面は長軸 90cm、短軸 75cm の範囲が皿状に浅く窪み、底面に赤色硬化範囲が見られる。また、両脇に角柱状の凝灰岩切石が据えられており、カマド側壁骨材の一部と考えられる。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅で土坑 1 基 (K1) を確認した。平面形が長軸 74cm、短軸 60cm の不整楕円形、断面形は深さ 20cm の U 字形を呈する。堆積土は焼土・炭化物・地山粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕K1 堆積土よりロクロ土師器環(第 12 図 1・2) が出土した。いずれも内面に放射状ヘラミガキ→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に手持ちヘラケズリによる再調整を外面の体部下位に施すもの(第 12 図 2) と、体部下位～底部に施すもの(第 12 図 1) とがある。

このほか、K1 堆積土・住居内堆積土・カマド燃燒部底面・カマド側壁据方埋土・住居掘方埋土より土師器環・甕、ロクロ土師器環・甕が出土した。

(2) 掘立柱建物跡

【SB354 掘立柱建物跡】(第 13 図)

〔位置〕1 区東部／北東向緩斜面

〔重複〕SB354 - SB355

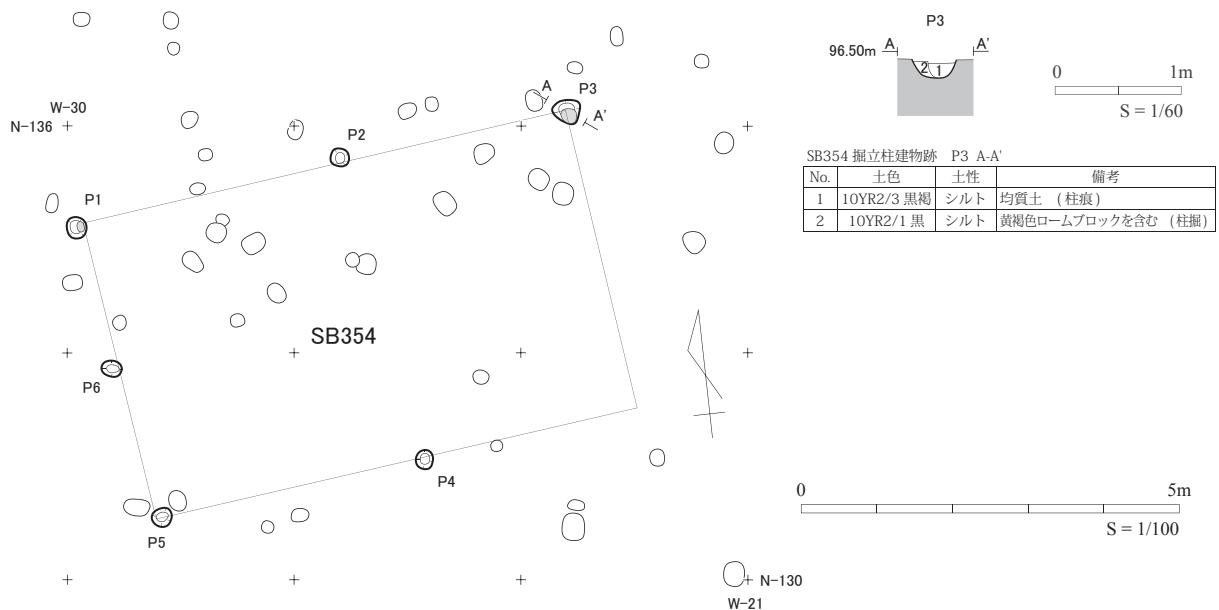
〔規模・形状〕東西 2 間(総長 6.58m)・南北 2 間(総長 4.02m)／東西棟側柱建物

〔柱間寸法〕北側柱列：西から (352) - (306) cm

西側柱列：北から (190) - (210) cm

〔方向〕西側柱列：N-9° -W

〔柱穴〕6 か所確認した。掘方の平面形は長軸 26-36cm、短軸 23-32cm の略円形・楕円形を呈し、深さ 7-23cm である。掘方埋土は地山ブロックを含む黒色・黒褐色シルトである。2 か所で平面形が直径 16-22cm の円形・



第 13 図 SB354 掘立柱建物跡

楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔出土遺物〕なし

【SB358 掘立柱建物跡】(第14図)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SH163・SK187 → SB358 - SD181

〔規模・形状〕東西1間(総長2.32m)・

南北1間(総長3.52m)／南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-10°-E

〔柱穴〕3か所確認した。平面形は長軸21~28cm、短軸18~24cmの略円形を呈し、深さ17~28cmである。堆積土は地山ブロック・砂礫を含む黒色・黒褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。

〔出土遺物〕なし

【SB359 掘立柱建物跡】(第14図)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SD162 → SB359 - SB360・

SA357・SK164・SK362

〔規模・形状〕東西2間(総長6.34m)・

南北1間(総長2.82m)／東西棟側柱建物

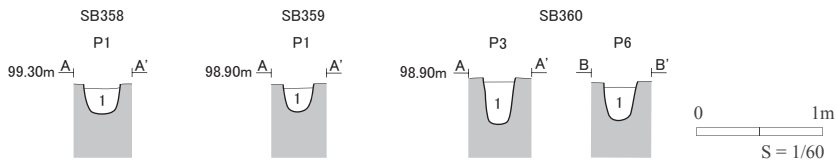
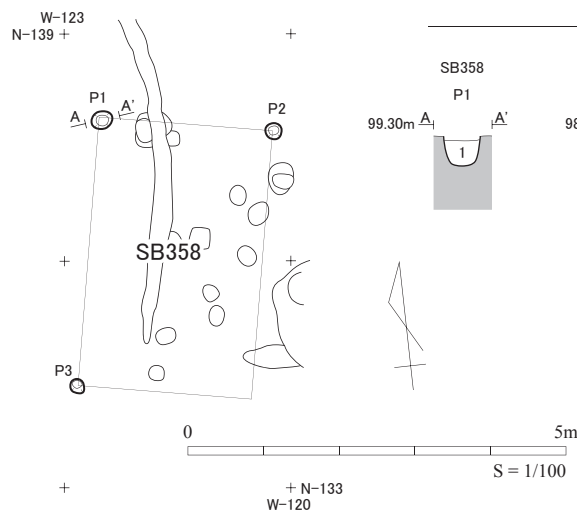
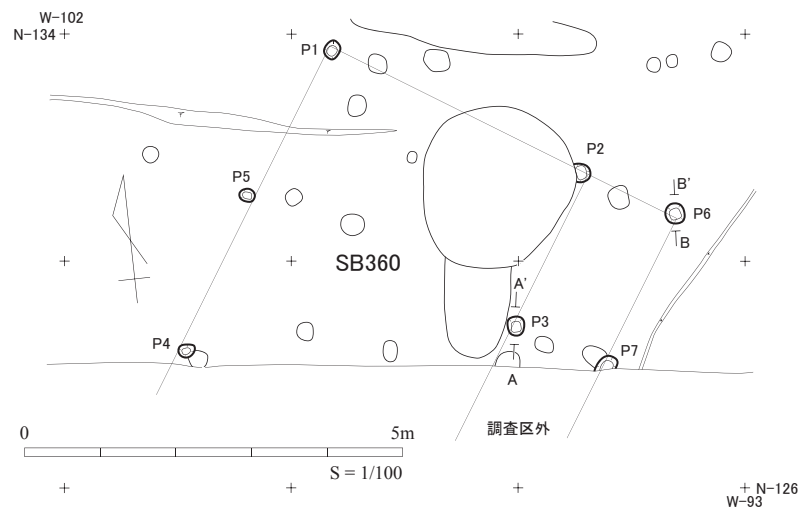
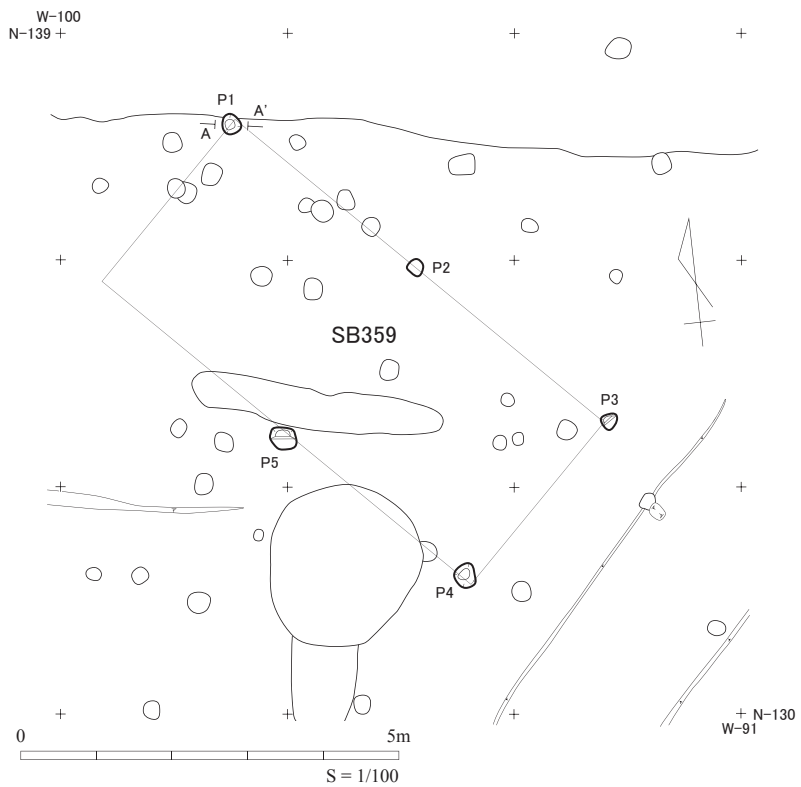
〔柱間寸法〕南側柱列：北から(312)

- (322) cm

〔方向〕北側柱列：N-45°-W

〔柱穴〕5か所確認した。平面形は長軸20~34cm、短軸20~29cmの不整隅丸方形を呈し、深さ18~31cmである。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。

〔出土遺物〕なし



SB358 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・砂礫を少量含む

SB359 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

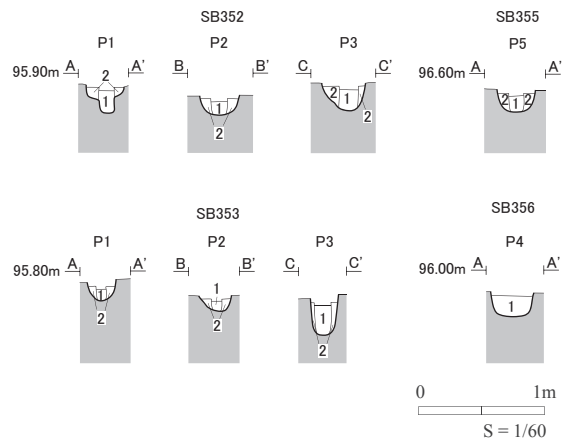
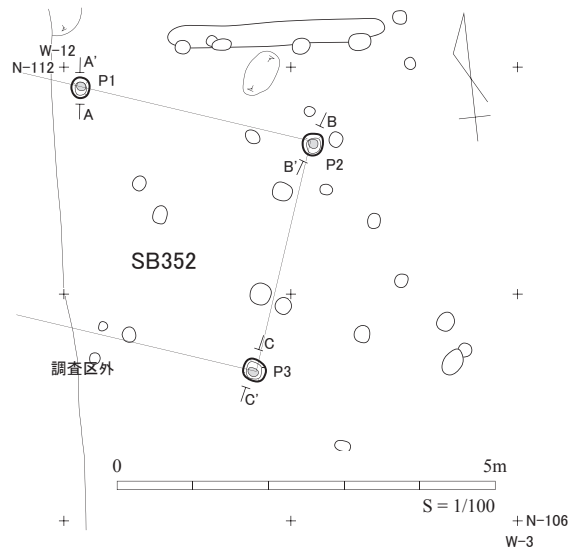
SB360 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SB360 掘立柱建物跡 P6 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

第14図 SB358・359・360 掘立柱建物跡



SB352 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを多量に含む (柱掘)

SB352 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB352 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを多量に含む (柱掘)

SB353 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB353 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB353 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB355 掘立柱建物跡 P5 A-A'

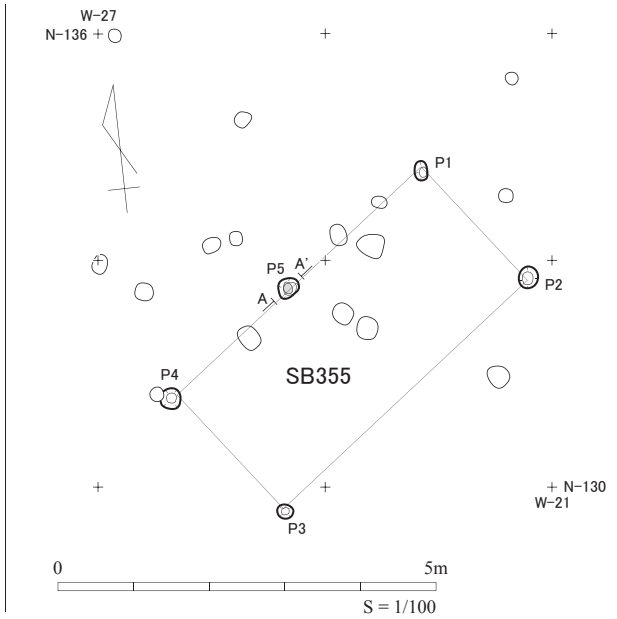
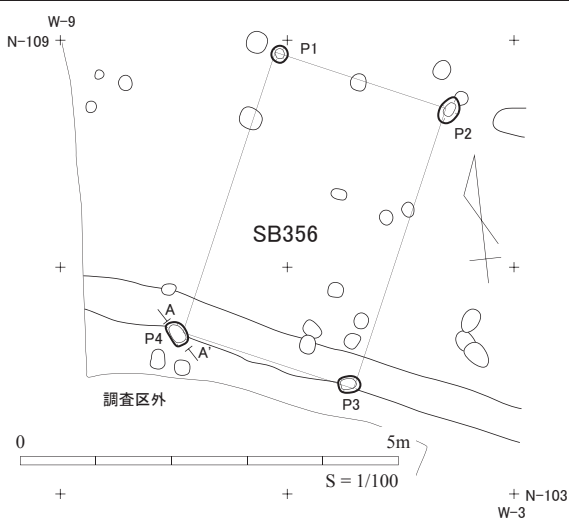
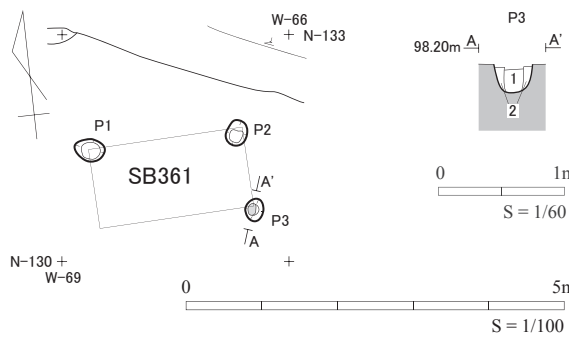
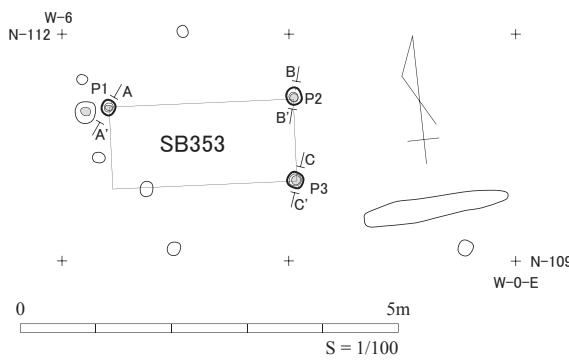
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB356 掘立柱建物跡 P4 A-A'

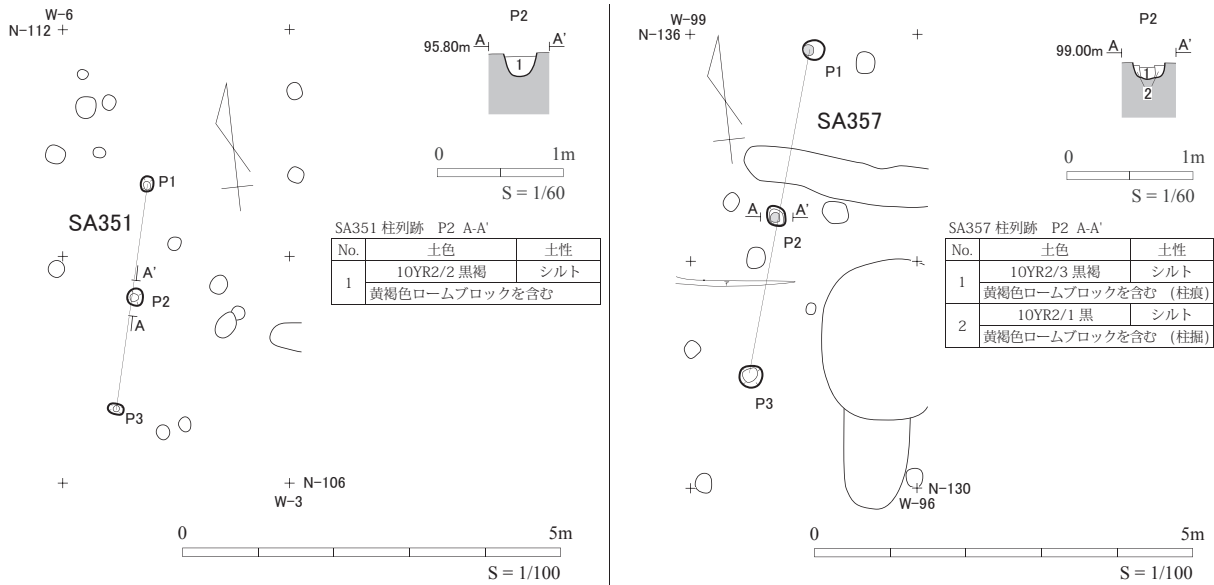
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SB361 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



第15図 SB352・353・355・356・361 掘立柱建物跡



第16図 SA351・357 柱列跡

【SB360 掘立柱建物跡】(第14図)

〔位置〕1区中央部／平坦面
 〔重複〕SB360 → SK164 - SB359・SA357・SK172
 〔規模・形状〕東西1間(総長3.81m)・南北2間(総長4.47m)以上／東廂(縁)付南北棟側柱建物／廂(縁)の出：1.34m／調査区外南側へ延びる
 〔柱間寸法〕身舎西側柱列：北から(226) - (221) cm
 〔方向〕西側柱列：N-33° - E
 〔柱穴〕身舎で5か所、廂(縁)で2か所を確認した。平面形は長軸20~28cm、短軸18~24cmの略円形を呈し、深さ13~37cmである。身舎・廂(縁)で柱穴の規模に違いは見られない。堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。
 〔出土遺物〕なし

幅43~52cm、底幅20~42cm、深さ29~59cmの布掘の掘方の中に、平面形が直径18~28cmの円形を呈する柱痕跡を列状に確認した。掘方の横断面形はU字形で、柱痕跡はその中央に位置する。柱痕跡は30か所を確認し、このうち14か所(①~④)で下部に柱材の一部が残存していた。柱痕跡は3~15cm間隔で連続する部分と、35~60cmの間隔となる部分がある。柱痕跡には掘方底面に達しないものがあり、間隔の開いている部分は削平によって柱痕跡が失われた可能性がある。掘方底面は東側ではほぼ平坦であるが、西側では凹凸が見られる。掘方埋土は地山ブロックを含む黒色・黒褐色粘質シルトである。

〔柱材寸法〕14か所で確認し、計測できたものは13点である。幅7.5~18.5cm、厚さ4.8~13.0cm、長さ5.3~41.0cmの割材(芯去材)で、横断面形は楕円形・半円形・三角形・台形を呈するものがある。表面に工具による調整痕が確認されたものが1点ある。

〔方向〕E-23° - S
 〔出土遺物〕柱材抜き取り痕跡の確認面より土師器坏(第17図1)が出土した。有段丸底坏の破片で、体部が内湾し口縁部が短く外傾する。外面の体部と口縁部

(3) 材木堀跡

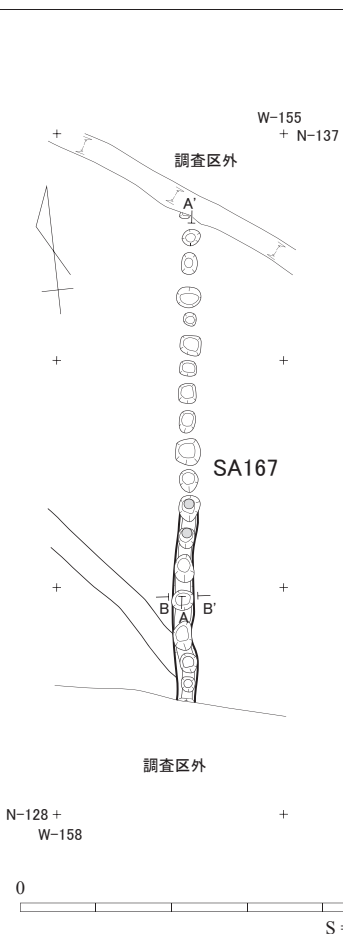
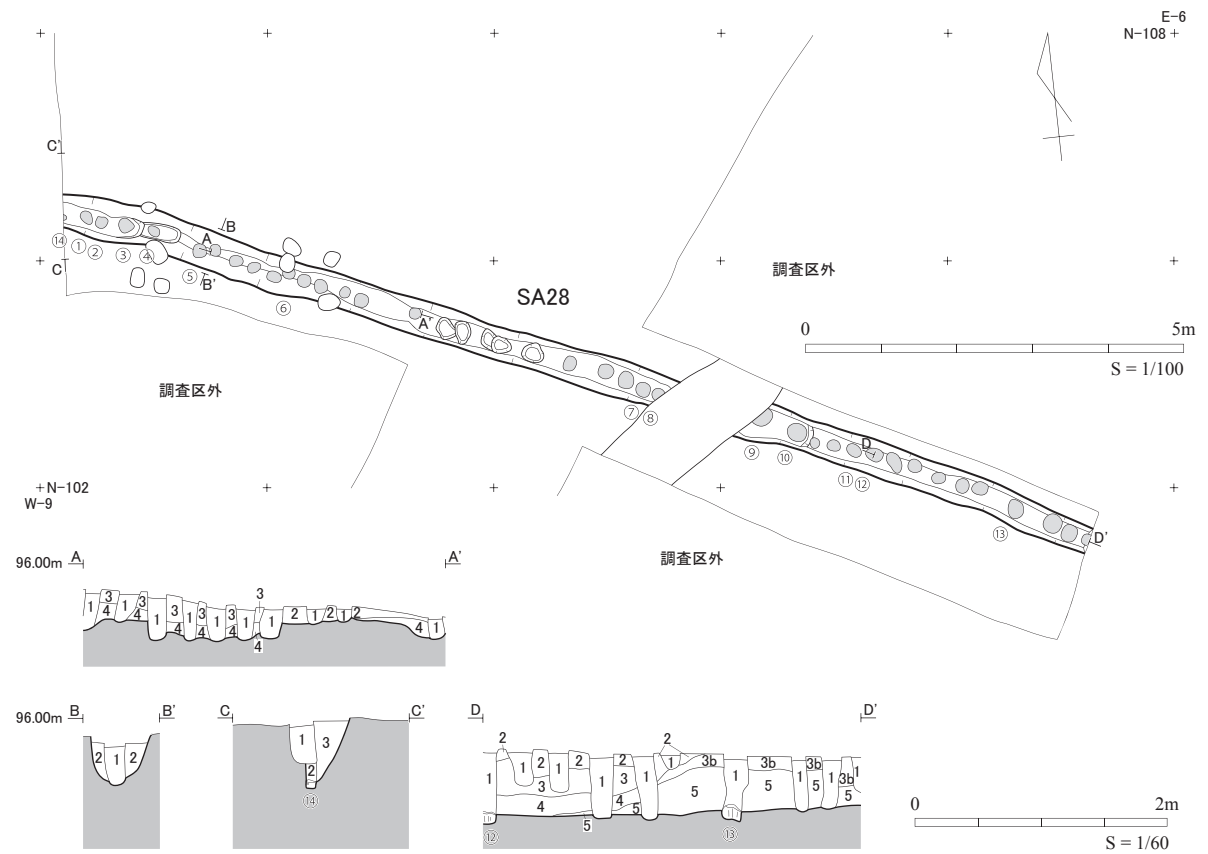
【SA28 材木堀跡】(第17~18図、写真図版5・54)

〔位置〕1区東部／平坦面
 〔重複〕SA28 → SB356・SD185
 〔規模・形状〕東西方向に直線的に延びる。長さ14.0mを確認し、調査区外の東西に延びている。上



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SA28	確認面 (柱材抜き取り痕跡)	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：(口)ヨコナデ、(体)ヘラケズリ	-	-	(2.4)	一部	078	54-7

第17図 SA28 材木堀跡出土遺物



SA28 材木堀跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱拔)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA28 材木堀跡 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA28 材木堀跡 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA28 材木堀跡 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
3b	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (柱掘)
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む (柱掘)
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SA167 材木堀跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	均質土 (柱拔)
3	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多く含む (柱掘)

SA167 材木堀跡 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱拔)

第18図 SA28・167 材木堀跡

の境に段を持ち、内面の対応する位置で屈曲する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の口縁部にヨコナデ調整・体部にヘラケズリ調整を施す。

【SA167 材木堀跡】(第18図、写真図版6)

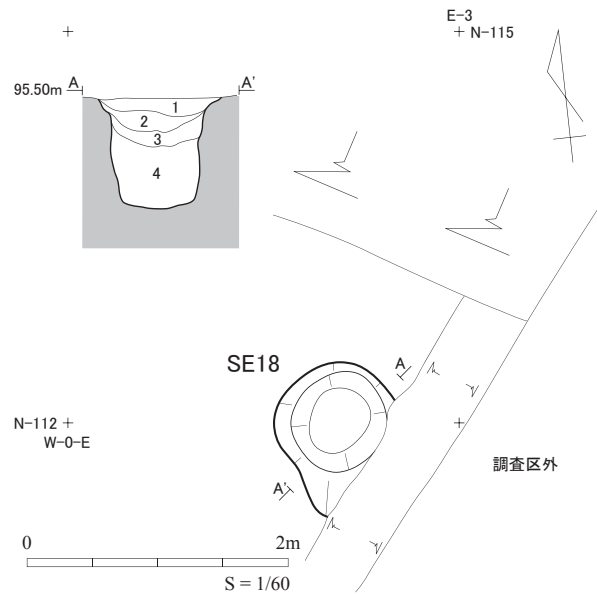
〔位置〕1区西部／平坦面

〔重複〕SD168 → SA167

〔規模・形状〕南北方向に直線的に延びる。長さ6.4mを確認し、調査区外の南北に延びている。上幅19~33cm、底幅14~22cm、深さ10~22cmの布掘の掘方の中に、柱材の抜き取り痕跡を列状に確認した。掘方の横断面形はU字形である。柱材の抜き取り痕跡は18か所確認し、掘方の中央または東寄りに位置する。平面形が直径19~43cmの略円形・楕円形を呈し、5~12cm間隔で連続する。掘方底面は凹凸が見られ、南側へ向かって緩く傾斜している。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質シルトである。

〔方向〕N-6°-E

〔出土遺物〕なし



SE18 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 礫・植物遺体・木片を少量含む
3	10YR3/1 黒褐	シルト	植物遺体を少量含む
4	10YR2/1 黒	シルト	礫・植物遺体を多く含む 木片を少量含む

(4) 井戸跡

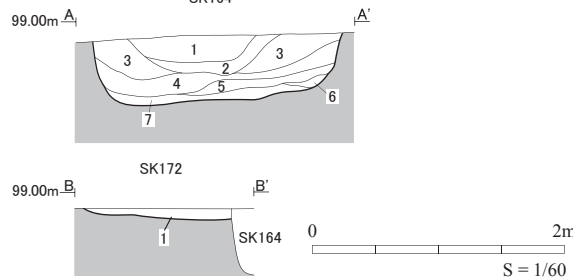
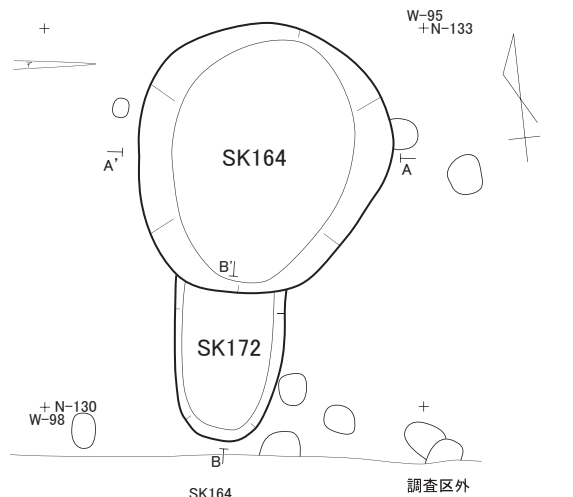
【SE18 井戸跡】(第19図、写真図版7)

〔位置〕1区東部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸108cm、短軸90cmの不整楕円形を呈し、深さ80cmの円筒形で上部が漏斗形に開く。〔堆積土〕植物遺体・木片・礫を含む黒色・黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器環が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。



SK164 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黒褐色シルトブロックを多量に含む
3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を極少量含む
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む
5	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)
6	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
7	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (人為)

SK172 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

(5) 土坑

【SK164 土坑】(第19図、写真図版7)

〔位置〕1区中央部／平坦面

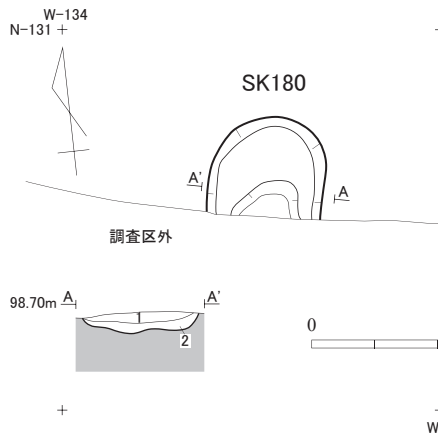
〔重複〕SB360・SK172 → SK164 - SB359

〔規模・形状〕平面形が長軸216cm、短軸197cmの不整楕円形、断面形は深さ50cmのU字形を呈する。

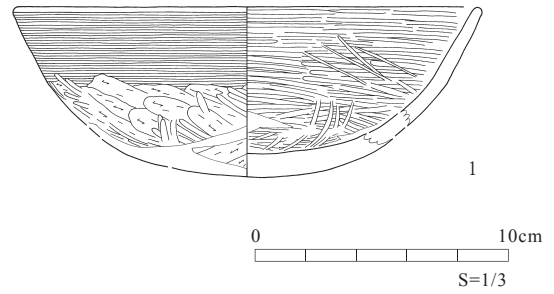
〔堆積土〕下部は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト・黒色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。上部は地山小ブロック・炭化物粒を含む黒褐色・暗褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土・遺構確認面より土師器環・ロクロ土師器環・甕が出土した。土師器環は内外面にヘラミガキ調整を施すもの、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施すものがある。ロクロ土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

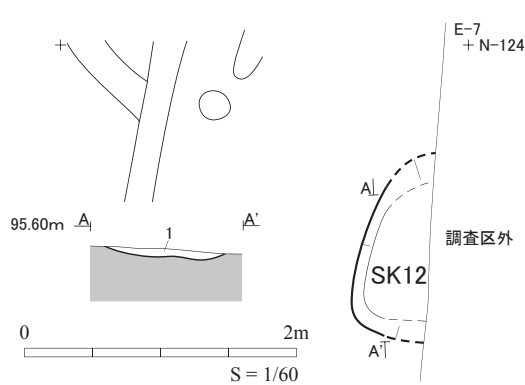
第19図 SE18 井戸跡, SK164・172 土坑



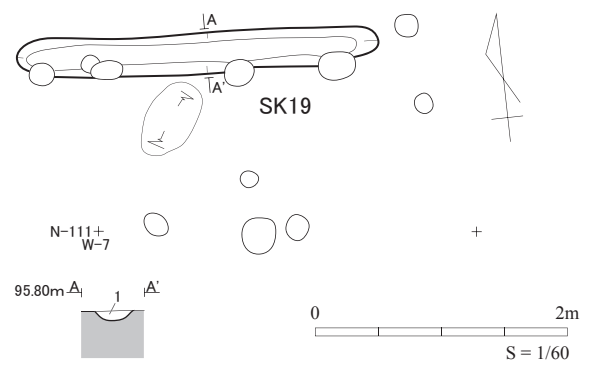
SK180 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・φ 1-4cm 程度の炭化物片を含む 焼土粒を極少量含む
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土ブロック・焼土粒・炭化物粒を多量に含む



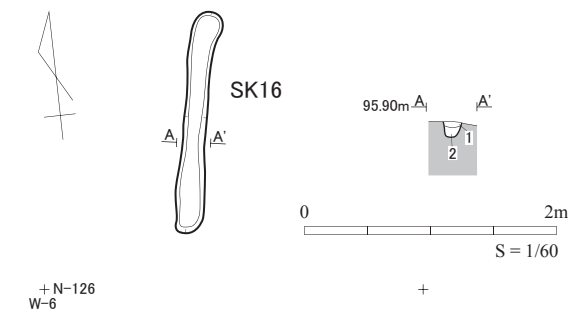
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK180	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ、外面：ヨコナデ→(体下～底)ヘラケズリ→ヘラミガキ	(18.6)	-	6.7	2/5	080	54-9



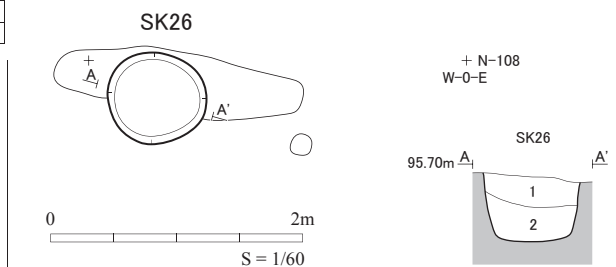
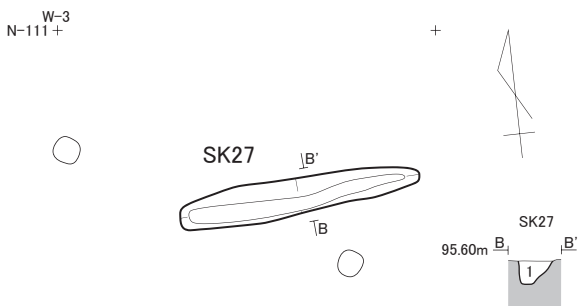
SK12 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



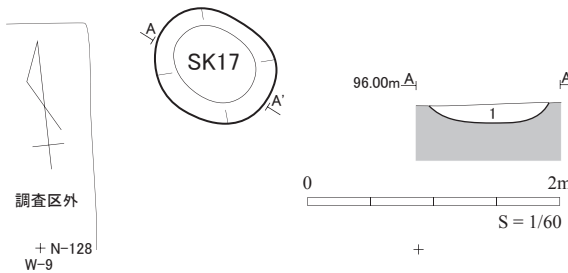
SK19 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



SK16 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む



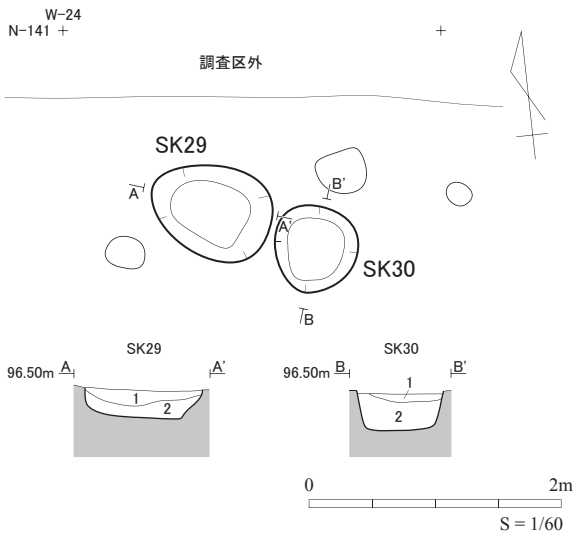
SK26 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	φ 20cm 程度の礫を含む



SK17 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む φ 20cm 程度の礫を含む

SK27 土坑 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

第20図 SK12・16・17・19・26・27・180 土坑, SK180 土坑出土遺物

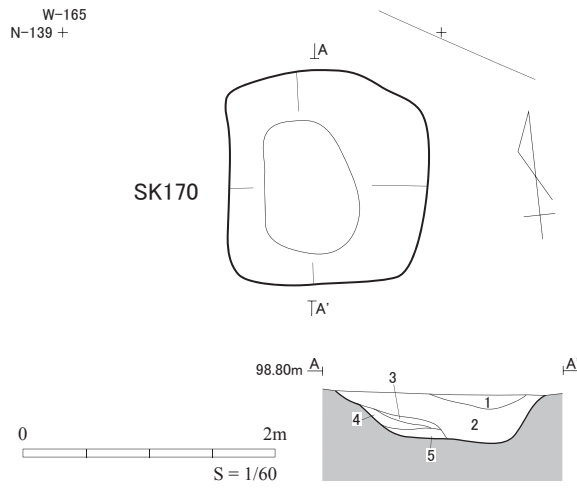


SK29 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

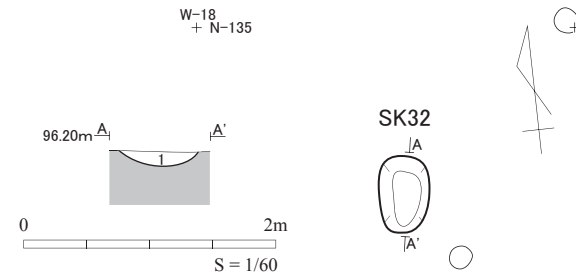
SK30 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む 焼土粒を極少量含む
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



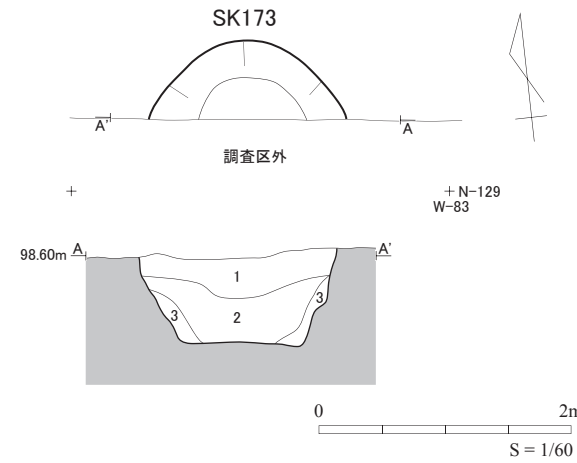
SK170 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	細砂を均質に含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	小礫を極少量含む
3	5Y4/1 灰色	粘土	均質土
4	5Y3/2 オリーブ黒	粘土	細砂を均質に含む
5	5Y3/1 オリーブ黒	粘土	細砂を均質に含む



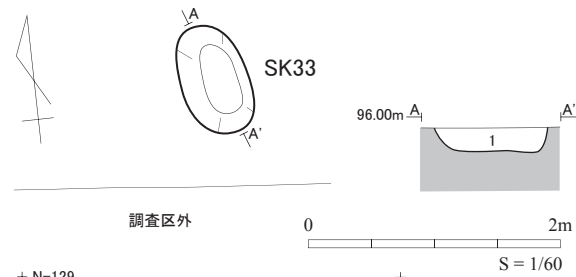
SK32 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



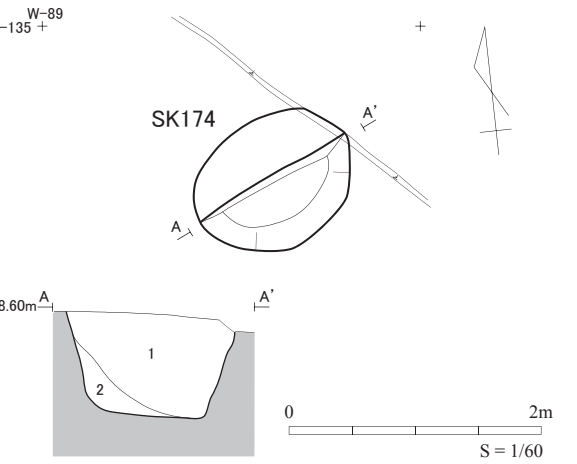
SK173 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (崩)



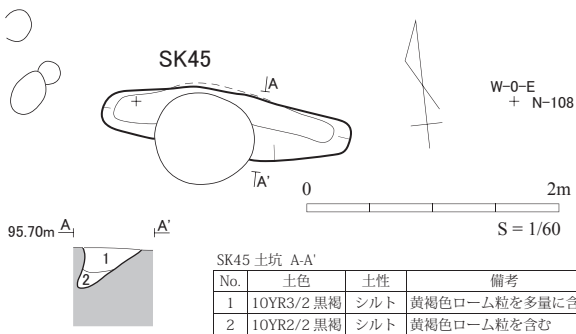
SK33 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



SK174 土坑 A-A'

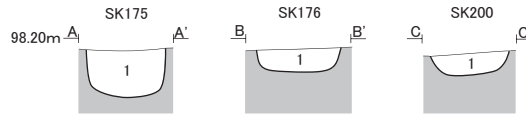
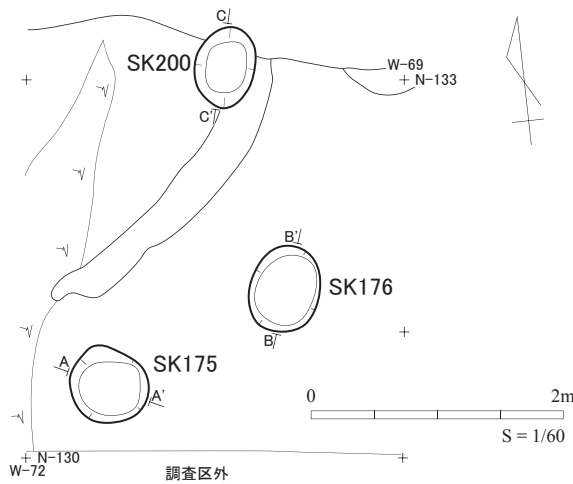
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)



SK45 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

第21図 SK29・30・32・33・45・170・173・174 土坑



SK175 土坑 A-A'

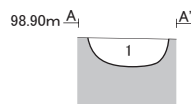
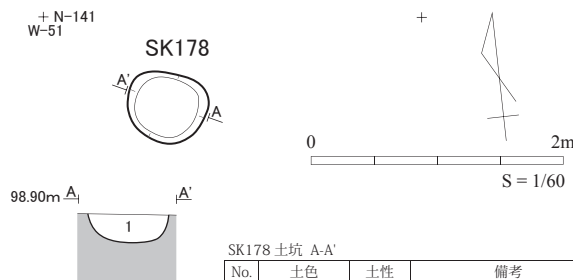
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	底面付近に黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK176 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

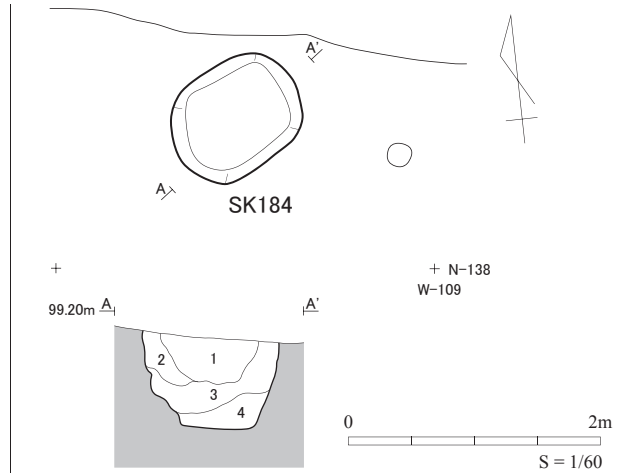
SK200 土坑 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



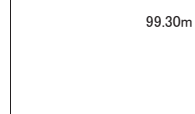
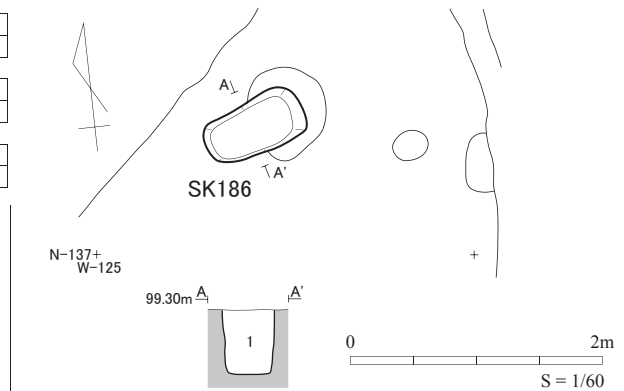
SK178 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む



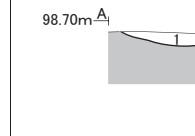
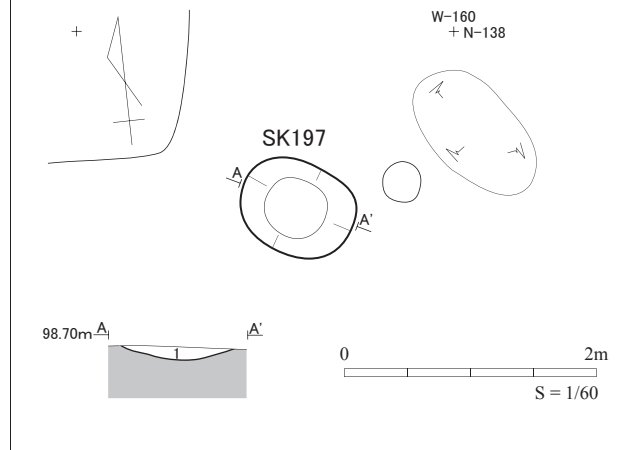
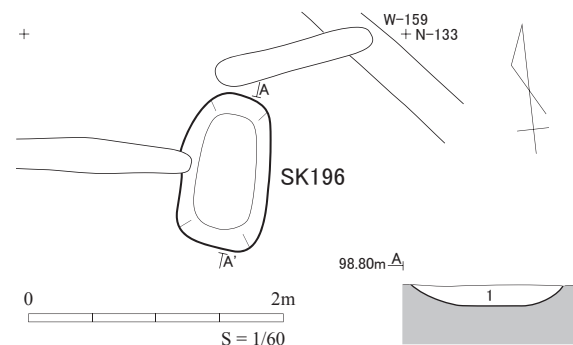
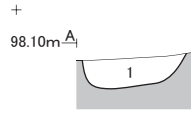
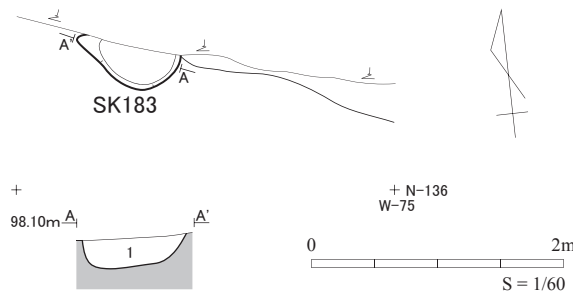
SK184 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む
4	10YR3/4 暗褐	シルト	砂・礫を少量含む



SK186 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 小礫を少量含む



SK183 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK196 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK197 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	細砂を均質に含む

第22図 SK175・176・178・183・184・186・196・197・200 土坑

【SK180 土坑】(第20図、写真図版54)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸91cm、短軸80cm以上の楕円形、断面形は深さ16cmの皿状を呈する。底面は凹凸が見られる。調査区外南側へ一部延びる

〔堆積土〕地山・焼土ブロック、炭化木片を含む黒褐色シルト・暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏(第20図1)が出土した。体部が内弯し口縁部が直線的に外傾する有段丸底坏であるが、外面の口縁部と体部の境がわずかに屈曲し明瞭な段を形成しない。外面の口縁部にヨコナデ→体部～底部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、内面にヘラミガキ調整を施し、黒色処理を施さない。

このほか、遺構確認面より土師器坏・甕が出土した。坏は内外面にヘラミガキ調整を施す。甕は外面にヘラミガキ調整を施すもの、球胴気味で頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。

(6) 溝跡

【SD161 溝跡】(第23図、写真図版8・54)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SD162→SD161

〔規模・形状〕東西方向に直線的に延び、東端で95°の角度で屈曲して北へ直線的に延びる。長さ30.1mを確認し、調査区外の西・北側へ延びている。上幅55~107cm、底幅24~82cm、深さ20~50cmで横断面形が逆台形・V字形を呈する。底面はほぼ平坦で、北へ向かって傾斜している。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒色・黒褐色・暗褐色シルト、黒色粘質シルト、褐灰色砂質シルトで、壁際の自然崩落土および自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より中世陶器甕(第23図1)が出土した。常滑産で外面に簾状押印が見られる。

このほか、堆積土・遺構確認面より土師器坏、ロクロ土師器坏、須恵器甕が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整を施すもの、ヘラミガキ調整→黒色処理を施すものがある。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。須恵器甕は内面に無文オサエ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。

【SD162 溝跡】(第23~24図、写真図版3・8・55)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SK183・SK201→SD162→SB359・SK200・SD161

〔規模・形状〕東西方向に直線的に延びる。長さ52.8mを確認した。西側は調査区外へ延びており、東

側は攪乱によって壊されている。上幅210~350cm、底幅62~230cm、深さ53~88cmで、横断面形が逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、東へ向かって傾斜している。

〔堆積土〕下部は砂礫を含む黒色シルト・粘質シルト、褐色砂で、機能時の水成堆積層と考えられる。中部の壁際は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘土で、壁際の自然崩落土と考えられる。上部は地山粒を微量に含む黒褐色シルト・粘質シルトで自然流入土と考えられ、最上部に灰白色火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏(第24図1)・高坏(第24図7)・甕(第24図8)、ロクロ土師器坏(第24図2~6)が出土した。

第24図1は半球形の無段丸底坏で、内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の口縁部にヨコナデ調整・体部にヘラケズリ調整を施す。第24図7は高坏の脚部で八の字状を呈する。内面にナデ→ヘラケズリ→下端部にヨコナデ調整、外面に縦方向のヘラケズリ→下端部にヨコナデ調整を施す。第24図8は無底式の甕の破片で、内面にナデ→ヘラケズリ調整、外面にヘラケズリ調整・下端部にヘラケズリ調整を施す。ロクロ土師器坏はいずれも内面に放射状ヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位～底部に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(第24図5)、体部下位にのみ再調整を施すもの(第24図3)、再調整を施さないもの(第24図4・6)、切り離しが不明で体部下位～底部に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(第24図2)がある。

このほか、堆積土・遺構確認面より土師器坏・甕、ロクロ土師器大型坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。土師器坏は内面にミガキ調整、外面にケズリ調整を施すもの、甕は球胴形で外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

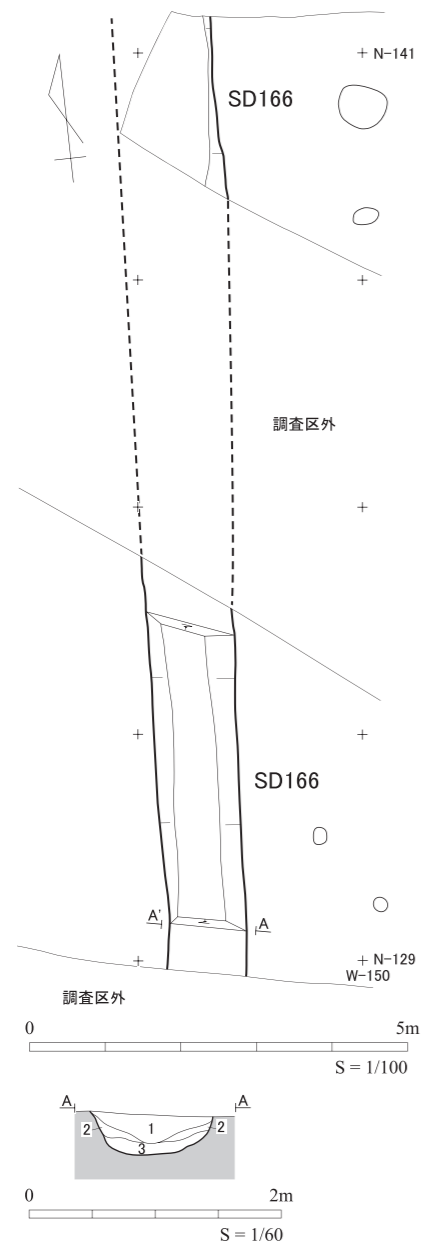
【SD166 溝跡】(第23図、写真図版6)

〔位置〕1区西部／平坦面

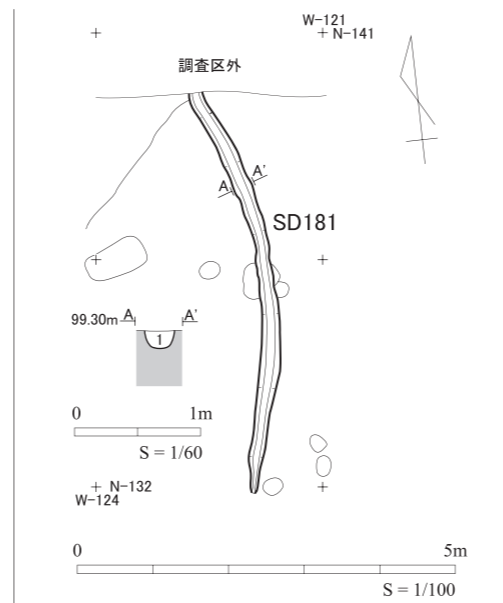
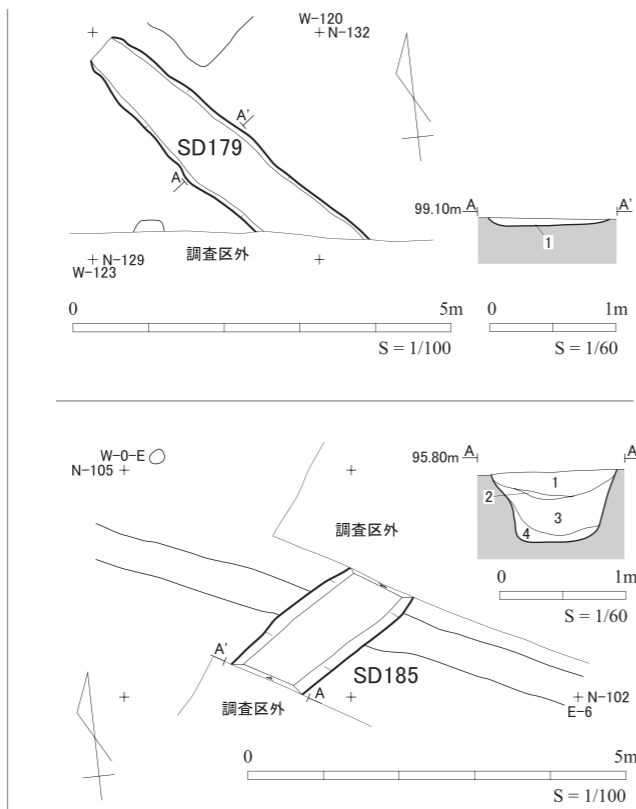
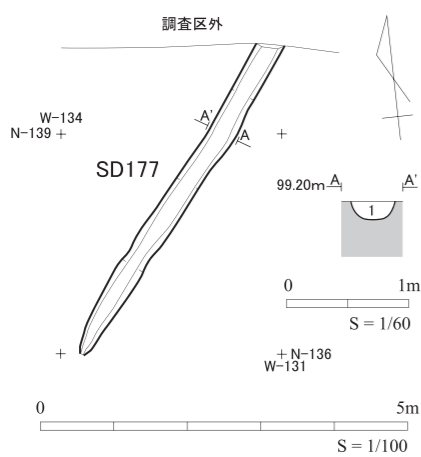
〔重複〕なし

〔規模・形状〕南北方向に直線的に延びる。長さ12.7mを確認し、調査区外の南北へ延びている。上幅100~130cm、底幅55~60cm、深さ20~44cmで、横断面形がU字形を呈する。底面はほぼ平坦で、北へ向かって傾斜している。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多く含む黒色粘土で、人為的埋土の可能性がある。中部は地山粒を含む黒褐

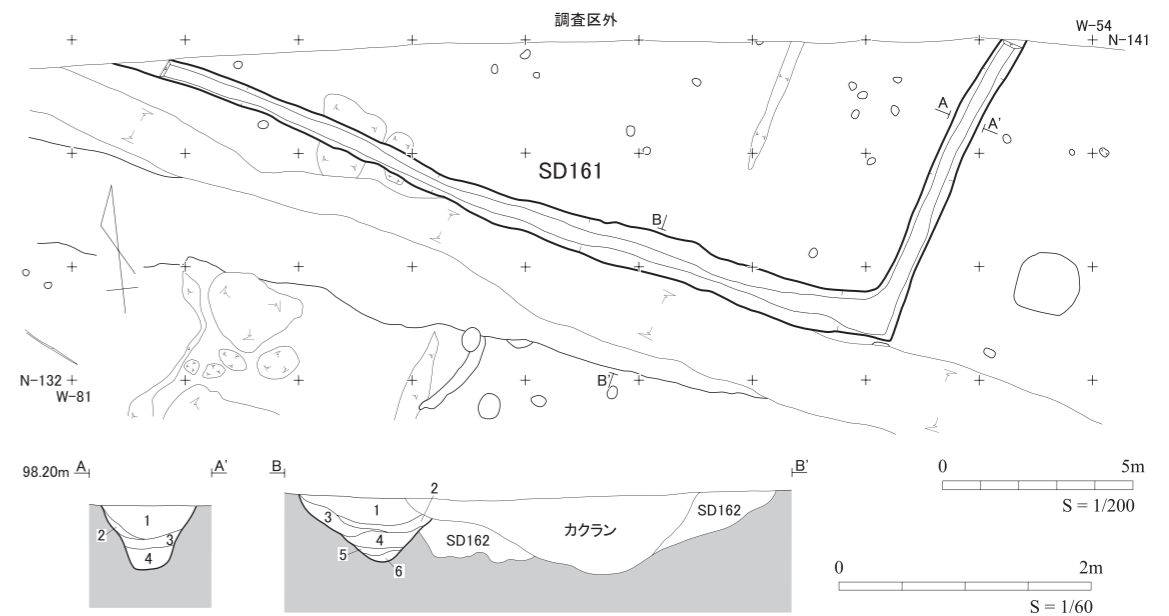


No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	砂層をラミナ状に含む
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
3	10YR2/1 黒	粘土	黄褐色ロームブロックを多量に含む

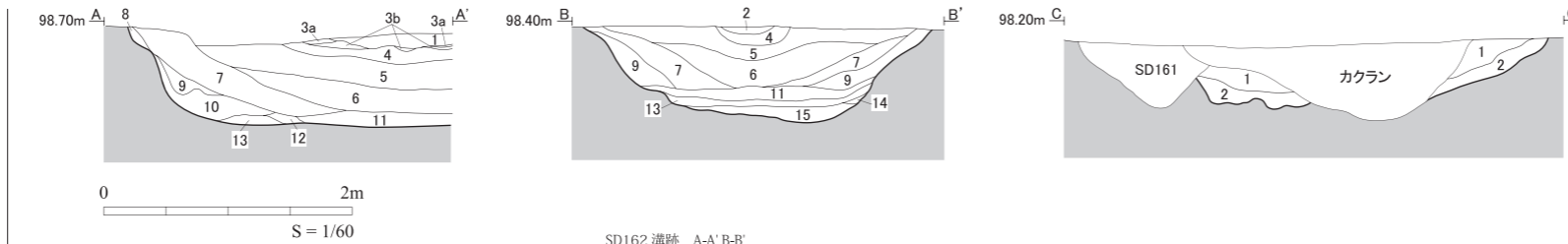
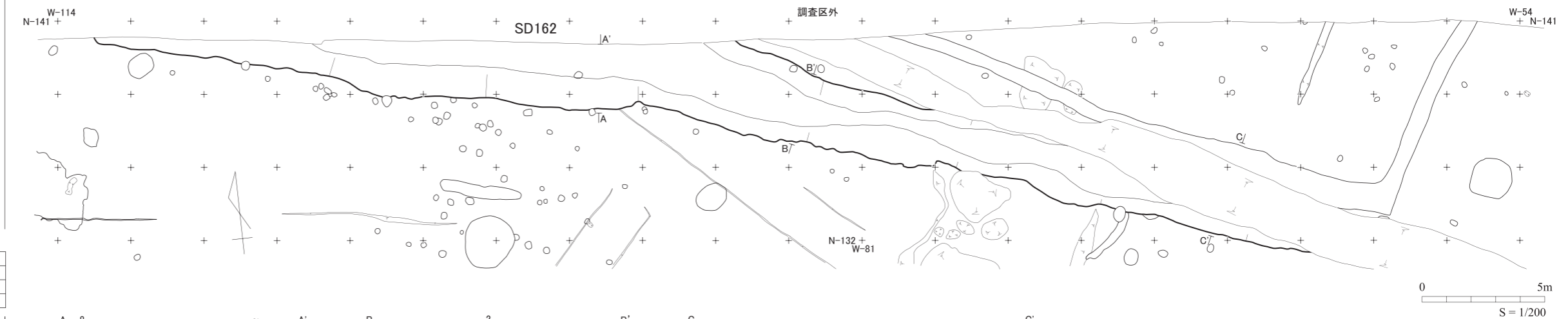


SD179 溝跡 A-A'				SD181 溝跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む	1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

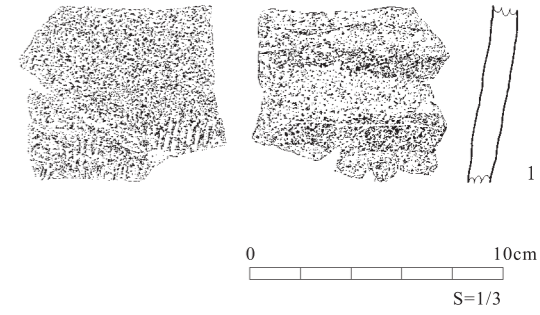
SD185 溝跡 A-A'				SD161 溝跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む	1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む	2	10YR3/3 暗褐	シルト	均質土
3	10YR2/1 黒	粘土	黄褐色ローム小ブロックを少量含む	3	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む
4	10YR2/2 黒褐	粘土	黄褐色ロームブロック・小ブロックを含む	4	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



SD161 溝跡 B-B'				SD162 溝跡 B-B'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む	1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む	2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (崩)	3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
4	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む	4	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)
5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)	5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)
6	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)	6	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)



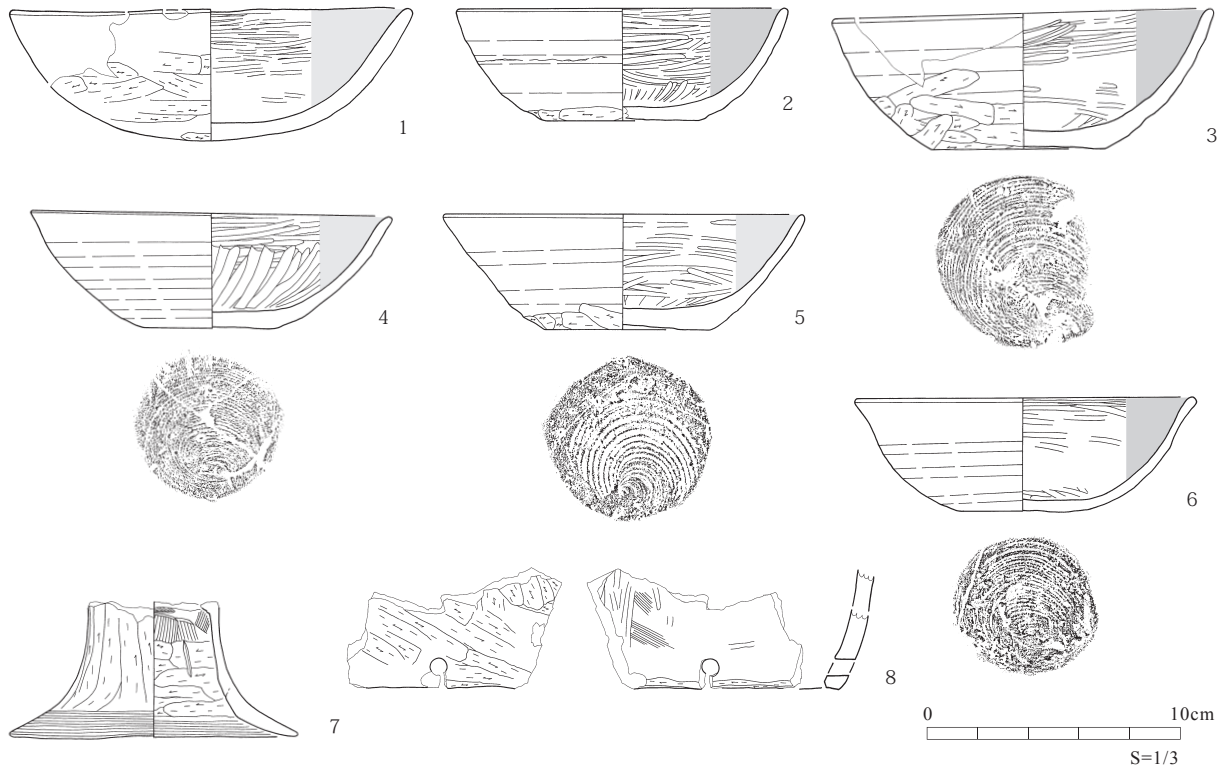
SD162 溝跡 A-A', B-B'				SD162 溝跡 C-C'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	シルト	灰白色火山灰を極少量含む	1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	灰白色火山灰ブロックを多量に含む	2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・砂を多量に含む
3a	2.5Y7/3 浅黄	シルト	灰白色火山灰層	1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
3b	10YR8/3 浅黄橙	シルト	灰白色火山灰層	2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・砂を多量に含む
4	10YR3/1 黒褐	シルト	灰白色火山灰を極少量含む	1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む	2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	均質土
6	10YR8/3 浅黄橙	粘質シルト	均質土	3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	均質土
7	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む	4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
8	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む	5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



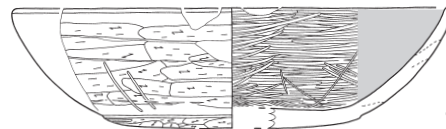
No.	遺構	層位	種類	器種	部位	登録	写真
1	SD161	堆積土	中世陶器	甕	胴部	251	54-8

特徴：常滑産、内面：ナデ 外面：(ナデ→) 糜状押印

第 23 図 SD161・162・166・177・179・181・185 溝跡, SD161 溝跡出土遺物



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SD162	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ，(体) ヘラケズリ	10.6	-	5.2	2/3	058	55-1
2	SD162	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：横方向ヘラミガキ→放射状ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ，(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(13.2)	(6.1)	4.4	1/3	057	55-2
3	SD162	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ロクロナデ，(体下) 手持ちヘラケズリ，(底) 回転糸切り→無調整 ※内面：一部剥離，使用による磨滅	15.2	7.0	5.4	2/3	055	55-3
4	SD162	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：横方向ヘラミガキ→放射状ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整	14.4	5.3	4.6	略完形	056	55-4
5	SD162	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ，(底) 回転糸切り→手持ちヘラケズリ，※内外面：やや磨滅	14.4	6.6	4.6	略完形	054	55-5
6	SD162	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：放射状?ヘラミガキ(図化不能)→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整 ※内面：磨滅，内外面：鉄分付着，外面：緋だすき	13.6	5.2	4.5	2/3	085	55-6
7	SD162	堆積土	土師器	高环(脚部)	内面：ナデ→ヘラケズリ→ヨコナデ，外面：ヘラケズリ→ヨコナデ	-	11.5	(5.2)	2/3	060	55-7
8	SD162	堆積土	土師器	甔	内面：(体) ナデ→ヘラミガキ，(孔) ヘラケズリ，外面：ヘラケズリ	-	-	(4.8)	一部	059	55-8



0 10cm
S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
9	SD185	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ヘラケズリ→ヘラミガキ，(底) ヘラケズリ	(17.4)	-	4.8	1/4	079	55-9

第24図 SD162・SD185 溝跡出土遺物

色粘質シルト、上部は砂をラミナ状に含む黒褐色粘質シルトで、自然流入土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SD177 溝跡】(第23図)

〔位置〕1区中央部/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南西-北東方向に直線的に延びる。長さ5.0mを確認した。北側は調査区外へ延びており、南側は削平により消失している。上幅28-36cm、底幅14-22cm、深さ9-15cmで、横断面形が皿状を呈

する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山粒を含む暗褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

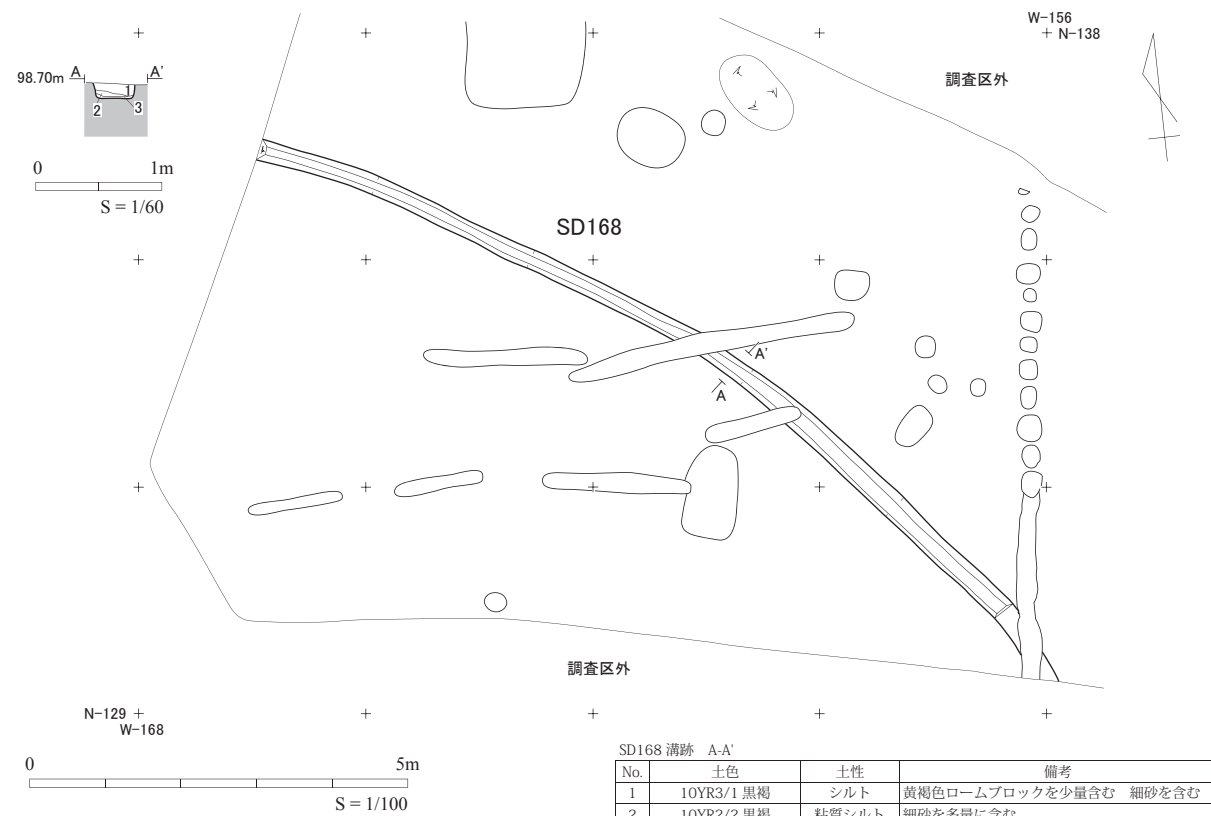
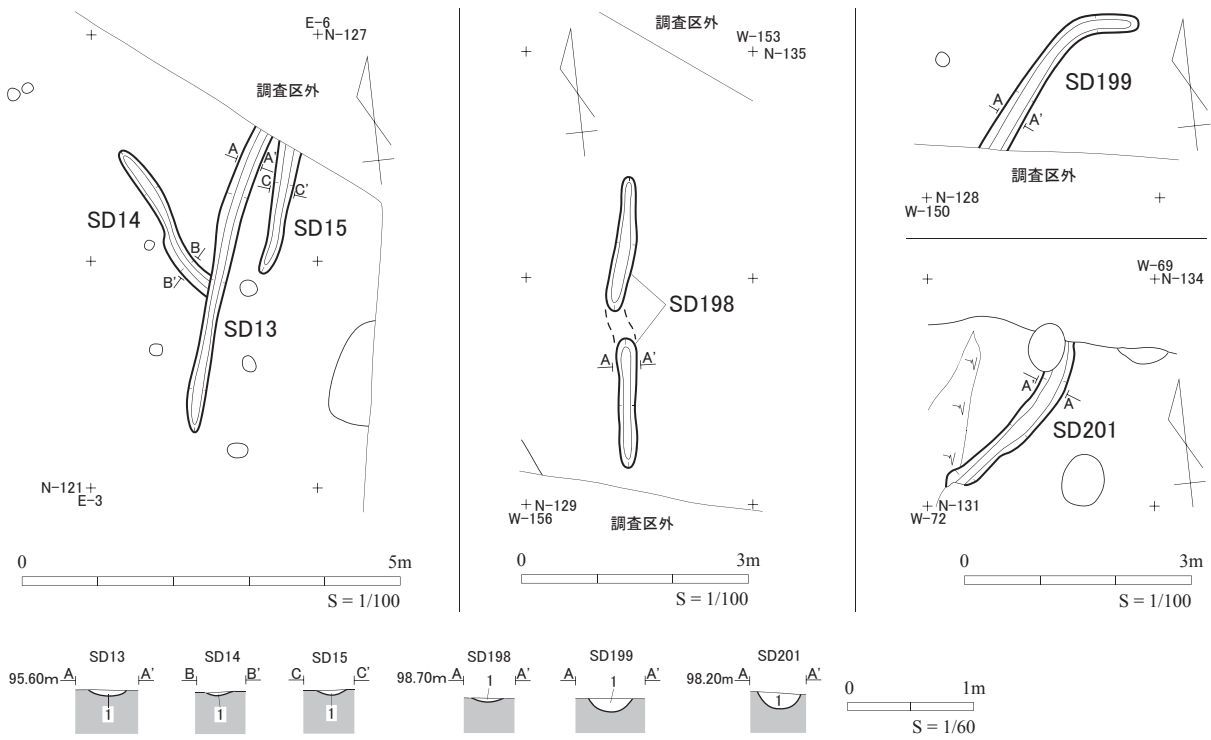
〔出土遺物〕堆積土より土師器坏が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施すもの、外面に沈線を施すものが見られる。

【SD179 溝跡】(第23図)

〔位置〕1区中央部/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南東-北西方向に直線的に延びる。長



SD13 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

SD14 溝跡 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む

SD15 溝跡 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

SD168 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む 細砂を含む
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	細砂を多量に含む
3	10YR4/1 褐灰	粘土	黄褐色ローム小ブロックを含む 細砂を多量に含む

SD198 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘土	黄褐色ロームブロックを極少量含む

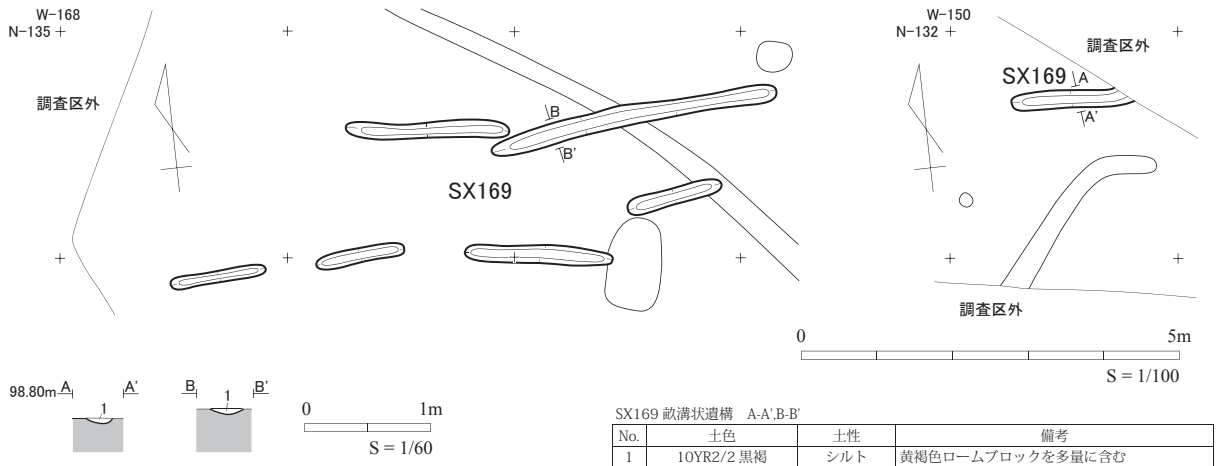
SD199 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘土	黄褐色ローム小ブロックを含む

SD201 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

第25図 SD13・14・15・168・198・199・201 溝跡



第26図 SX169 畝溝状遺構

さ4.0mを確認した。南東側は調査区外へ延びており、北西側は削平により消失している。上幅56~100cm、底幅48~85cm、深さ1~11cmで、横断面形は皿状を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山粒を多く含む暗褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SD181 溝跡】(第23図)

〔位置〕1区中央部／平坦面

〔重複〕SI163 → SD181 - SB358

〔規模・形状〕緩やかな弧を描いて南北方向に延びる。長さ5.4mを確認した。北側は調査区外へ延び、南側は削平により消失している。上幅18~26cm、底幅11~15cm、深さ6~10cmで、横断面形がU字形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器甕が出土した。外面にハケメ調整を施すものがある。

【SD185 溝跡】(第23~24図、写真図版55)

〔位置〕1区東部／平坦面

〔重複〕SA28 → SD185

〔規模・形状〕南西-北東方向に直線的に延びる。長さ1.9mを確認し、調査区外の南北に延びている。上幅92~100cm、底幅64~68cmで、横断面形が逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒色・黒褐色粘土、黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏(第24図9)・甕が出土した。坏は平底の盤状坏で、外面の体部下端に段を持つ。体部から口縁部にかけて内弯し、内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の体部から口縁部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、底部にヘラケズリ調整を施す。甕は外面にハケメ調整を施す。

2.2区

遺跡範囲の中央部に位置し、東西8m、南北70mの調査区である。調査区内はほぼ平坦で、北端部では北向緩斜面となる。遺構確認面は現地表面から深さ15~25cmのIV~V層上面である。遺構は竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡7棟、柱列跡2条、溝跡5条、土坑8基を確認した(第27図、写真図版9)。

(1) 竪穴住居跡

【SI2 竪穴住居跡】(第28図、写真図版9)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長辺6.00m以上、短辺4.40m以上／方

形／調査区外西側へ延びる

〔方向〕東辺：N-18°-E

〔壁面〕地山を壁として床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大14cmである。

〔床面・堆積土〕一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山・焼土粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕住居平面形の対角線上で3か所確認した。南西側の1か所は調査区外に位置すると推定される。柱穴掘方の平面形は長軸35~43cm、短軸33~39cmの略円形・楕円形を呈する。深さは33~41cmで、P1・P2で柱材の抜き取り痕跡、P1・P3で平面形が直径13~21cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド・貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕P1 柱穴堆積土・柱材抜き取り痕跡、P3 柱穴柱痕跡、住居掘方埋土より土師器坏・甕が出土した。坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

(2) 掘立柱建物跡

【SB367 掘立柱建物跡】(第29図)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SB367 → SD49 - SB370

〔規模・形状〕東西2間(総長3.64m)・南北3間(総長5.43m)／南北棟側柱建物／調査区外東側へ延びる

〔方向〕西側柱列：N-15°-E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は隅柱で長軸50~74cm、短軸42~58cmの隅丸方形を呈し、深さ30~38cm、内柱で長軸25~48cm、短軸23~30cmの略円形・楕円形を呈し、深さ9~22cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒色・黒褐色シルトである。隅柱で柱材の抜き取り痕跡、切り取り痕跡を各1か所、3か所で平面形が直径12~24cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕南側柱列：西から(182)-(182)cm

西側柱列：北から(349:2間分)-194cm

〔出土遺物〕P3 柱穴堆積土より土師器甕が出土した。胴部の外面あるいは内外面にハケメ調整を施す。

【SB369 掘立柱建物跡】(第29図、写真図版9)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SB369 → SK39・SK190

〔規模・形状〕東西2間(総長3.92m)・南北3間(総長4.67m)／南北棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-10°-E

〔柱穴〕8か所確認した。掘方の平面形は長軸24~51cm、短軸22~44cmの不整楕円形・略円形を呈し、深さ20~33cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。5か所で平面形が直径14~18cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕南側柱列：西から(195)-(197)cm

東側柱列：北から160-151-(156)cm

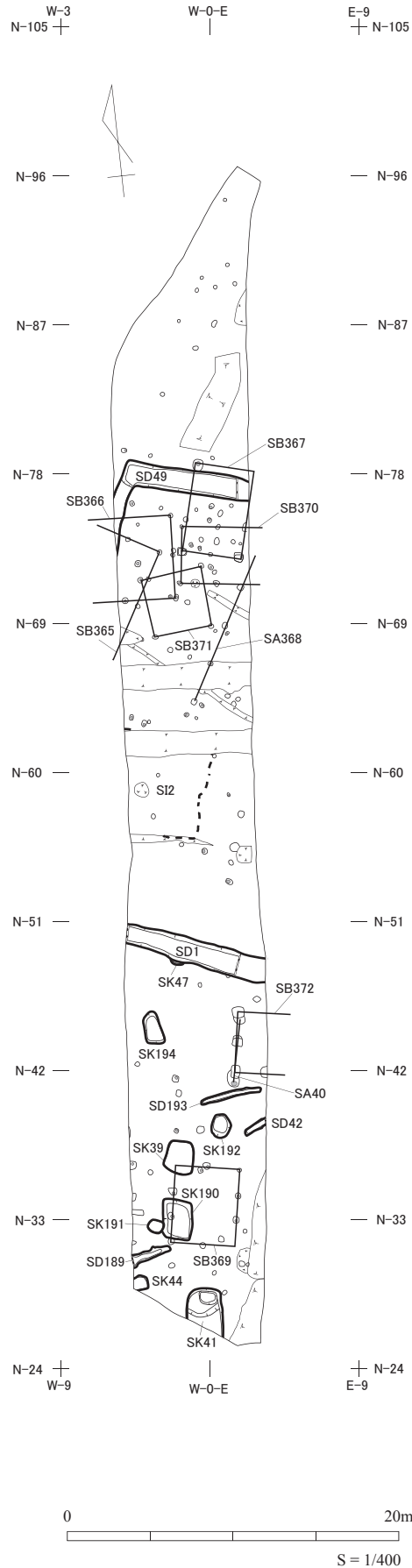
〔出土遺物〕P3 柱穴掘方埋土より土師器甕が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SB370 掘立柱建物跡】(第30図)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SB370 - SB367・SB371・SA368

〔規模・形状〕東西1間(総長2.16m)以上、南北1間(総



第27図 2区遺構配置図

長 3.40m) / 側柱建物 / 調査区外東側へ一部延びる可能性がある。

[方向] 西側柱列: N-7° -E

[柱穴] 4か所確認した。掘方の平面形は長軸 25~39cm、短軸 19~32cm の不整楕円形を呈し、深さ 10~30cm である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色・暗褐色シルトである。2か所で平面形が直

径 10cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

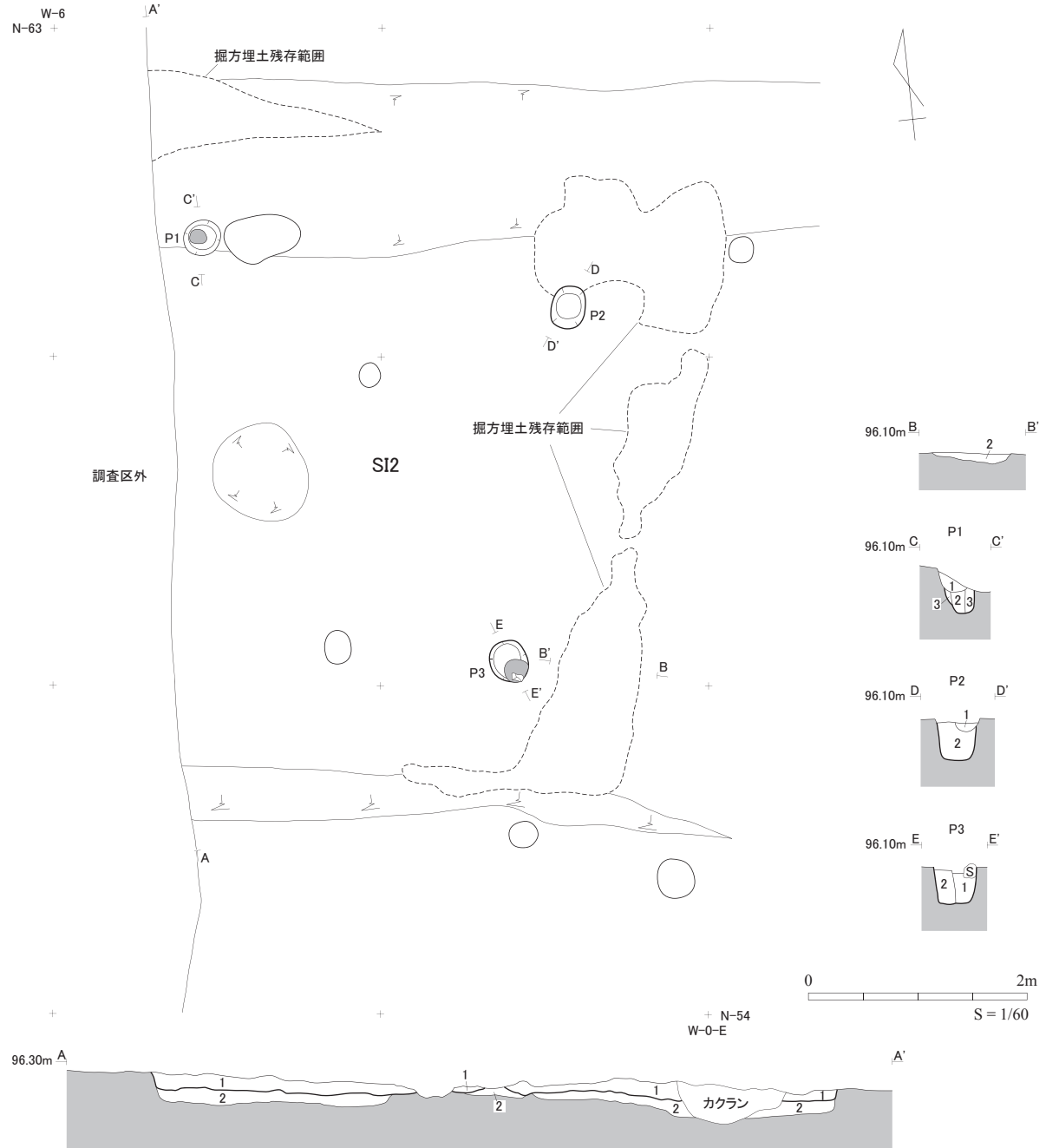
[出土遺物] なし

【SB371 掘立柱建物跡】(第30図、写真図版9)

[位置] 2区 / 平坦面

[重複] SB371 - SB365・SB366・SB370

[規模・形状] 東西1間(総長 3.68m)、南北1間(総長 3.60m) / 側柱建物



SI2 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム・焼土粒を含む (住堆)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)

SI2 竪穴住居跡 P2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI2 竪穴住居跡 P1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SI2 竪穴住居跡 P3 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第28図 SI2 竪穴住居跡

〔方向〕西側柱列：N-6°-W

〔柱穴〕4か所確認した。掘方の平面形は長軸29~34cm、短軸26~30cmの不整楕円形を呈し、深さ12~30cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色・暗褐色シルトである。2か所で平面形が直径10~14cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔出土遺物〕P4柱穴堆積土より土師器甕が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施す。

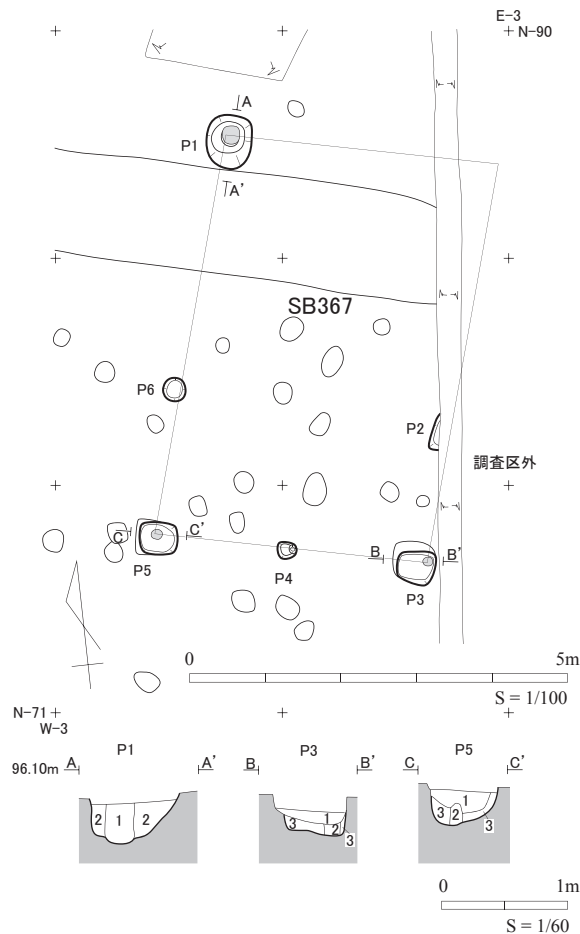
【SB372 掘立柱建物跡】(第30図、写真図版9・10)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SA40 → SB372

〔規模・形状〕東西1間(総長1.84m)以上、南北2間(総長3.64m) / 不明建物 / 調査区外東側へ延びる

〔方向〕西側柱列：N-9° E



SB367 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱掘)

SB367 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB367 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	焼土粒・炭化物粒を少量含む (柱切)
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

〔柱穴〕4か所確認した。掘方の平面形は長軸58~78cm、短軸48~51cmの隅丸方形を呈し、深さ18~29cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。3か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から(188)-(176)cm

〔出土遺物〕なし

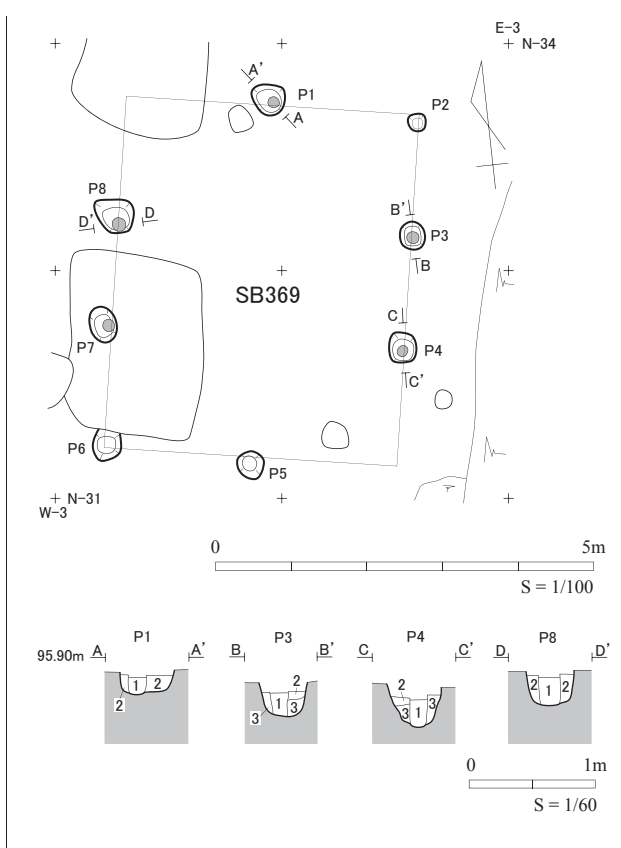
(3) 柱列跡

【SA40 柱列跡】(第30図、写真図版10)

〔位置〕2区/平坦面

〔重複〕SA40 → SB372

〔規模・形状〕南北2間(総長4.06m) / 調査区外東側へ延びる掘立柱建物跡の可能性はある



SB369 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱掘)

SB369 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

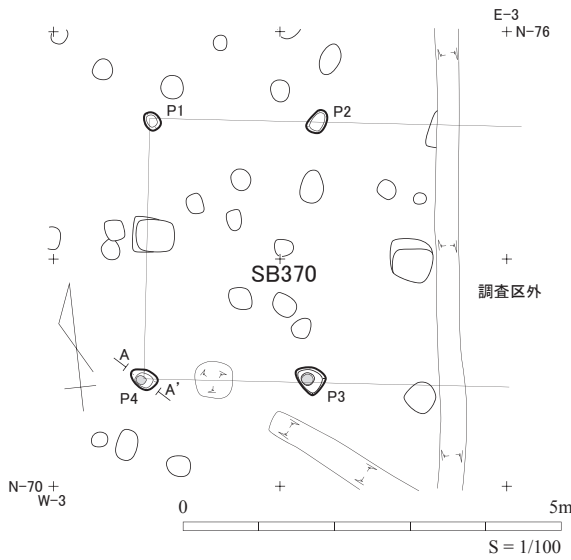
SB369 掘立柱建物跡 P4 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを極少量含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB369 掘立柱建物跡 P8 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多く含む (柱掘)

第29図 SB367・369 掘立柱建物跡



SB370 掘立柱建物跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱掘)

SB371 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	炭化物粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB371 掘立柱建物跡 P4 B-B'

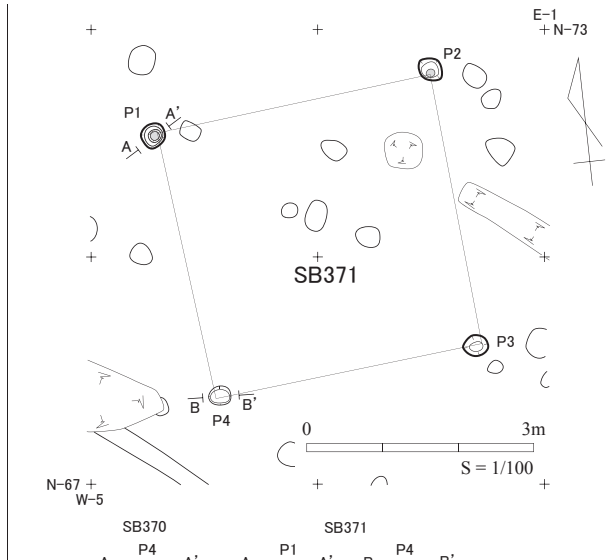
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	炭化物粒・焼土粒を極少量含む (柱拔)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

SB372 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB372 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB372 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA40 柱列跡 P1 A-A'

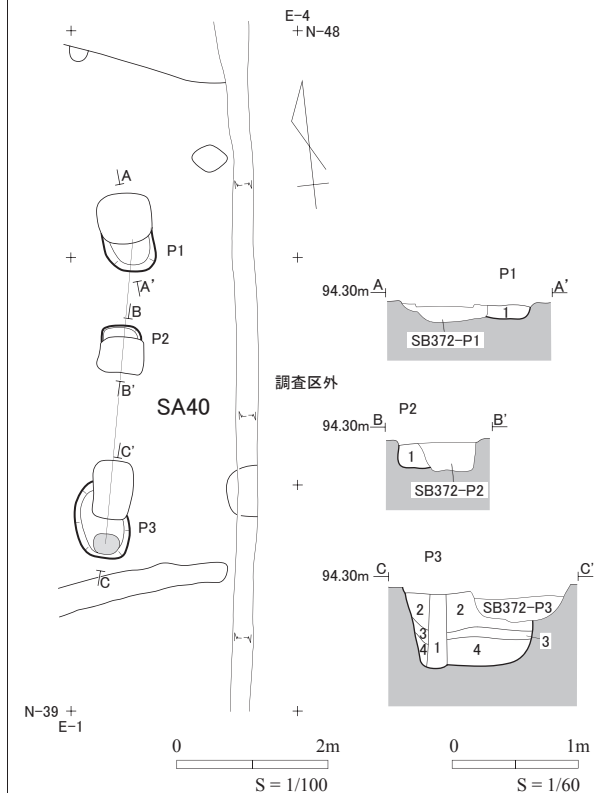
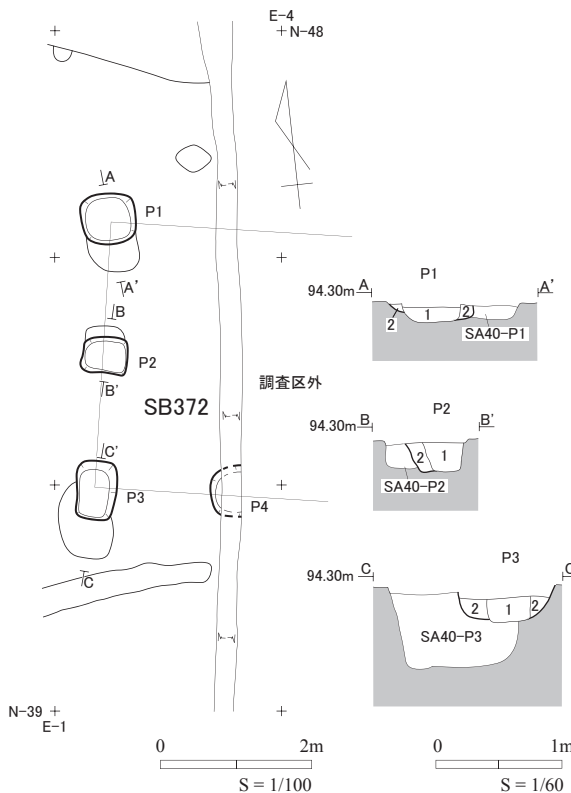
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを均質に含む (柱掘)

SA40 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA40 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



第30図 SB370・371・372 掘立柱建物跡, SA40 柱列跡

〔方向〕 N-10° -E

〔柱穴〕 掘方の平面形は長軸 30~50cm、短軸 35~44cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 13~64cm である。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色・灰黄褐色シルトである。1 か所で平面形が直径 16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北から (160) - (246) cm

〔出土遺物〕 なし

【SA368 柱列跡】 (第 32 図)

〔位置〕 2 区 / 平坦面

〔重複〕 SA368 - SB370

〔規模・形状〕 南北 3 間 (総長 7.45m) 以上 / 調査区外東側へ延びる可能性がある

〔方向〕 N-28° -E

〔柱穴〕 4 か所確認した。掘方の平面形は長軸 31~39cm、短軸 29~37cm の楕円形・略円形を呈し、深さ 29~41cm である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。1 か所で平面形が直径 14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北から (252) - (243) - (250) cm

〔出土遺物〕 なし

(4) 土坑

【SK39 土坑】 (第 32 図)

〔位置〕 2 区 / 平坦面

〔重複〕 SB369 → SK39

〔規模・形状〕 平面形が長軸 200cm、短軸 163cm の隅丸方形、断面形は深さ 30cm の逆台形を呈する。底面は凹凸が見られる。

〔堆積土〕 地山ブロックを含む黒色・黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土より土師器甕が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SK41 土坑】 (第 32~34 図、写真図版 10・55・56)

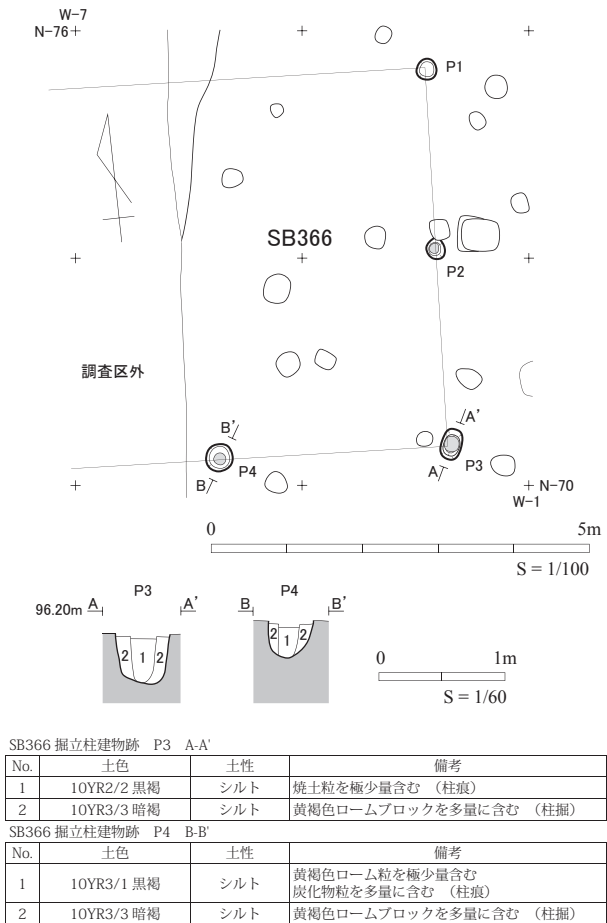
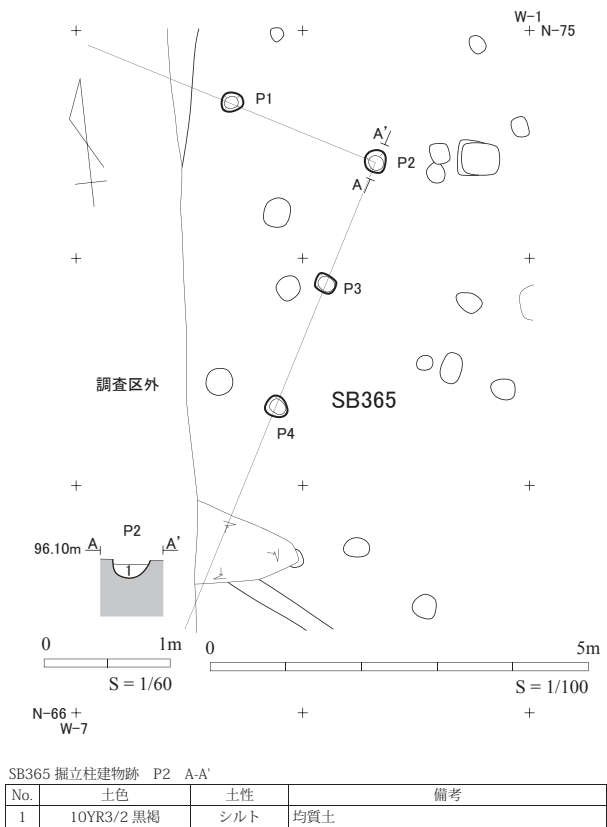
〔位置〕 2 区 / 平坦面

〔重複〕 なし

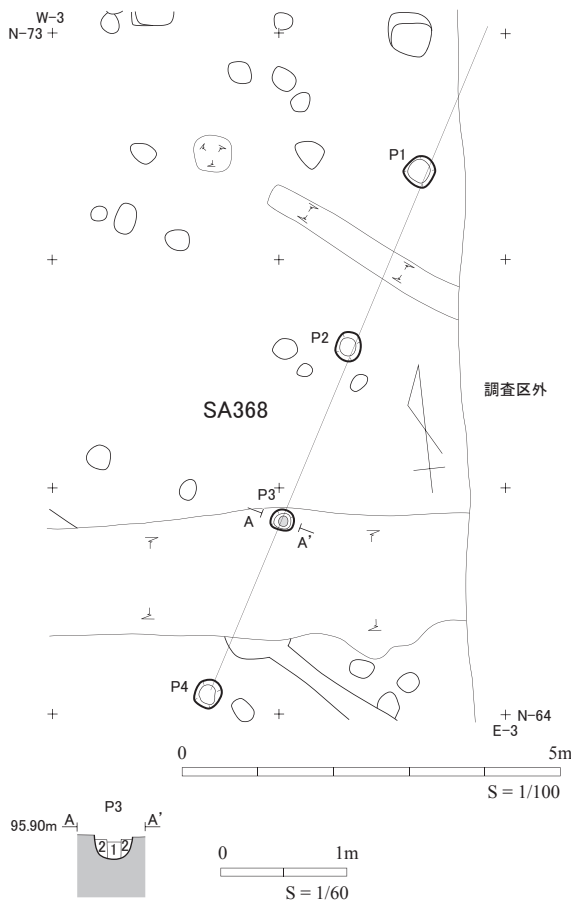
〔規模・形状〕 平面形が長軸 245cm 以上、短軸 83cm の隅丸方形、断面形は深さ 62cm の逆台形を呈する。底面は中央部に段を持ち北部で 10cm 低く、北東隅でさらに 25cm 低く隅丸方形に掘り込まれている。

〔堆積土〕 下部は地山ブロックを含む黒色・黒褐色粘質シルト、上部は焼土ブロック・炭化物粒を含み、遺物を多く含む黒褐色シルトである。

〔出土遺物〕 堆積土 1 層より須恵器坏 (第 33 図 5-8)・甕 (第 33 図 10、第 34 図 1-4)、ロクロ土師

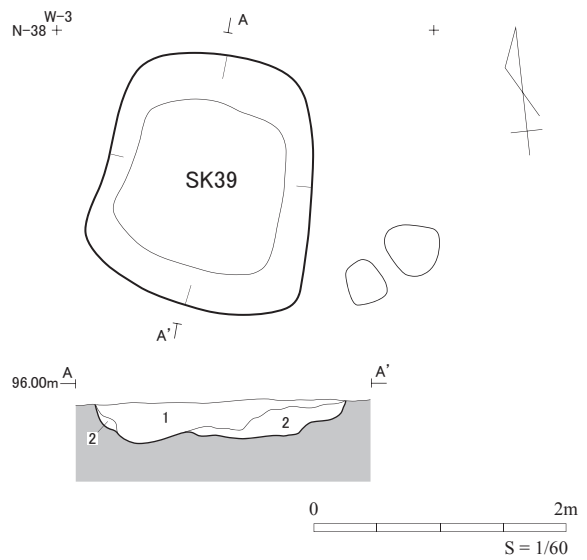


第 31 図 SB365・366 掘立柱建物跡



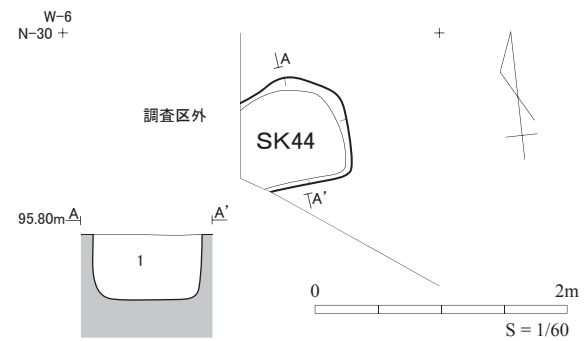
SA368 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



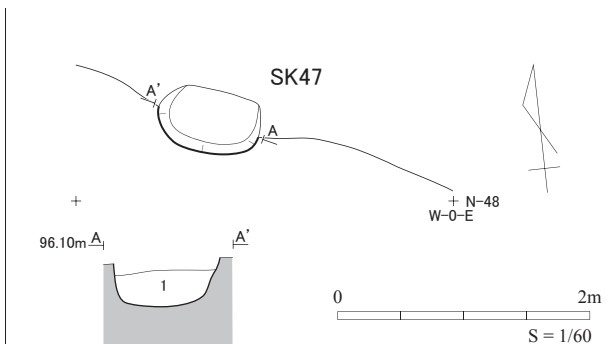
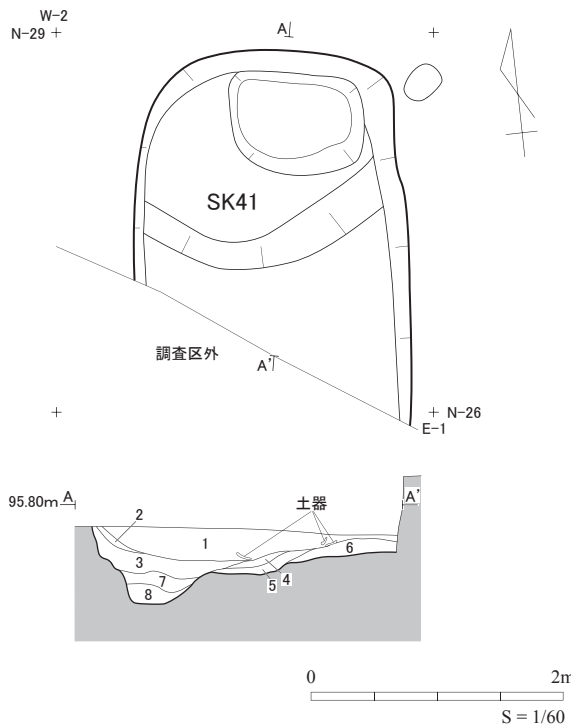
SK39 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (人為?)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



SK44 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)



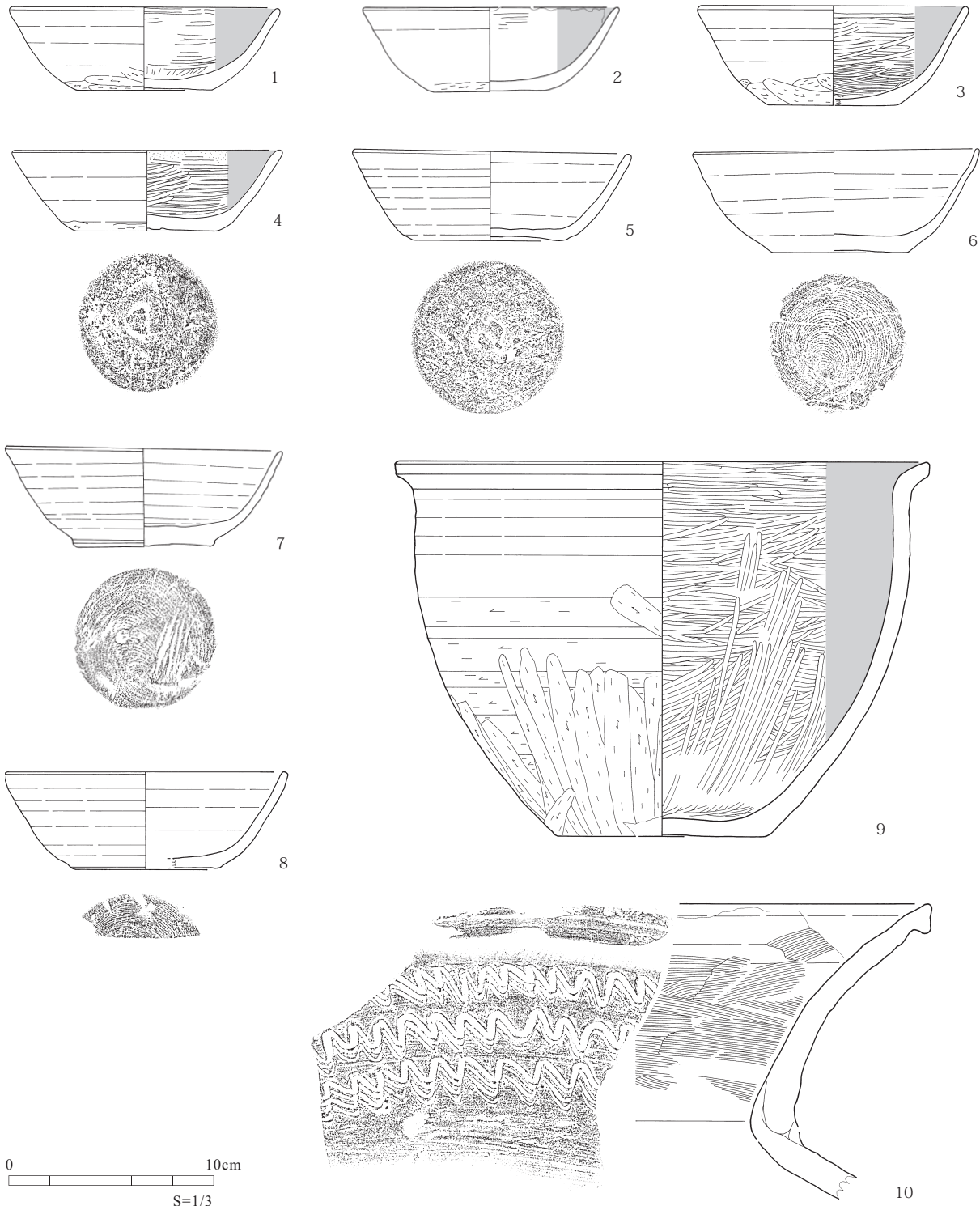
SK47 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多く含む 礫を少量含む (人為)

SK41 土坑 A-A'

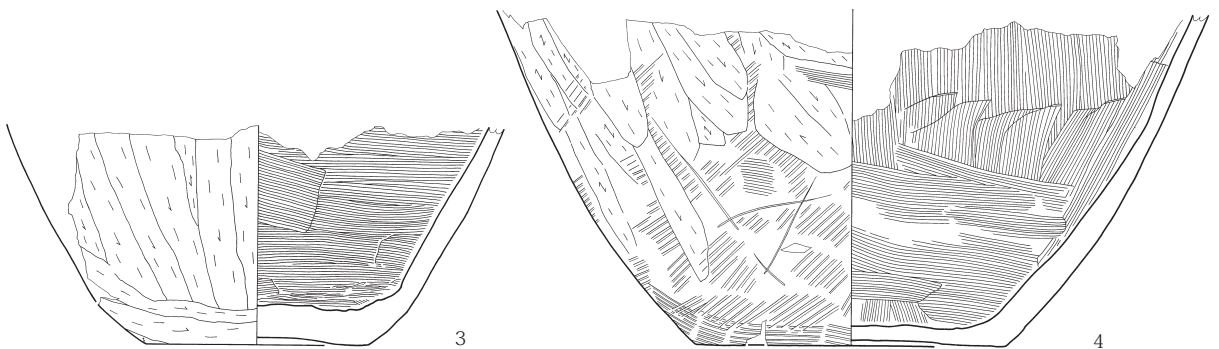
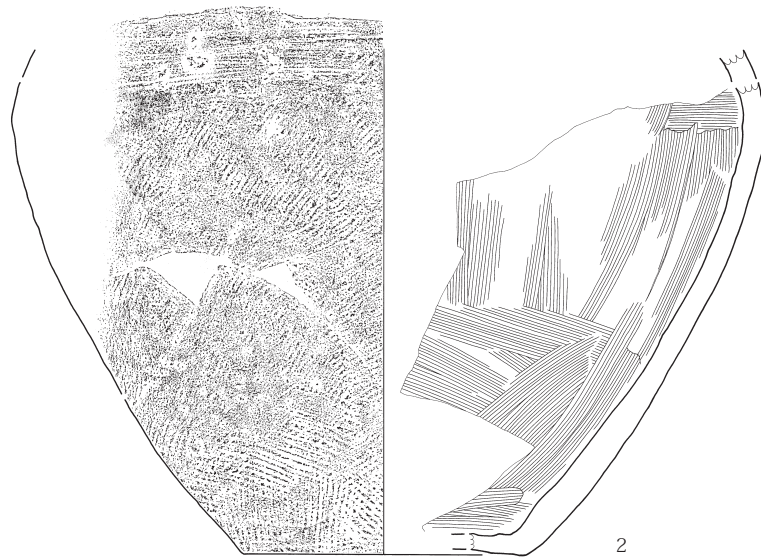
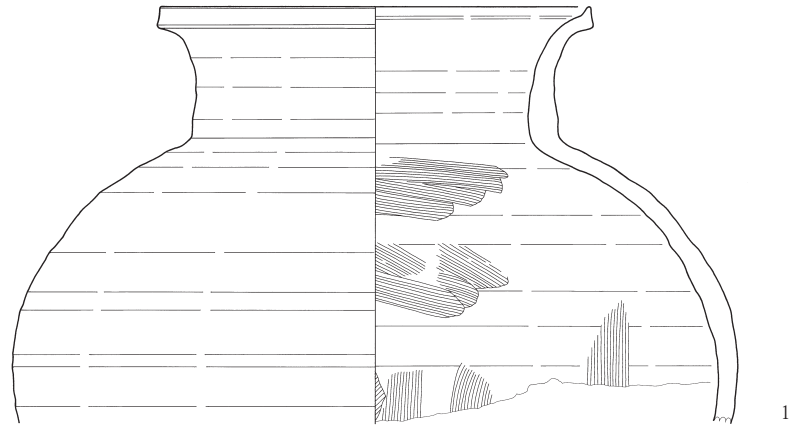
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む
2	10YR3/1 黒褐	シルト	焼土ブロックを含む
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多く含む
5	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む
6	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・小ブロックを多く含む
7	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を極少量含む
8	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む

第32図 SA368 柱列跡, SK39・41・44・47 土坑



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK41	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ，（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ	13.3	6.7	4.0	略完形	072	55-10
2	SK41	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ，（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ，※劣化著しい	(12.6)	5.5	4.2	3/4	074	55-11
3	SK41	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（体下）手持ちヘラケズリ，（底）切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(13.3)	(6.4)	(4.9)	1/2	075	55-12
4	SK41	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（底付近）ケズリ，（底）回転ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	(13.4)	(6.8)	4.0	2/3	073	55-13
5	SK41	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ，（底）回転ヘラ切り→無調整	13.7	7.5	4.4	略完形	086	55-14
6	SK41	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ，（底）回転糸切り→無調整	14.0	6.7	5.0	3/5	070	55-15
7	SK41	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ，（底）回転糸切り→無調整	13.6	6.6	4.8	2/3	064	56-2
8	SK41	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ，（底）回転糸切り→無調整	(13.9)	(7.4)	4.8	1/3	065	56-1
9	SK41	堆積土	ロクロ土師器	鉢	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（体下）回転ヘラケズリ→（体下）縦方向ヘラケズリ，（底）回転ヘラケズリ	(26.2)	10.2	18.4	1/2	071	56-8
10	SK41	堆積土	須恵器	甕	内面：ロクロナデ→ナデ，外面：ロクロナデ→波状文	-	-	(14.4)	一部	068	56-7

第33図 SK41 土坑出土遺物 (1)



0 10cm
S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK41	堆積土	須恵器	甕	内面：ロクロナデ→ナデ，外面：ロクロナデ，※内外面：火前部に焼けはじけ	(17.1)	-	(16.5)	1/2	081	56-4
2	SK41	堆積土	須恵器	甕	内面：ヘラナデ→(底付近)ナデ，外面：平行タタキ目→ケズリ，(底)切り離し不明→ナデ，※外面：自然釉による黒色光沢面，(底)繊維状の付着物痕跡	-	11.2	(20.1)	1/3	069	56-3
3	SK41	堆積土	須恵器	甕	内面：ヘラナデ→(底)ユビナデ，外面：ヘラケズリ，(底)切り離し不明→ナデ	-	8.9	(8.7)	1/2	066	56-5
4	SK41	堆積土	須恵器	甕	内面：ヘラナデ，(底)ナデ，外面：平行タタキ目→ヘラケズリ→ナデ？，線刻有	-	12.4	(8.3)	胴下半	067	56-6

第34図 SK41 土坑出土遺物 (2)

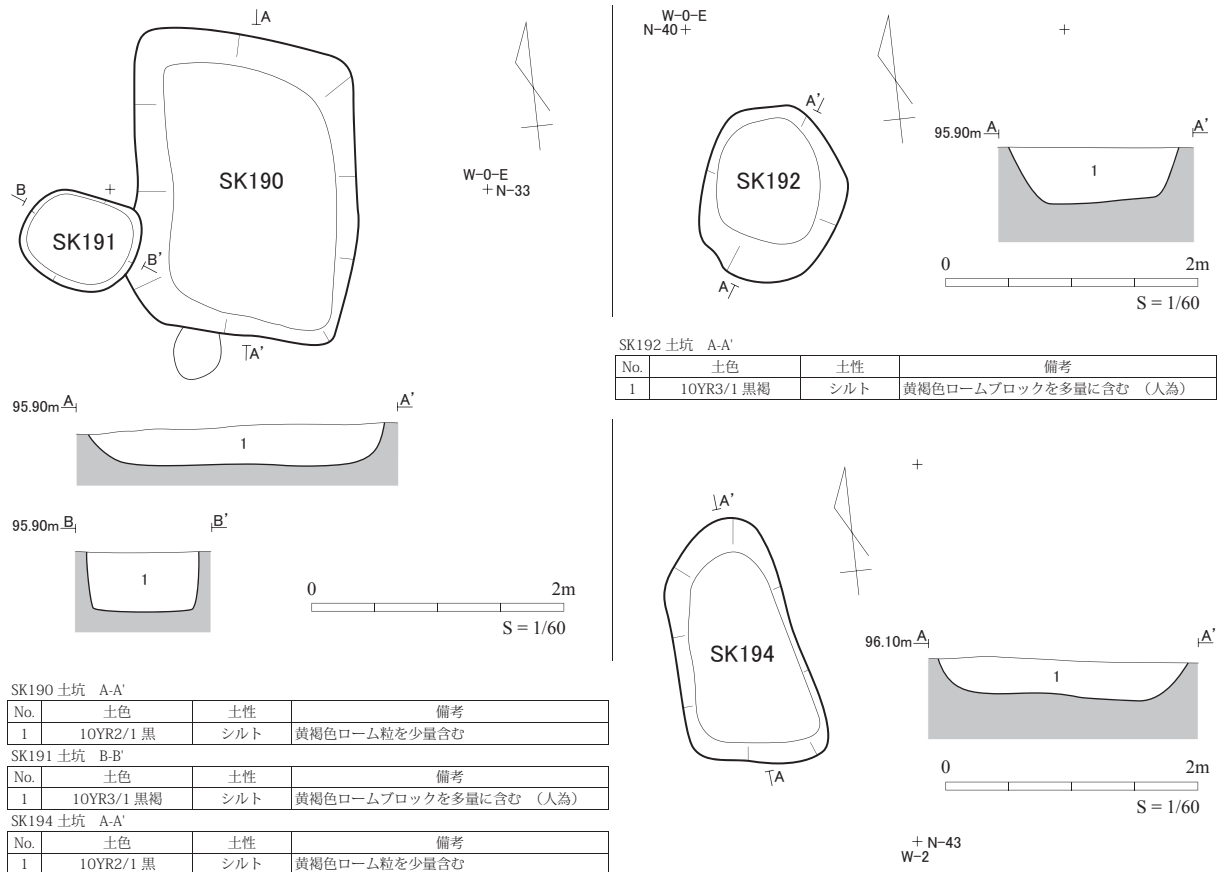
器坏（第33図1-4）・鉢（第33図9）が出土した。

須恵器坏はいずれも体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部はそのまま外傾する。回転糸切り（第33図6-8）または回転ヘラ切り（第33図5）による底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。甕は平底で体部が内弯気味に立ち上がるもの（第34図2-4）、頸部から口縁部にかけて外反するもの（第33図10）、頸部が直立し口縁部が外反するもの（第34図1）があり、口縁端部は断面三角形の突帯となる。第34図3は胴部下位の外面にヘラケズリ調整、内面にヘラナデ調整、外底面にナデ調整を施す。第34図4は胴部下半の外面に平行タタキ目→ヘラケズリ→不鮮明ながらナデ調整、内面にヘラナデ調整を施し、外面に線刻がある。第34図2は胴部の外面にロクロナデ→平行タタキ目→ケズリ調整、内面にヘラナデ調整、外底面にナデ調整を施し、外面に自然釉が見られる。また、外底面に敷草とみられる圧痕がある。第33図10は頸部～口縁部の外面にロクロナデ調整→波状文、内面にロクロナデ→ナデ調整を施す。第34図1は胴

部中位～口縁部の外面にロクロナデ調整、内面にロクロナデ→ナデ調整を施す。

ロクロ土師器坏はいずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部はそのまま外傾する。底部の切り離し方法は回転ヘラ切りによるもの（第33図4）と、不明のもの（第33図1-3）とがあり、いずれも切り離し後に外面の体部下位～底部に手持ちヘラケズリ調整を施す。鉢（第33図9）は体部が内弯しながら立ち上がる逆八の字状を呈し、口縁部が短く外反する。外面の体部下位に回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ→黒色処理、外底面に回転ヘラケズリ調整を施す。

このほか、堆積土より土師器坏・甕、須恵器高台付坏・小型甕・甕が出土した。土師器坏は丸底で内面にナデ調整、外底面に木葉痕→ケズリ調整を施すもの、有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施すものがある。甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。須恵器甕は内面に無文・同心円文オサエ目、外面に平行タタキ目が見られる。



第35図 SK190・191・192・194 土坑

(5) 溝跡

【SD1 溝跡】(第36図)

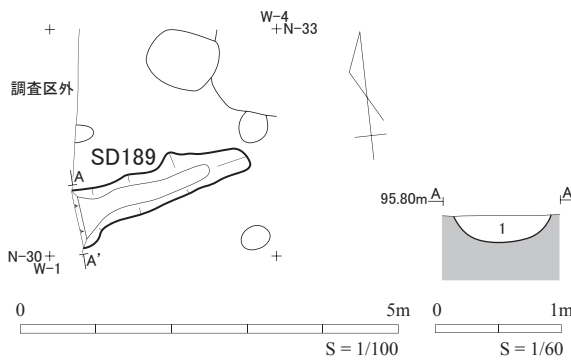
〔位置〕2区/平面図

〔重複〕SK47 → SD1

〔規模・形状〕東西方向に直線的に延びる。長さ 8.2m を確認した。調査区外の東西へ延びており、北側で確認した SD49 溝跡と接続している可能性がある。上幅 120~154cm、底幅 73~100cm、深さ 30~38cm で、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

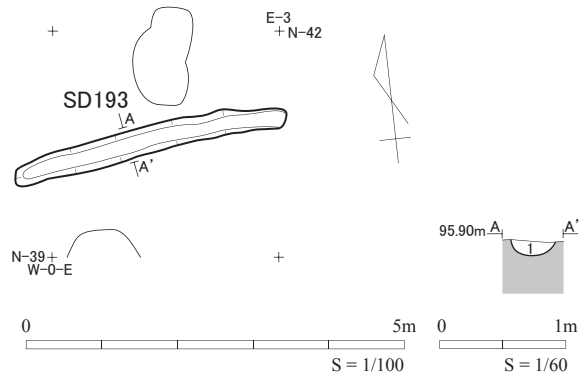
〔堆積土〕地山粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕遺構確認面よりロクロ土師器杯・高台付杯が出土した。いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、高台付杯は回転糸切りによる底部の切り



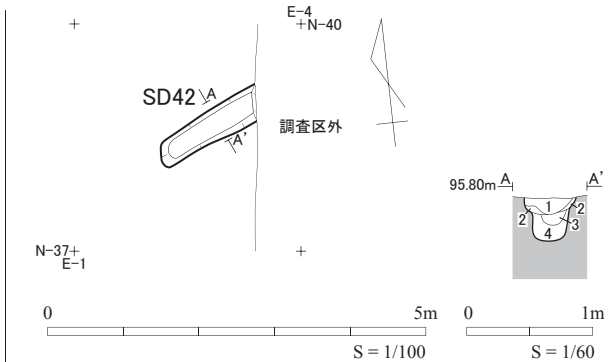
SD189 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む



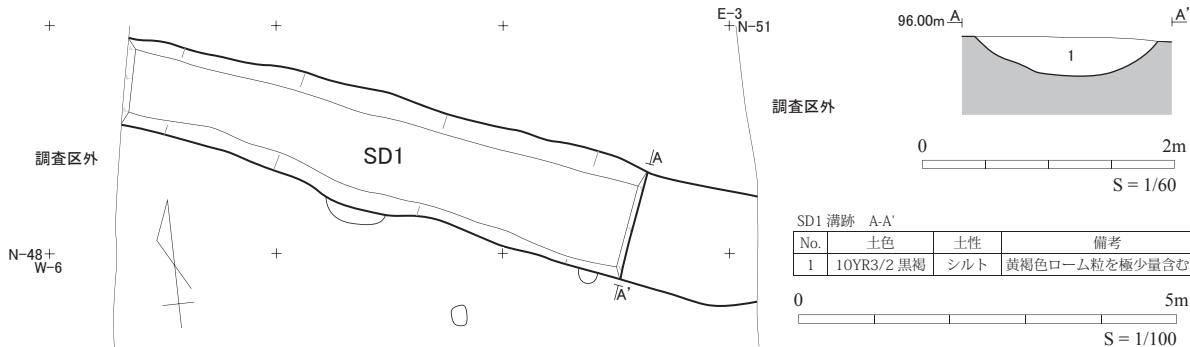
SD193 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む



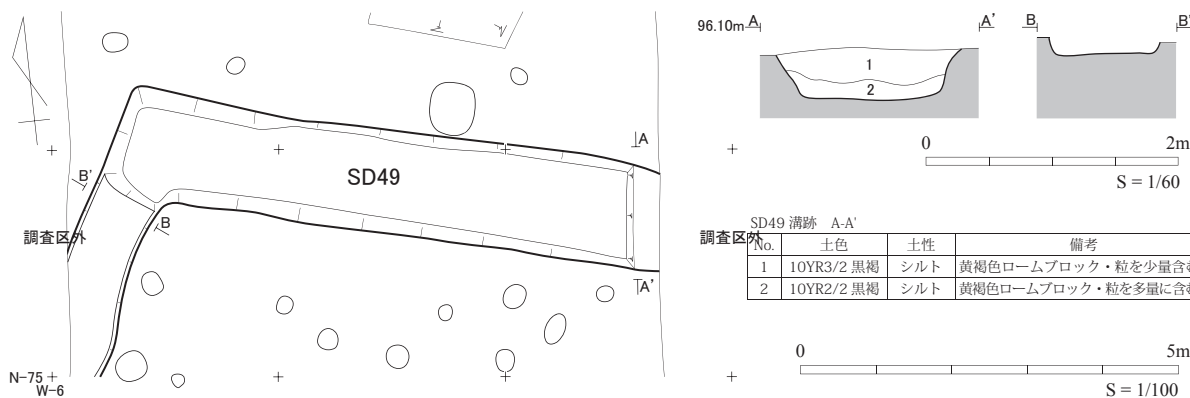
SD42 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む 焼土ブロックを多量に含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む



SD1 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む



SD49 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む

第36図 SD1・42・49・189・193 溝跡

離し後に高台部付加→ロクロナデ調整を施す。

【SD49 溝跡】(第36図、写真図版10)

〔位置〕2区／平坦面

〔重複〕SB367 → SD49 - SB366

〔規模・形状〕東西方向に直線的に伸び、西端で108°の角度で屈曲して南へ直線的に伸びる。長さ9.5mを確認した。調査区外の南西側・東側へ伸びており、南側で確認したSD1溝跡と接続している可能性がある。

上幅90~142cm、底幅70~216cm、深さ14~40cmで、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、屈曲部付近に段を持ち東西方向の溝が30cm低い。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土の可能性がある。上部は地山ブロックを少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。〔出土遺物〕堆積土より土師器甕が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

3.3区

遺跡範囲の南西部に位置し、東西105m、南北66mの範囲に幅8~17.5mで十文字形に展開する調査区である。調査区内はほぼ平坦で、南端・西端部では旧河道による地形の浸食が見られた。北部では前回のほ場整備に伴う整地工事による削平が著しく、遺構は確認されなかった。遺構確認面は現地表面から深さ15~25cmのⅣ~Ⅵ層上面である。遺構は竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡12棟、柱列跡14条、溝跡14条、井戸跡2基、土坑35基、性格不明遺構4基を確認した(第37図、写真図版10~12)。

(1) 竪穴住居跡

【SI51 竪穴住居跡】(第39図、写真図版10~13・57)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SI52・SK136・SK156・SK157・SK202・SK203・SX135・SX137 → SI51 → SA325・SA326・SK119・SD38・SD114

〔規模・形状〕長辺:8.00m、短辺6.70m／方形

〔方向〕カマド中軸線:N-12°-W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大24cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。住居掘方埋土は砂礫と白色粘土を主体とし、ほぼ全域で床面の硬化が確認された。

〔主柱穴〕住居平面形の対角線上で4か所(P1~P4)を確認した。柱穴掘方の平面形は長軸58~64cm、短軸46~50cmの隅丸方形・楕円形を呈する。深さは38~80cmで、4か所で柱材の抜き取り痕跡、P1・P3で平面形が直径14~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕カマドが付設される北辺中央部を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅8~13cm、底幅4~8cm、深さ5~13cmで横断面形がU字形を呈する。堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、壁材痕跡に伴う溝状の掘方は確認されない。

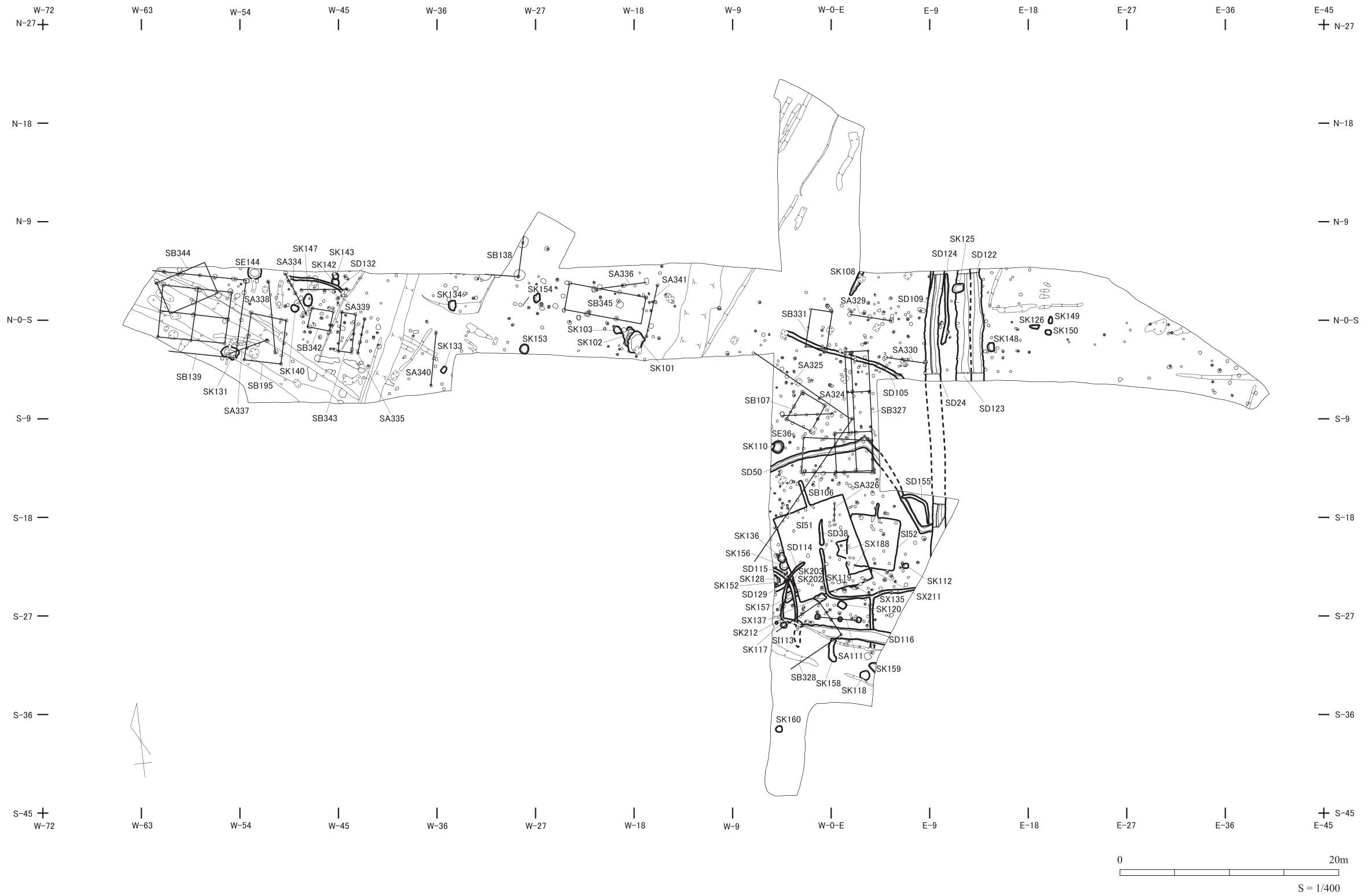
〔カマド〕住居北辺中央に付設する。燃焼部・煙道・煙出しピットが残存する。燃焼部は幅100cm、奥行76cmで、焚口幅は58cmである。燃焼部底面は幅58cm、奥行68cmで、奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、赤色硬化面が形成されている。側壁は長さ42~48cm、幅21~23cm、残存高31cmである。奥壁は住居北壁と一致する。側壁構築土は白色粘土ブロックを多く含むにぶい黄褐色砂質シルトを用いている。煙道は燃焼部奥壁から2.1m伸び、先端部に煙出しピットが位置する。煙道底面は先端部へ向かって緩やかに立ち上がり、煙出しピットの底面は煙道底面より約30cm深い。

〔貯蔵穴〕なし

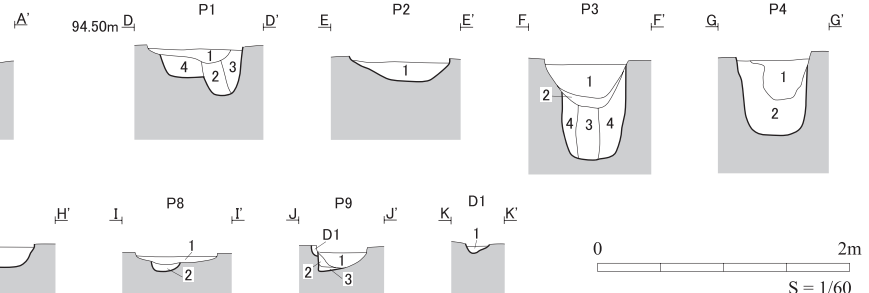
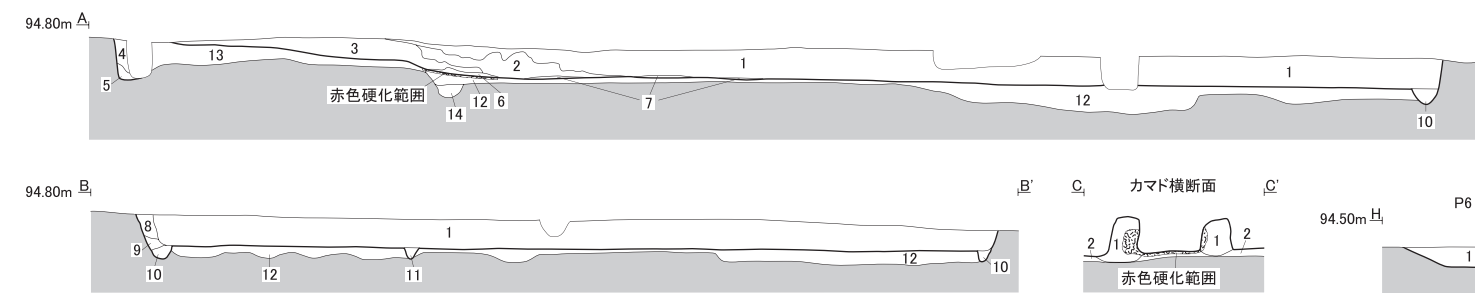
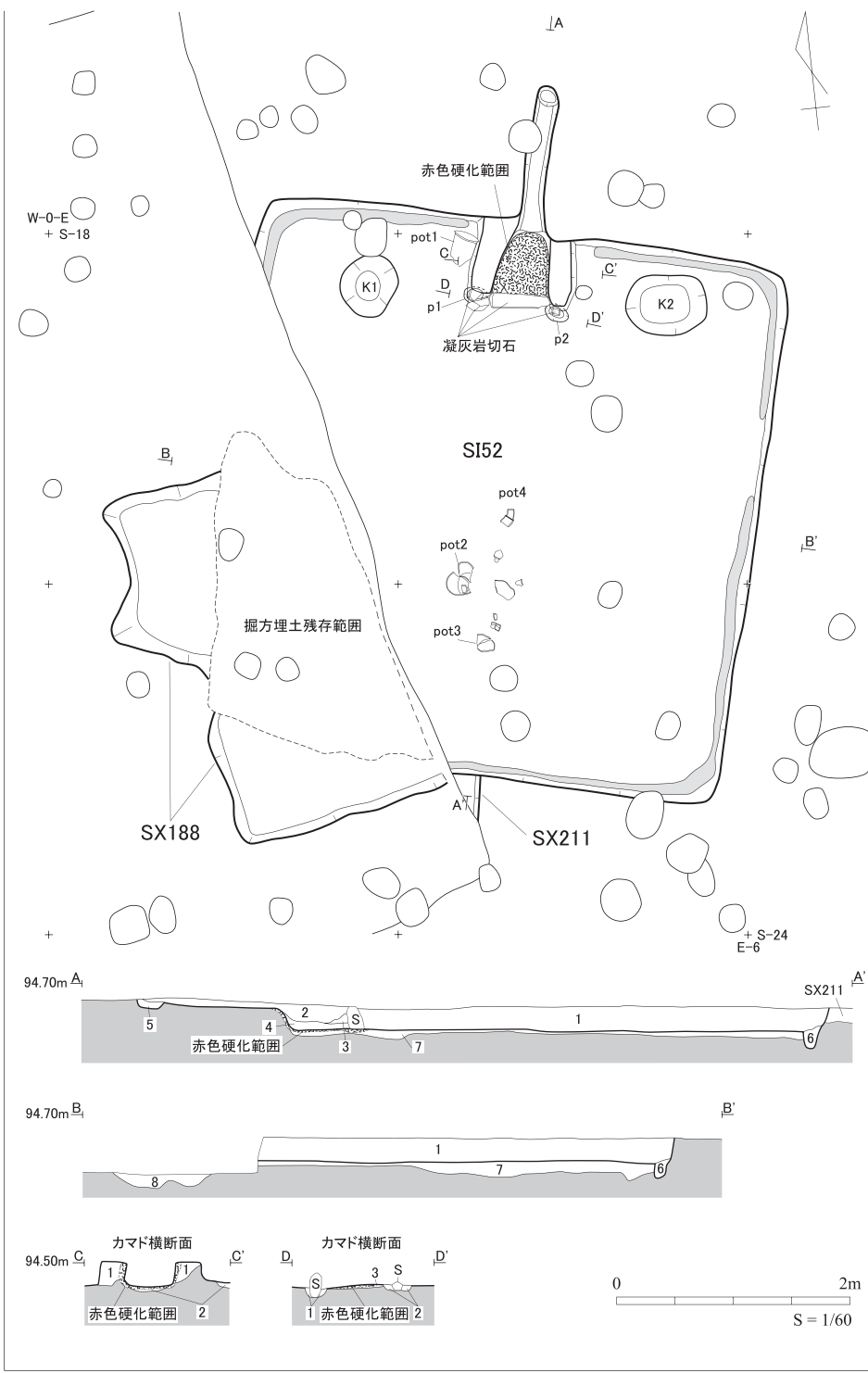
〔その他の施設〕溝跡2条(D1・D2)、柱穴6か所(P5~P9)を確認した。住居内の間仕切りなどに関わる施設と考えられる。D1は上幅11~36cm、底幅6~23cm、深さ3~8cmで横断面形がU字形を呈し、住居西辺とほぼ平行に約5.2m伸びる。D1と住居西辺との距離は約1.8~2.2mで、北端は住居北辺と接し、中央部にP6、南端部にP9が位置する。D2は上幅8~14cm、底幅4~6cm、深さ5cmで横断面形がU字形を呈し、P2から南側へ約68cm伸びる。堆積土はD1・D2ともに白色粘土粒・砂を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。柱穴のうちP8では平面形が直径12~14cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏(第39図1)・甕(第39図2)・甑(第39図3)が出土した。

坏(第39図1)は有段丸底坏の破片で、体部が内湾し口縁部が外反気味に外傾する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、内面の対応する位置で屈曲する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部下位にヘラケズリ→粗いミガキ調整を施す。甕(第39図2)は口縁部~胴部の破片で、胴部が内湾し口縁部が外傾する。外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ・口縁部にヨコ



第 37 図 3 区遺構配置図



SI51 竪穴住居跡 A-A', B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 炭化物粒を少量含む φ3cm以下の礫を含む (住堆・人為)
2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	白色粘土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (竈崩)
3	10YR4/4 褐	シルト	白色粘土ブロック・焼土ブロックを多量に含む 下部は被熱により赤色化 (竈天井崩)
4	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む 炭化物粒を多量に含む (煙出堆)
5	10YR2/1 黒	シルト	炭化物粒を多量に含む (煙出機能時堆)
6	10YR3/2 黒褐	シルト	炭化物粒を多量に含む (竈機能時堆)
7	10YR3/2 黒褐	シルト	均質土 上面に炭化物粒をまばらに含む (床機能時堆)
8	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住壁面崩)
9	10YR4/4 褐	砂	細砂主体 (住壁面崩)
10	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・白色粘土小ブロックを含む (壁材痕)
11	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土粒・砂を含む (D1 堆)
12	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・白色粘土小ブロック・砂礫を多量に含む (住堆)
13	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (煙道掘・人為)
14	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (住堆)

SI51 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (竈横)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・砂礫を多量に含む (住堆・住居主断面 12 層対応)

SI51 竪穴住居跡 P1 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR4/4 褐	砂質シルト	小礫を含む (柱掘)
4	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	小礫を含む (柱掘)

SI51 竪穴住居跡 P2 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	砂礫を多量に含む (柱抜)

SI51 竪穴住居跡 P3 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	炭化物を多量に含む (柱抜)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロック少量含む (柱痕)
4	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	白色粘土ブロック・砂を多量に含む (柱掘)

SI51 竪穴住居跡 P4 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 砂を含む (柱掘)

SI51 竪穴住居跡 P6 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	白色粘土ブロック・炭化物・砂礫を多量に含む

SI51 竪穴住居跡 P8 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)

SI51 竪穴住居跡 P9 J-J'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土小ブロックを含む (柱抜)
2	10YR5/4 にぶい黄褐	砂	細砂を含む (柱掘)
3	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱掘)

SI51 竪穴住居跡 D1 K-K'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土粒・砂を含む (住居主断面 11 層対応)

SI52 竪穴住居跡 A-A', B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (住堆・人為)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・白色粘土小ブロックを多量に含む (住堆・人為)
3	10YR4/4 褐	シルト	白色粘土を多量に含む 下部は被熱により赤色化 (竈天井崩)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	焼土粒・炭化物粒を多量に含む (竈崩)
5	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (煙出堆・人為)
6	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (壁材痕)
7	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土小ブロック・礫・砂を含む (住堆)
8	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (住堆)

SI52 竪穴住居跡 カマド横断面 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR5/4 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土主体 砂を少量含む (竈側壁構)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (住堆)

SI52 竪穴住居跡 カマド横断面 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	焼土粒・炭化物粒を含む (竈側壁構材痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (竈側壁構材痕)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・礫・砂を含む (住堆・住居主断面 7 層対応)

第 38 図 SI51・52 竪穴住居跡, SX188・211 性格不明遺構

ナデ調整、内面にヘラナデ調整を施す。甑(第39図3)は口縁部-体部の破片で、口縁部が外反し、外面の口縁部と体部の境に痕跡的な段を持つ。外面の体部にヘラケズリ・頸部にナデ・口縁部にヨコナデ調整、内面にヨコナデ→ヘラナデ→ヘラミガキ調整を施す。外面の口縁部にヨコナデ調整に先行して斜め方向に連続する刻み目状の痕跡が見られる。

このほか、床面・カマド機能時堆積土・カマド構築土・カマド崩落土・煙道内堆積土・P3・P4・P6・P8・P10堆積土・D1堆積土・住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器坏・甕が出土した。土師器坏は内外面にヘラミガキ調整→赤彩を施すものがある。ロクロ土師器坏は外底面に回転糸切り痕が見られる。須恵器坏は外底面に回転ヘラ切り痕、甕は外面に平行タタキ目が見られる。

【SI52 竪穴住居跡】(第38・41図、写真図版13・14・57)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SX188・SX211→SI52→SI51

〔規模・形状〕長軸4.50m、短軸4.40m／方形

〔方向〕カマド中軸線：N-12°-E

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大22cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマドが付設される北辺中央部を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅5-9cm、底幅1-4cm、深さ2-12cmで横断面形がU字形を呈する。堆積土は均質な黒色シルトで、壁材痕跡に伴う溝状の掘方は確認されない。

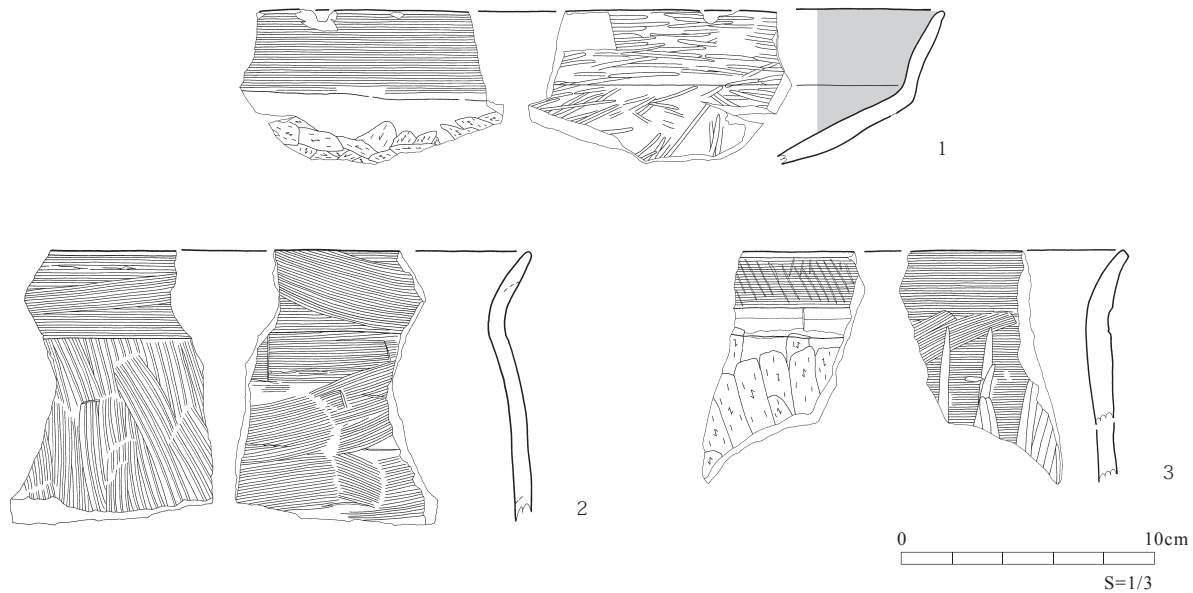
〔カマド〕住居北辺中央に付設する。燃烧部・煙道・煙出しピットが残存する。燃烧部は幅92cm、奥行65cmで、焚口幅は50cmである。燃烧部底面は幅46cm、奥行60cmで、床面より3cmほど皿状に窪み、赤色硬化面が形成されている。側壁は長さ65-70cm、幅22-25cm、残存高20cmである。奥壁は住居北壁と一致する。側壁先端にそれぞれ角柱状の凝灰岩切石が据えられており、焚口部では下面が被熱により赤色化した角柱状の凝灰岩切石が出土した。これらはカマドの焚口部を構成していた構築材と考えられる。側壁構築土は白色粘土ブロックを多く含むにぶい黄褐色粘質シルトを用いている。煙道は燃烧部奥壁から1.1m延び、先端部に煙出しピットが位置する。煙道底面はほぼ平坦で、煙出しピットの底面は煙道底面より約

5cm深く窪む。

〔貯蔵穴〕カマド左側の住居北西隅で土坑1基(K1)、右側の北東隅で土坑1基(K2)を確認した。K1は平面形が長軸53cm、短軸47cmの楕円形を呈し、断面形は深さ5cmの皿状を呈する。K2は平面形が長軸69cm、短軸52cmの楕円形を呈し、断面形は深さ15cmの皿状を呈する。堆積土はいずれも地山ブロック・礫を含む黒色・黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器坏(第41図2・3)・鉢(第41図4)・壺(第41図5)・甕(第41図6)、堆積土より土師器坏(第41図1)、刀子(第41図8)、石製紡錘車(第41図7)が出土した。

土師器坏は有段丸底坏(第41図1・2)と無段の坏(第41図3)がある。第41図1は体部が内弯し口縁部が直線的に外傾する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、外面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第41図2は体部が内弯し口縁部がわずかに内弯気味に外傾する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、外面の口縁部にヨコナデ→体部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第41図3は体部から口縁部にかけて内弯し、外面に段を持たない。外面の口縁部にヨコナデ→体部下位にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整を施し、黒色処理を施さない。鉢(第41図4)は平底で体部から口縁部にかけて内弯気味に逆八の字状に外傾する。外面の体部にハケメ→ナデ→口縁部にヨコナデ調整、内面の体部にヘラナデ→口縁部にヨコナデ調整を施し、外底面に木葉痕が見られる。壺(第41図5)は平底で胴部に丸みを持ち、外面にハケメ調整、内面に不鮮明ながらナデ調整を施すとみられる。焼成が不良で器壁の劣化が見られ、外面には二次被熱による器壁の剥離が見られる。甕(第41図6)は平底で胴部中位に最大径を持ち、長胴形を呈する。外面の頸部に段を持ち、外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ・胴部下位にヘラケズリ調整、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ→口縁部にハケメ調整を施し、外底面に木葉痕が見られる。刀子は刃部の先端側を欠損する。石製紡錘車(第41図7)は泥質岩製で縦断面が側面と上面に膨らみを持つ台形を呈し、側面に稜を持つ。研磨によって仕上げられ、底面に円文と鋸歯文、側面に鋸歯文の線刻を施す。また、底面と上面の穿孔部の周囲に放射状の線条痕が見られる。線条痕は底面の円文の一部を磨滅させていることから、使用による痕跡の可能性がある。



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI51	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：(口) ヨコナデ、(体下～底) ヘラケズリ→ミガキ	-	-	(6.1)	一部	159	57-1
2	SI51	堆積土	土師器	甕	内面：(胴) ヘラナデ→(口) ヨコナデ、外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ	-	-	(10.9)	一部	160	57-2
3	SI51	堆積土	土師器	甕	内面：ヨコナデ→ヘラナデ→ヘラミガキ、外面：(体) ヘラケズリ、(頸) ナデ、(口) 斜め方向に連続する刻目状痕跡→ヨコナデ	-	-	(9.2)	一部	161	57-3

第39図 SI51 竪穴住居跡出土遺物

このほか、床面・カマド燃焼部底面・カマド崩落土・煙道内堆積土・K1 堆積土・住居内堆積土・住居掘方埋土より土師器坏・鉢・甕が出土した。坏は無段丸底で内外面にヘラミガキ調整を施すものがある。甕は外面の頸部に痕跡的な段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SI113 竪穴住居跡】(第40図、写真図版14)

〔位置〕3区南部／平坦面

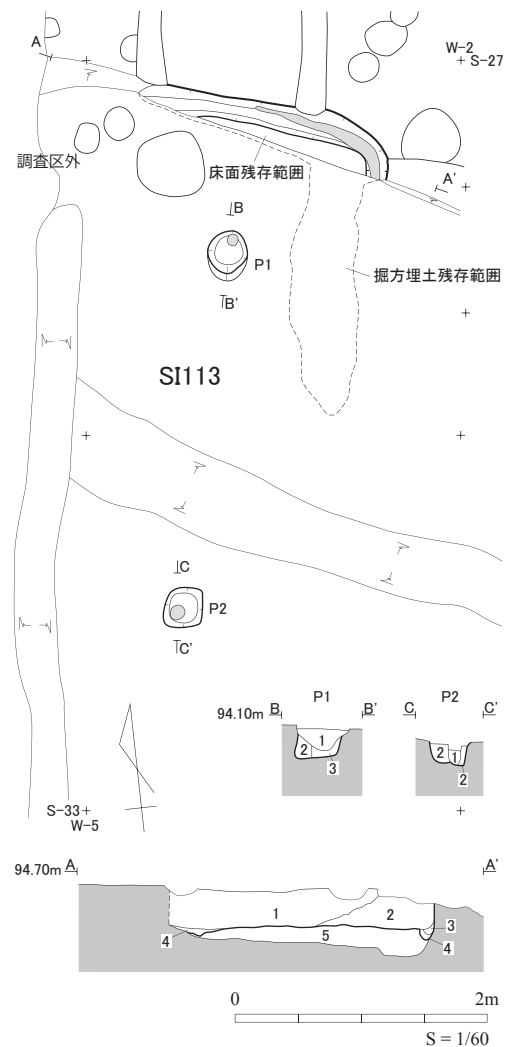
〔重複〕SI113 → SD114・SD115・SD116 - SK212・SK217

〔規模・形状〕長軸2.20m以上、短軸2.10m以上／方形

〔方向〕北辺：E-16°-S

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大20cmである。

〔床面・堆積土〕住居北東隅のごく一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。



SI113 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む焼土粒・炭化物粒を極少量含む (人為)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (人為)
3	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を含む (壁材痕)
4	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (壁材掘)
5	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	白色粘土大ブロック・砂を多量に含む (住掘)

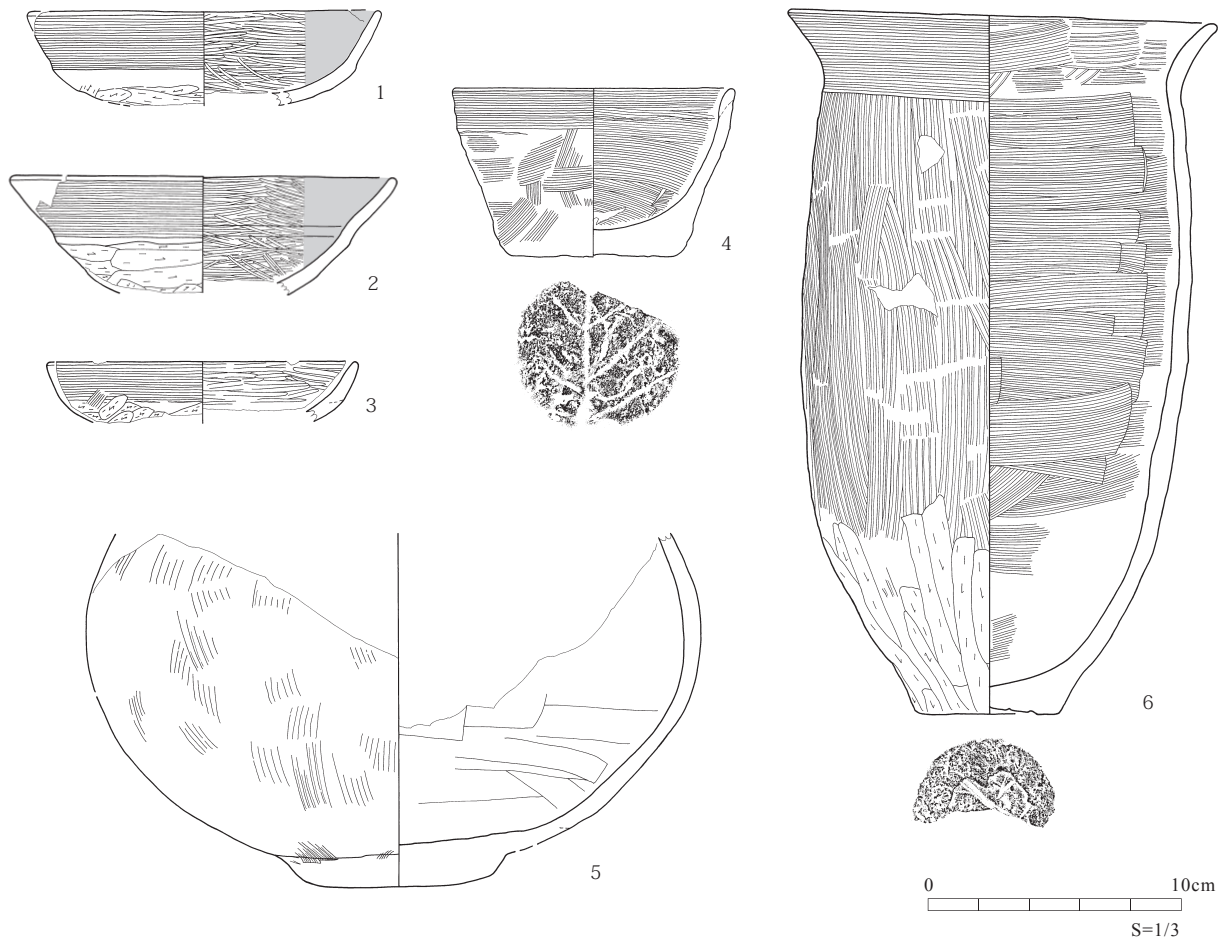
SI113 竪穴住居跡 P1 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱抜)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
3	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

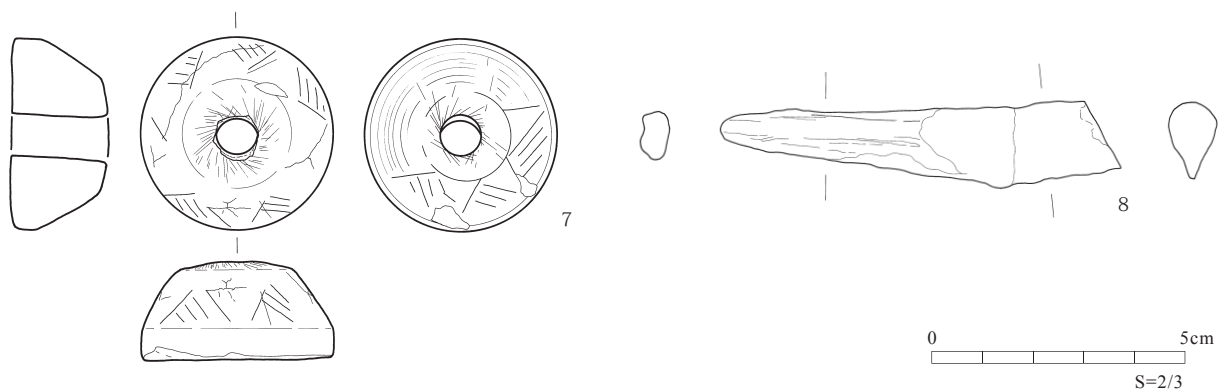
SI113 竪穴住居跡 P2 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10Y3/1 オリーブ黒	粘質シルト	グライ化した粘土ブロックを少量含む (柱掘)
2	7.5Y5/2 灰オリーブ	粘質シルト	グライ化した粘土大ブロックを多量に含む (柱掘)

第40図 SI113 竪穴住居跡



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI52	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ，(体下) ヘラケズリ	(14.0)	-	(3.7)	一部	090	57-4
2	SI52	床面直上 Pot.4	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ→(体下) ヘラケズリ	(15.4)	-	(4.7)	1/5	091	57-5
3	SI52	床面直上	土師器	坏	内面：ヘラミガキ，外面：(口) ヨコナデ→(体下) ヘラケズリ→一部ナデ	(12.4)	-	(2.4)	一部	158	57-6
4	SI52	床面直上	土師器	鉢	内面：(体) ヘラナデ→(口) ヨコナデ，外面：(体) ハケメ→ナデ→(口) ヨコナデ，(底) 木葉痕	(11.2)	5.5	6.7	1/2	089	57-7
5	SI52	床面直上 Pot.2	土師器	壺	内面：ナデ？，外面：ハケメ，※焼成不良，劣化激しい。外面：焼けはじけ	-	(7.5)	(14.0)	2/5	088	57-8
6	SI52	床面直上 Pot.1	土師器	甕	内面：(胴) ヘラナデ・(口) ヨコナデ→(口) ハケメ，外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ・(胴下) ヘラケズリ，(底) 木葉痕，※外面(体下半) 粘土付着	17.1	5.6	27.7	略完形	087	57-9



No.	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
7	SI52	堆積土	紡錘車	泥質岩	孔径 7.1-7.8mm 側面：鋸歯状線刻文，底面：円文・鋸歯状線刻文（一部摩擦により消失），上面・底面：穿孔部の周縁部に放射状擦痕，底面：同心円状擦痕	38.6	38.2	19.5	43.8	完形	212	57-10
No.	遺構	層位	種類	材質	特徴	法量 (cm・g)				残存	登録	写真
8	SI52	堆積土	刀子	鉄	茎幅：1.6cm，茎厚：1.2cm，刃部両面：木質部付着	(8.0)	(1.5)	(0.9)	(14.4)			

第41図 SI52 竪穴住居跡出土遺物

〔支柱穴〕2か所確認した (P1・P2)。住居平面形の対角線上に位置するとみられる。柱穴掘方の平面形は長軸 27-39cm、短軸 27-33cm の隅丸方形・略円形を呈する。深さは 22-32cm で、いずれも平面形が直径 10-14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。P1 では柱材の抜き取り痕跡が見られる。

〔周溝・壁材〕住居壁面に沿って上幅 2-10cm、底幅 2-6cm、深さ 5cm で横断面形が U 字形を呈する壁材痕跡を確認した。上幅 12-13cm、底幅 8-10cm、深さ 4cm で横断面形が U 字形を呈する壁材掘方を伴う。壁材痕跡の堆積土は白色粘土粒を含む黒色シルト、掘方埋土は白色粘土ブロック・砂を含む黒褐色シルトである。

〔カマド・貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕P1 柱穴堆積土、住居掘方埋土より土師器甕、須恵器甕が出土した。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

(2) 掘立柱建物跡

【SB106 掘立柱建物跡】(第 42 図、写真図版 14・16)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SB106 - SB327・SA325・SD50

〔規模・形状〕東西 3 間 (総長 6.30m)・南北 1 間 (総

長 3.00m) / 東西棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-12° -E

〔柱穴〕8か所確認した。掘方の平面形は長軸 32-42cm、短軸 24-28cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 17-38cm である。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。3か所で柱材の抜き取り痕跡、5か所で平面形が直径 10-17cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：東から 230-180-220cm

〔出土遺物〕なし

【SB107 掘立柱建物跡】(第 43 図、写真図版 15)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SB107 - SA324

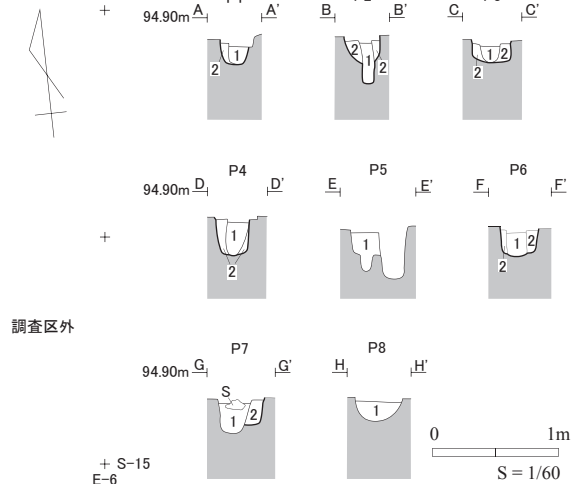
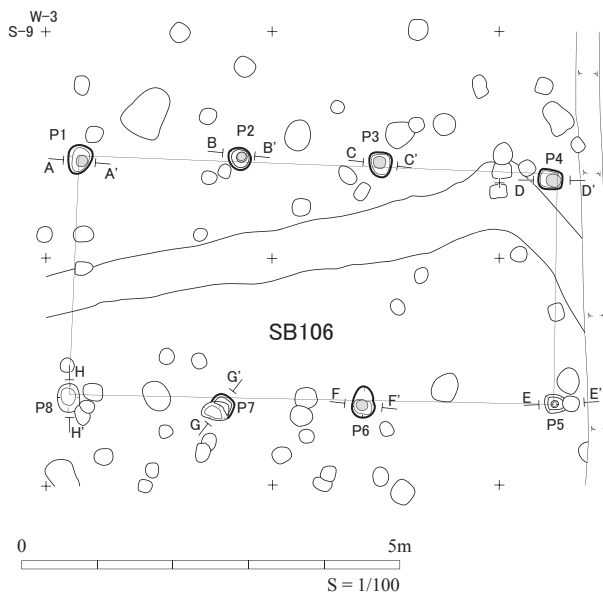
〔規模・形状〕東西 1 間 (総長 2.50m)・南北 2 間 (総長 2.70m) / 南北棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-36° -E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は長軸 26-37cm、短軸 24-35cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 36-48cm である。すべての柱穴で平面形が直径 12-15cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕東側柱列：北から 140-130cm

〔出土遺物〕P2・P6 柱穴堆積土より土師器環が出土



SB106 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB106 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	炭化物粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB106 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB106 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB106 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)

SB106 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

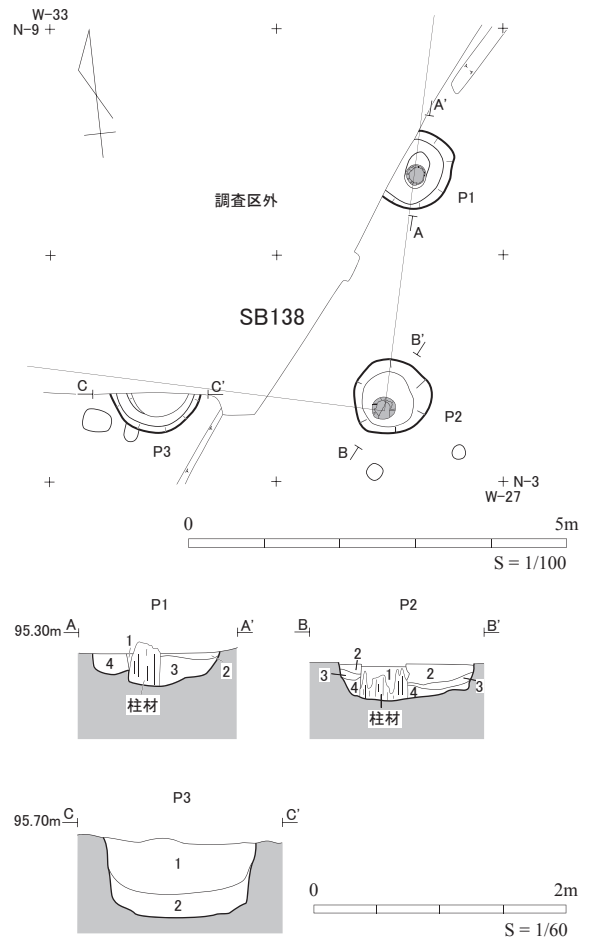
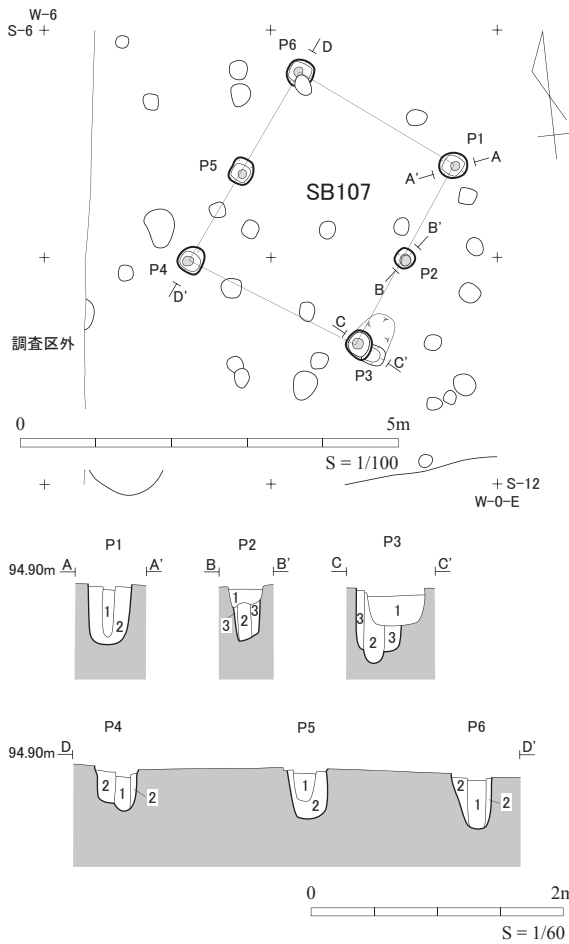
SB106 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB106 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量含む (柱抜)

第 42 図 SB106 掘立柱建物跡



SB107 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
SB107 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱切)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
SB107 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱切)
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
SB107 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱掘)
SB107 掘立柱建物跡 P5 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB107 掘立柱建物跡 P6 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)
SB138 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)
4	10YR6/4 にぶい黄橙	粘土	黒褐色シルトを少量含む 砂粒を含む (柱掘)
SB138 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR4/2 灰黄褐	砂	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR6/3 にぶい黄褐	砂	黒褐色土を少量含む (柱掘)
SB138 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ローム主体 (柱掘)

第43図 SB107・138 掘立柱建物跡

した。内外面にヨコナゲ調整を施す。

【SB138 掘立柱建物跡】(第43図、写真図版15)

〔位置〕3区西部/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕東西1間(総長3.10m)以上・南北1間(総長3.20m)以上/不明建物/調査区外北西側へ延びる

〔方向〕東側柱列:N-13°-E

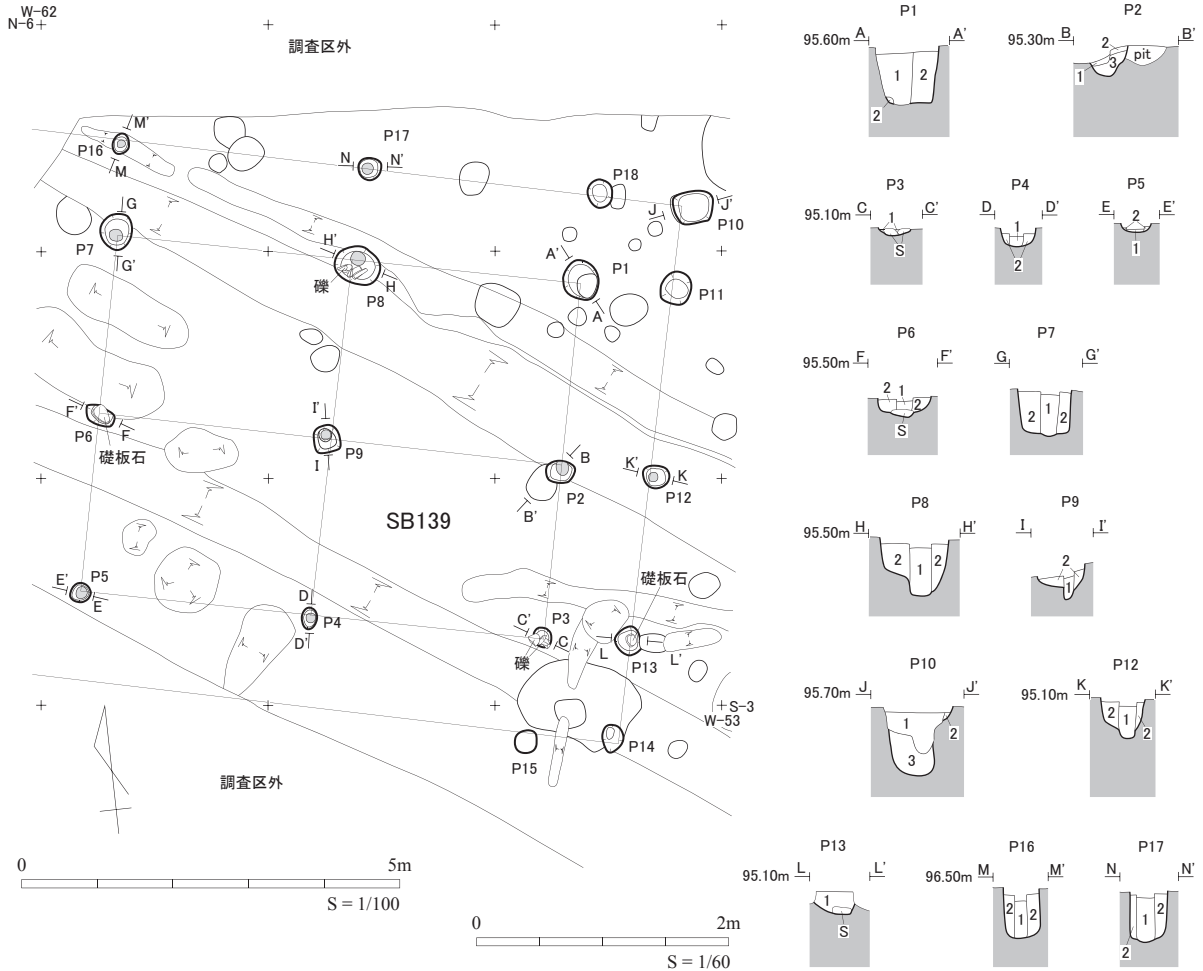
〔柱穴〕3か所確認した。掘方の平面形は直径98~118cmの略円形で、深さ24~65cmである。2か

所で平面形が直径36cmの円形を呈する柱痕跡を確認し、下部に柱材の一部が残存していた。

〔柱材寸法〕2か所(P1・2)で確認した。P1のものは幅28.0cm、厚さ27.8cm、長さ35.6cmの割材(芯去材)で、横断面形は円形を呈する。P2のものは最大径35.0cm、長さ24.0cmで、木取りは不明である。〔出土遺物〕P1・P3柱穴掘方埋土より土師器環・甕、須恵器環が出土した。土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理、甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SB139 掘立柱建物跡】(第44図、写真図版14・16)
 [位置] 3区西部/南西向緩斜面
 [重複] SK131 → SB139 - SB344・SA337
 [規模・形状] 東西2間(総長6.14m)以上・南北2間(総長4.85m) / 三面廂(縁)付東西棟総柱建物/廂(縁)

の出: 東1.24m・南1.26m・北1.24m / 調査区外西側へ延びる
 [方向] 身舎東側柱列: N-12° E
 [柱穴] 身舎で9か所、廂(縁)で9か所確認した。掘方の平面形は長軸26-60cm、短軸20-50cmの楕円



SB139 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SB139 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P5 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P6 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P7 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P8 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P9 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む砂を少量含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P10 J-J'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P12 K-K'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P13 L-L'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む

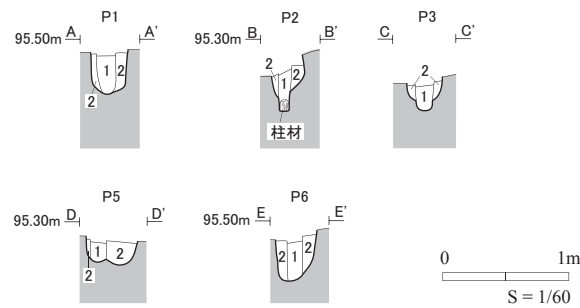
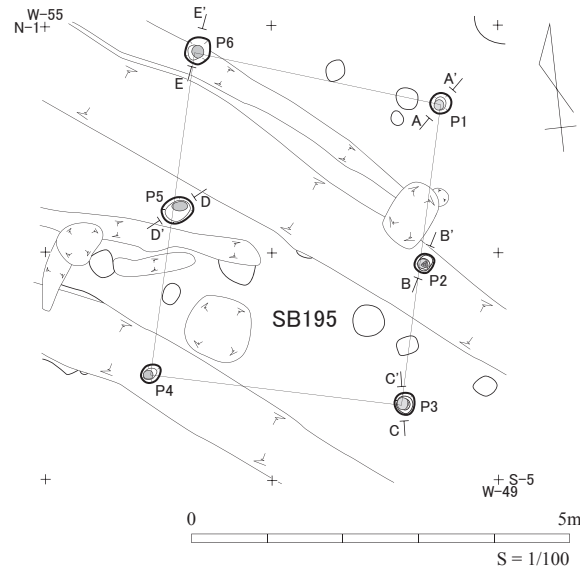
SB139 掘立柱建物跡 P16 M-M'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB139 掘立柱建物跡 P17 N-N'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第44図 SB139 掘立柱建物跡

形・隅丸方形を呈し、深さ5~63cmである。南西部は削平の影響があるが、北東部で見ると身舎側柱・廂（緑）隅柱で長軸50~60cm、短軸40~49cm、その他の内柱で長軸30~42cm、短軸30~38cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む明黄褐色粘質シルト、

黒色・黒褐色シルトである。身舎・廂（緑）の北東隅柱穴各1か所で柱材の抜き取り痕跡、身舎の7か所、廂（緑）の3か所で平面形が直径8~19cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、身舎の3か所、廂（緑）の1か所の掘方底面で10~20cm大の礫を確認し、



SB195 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB195 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB195 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

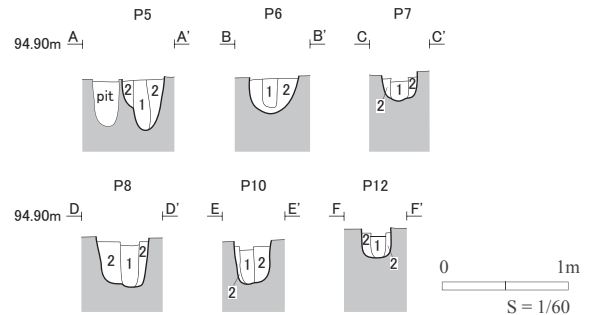
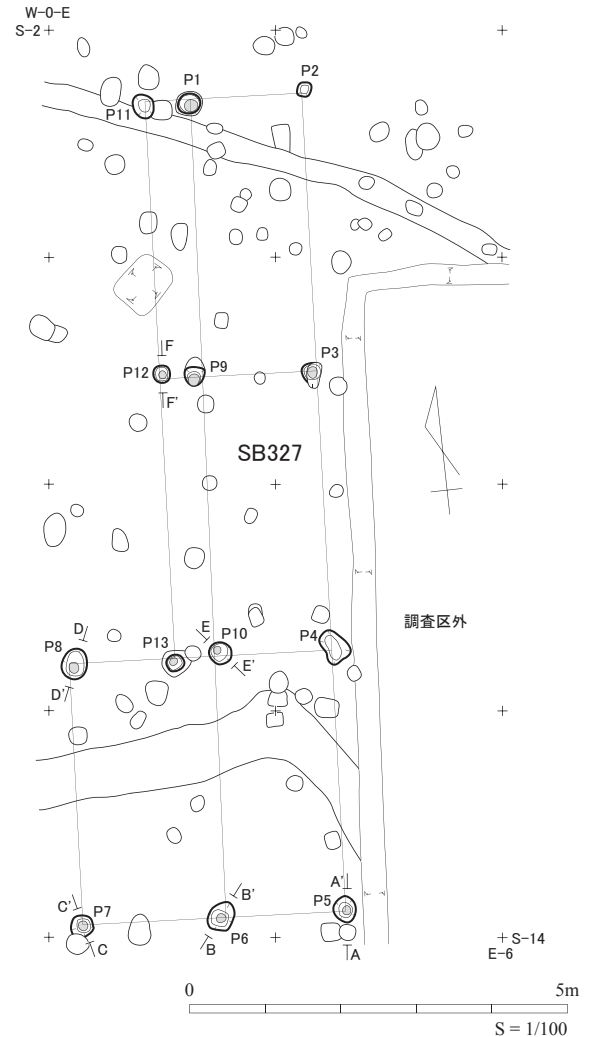
SB195 掘立柱建物跡 P5 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB195 掘立柱建物跡 P6 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB327 掘立柱建物跡 P5 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む (柱掘)

SB327 掘立柱建物跡 P6 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB327 掘立柱建物跡 P7 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SB327 掘立柱建物跡 P8 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB327 掘立柱建物跡 P10 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB327 掘立柱建物跡 P12 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第45図 SB195・327 掘立柱建物跡

礎板石と考えられる。

〔柱間寸法〕身舎東側柱列：北から 249-236cm

身舎北側柱列：東から 302-312cm

〔出土遺物〕なし

【SB195 掘立柱建物跡】(第45図、写真図版16)

〔位置〕3区西部／南西向緩斜面

〔重複〕SB195 - SA337・SA338

〔規模・形状〕東西1間(総長3.30m)・南北2間(総長4.30m)／南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-14°-E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は長軸24~41cm、短軸21~34cmの略円形・楕円形を呈し、深さ20~48cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト・暗褐色粘質シルトである。すべての柱穴で平面形が直径10~15cmの円形を呈する柱痕跡を確認し、このうち1か所で柱材の一部が残存していた。

〔柱材寸法〕1か所(P2)で確認した。幅9cm、厚さ7cm、長さ9cmの割材(芯去材)で、横断面形は台形を呈する。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から 205-225cm

〔出土遺物〕なし

【SB327 掘立柱建物跡】(第45図、写真図版11・15・16)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SD105 → SB327 - SB106・SA325・SD50

〔規模・形状〕東西1間(総長1.64m)・南北3間(総

長10.87m)／西廂(緑)・張出付南北棟側柱建物(西面北2間分に廂(緑)、西面南1間分に張出)／廂(緑)の出：0.50m／張出：1間(1.90m)

〔方向〕身舎東側柱列：N-5°-E

〔柱穴〕身舎で8か所、張出で2か所、廂(緑)で3か所を確認した。掘方の平面形は長軸20~44cm、短軸18~33cmの隅丸方形・楕円形を呈し、深さ11~45cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色シルトである。身舎の3か所、廂(緑)の1か所で柱材の抜き取り痕跡、身舎の6か所、張出の2か所、廂(緑)の2か所で平面形が直径12~18cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕身舎東側柱列：北から 368-367-352cm

身舎・張出南側柱列：東から 164-190cm

〔出土遺物〕P4・P5・P7・P8・P11 柱穴堆積土より土師器坏・甕などが出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

【SB331 掘立柱建物跡】(第46図、写真図版11)

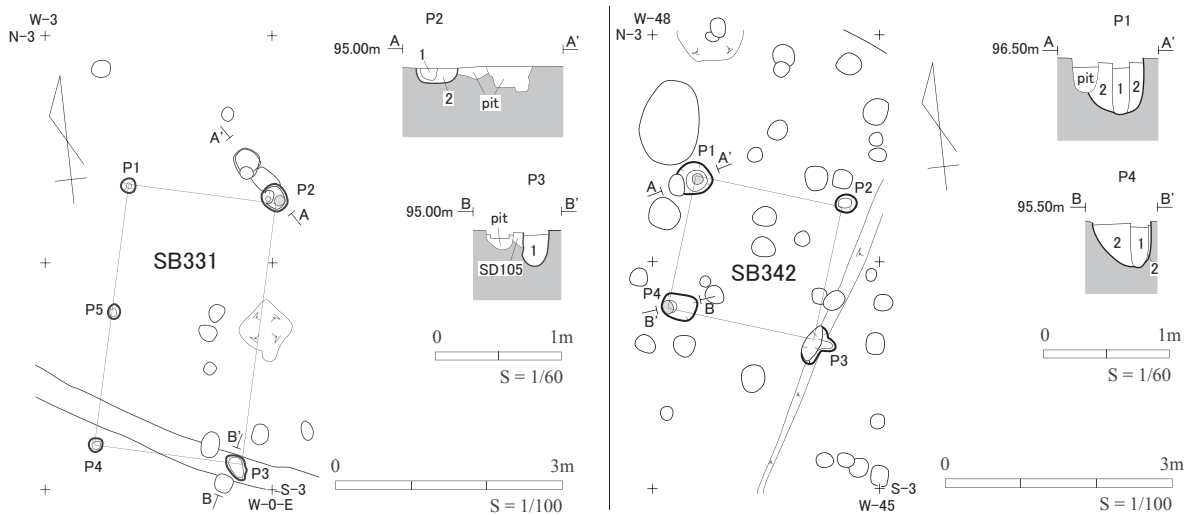
〔位置〕3区中央部／平坦面

〔重複〕SD105 → SB331

〔規模・形状〕東西1間(総長1.96m)・南北2間(総長3.50m)／南北棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-13°-E

〔柱穴〕5か所確認した。掘方の平面形は長軸18~38cm、短軸18~33cmの略円形・楕円形を呈し、深さ15~28cmである。掘方埋土は地山ブロックを多



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第46図 SB331・342 掘立柱建物跡

く含む暗褐色シルトである。1か所で平面形が直径16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から(172) - (178) cm

〔出土遺物〕P2・P3柱穴堆積土よりロクロ土師器帯が出土した。底部の切り離しは回転糸切りである。

【SB342 掘立柱建物跡】(第46図、写真図版16)

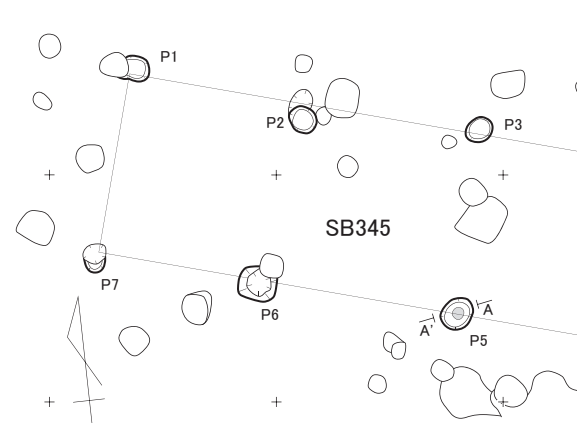
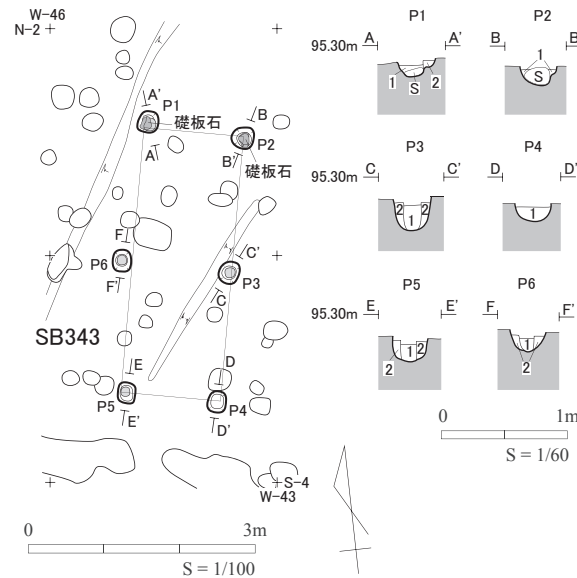
〔位置〕3区西部／南西向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕東西1間(総長2.00m)・南北1間(総長1.80m)／東西棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-17°-E

〔柱穴〕4か所確認した。掘方の平面形は長軸30-52cm、短軸24-44cmの楕円形を呈し、深さ15-47cmである。1か所で柱材の抜き取り痕跡、2か所で平面形が直径16-19cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。



〔出土遺物〕P1・P3柱穴堆積土より土師器片、須恵器甕が出土した。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

【SB343 掘立柱建物跡】(第47図、写真図版12・16)

〔位置〕3区西部／南西向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕東西1間(総長1.40m)・南北2間(総長3.58m)／南北棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-11°-E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は長軸28-30cm、短軸23-28cmの隅丸方形を基調とし、深さ15-27cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト・明黄褐色粘質シルトである。4か所で平面形が直径12-17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、2か所の掘方底面で15-20cm大の礫を確認し、礎板石と考えられる。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から183-175cm

〔出土遺物〕P1・P4柱穴堆積土より土師器片が出土した。

【SB345 掘立柱建物跡】(第47図、写真図版10・15・16)

〔位置〕3区西部／平坦面

〔重複〕SB345 - SA336

SB343 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB343 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む

SB343 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB343 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

SB343 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB343 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB345 掘立柱建物跡 P5 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (柱痕)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)

第47図 SB343・345 掘立柱建物跡

〔規模・形状〕東西3間（総長7.16m）・南北1間（総長2.44m）／東西棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-15°-E

〔柱穴〕7か所確認した。掘方の平面形は長軸36~52cm、短軸27~43cmの隅丸方形・略円形を呈し、深さ5~44cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。5か所で柱材の抜き取り痕跡、1か所で平面形が直径16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から(232)-(238)-(246)cm

〔出土遺物〕P3・P5・P7柱穴堆積土より土師器坏、

ロクロ土師器坏、須恵器坏が出土した。土師器・ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

(3) 柱列跡

【SA111 柱列跡】（第49図、写真図版10・16）

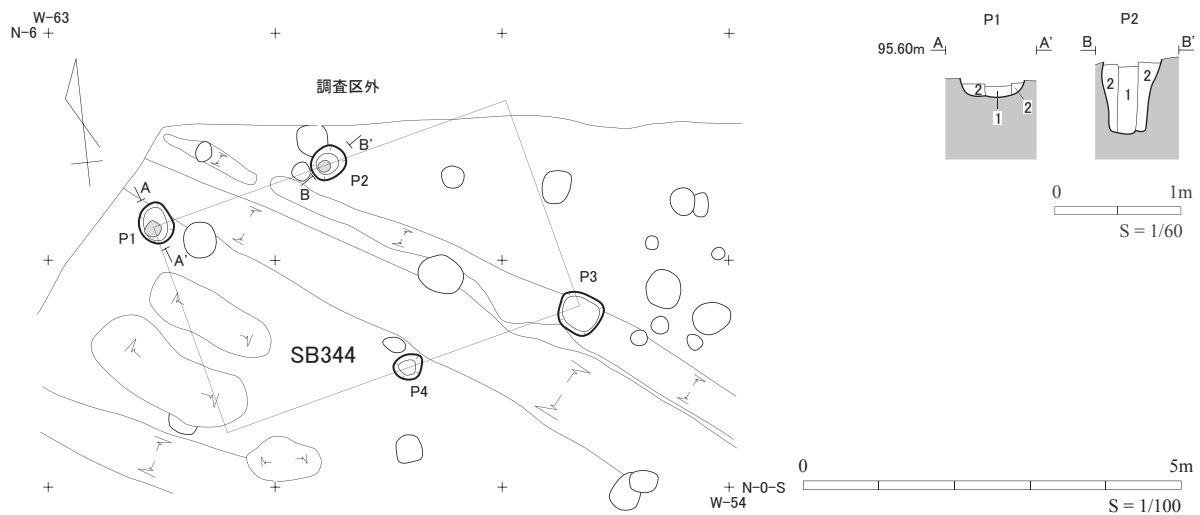
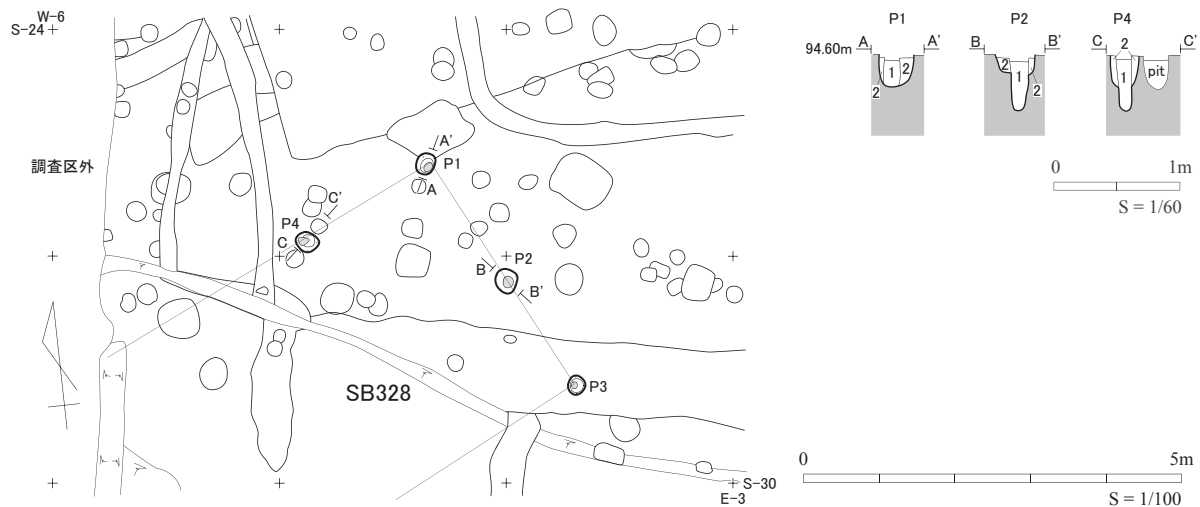
〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SA111 - SB328

〔規模・形状〕東西2間（総長3.80m）

〔方向〕W-11°-N

〔柱穴〕3か所確認した。掘方の平面形は長軸41~46cm、短軸37~42cmの隅丸方形・楕円形を呈し、



SB328 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土（柱痕）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む（柱掘）
SB328 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（柱痕）
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む（柱掘）
SB328 掘立柱建物跡 P4 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土（柱痕）
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）

SB344 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む（柱痕）
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）
SB344 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む（柱痕）
2	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを密に含む（柱掘）

第48図 SB328・344 掘立柱建物跡

深さ 29~39cm である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む褐色・灰黄褐色粘質シルト、地山ブロックを含む暗褐色・黒褐色シルトである。1 か所で柱材の抜き取り痕跡、2 か所で平面形が直径 22~24cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 西から 200- (180) cm

〔出土遺物〕 P3 柱穴堆積土より土師器坏が出土した。有段丸底坏で、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

【SA324 柱列跡】 (第 49 図、写真図版 11・15・16・58)

〔位置〕 3 区南部 / 平坦面

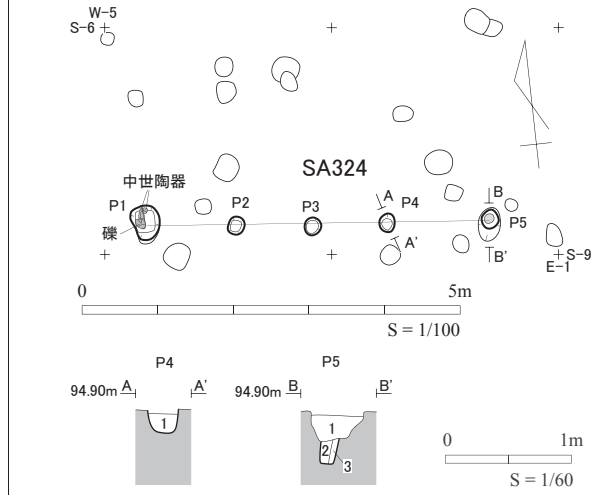
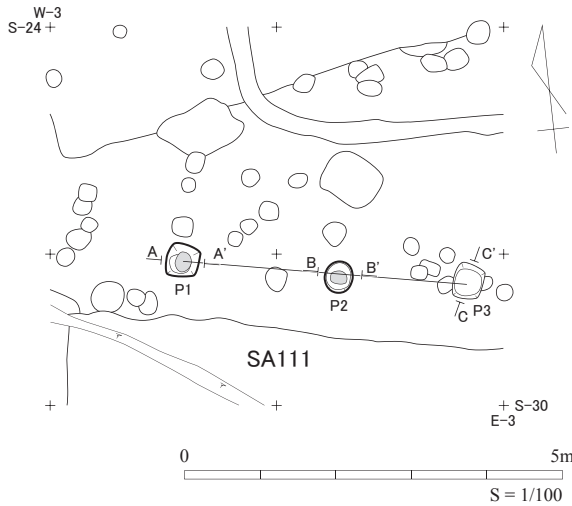
〔重複〕 SA324 - SB107

〔規模・形状〕 東西 4 間 (総長 4.56m)

〔方向〕 W-6° -N

〔配置〕 SB327 東側柱列に直交して中央を通る線上に位置し、配置に関連性が窺える。柱列の東隅柱は SB327 西廂 (縁) 柱列から西に 2.5m、張出北西隅柱穴から北に 2.9m のところに位置する。

〔柱穴〕 5 か所確認した。掘方の平面形は長軸 23~46cm、短軸 21~38cm の略円形・楕円形を呈し、深さ 15~42cm である。掘方埋土は地山ブロックを極



SA111 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SA111 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA111 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)

SA324 柱列跡 P4 A-A'

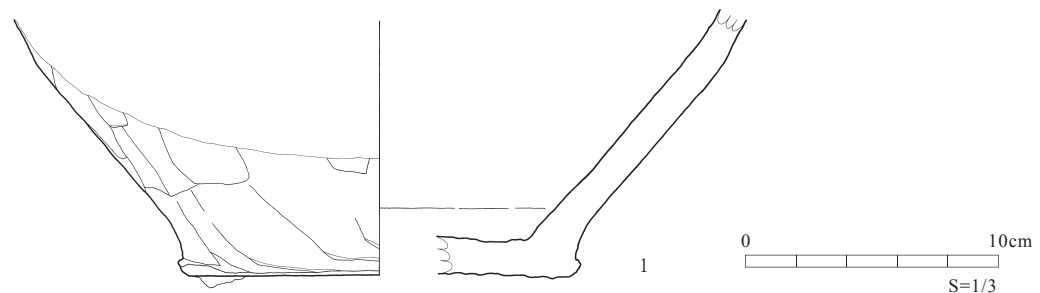
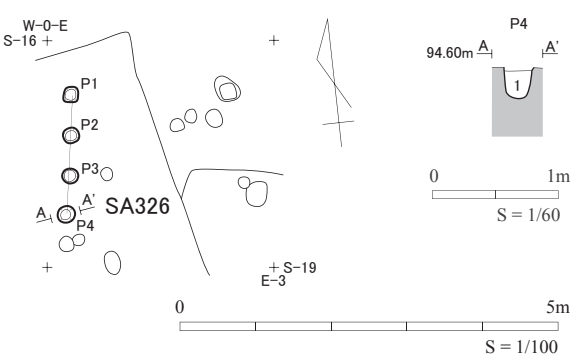
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SA324 柱列跡 P5 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (柱掘)

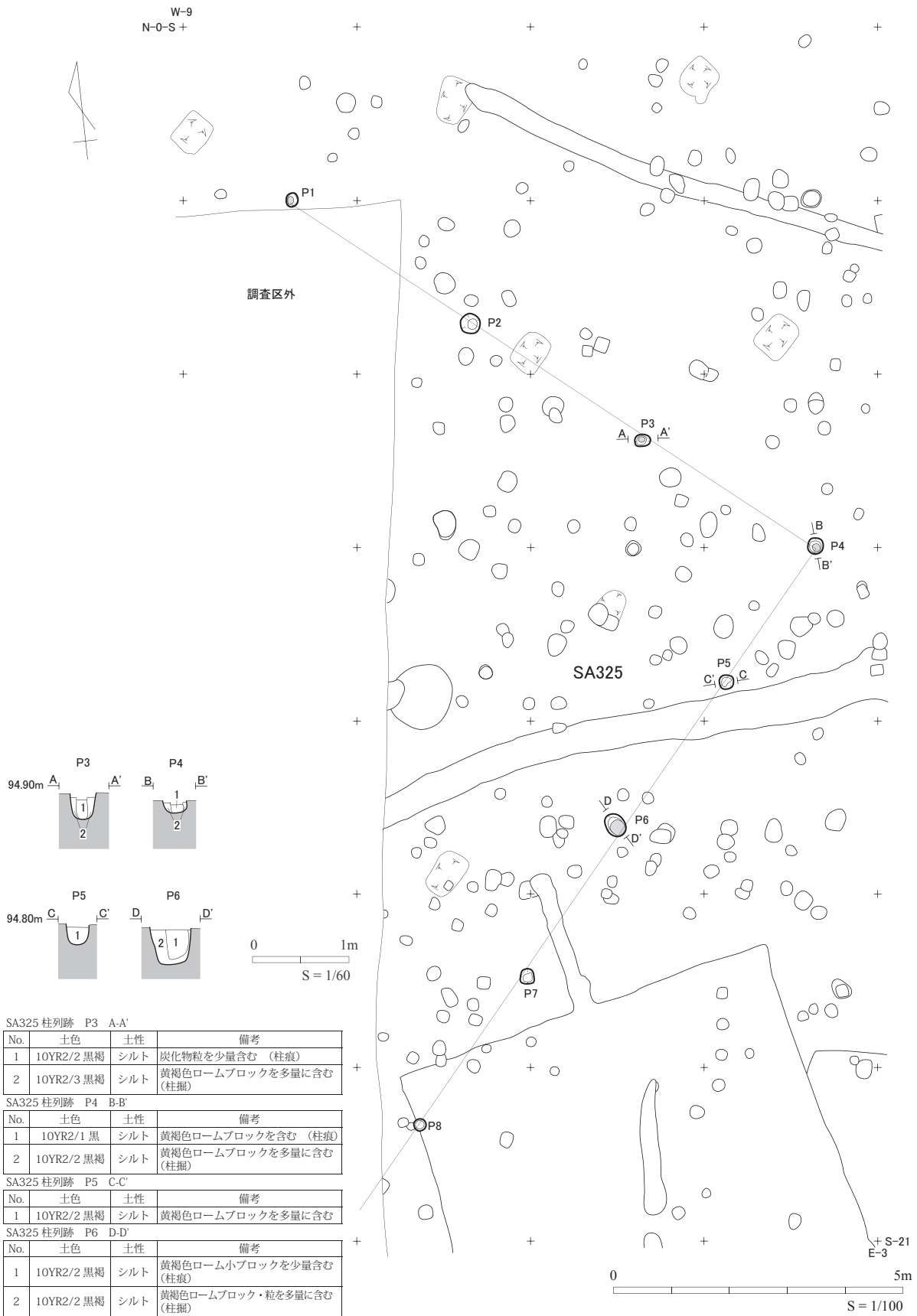
SA326 柱列跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土



No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真
1	SA324	P1	抜き取り痕跡	中世陶器	表	常滑産、内面：ナデ、自然釉 外面：ヘラナデ 底面：ヘラケズリ、溶解物付着	胴下~底	255 58-1

第 49 図 SA111・324・326 柱列跡, SA324 柱列跡出土遺物



第50図 SA325 柱列跡

めて多量に含むにぶい黄褐色シルトである。2か所で柱材の抜き取り痕跡、1か所で平面形が直径14cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から(124) - (102) - (98) - (132) cm

〔出土遺物〕P3・P4・P5 柱穴堆積土より土師器環・甕、P1 柱穴の柱材抜き取り痕跡より中世陶器甕(第49図1)が出土した。土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。中世陶器甕(第49図1)は胴下部~底部の破片で、常滑産である。

【SA325 柱列跡】(第50図、写真図版16)

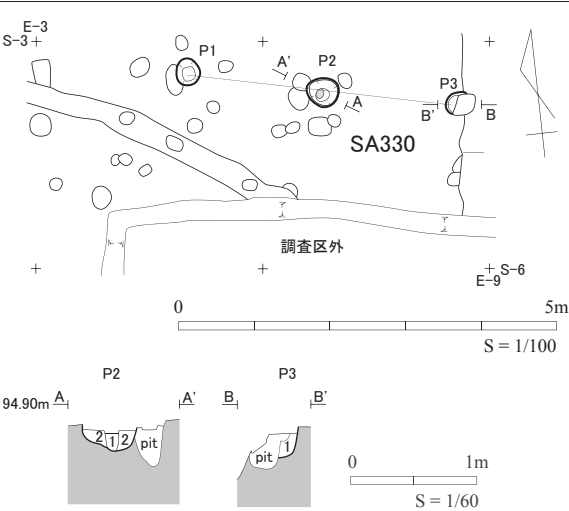
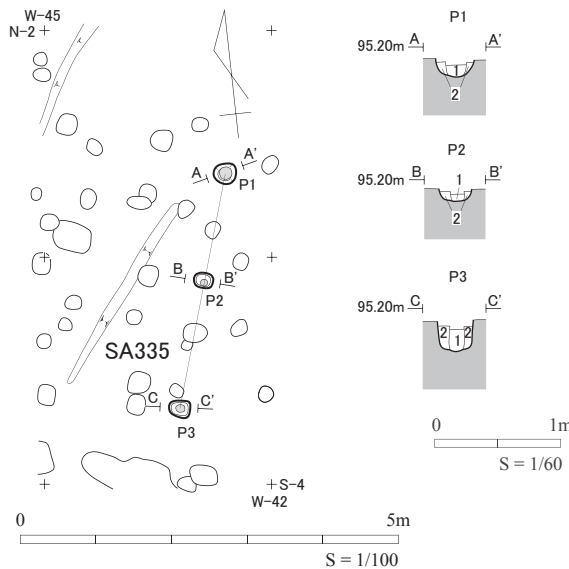
〔位置〕3区南部/平坦面

〔重複〕SI51 → SA325 - ・SB106・SB327・SD50

〔規模・形状〕東西3間(10.88m)・南北4間(12.09m)以上、総長7間(22.94m)以上/調査区外南側へ延びる可能性がある。

〔方向〕北側柱列: W-40° -N

東側柱列: N-41° -E



〔柱穴〕8か所確認した。掘方の平面形は長軸22~42cm、短軸20~33cmの略円形・楕円形を呈し、深さ5~37cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。4か所で平面形が直径12~28cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列: 西から(380) - (356) - 352cm

東側柱列: 北から(274) - (316) - (304) - (315) cm

〔出土遺物〕P2・P3・P5 柱穴堆積土より土師器甕、陶器甕が出土した。

【SA326 柱列跡】(第49図)

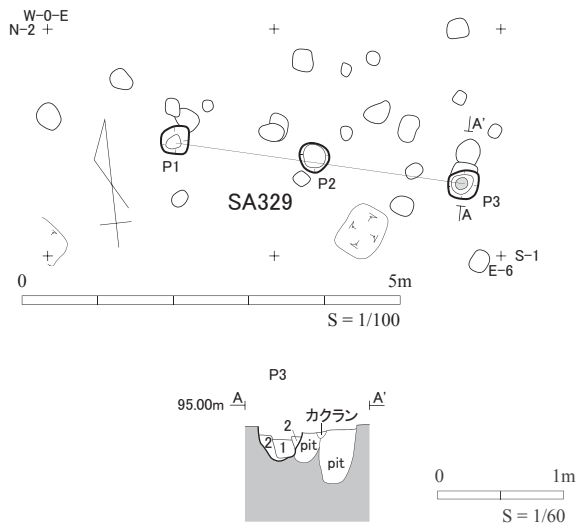
〔位置〕3区南部/平坦面

〔重複〕SI51 → SA326

〔規模・形状〕南北3間(総長1.64m)

〔方向〕N-8° -E

〔柱穴〕4か所確認した。平面形は長軸20~23cm、短軸19~22cmの略円形を基調とし、深さ17~25cmである。堆積土は均質な黒褐色シルトである。柱痕跡は



SA329 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物を少量含む(柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む(柱掘)

SA330 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む(柱掘)

SA330 柱列跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む

SA335 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

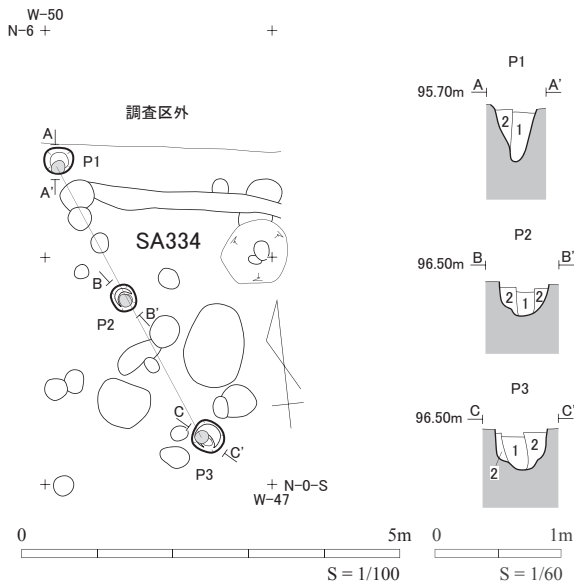
SA335 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

SA335 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱掘)

第51図 SA329・330・335 柱列跡



SA334 柱列跡 P1 A-A'

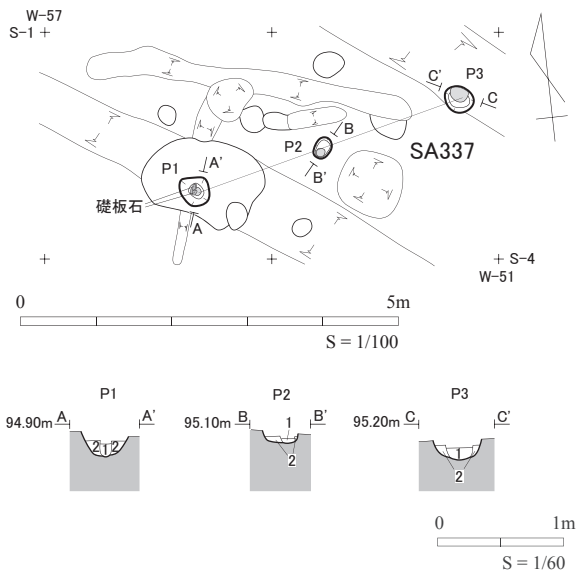
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・砂粒を含む (柱掘)

SA334 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA334 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SA337 柱列跡 P1 A-A'

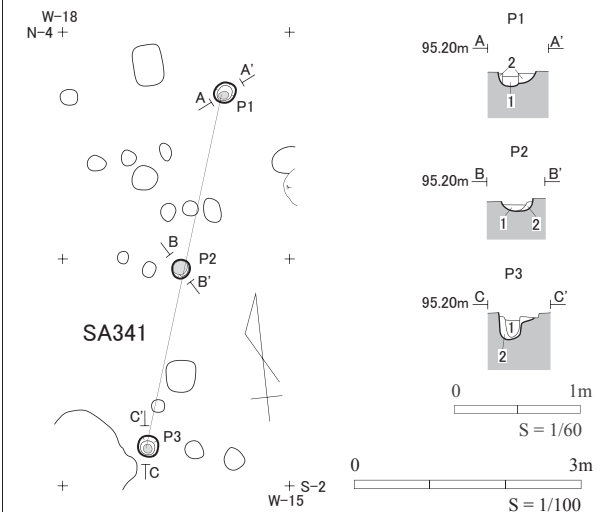
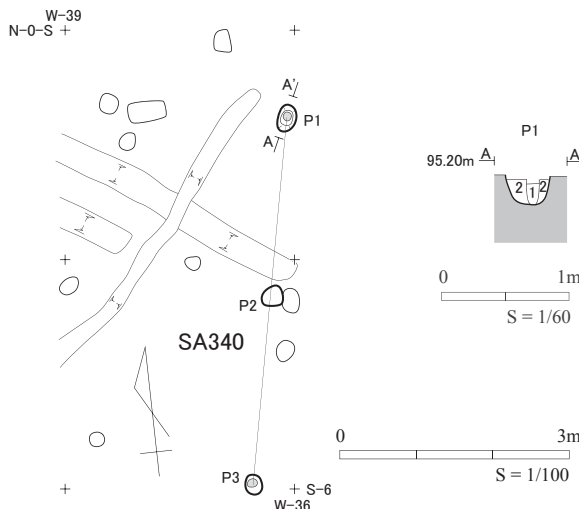
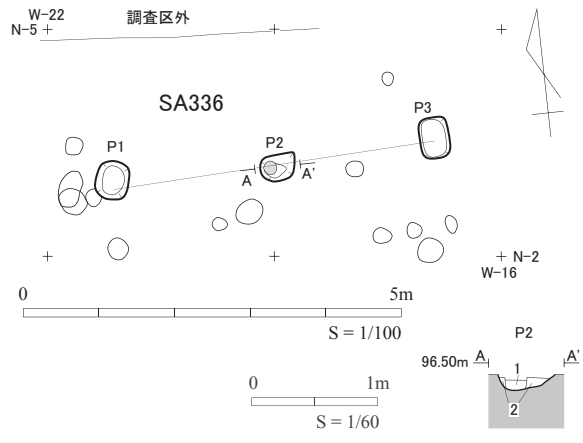
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA337 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA337 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SA341 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA341 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA341 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SA336 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA340 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第52図 SA334・336・337・340・341 柱列跡

確認されなかった。

〔柱間寸法〕北から (56) - (52) - (56) cm

〔出土遺物〕なし

【SA329 柱列跡】(第 51 図、写真図版 11・16)

〔位置〕3 区中央部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕東西 2 間 (総長 3.86m)

〔方向〕W-14° -N

〔柱穴〕3 か所確認した。掘方の平面形は長軸 37~40cm、短軸 37~38cm の隅丸方形を基調とし、深さ 20~30cm である。掘方埋土は地山ブロックを多く含む暗褐色シルトである。1 か所で平面形が直径 16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から (184) - (202) cm

〔出土遺物〕P3 柱穴堆積土より土師器甕が出土した。

【SA330 柱列跡】(第 51 図、写真図版 11・16)

〔位置〕3 区中央部／平坦面

〔重複〕SD24・SD109 → SA330

〔規模・形状〕東西 2 間 (総長 3.58m)

〔方向〕W-13° -N

〔柱穴〕3 か所確認した。掘方の平面形は長軸 32~44cm、短軸 32~37cm の楕円形を呈し、深さ 24~33cm である。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。1 か所で平面形が直径 14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から (176) - (182) cm

〔出土遺物〕P2 柱穴堆積土より土師器甕が出土した。

【SA335 柱列跡】(第 51 図、写真図版 12・16)

〔位置〕3 区西部／南西向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南北 2 間 (総長 3.17m)

〔方向〕N-18° -E

〔柱穴〕3 か所確認した。掘方の平面形は長軸 25~31cm、短軸 20~28cm の隅丸方形・楕円形を呈し、深さ 10~25cm である。掘方埋土は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトである。すべての柱穴で平面形が直径 10~16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北から 147-170cm

〔出土遺物〕P1 柱穴堆積土より土師器坏が出土した。内面にナゲ調整を施す。

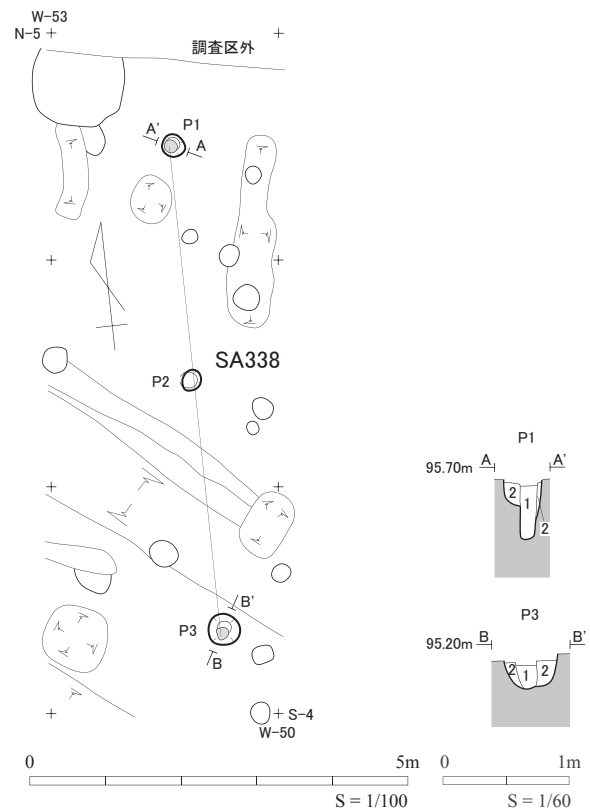
【SA341 柱列跡】(第 52 図、写真図版 16)

〔位置〕3 区西部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南北 2 間 (総長 4.78m)

〔方向〕N-18° -E

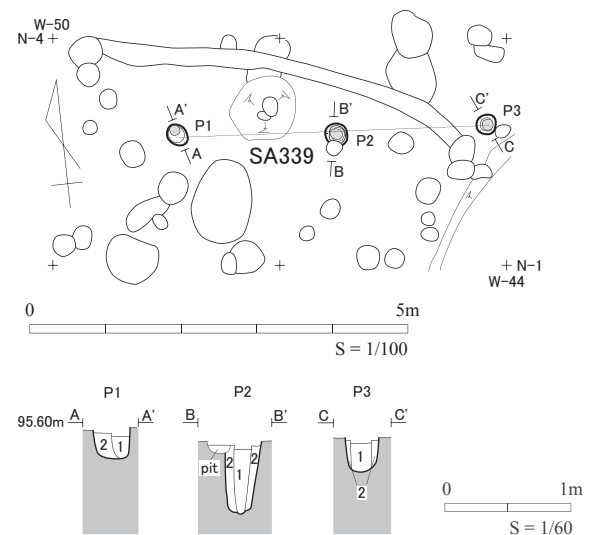


SA338 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む (柱掘)

SA338 柱列跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SA339 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む炭化物粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SA339 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む (柱掘)

SA339 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第 53 図 SA338・339 柱列跡

〔柱穴〕3か所確認した。掘方の平面形は長軸24~28cm、短軸24~27cmの隅丸方形・略円形を呈し、深さ10~25cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。すべての柱穴で平面形が直径12~24cmの円形・楕円形を呈する柱痕跡を確認した。
〔柱間寸法〕北から232-246cm
〔出土遺物〕なし

(4) 井戸跡

【SE36 井戸跡】(第54図、写真図版18)

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SE36 → SK110

〔規模・形状〕平面形が長軸114cm、短軸104cmの略円形を呈し、深さ85cmの円筒形で上部が漏斗形に開く。

〔堆積土〕下部に層厚4~5cmで均質な黒褐色シルトが堆積し、機能時の堆積土と考えられる。上部は地山ブロックを多く含む黒褐色・灰黄褐色シルトで、廃絶後の人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏が出土した。

【SE144 井戸跡】(第54図、写真図版18)

〔位置〕3区西部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸120cm、短軸96cm以上の略円形、断面形が深さ102cmの逆台形を呈する。
〔堆積土〕地山ブロック・粒、炭化物粒、礫を含む黒褐色シルト、にぶい黄褐色・にぶい黄橙色粘土で、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器小型甕、須恵器甕が出土した。土師器小型甕は頸部に段を持たず、外面の胴部にハケメ調整を施す。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

(5) 土坑

【SK101 土坑】(第55図、写真図版17)

〔位置〕3区西部／平坦面

〔重複〕SK102・SK103 → SK101

〔規模・形状〕平面形は長軸204cm、短軸134cmの不整楕円形、横断面形は深さ78cmの不整なU字形を呈する。

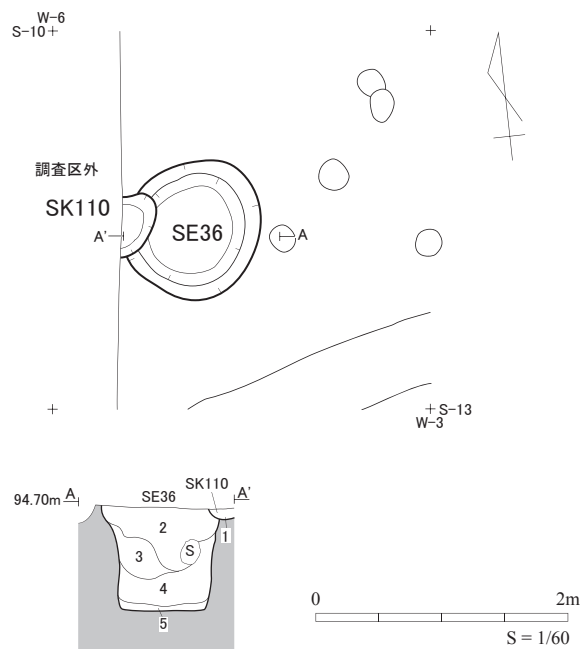
〔堆積土〕地山ブロックを多く含む黒褐色シルト・灰黄褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕が出土した。

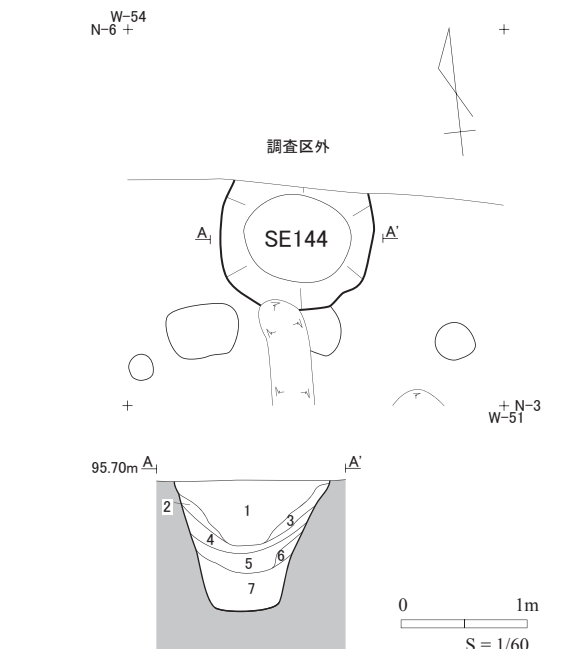
【SK102 土坑】(第55図、写真図版17)

〔位置〕3区西部／平坦面

〔重複〕SK103 → SK102 → SK101



SK110 土坑・SE36 井戸跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む
3	10YR4/2 灰黄褐	シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む
4	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを少量含む
5	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (機能時堆)



SE144 井戸跡 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む 礫を含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
6	10YR5/3 にぶい黄褐	粘土	均質土
7	10YR6/4 にぶい黄橙	粘土	黒褐色土を少量含む 砂粒を含む

第54図 SE36・144井戸跡, SK110土坑

〔規模・形状〕平面形は長軸 186cm、短軸 122cm 以上の不整形、横断面形は深さ 52cm の不整な逆台形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロックを多く含む黒褐色・褐色シルト、褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器甕が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SK103 土坑】(第 55 図、写真図版 17)

〔位置〕3 区西部／平坦面

〔重複〕SK103 → SK101・SK102

〔規模・形状〕平面形は長軸 90cm 以上、短軸 66cm の不整楕円形、横断面形は不整な逆台形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロックを多く含む黒褐色シルト、褐色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SK112 土坑】(第 56-57 図、写真図版 17・58)

〔位置〕3 区南部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形は長軸 53cm、短軸 44cm の隅丸方形、断面形は深さ 28cm の逆台形を呈する。

〔堆積土〕地山小ブロック・粒、小礫を含む黒褐色シルト、暗褐色砂質シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏(第 57 図 4)が出土した。体部が内弯し口縁部が直線的に外傾する有段丸底坏であるが、外面の口縁部と体部の境がわずかに屈曲し明瞭な段を形成しない。外面の口縁部にヨコナデ→体部～底部にヘラケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ、体部にナデ調整を施し、黒色処理を施さない。

【SK118 土坑】(第 56 図)

〔位置〕3 区南部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形は長軸 88cm、短軸 84cm の略円形、断面形は深さ 19cm で底部が広い台形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理、甕は外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SK125 土坑】(第 56-57 図、写真図版 58)

〔位置〕3 区東部／平坦面

〔重複〕SD123 → SK125

〔規模・形状〕平面形は長軸 112cm、短軸

82cm の楕円形、断面形は深さ 14cm の皿状を呈する。

〔堆積土〕均質な黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏、中世陶器甕(第 57 図 5)が出土した。

【SK131 土坑】(第 56 図)

〔位置〕3 区西部／平坦面

〔重複〕SK131 → SB139・SA337

〔規模・形状〕平面形は長軸 164cm、短軸 102cm の不整楕円形、断面形は深さ 9cm の皿状を呈する。

〔堆積土〕地山ブロック・砂を多く含む明黄褐色砂質シルトで、人為的埋土と考えられる。

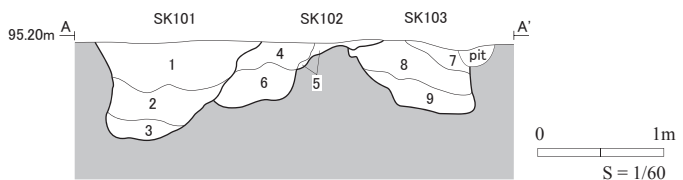
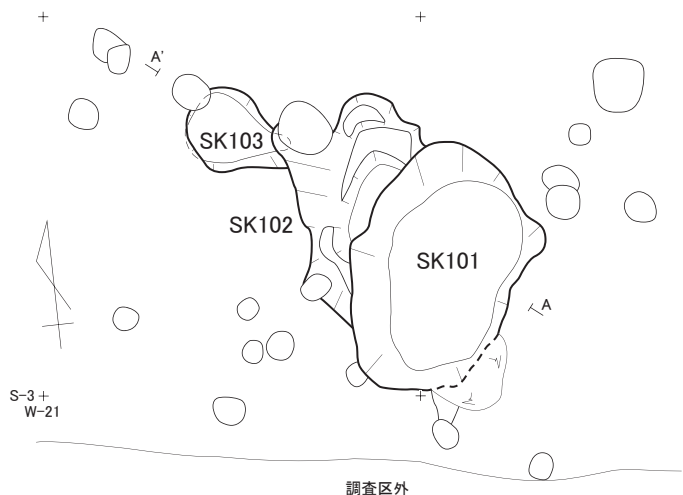
〔出土遺物〕堆積土・遺構確認面より土師器坏・甕が出土した。坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理、甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SK142 土坑】(第 56 図)

〔位置〕3 区西部／平坦面

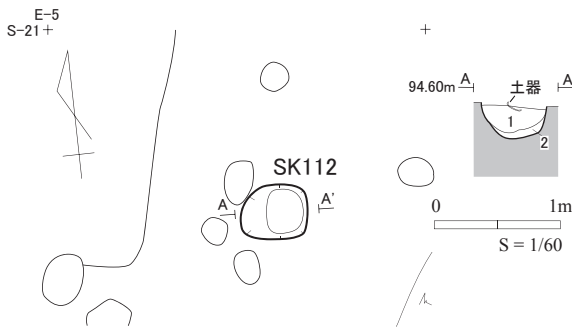
〔重複〕SK142 → SK143・SD132

〔規模・形状〕平面形は長軸 81cm、短軸 61cm の楕円形、

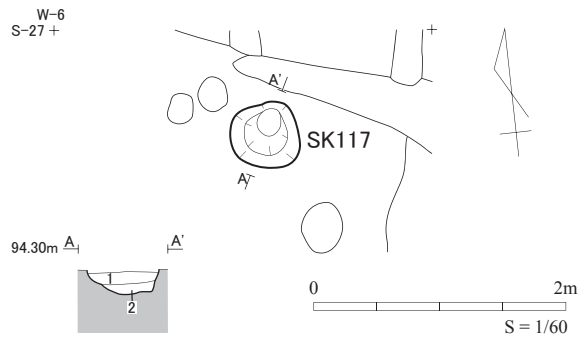


SK101・102・103 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 小礫を少量含む (SK101 人為)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK101 人為)
3	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK101 人為)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 小礫を少量含む (SK102 人為)
5	10YR4/6 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK102 人為)
6	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 小礫を多量に含む (SK102 人為)
7	10YR4/4 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・砂を多量に含む (SK103 人為)
8	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK103 人為)
9	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (SK103 人為)

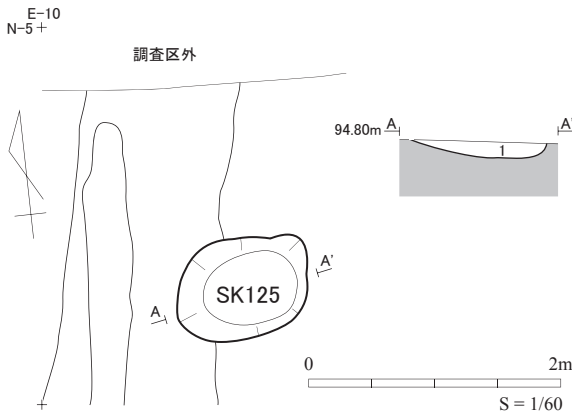
第 55 図 SK101・102・103 土坑



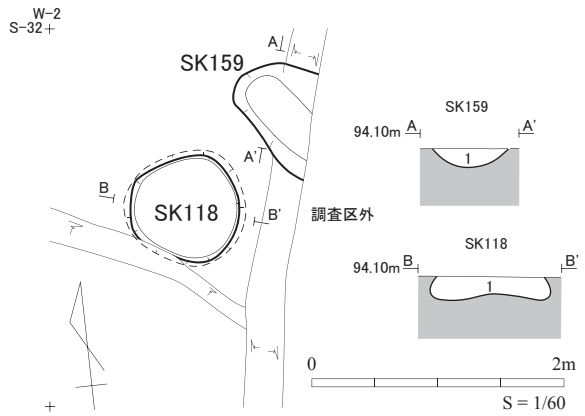
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土小ブロックを少量含む
2	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒・小礫を多量に含む



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土小ブロックを少量含む
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土小ブロックを多量に含む (人為)

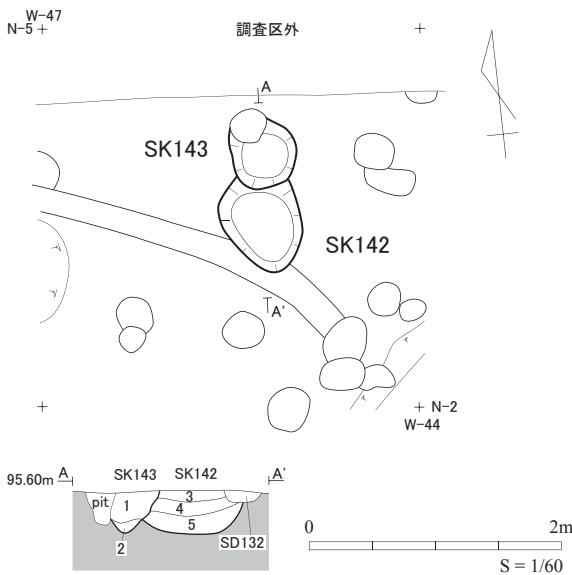


No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土



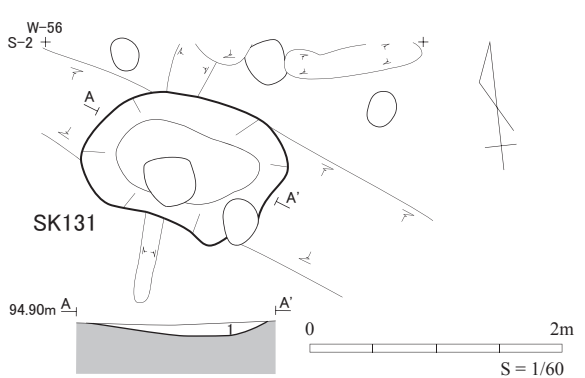
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

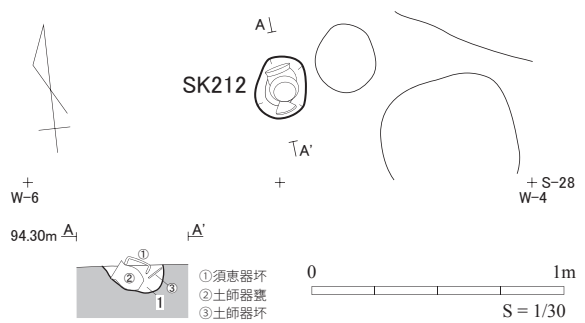


No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を少量含む (SK143 堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (SK143 堆)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (SK142 堆)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (SK142 堆)
5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (SK142 堆)

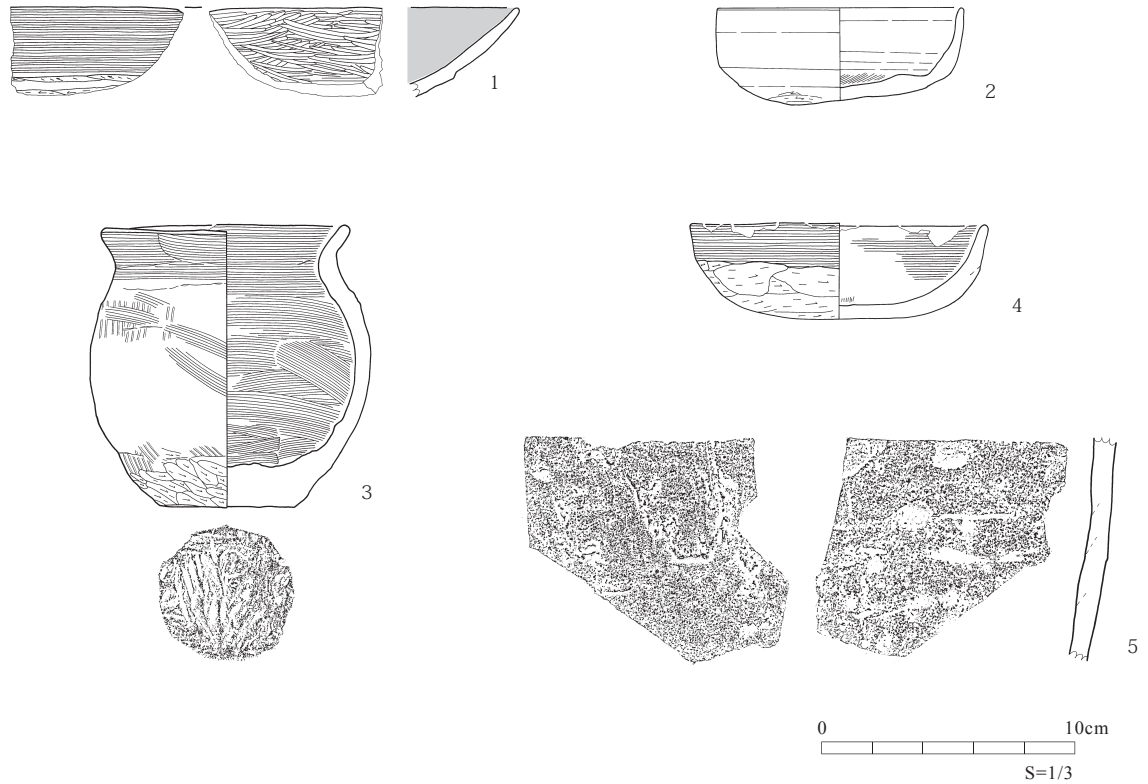
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む



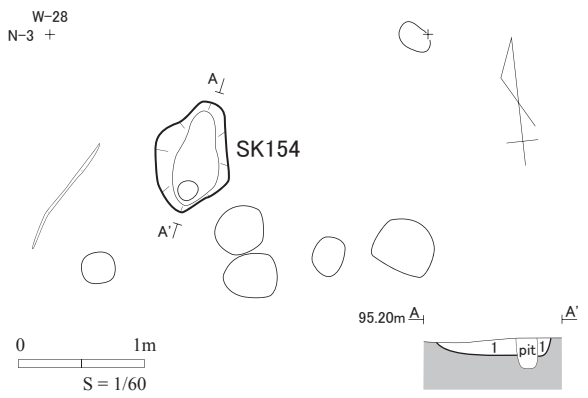
No.	土色	土性	備考
1	10YR6/6 明黄褐	砂質シルト	黄褐色ローム小ブロック・砂を密に含む



第56図 SK112・117・118・125・131・142・143・212 土坑



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK212	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理, 外面：(口) ヨコナデ, (体) ケズリ	-	-	(3.5)	一部	001	58-7
2	SK212	堆積土, Pot.1	須恵器	坏	内面：ロクロナデ→(底) ヘラナデ, 外面：ロクロナデ→(底) ケズリ 内面：(底) 幅 3.5cm, ヘラナデ (長さ約 4cm) による器形の歪み	9.8	-	3.6	略完形	003	58-9
3	SK212	堆積土, Pot.2	土師器	小型甕	内面：(口) ヨコナデ→(胴) ヘラナデ, 外面：(口) ヨコナデ, (胴) ハケメ→ナデ→ヘラケズリ, (底) ケズリ	9.9	5.4	11.3	略完形	002	58-8
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
4	SK112	堆積土上層	土師器	坏	内面：(口) ヨコナデ, (体) ナデ, 外面：ヨコナデ→ヘラケズリ 7.5YR8/4 浅黄橙色	11.8	-	3.8	完形	004	58-2
No.	遺構名	層位	種類	器種	特徴	部位			登録	写真	
5	SK125	堆積土	中世陶器	甕	内面：ナデ, 自然釉、積み痕顕著 外面：ヘラナデ	胴部			252	58-5	

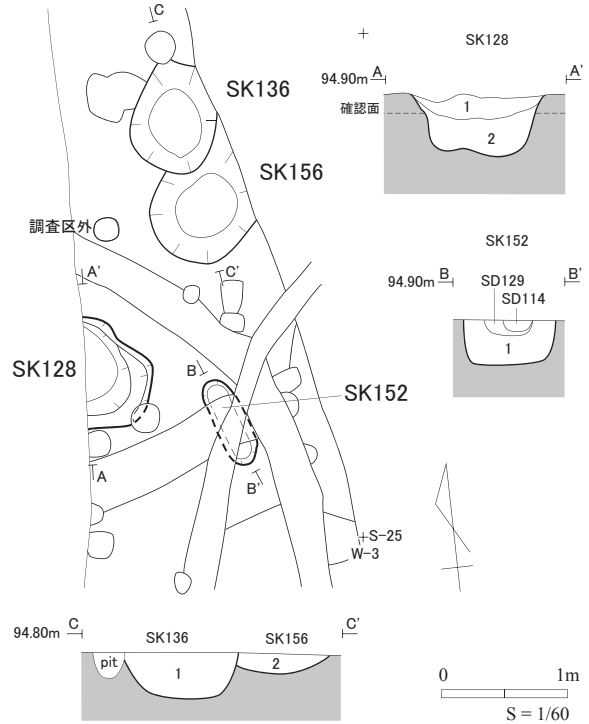


SK128 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む

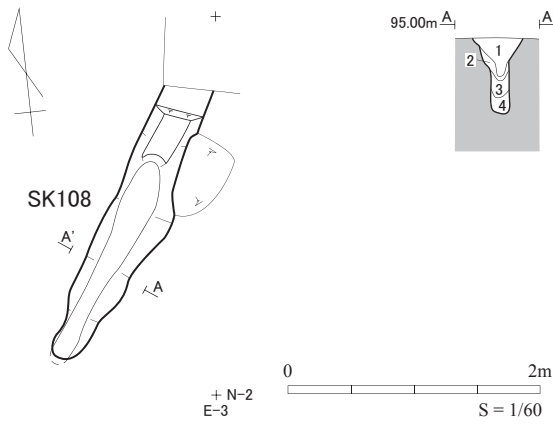
SK136・SK156 土坑 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (SK136 堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK156 堆)

SK152 土坑 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK154 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む

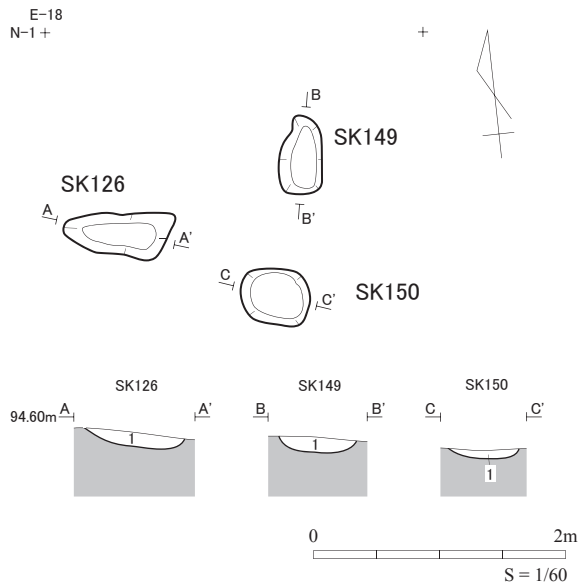


第 57 図 SK112・125・212 土坑出土遺物, SK128・136・152・154・156 土坑



SK108 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (崩)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
4	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土



SK126 土坑 A-A'

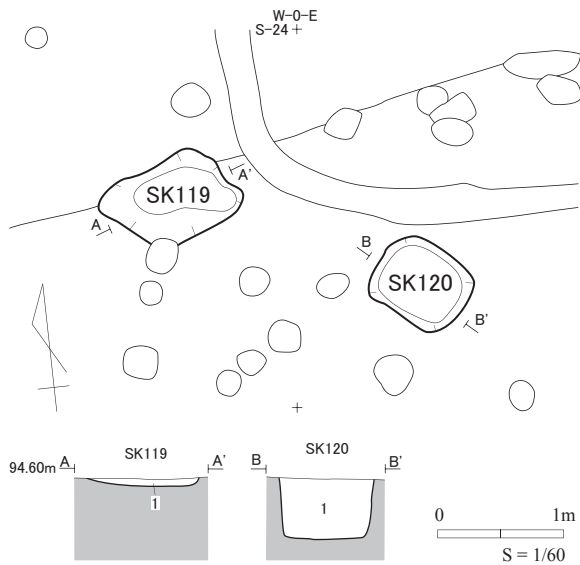
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SK149 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土

SK150 土坑 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土

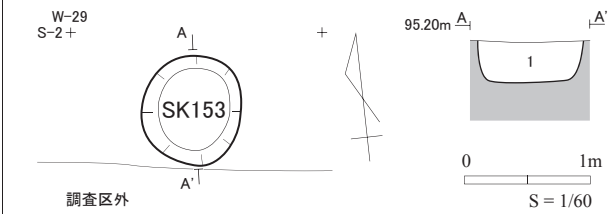


SK119 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を少量含む 炭化物を多量に含む (人為)

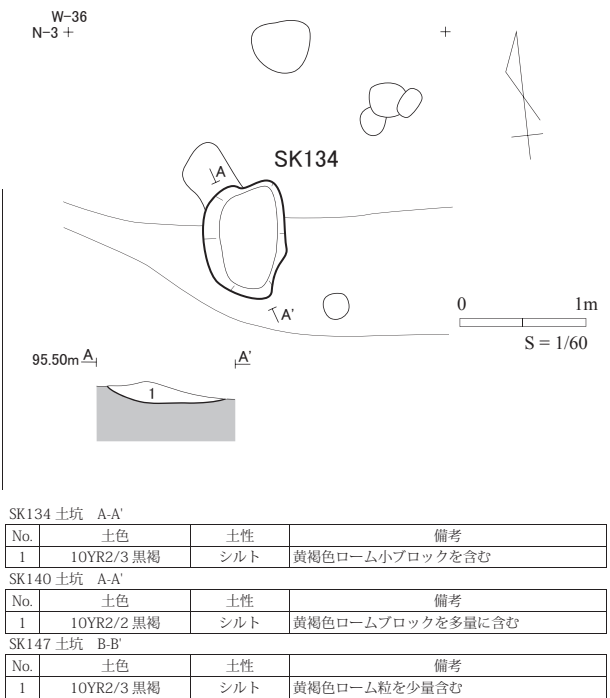
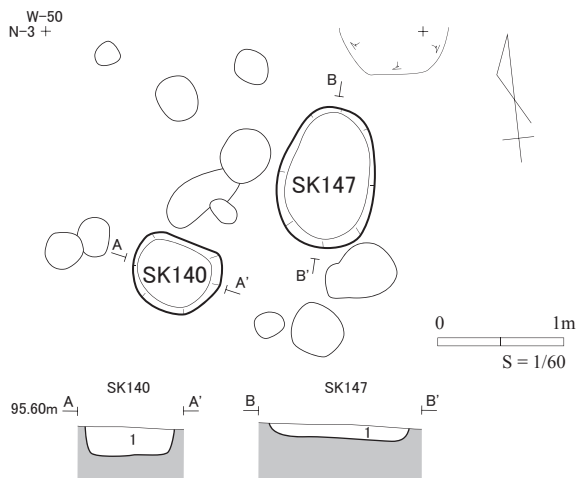
SK120 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)



SK153 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



SK134 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む

SK140 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK147 土坑 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

第58図 SK108・119・120・126・134・140・147・149・150・153 土坑

断面形は深さ 26cm の逆台形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器甕、ロクロ土師器坏が出土した。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。

【SK143 土坑】(第 56 図)

〔位置〕3 区西部／平坦面

〔重複〕SK142 → SK143

〔規模・形状〕平面形は長軸 60cm 以上、短軸 53cm の不整楕円形、断面形は深さ 39cm の楕円形を呈する。

〔堆積土〕地山小ブロック・粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

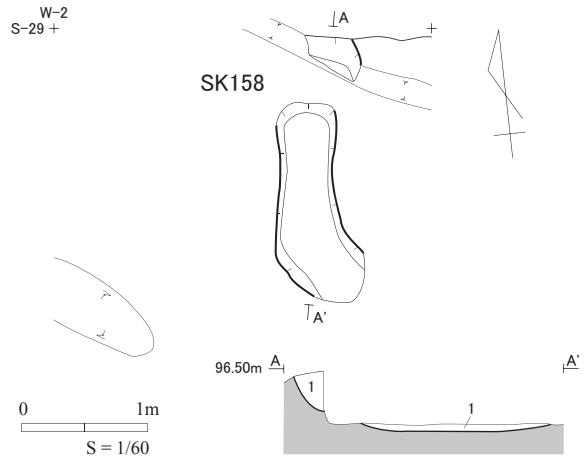
〔出土遺物〕堆積土よりロクロ土師器高台付坏、須恵器小型品が出土した。ロクロ土師器高台付坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に高台部付加→ロクロナデ調整を施す。

【SK212 土坑】(第 56-57 図、写真図版 17・58)

〔位置〕3 区南部／平坦面

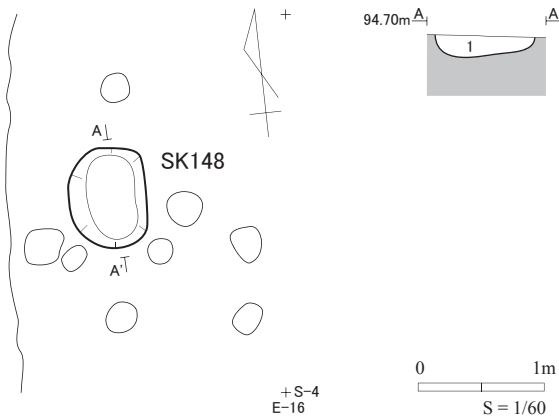
〔重複〕SK212 - SI113

〔規模・形状〕平面形は長軸 24cm、短軸 20cm の隅丸方形、断面形は深さ 13cm の U 字形を呈する。



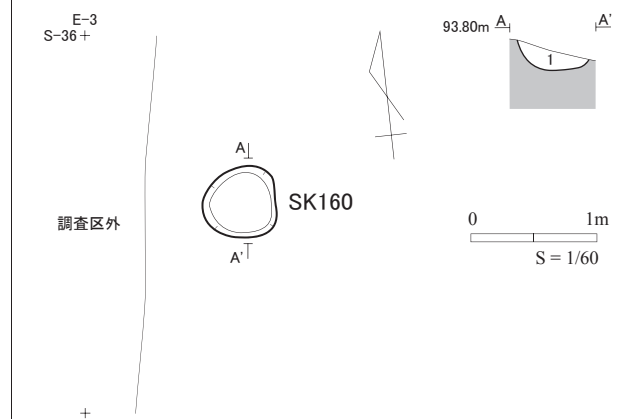
SK158 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む



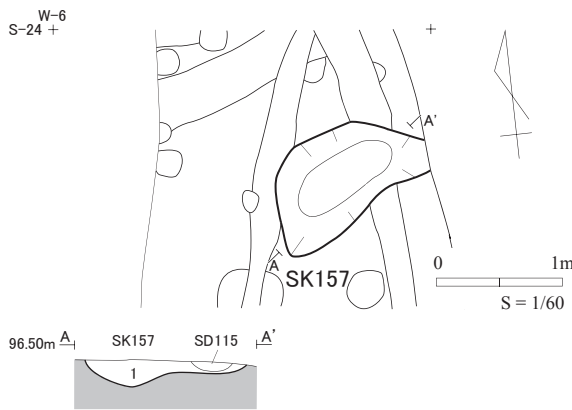
SK148 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土



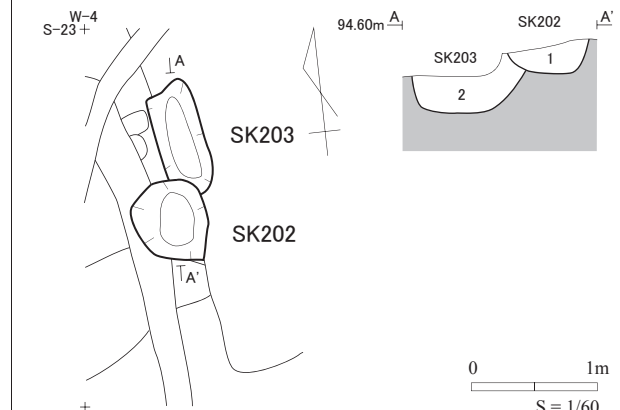
SK160 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む



SK157 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土



SK202・203 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (SK202 堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (SK203 堆)

第 59 図 SK148・157・158・160・202・203 土坑

〔堆積土〕地山粒を多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕土師器坏（第57図1）・小型甕（第57図3）、須恵器坏（第57図2）が出土した。小型甕は底面に斜位に置かれ、その上から須恵器坏と土師器坏が出土した。

土師器坏は有段丸底坏の破片で体部から口縁部にかけて内弯する。外面の体部に段を持ち、口縁部にヨコナデ、体部にケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。小型甕は平底で胴部中位に最大径を持ち、胴部が内弯し、口縁部が外傾する。外面の頸部に段を持たず、口縁部にヨコナデ、胴部にハケメ→ナデ→胴部下位～底部にケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ→胴部にナデ調整を施す。須恵器坏は丸底で体部下端に稜を持ち、体部～口縁部が内弯する。内外面ロクロナデ調整の後、底部の内面にナデ調整、外底面にケズリ調整を施す。

（6）溝跡

〔SD24 溝跡〕（第60図・63図、写真図版18・58）

〔位置〕3区東部～南部／平坦面

〔重複〕SD50・SD109→SD24→SA330

〔規模・形状〕南北方向に直線的に延びる。3区東部で長さ10m、南部で長さ4.5m、延長26.6mを確認し、さらに調査区外の南北へ延びている。上幅112～137cm、底幅20～37cm、深さ36～52cmで、横断面形が逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で南へ向かって緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕地山ブロック・粒、炭化物粒を含む黒色・黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏、須恵器甕・小型品、遺構確認面より石製紡錘車（第63図5）が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。須恵器甕は内面に無文アテ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。石製紡錘車（第63図5）は緑色片麻岩製で縦断面が台形を呈する。研磨によって仕上げられており、中央部に穿孔がある。下部を欠損する。

〔SD38 溝跡〕（第61図・63図、写真図版18・58）

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SI51→SD38→SD116

〔規模・形状〕やや蛇行しながら南北方向に6.9m延び、南端部で屈曲して東へ7.5m以上延びる。また、南辺の中央付近から分岐して南へ3m以上延びている。確認した延長は17.4mである。南・北端は削平により消失し、東端は調査区外へ延びている。北東側で確認したSD155溝跡と接続して東西約10m、南北約8.5m

の隅丸方形の区画を形成していた可能性がある。上幅19～39cm、底幅10～23cm、深さ7～15cmで、横断面形は皿状を呈する。底面は凹凸がみられ、南へ向かってわずかに傾斜している。

〔堆積土〕地山粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏、ロクロ土師器甕、赤焼土器坏（第63図2）が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。赤焼土器坏（第63図2）は体部～口縁部が直線的に外傾する。内面はロクロナデ調整の後、平滑に調整されており、整形具の使用が考えられる。回転糸切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。

〔SD50 溝跡〕（第62～63図、写真図版16・18・58）

〔位置〕3区南部／平坦面

〔重複〕SD50→SD24・SD109・SD155－SB106・SB327・SA325

〔規模・形状〕東西方向にやや蛇行しながら9m以上延び、東端で107°の角度で屈曲して南へ直線的に9.5m延び、南端で103°の角度で屈曲して東へ1m以上延びる。確認した延長は16mである。西側は調査区外へ延び、東端はSD109に壊されている。上幅29～78cm、底幅17～54cm、深さ24～48cmで、横断面形はやや不整な逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、西へ向かって緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕下部に層厚12～18cmで均質な黒褐色シルトが堆積し、機能時の堆積土と考えられる。上部は焼土・白色粘土ブロックを多く含む黒褐色・暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕、須恵器坏、堆積土上層より須恵器蓋（第63図1）が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整を施す。甕は外面の頸部に段を持たないものと、痕跡的な段を持つものがある。須恵器蓋（第63図1）は体部が直線的に外傾し、口縁端部を短く折り返す。外面の天井部に回転ヘラケズリ→ツマミ部取り付け→ナデ調整を施す。

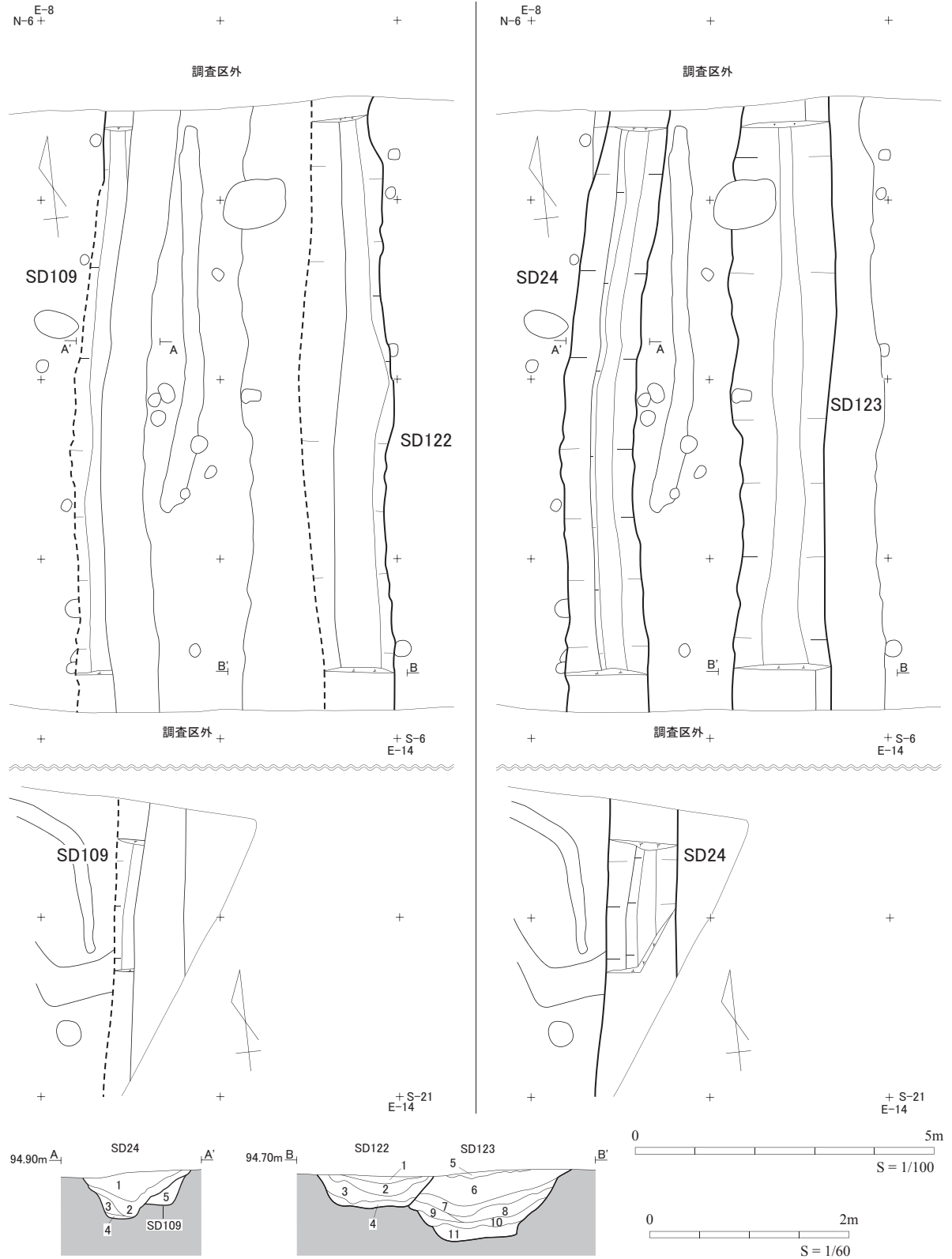
〔SD109 溝跡〕（第60図、写真図版18）

〔位置〕3区東部～南部／平坦面

〔重複〕SD50→SD109→SD24・SA330

〔規模・形状〕南北方向に直線的に延びる。3区東部で10m、南部で4.5m、延長26.6mを確認し、さらに調査区外の南北へ延びている。東側をSD24溝跡に壊されている。上幅60cm以上、底幅35cm以上、深さ29～50cmで、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、南へ向かって緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕地山小ブロック・粒を含む黒色シルトで、



SD24・109 溝跡 A-A'

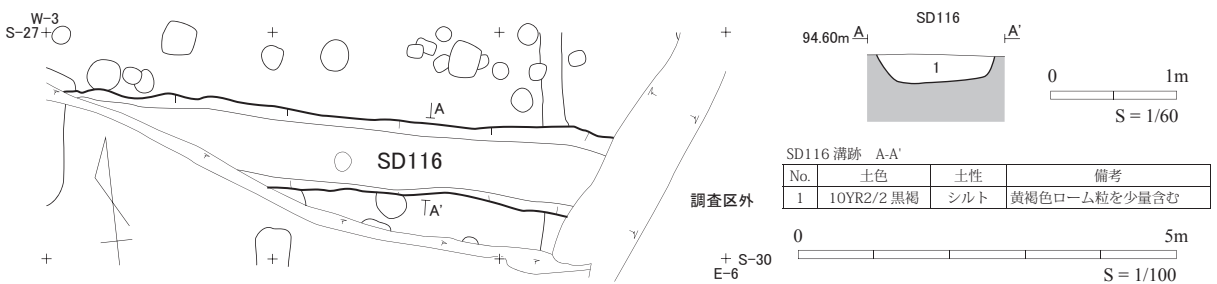
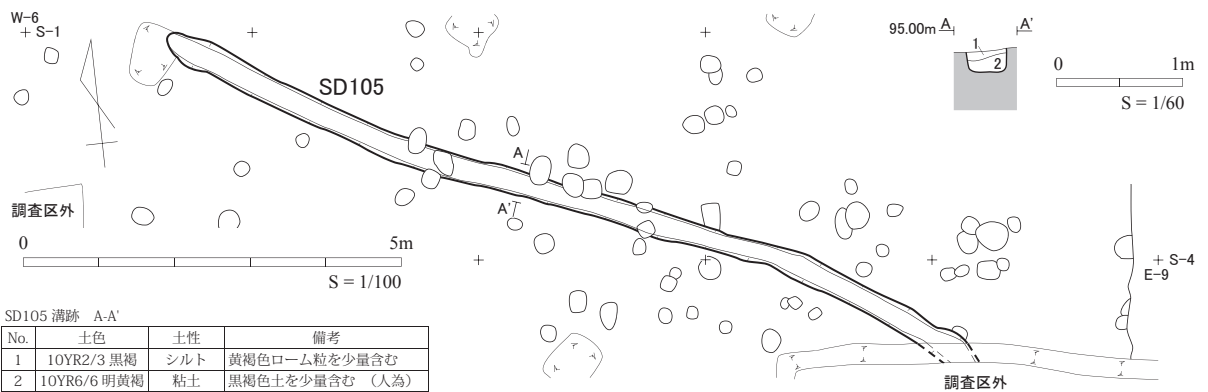
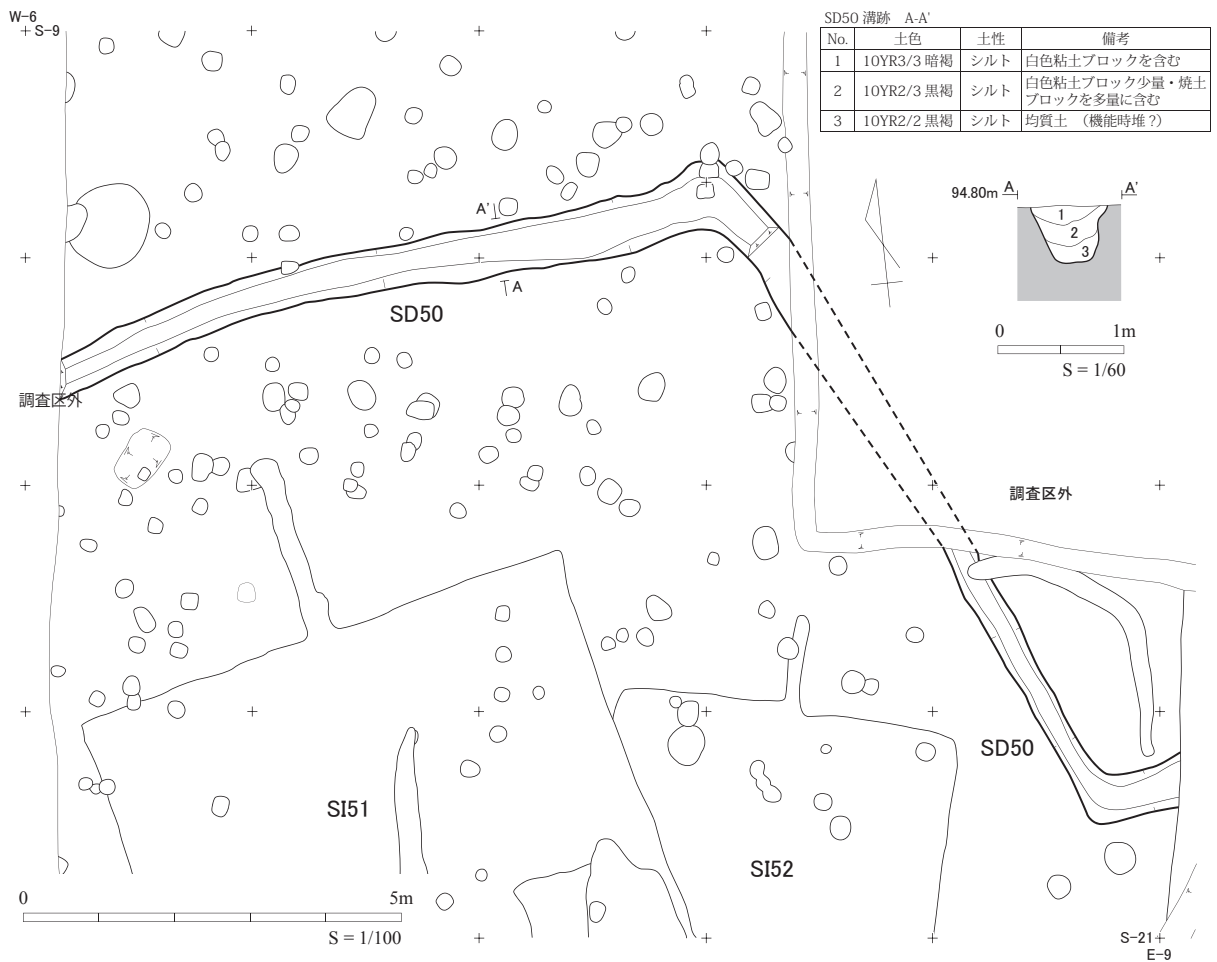
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物を少量含む (SD24 堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (SD24 堆)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (SD24 堆)
4	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (SD24 堆)
5	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む (SD109 堆)

SD122・123 溝跡 B-B'

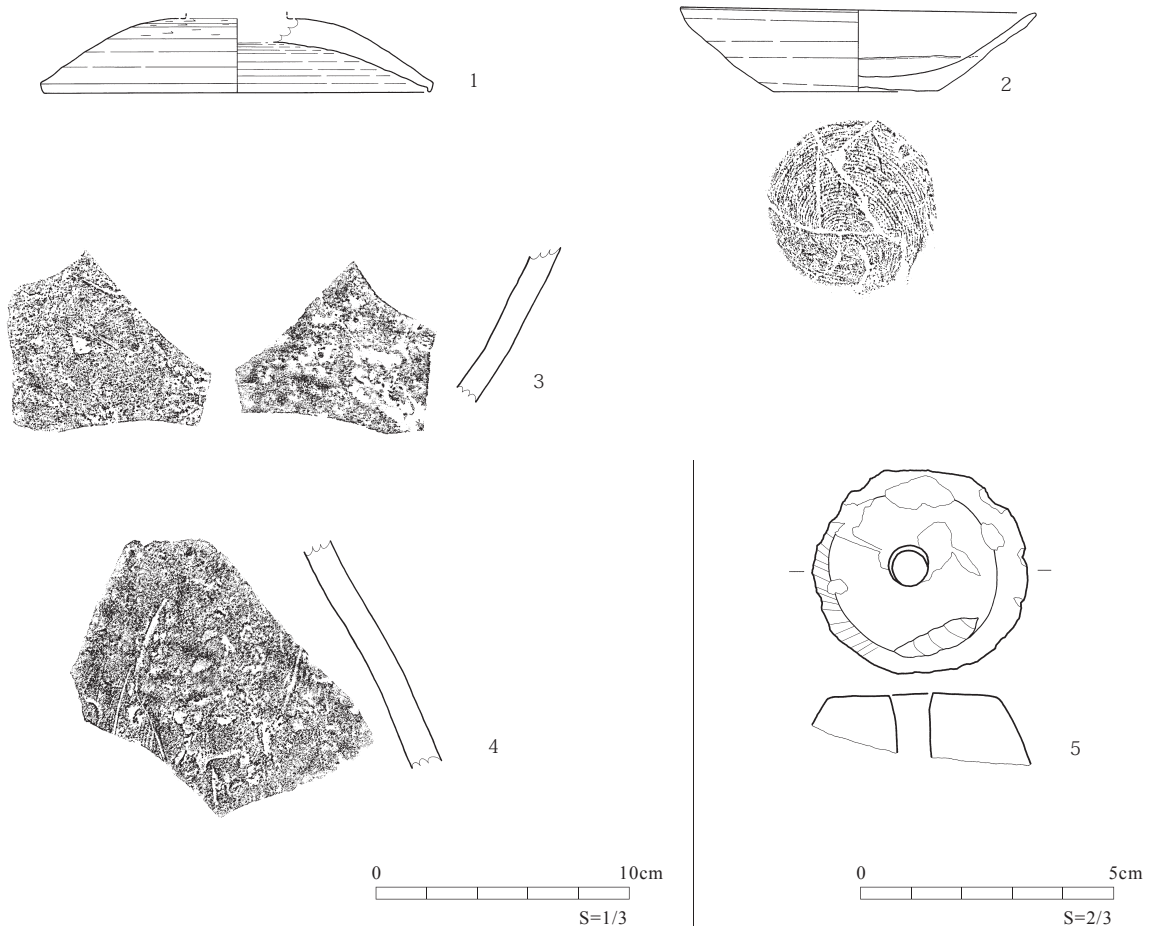
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (SD122 堆)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (SD122 堆)
3	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (SD122 堆)

No.	土色	土性	備考
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒、炭化物を少量含む (SD122 堆)
5	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (SD123 堆)
6	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物・礫を少量含む (SD123 堆)
7	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物を少量含む (SD123 堆)
8	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む炭化物粒・礫を少量含む (SD123 堆)
9	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (SD123 堆)
10	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (SD123 堆)
11	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む 砂を少量含む (SD123 堆)

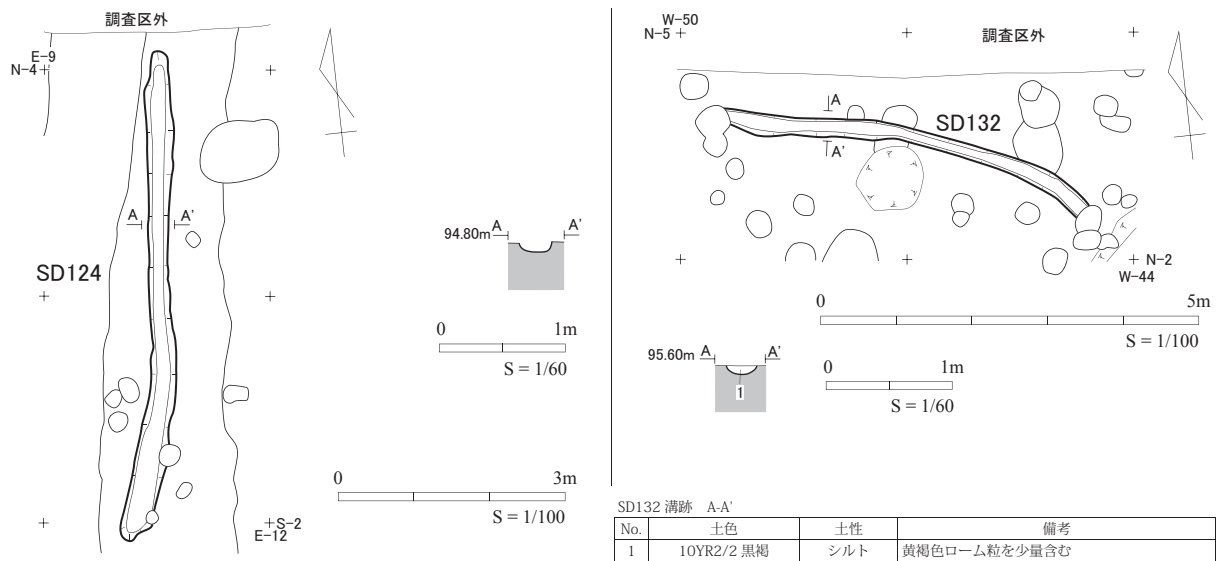
第 60 図 SD24・109・122・123 溝跡



第 62 図 SD50・105・116 溝跡



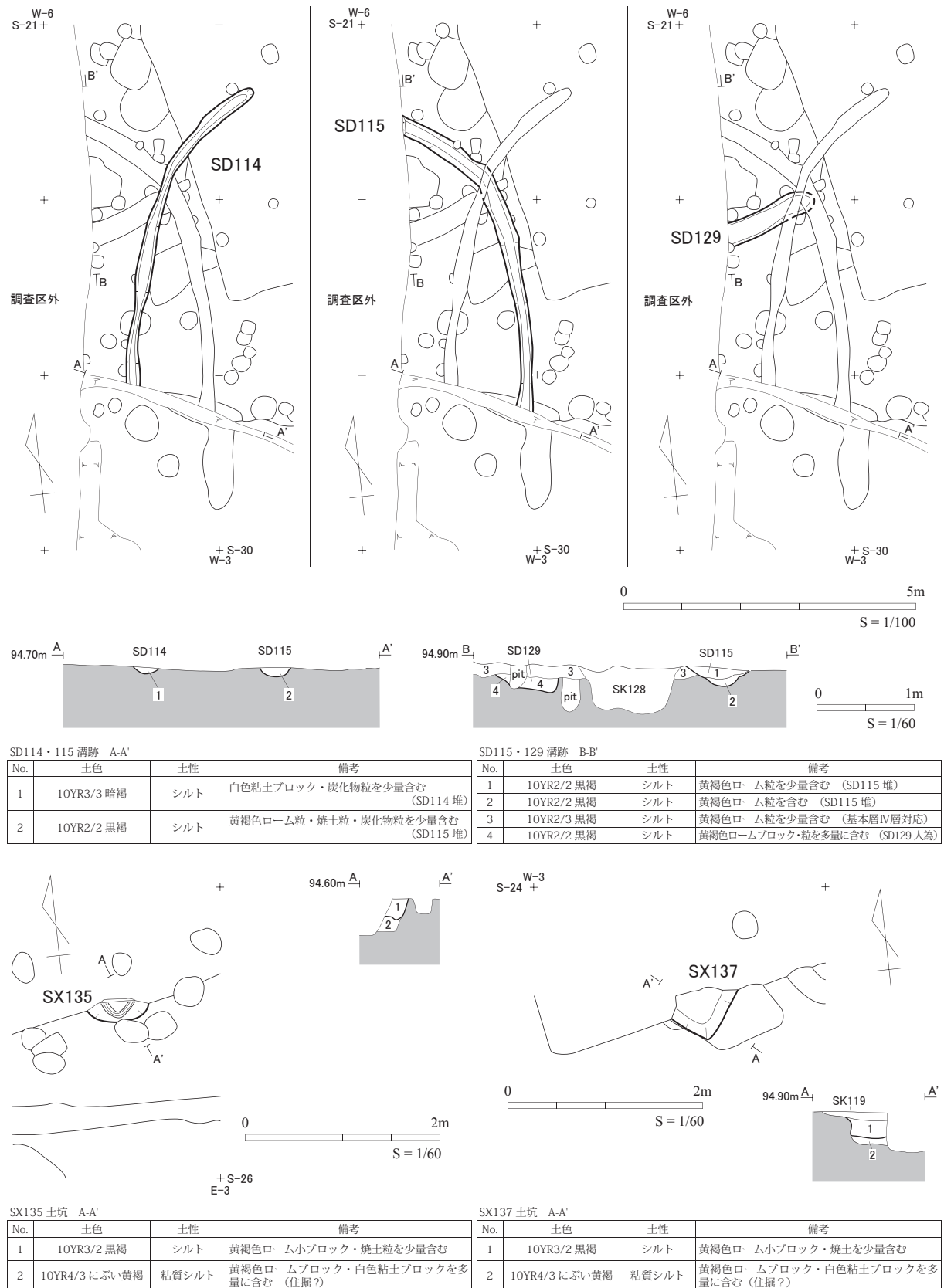
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真		
						口径	底径	器高					
1	SD50	堆積土上層	須恵器	蓋	内面：ロクロナデ，外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→ツマミ取付け→ナデ	(15.6)	-	(2.9)	1/2	165	58-6		
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真		
2	SD38	堆積土	赤焼土器	坏	内面：ロクロナデ→平滑に調整，外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整	14.1	6.6	3.3				略完形	005
No.	遺構	層位	種類	器種	特徴			部位	登録	写真			
3	SD123	堆積土	中世陶器	甕か鉢	内面：ナデ、自然釉 外面：ヘラナデ			胴部	253	59-1			
4	SD122 SD123	堆積土	中世陶器	甕	内面：ナデ、自然釉 外面：ヘラナデ			胴部	254	59-2			
No.	遺構	層位	種類	石材	特徴			法量 (mm・g)		残存	登録	写真	
5	SD24	確認面	紡錘車	緑色片麻岩	孔径 6.5 ~ 7.1 mm			長	幅				厚



第63図 SD24・38・50・122・123 溝跡出土遺物，SD124・132 溝跡

化物粒を含む黒褐色シルト、褐灰色粘質シルトで、いずれも自然流入土と考えられる。
〔出土遺物〕SD122・123 溝跡堆積土より土師器坏・甕、中世陶器甕（第63図4）、凝灰岩製の砥石の破片、

SD123 溝跡堆積土より中世陶器甕または鉢（第63図3）が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整を施すもの、ヘラミガキ調整→黒色処理を施すものがある。甕は外面にハケメ調整を施す。



第64図 SD114・115・129 溝跡, SX135・137 性格不明遺構

4.4区

遺跡範囲の東部に位置し、東西に186m、南北10~23mの調査区である。調査区内はほぼ平坦で、東へ向かって緩やかに傾斜する。中央部から東部にかけては前回のほ場整備に伴う整地工事による削平が著しく、確認された遺構は少ない。遺構確認面は現地表面から深さ15~25cmのIV~VI層上面である。遺構は竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡32棟、柱列跡11条、溝跡8条、井戸跡6基、土坑23基、水溜め状遺構1基、畝溝状遺構1基を確認した(第65図、写真図版19)。

(1) 竪穴住居跡

【SI4 竪穴住居跡】(第66-68図、写真図版20・27・59)

〔位置〕4区中央部/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長軸4.30m、短軸4.10m/方形

〔方向〕カマド中軸線:N-7°-E

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大17cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック・粒を含む黒色・黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕住居平面形の対角線上で4か所(P1~P4)を確認した。柱穴掘方の平面形は長軸40~48cm、短軸30~38cmの略円形・楕円形を呈する。深さは21~30cmで、いずれも平面形が直径16~24cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕カマド・貯蔵穴が位置する住居北東部を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅8~22cm、底幅5~16cm、深さ2~8cmで横断面形がU字形を呈する。堆積土は地山ブロックを少量含む黒色シルトで、壁材痕跡に伴う溝状の掘方は確認されない。

〔カマド〕住居北辺中央やや東寄りに付設する。幅115cm、奥行74cmの燃焼部が残存し、焚口幅は58cmである。燃焼部底面は幅58cm、奥行72cmで、床面より3cmほど皿状に窪む。側壁は長さ42~52cm、幅32~40cm、残存高16cmである。奥壁は住居北壁より28cm張り出す。右側壁先端付近の床面で被熱により赤色化した角柱状の凝灰岩切石が出土した。カマドの焚口部を構成していた構築材と考えられる。側壁構築土は褐色粘土を用いている。

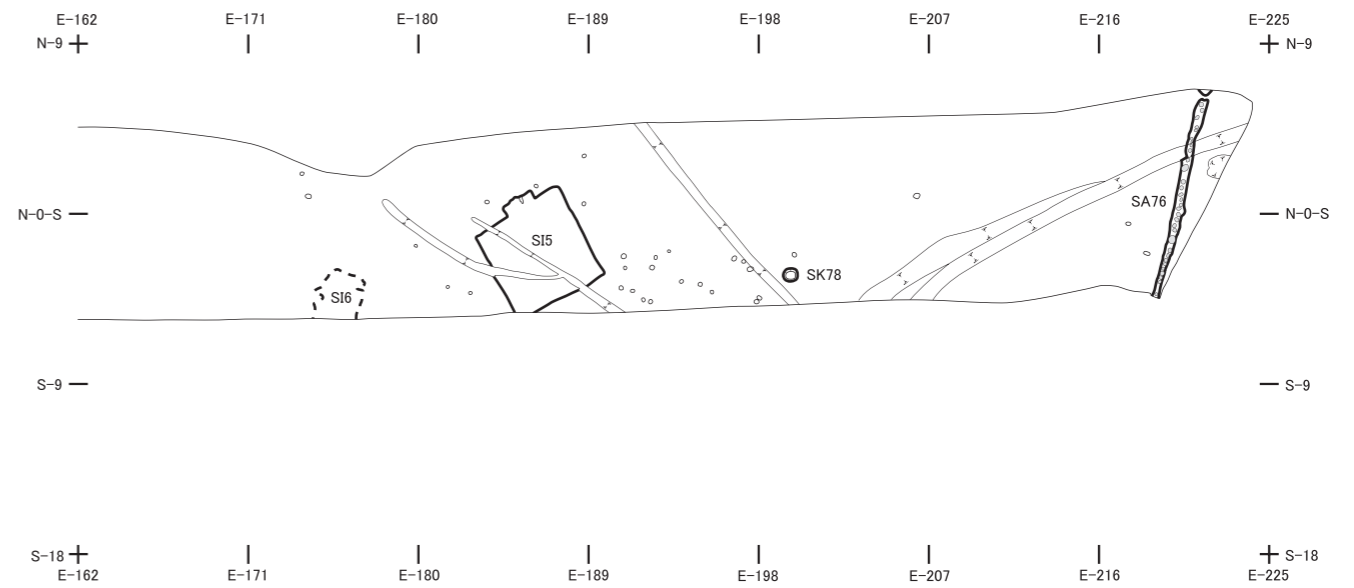
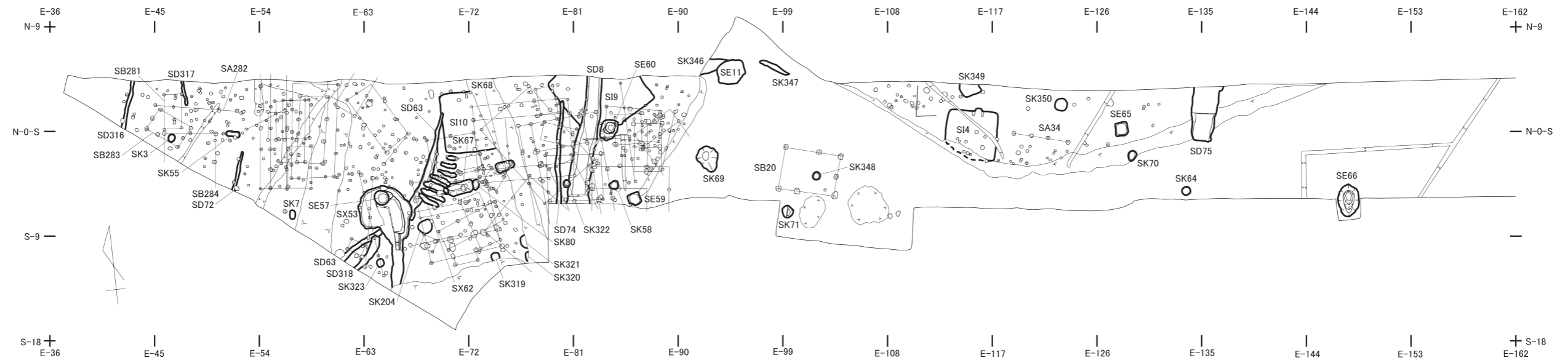
〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅で土坑1基(K1)を確認した。平面形が長軸95cm、短軸80cmの隅丸

方形を呈し、断面形は深さ28cmの逆台形を呈する。堆積土は地山ブロック・粒を含む黒色・黒褐色シルトで人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕床面で2基(K2・K3)、住居掘方底面で4基(K4~K7)の土坑を確認した。K2は平面形が長軸135cm、短軸100cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ24cmの逆台形を呈する。K3は平面形が長軸77cm、短軸44cmの楕円形を呈し、断面形は深さ15cmの箱形を呈する。堆積土はいずれも地山・焼土ブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。住居掘方底面で確認したK4~K7は、平面形が長軸51~110cm、短軸35~80cmの楕円形・不整楕円形・不整形を呈し、断面形は深さ11~22cmの逆台形・箱形を呈する。堆積土は地山・焼土ブロックを多量に含む黒色・黒褐色・暗褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器坏(第68図1・3)、住居内堆積土より焼成粘土塊(写真図版59-8)、カマド内堆積土より土師器甕(第68図6)、K1堆積土より土師器坏(第68図2)・高坏(第68図4)・高坏?(第68図5)・甕(第68図7)、が出土した。

土師器坏は有段丸底坏で体部から口縁部にかけて内弯するもの(第68図1・3)と、平底気味の無段丸底坏で体部が内弯し口縁部がわずかに外反するもの(第68図2)とがある。第68図1・3は外面の体部と口縁部の境にわずかに段を持ち、口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ調整を施す。内面にヘラミガキ調整を施し、黒色処理を施さない。ただし、第68図1は外面の体部~底部、内面の底部に被熱による器壁の剥離が認められることから、内面の黒色処理が二次被熱により消失した可能性もある。第68図2は外面の体部にナデ→口縁部にヨコナデ調整、外底面に木葉痕→体部下位~底部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面の体部に粘土紐の輪積み痕跡を多く残す。高坏(第68図4)は坏部の体部外面に段を持ち口縁部が外傾する。外面の口縁部にヨコナデ、体部~脚部にヘラケズリ調整を施し、坏部の内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第68図5は高坏の坏部の破片と考えられる。体部外面に明瞭な段は認められず、外面の口縁部にヨコナデ・体部にハケメ→体部にナデ調整→体部にヘラケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラナデ→体部下位にヘラミガキ調整を施す。甕(第68図6・7)は平底で胴部中位上半に最大径をもつ長胴形で外面の頸部に段を持たない。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナ



第 65 図 4 区遺構配置図

デ調整、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ調整を施す。焼成粘土塊(写真図版 59-8)は長さ 4.9cm、幅 4.0cm、厚さ 1.8cm で、胎土に植物繊維が混入し、表面に幅 4-5mm の溝状に並列するイネ科植物とみられる圧痕が見られる。

このほか、床面・K1・K2・K4・K6 堆積土・カマド内堆積土・住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器坏・大型坏・甕が出土した。坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面の段に対応する位置の内面に屈曲を持つものと、持たないものがある。大型坏は内面にナデ調整、外面にハケメ→ナデ調整を施す。甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SI5a 竪穴住居跡】(第 69 図、写真図版 21)

〔位置〕4 区東部/東向緩斜面

〔重複〕SI5a → SI5b・SI5c

〔規模・形状〕長軸 5.10m、短軸 4.65m / 方形

〔方向〕カマド中軸線: N-21° -W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 8cm である。

〔床面・堆積土〕地山を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロックを多く含む黒色シルトで、SI5b 床面を構築する住居掘方埋土である。

〔主柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居北辺中央に付設する。幅 110cm、奥行 72cm の燃烧部が残存し、焚口幅は 34cm である。燃烧部底面は幅 34cm、奥行 60cm で床面より 7cm ほど皿状に窪む。側壁は地山を削り出して構築されており、長さ 52-70cm、幅 30-40cm、高さ 16cm である。奥壁は住居北壁と一致する。

〔貯蔵穴〕なし

〔出土遺物〕なし

【SI5b 竪穴住居跡】(第 70・72 図、写真図版 20・60)

〔位置〕4 区東部/東向緩斜面

〔重複〕SI5a → SI5b → SI5c

〔規模・形状〕長軸 5.74m、短軸 4.74m / 張り出し付き方形 / SI5a とほぼ同規模の平面形を持ち、北辺中央に幅 1.75m、奥行 0.70m の張り出し部を拡張している。

〔方向〕東辺: N-21° -W

〔壁面〕SI5c に壊されており残存しない。

〔床面・堆積土〕SI5a 床面を掘方埋土により 20cm 以上嵩上げしている。床面は SI5c に壊されており残存しない。

〔主柱穴〕住居平面形の対角線上で 4 か所 (P1-P4) を確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 46-50cm、短軸 38-45cm の略円形・楕円形を呈する。深さは

32-43cm で、すべての柱穴で平面形が直径 14-16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕カマドが付設される北辺中央部を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅 15-35cm、底幅 7-20cm、深さ 5-7cm で横断面形が U 字形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は地山ブロックをやや多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居北辺中央の張り出し部に燃烧部底面と右側壁の痕跡を確認した。燃烧部底面には幅 35cm、奥行 20cm の範囲で赤色硬化面を形成している。右側壁の痕跡は長さ 38cm、幅 14cm である。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅で土坑 1 基 (K1) を確認した。平面形が長軸 115cm、短軸 80cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 25cm の逆台形を呈する。

〔出土遺物〕住居掘方埋土より土師器小型甕(第 72 図 3)が出土した。平底で胴部上位に最大径を持ち、外面の頸部に段を持たない。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ調整、内面の胴部にヘラナデ・ハケメ→口縁部にヨコナデ調整を施す。内面には粘土紐の輪積み痕跡を多く残す。外底面に木葉痕が見られる。

【SI5c 竪穴住居跡】(第 71-72 図、写真図版 20・60)

〔位置〕4 区東部/東向緩斜面

〔重複〕SI5a・SI5b → SI5c

〔規模・形状〕長軸 5.90m、短軸 5.22m / 張り出し付き方形 / SI5b を西側へ 0.40-0.50m、南側へ 0.20-0.30m 拡張している。北辺中央に幅 1.75m、奥行 0.70m の張り出し部を持つ。

〔方向〕東辺: N-21° -W

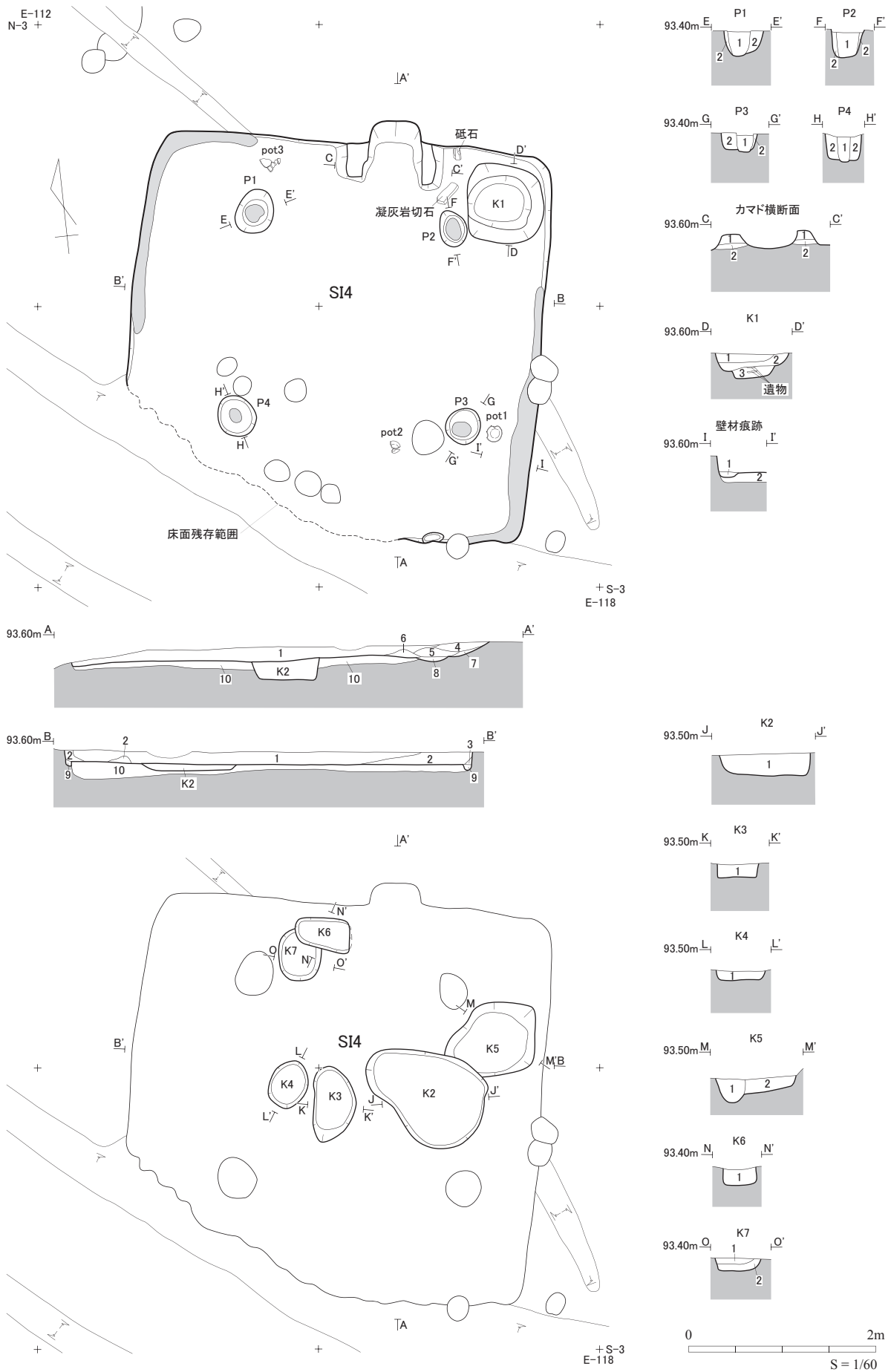
〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 9cm である。

〔床面・堆積土〕SI5b 住居掘方埋土を床とする。西・南部の拡張部分では地山を床とする。ほぼ平坦だが、カマドの付設される北辺中央の張り出し部は 10cm 高く、焚口前面が傾斜する。床面を覆う堆積土は地山ブロック・粒を含む黒色・黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔施設〕主柱穴・カマド・貯蔵穴は SI5b のものをそのまま使用したと考えられる。周溝・壁材痕跡は確認されていない。貯蔵穴 (K1) の堆積土は地山小ブロックを含む黒色シルト・黒褐色・褐灰色粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器甕(第 72 図 2)、遺構確認面より土師器坏(第 72 図 1)が出土した。

土師器坏(第 72 図 1)は有段丸底坏で体部が内弯



第66図 SI4 竪穴住居跡 (1)

し口縁部が直線的に外傾する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、内面の対応する位置で屈曲する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部にヘラケズリ調整を施す。甕（第72図2）は平底で胴部中位に最大径を持つ長胴形のもので、外面の頸部に痕跡的な段を持つ。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ調整を施し、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にハケメ→ヨコナデ調整を施す。外底面に木葉痕→不鮮明ながらナデ調整を施すとみられる。

このほか、住居内堆積土より土師器坏・鉢・甕、ロクロ土師器甕が出土した。鉢は内面にヨコナデ調整、外面の口縁部にヨコナデ・体部にハケメ調整を施す。甕は外面の頸部に段を持つものと、持たないものがあり、胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SI6 竪穴住居跡】（第71-72図、写真図版21・60）

〔位置〕4区東部／東向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長軸2.7m以上、短軸2.5m以上／方形？

〔方向〕不明

〔残存状況〕床面の一部と住居掘方埋土のみ残存する。

〔床面・堆積土〕中央部の一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山粒を含む黒色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器甕（第72図4）、凝灰岩切石が出土した。胴部中位に最大径を持つ長胴形で、外面の頸部に段を持たない。外面の胴部下位にケズリ→口縁部～胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ・胴部にヘラナデ調整、内面の胴部にヘラケズリ→ヘラナデ→口縁部にヨコナデ調整を施す。

【SI9 竪穴住居跡】（第73-74図、写真図版21・60・61）

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SB312→SI9→SB305・SB308・SB311・SB373・SA310・SE60・SD8・SD74

〔規模・形状〕長軸6.50m以上、短軸6.30m以上／方形

〔方向〕西辺：N-32°-W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大8cmである。

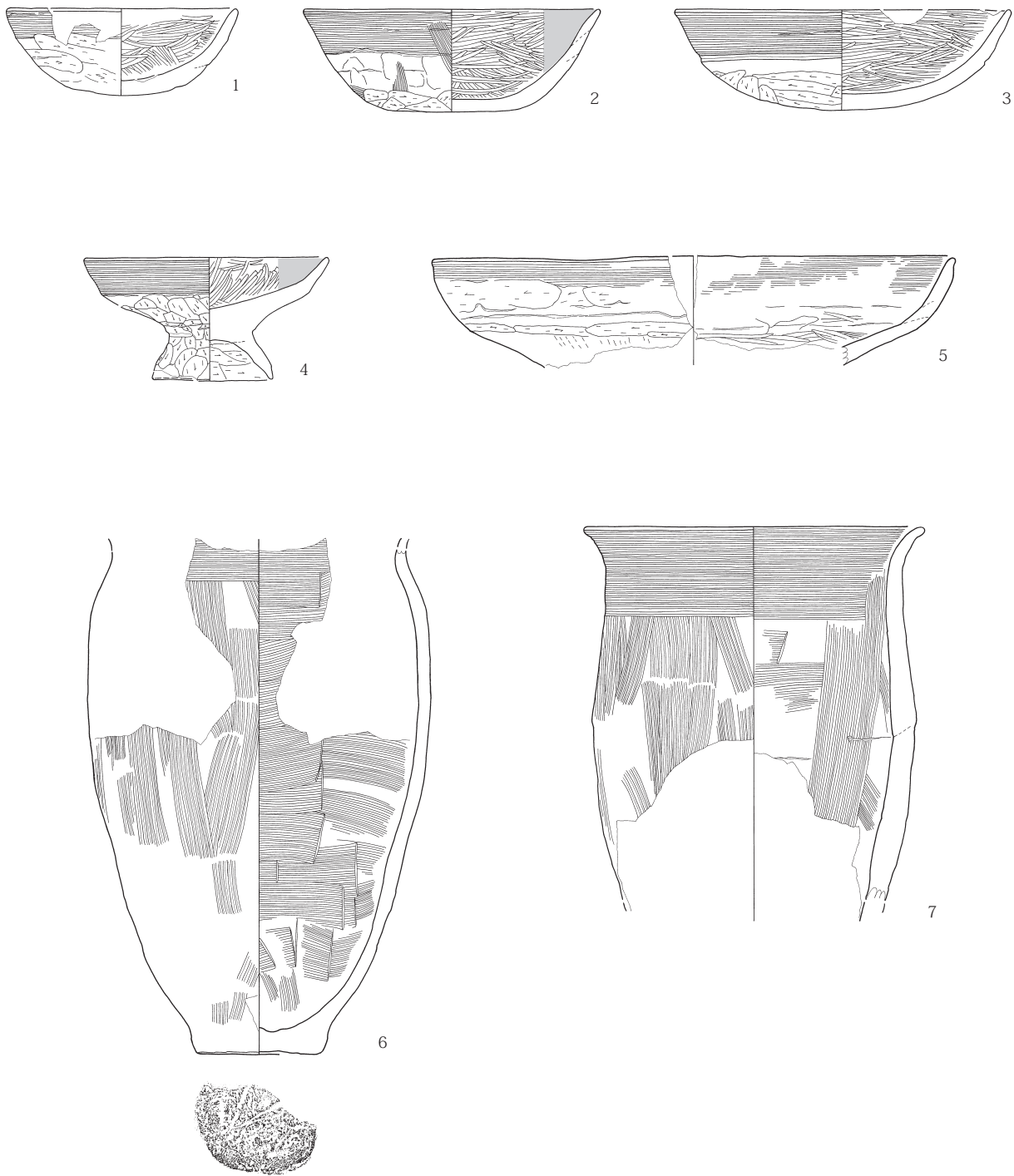
〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト・粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕概ね住居平面形の対角線上で3か所確認した。北側の1か所は調査区外に位置すると推定される。柱穴掘方の平面形は長軸48-68cm、短軸33-64cmの隅丸方形・楕円形を呈する。深さは64-78cmで、いずれも平面形が直径18-19cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。P1・P2では柱材の切り取り痕跡を確認した。〔周溝・壁材〕住居北東・北西側の住居壁面に沿って

SI4 竪穴住居跡 A-A'・B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む（住堆）
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む（住堆）
3	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	黄褐色ローム主体（住壁面崩）
4	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む 焼土粒・炭化物粒を少量含む（竈堆）
5	7.5YR4/4 褐	シルト	焼土粒を含む 炭化物粒を少量含む（竈堆）
6	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 焼土粒・炭化物粒を多量に含む（竈堆）
7	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 炭化物粒を少量含む（竈堆）
8	5YR4/8 赤褐	シルト	焼土粒を多量に含む（竈機能時堆）
9	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む（壁材痕）
10	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住振）
SI4 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/4 褐	粘土	黒褐色土を少量含む（竈構）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住振）
SI4 竪穴住居跡 K1 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 焼土粒を少量含む（人為）
2	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む（人為）
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 P1 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む（柱痕）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住振）
SI4 竪穴住居跡 P2 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む（柱痕）
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住振）
SI4 竪穴住居跡 P3 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む（柱痕）
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（住振）

SI4 竪穴住居跡 P4 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（柱痕）
2	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む（住振）
SI4 竪穴住居跡壁材痕跡 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む （壁材痕・住居主断面9層対応）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む （住振・住居主断面10層対応）
SI4 竪穴住居跡 K2 J-J'			
No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む 焼土粒を含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 K3 K-K'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土小ブロックを含む 炭化物粒を少量含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 K4 L-L'			
No.	土色	土性	備考
1	7.5YR2/3 極暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 焼土粒を含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 K5 M-M'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む（人為）
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 K6 N-N'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む（人為）
SI4 竪穴住居跡 K7 O-O'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 焼土ブロックを少量含む（人為）
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む（人為）

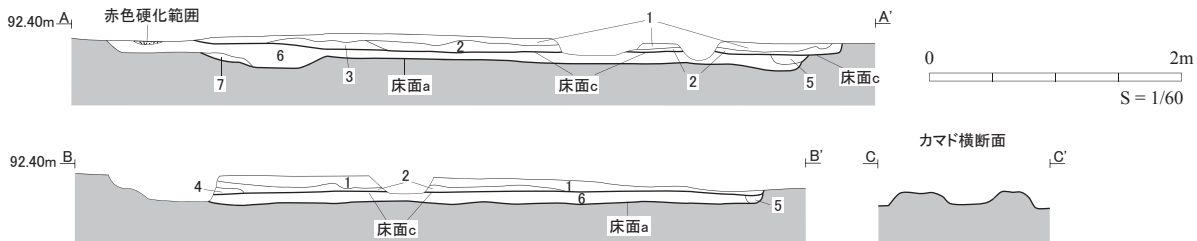
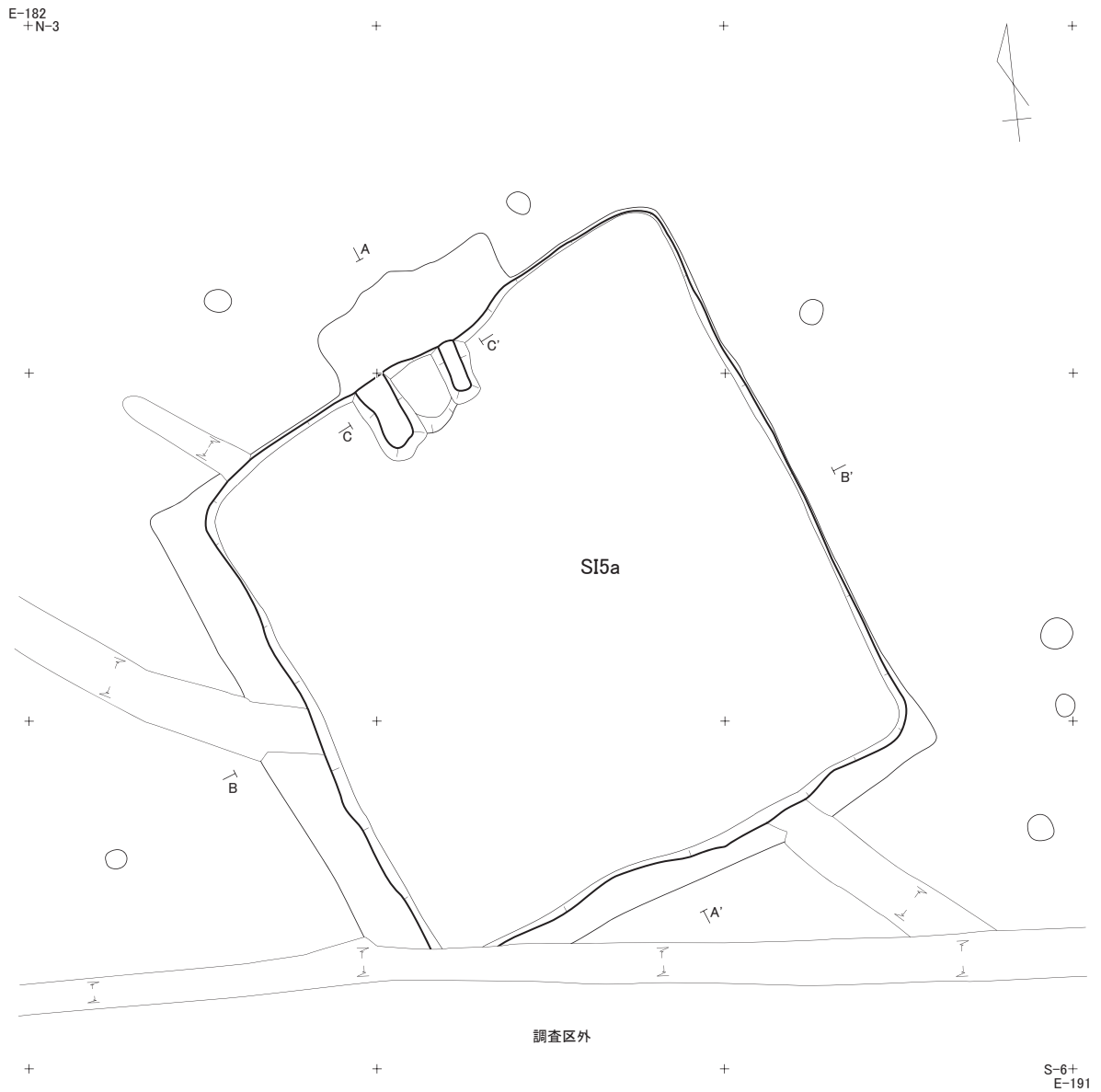
第67図 SI4 竪穴住居跡（2）



0 10cm
S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI4	床面直上 Pot.2	土師器	坏	内面：ヘラミガキ，外面：(体～底)ヘラケズリ→(口)ヨコナデ ※内面(底)・外面(体～底)焼けはじけ	11.6	-	4.2	2/3	040	59-3
2	SI4	K1 堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(体)ナデ→(口)ヨコナデ→(体下～底)ヘラケズリ，(底)木葉痕一部残存	(14.2)	6.2	4.9	1/2	042	59-4
3	SI4	床面直上	土師器	坏	内面：ヘラミガキ，外面：(口)ヨコナデ，(体下～底)ヘラケズリ	16.0	-	4.8	略完形	039	59-5
4	SI4	K1 堆積土	土師器	高坏	内面：(坏)ヘラミガキ→黒色処理，(脚)ヘラケズリ，外面：(口)ヨコナデ，(坏下～脚)ヘラケズリ	(11.7)	(5.7)	5.9	2/3	041	59-6
5	SI4	K1 堆積土	土師器	高坏?	内面：(口)ヨコナデ・(体)ヘラナデ→(体下)ヘラミガキ，外面：(口)ヨコナデ・(体下)ハケメ→ナデ→(体)ヘラケズリ	(25.0)	-	5.2	一部	043	59-7
6	SI4	カマド内堆積土	土師器	甕	内面：ヘラナデ→(口)ヨコナデ，外面：(胴)ハケメ→(口)ヨコナデ，(底)木葉痕	-	5.9	(24.7)	一部	045	59-10
7	SI4	K1 堆積土	土師器	甕	内面：(口)ヨコナデ→(胴)ヘラナデ，外面：(胴)ハケメ→(口)ヨコナデ	(16.3)	-	(18.8)	一部	044	59-9

第68図 SI4 竪穴住居跡出土遺物



SI5 竪穴住居跡 a・b・c A-A',B-B'

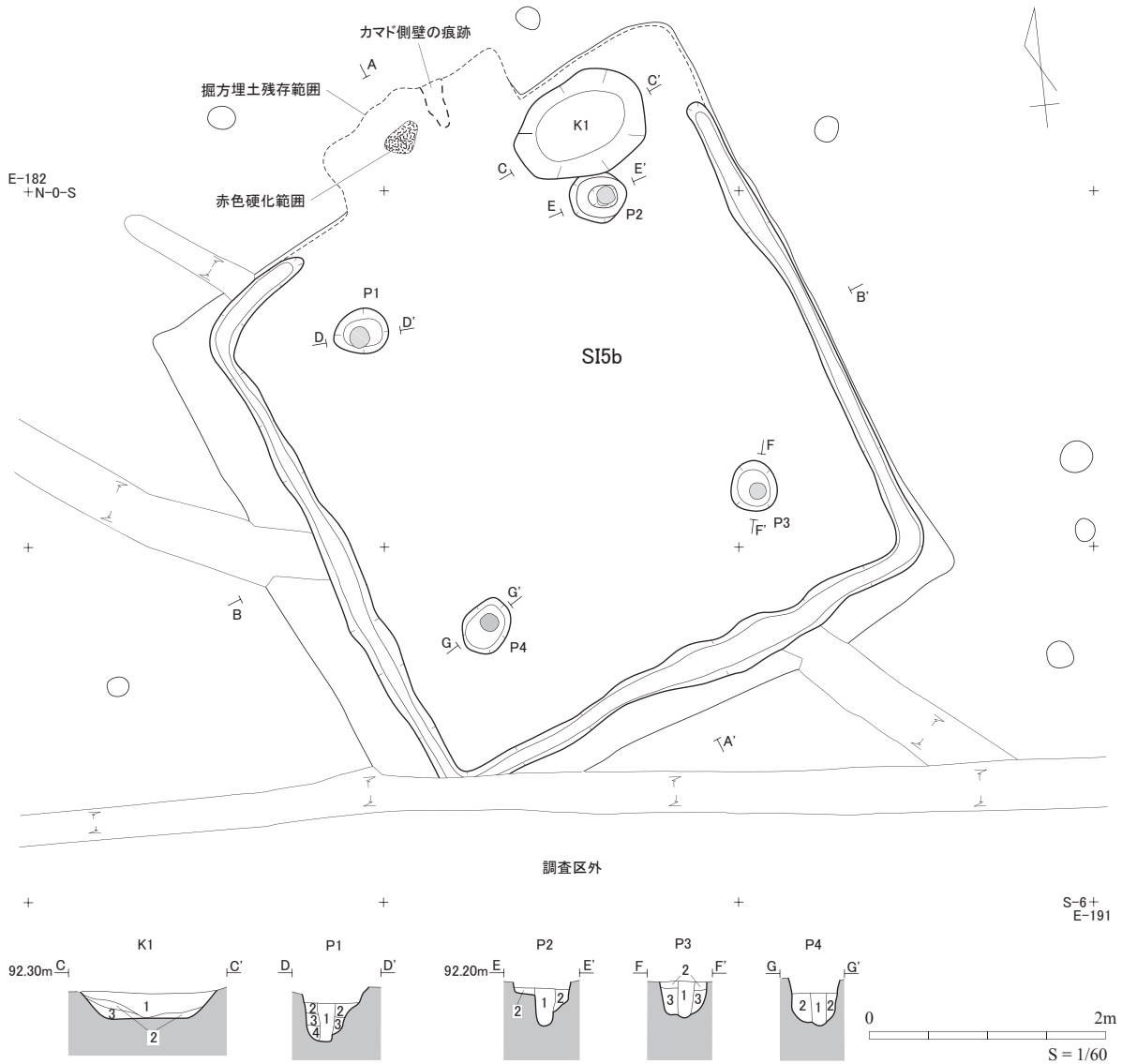
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒、白色粘土粒を少量含む (c期住堆)	5	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・小ブロックを多く含む (b期周溝堆・人為)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (c期住堆)	6	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム大ブロック・ブロックを多量に含む (b期住堆)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (c期住堆)	7	7.5YR3/3 暗褐	粘土	焼土粒を多量に含む (a期竈崩)
4	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (c期住堆)				

第 69 図 SI5a 竪穴住居跡

周溝を確認した。上幅 15-33cm、底幅 9-24cm、深さ 8-12cm で横断面がU字形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド・貯蔵穴〕 不明

〔出土遺物〕 床面より土師器壺（第74図7）、P1柱穴の柱材抜き取り痕跡より土師器鉢（第74図3）、住居内堆積土より土師器坏（第74図1）・甕（第74図8）、須恵器坏（第74図5）、遺構確認面より土師器坏（第74図2）、住居掘方埋土より土師器大型坏？（第74図4）・甕（第74図6）が出土した。



SI5 竪穴住居跡 b.c K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む
3	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
3	2.5Y3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック主体 (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多く含む (柱掘)

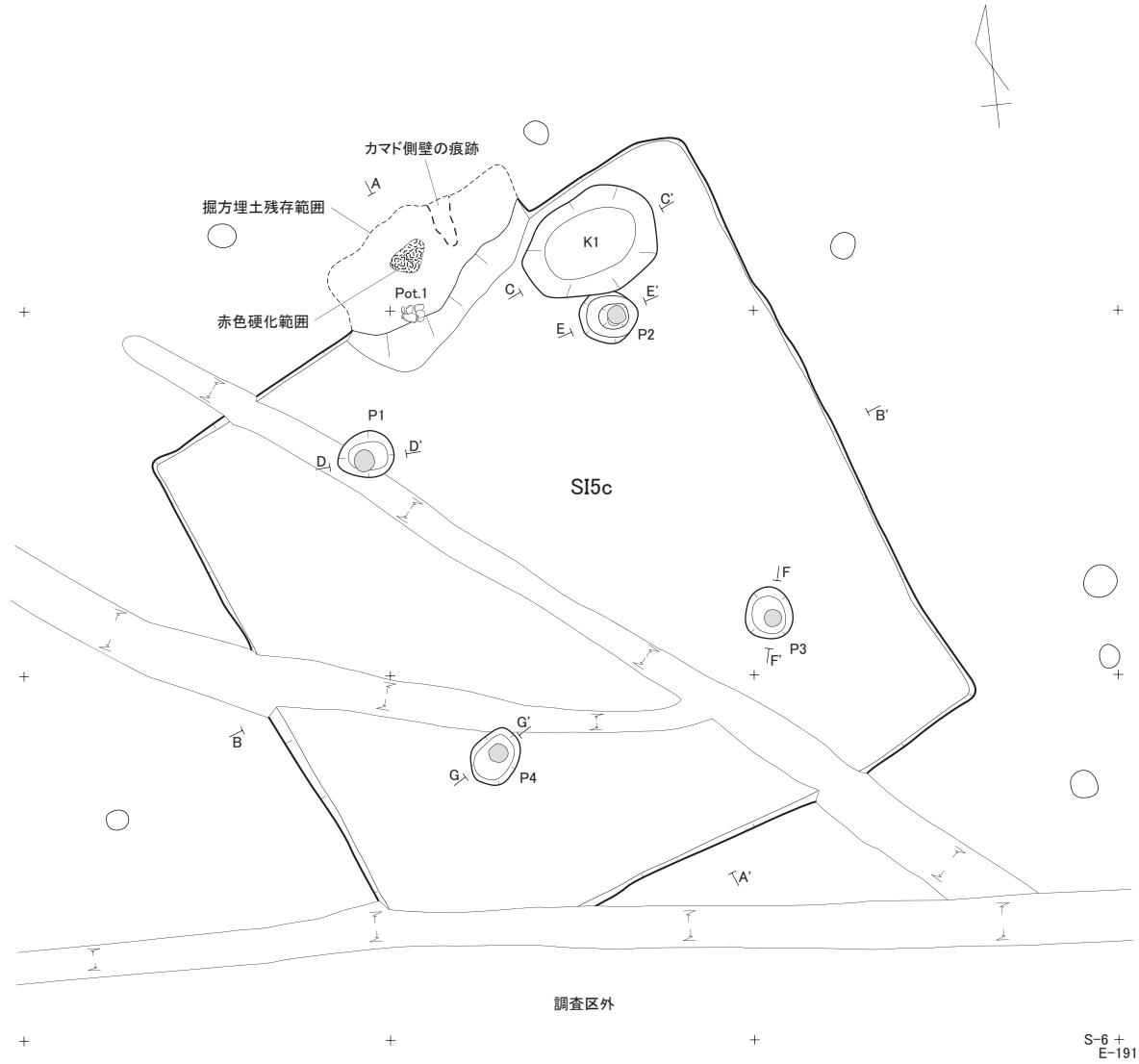
SI5 竪穴住居跡 b.c P3 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱掘)

第70図 SI5b 竪穴住居跡

E-182
+N-3

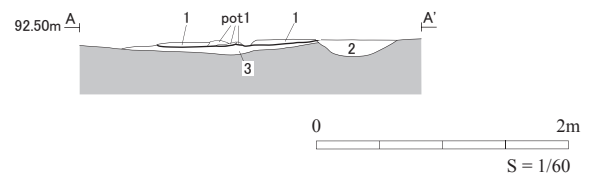
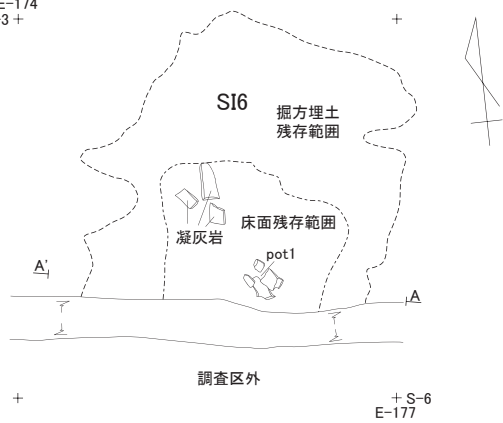


SI5 竪穴住居跡 b.c K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
2	10YR3/1 黒褐	粘性シルト	黄褐色ロームブロック・小ブロックを含む
3	10YR4/1 褐灰	粘性シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む



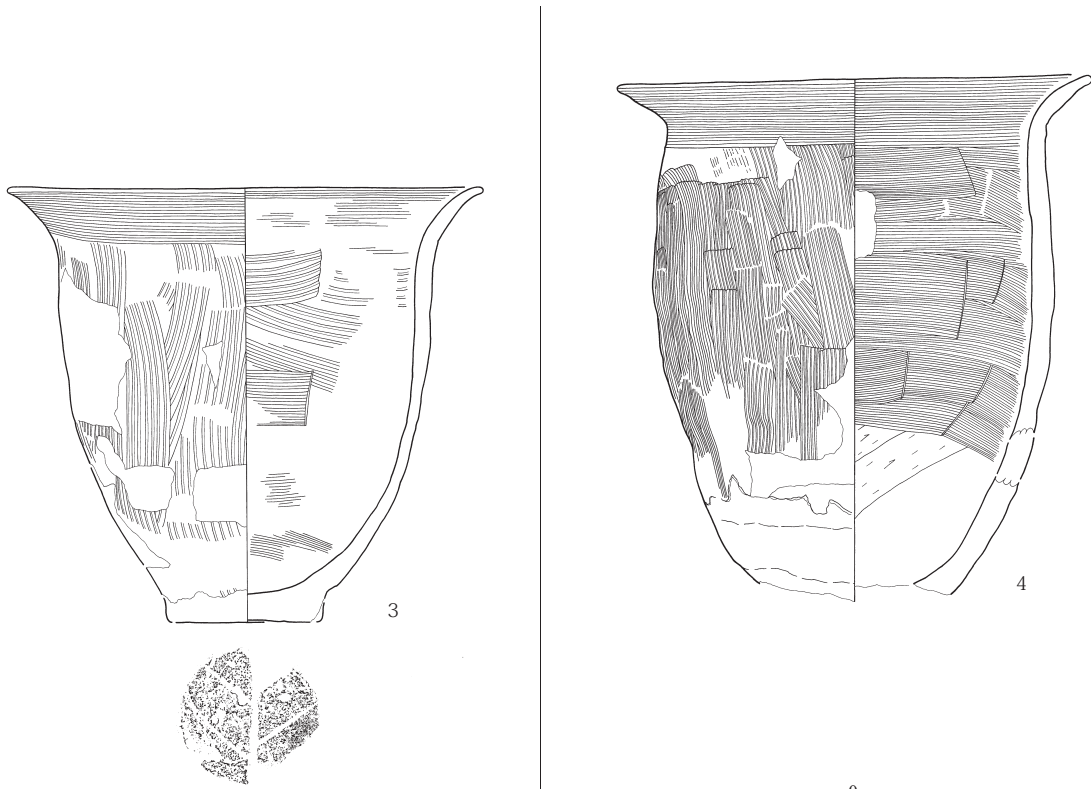
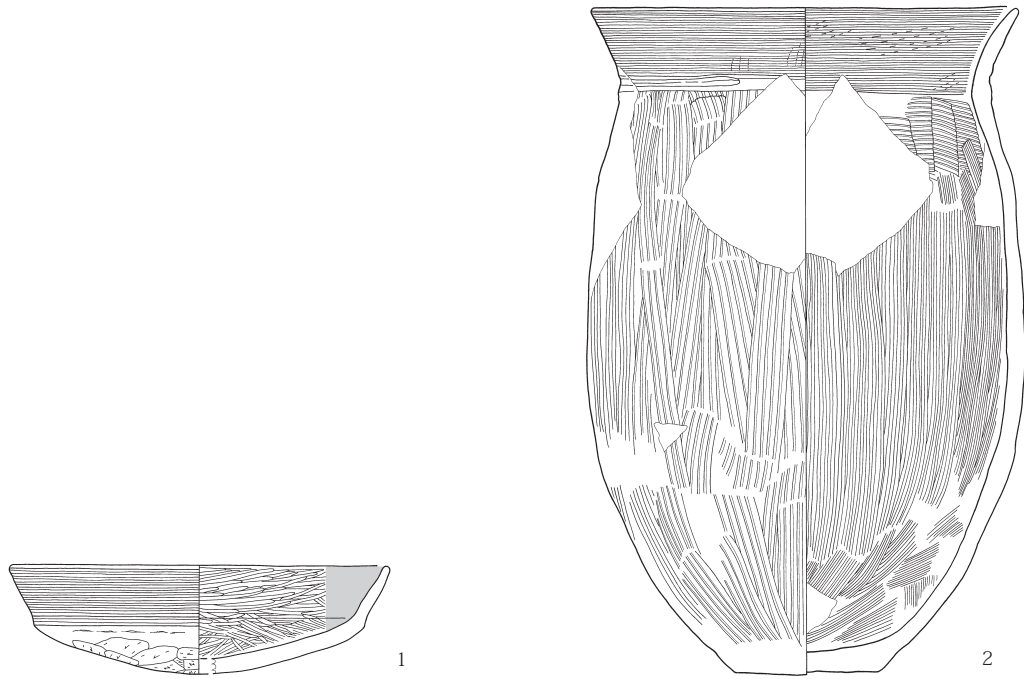
E-174
S-3+



SI6 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (住掘)
3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を多量に含む (住掘)

第71図 SI5c・SI6 竪穴住居跡

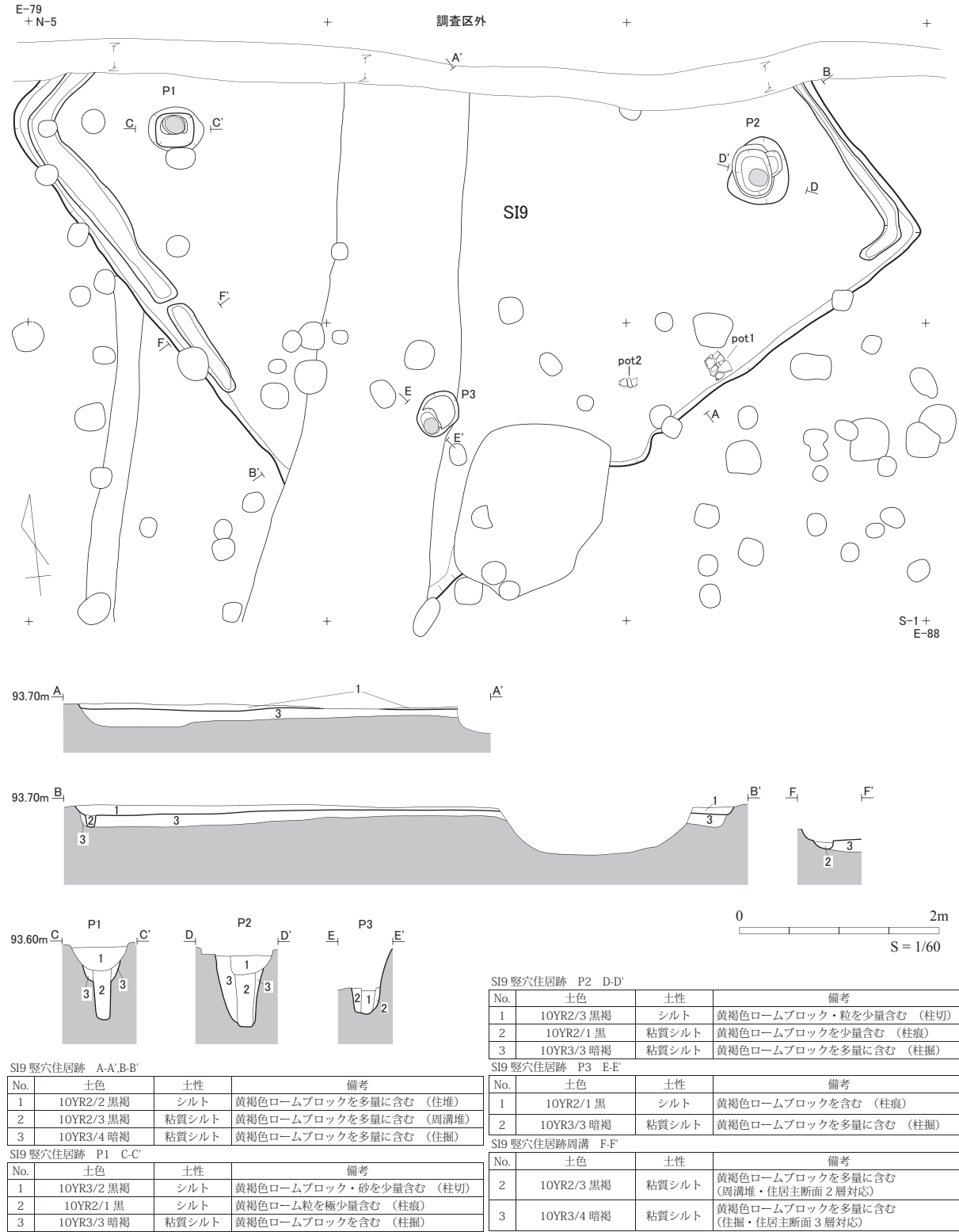


No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI5c	確認面	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理。外面：(口) ヨコナデ、(底) ヘラケズリ	15.1	-	4.3	1/3	036	60-6
2	SI5c	床面直上 Pot.1	土師器	甕	内面：(胴) ヘラナデ・ナデ、(口) ハケメ→(口) ヨコナデ、外面：(胴、口) ハケメ→(口) ヨコナデ、(底) 木葉痕→ナデ?	(16.9)	5.6	26.4	1/3	038	60-7
3	SI5b	住居掘方埋土	土師器	小型甕	内面：(胴) ヘラナデ・ハケメ→(口) ヨコナデ、外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ、(底) 木葉痕	18.9	(6.2)	17.2	2/3	082	60-8
4	SI6	床面直上 Pot.1	土師器	甕	内面：(胴) ヘラケズリ→ヘラナデ→(口) ヨコナデ、外面：(胴下) ケズリ→(口~胴) ハケメ→(口) ヨコナデ、(胴) ヘラナデ	18.8	-	(20.7)	一部	035	60-9

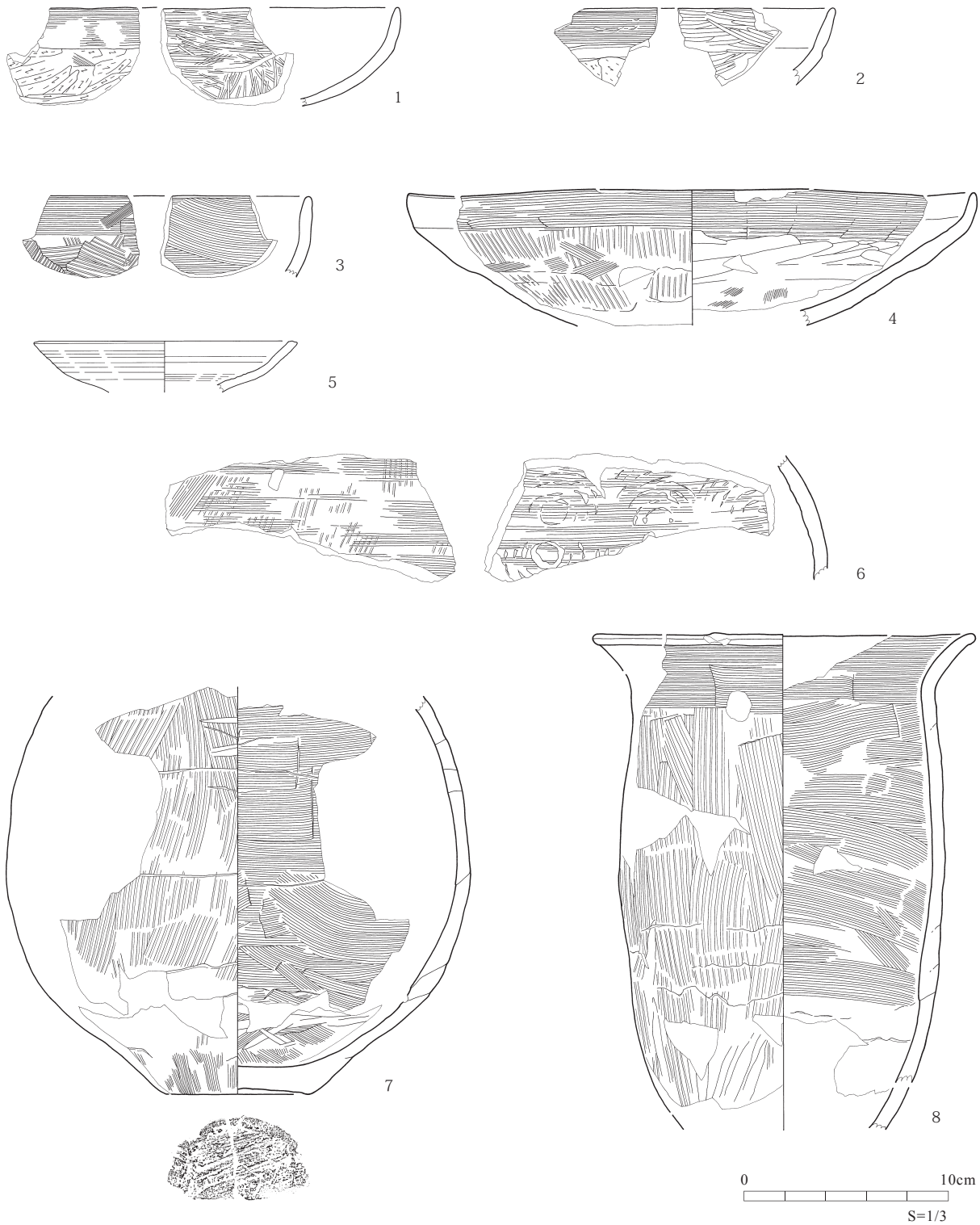
第 72 図 SI5b・SI5c・SI6 竪穴住居跡出土遺物

土師器環はいずれも口縁部～体部の破片で、内面に黒色処理を施さない。外面の口縁部と体部の境に段を持つ。第74図2は外面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整を施す。第74図1は外面の体部にハケメ→ヘラケズリ・口縁部にヨコナデ→ヘラミガキ調整、内面の口縁部～体部にヨコナデ→ヘラミガキ調整を施す。鉢（第74図3）

は外面の口縁部にヨコナデ→体部にハケメ調整、内面の口縁部にヨコナデ→口縁部～体部にヘラナデ調整を施す。大型環（第74図4）は体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が内弯し短い口縁部が直立気味に外傾する。外面の体部に縦方向のハケメ→口縁部に横方向のハケメ→ヨコナデ→体部にナデ調整、内面の体部下半にナデ→口縁部に横方向のハケメ→ヨコナデ→体



第73図 SI9 竪穴住居跡



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI9	堆積土	土師器	坏	内面：(口) ヨコナデ→ヘラミガキ, 外面：(口) ヨコナデ→ヘラミガキ, (体) ハケメ→ヘラケズリ	-	-	(4.8)	一部	027	60-3
2	SI9	確認面	土師器	坏	内面：ヘラミガキ, 外面：(口) ヨコナデ, (体) ケズリ	-	-	(3.8)	一部	024	60-4
3	SI9	P1 抜	土師器	鉢	内面：(口) ヨコナデ→(口~体) ヘラナデ, 外面：(口) ヨコナデ→(体) ハケメ→一部ナデ	-	-	(4.0)	一部	025	60-2
4	SI9	住居掘方埋土	土師器	大型坏	内面：(底付近) ナデ→(口) ハケメ→(口) ヨコナデ→(体) ヘラミガキ, 外面：(体) 縦方向ハケメ→(口) 稜線を作り出す横方向のハケメ→(口) ヨコナデ→(体) ナデ, ※内外面：(底) 磨滅	(27.9)	-	(6.7)	1/4	026	61-1
5	SI9	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ	(13.0)	-	(2.5)	一部	028	60-1
6	SI9	住居掘方埋土	土師器	甕	内面：同心円状当て具痕→ナデ, 外面：平行タタキ目→ナデ	-	-	-	一部	048	60-5
7	SI9	床面直上 Pot.2	土師器	壺	内面：(胴) ヘラナデ→(底) ユビナデ→ヘラミガキ, 外面：(胴) ハケメ, (底付近) ナデ, (底) ケズリ?	-	(7.0)	(20.0)	1/3	023	61-2
8	SI9	堆積土	土師器	甕	内面：(胴) ヘラナデ→(口) ヨコナデ, 外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ・(胴下) ヘラミガキ	(18.8)	-	(24.4)	胴部	022	61-3

第74図 SI9 竪穴住居跡出土遺物

部にヘラミガキ調整を施し、黒色処理を施さない。甕は胴部中位に最大径を持ち、長胴形で外面の頸部に段を持たないもの（第74図8）と、体部破片で外面に平行タタキ目→ヨコナデ調整、内面に同心円状当て具痕→ヨコナデ調整を施すもの（第74図6）とがある。第74図8は外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ→胴部に粗いヘラミガキ調整、内面の胴部にヘラナデ→口縁部にヨコナデ調整を施す。壺（第74図7）は平底で胴部に丸みを持つ。外面の胴部にハケメ・胴部下位にナデ調整、外底面に不鮮明ながらケズリ調整、内面の胴部にヘラナデ→底部にユビナデ調整→ヘラミガキ調整を施す。

このほか、P1柱穴の柱材抜き取り痕跡・住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器甕が出土した。外面の頸部に段を持つものと、痕跡的な段を持つものがあり、胴部にハケメ調整を施す。

【SI10 竪穴住居跡】（第75~76図、写真図版21・22・62）

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SI10→SB295・SB373・SB374・SD63

〔規模・形状〕長軸5.00m、短軸4.30m以上／方形

〔方向〕西辺：N-1°-W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大7cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山・炭化物粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマドの付設される住居北辺中央付近を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅6~20cm、底幅4~11cm、深さ8cmで横断面形がU字形を呈する。堆積土は地山ブロックを含む黒色シルトで、壁材痕跡に伴う溝状の掘方は確認されない。

〔カマド〕住居北壁中央付近に付設する。幅80cm以上、奥行68cmの燃焼部が残存し、焚口幅は54cm以上である。燃焼部底面は幅54cm以上、奥行62cmで、被熱による赤色硬化面が形成されている。側壁は左側のみ残存し、長さ62cm、幅21cm、残存高12cmである。奥壁は住居北壁と一致する。側壁構築土には地山粒・白色粘土ブロックを多く含む暗赤褐色粘質シルトを用いている。

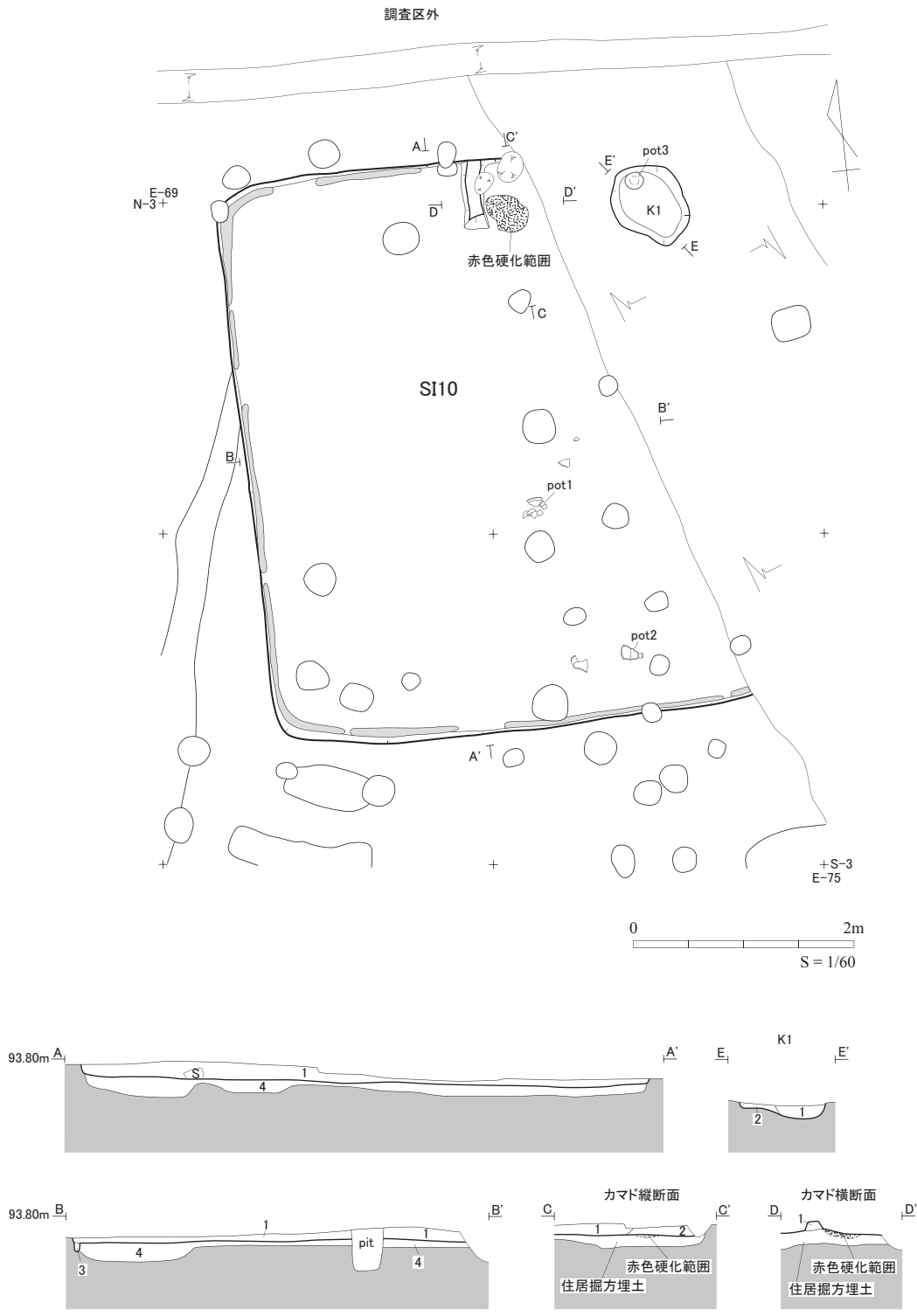
〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅と推定される位置で土坑1基（K1）を確認した。攪乱によって床面が壊されており、床面より約10cm低い位置で確認したため床面との関係は不明であるが、位置と形状から貯蔵穴として扱う。平面形は長軸80cm、短軸65cmの

不整楕円形を呈し、断面形は深さ5~12cmの逆台形を呈する。堆積土は2層に細分され、1層は地山・焼土ブロックを含む黒色シルト、2層は地山・焼土ブロックを多量に含む黄褐色粘質シルトで、1層は自然堆積土、2層は人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器甕（第76図6）・小型甕（第76図5）・刀子（第76図8）、K1底面より土師器杯（第76図2）、住居内堆積土より土師器杯（第76図1・3）・甑（第76図7）、遺構確認面より土師器鉢（第76図4）が出土した。

土師器杯は有段丸底杯（第76図1・2）と、無段の杯（第76図3）とがある。第76図1は外面の体部下端に段を持ち、体部~口縁部がやや直線的に外傾する。外面の体部~口縁部にヨコナデ調整、底部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第76図2は体部から口縁部にかけて内弯し、外面の体部中位に段を持つ。外面の口縁部にヨコナデ・体部~底部にヘラケズリ→ナデ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第76図3は体部が内弯し口縁部が外反する。外面の口縁部にヨコナデ→体部にヘラケズリ調整、内面の体部にヘラナデ→口縁部にヨコナデ調整を施し、黒色処理を施さない。鉢（第76図4）は内弯する口縁部の破片である。口縁部の内外面にヨコナデ調整を施す。甕（第76図6）は胴部中位に最大径を持つ長胴形で、底径が小さい。外面の胴部にハケメ→胴部下位にヘラケズリ調整、外底面にナデ調整、内面にユビナデ→ヘラナデ調整を施す。内面に粘土紐の輪積み痕跡を多く残す。小型甕（第76図5）は胴部中位に最大径を持つ球胴形で、外面の頸部に痕跡的な段を持つ。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ調整、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ→ヘラナデ調整を施す。内面に粘土紐の輪積み痕跡を多く残す。甑（第76図7）は無底式の甑の破片で、下端部付近に横方向の穿孔を施す。外面にヘラケズリ調整、内面~下端部にヘラナデ調整を施す。刀子（第76図8）は刃部のみ残存する。

このほか、床面・住居内堆積土・遺構確認面より土師器杯・甕、須恵器甕が出土した。土師器杯は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面の段に対応する位置の内面に屈曲を持つものと、持たないものがある。甕は球胴形のもの、長胴形のものがある。外面の頸部に痕跡的な段を持ち、胴部にハケメ調整を施す。粘土紐の積み上げ部で剥離した疑似口縁の口唇部にキザミを施すものがあり、製作に関わる技法と考えられる。



SI10 竪穴住居跡 A-A', B-B', C-C'

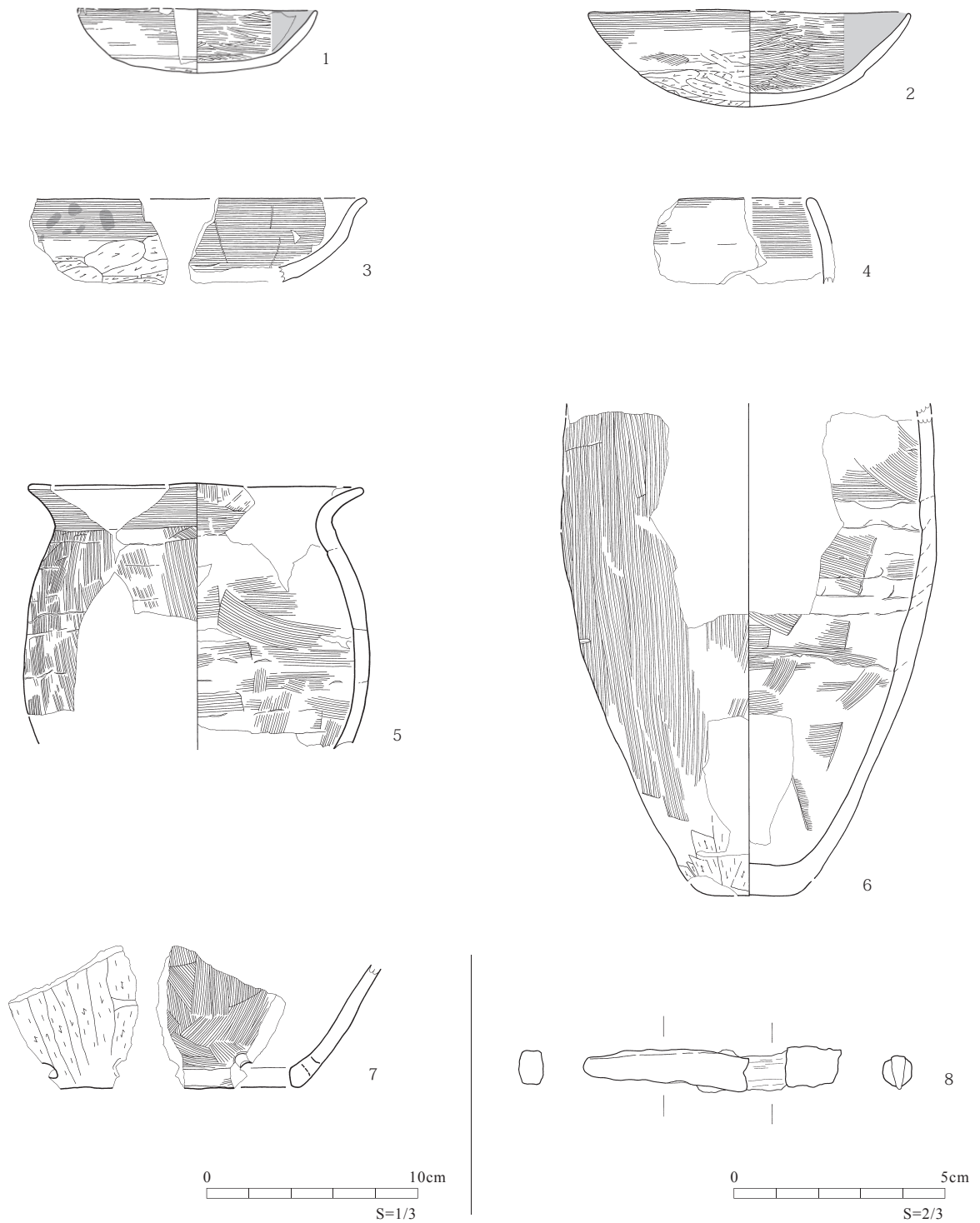
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒・礫を含む (住堆)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	粘土ブロック・焼土ブロック・粒を多量に含む炭化物粒を少量含む (竈崩)
3	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (壁材痕)
4	10YR8/6 黄橙	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粘土ブロックを多量に含む (住掘)

SI10 竪穴住居跡カマド横断面 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	2.5YR3/6 暗赤褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・粘土ブロックを多量に含む (竈構)

SI10 竪穴住居跡 K1 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土ブロックを含む
2	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む焼土ブロックを含む

第75図 SI10 竪穴住居跡



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SI10	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ，(底) ケズリ ※外面：(底) 焼けはじけ	(11.4)	-	3.0	4/5	029	62-1	
2	SI10	K1 底面	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ，(体～底) ヘラケズリ→ナデ	14.0	-	4.5	略完形	084	62-3	
3	SI10	堆積土	土師器	坏	内面：(体) ヘラナデ→(口) ヨコナデ，外面：(口) ヨコナデ→(体下) ヘラケズリ ※外面：(口) 黒色付着物	-	-	(4.0)	一部	031	62-6	
4	SI10	確認面	土師器	鉢	内面：(口) ヨコナデ・ヘラナデ，外面：(口) ヨコナデ，(体) 剥離で不明	-	-	(5.1)	一部	034	62-7	
5	SI10	床面直上 Pot.1	土師器	小型甕	内面：(口) ヨコナデ→(胴) ヘラナデ，外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ	16.0	-	(12.7)	上半部	032	62-4	
6	SI10	床面直上 Pot.2	土師器	甕	内面：コピナデ→ヘラナデ，外面：(胴) ハケメ→(底付近) ヘラケズリ，(底) ナデ ※内面：粘土縞の輪積み痕跡を多く残す	-	(3.9)	(23.5)	1/2	083	62-5	
7	SI10	堆積土	土師器	甕	内面：ヘラナデ，外面：ヘラケズリ，※無底式，胴部下端付近に穿孔有り	-	-	(6.8)	一部	030	62-8	
No.	遺構	層位	種類	材質	特徴	法量 (cm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
8	SI10	床面直上	刀子	鉄	刃部両面：木質付着物	(6.2)	(0.9)	(0.9)	(5.4)	一部	281	62-2

第76図 SI10 竪穴住居跡出土遺物

(2) 掘立柱建物跡

〔SB20 掘立柱建物跡〕(第77図、写真図版26)

〔位置〕4区中央部／平坦面

〔重複〕SB20 - SK348

〔規模・形状〕東西3間(総長4.80m)・南北2間(総長3.50m)／東西棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-16°-E

〔柱穴〕7か所確認した。掘方の平面形は長軸46~62cm、短軸34~50cmの隅丸方形を基調とし、深さ28~38cmである。掘方埋土は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト・砂質シルト・粘質シルトである。1か所で柱材の抜き取り痕跡、6か所で平面形が直径14~22cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北・南側柱列：西から(160)-(130)-(190)cm
東側柱列：北から(170)-180cm

〔出土遺物〕P6柱穴堆積土より土師器環が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

〔SB21 掘立柱建物跡〕(第79図)

〔位置〕4区西部／平坦面

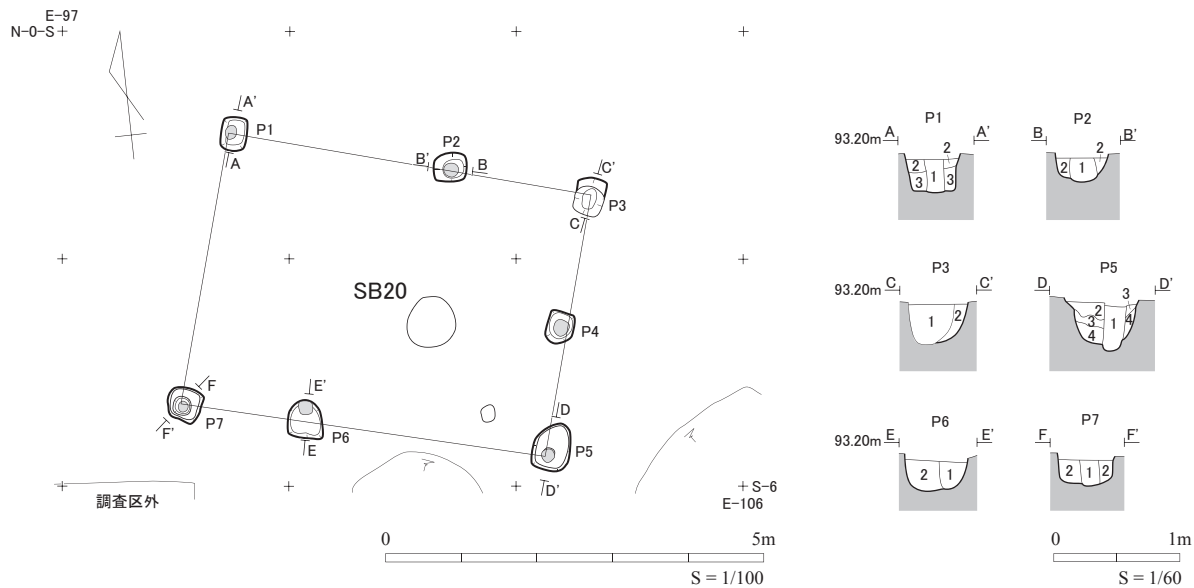
〔重複〕SB295・SB304・SK67・SD63・SX62→SB21 - SB298・SB299・SB301・SB302・SB373・SA297・SA300・SA303・SK80・SK204

〔規模・形状〕東西3間(総長6.22m)・南北2間(総長3.97m)／南北縁・廂付東西棟床束建物(南・北面に縁、南面中央1間分・北面東2間分に廂)／縁の出：北1.36m・南：(1.53)m／廂の出：北1.34m・南(0.74)m

〔方向〕東側柱列：N-7°-W

〔柱穴〕身舎で12か所(うち床束4か所)、縁で8か所、廂で5か所を確認した。掘方の平面形は長軸24~70cm、短軸22~56cmの楕円形・略円形・隅丸方形で、深さ11~76cmである。身舎北・南側柱列では長軸34~70cm、短軸32~54cmと規模が大きく、これに挟まれる中央の床束柱列では長軸25~36cm、短軸20~28cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒色・黒褐色・暗褐色シルト、黒褐色・明黄褐色粘質シルトである。身舎の9か所(うち床束2か所)、縁の6か所、廂の5か所で平面形が直径13~22cmの円形・楕円形を呈する柱痕跡を確認し、このうち身舎の4か所、縁の2か所で柱材の一部、身舎の1か所、縁の4か所で礎板が残存していた。

〔柱材寸法〕身舎の4か所(P2~4・7)、廂の2か所(P14・15)で確認し、計測できたのは身舎の4か所のものである。幅14.5~17.0cm、厚さ14.0~16.2cm、長さ25.6~49.9cmの割材(芯去材)で、横断面形は正方形・



SB20 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (柱掘)
3	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む 砂を少量含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P5 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	2.5Y3/1 黒褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (柱掘)
3	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)
4	2.5Y4/3 オリーブ褐	砂質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む 砂を含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 砂を含む (柱掘)

SB20 掘立柱建物跡 P6 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を多量に含む (柱掘)

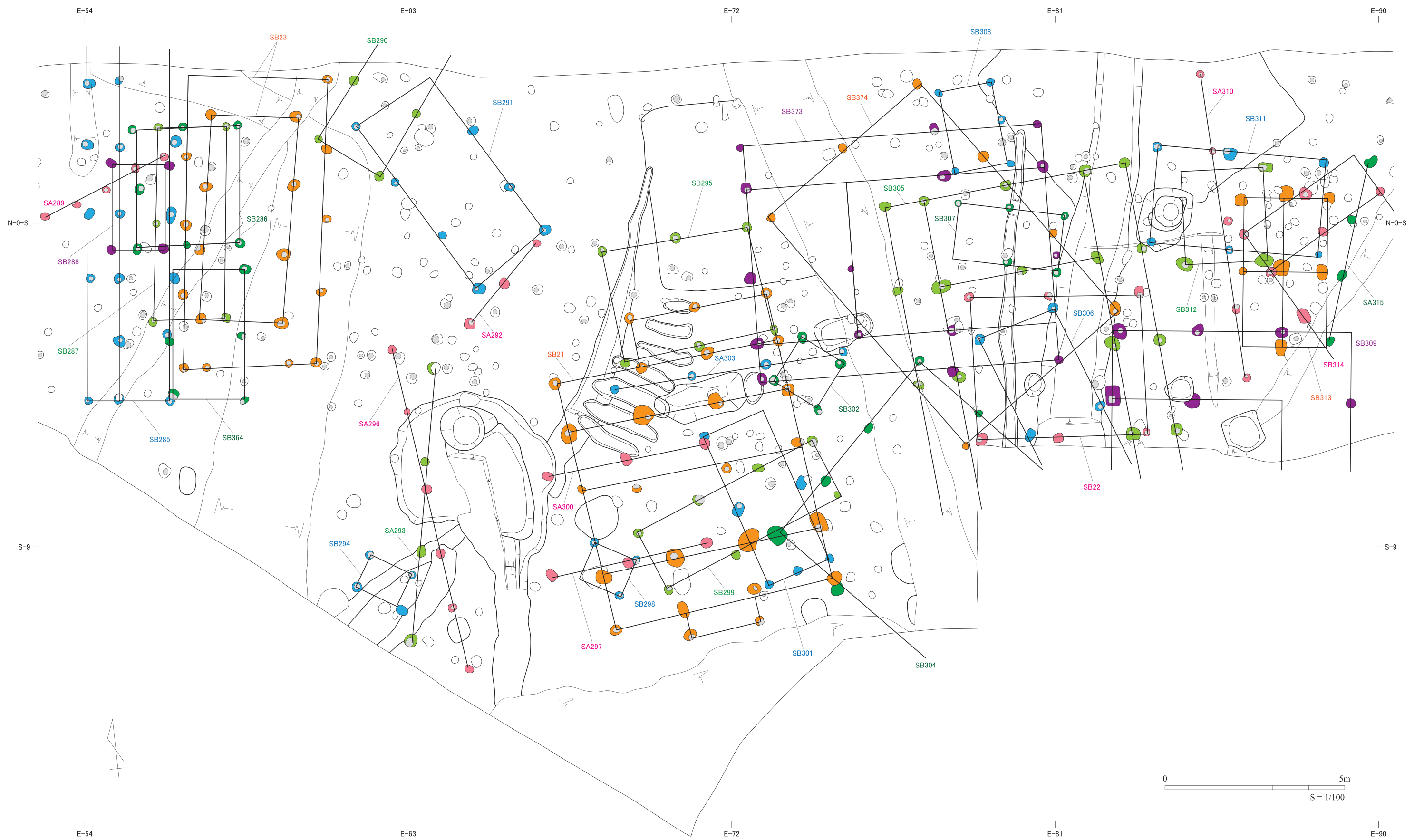
SB20 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)
2	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 砂を含む (柱掘)

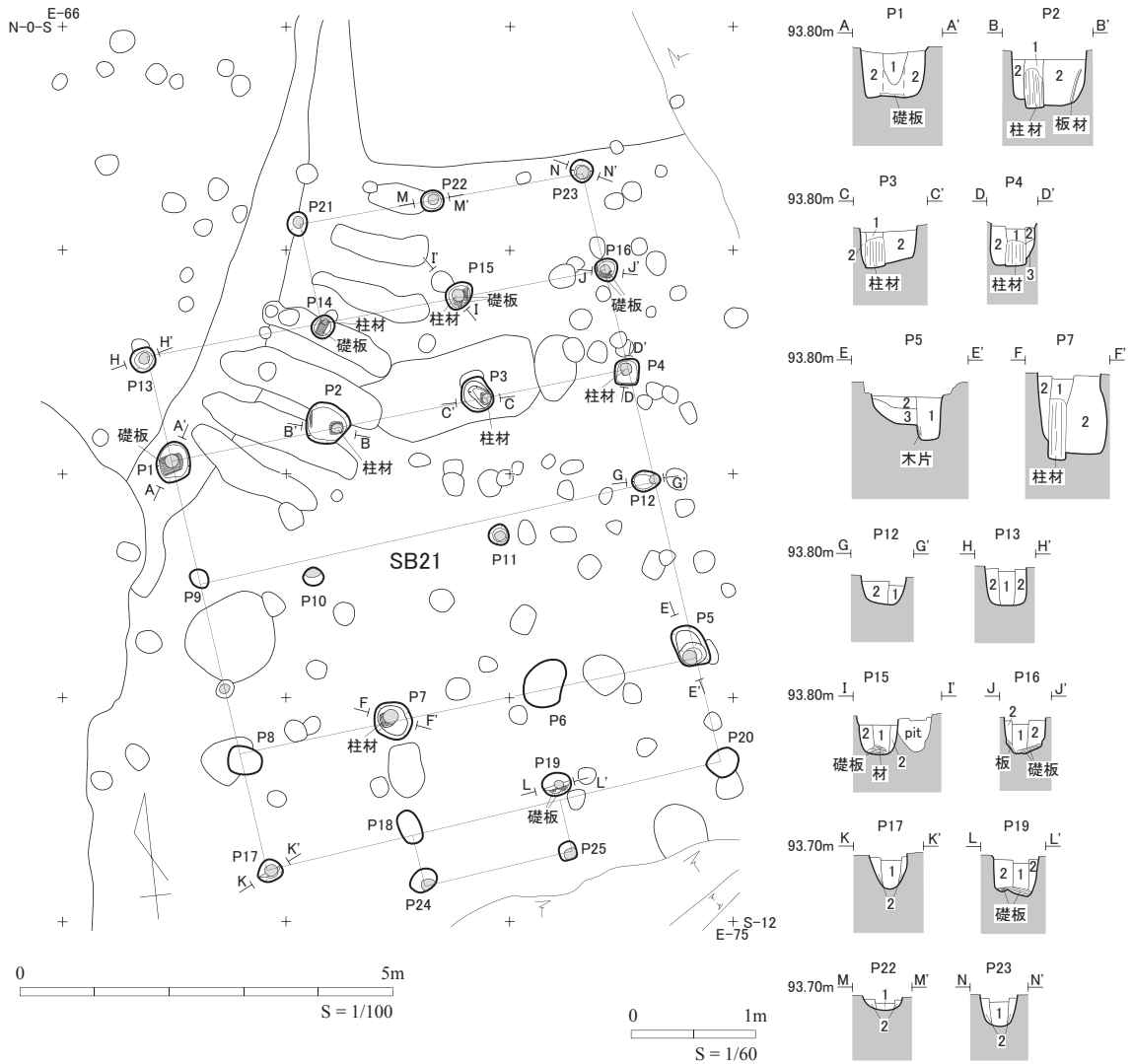
SB20 掘立柱建物跡 P7 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒を含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘土	黄褐色ロームブロックを多量に含む 砂を含む (柱掘)

第77図 SB20 掘立柱建物跡



第 78 图 4 区西部掘立柱建物跡群



SB21 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む (柱掘)
3	10YR6/8 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P7 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P12 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P13 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P15 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロックを含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P16 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P17 K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P19 L-L'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P22 M-M'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB21 掘立柱建物跡 P23 N-N'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む 焼土粒を極少量含む (柱掘)

第79図 SB21 掘立柱建物跡

六角形・八角形を呈する。

〔柱間寸法〕身舎北側柱列：西から 224-204-194cm

身舎東側柱列：北から 163-234cm

〔出土遺物〕P1・5・P7・P11~15・P21・P25 柱穴堆積土・P4 柱穴掘方埋土より土師器坏・甕などが出土した。

甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SB22 掘立柱建物跡】(第80図)

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SD8 → SB22 - SB304・SB305・SB306・SB309・SB373・SB374・SK322・SD74

〔規模・形状〕東西2間(総長4.70m)・南北1間(総長3.80m)／東西棟側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-2° -E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は長軸23~40cm、短軸20~31cmの楕円形・略円形・隅丸方形で、深さ17~35cmである。掘方埋土は地山ブロックを多量に含む黒褐色シルト・粘質シルトである。5か所で平面形が直径13~15cmの円形を呈する柱痕跡を確認し、このうち1か所で柱材の一部が残存していた。

〔柱材寸法〕1か所(P4)で確認した。直径14cm、長さ18cmの丸柱で、木取りは不明である。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から220-250cm

〔出土遺物〕なし

【SB23 掘立柱建物跡】(第81図、写真図版22・25・63)

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SB23 - SB285・SB286・SB287・SB290・SB364

〔規模・形状〕東西1間(総長2.50m)・南北3間(総長5.80m)／四面廂(縁)付南北棟側柱建物／廂(縁)の出：0.42~1.04m

〔方向〕身舎東側柱列：N-11° -E

廂(縁)東側柱列：N-8.5° -E

〔柱穴〕身舎で8か所、廂(縁)で11か所確認した。掘方の平面形は長軸22~40cm、短軸20~34cmの略円形・楕円形で、深さ15~50cmである。身舎柱穴では長軸28~40cm、短軸25~32cmとやや規模が大きく、廂(縁)柱穴では長軸25~30cm、短軸20~30cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト、黒褐色・黄褐色粘質シルトである。身舎の7か所、廂(縁)の10か所で平面形が直径10~22cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕身舎東側柱列：北から190-210-180cm

〔出土遺物〕P13 柱穴堆積土より土師器片、P19 柱穴堆積土より鉄釘(第81図1)が出土した。鉄釘(第81図1)は脚部の断面が方形で頭部を折り返す。

【SB283 掘立柱建物跡】(第82図、写真図版25)

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SB283 - SB281・SB284・SK3

〔規模・形状〕東西2間(総長3.15m)・南北2間(総長1.97m)／東西棟側柱建物

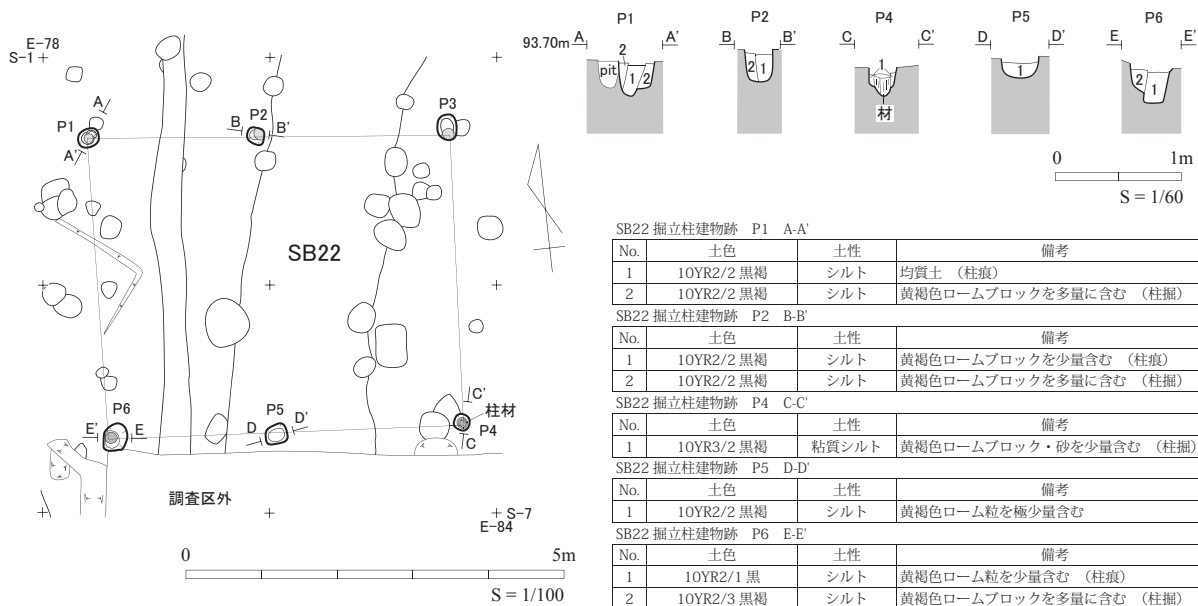
〔方向〕東側柱列：N-50° -E

〔柱穴〕7か所確認した。掘方の平面形は長軸25~37cm、短軸24~32cmの略円形・楕円形で、深さ20~22cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色シルトである。6か所で平面形が直径12~21cmの円形・楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から152-(163)cm

東側柱列：北から104-93cm

〔出土遺物〕P3・P6・P7 柱穴堆積土より土師器坏・

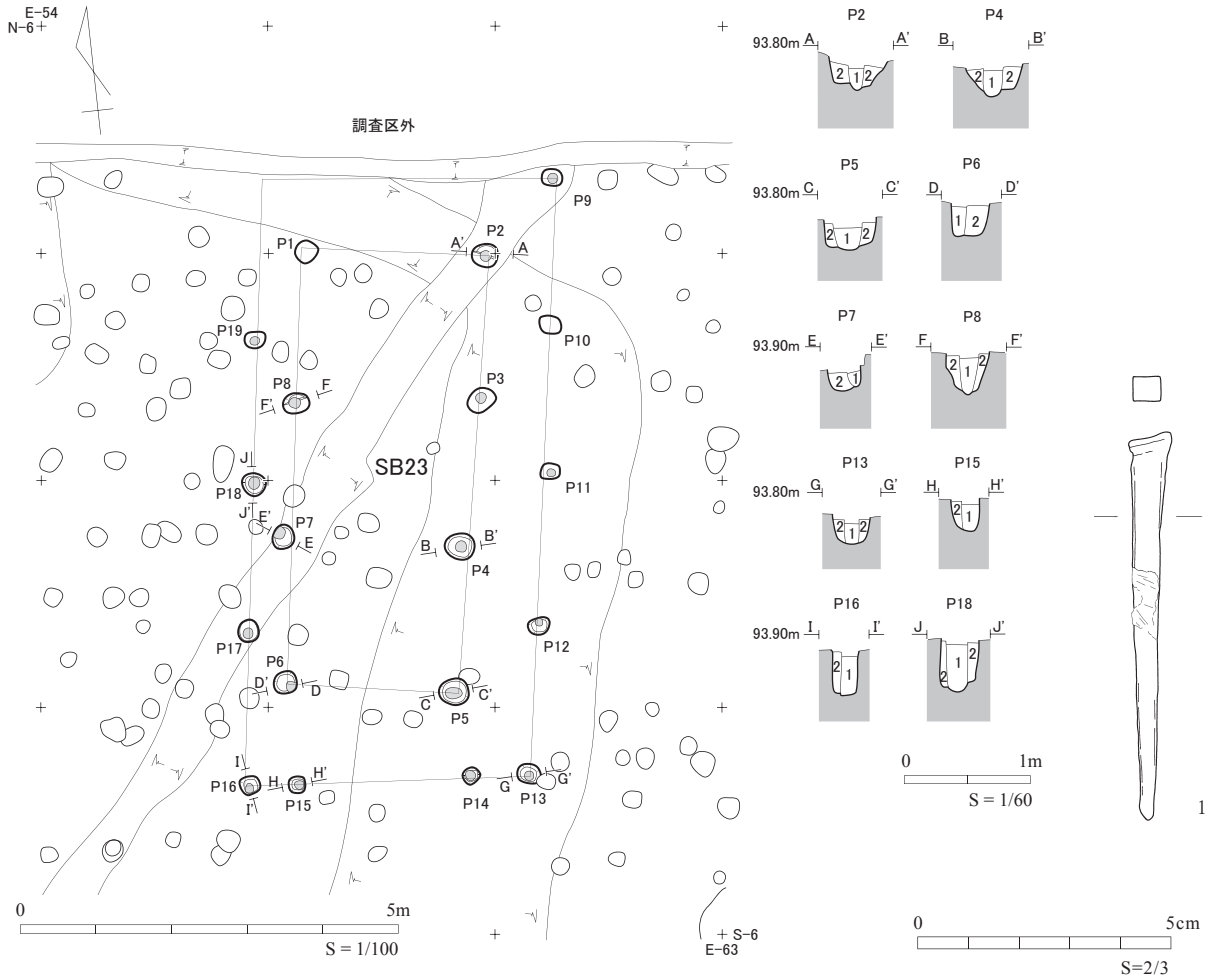


第80図 SB22 掘立柱建物跡

SB22 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
SB22 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)
SB22 掘立柱建物跡 P4 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・砂を少量含む (柱掘)
SB22 掘立柱建物跡 P5 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
SB22 掘立柱建物跡 P6 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。
 【SB285 掘立柱建物跡】(第82図、写真図版23・25)
 [位置] 4区西部/平坦面
 [重複] SB23・SB286・SB287・SB288・SA289 - SB285 → SB364
 [規模・形状] 東西1間(総長1.36m)・南北5間(総

長8.96m)以上/西廂(縁)付南北棟側柱建物/廂(縁)の出:0.86m
 [方向] 東側柱列:N-8°-E
 [柱穴] 身舎で11か所、廂(縁)で5か所確認した。掘方の平面形は長軸22~48cm、短軸20~31cmの楕円形・略円形で、深さ16~42cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色シルト、黒褐色・



No.	遺構	層位	種類	材質	特徴	法量 (cm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SB23	P19 堆	鉄釘	鉄	頭部幅:0.8cm, 頭部厚:1.0cm, 脚部断面:方形、木質付着物	7.7	(0.7)	(0.6)	(8.2)	完形	282	63-8

SB23 掘立柱建物跡 P2 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P4 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む 木片を少量含む (柱痕)
2	10YR4/6 褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P5 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P6 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P7 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P8 F-F'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

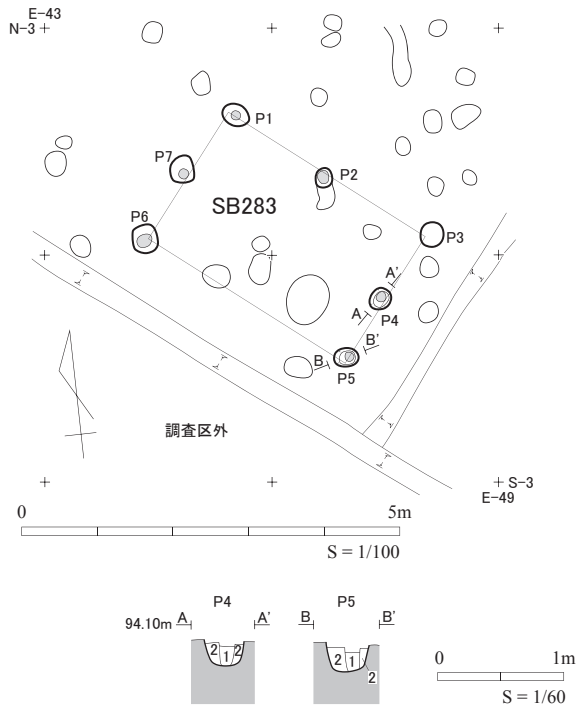
SB23 掘立柱建物跡 P13 G-G'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P15 H-H'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P16 I-I'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土粒を含む (柱掘)

SB23 掘立柱建物跡 P18 J-J'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第81図 SB23 掘立柱建物跡, 出土遺物

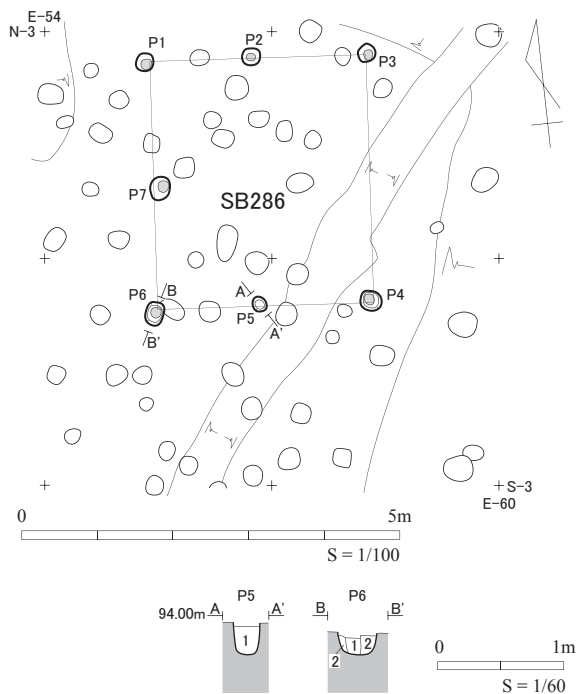


SB283 掘立柱建物跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB283 掘立柱建物跡 P5 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

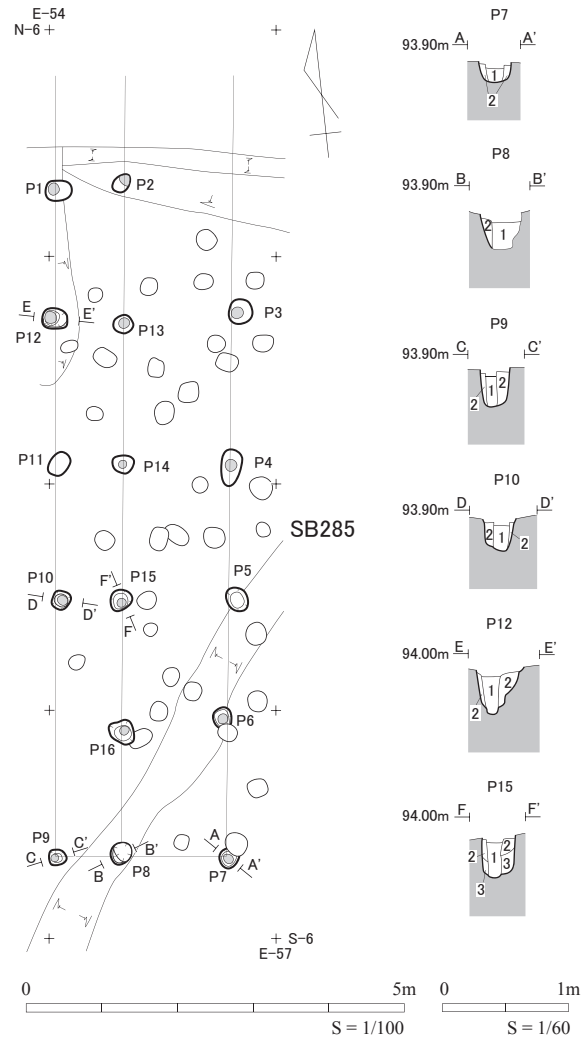


SB286 掘立柱建物跡 P5 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土

SB286 掘立柱建物跡 P6 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB285 掘立柱建物跡 P7 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB285 掘立柱建物跡 P8 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱抜)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB285 掘立柱建物跡 P9 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB285 掘立柱建物跡 P10 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR5/4 にぶい黄褐	粘土	黄褐色ロームブロック主体 白色粘土ブロックを多量に含む 黒褐色シルト粒を含む (柱掘)

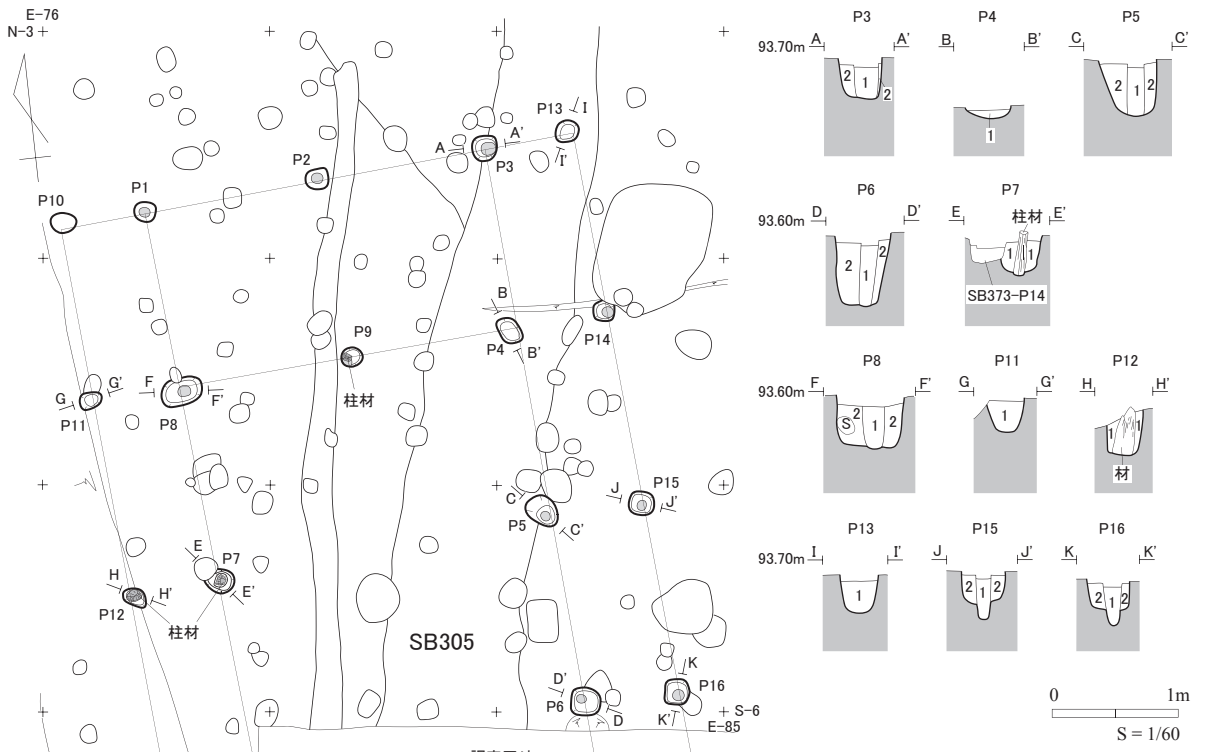
SB285 掘立柱建物跡 P12 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	2.5Y6/3 にぶい黄	粘土	白色粘土粒・黒褐色シルトブロックを多量に含む (柱掘)

SB285 掘立柱建物跡 P15 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

第82図 SB283・285・286 掘立柱建物跡



SB305 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P6 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P7 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P8 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む φ 15cm 程度の礫を含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P11 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土

SB305 掘立柱建物跡 P12 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P13 I-I'

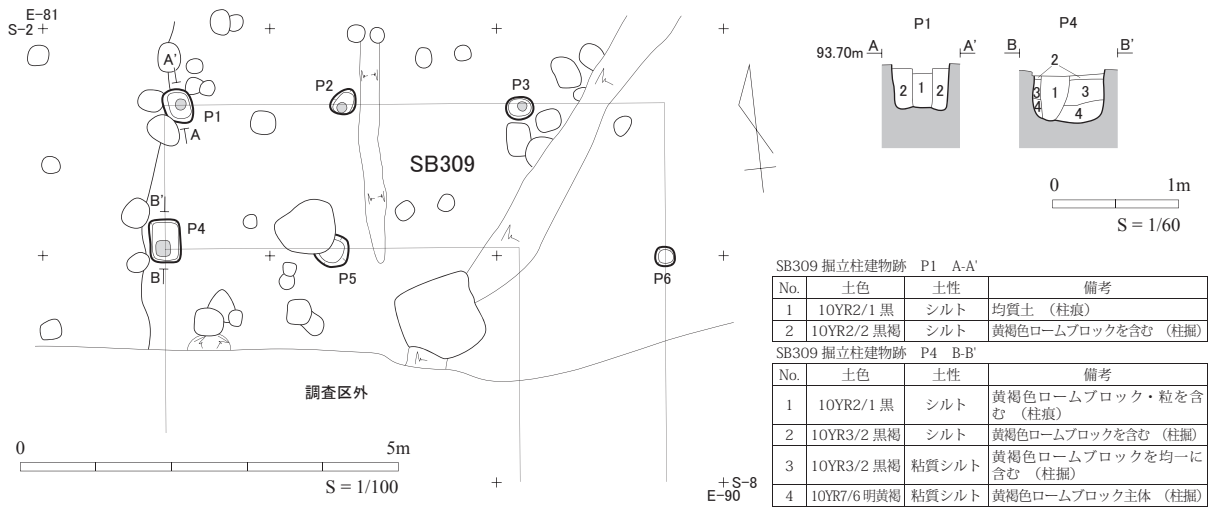
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土

SB305 掘立柱建物跡 P15 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB305 掘立柱建物跡 P16 K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SB309 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB309 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)
3	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを均一に含む (柱掘)
4	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック主体 (柱掘)

第83図 SB305・309 掘立柱建物跡

にぶい黄褐色粘質シルトである。1か所で柱材の抜き取り痕跡、13か所で平面形が直径10~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から190-187-185-170-(164)cm
〔出土遺物〕なし

【SB286 掘立柱建物跡】(第82図、写真図版25)

〔位置〕4区西部／平坦面
〔重複〕SB286 - SB23・SB285・SB288・SB289
〔規模・形状〕東西2間(総長2.90m)・南北2間(総長3.32m)／南北棟側柱建物
〔方向〕西側柱列：N-4°-E

〔柱穴〕7か所確認した。掘方の平面形は長軸22~32cm、短軸18~26cmの略円形・楕円形で、深さ16~26cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色シルトである。6か所で平面形が直径12~16cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から170-162cm
北側柱列：西から136-154cm

〔出土遺物〕なし

【SB305 掘立柱建物跡】(第83図、写真図版24・26)

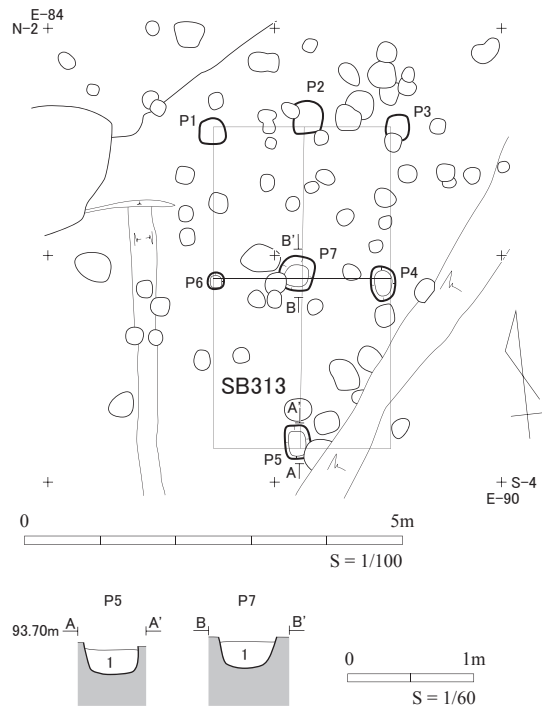
〔位置〕4区西部／平坦面
〔重複〕SI9・SD8 → SB305 → SB373・SE60 - SB22・SB304・SB306・SB307・SB309・SB374・SK58・SK322・SD74
〔規模・形状〕東西2間(総長4.46m)・南北3間(総長7.55m)以上／東西廂(縁)付床束建物／廂(縁)の出：西1.15m・東1.20m
〔方向〕東側柱列：N-5°-W

〔柱穴〕身舎で9か所(うち床束1か所)、廂(縁)で7か所確認した。掘方の平面形は長軸28~56cm、短軸20~38cmの略円形・楕円形で、深さ10~59cmである。床束・廂(縁)では身舎側柱よりもやや規模が小さい。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色

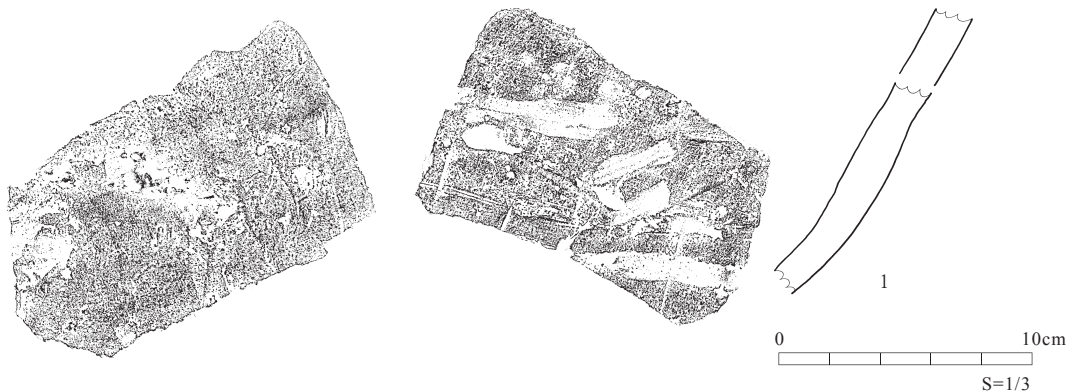
シルト、黒色・黒褐色・暗褐色粘質シルトである。身舎の8か所(うち床束1か所)、廂(縁)の4か所で平面形が直径12~20cmの円形を呈する柱痕跡を確認し、身舎の2か所(うち床束1か所)、廂(縁)の1か所で柱材の一部が残存していた。

〔柱材寸法〕身舎の側柱(P7)、床束(P9)、廂(縁、P12)の各1か所で確認した。幅13.7~15.8cm、厚さ11.2~15.1cm、長さ26.7~52.5cmの割材(芯去材)で、横断面形は五角形、六角形、八角形を呈する。

〔柱間寸法〕東側柱列：北から(240)-(256)-259cm
北側柱列：西から226-220cm



SB313 掘立柱建物跡 P5 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む
SB313 掘立柱建物跡 P7 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む



No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真
1	SB313	P4 堆積土	中世陶器	甕	内面：ナデ、ヘラナデ 外面：ヘラナデ、付着物(鉄?)	胴部	259	63-1

第84図 SB313 掘立柱建物跡，出土遺物

〔出土遺物〕 P1・P8・P13 柱穴堆積土より土師器甕などが出土した。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SB309 掘立柱建物跡】(第83図、写真図版25)

〔位置〕 4区西部／平坦面

〔重複〕 SD8 → SB309 → SK58 - SB22・SB305・SB313・SA310

〔規模・形状〕 東西2間(総長4.62m)・南北不明／北・東廂(縁)付建物／廂(縁)の出:北1.90m・東1.92m

〔方向〕 北側柱列: W-6° -N

〔柱穴〕 身舎で2か所、廂(縁)で4か所を確認した。掘方の平面形は長軸25~57cm、短軸25~44cmの隅丸方形・楕円形で、深さ21~40cmである。廂(縁)では身舎よりも規模が小さい。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト、黒褐色・明黄褐色粘質シルトである。身舎の1か所で平面形が一辺22cmの隅丸方形、廂の3か所で平面形が直径12cmの円形を呈す

る柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕 北側柱列: 西から(224) - (238)

〔出土遺物〕 P3・P4 柱穴堆積土より土師器甕、ロクロ土師器坏が出土した。ロクロ土師器坏は外底面に回転糸切り痕が見られる。

【SB313 掘立柱建物跡】(第84図、写真図版24・63)

〔位置〕 4区西部／平坦面

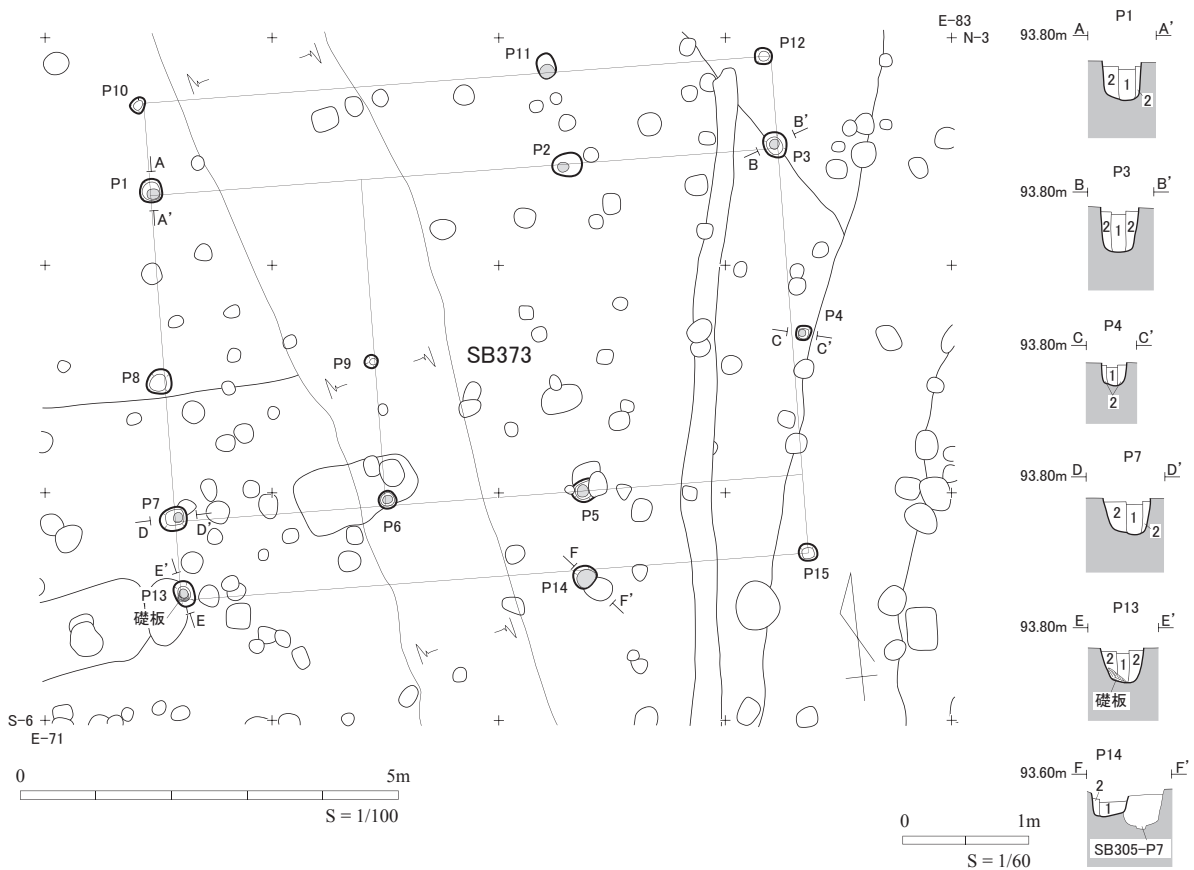
〔重複〕 SB312 → SB313 → SB314 - SB309・SB311

〔規模・形状〕 東西2間(総長2.34m)・南北2間(総長2.08m)／南北棟総柱建物

〔方向〕 東側柱列: N-8° -E

〔柱穴〕 7か所確認した。平面形は長軸20~46cm、短軸20~45cmの隅丸方形を呈し、深さ20~25cmである。堆積土は地山ブロック・炭化物粒を含む黒色・黒褐色シルト、均質な黒色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。

〔柱間寸法〕 北側柱列: 西から(127) - (111) cm



SB373 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

SB373 掘立柱建物跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む(柱掘)

SB373 掘立柱建物跡 P4 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	炭化物粒を少量含む(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロックを極少量含む(柱掘)

SB373 掘立柱建物跡 P7 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を極少量含む(柱掘)

SB373 掘立柱建物跡 P13 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土(柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む(柱掘)

SB373 掘立柱建物跡 P14 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む(柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む(柱掘)

第85図 SB373 掘立柱建物跡

東側柱列：北から (208) - (212) cm

〔出土遺物〕P4 柱穴堆積土より土師器片、中世陶器甕 (第84図1) が出土した。

【SB373 掘立柱建物跡】 (第85図、写真図版24)

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SI9・SI10・SB305・SK68・SK80・SD8 → SB373 - SB21・SB22・SB295・SB302・SB304・SB306・SB307・SB308・SB374・SA303・SD74

〔規模・形状〕東西3間 (総長8.31m)・南北2間 (総長4.34m) / 南・北廂 (縁) 付東西棟床東建物 / 廂の出：北1.24m・南1.12m

〔方向〕北側柱列：付着物E-2°-S

〔柱穴〕身舎で9か所 (うち床東1か所)、廂 (縁) で6か所を確認した。掘方の平面形は長軸20-40cm、短軸18-33cmの略円形・楕円形を呈し、深さ14-37cmである。残存状況が一様でないが、身舎と廂 (縁) の柱穴規模に明瞭な差は見られない。掘方埋土は地山ブロック・焼土粒を含む黒色・黒褐色シルトである。身舎の7か所、廂 (縁) の3か所で平面形が直径12-27cmの円形・楕円形を呈する柱痕跡を確認した。また、このうち廂 (縁) の1か所では掘方

底面で礎板が確認された。

〔柱間寸法〕西側柱列：北から (248) -186cm

南側柱列：西から 279-263- (289) cm

〔出土遺物〕P4・P8 柱穴堆積土より土師器片が出土した。

【SB374 掘立柱建物跡】 (第86図)

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SI10・SD8 → SB374 - SB22・SB304・SB305・SB306・SB307・SB308・SB373・SK68・SK322・SD74

〔規模・形状〕東西2間 (総長5.58m)・南北3間 (総長8.38m) / 南北棟側柱建物

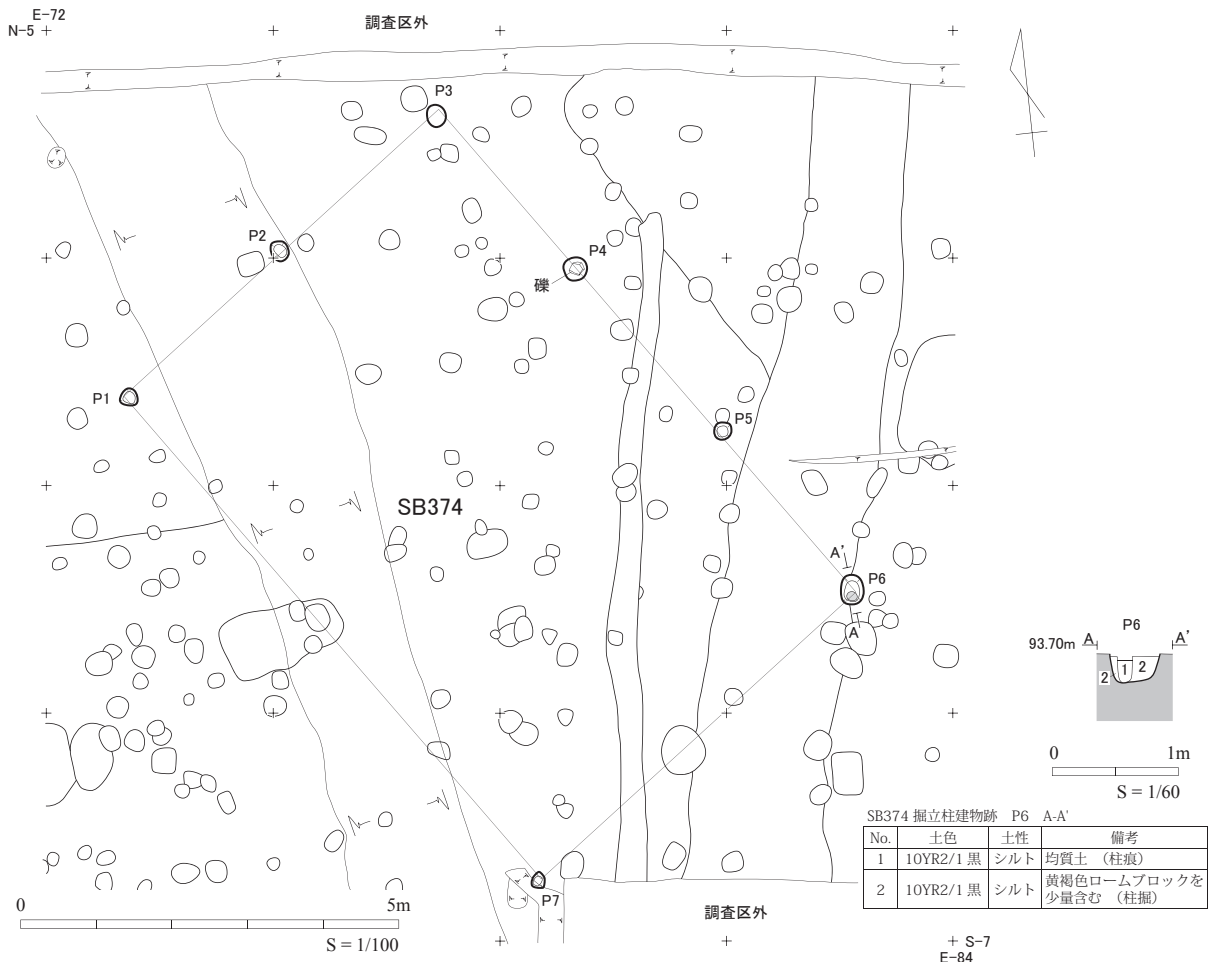
〔方向〕東側柱列：N-35°-W

〔柱穴〕7か所確認した。平面形は長軸24-40cm、短軸18-30cmの楕円形を呈し、深さ12-34cmである。1か所で平面形が長軸15cm、短軸11cmの楕円形を呈する柱痕跡を確認した。掘方埋土は地山ブロックを少量含む黒色シルトである。

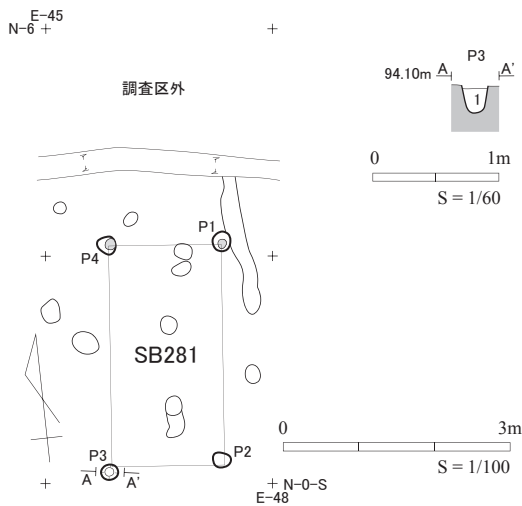
〔柱間寸法〕北側柱列：西から (280) - (278) cm

東側柱列：北から (268) - (288) - (282) cm

〔出土遺物〕P1 柱穴堆積土より土師器坏が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

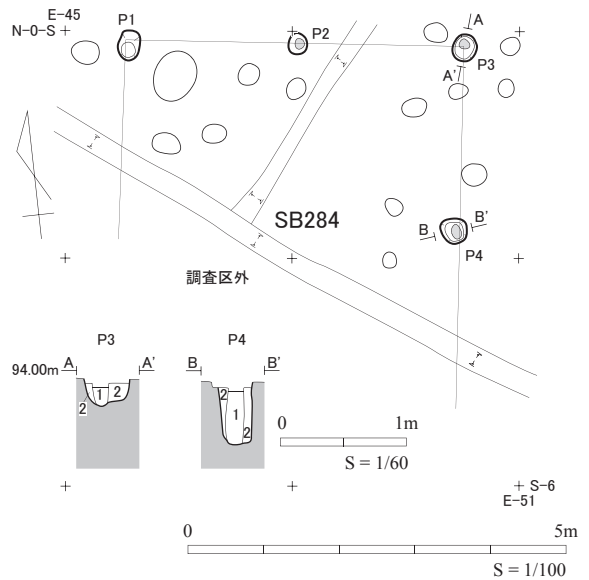


第86図 SB374 掘立柱建物跡



SB281 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	均質土

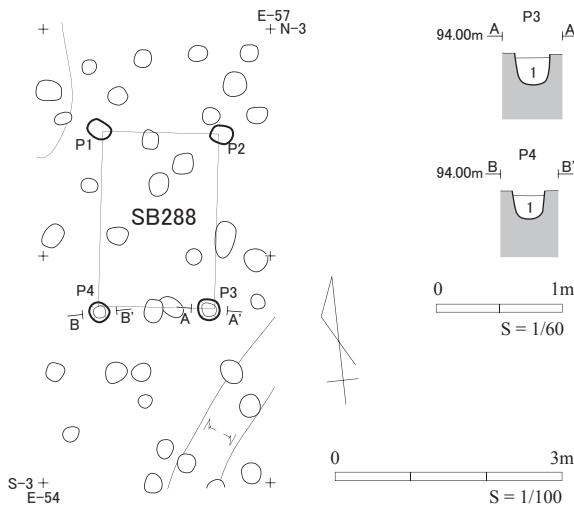


SB284 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB284 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

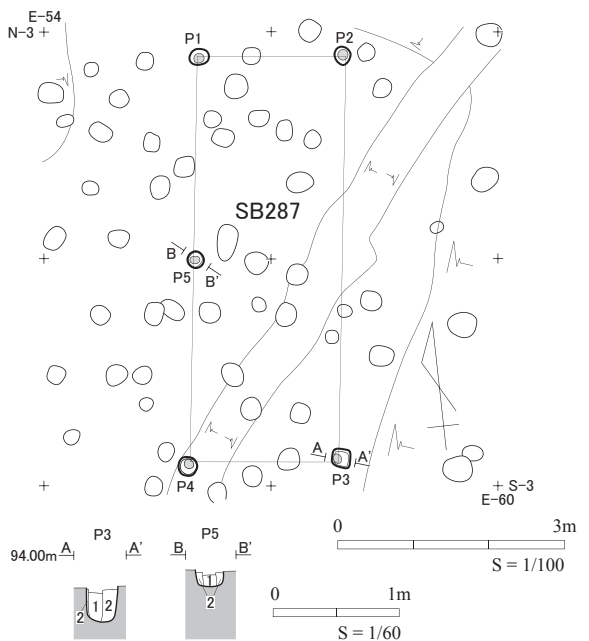


SB288 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土

SB288 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

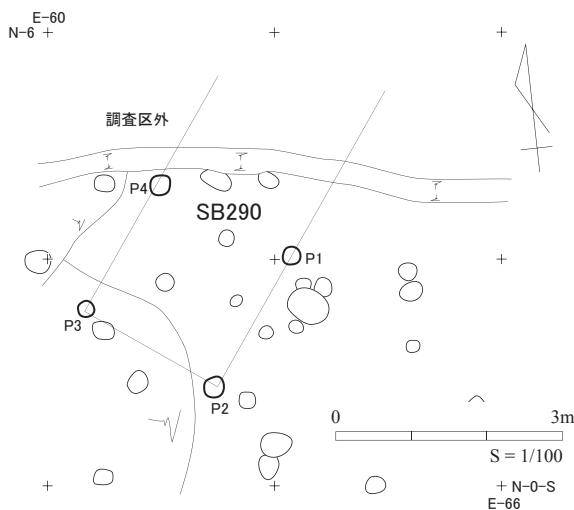


SB287 掘立柱建物跡 P3 A-A'

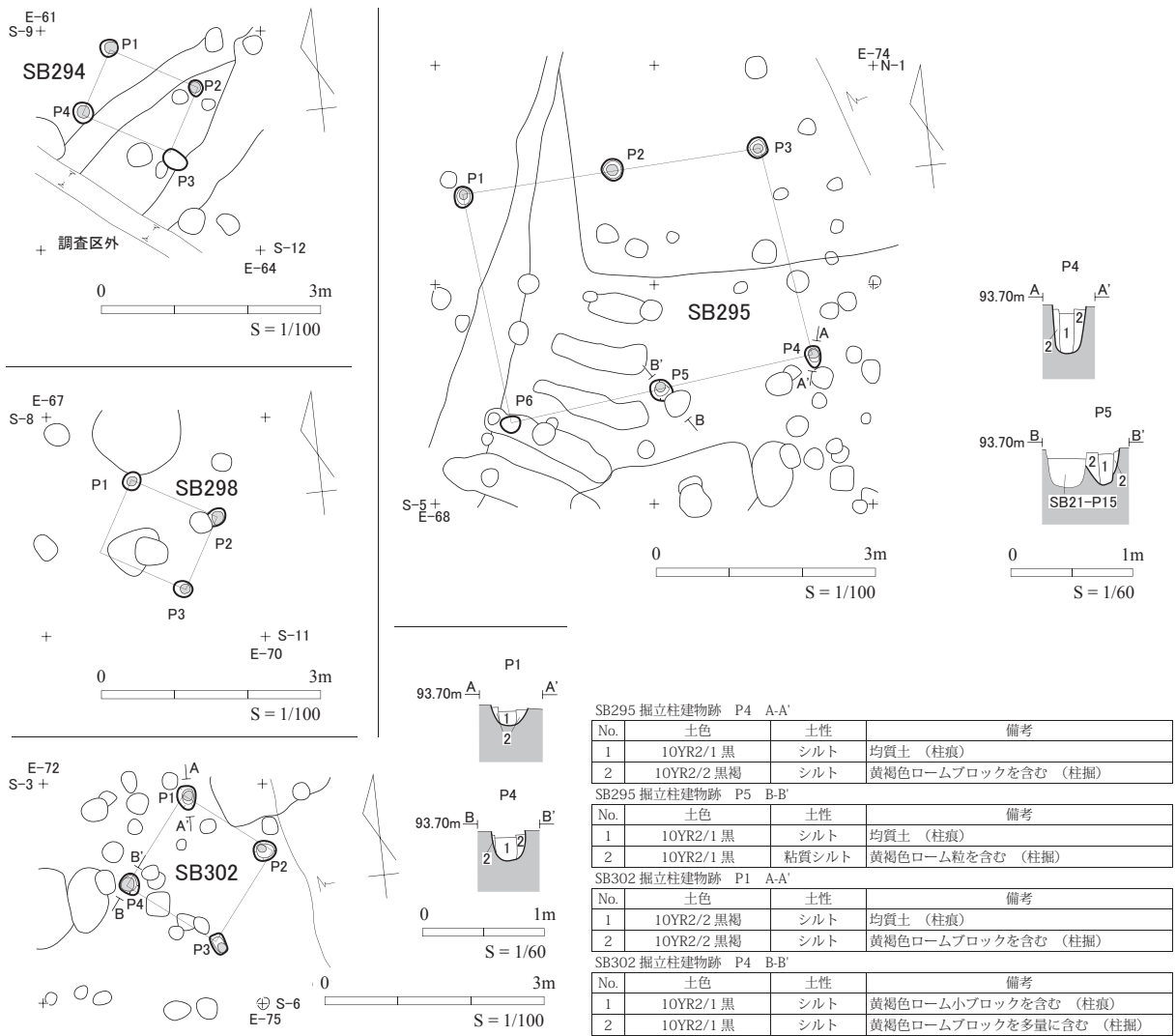
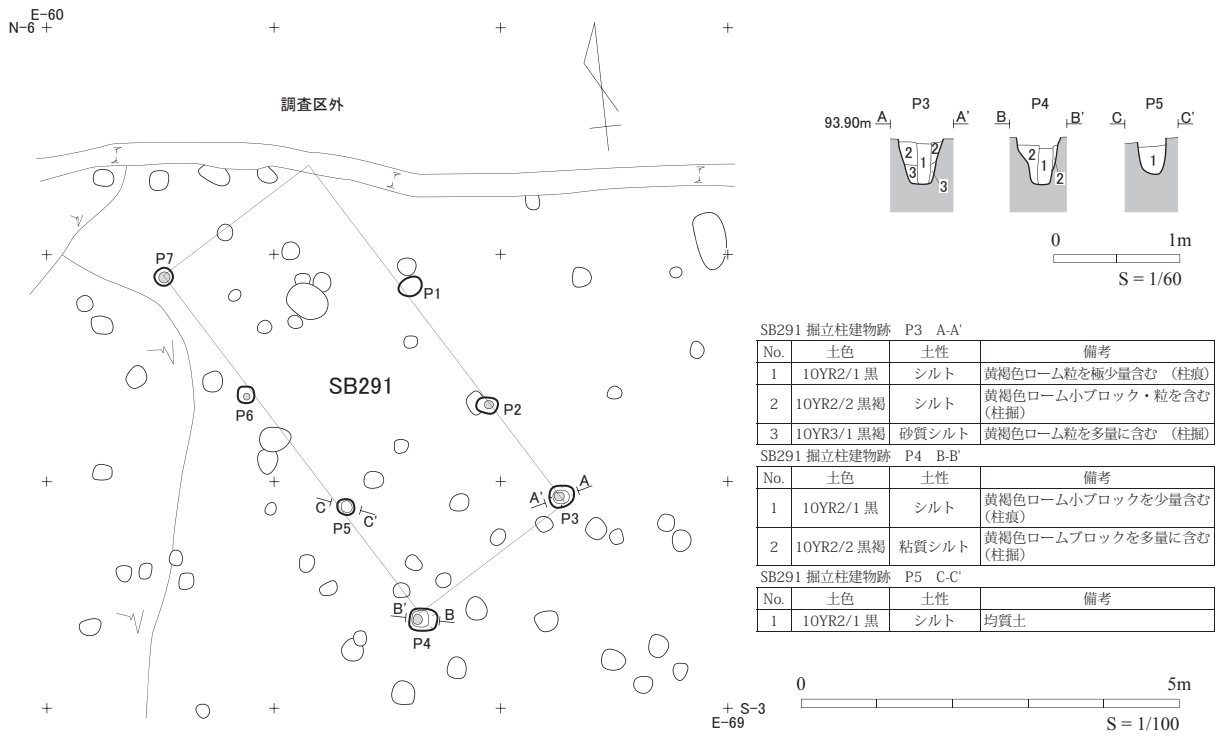
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB287 掘立柱建物跡 P5 B-B'

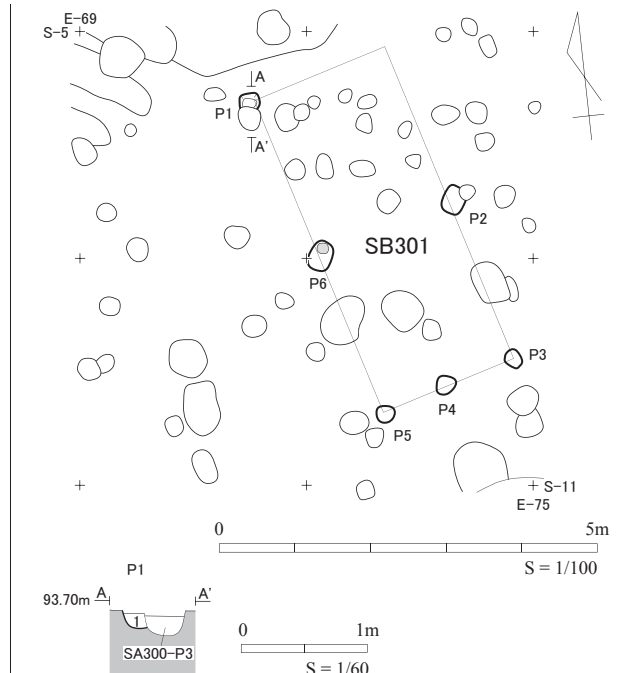
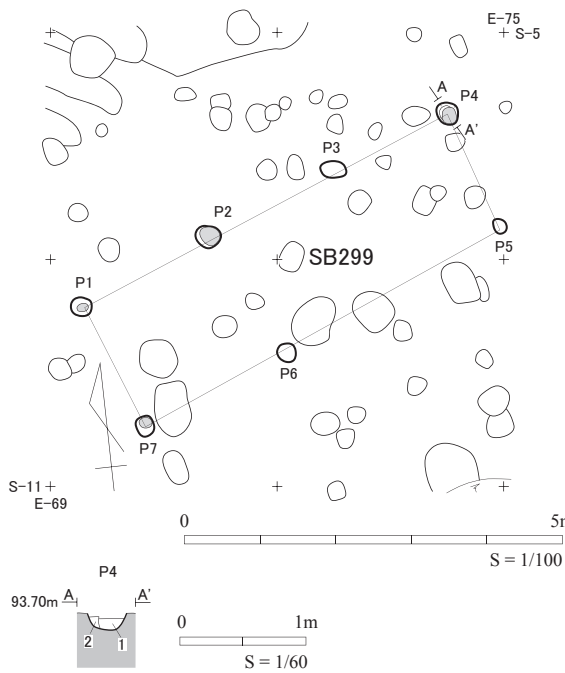
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



第87図 SB281・284・287・288・290 掘立柱建物跡



第88図 SB291・294・295・298・302 掘立柱建物跡

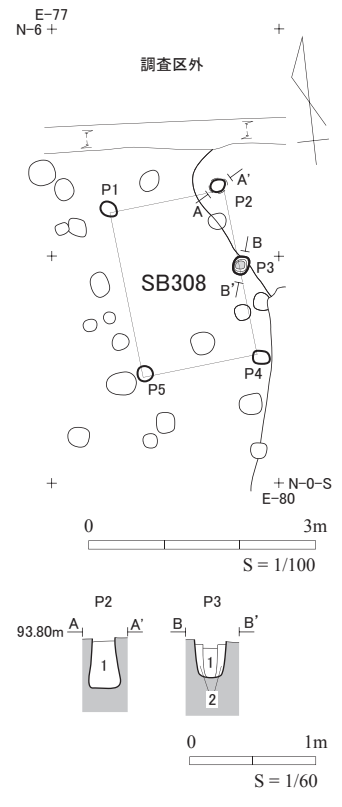


SB299 掘立柱建物跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB301 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB304 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土

SB308 掘立柱建物跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土

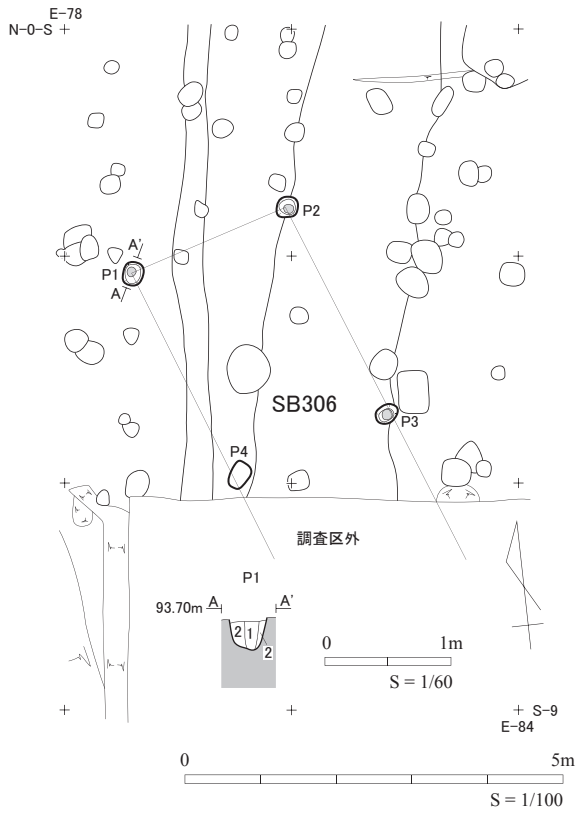
SB304 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

SB308 掘立柱建物跡 P3 B-B'

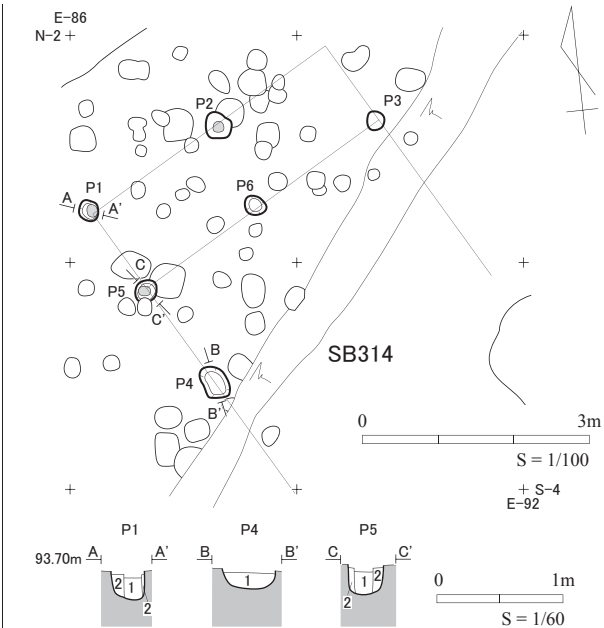
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第89図 SB299・301・304・308 掘立柱建物跡



SB306 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)



SB314 掘立柱建物跡 P1 A-A'

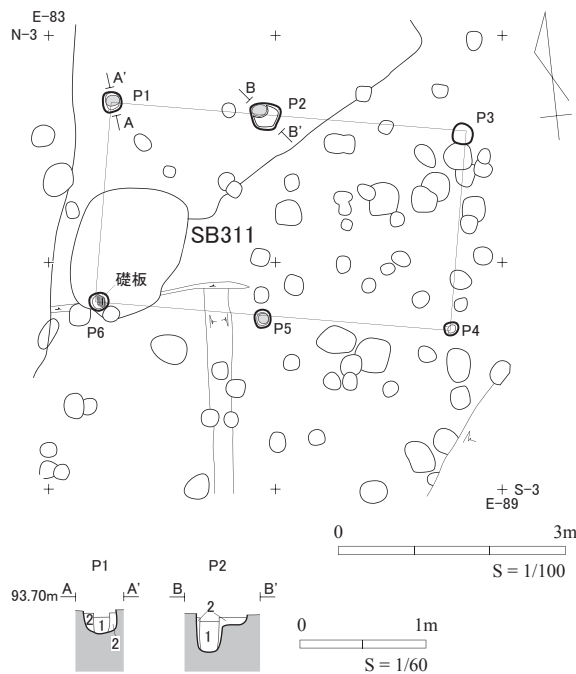
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB314 掘立柱建物跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 焼土粒を全体的に含む

SB314 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

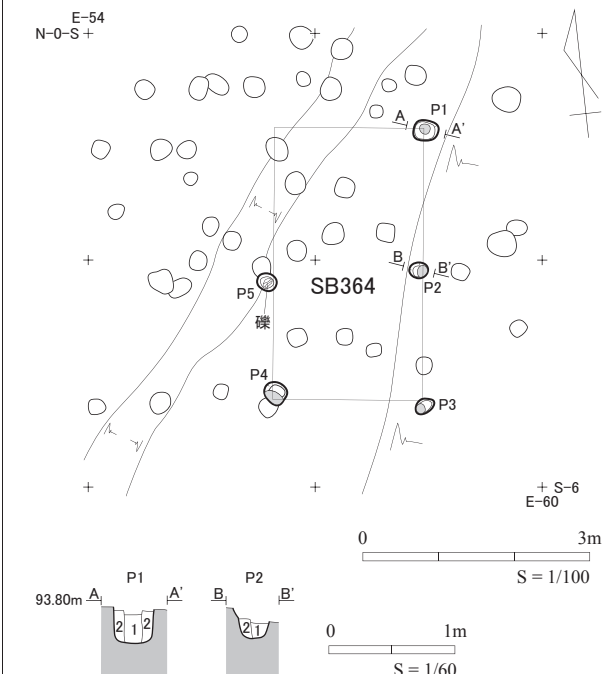


SB311 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB311 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



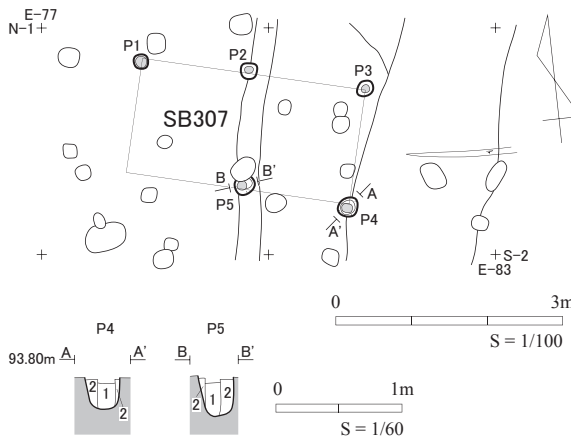
SB364 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB364 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第90図 SB306・311・314・364 掘立柱建物跡

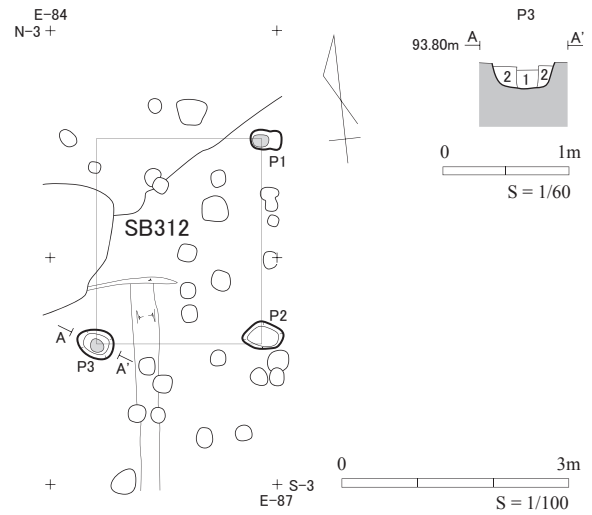


SB307 掘立柱建物跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

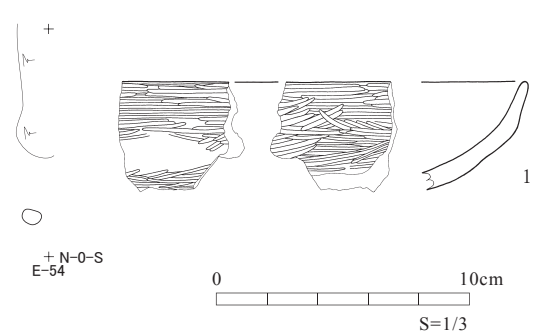
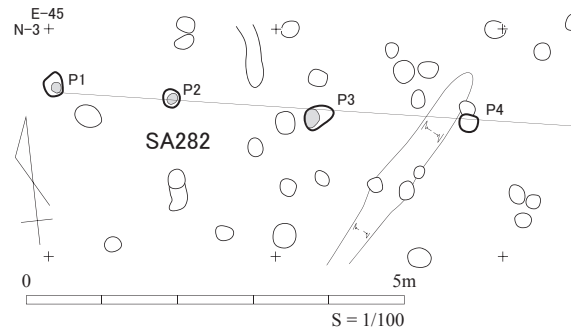
SB307 掘立柱建物跡 P5 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック主体 (柱掘)

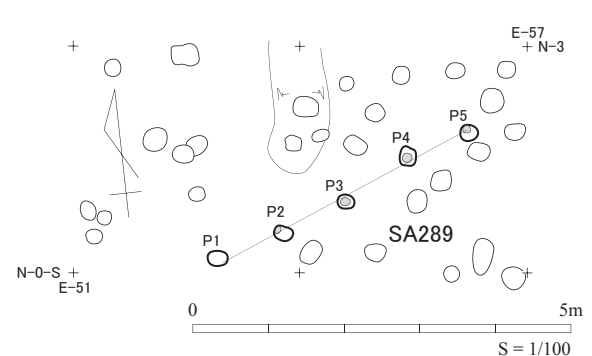
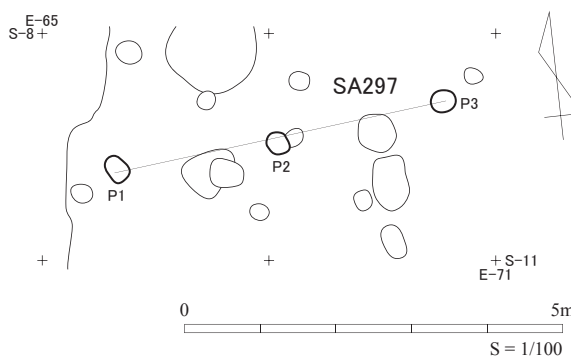
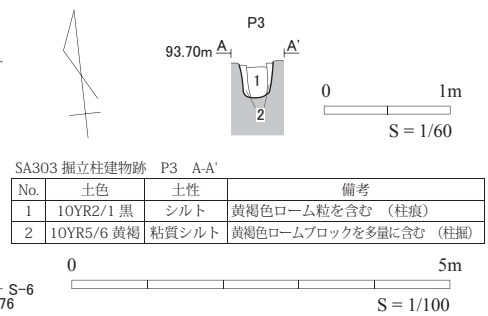
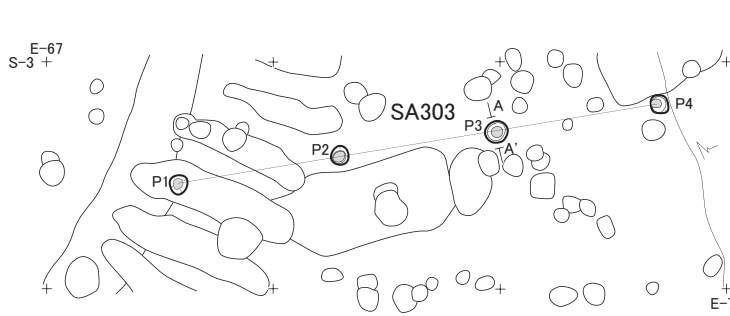


SB312 掘立柱建物跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (柱掘)

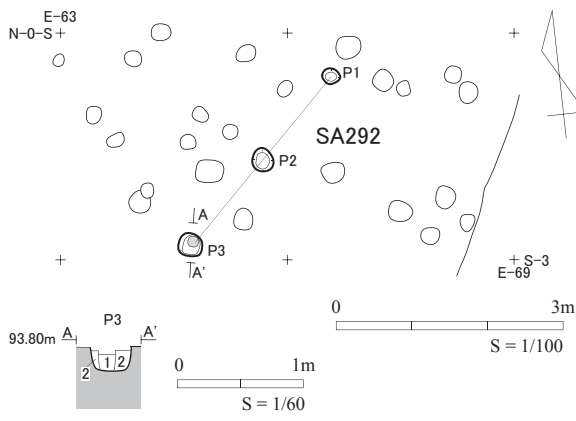


No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SA282	P5 確認面	土師器	坏	内面：(口) ヨコナデ→ヘラミガキ, 外面：(口) ヨコナデ→ヘラミガキ, (体~底) ヘラミガキ	-	-	(4.4)	一部	162	62-9



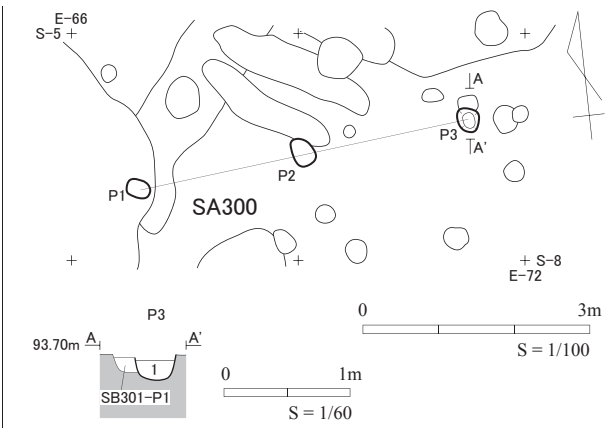
第91図 SB307・312 掘立柱建物跡, SA282・297・289・303 柱列跡, SA282 柱列跡出土遺物

第4章 調査の結果



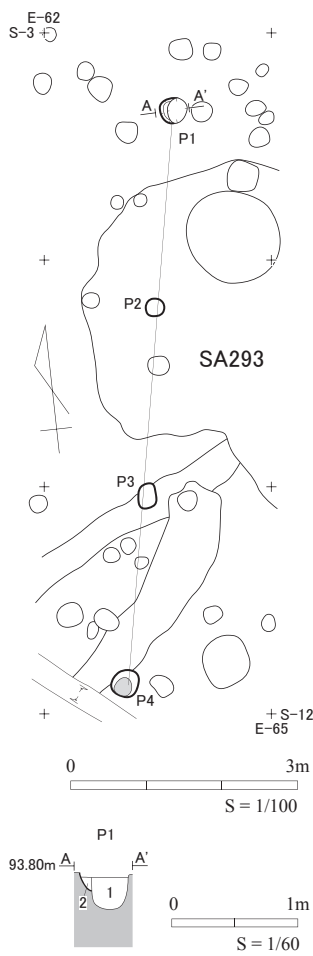
SA292 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



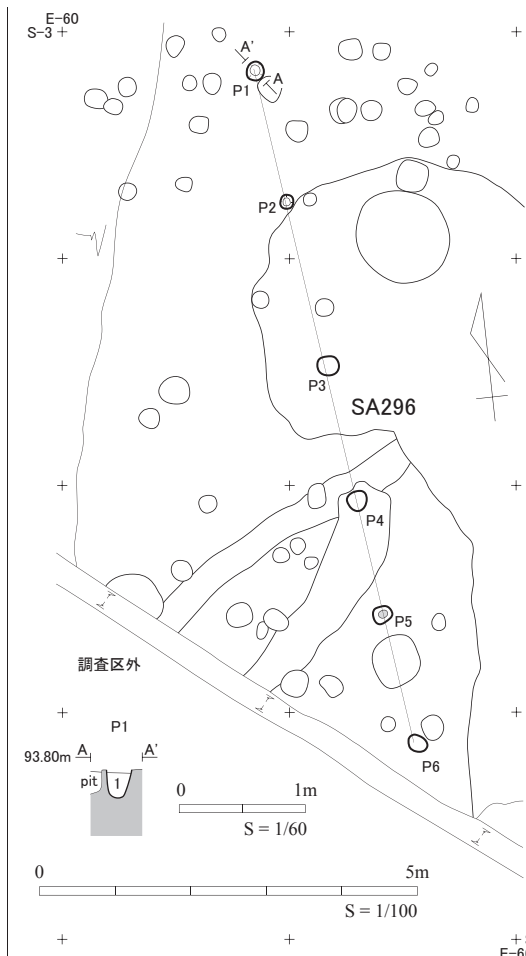
SA300 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



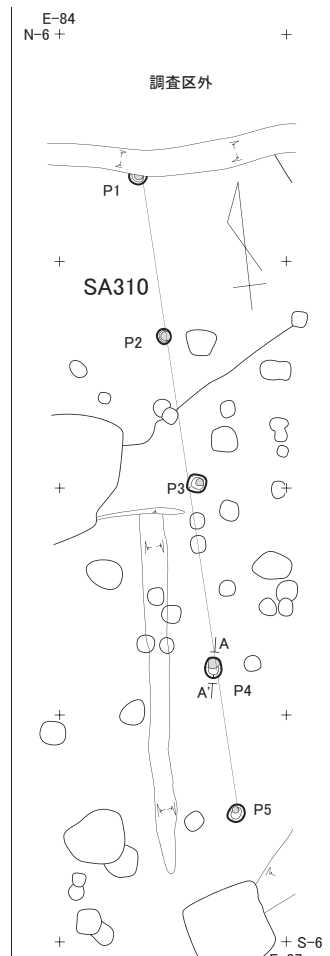
SA293 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SA296 柱列跡 P1 A-A'

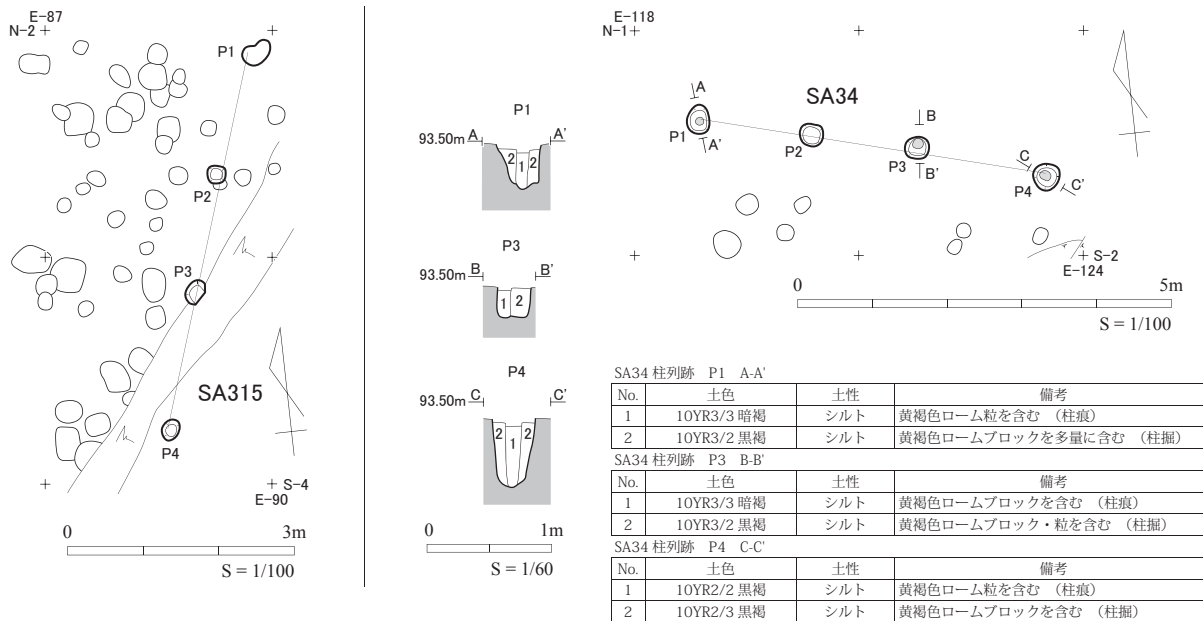
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む



SA310 柱列跡 P4 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロックを少量含む (柱掘)

第92図 SA292・293・296・300・310 柱列跡



第 93 図 SA34・315 柱列跡

(3) 柱列跡

【SA282 柱列跡】(第 91 図、写真図版 23・25・62)

〔位置〕4 区西部／平坦面

〔重複〕SA282 - SB281

〔規模・形状〕東西 4 間 (総長 7.05m)

〔方向〕W-11° -N

〔柱穴〕5 か所確認した。未精査である。掘方の平面形は長軸 24~42cm、短軸 22~31cm の楕円形を呈する。4 か所で平面形が直径 12~24cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕西から 152-200-198-155cm

〔出土遺物〕P5 柱穴確認面より土師器杯 (第 91 図 1)、P3・4 柱穴確認面より土師器片が出土した。土師器杯 (第 91 図 1) は体部が内湾し口縁部が直線的に外傾する有段丸底杯の破片で、外面の口縁部と体部の境に段を持つ。内外面の口縁部にヨコナゲ→口縁部 - 体部にヘラミガキ調整を施し、内面に黒色処理を施さない。

(4) 材木堀跡

【SA76 材木堀跡】(第 94 図、写真図版 27・28)

〔位置〕4 区東部／東向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南北方向に直線的に延びる。長さ 14.0m を確認し、調査区外の南北に延びている。上幅 27~58cm、底幅 20~40cm、深さ 20~40cm の布掘の掘方の中に、平面形が直径 13~43cm の円形・楕円形を呈する柱痕跡を列状に確認した。掘方の横断面形は西壁の中位に段を持ち、上部が開く U 字形を呈する。柱痕跡は東壁に沿って確認した。柱痕跡は 31 か所を確

認した。直径 15~20cm 前後のものを主体として、一部を除いて 5~20cm 間隔で連続する。このうち南側の長さ 5.5 m (柱痕跡 16 か所) を精査し、2 か所 (①・②) で柱痕跡の下部に柱材の一部が残存していた。柱痕跡には掘方底面に達しないものがあり、間隔の開いている部分は削平によって柱痕跡が失われた可能性がある。また、柱痕跡のうち 2 か所 (Ⓐ・Ⓑ) は平面形が直径 30~40cm 前後と規模が大きく、Ⓐでは掘方底面の南北両側に地山を残し、独立柱としての強度を持たせる構造となっている。Ⓐ - Ⓑ間の距離は約 3.9m である。掘方底面は南側ではほぼ平坦であるが、北側では凹凸が見られる。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質シルトである。

〔柱材寸法〕2 か所確認した。幅 14.4~16.7cm、厚さ 12.3~13.5cm、長さ 18.6~24.3cm の割材 (芯去材) で、横断面形は三角形・台形を呈する。

〔方向〕N-25° -E

〔出土遺物〕なし

(5) 井戸跡

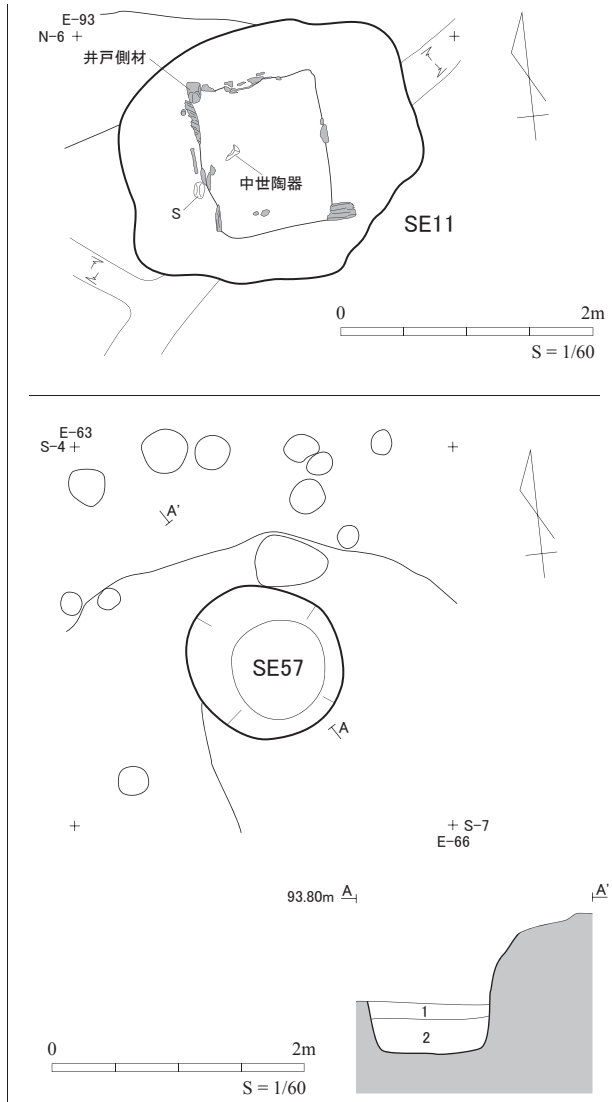
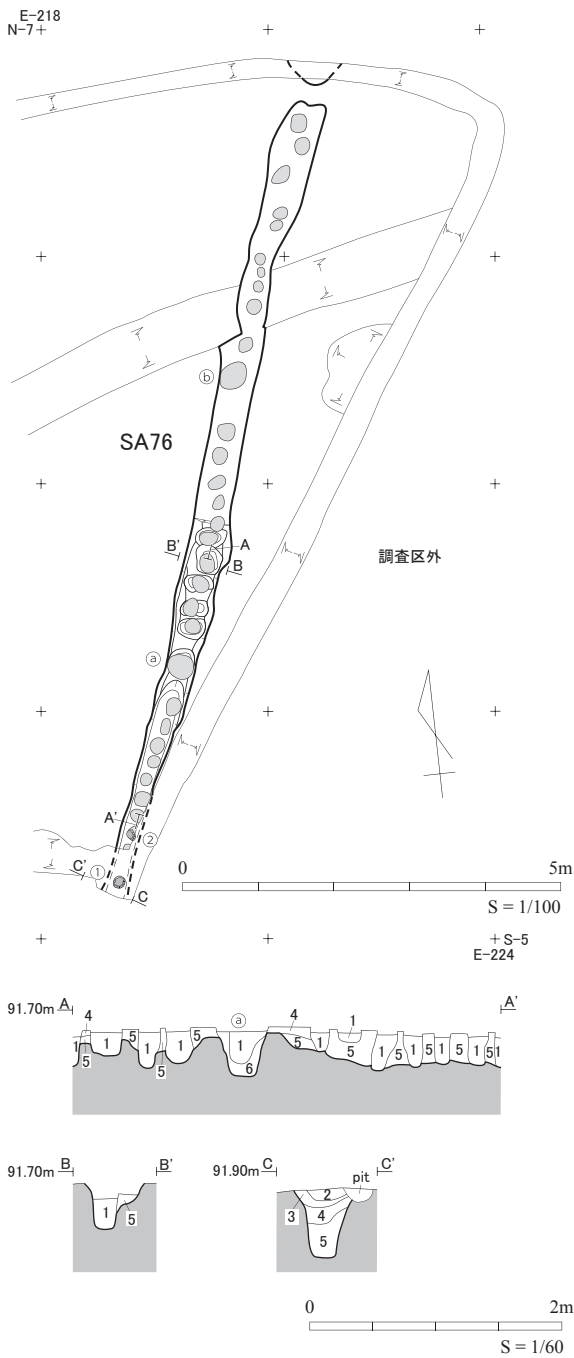
【SE11 井戸跡】(第 94 図、写真図版 63)

〔位置〕4 区中央部／平坦面

〔重複〕SK346 → SE11

〔規模・形状〕平面形は長軸 2.63m、短軸 2.10m の不整楕円形を呈する。未精査であるが、中央部で長軸 1.20m、短軸 1.10m の方形に板状・棒状の木材の小口面が露出しており、井戸側と考えられる。

〔堆積土〕確認面で観察できる堆積土は、井戸側の外側が地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、掘方埋



SA76 材木堀跡 A-A', B-B', C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量、炭化物粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)
3	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
6	10YR2/1 黒	粘土	白色粘土ブロックを少量含む (柱掘)

SE57 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	底面に人頭大の礫を含む (機能時堆)

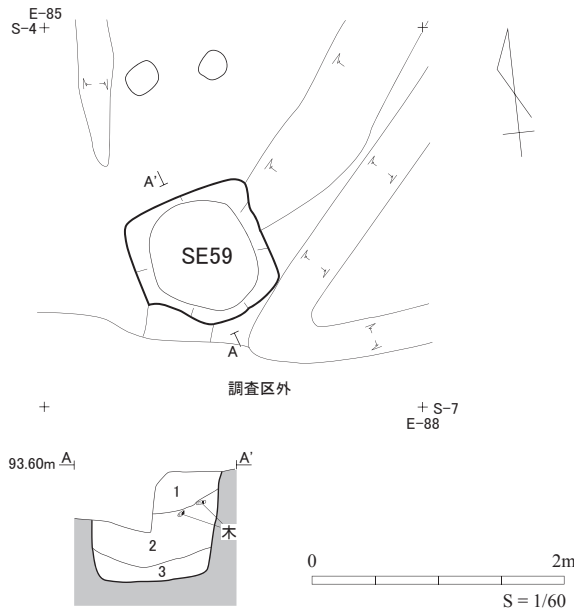


No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真
1	SE11	井戸側内確認面	中世陶器	甕	内面：ナデ 外面：ヘラナデ	胴部	257	63-2

第94図 SA76 材木堀跡, SE11・57 井戸跡, SE11 井戸跡出土遺物

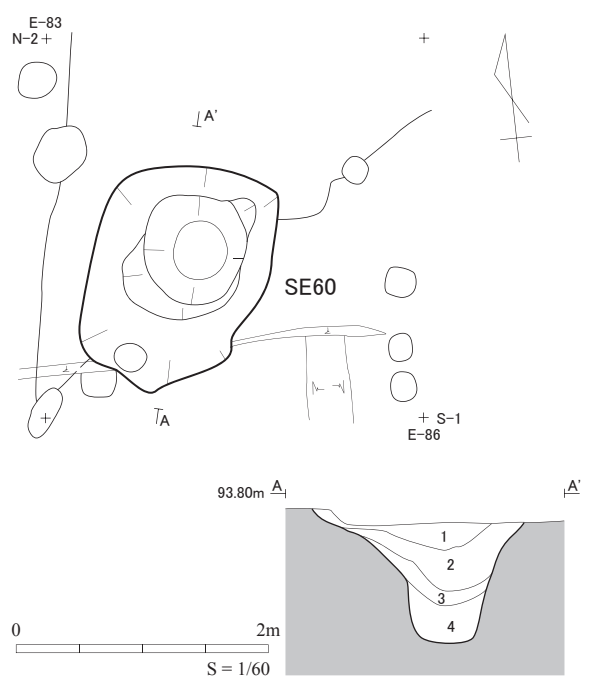
土と考えられる。井戸側の内側は均質な黒色シルトで、廃絶後の自然堆積土と考えられる。
 [出土遺物] 井戸側の内側の遺構確認面より中世陶器甕（第94図1）が出土した。
 【SE59 井戸跡】（第95図、写真図版28・62）
 [位置] 4区西部／平坦面

[重複] なし
 [規模・形状] 平面形が長軸1.07m、短軸1.05mの隅丸方形で、深さ87cmの箱形を呈する。
 [堆積土] 植物遺体・木片・砂・地山ブロックを含む黒色粘質シルト、黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。



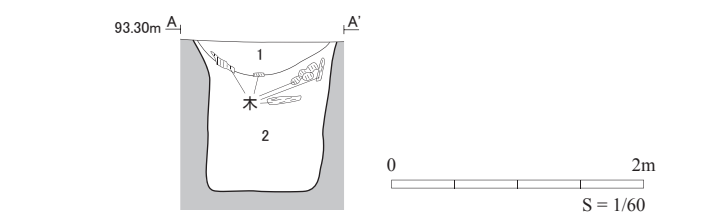
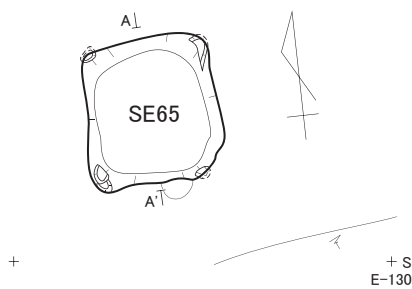
SE59 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む 木材・植物遺体を含む
3	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	砂・黄褐色ロームブロックを含む



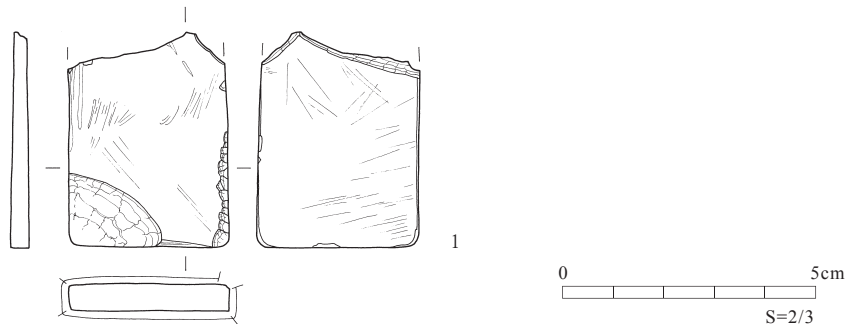
SE60 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む 植物遺体を含む (人為)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (機能時堆)



SE65 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	植物遺体を含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む 木材を多量に含む (人為)



No.	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SE59	1層	不明石製品	泥質岩	両面・側縁：研磨痕、上半部折損	43.00	31.80	5.80	12.6	一部	211	62-11

第95図 SE59・60・65 井戸跡，SE59 井戸跡出土遺物

〔出土遺物〕堆積土より不明石製品（第95図1）、土師器甕が出土した。石製品は青灰色を呈する細粒凝灰岩製で研磨によって方形の板状に仕上げられている。

【SE60 井戸跡】（第95図、写真図版28・63）

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SI9・SB305・SB312 → SE60 → SB311

〔規模・形状〕平面形が長軸1.80m、短軸1.40mの不整楕円形を呈し、深さ1.08mの円筒形で上部が漏斗形に開く。

〔堆積土〕下部が地山ブロックを含む黒色粘質シルトで、機能時の堆積土と考えられる。上部は地山ブロック・植物遺体を含む黒褐色シルト、黒色・暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

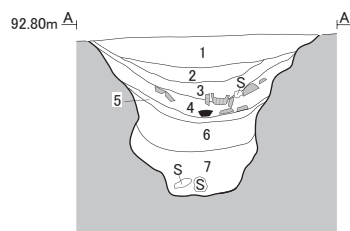
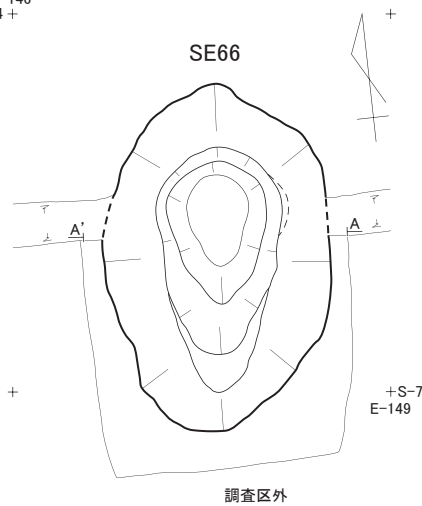
〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕、種実遺体が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。種実遺体はモモの核（長軸2.2cm、写真図版63-7）である。

【SE65 井戸跡】（第95図、写真図版28）

〔位置〕4区中央部／平坦面

〔重複〕なし

E-146
S-4+



〔規模・形状〕平面形が長軸1.45m、短軸1.02mの隅丸方形で、深さ1.22mの箱形を呈する。

〔堆積土〕植物遺体・木片・地山ブロックを含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

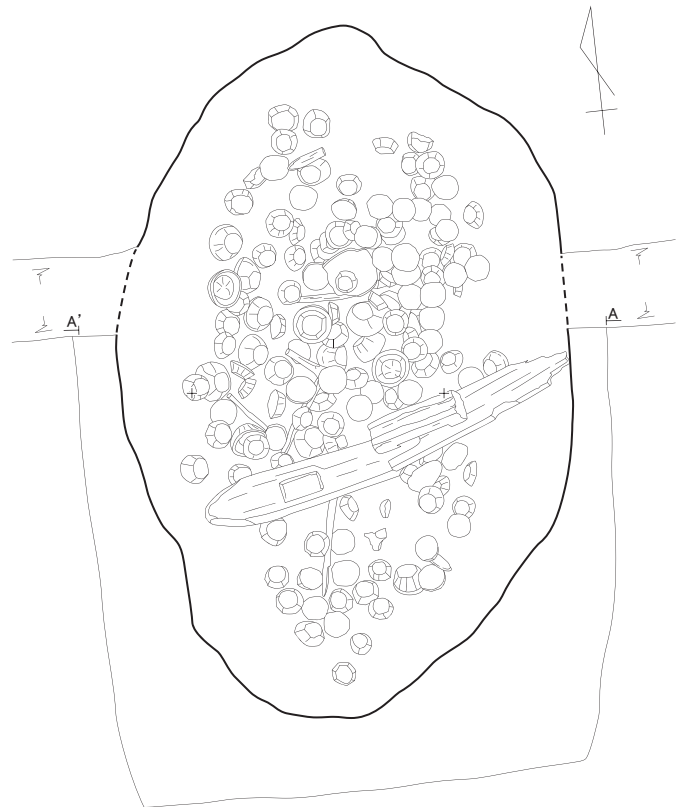
【SE66 井戸跡】（第96図、写真図版29）

〔位置〕4区中央部／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸5.50m、短軸3.60mの楕円形を呈し、深さ1.25mの不整な円筒形で上部が漏斗形に開く。

〔堆積土〕下部の6・7層は地山ブロックを含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。上部の1~5層は地山粒・ブロック、小礫、植物遺体を含む黒色粘質シルト、黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。堆積土4層に多量の木製品を含み、3層には草本類の植物遺体が20~30cmの厚さで堆積していた。また、底面付近の堆積土中より人頭大の河原石2個が出土した。



SE66堆積土4層遺物出土状況

0 1m
S = 1/30

SE66 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒・少礫を少量含む	5	5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量、植物遺体を少量含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・植物遺体を少量含む	6	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む
3	7.5YR2/1 黒	粘質シルト	植物遺体を多量に含む	7	5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む 人頭大の河原石を含む
4	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む 木製遺物包含層				

第96図 SE66 井戸跡

〔出土遺物〕 堆積土4層より木製品189点、種実遺体1点、底面より木製品1点が出土した。4層出土の木製品は挽物未製品(荒型)180点、杓文字1点、柄1点、篋1点、棒状製品3点、不明部材2点、不明品1点があり、底面出土の木製品は下駄の歯である。種実遺体はモモの核(長軸2.6cm)である。挽物未製品(荒型)は上部・底部径と器高から椀21点、小皿158点、皿1点に分類できる。

このほか、堆積土より土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。土師器坏は内外面の口縁部にヨコナデ調整を施す。甕は外面にハケメ調整を施すもの、外底面に木葉痕を持つものがある。須恵器甕は外面に波状文を施文する。これらはいずれも小片であり、先行する遺構堆積土などからの混入と考えられる。

なお、本遺構については上述のとおり多量の木製品が出土しているため、別冊(『十郎田遺跡2-SE66井戸跡出土木製遺物編-』)で出土木製品を中心とした詳細な報告と考察を行なうこととする。

(6) 土坑

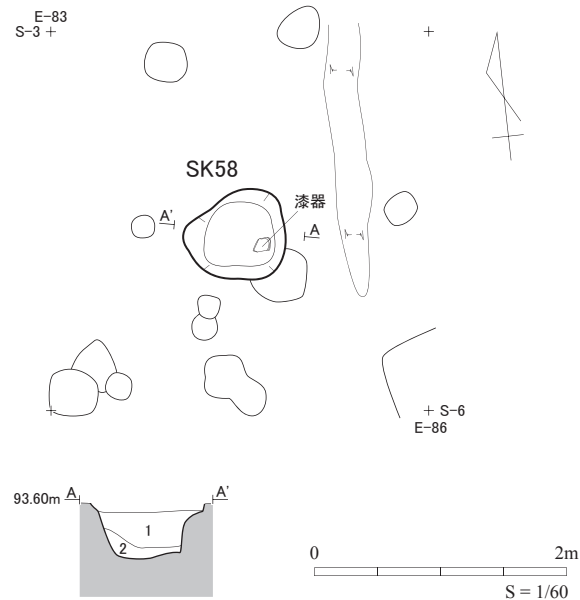
【SK58 土坑】(第97-98図、写真図版29・62・67)

〔位置〕 4区西部/平坦面

〔重複〕 SB309 → SK58 - SB305

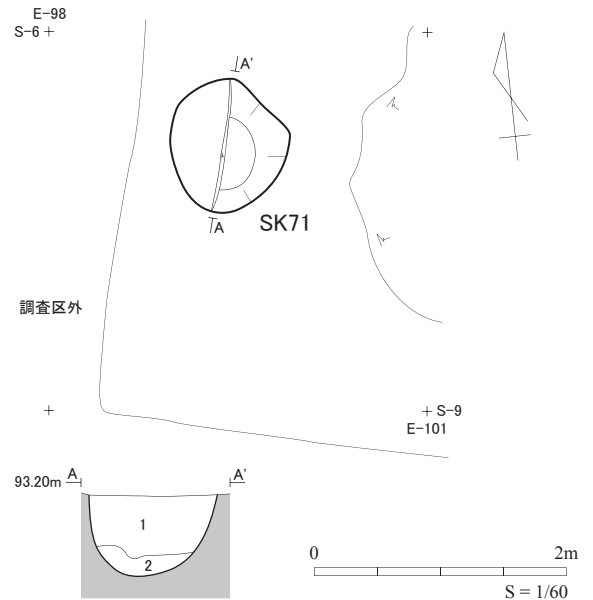
〔規模・形状〕 平面形が長軸79cm、短軸72cmの不整隅丸方形、断面形は深さ45cmの逆台形を呈する。底面は東側でやや皿状に窪む。

〔堆積土〕 地山ブロック・木片を含む黒褐色シルト、黒色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。



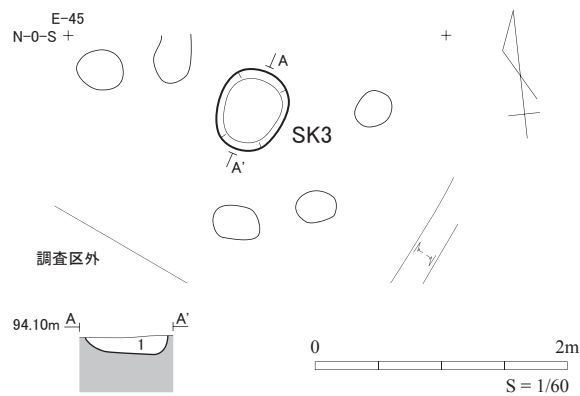
SK58 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 木片を極少量含む



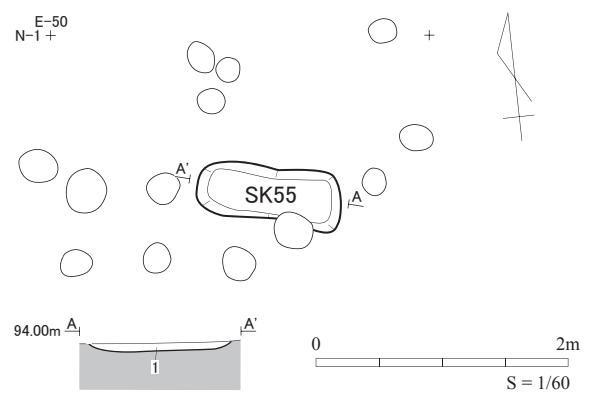
SK71 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/1 黒	シルト	均質土



SK3 土坑 A-A'

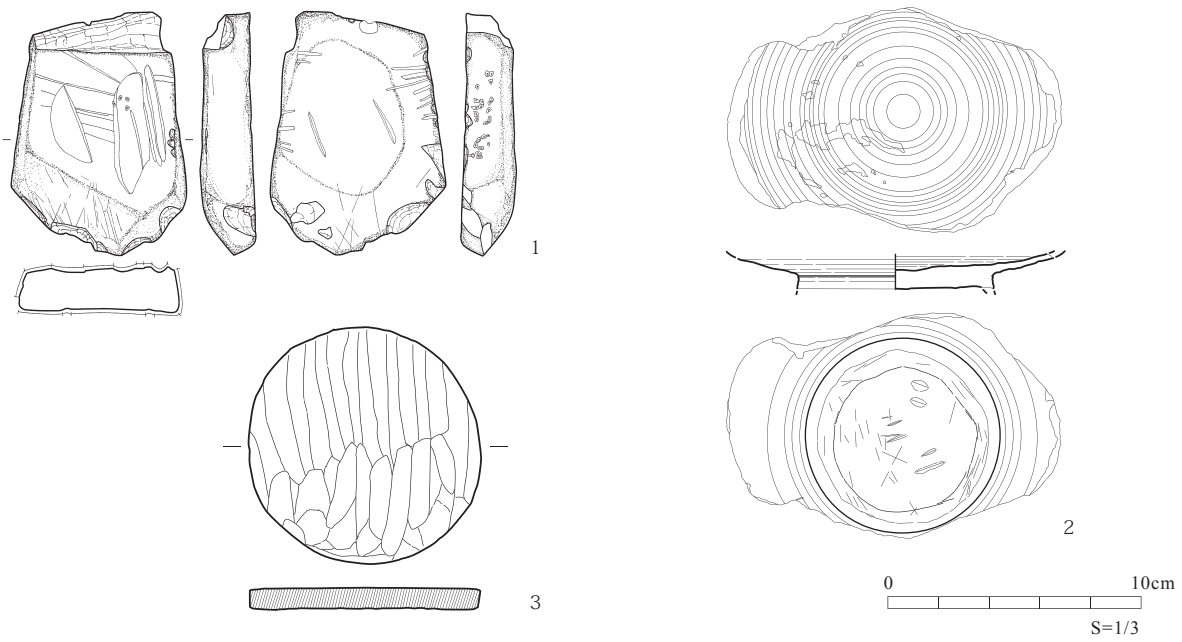
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



SK55 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む

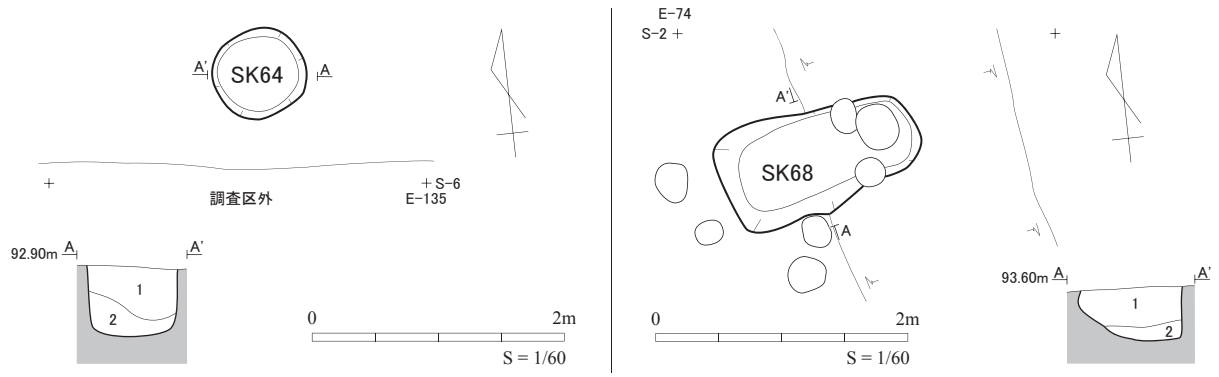
第97図 SK3・55・58・71 土坑



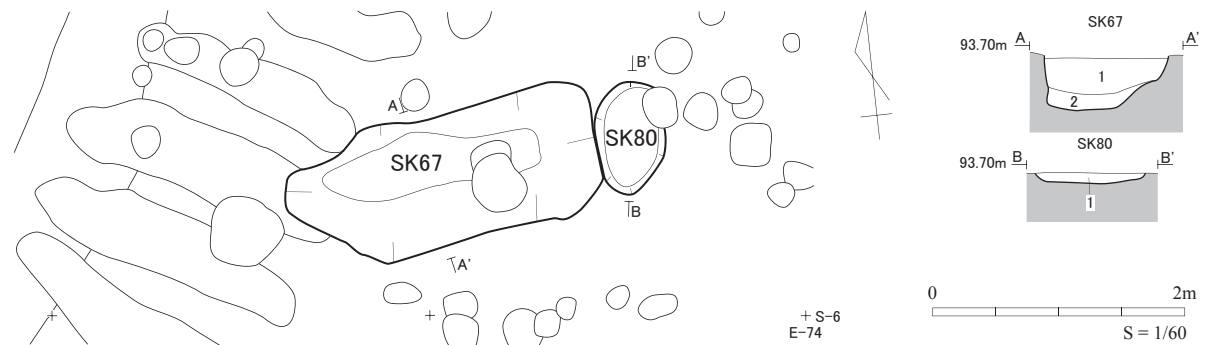
No.	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	SK58	堆積土	砥石	砂岩	砥面数4, 両面:溝状研磨痕, 上半部折損	95.90	70.00	22.00	181.0	一部	210	62-10

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	高台径	器高			
2	SK58	底面	漆器	椀	木製, 内外面:鉋調整→黒漆塗, 外面:(底)漆付着なし, ロクロ爪痕6か所残存	-	(7.8)	(1.7)	一部	494	67-2

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)		残存	登録	写真
						径	厚			
3	SK71	堆積土2層	曲物	柄杓の底板?	木製(榎目取), 上面・側面:鉋調整, 側面:釘穴なし, 側板:榊皮綴じ(図化不能)	9.1-9.4	0.8	一部	495	67-1



SK64 土坑 A-A'				SK68 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	細砂をラミナ状に少量含む	1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む
2	10YR2/1 黒	粘土	黄褐色ロームをラミナ状に極少量含む	2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む



SK67 土坑 A-A'				SK80 土坑 B-B'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む	1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・焼土ブロックを極少量含む
2	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む				

第98図 SK58・71 土坑出土遺物, SK64・67・68・80 土坑

〔出土遺物〕堆積土より砥石(第98図1)、底面より漆器皿(第98図2)が出土した。砥石は砂岩製で板状を呈し、上部を折損する。両面と両側面に砥面を持ち、裏面中央部は浅く窪む。両面に溝状・線状の研磨痕が見られ、右側面には砥面より新しい敲打痕が見られる。漆器皿は上部を欠損するが、内外面漆塗で外底面にロクロ爪痕が観察される。

【SK71 土坑】(第97-98図、写真図版67)

〔位置〕4区中央部/平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸1.06m、短軸0.90mの不整楕円形を呈し、断面形は深さ0.65mのU字形を呈する。

〔堆積土〕地山粒を少量含む黒色シルトで、自然堆積

土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土2層より曲物(第98図3)が出土した。

(7) 溝跡

【SD8 溝跡】(第100図、写真図版63)

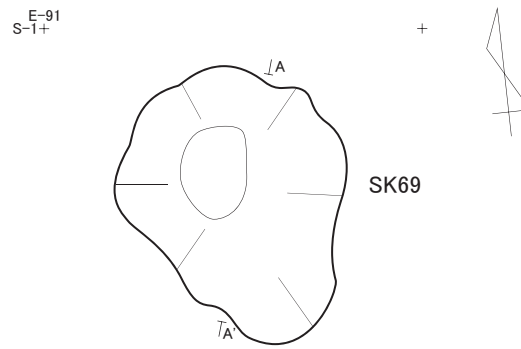
〔位置〕4区西部/平坦面

〔重複〕S19 → SD8 → SB22・SB305・SB306・SB307・SB309・SB373・SB374・SK322

〔規模・形状〕やや蛇行しながら南北方向に延びる。長さ11.0mを確認し、調査区外の南北へ延びている。

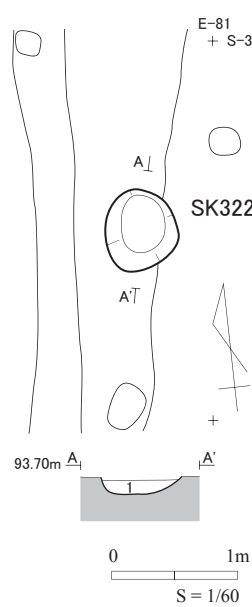
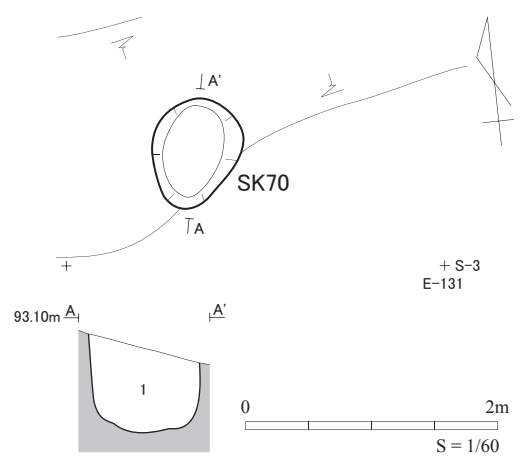
上幅1.25~1.82m、底幅0.94~1.16m、深さ50~58cmで、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多く含む褐灰色シル



SK69 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム小ブロック・粒・植物遺体を含む
2	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	植物遺体を含む
3	10YR2/1 黒	砂質シルト	砂を含む



SK70 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・木片・植物遺体を含む炭化物細片をラミナ状に含む

SK78 土坑 A-A'

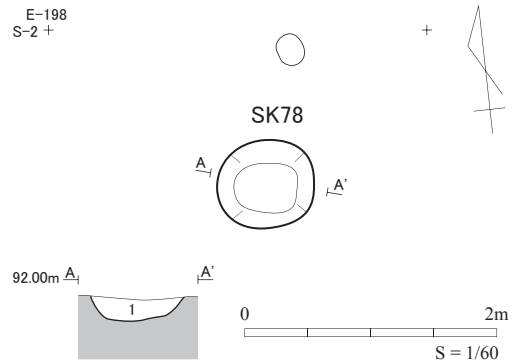
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

SK322 土坑 A-A'

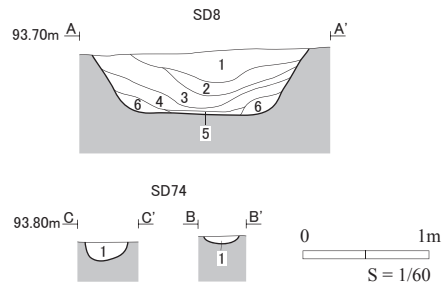
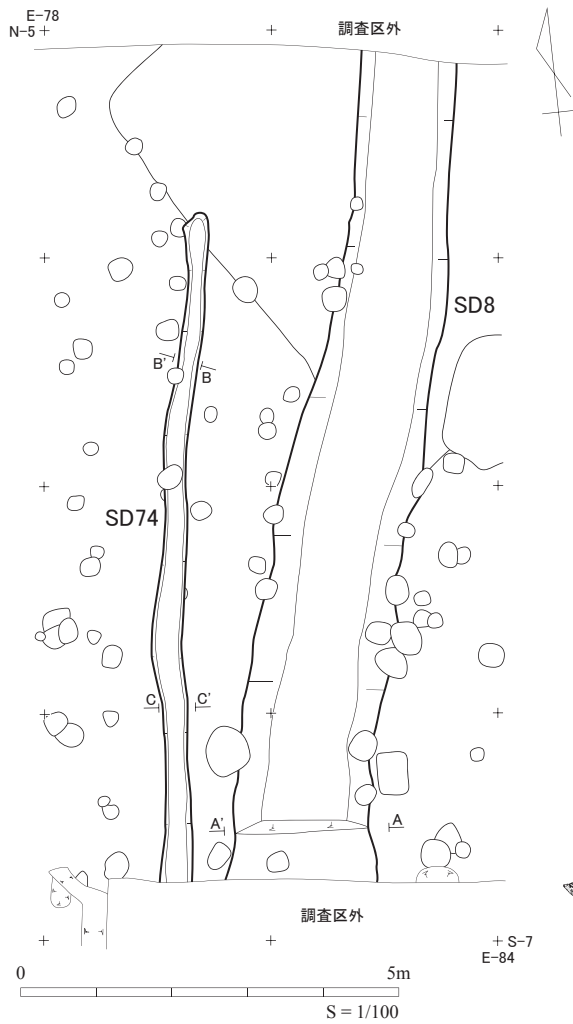
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む

SK348 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	植物遺体を多量に含む



第99図 SK69・70・78・322・348 土坑

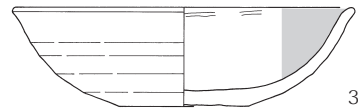
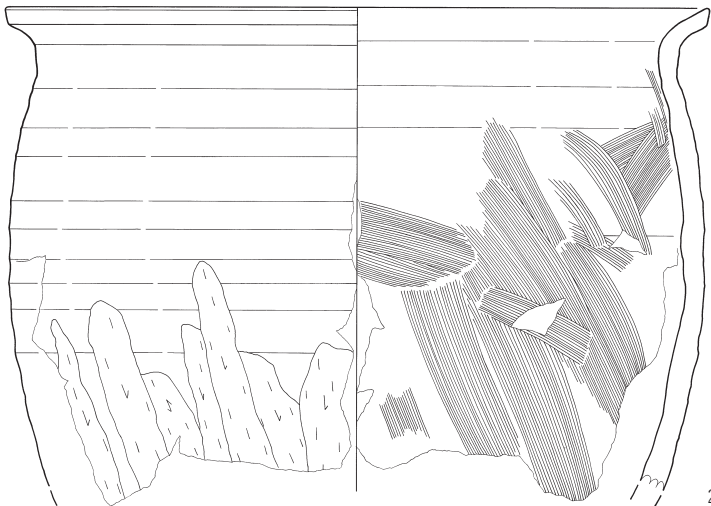
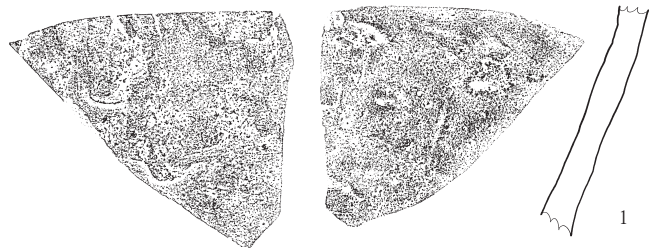


SD8 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	シルト	均質土
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
4	10YR4/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 黄褐色ローム粒を含む
5	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームとの互層
6	10YR5/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (崩)

SD74 溝跡 B-B', C-C'

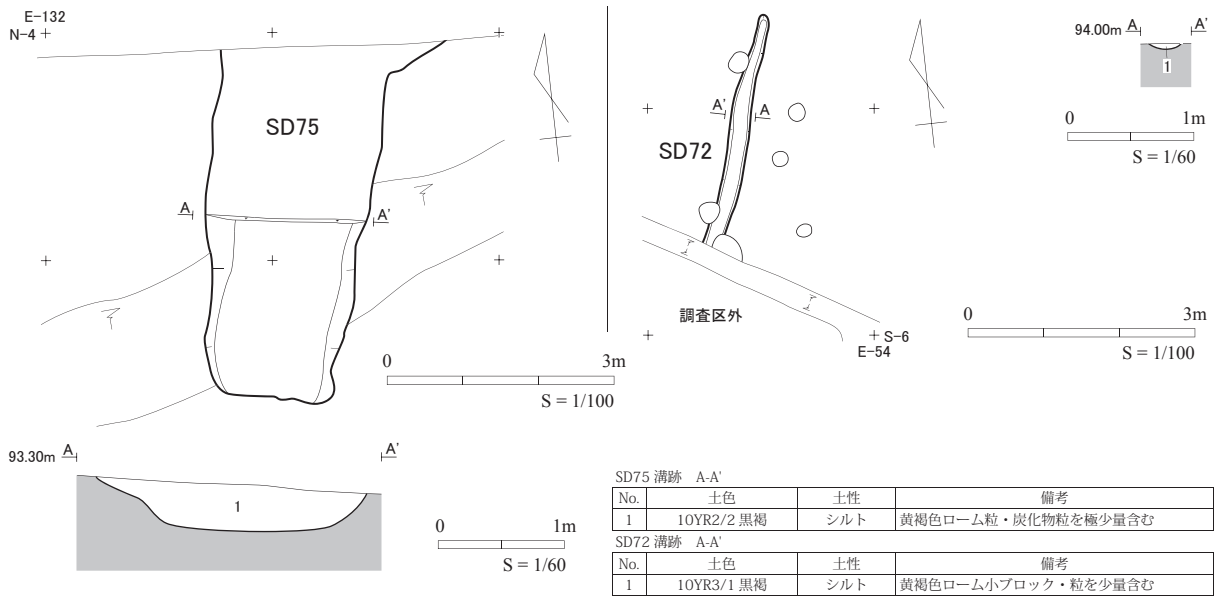
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む



0 10cm
S=1/3

No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真					
1	SD8	堆積土	中世陶器	甕	内面：ナデ 外面：ヘラナデ	胴部	256	63-4					
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)							
2	SD8	堆積土	ロクロ土師器	甕	内面：ロクロナデ→ナデ, 外面：ロクロナデ→(胴下) 手持ちヘラケズリ	口径	底径	器高	残存	登録	写真		
3	SD8	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理 (磨滅著しい), 外面：ロクロナデ, (底) 回転系切り→無調整	(28.0)	(19.7)	(13.6)	5.2	3.9	1/3	021	63-3
						(13.6)	5.2	3.9	1/3	020	63-5		

第100図 SD8・74 溝跡、SD8 溝跡出土遺物



第101図 SD63・72・75 溝跡

トと、黒色粘質シルトと地山土の互層で、前者は壁際の崩落土、後者は機能時の堆積層と考えられる。中部は地山ブロックを多く含む黒褐色・褐灰色シルトで、人為的埋土と考えられる。上部は地山粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土よりロクロ土師器坏(第100図3)・甕(第100図2)、土師器甕、中世陶器甕(第100図1)が出土した。

ロクロ土師器坏(第100図3)は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がやや外反する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。甕(第100図2)は胴部上位に最大径を持ち、口縁部が短く外反する。外面の胴部下位にヘラケズリ調整、内面の胴部にナデ調整を施す。土師器甕は外面にハケメ調整を施すものがある。

【SD75 溝跡】(第101図)

〔位置〕4区中央／平坦面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕南北方向に延びる。長さ4.3mを確認した。北側は調査区外へ延びており、南側は削平により消失

している。上幅1.40~2.20m、底幅1.10~1.50m、深さ0.42mで、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山・炭化物粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

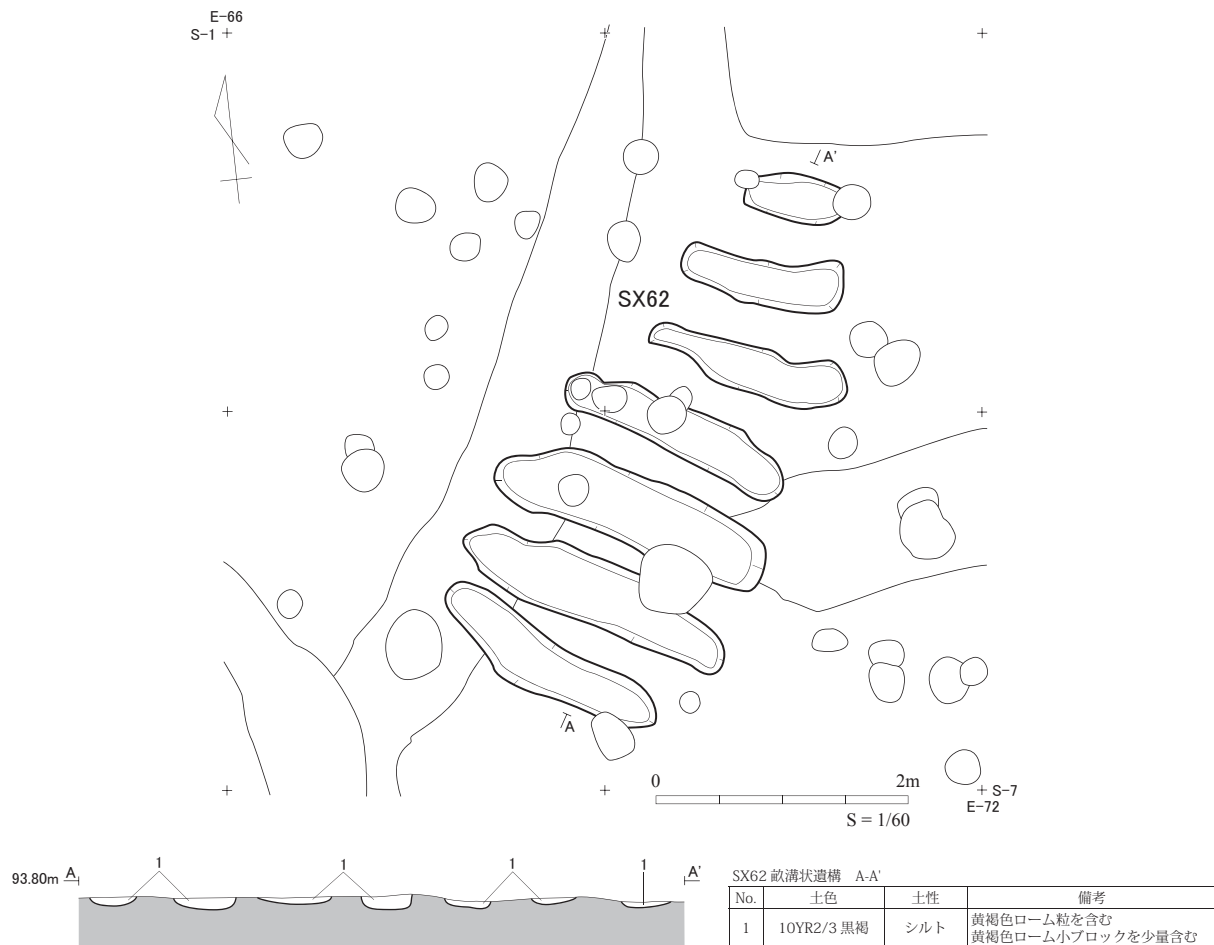
(8) その他の遺構

【SX53 水溜め状遺構】(第103図、写真図版23・31・63)

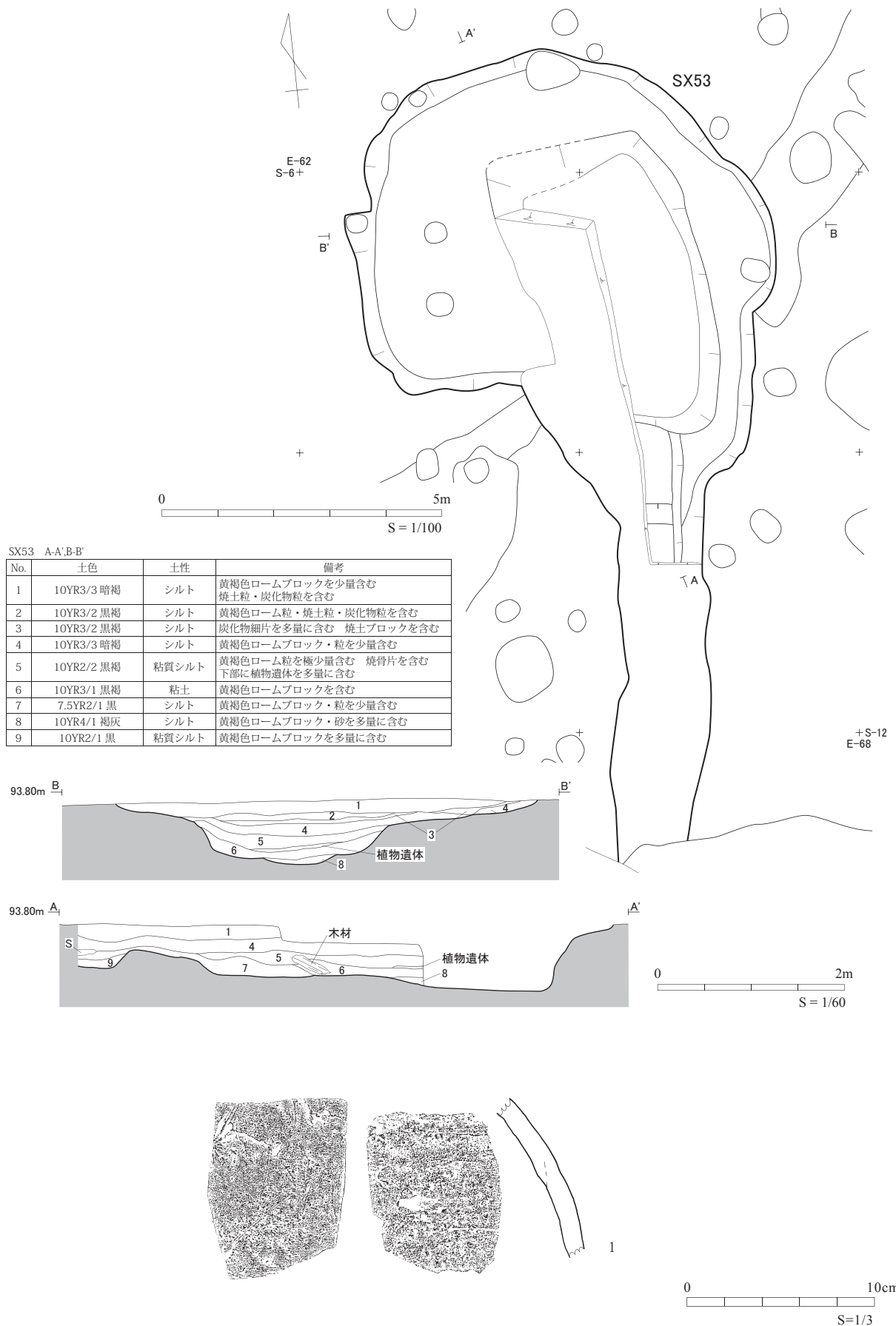
〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SA293・SA296・SA300・SE57・SD63→SX53

〔規模・形状〕平面形が長軸5.2m、短軸4.3mの不整楕円形を呈する水溜め状部分の南東隅に、南へ延びる上幅76~100cmの溝が接続する。溝部分は長さ4.00mを確認し、南側は攪乱により消失している。水溜め状部分の一部と溝部分の南部は未精査である。水溜め状部分は深さ56cmで、断面形は逆台形を呈する。北側中央部では底面が皿状に15cm窪む。溝部分は深さ45cmで、水溜め状部分との接続部に長さ110cm、高さ21cmの台形を呈する高まりを持ち、堰を形成している。



第102図 SX62 畝溝状遺構



SX53 A-A',B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む 焼土粒・炭化物粒を含む
2	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む
3	10YR3/2 黒褐	シルト	炭化物細片を多量に含む 焼土ブロックを含む
4	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む 焼骨片を含む 下部に植物遺体を多量に含む
6	10YR3/1 黒褐	粘土	黄褐色ロームブロックを含む
7	7.5YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
8	10YR4/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロック・砂を多量に含む
9	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真
1	SX53	2層	中世陶器	甕	常滑産、内面：ナデ、輪積み痕跡残存 外面：ヘラナデ、菊花文押印	胴部	258	63-6

第103図 SX53 水溜め状遺構，出土遺物

〔堆積土〕水溜め状部分の北側中央部の底面の皿状の窪みには地山ブロックを多量に含む褐灰色シルトが堆積し、人為的に埋め戻されている。これより上位の堆積土は焼土粒、炭化物・焼骨片、地山ブロックを含む黒褐色・暗褐色シルト、黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。堆積土下部の5層には草本類の植物遺体が4cmの厚さで堆積していた。溝部分の底面には地山ブロックを多量に含む黒色粘質シルトが10cmの厚さで堆積し、人為的埋土と考えられる。これより上位の堆積土は水溜め状部分と連続している。〔出土遺物〕堆積土より土師器甕、中世陶器甕（第103図1）が出土した。土師器甕は内外面あるいは外面にハケメ調整を施す。中世陶器甕（第103図1）

5.5区

遺跡範囲の南東部に位置し、東西161m、南北8~14mの調査区である。調査区内はほぼ平坦で、東へ向かって緩やかに傾斜している。調査区中央部南側と西端部南西側では旧河道による地形の浸食が見られた。西部では前回のほ場整備に伴う整地工事による削平が及んでおり、遺構の残存状況は良好でない。遺構確認面は現地表面から深さ15~25cmのV~VI層上面である。遺構は竪穴住居跡28軒、掘立柱建物跡6棟、柱列跡6条、溝跡6条、井戸跡1基、土坑12基を確認した（第104図、写真図版31~37）。

（1）竪穴住居跡

〔SI205a 竪穴住居跡〕（第105~106図、写真図版38・39）

〔位置〕5区東部／南向緩斜面

〔重複〕SB256・SI207 → SI205a → SI205b・SK257

〔規模・形状〕長軸3.88m、短軸3.58m／方形

〔方向〕西辺：N-8°-E

〔壁面〕地山を壁として床面からやや外傾気味に立ち上がる。残存壁高は最大7cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とする。床面は中央部でやや低く、南東部でやや高い。床面を覆う堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質シルトで、SI205b床面を構築する住居掘方埋土である。

〔支柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居北辺東寄りに付設する。燃焼部底面の痕跡とみられる赤色硬化範囲のみが残存する。燃焼部はSI205b床面構築時に壊され、煙道は継続して使われた可能性がある。

〔貯蔵穴〕なし

は常滑産で外面に菊花状押印が見られる。

〔SX62 畝溝状遺構〕（第102図）

〔位置〕4区西部／平坦面

〔重複〕SK67・SD63 → SX62 → SB21・SB295・SA300・SA303

〔規模・形状〕上幅35~53cm、底幅26~42cm、深さ6cmで横断面形が皿状を呈する溝7条が東西4.7m、南北2.7mの範囲に並列する。溝は長さ0.8~2.3mで、中軸線で0.64~0.75m間隔で並んでいる。

〔堆積土〕地山ブロックを少量含む黒褐色シルトである。〔出土遺物〕堆積土より土師器坏などが出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

〔床下土坑〕住居中央やや南寄りの掘方底面で土坑1基（K1）を確認した。D1a暗渠溝に壊されている。平面形が長軸115cm、短軸100cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ12cmの逆台形を呈する。堆積土は地山ブロックを主体とする灰色粘質シルト、地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔暗渠溝〕住居中央部から南西隅へY字形に延びる溝跡（D1a・D2）を確認した。D1aは床下土坑K1と重複する（K1 → D1a）。D1aは北西から南東へ弧状に2.5m延び、中央部から南西へ直線的に0.8m延びてD2へ接続する。上幅40~75cm、底幅26~15cm、深さ8~10cmで横断面形がV字形を呈する。底面は凹凸が見られる。堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。D2はD1aの延長上をさらに1.5m延びて住居南西隅に至る。上幅25~45cm、底幅9~15cm、深さ8cmで横断面形が皿状を呈する。底面はD1aより7~8cm浅く、ほぼ平坦である。堆積土は焼土・炭化物・地山粒を多量に含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。堆積土の状況から、D1aは床面と平坦に埋め戻された暗渠であり、D2は暗渠からの排水機能を持つ溝と考えられる。〔外延溝〕住居南西隅でD2と接続して住居外へ延びる溝跡（D3）を確認した。D2の延長上を南西へ8.1m以上延びている。上幅18~33cm、底幅6~30cm、深さ12~33cmで横断面形がU字形を呈する。底面はほぼ平坦で、南西へ向かって傾斜している。D2との接続部に段を持ち、D2の底面より8cm深い。堆積土は焼土・炭化物粒を多く含み、地山・白色粘土ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。なお、住居南東隅から70cmは堆積土上層に地山



第 104 図 5 区遺構配置図



第105図 SI205a 竪穴住居跡 (1)

ブロックを主体とする暗褐色粘質シルトがみられることから、住居内のD2との接続部は地山をトンネル状に掘り抜いて構築され、後に天井部が崩落したものと考えられる。

〔出土遺物〕K1 堆積土・D1a 堆積土・住居掘方埋土より土師器杯・甕、須恵器壺が出土した。土師器甕は外面の胴部にハケメ調整を施すもの、底部に木葉痕を持つ

ものがある。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

【SI205b 竪穴住居跡】(第107-108図、写真図版36・38・39)

〔位置〕5区東部／南向緩斜面

〔重複〕SI205a・SI207・SB256 → SI205b → SK257

〔規模・形状〕長軸3.88m、短軸3.58m／方形

〔方向〕カマド中軸線：N-12°E

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。

SI205a.b 竪穴住居跡 A-A'・B-B' (第105図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む 焼土粒を極少量含む (煙道内堆)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む (煙道内堆)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	焼土粒を含む (煙道内堆)
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	灰層 (煙道内堆)
5	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土ブロックを含む (カマド内堆)
6	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む 炭化物粒を少量含む (住堆・カマド横断面1層対応)
7	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	炭化物粒・焼土ブロックを含む (b期竈底面構・カマド横断面2層対応)
8	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	炭化物粒を多く含む (壁材痕)
9	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む (D1a・1層対応)
10	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多く含む (D1a・2層対応)
11	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・φ1-2cm程度の炭化物粒を含む (壁材掘)
12	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (b期住掘)
13	10YR5/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む 上面が被熱により赤色硬化 (b期竈構・カマド横断面3層対応)
14	7.5YR3/3 暗褐	粘質シルト	灰層 (a期竈機能時堆・カマド横断面5層対応)
15	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (K1・1層対応)
16	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む (a期住掘)
17	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多く含む (a期竈底面構・カマド横断面6層対応)

SI205a.b 竪穴住居跡 カマド横断面 C-C' (第105図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR 3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	炭化物粒・焼土ブロックを含む (b期竈底面構・住居主断面7層対応)
3	10YR6/1 灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (b期竈構・住居主断面13層対応)
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (a期竈構)

No.	土色	土性	備考
5	10YR5/3 にぶい黄褐	粘質シルト	赤化した黄褐色ロームブロックを含む (a期竈機能時堆・住居主断面14層対応)
6	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	炭化物粒を含む (a期住掘・住居主断面17層対応)

SI205b 竪穴住居跡 壁材痕 D-D' (第105図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土 (壁材痕)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む (壁材掘)

SI205a.b 竪穴住居跡 D3 E-E'・F-F'・G-G' (第105図)

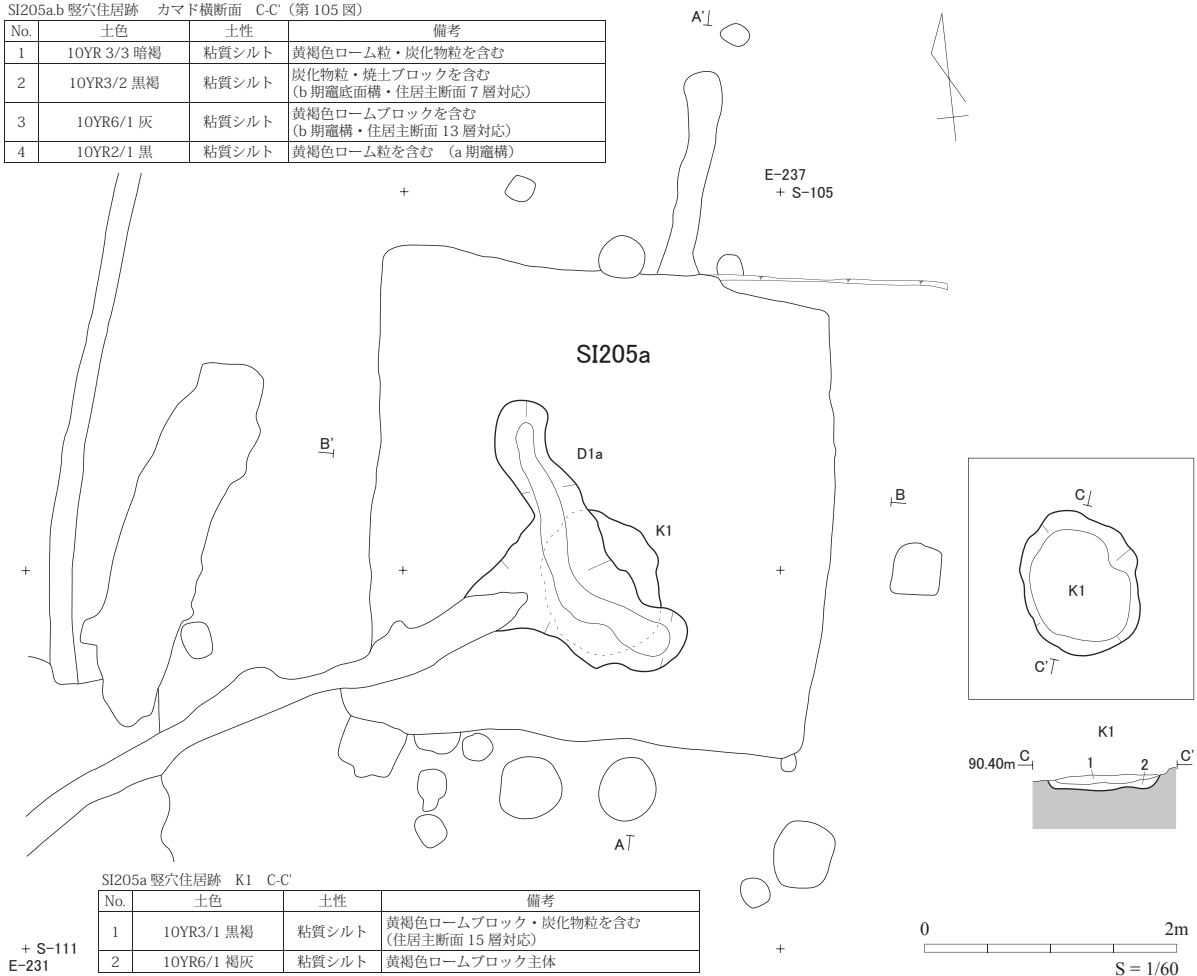
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・炭化物粒を含む (外延溝堆)

SI205a.b 竪穴住居跡 D3 H-H' (第105図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロック・焼土粒を含む 炭化物粒を多量に含む (外延溝堆)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を含む 炭化物粒を少量含む (外延溝堆)

SI205a.b 竪穴住居跡 D2 I-I' (第105図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む 小礫を多量に含む



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (住居主断面15層対応)
2	10YR6/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロック主体

第106図 SI205a 竪穴住居跡 (2)



第107図 SI205b 竪穴住居跡 (1)

残存壁高は最大6cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。住居壁際の床面直上に炭化木片の散布が見られる。床面を覆う堆積土は地山・炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

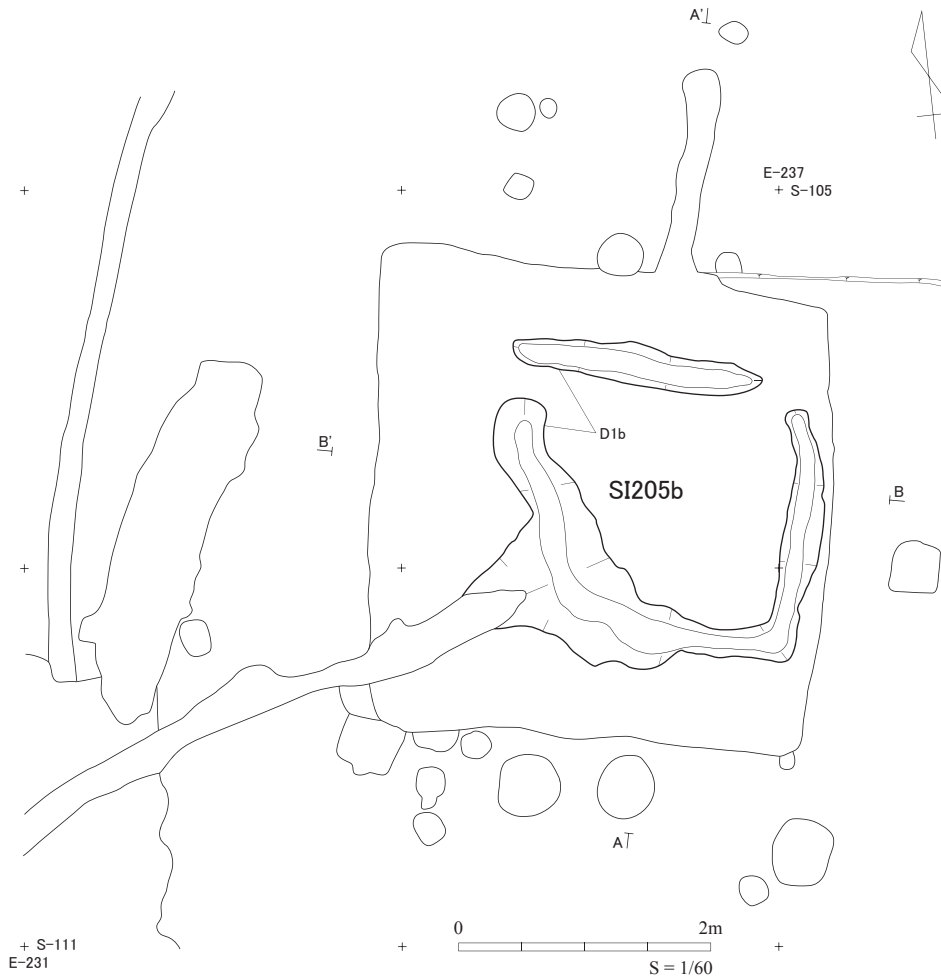
〔周溝・壁材〕カマドが付設される北辺中央と、南西隅周辺を除く住居壁面に沿って上幅5-10cm、底幅3-6cm、深さ5-11cmで横断面形がU字形を呈する壁材痕跡を確認した。上幅20-42cm、底幅16-36cm、深さ6-8cmで横断面形が逆台形を呈する壁材掘方を伴う。壁材痕跡の堆積土は炭化木片を多く含む黒褐色粘質シルト、掘方埋土は地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトである。

〔カマド〕住居北辺東寄りに付設する。燃烧部・煙道・煙出しピットが残存する。燃烧部は幅92cm、奥行52cmで、焚口幅は58cmである。燃烧部底面は幅58cm、奥行52cmで、床面より3cmほど皿状に窪み、奥壁近くの一部に赤色硬化面が形成されている。側壁は長さ32-54cm、幅18-21cm、残存高10cmである。

奥壁は住居北壁と一致する。側壁構築土は白色粘土ブロックを主体とする褐灰色粘質シルトを用いている。煙道は燃烧部奥壁から1.3m延び、先端部に煙出しピットが位置する。煙道底面は先端部に向かってわずかに傾斜し、煙出しピットの底面は煙道底面より約10cm深い。

〔貯蔵穴〕なし

〔暗渠溝〕住居中央部東寄りに不整形に延びる溝跡(D1b・D2)を確認した。D1bの南西部分およびD2はSI205aのものを踏襲する。D1bはD1aの南東端を逆L字形に延長させてU字形とし、カマド焚口部付近に一文字形の溝を追加している。逆L字形の延長部分は長さ2.6m、上幅16-32cm、底幅8-16cm、深さ12cmで横断面形がV字形を呈する。底面はほぼ平坦である。一文字部分は長さ2.2mでU字形部分の両端とは接続しない。上幅20-34cm、底幅15-18cm、深さ6cmで横断面形が逆台形を呈する。底面は東へ向かって傾斜している。堆積土はいずれも地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。堆積土の状況から、床面と平坦に埋め戻された暗渠と考えられる。



第108図 SI205b 竪穴住居跡 (2)

〔外延溝〕住居南西隅でD2と接続して住居外へ延びる溝跡(D3)を確認した。D3はSI205aのものを踏襲する。

〔出土遺物〕カマド・炉床部底面・住居内堆積土・遺構確認面より土師器・甕、須恵器・甕が出土した。土師器は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

【SI206 竪穴住居跡】(第109-110図、写真図版38・39・64)

〔位置〕5区東部・南向緩斜面

〔重複〕SI206 → SB256・SB259・SK255

〔規模・形状〕長軸3.92m、短軸3.80m / 方形

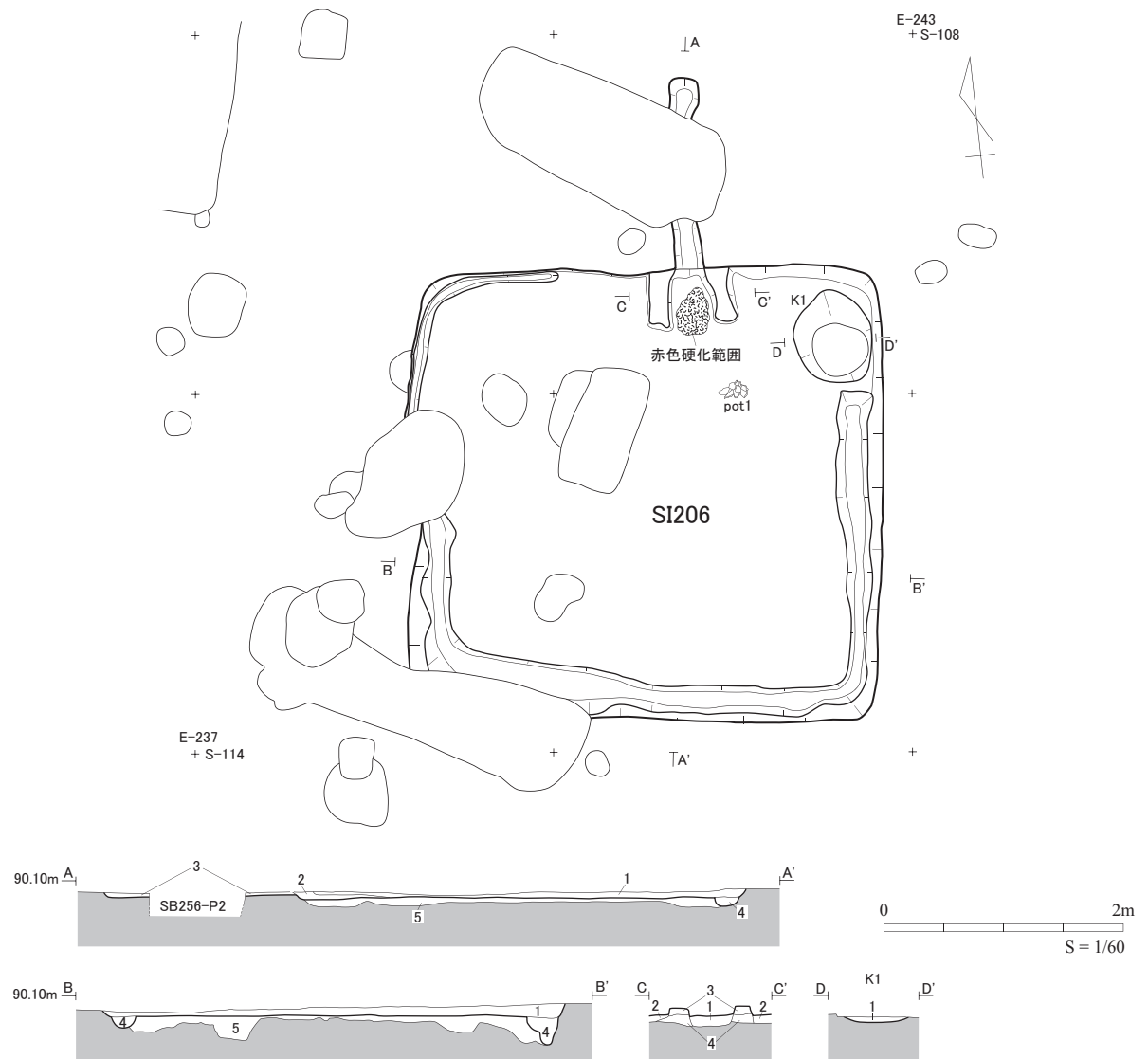
〔方向〕カマド中軸線：N-7° -E

〔壁面〕地山を壁として床面から外傾して立ち上がる。残存壁高は最大12cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック・炭化物粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマド・貯蔵穴が位置する住居北東側を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅8~28cm、底幅5~13cm、深さ8~22cmで、横断面形がU字形を呈する。底面は南東へ向かって傾斜している。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、人



SI206 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (住堆・人為)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	炭化物粒を多量に含む (竈内堆)
3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む 炭化物粒を少量含む (煙道内堆)
4	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土小ブロックを含む (周溝堆)
5	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む (竈底面構・カマド横断面1層対応)

SI206 竪穴住居跡 カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む (竈底面構)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (住掘・住居主断面5層対応)
3	10YR6/4 にぶい黄橙	粘土	白色粘土主体 (竈側壁構)
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む (竈側壁構)

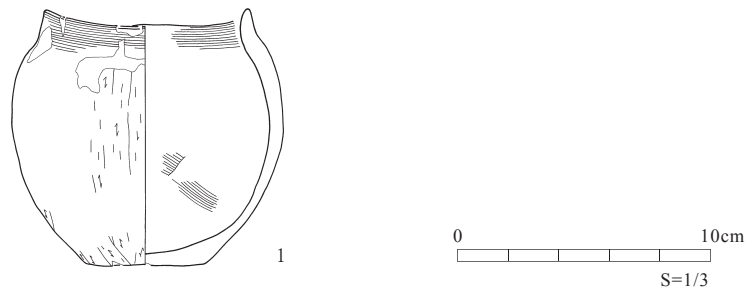
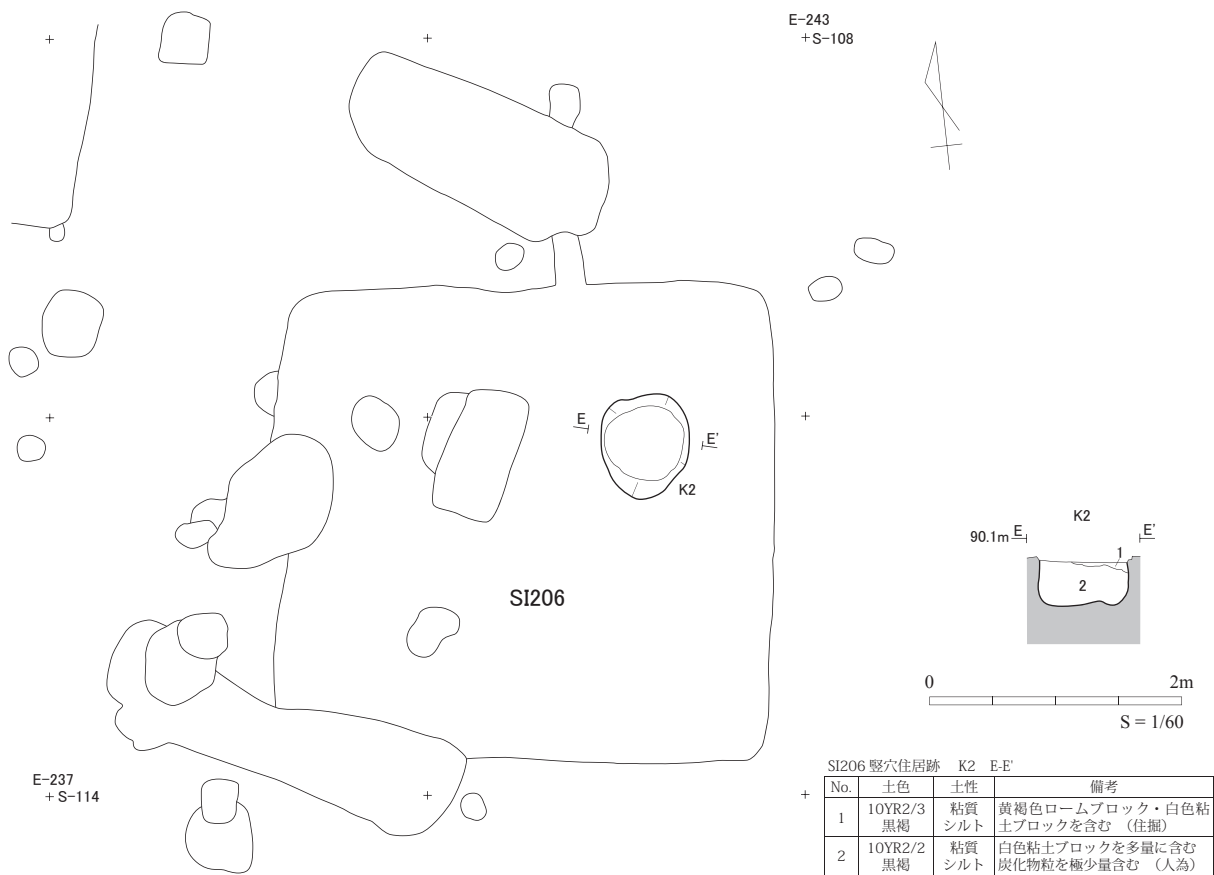
SI206 竪穴住居跡 K1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒・炭化物粒を多量に含む (人為)

第109図 SI206 竪穴住居跡 (1)

為的埋土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。
 [カマド] 住居北辺中央やや東寄りに付設する。燃焼部・煙道が残存する。燃焼部は幅76cm、奥行50cmで、焚口幅は36cmである。燃焼部底面は幅36cm、奥行42cmで、赤色硬化面が形成されている。床面からほぼ平坦である。側壁は長さ48-51cm、幅22cm、残存高8cmである。奥壁は住居北壁と一致する。側壁構築土は白色粘土ブロックを主体とするにぶい黄褐色粘質シルトを用いている。煙道は燃焼部奥壁から約1.6m延びている。煙道底面はほぼ平坦である。
 [貯蔵穴] カマド右側の住居北東隅で土坑1基 (K1)

を確認した。平面形は長軸80cm、短軸65cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ5cmの皿状を呈する。堆積土は白色粘土ブロック・炭化物粒を多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。
 [床下土坑] 住居北東部の掘方底面で土坑1基 (K2) を確認した。平面形が長軸82cm、短軸70cmの不整楕円形を呈し、断面形は深さ34cmのU字形を呈する。堆積土は白色粘土ブロックを多く含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。
 [出土遺物] 床面より土師器鉢 (第110図1) が出土した。平底で体部が内弯し口縁部が短く外反する。外



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI206	床面直上 Pot.1	土師器	鉢	内面：(口) ヨコナデ、(体) ナデ、外面：(口) ヨコナデ、(体) ヘラケズリ、(底) ケズリ、※器形のゆがみ強、口径8.1～10.8cm、器高9.5～10.6cm	10.8	4.8	10.6	4/5	142	64-1

第110図 SI206 竪穴住居跡 (2), 出土遺物

面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ調整、外底面にケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ・体部にナデ調整を施す。

このほか、住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器甕、須恵器甕が出土した。また、カマド燃焼部底面より焼成粘土塊が出土した。土師器甕は外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SI207 竪穴住居跡】(第111~112図、写真図版36・38・39・64)

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SD264 → SI207 → SI205a・SK257 - SI208

〔規模・形状〕長軸4.44m、短軸3.54m／長方形

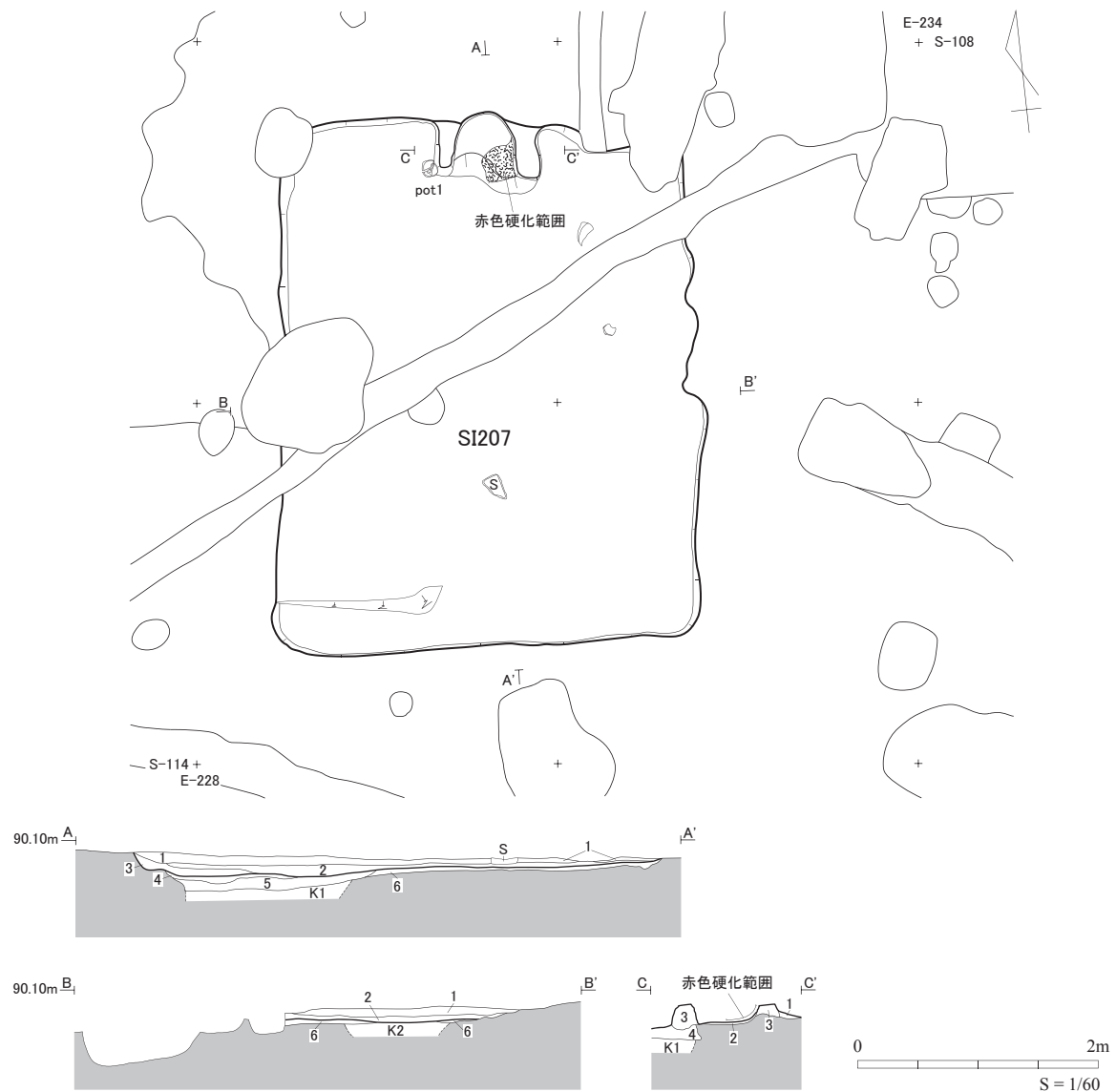
〔方向〕カマド中軸線：N-9° -E

〔壁面〕地山を壁として床面から外傾して立ち上がる。残存壁高は最大9cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック、炭化物粒を多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔支柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居北辺中央に付設する。幅90cm、奥行56cmの燃焼部が残存し、焚口幅は55cmである。燃焼部底面は幅55cm、奥行52cmで、床面より3cmほど皿状に窪み、被熱による赤色硬化面が形成されて



SI207 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒・炭化物粒を含む (住掘・人為)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒・炭化物粒を多量に含む (住掘・人為)
3	5YR4/3 にぶい赤褐	シルト	灰層・炭化物粒・焼土ブロックを含む (竈機能時堆)
4	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (竈底面構)
5	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (住掘)
6	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)

SI207 竪穴住居跡 カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)
2	10YR3/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (竈底面構・住居主断面4層対応)
3	10YR4/2 灰黄褐	シルト	白色粘土主体 (竈側壁構)
4	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (住掘・住居主断面5層対応)

第111図 SI207 竪穴住居跡 (1)

いる。側壁は長さ 42-46cm、幅 16-22cm、残存高 15cm である。奥壁は住居北壁より 10cm ほど張り出す。側壁構築土には白色粘土ブロックを主体とする灰黄褐色シルト質粘土を用いている。

〔貯蔵穴〕なし

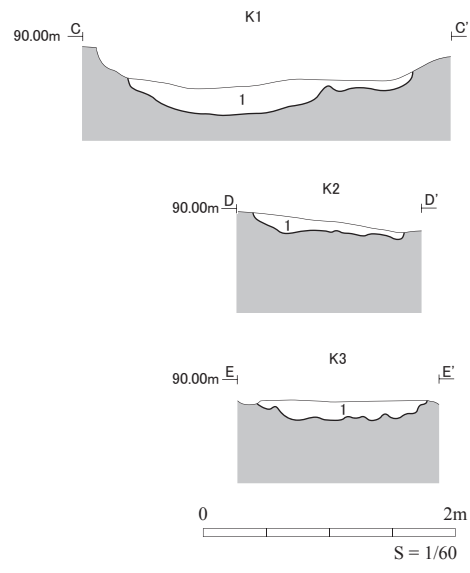
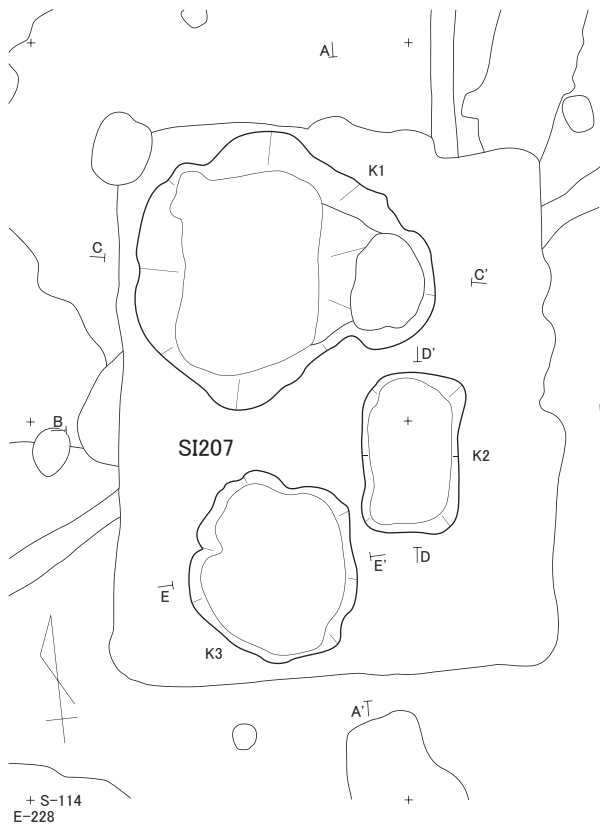
〔床下土坑〕住居掘方底面で土坑 3 基 (K1-K3) を確認した。K1 は住居北西隅に位置し、平面形が長軸 235cm、短軸 223cm の不整形を呈する。断面形は深さ 20cm の皿状で、底面に段や凹凸が見られる。K2 は住居中央東寄りに位置し、平面形が長軸 126cm、短軸 86cm の隅丸長方形を呈する。断面形は深さ 26cm の皿状で、底面に凹凸が見られる。K3 は住居南西部に位置し、平面形が長軸 156cm、短軸 143cm の不整形円形を呈する。断面形は深さ 13cm の皿状で、底面に凹凸が見られる。堆積土は地山の白色粘土ブ

ロックを多く含む黒褐色・暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

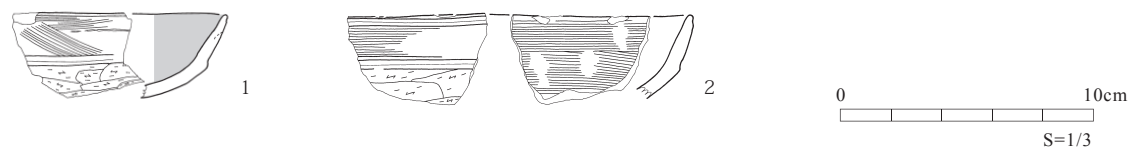
〔出土遺物〕カマド燃焼部底面より土師器坏 (第 112 図 2)、住居内堆積土より土師器坏 (第 112 図 1) が出土した。

いずれも有段丸底坏の破片で、口縁部~体部にかけて内弯する。第 112 図 1 は外面の口縁部にヨコナデ→ナデ・体部にヘラケズリ調整、内面に不鮮明ながらミガキ調整→黒色処理を施すとみられる。第 112 図 2 は外面の体部にケズリ→口縁部にヨコナデ調整、内面にナデ→口縁部にヨコナデ調整を施す。

このほか、床面・カマド燃焼部底面・K3 堆積土・住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器甕、ロクロ土師器坏・甕が出土した。土師器甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すもの、外



SI207 竪穴住居跡 K1 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む
SI207 竪穴住居跡 K2 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土小ブロックを多量に含む
SI207 竪穴住居跡 K3 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む



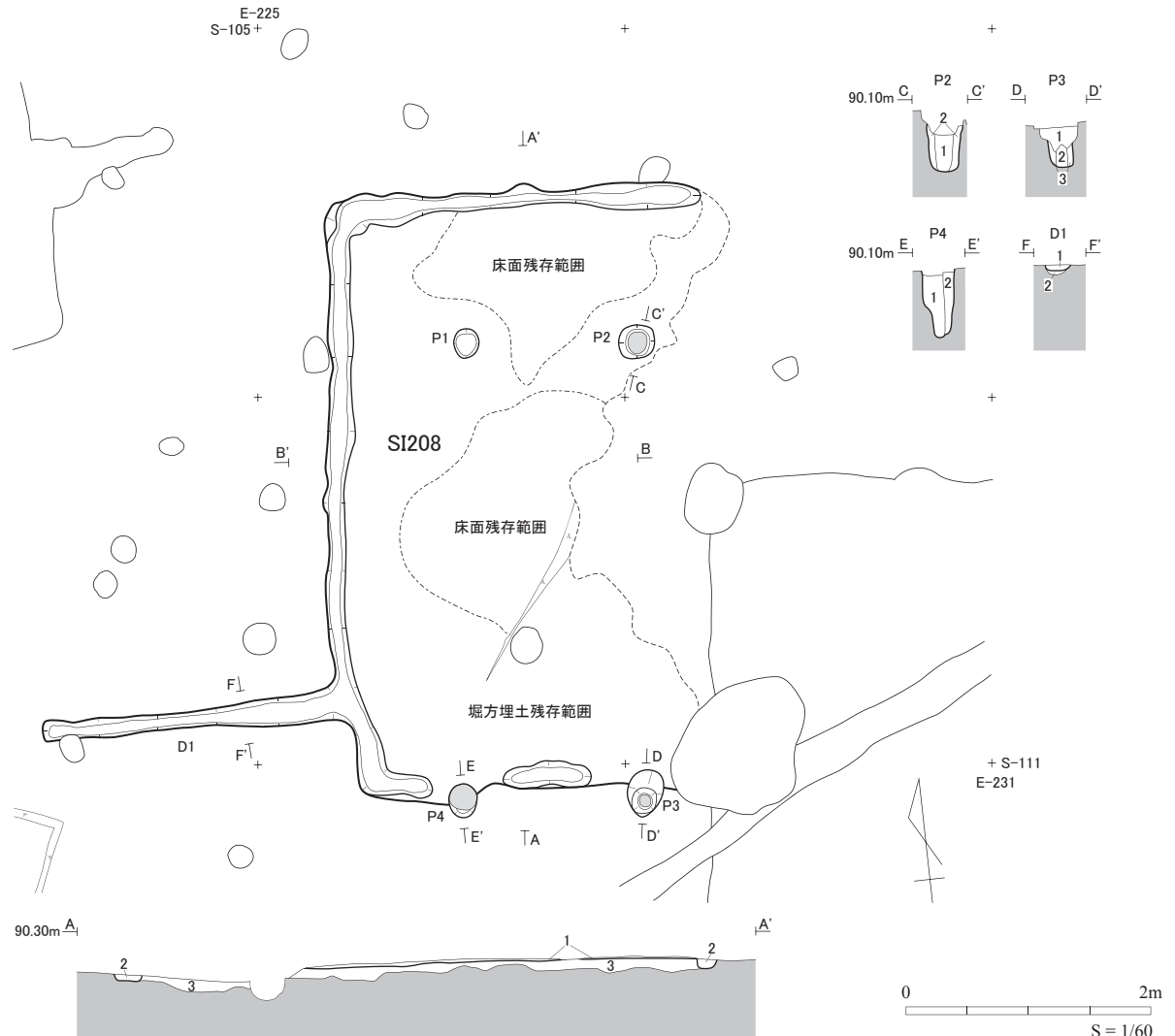
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI207	堆積土	土師器	坏	内面：ミガキ?→黒色処理, 外面：(口) ヨコナデ→ナデ, (体) ヘラケズリ	-	-	(3.3)	一部	144	64-2
2	SI207	カマド燃焼部底面	土師器	坏	内面：ナデ→(口) ヨコナデ, 外面：(体) ケズリ→(口) ヨコナデ 内面：2.5YR6/8 橙色-10YR5/4 に近い黄褐色, 外面：2.5YR6/4 に近い橙色-10YR5/4 に近い黄褐色	-	-	(3.5)	一部	143	64-3

第 112 図 SI207 竪穴住居跡 (2), 出土遺物

底面に木葉痕を持つものがある。ロクロ土師器坯は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。
 【SI208 竪穴住居跡】(第113図、写真図版36・38・40)
 [位置] 5区東部/南向緩斜面
 [重複] SI208 → SK257 - SI207
 [規模・形状] 長軸 4.80m、短軸 3.33m 以上/方形
 [方向] 西辺: N-6° -E
 [壁面] 残存しない

[床面・堆積土] 一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、僅かに南へ傾斜する。床面を覆う堆積土は地山粒、砂を含む黒褐色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

[主柱穴] 4か所確認した。P1・P2は住居北部の床面に、P3・P4は住居南辺に位置する。柱穴掘方の平面形は長軸 24-28cm、短軸 20-28cm の略円形を呈する。深さは 37-58cm で、P3で柱材の抜き取り痕跡、P2-P4で平面形が直径 8-24cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。



SI208 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・砂粒を含む (住堆)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・砂粒を含む 炭化物粒を少量含む (周溝堆)
3	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)

SI208 竪穴住居跡 P2 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SI208 竪穴住居跡 P3 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土大ブロックを含む (柱切)
2	2.5Y3/1 黒褐	シルト	白色粘土小ブロックを少量含む (柱痕)
3	2.5Y4/2 暗灰黄	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SI208 竪穴住居跡 P4 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土小ブロックを含む (柱掘)

SI208 竪穴住居跡 D1 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・砂を含む 炭化物粒を少量含む (外延溝堆・住居主断面2層対応)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (外延溝掘・住居主断面3層対応)

第113図 SI208 竪穴住居跡

〔周溝・壁材〕削平を受けている東辺を除く住居外周に沿って周溝を確認した。上幅 10~22cm、底幅 4~14cm、深さ 8cm で横断面形がU字形を呈する。底面は南西へ向かって傾斜している。堆積土は地山・炭化物粒、砂を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド・貯蔵穴〕不明

〔外延溝〕住居西辺南端付近の周溝から住居外へ延びる溝跡 (D1) を確認した。上幅 12~24cm、底幅 6~16cm、深さ 8cm で横断面形が逆台形を呈し、西方向へ直線的に 2.5m 延びている。底面は西方向へ僅かに傾斜している。堆積土は 2 層に細分され、1 層は地山・炭化物粒、砂を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。2 層は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトで住居掘方埋土と類似し、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕遺構確認面・住居掘方埋土より土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施すもの、甕は外面にハケメ調整を施すものがある。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

【SI209a 竪穴住居跡】(第 114~115 図、写真図版 40)

〔位置〕5 区東部/南向緩斜面

〔重複〕SA235・SI209a → SI209b - SA280

〔規模・形状〕長軸 3.30m、短軸 2.90m / 方形

〔方向〕カマド中軸線: E-21° - N

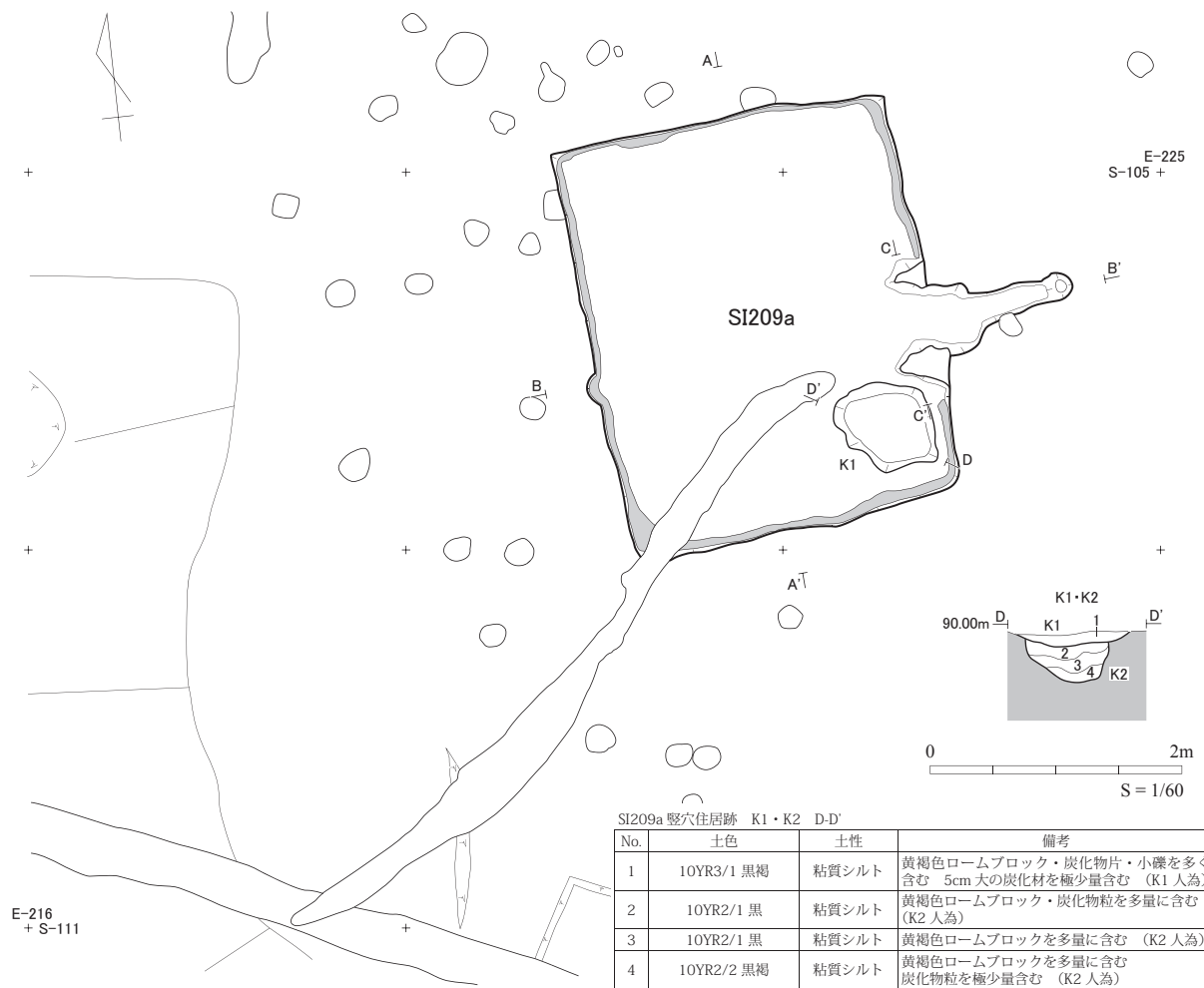
〔壁面〕地山を壁としてほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 20cm である。

〔床面・堆積土〕掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、SI209b 床面を構築する住居掘方埋土である。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマドが付設される住居東辺中央付近を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅 5~11cm、底幅 2~8cm、深さ 5~15cm で横断面形が幅狭なV字形を呈する。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、壁材痕跡に伴う溝状の掘方は確認されない。

〔カマド〕住居東辺中央やや南寄りに付設する。燃焼部・煙道・煙出しピットが残存する。燃焼部は幅 92cm、



第 114 図 SI209a 竪穴住居跡 (1)

奥行 78cm で、焚口幅は 68cm である。燃烧部底面は幅 68cm、奥行 78cm で、床面より 3cm ほど皿状に窪む。側壁は長さ 20~43cm、幅 22~35cm、残存高 6~7cm である。奥壁は住居東壁より 35cm 張り出す。側壁構築土は白色粘土ブロックを多く含む黄褐色粘質シルトを用いている。煙道は燃烧部奥壁から 60cm 延び、先端部に煙出しピットが位置する。煙道底面は平坦で、煙出しピットの底面は煙道底面より 6cm 深い。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居南東隅で土坑 1 基 (K1) を確認した。平面形が長軸 90cm、短軸 56cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 10cm の皿状を呈する。堆積土は地山ブロック・炭化木片を多く含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕住居南東隅の掘方底面で土坑 1 基 (K2) を確認した。貯蔵穴 (K1) の直下に位置する。平面形が長軸 60cm、短軸 50cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 31cm の逆台形を呈する。堆積土は地山ブロック、炭化物粒を含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕なし

【SI209b 竪穴住居跡】(第 116-117 図、写真図版 36・38・40・64)

〔位置〕5 区東部／南向緩斜面

〔重複〕SA235・SI209a → SI209b - SA280

〔規模・形状〕長軸 3.30m、短軸 2.90m／方形

〔方向〕カマド中軸線：E-21° -N

〔壁面〕地山を壁としてほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 6cm である。

〔床面・堆積土〕SI209a 床面を 8cm 嵩上げた掘方埋

土を床とし、南へ向かってわずかに傾斜する。床面を覆う堆積土は地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕SI209a の壁材を踏襲する。住居北辺で壁材の抜き取り痕跡を確認した。

〔カマド〕SI209a のカマドを踏襲し、燃烧部底面を 4cm 嵩上げしている。燃烧部底面には赤色硬化面が形成されている。

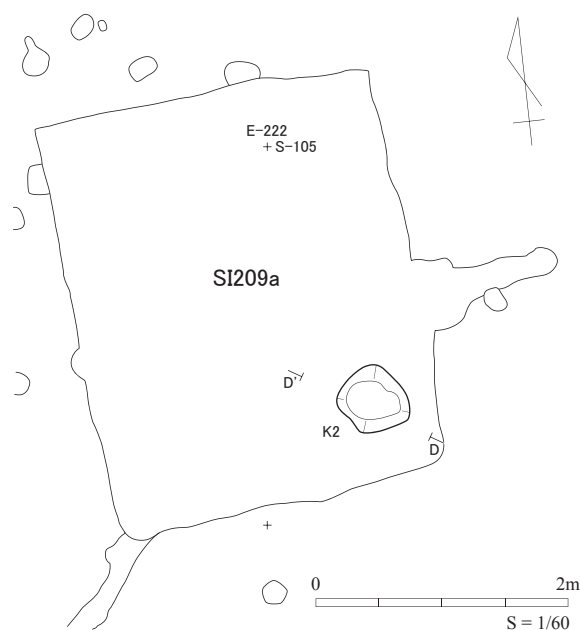
〔貯蔵穴〕なし

〔外延溝〕住居南西隅で D2 と接続して住居外へ延びる溝跡 (D3) を確認した。D2 の延長上をわずかに子を描きながら南西へ 4.2m 延びている。上幅 14~45cm、底幅 5~24cm、深さ 10~21cm で横断面形が逆台形を呈する。底面は南西へ向かって傾斜しており、一部深く掘り下げられた後に人為的に埋め戻されている。堆積土は上部が地山ブロックを含む黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。下部は地山ブロックを多く含む黒褐色・暗褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

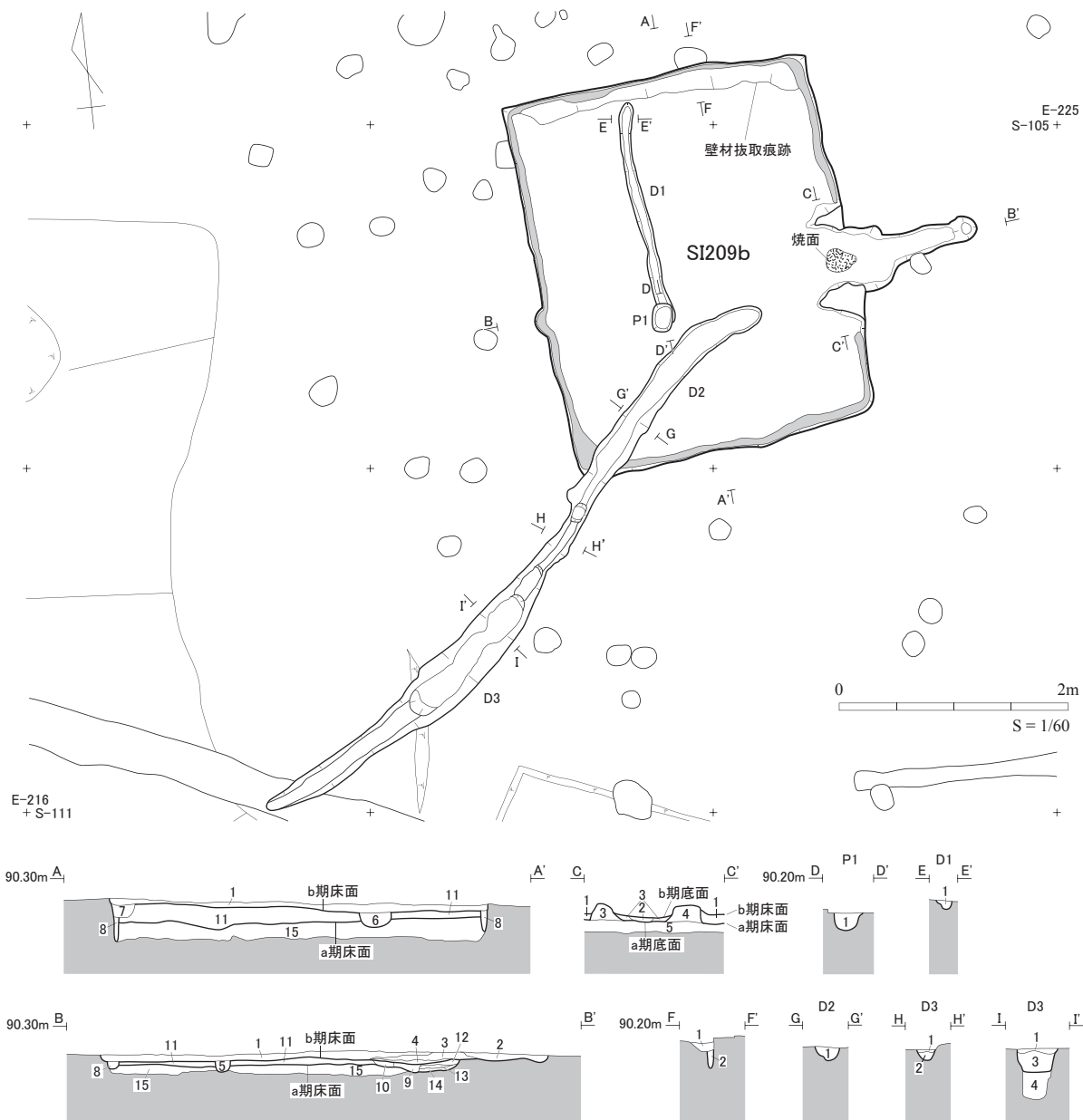
〔その他の施設〕柱穴 1 か所 (P1)、溝跡 2 条 (D1・D2) を確認した。P1 と D1 は住居内の間仕切りなどに関わる施設、D2 は住居内の排水を意図した施設と考えられる。P1 は住居中央やや南西寄りに位置し、平面形が長軸 27cm、短軸 18cm の隅丸方形を呈し、深さ 32cm である。D1 は上幅 8~12cm、底幅 4~7cm、深さ 9cm で横断面形が逆台形を呈する。住居西辺とほぼ平行に 1.95m 延び、北端は住居北辺やや西寄りに位置し、南端は P1 と重複する。堆積土は地山粒をまばらに含む黒色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。D2 は上幅 20~26cm、底幅 10~20cm、深さ 12cm で横断面形が U 字形を呈する。住居中央南寄りの位置から南西隅へ向かってわずかに弧を描きながら 2.1m 延びる。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土よりロクロ土師器坏 (第 117 図 1) が出土した。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がやや外反する。内面の調整は不鮮明ながら、ミガキ調整→黒色処理を施すとみられる。

このほか、床面・カマド崩落土・壁材痕跡・K1 堆積土・住居内堆積土・遺構確認面より土師器片、ロクロ土師器坏、須恵器坏・甕・小型品が出土した。須恵器坏は回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリ調整を施す。甕は内面に同心円文アテ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。



第 115 図 SI209a 竪穴住居跡 (2)



SI209 竪穴住居跡 A-A',B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物片・小礫を含む (b期住堆)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・被熱した凝灰岩片・炭化物粒を含む (b期煙道崩)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム・焼土粒・炭化物粒・白色粘土ブロックを含む (b期竈崩)
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒・灰を含む (b期竈機能時堆)
5	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (b期D1堆)
6	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土小ブロックを含む (b期D2堆)
7	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (b期壁材抜)
8	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (a・b期壁材痕)
9	5YR4/8 赤褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒・白色粘土粒を含む 土面が被熱により赤色硬化 (b期竈底面構)
10	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	焼土粒・白色粘土粒・炭化物粒を含む (b期竈底面構)
11	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒・白色粘土ブロックを含む (b期住堆)
12	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (b期竈底面構)
13	2.5Y5/4 黄褐	粘質シルト	焼土粒を含む (b期竈底面構)
14	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・炭化物粒を含む (a期竈機能時堆)
15	10YR5/8 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (a期住堆)

SI209 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (b期住堆・住居主断面1層対応)
2	5YR4/8 赤褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒・白色粘土を含む (b期竈底面構・住居主断面9層対応)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒・焼土粒を含む (b期竈底面構・住居主断面10層対応)
4	2.5Y5/4 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (a・b期竈側壁構)
5	10YR5/8 黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (a期住堆・住居主断面15層対応)

SI209 竪穴住居跡 P1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む

SI209 竪穴住居跡 D1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (自然)

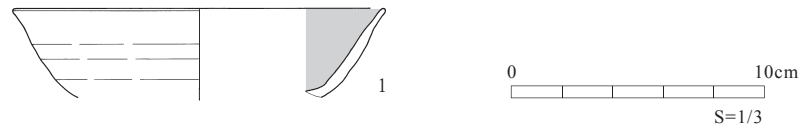
SI209 竪穴住居跡壁材痕 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (壁材抜)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (a・b期壁材痕)

SI209 竪穴住居跡 D2・D3 G-G',H-H',I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム小ブロック・白色粘土ブロック含む
2	10YR5/3 に近い黄褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロックを極少量含む
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム小ブロックを多量に含む
4	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む

第116図 SI209a・b 竪穴住居跡



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI209b	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ミガキ→黒色処理？，外面：ロクロナデ，内外面：二次被熱・磨滅	(14.8)	-	(3.5)	1/6	101	64-4

第117図 SI209b 竪穴住居跡出土遺物

【SI213 竪穴住居跡】(第118-119図、写真図版34・41・64)

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI213 → SK243

〔規模・形状〕長軸 5.32m 以上、短軸 4.94m ／方形

〔方向〕西辺：N-14° -W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 12cm である。

〔床面・堆積土〕中央部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は砂・地山粒を含む黒色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕住居平面形の対角線上で3か所 (P1-P3) を確認した。南東側の1か所は新しい土坑 (SK243) によって壊されたと考えられる。柱穴掘方の平面形は長軸 46-62cm、短軸 43-60cm の隅丸方形・楕円形を呈する。深さは 32-36cm で、P3 で平面形が直径 16cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕カマド・貯蔵穴が位置する住居北東部を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅 6-40cm、底幅 4-23cm、深さ 2-8cm で横断面形がU字形を呈する。底面は凹凸が見られる。堆積土は地山粒を含む黒色シルトで自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居北辺中央に白色粘土ブロックを主体とする黄褐色粘質シルトが分布し、カマド燃焼部底面の構築土と考えられる。側壁は残存しない。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅で重複する土坑2基 (K2 → K1) を確認した。K1 は平面形が長軸 78cm、短軸 54cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 12cm の逆台形を呈する。K2 は平面形が長軸 62cm、短軸 50cm 以上の楕円形を呈し、断面形は深さ 8cm の皿状を呈する。堆積土はいずれも地山ブロック・砂を含む黒色・黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕床面で1基 (K3)、住居掘方底面で1基 (K4) の土坑を確認した。K3 は平面形が長軸 62cm、短軸 54cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 12cm の楕円形を呈する。堆積土は地山・焼土・炭粒と白色

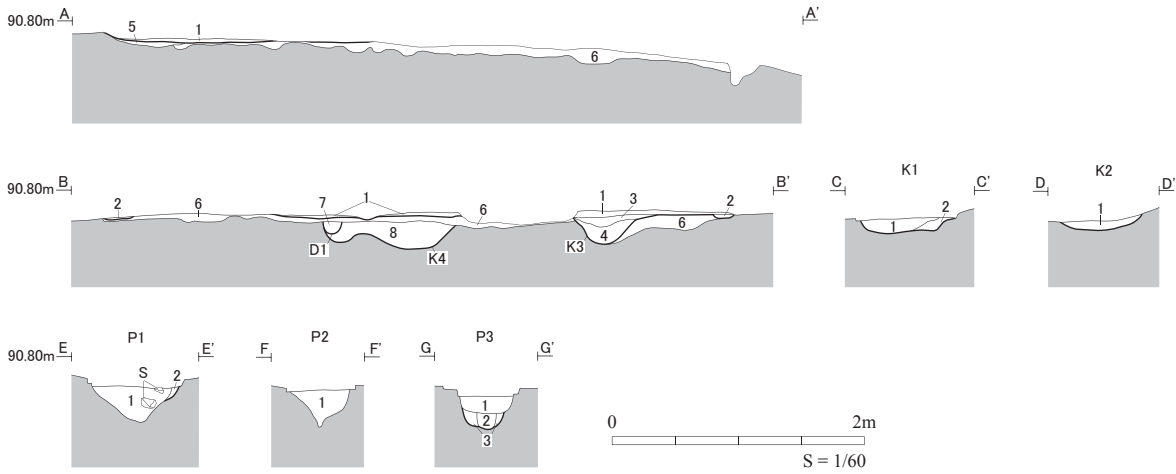
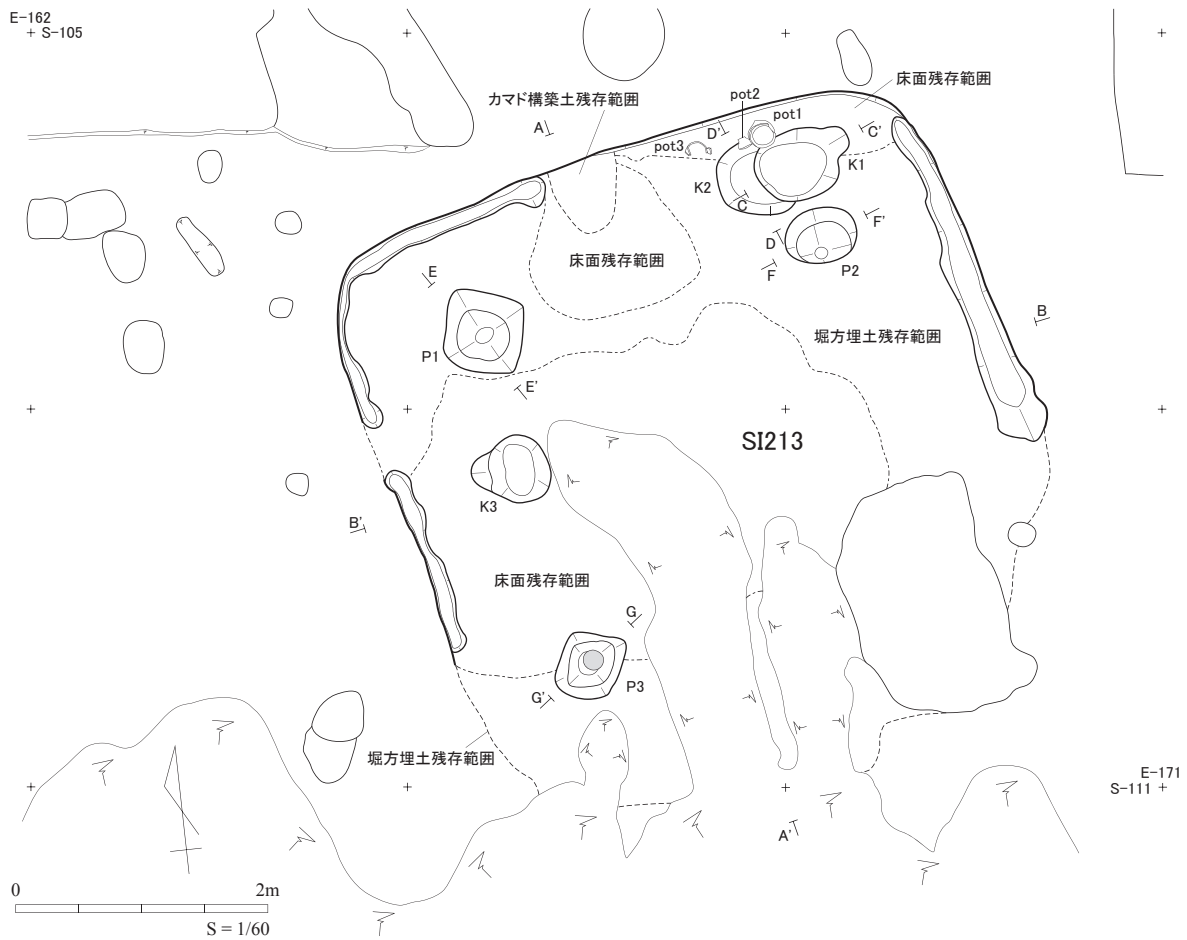
粘土ブロックを含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。K4 は平面形が長軸 154cm、短軸 94cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 22cm の逆台形を呈する。堆積土は白色粘土ブロックを多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔暗渠溝〕住居掘方底面で溝1条 (D1) を確認した。床下土坑 K4 と一部重複する (K4 → D1)。住居中央やや東寄りに位置し、東西 0.9 m、南北 2.0m 以上の長さで逆L字形に延びる。上幅 12-20cm、底幅 2-10cm、深さ 8cm で横断面形がU字形を呈する。底面は南へ向かって傾斜している。堆積土は白色粘土ブロックを含む黒色シルトで、人為的埋土と考えられる。堆積土の状況から、床面と平坦に埋め戻された暗渠と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器鉢 (第119図2)・甕 (第119図4)、住居内堆積土より小型甕 (第119図3)、遺構確認面より土師器坏 (第119図1) が出土した。

土師器坏 (第119図1) は有段丸底坏の破片で体部から口縁部にかけて内湾し、外面の体部と口縁部の境に段を持つ。外面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面の体部に黒色附着物が見られる。鉢 (第119図2) は平底で体部から口縁部にかけて内湾しながら逆八の字状に外傾する。外面の体部にナデ・口縁部にヨコナデ調整、外底面に木葉痕→ナデ調整、内面の体部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ調整を施す。小型甕 (第119図3) は胴部～口縁部の破片で胴部が内湾し口縁部が外反気味に外傾する。外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ・口縁部にヨコナデ調整、内面にヘラミガキ調整を施す。甕 (第119図4) は外面の頸部に段を持ち、口縁部にヨコナデ・胴部にハケメ調整、内面の口縁部にヨコナデ→胴部にナデ調整を施す。

このほか、P1・P3 柱穴柱材抜き取り痕跡・住居内堆積土・住居掘方埋土より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器甕が出土した。土師器甕は外底面に木葉痕を持つものがある。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。底部の切り離しは回転へ



SI213 竪穴住居跡 A-A'・B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム極小粒を含む 砂粒を含む (住堆)
2	7.5YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを含む (周溝堆)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム・焼土粒を含む 白色粘土ブロックを含む (K3 人為)
4	10YR3/1 黒褐	シルト	炭粒・白色粘土粒を含む (K3 人為)
5	10YR5/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黒色土を含む (竈底面構)
6	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)
7	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを含む (D1 人為)
8	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (K4 人為)

SI213 竪穴住居跡 K1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒・礫・砂粒を含む (人為)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・礫・砂粒を含む (K2 人為)

SI213 竪穴住居跡 K2 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・砂粒・礫を含む (人為)

SI213 竪穴住居跡 P1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

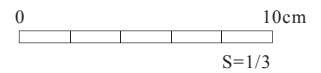
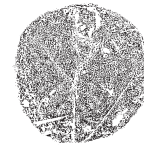
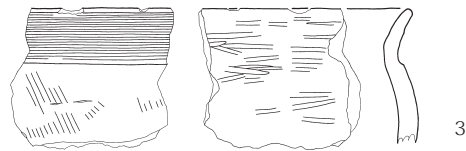
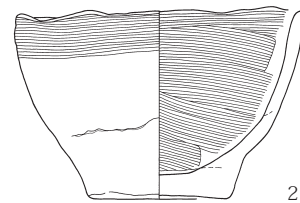
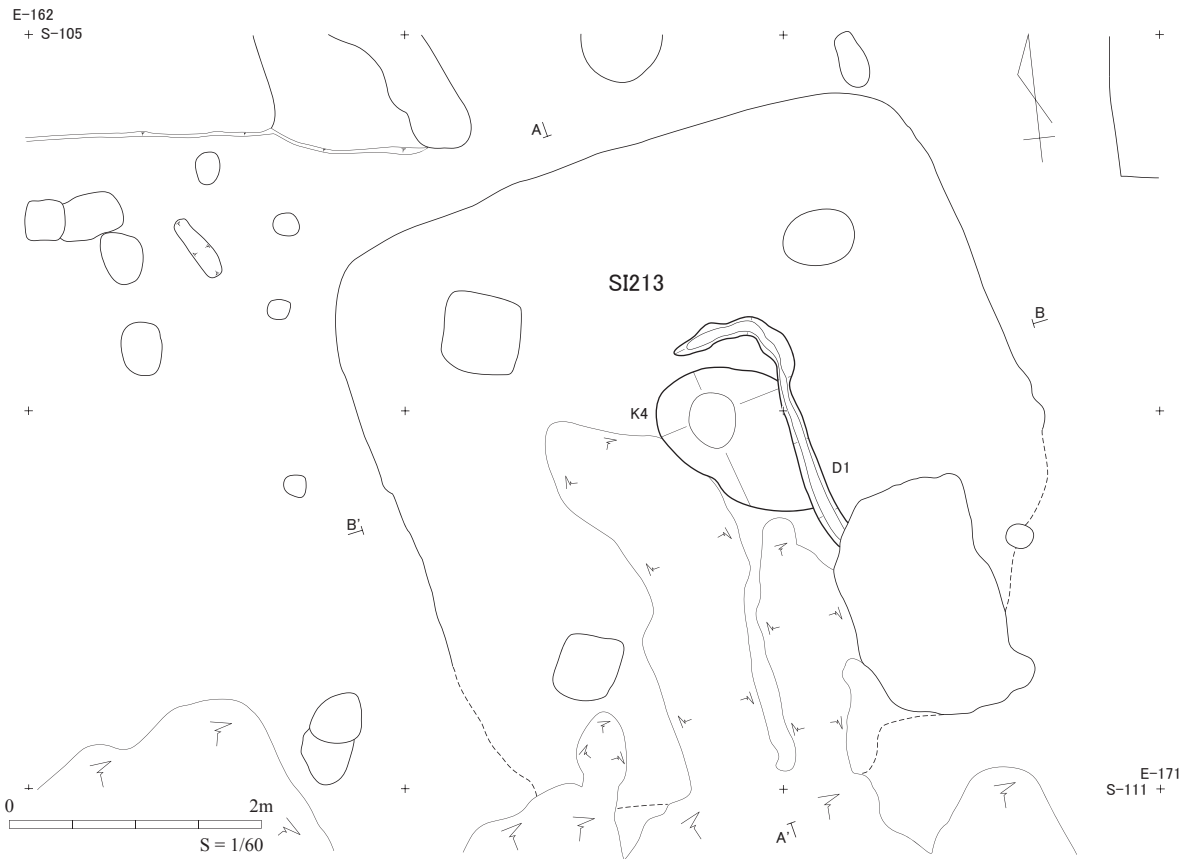
SI213 竪穴住居跡 P2 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・砂粒を含む (柱拔)

SI213 竪穴住居跡 P3 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (柱拔)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱痕)
3	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

第118図 SI213 竪穴住居跡 (1)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI213	確認面	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ・(体) ヘラケズリ→ヘラミガキ ※外面黒色付着物	(18.4)	-	(4.1)	1/6	103	64-5
2	SI213	床面直上 Pot.2	土師器	鉢	内面：(口) ヨコナデ，(体) ヘラナデ，外面：(口) ヨコナデ，(体) ナデ，(底) 木葉痕→ナデ	11.5	5.5	7.5	完形	102	64-7
3	SI213	堆積土	土師器	小型甕	内面：ヘラミガキ，外面：(口) ヨコナデ，(胴) ハケメ，※内外面共に磨滅	-	-	(5.6)	一部	104	64-6
4	SI213	床面直上 Pot.1	土師器	甕	内面：(口) ヨコナデ→(胴) ヘラナデ，外面：(口) ヨコナデ，(胴) ハケメ	20.9	-	(12.3)	上半部	128	64-8

第119図 SI213 竪穴住居跡 (2)，出土遺物

ラ切りで、切り離し後に外面の体部下位に回転ヘラケズリ調整による再調整を施すものと、回転糸切りで外面に再調整を施さないものがある。須恵器甕は内面に同心円文アテ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。

【SI214 竪穴住居跡】(第120図、写真図版34)

〔位置〕5区西部／南向緩斜面／部分精査

〔重複〕SI216 → SI214

〔規模・形状〕長軸3.80m以上、短軸3.20m以上／方形

〔方向〕西辺：N-4°-W

〔壁面〕残存しない。

〔床面・堆積土〕住居北西部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。

〔支柱穴〕不明

〔周溝・壁材〕住居西辺の一部で上幅20cm、底幅6cmで横断面形がU字形を呈する周溝を確認した。堆積土は地山粒を含む黒色シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居南東部の東壁に接する長軸50cm、短軸

30cmの範囲で被熱による赤色化が認められた。床面は削平を受けており、カマドとの関係は不明である。

〔貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕床面・住居内堆積土・遺構確認面より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器甕が出土した。土師器・ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。須恵器甕は底部の切り離しが回転ヘラケズリによる再調整を施す。

【SI215 竪穴住居跡】(第121-122図、写真図版34・41・64)

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長軸3.32m、短軸3.28m／方形

〔方向〕カマド中軸線：N-84°-E

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大7cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山小ブロック、白色粘土



SI214 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む	3	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む	4	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ローム大ブロックを含む

第120図 SI214 竪穴住居跡

粒、砂を含む黒褐色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴・周溝・壁材〕なし

〔カマド〕住居東辺中央やや北寄りに付設する。燃烧部底面と左側壁の一部が残存する。燃烧部底面は幅50cm、奥行70cmで、床面より3cm皿状に窪む。奥壁は住居東壁から40cm張り出す。

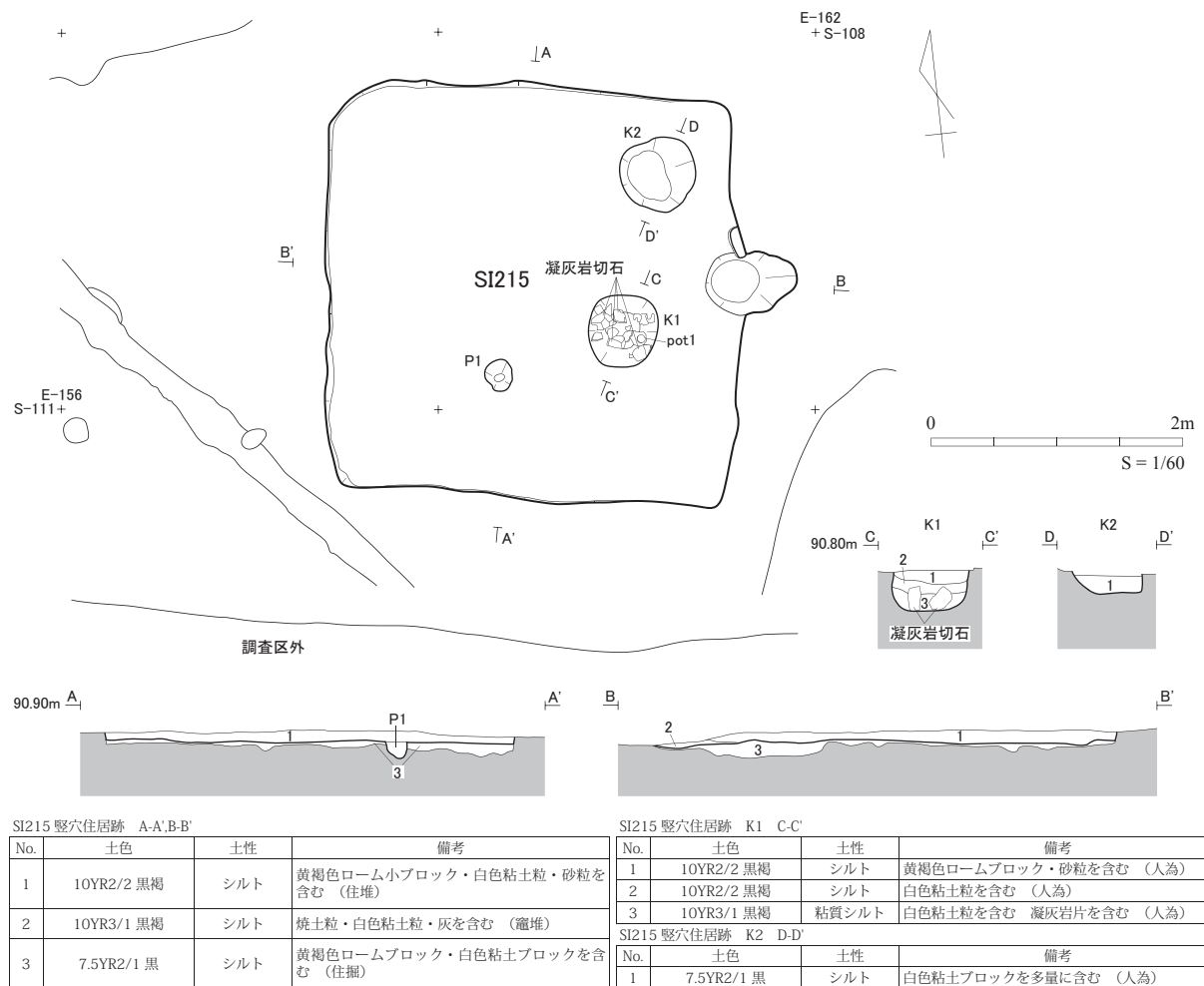
〔貯蔵穴〕カマド左側の住居北東隅で土坑1基(K2)を確認した。平面形は長軸60cm、短軸58cmの略円形を呈し、断面形は深さ16cmの逆台形を呈する。堆積土は白色粘土ブロックを多く含む黒色シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕住居南東隅の掘方底面で重複する土坑3基(K4→K5→K3)を確認した。K3は平面形が長軸64cm、短軸58cmの略円形を呈し、断面形は深さ16cmの挿鉢状を呈する。K4・K5はK3に壊されており全体の形状は不明であるが、K3より小さい。堆積土はいずれも白色粘土ブロックを含む黒色・黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。

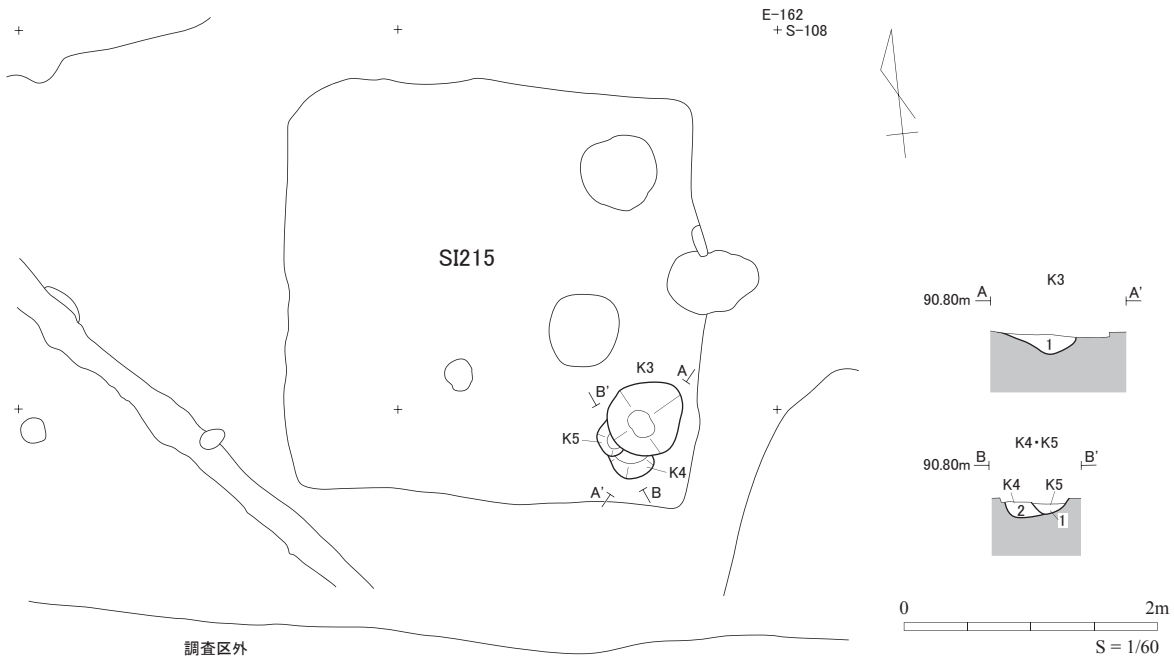
〔その他の施設〕床面で土坑1基(K1)、柱穴1か所(P1)

を確認した。K1はカマド焚口部付近に位置し、長軸56cm、短軸54cm、深さ30cmの円筒形を呈する。底面から破碎された角柱状の凝灰岩切石と土師器甕が出土した。凝灰岩切石は一側面に被熱による赤色化が認められ、カマド焚口部の構築材であった可能性が考えられる。堆積土は地山ブロック・白色粘土粒・砂を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。P1は住居南部中央付近に位置し、平面形が長軸24cm、短軸20cmの楕円形を呈し、深さ12cmである。堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。〔出土遺物〕カマド崩落土より土師器環(第122図2)、K1堆積土より土師器甕(第122図5)、K3堆積土より土師器環(第122図1・3)、遺構確認面より小型壺(第122図4)が出土した。

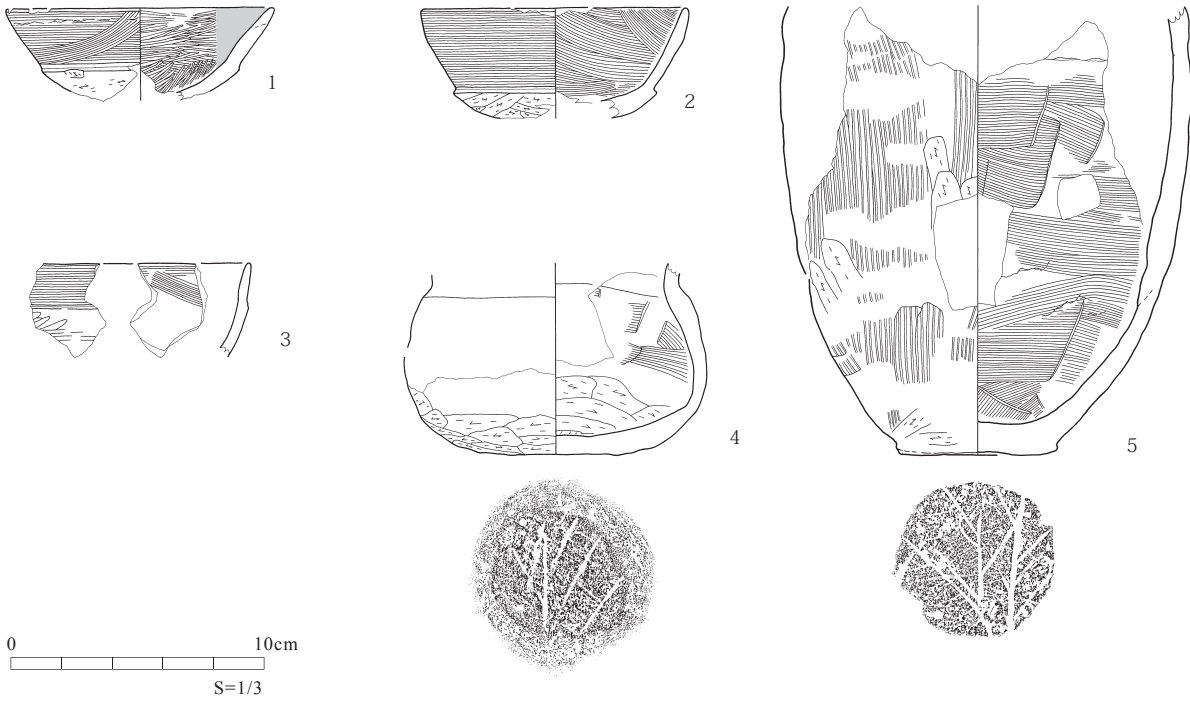
土師器環は有段丸底環で体部から口縁部にかけて内湾するもの(第122図2)と、体部が内湾し口縁部が外反気味に外傾するもの(第122図1・3)がある。第122図1は外面の体部中位に段を持ち、口縁部にヨコナデ・体部下位にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面の体部下位に二次被



第121図 SI215 竪穴住居跡 (1)

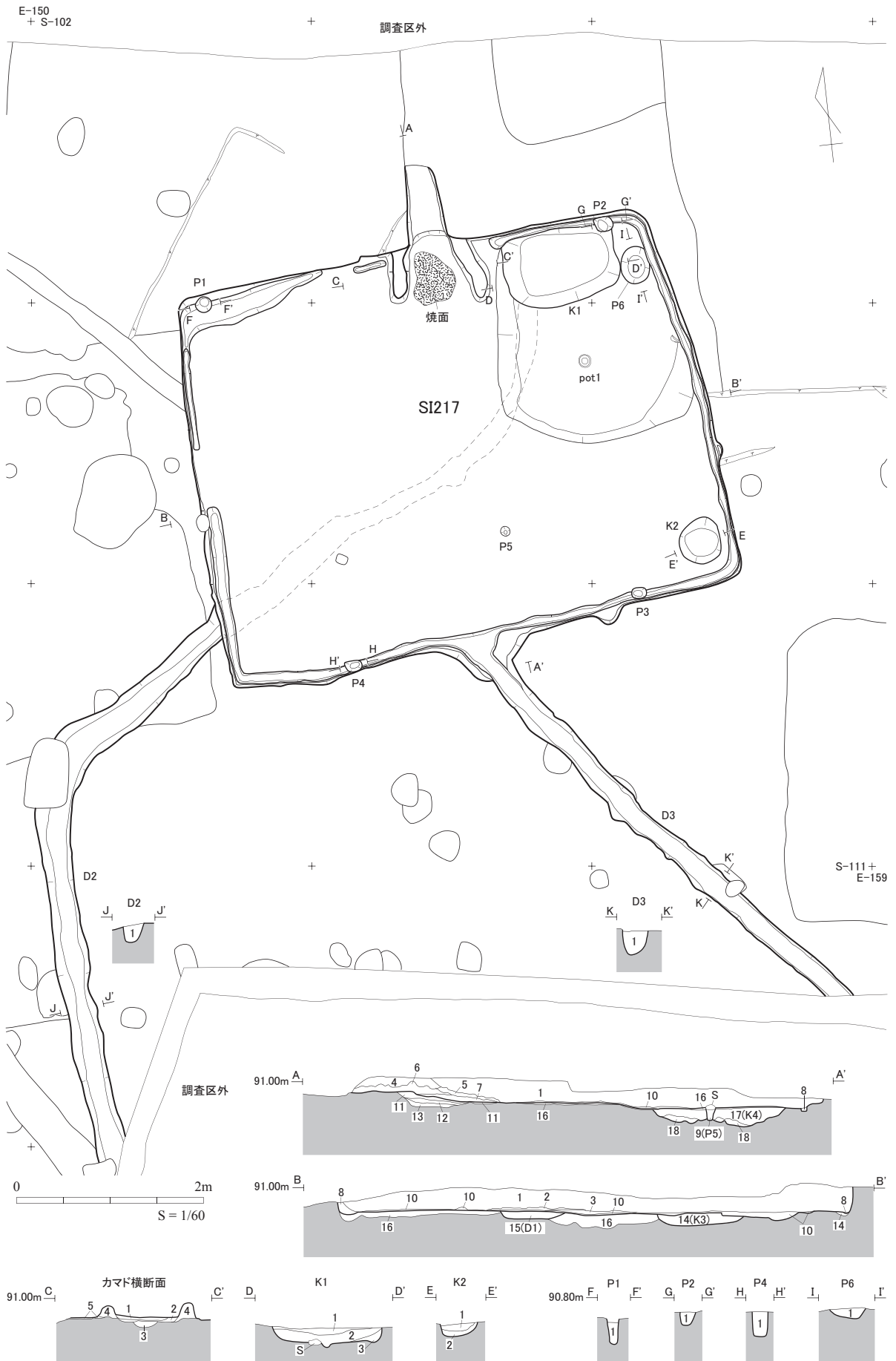


SI215 竪穴住居跡 K3 A-A'				SI215 竪穴住居跡 K4・K5 B-B'			
No.	土色	土性	備考	No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (人為)	1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む、白色粘土粒・焼土粒を含む (人為)
				2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (人為)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI215	K3 堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ，(体下) ヘラケズリ	(10.6)	-	(3.6)	1/4	131	64-10
2	SI215	カマド崩落土	土師器	坏	内面：ナデ，外面：(口) ヨコナデ，(体～底) ヘラケズリ ※内面 2.5YR5/8 明赤褐，外面 2.5YR 4/8 赤褐	(10.7)	-	(4.4)	一部	130	64-11
3	SI215	K3 堆積土	土師器	坏	内面：(口) ヨコナデ，(口～体) ナデ，(体) ミガキ？，外面：(口) ヨコナデ，(体) ヘラミガキ，※内面 5YR 6/6 橙，外面 5YR 5/4 にぶい赤褐	-	-	(3.7)	一部	129	64-12
4	SI215	確認面	土師器	小型壺	内面：(口) ヨコナデ？，(体) ヘラナデ，(体下～底) ヘラケズリ，外面：(口) ヨコナデ？，(体) 磨減，(底) 木葉痕→(体下～底付近) ヘラケズリ	(12.0)	5.2	(7.7)	一部	132	64-13
5	SI215	K1 堆積土 3層	土師器	甕	内面：ヘラナデ，外面：ハケメ→ヘラケズリ，(底) 木葉痕	-	(6.2)	(17.9)	一部	133	64-9

第122図 SI215 竪穴住居跡 (2)，出土遺物



第123図 SI217 竪穴住居跡 (1)

SI217 竪穴住居跡 A-A'・B-B' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・にぶい赤褐色土粒を含む (住堆)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (住堆)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 暗褐色のしまりのない土を部分的に含む (住堆)
4	10YR7/6 明黄褐色	粘質シルト	黄褐色ロームブロック主体 (煙道崩)
5	10YR6/4 にぶい黄橙	粘質シルト	黒色土を含む (竈崩)
6	10YR5/4 にぶい黄褐	粘質シルト	被熱した黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒などを含む (竈崩)
7	10YR5/3 にぶい黄褐	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒を含む (竈堆)
8	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (周溝堆)
9	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (P5 堆)
10	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	焼土粒・炭化物粒を多量に含む (住機能時堆)
11	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒・焼土粒を含む 上面が被熱により赤色硬化 (竈底面構・カマド断面1層対応)
12	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	焼土粒と炭化物粒を含む (竈底面構・カマド断面2層対応)
13	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・焼土粒を含む (竈底面構・カマド断面3層対応)
14	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (K3 人為)
15	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (D1 人為)
16	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを部分的に含む 炭化物粒・焼土粒を含む (住掘・カマド断面5層対応)
17	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (K4 人為)
18	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (K4 人為)

SI217 竪穴住居跡カマド横断面 C-C' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒・焼土粒を含む 上面が被熱により赤色硬化 (竈底面構・住居主断面11層対応)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	炭化物粒を含む (竈底面構・住居主断面12層対応)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒を含む (竈底面構・住居主断面13層対応)
4	10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	白色粘土主体 黒色土粒を含む (竈側壁構)
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・炭化物粒・焼土粒を含む (住掘・住居主断面16層対応)

SI217 竪穴住居跡 K1 D-D' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・焼土・炭化物粒・小礫を含む (人為)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (人為)
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (人為)

SI217 竪穴住居跡 K2 E-E' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を含む 極少量の焼土粒を含む (人為)
2	10YR5/4 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土・灰・黒褐色土ブロックを含む (人為)

SI217 竪穴住居跡 P1・P2・P4 F-F'・G-G'・H-H' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土

SI217 竪穴住居跡 P6 I-I' (第123図)

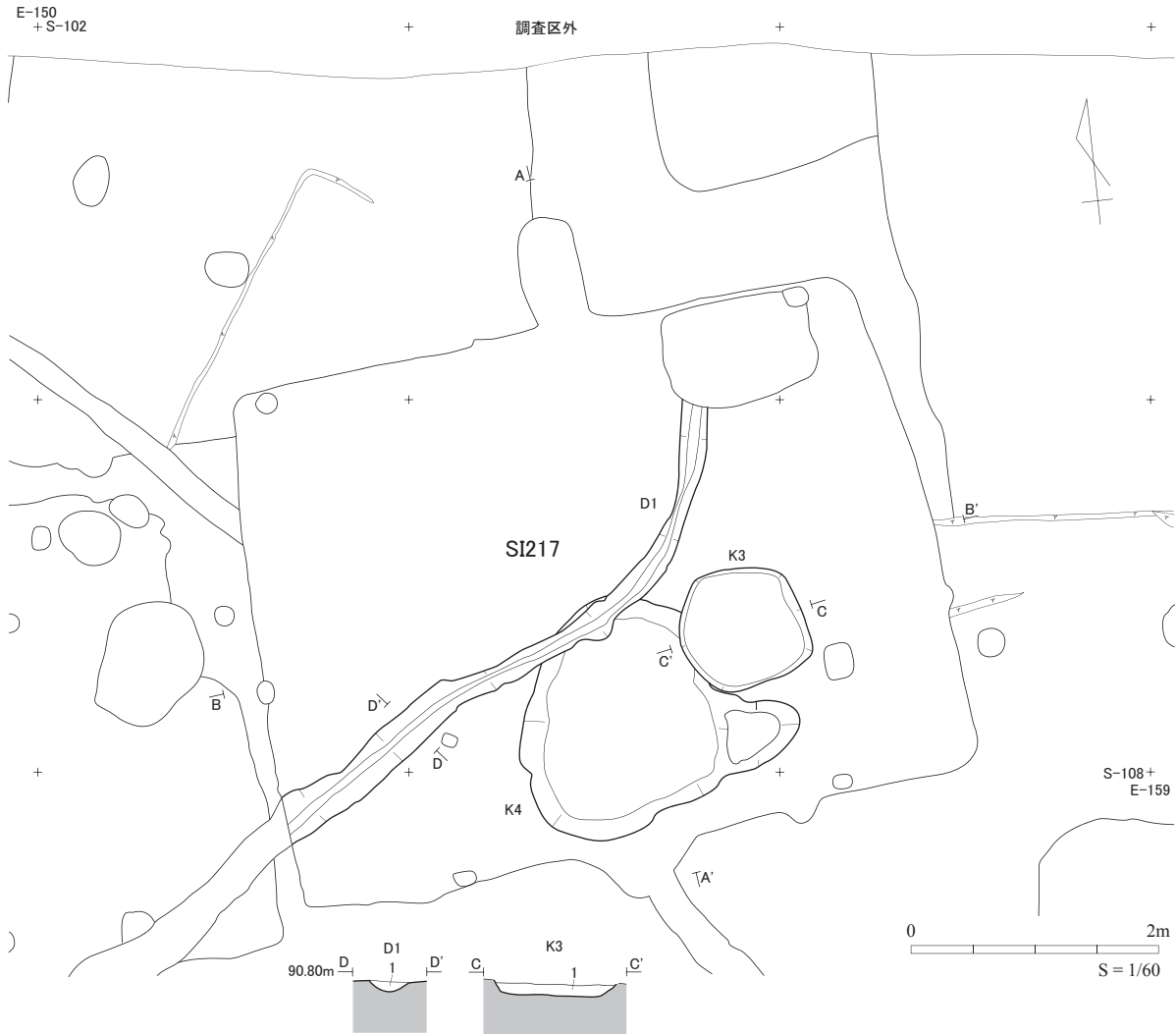
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI217 竪穴住居跡 D2 J-J' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI217 竪穴住居跡 D3 K-K' (第123図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む



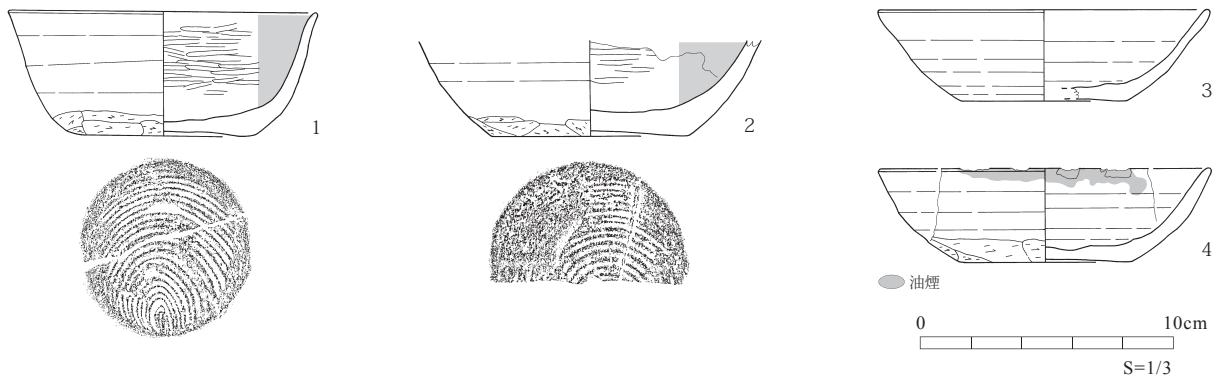
SI217 竪穴住居跡 K3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む (人為)

SI217 竪穴住居跡 D1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)

第124図 SI217 竪穴住居跡 (2)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI217	床面直上 Pot.1	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ，（底）回転糸切り→手持ちヘラケズリ	12.4	6.9	5.0	4/5	134	64-16
2	SI217	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ，（底）回転糸切り→手持ちヘラケズリ	-	7.8	(3.8)	一部	135	64-14
3	SI217	堆積土	須恵器	坏	内外面：ロクロナデ，（底）回転ヘラ切り→無調整，※内外面緋だすき有り	(13.2)	(6.5)	3.6	2/5	137	64-17
4	SI217	K1 堆積土	須恵器	坏	内面：ロクロナデ，外面：ロクロナデ→（底付近）手持ちヘラケズリ，（底）切り離し不明→ヘラケズリ，※内外面（口）一部欠損→油煙付着	(13.2)	(6.9)	3.7	1/3	136	64-15

第125図 SI217 竪穴住居跡出土遺物

熱による器壁の剥離が認められる。第122図2は外面の体部下位に段を持つ。口縁部にヨコナデ・体部～底部にヘラケズリ調整、内面にナデ調整を施し、黒色処理を施さない。胎土が赤褐色を呈する。第122図3は外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部にヨコナデ・体部にヘラミガキ調整、内面の口縁部にヨコナデ・体部にナデ→不鮮明ながらミガキ調整を施すとみられる。胎土が橙色を呈し、器壁が薄い。壺（第122図4）は外面口縁部に不鮮明ながらヨコナデ調整→体部下位から底部付近にかけてヘラケズリ調整、内面口縁部に不鮮明ながらヨコナデ→体部にヘラナデ→体部下位から底部にかけてヘラケズリ調整を施す。外底面は木葉痕→外周にヘラケズリ調整を施す。甕（第122図5）は平底で胴部中位に最大径を持つ長胴形で、下半部のみ残存する。外面にハケメ→ヘラケズリ調整、内面にヘラナデ調整を施し、外底面に木葉痕が見られる。

このほか、K1・K3 堆積土・住居内堆積土・住居掘方埋土より土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。土師器坏は無段丸底で内面にナデ調整を施すものがある。須恵器甕は内面に同心円文アテ具痕が見られる。

【SI217 竪穴住居跡】（第123-125図、写真図版34・42・64）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI220a・SI221・SI222・SI228・SD234 → SI217
〔規模・形状〕長軸 5.60m、短軸 4.36m／方形

〔方向〕カマド中軸線：N-7°-W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大26cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦であるが、住居北東隅に接する長軸238cm、短軸210cmの不整形の範囲が一段低く掘り窪められて

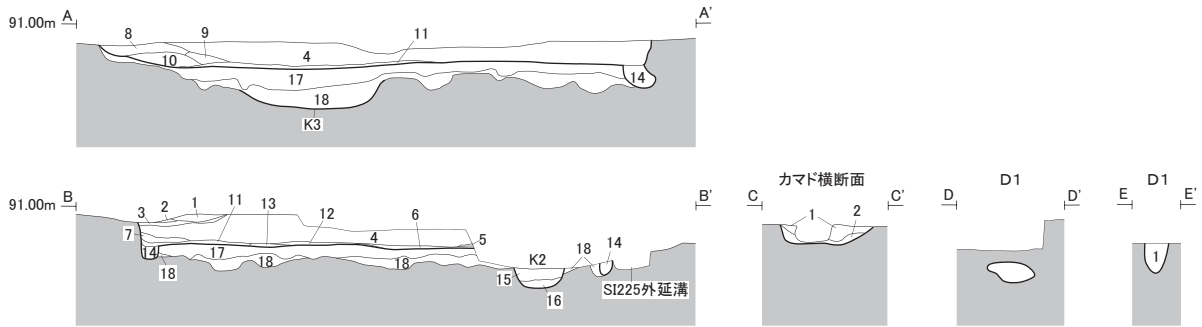
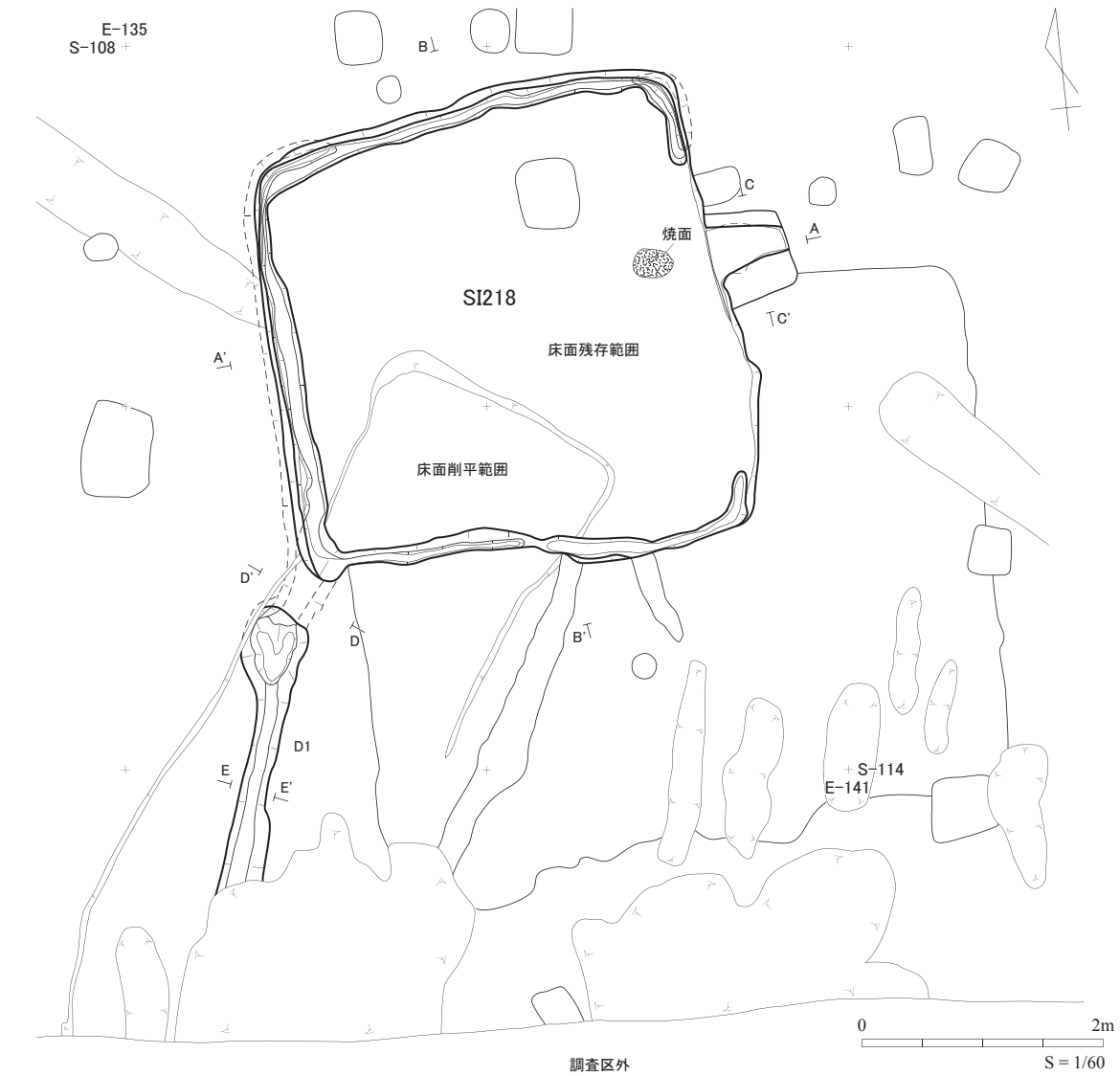
いる。床面との比高差は8cm程度である。なお、床面直上に焼土・炭化物粒を含む黒色粘質シルトが薄く堆積し、床面機能時の堆積土と考えられる。これを覆う堆積土は地山ブロック・粒を含む黒色・黒褐色粘質シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕なし

〔壁柱穴〕住居北辺で2か所（P1・P2）、南辺で2か所（P3・P4）確認した。P1・P2は住居北辺の東西隅からそれぞれ0.2m、P3・P4は住居南辺の東西隅からそれぞれ1.0~1.2mに位置する。平面形は長軸12~15cm、短軸10~16cmの略円形・楕円形を呈し、深さは15~30cmである。

〔周溝・壁材〕カマドが付設される住居北辺中央を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅8~30cm、底幅6~18cm、深さ3~8cmで横断面形がU字形を呈する。底面は南辺中央に向かってわずかに傾斜している。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。〔カマド〕住居北辺中央やや東寄りに付設する。燃烧部と煙道が残存する。燃烧部は幅108cm、奥行90cmで、焚口幅は70cmである。燃烧部底面は幅70cm、奥行74cmで、床面より5cmほど皿状に窪み、被熱による赤色硬化面が形成されている。側壁は長さ54~71cm、幅20~25cm、残存高15cmである。奥壁は住居北壁よりやや張り出す。側壁構築土には白色粘土ブロックを主体とする明黄褐色粘質シルトを用いている。煙道は燃烧部奥壁から0.7m以上延びており、煙道底面は先端部へ向かってわずかに傾斜する。

〔貯蔵穴〕カマド右側の住居北東隅で土坑1基（K1）、住居南東隅で土坑1基（K2）を確認した。K1は平面



SI218 竪穴住居跡 A-A', B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住堆)
2	7.5YR4/4 褐	シルト	焼土層
3	10YR2/1 黒	シルト	炭層
4	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (住堆)
5	10YR2/1 黒	シルト	炭層
6	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒を含む (住堆)
7	7.5YR5/6 明褐	シルト	焼土層
8	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む (竈崩)
9	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を含む (竈堆)
10	10YR3/4 暗褐	シルト	灰・焼土粒・白色粘土粒を含む (竈堆)
11	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (住機能時堆)
12	10YR2/1 黒	粘質シルト	炭層 (住機能時堆)
13	7.5YR4/4 褐	粘質シルト	焼土層 (住機能時堆)

No.	土色	土性	備考
14	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (周堆)
15	7.5YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (K2 人為)
16	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	均質土 (K2 自然)
17	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土粒・植物遺体を含む (住堆)
18	7.5YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (住堆)

SI218 竪穴住居跡 カマド横断面 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土粒・炭化物粒・灰・焼土ブロックを含む (竈構)
2	7.5YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (住堆・住居主断面 18 層対応)

SI218 竪穴住居跡 D1 E-E'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む

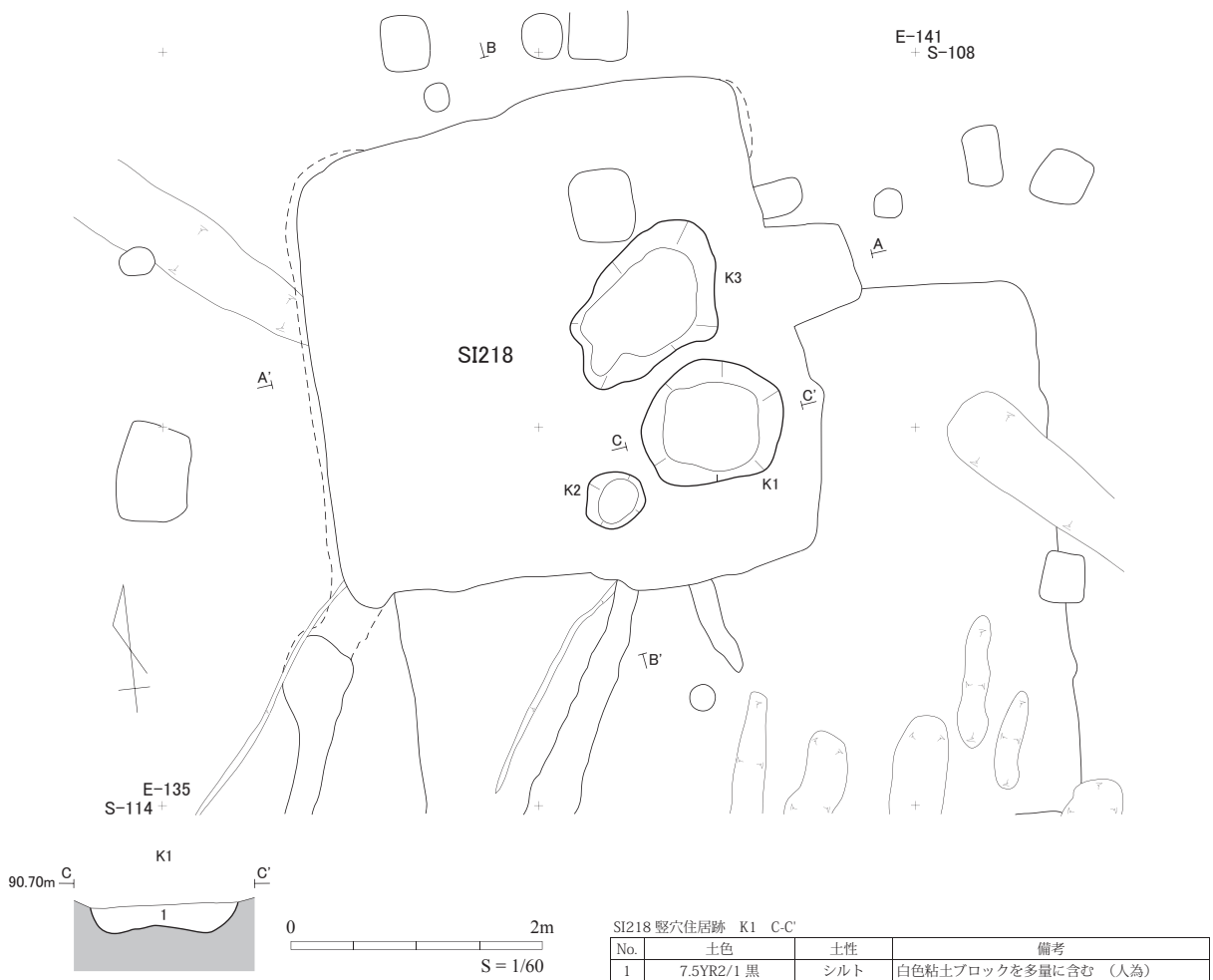
第 126 図 SI218 竪穴住居跡 (1)

形が長軸 120cm、短軸 80cm の隅丸方形を呈し、断面形は深さ 30cm の逆台形を呈する。堆積土は焼土・地山ブロック、炭化物粒を含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。K2 は平面形が長軸 50cm、短軸 46cm の略円形を呈し、断面形は深さ 16cm のU字形を呈する。堆積土は2層に細分される。1層は焼土・地山粒を少量含む黒褐色粘質シルト、2層は地山ブロックを含む濃い黄褐色粘質シルトで、1層は自然堆積土、2層は人為的埋土と考えられる。〔床下土坑〕住居南部中央付近で重複する土坑2基(K4→K3)を確認した。いずれも堆積土上面を床面機能時の堆積土が覆っている。K3は住居掘方埋土より新しく、平面形が長軸 220cm、短軸 200cm の不整楕円形を呈する。断面形は深さ 20cm の皿状を呈し、底面に凹凸が見られる。堆積土は地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。K4は住居掘方埋土より古く、平面形が長軸 102cm、短軸 100cm の不整隅丸方形を呈し、断面形は深さ 13cm の逆台形を呈する。堆積土は地山・焼土ブロック、炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトで人為的

埋土と考えられる。

〔暗渠溝〕貯蔵穴(K1)南西隅からカマド前面を迂回するように弧を描きながら延び、住居西辺南部へ延びる溝跡(D1)を確認した。住居床面から掘り込まれ、堆積土上面を床面機能時の堆積土が覆っている。上幅 14~23cm、底幅 3~8cm、深さ 4~12cm で横断面形がU字形を呈する。底面は南西に向かって傾斜している。堆積土は地山粒を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。堆積土の状況から、床面と平坦に埋め戻された暗渠と考えられる。

〔外延溝〕住居西辺南部でD1と接続して住居外へ延びる溝跡(D2)と、住居南辺中央やや西寄りの位置で周溝と接続して住居外へ延びる溝跡(D3)を確認した。D2はD1の延長上に2.1m延びて南へ折れ、さらに4.1m以上延びている。上幅 16~47cm、底幅 8~28cm、深さ 20cm で横断面形はU字形を呈する。底面は南側へ向かって緩やかに傾斜する。堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。D3は南東方向に直線的に5.5m以上延びている。上幅 18~30cm、底幅 10~18cm、深さ 17~20cm で横



第 127 図 SI218 竪穴住居跡 (2)

断面形はU字形を呈する。底面は南東へ向かって緩やかに傾斜する。堆積土は地山粒を多く含む黒色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔その他の施設〕住居中央南部で1か所（P5）、北東部で1か所（P6）の小柱穴を確認した。P5は平面形が直径10cmの略円形を呈し、深さ15cmである。P6は平面形が長軸40cm、短軸32cmの楕円形を呈し、深さ12cmである。

〔出土遺物〕床面よりロクロ土師器環（第125図1）、K1堆積土より須恵器環（第125図4）、住居内堆積土よりロクロ土師器環（第125図2）・須恵器環（第125図3）が出土した。

ロクロ土師器環（第125図1・2）は、いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。体部が内弯気味に立ち上がり、第125図1は口縁部がわずかに外反気味に外傾する。須恵器環は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が直線的に外傾するもの（第125図4）と、口縁部がわずかに外反気味に外傾するもの（第125

図3）とがある。第125図4は底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。口縁部の内外面に油煙の付着が見られる。第125図3は回転ヘラ切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。

このほか、住居内堆積土より土師器甕、ロクロ土師器環・甕、須恵器環・高台付環・甕が出土した。土師器甕は外底面に木葉痕を持つものが見られる。ロクロ土師器環は底部の切り離しが回転ヘラ切りによるものと、静止糸切りによるものがあり、底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリまたは回転ヘラケズリによる再調整を施す。

【SI218 竪穴住居跡】（第126-128図、写真図版35・43・65）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

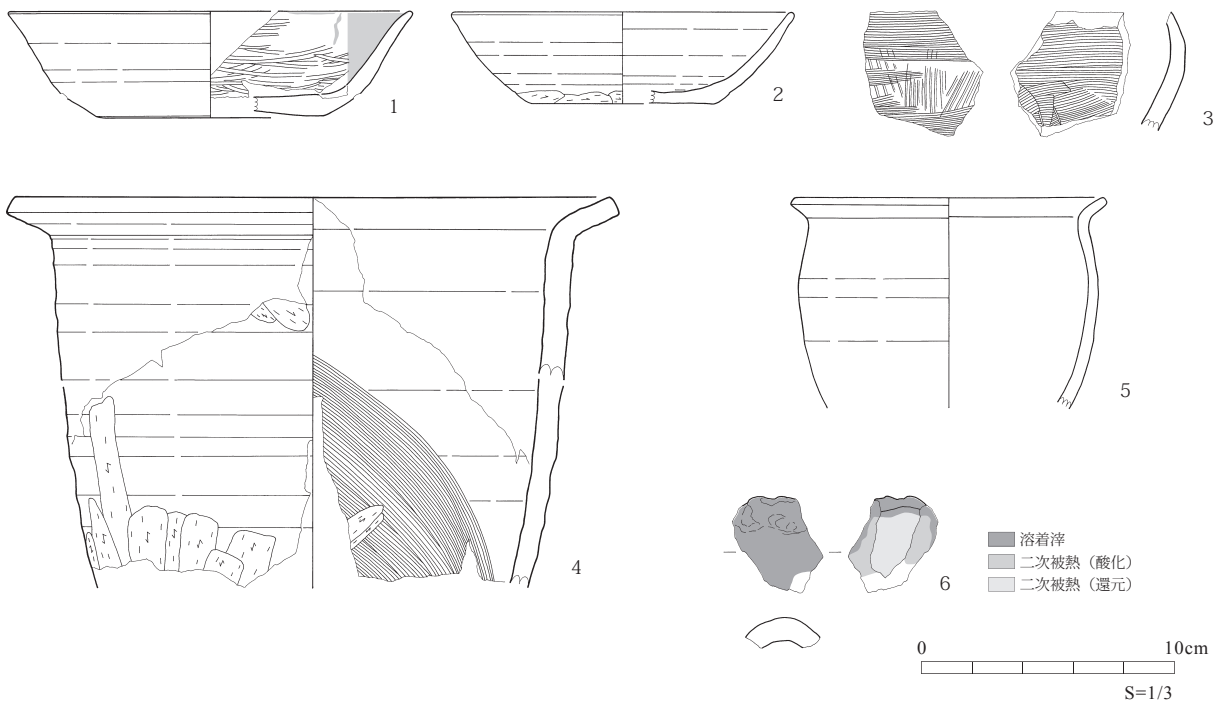
〔重複〕SI225・SI231・SD273 → SI218 → SB247

〔規模・形状〕長軸4.05m、短軸3.74m／不整形

〔方向〕カマド中軸線：N-71°-E

〔壁面〕地山を壁として床面から外傾気味に立ち上がる。残存壁高は最大20cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦で



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI218	堆積土	ロクロ土師器	環	内面：ヘラミガキ→黒色処理，上部磨滅，外面：(体) ロクロナデ，(底付近) ケズリ，(底) 回転糸切り→ケズリ？，※内面(口) 油煙付着	(16.0)	(9.0)	4.2	1/4	139	65-1
2	SI218	堆積土	須恵器	環	内面：ロクロナデ，外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ，(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(13.6)	(7.2)	3.6	1/3	138	65-2
3	SI218	住居掘方埋土	土師器	鉢	内面：(口) ヨコナデ，(体) ヘラナデ，外面：(口) ヨコナデ→(体) ハケメ→ナデ	-	-	(5.0)	一部	140	65-3
4	SI218	住居掘方埋土	ロクロ土師器	甕	内面：ロクロナデ→ナデ→一部ヘラケズリ，外面：ロクロナデ→ヘラケズリ	(24.2)	-	(15.4)	一部	168	65-5
5	SI218	堆積土	ロクロ土師器	小型甕	内面：ロクロナデ？，外面：ロクロナデ	(12.6)	-	(8.3)	一部	141	65-4
No.	遺構	層位	種類	特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
					長	幅	厚				
6	SI218	住居掘方埋土	羽口	先端側，先端～外面：溶着滓，内面：使用時の二次被熱による変色(還元・酸化)	(3.8)	(3.0)	(0.9)	一部	243	65-6	

第128図 SI218 竪穴住居跡出土遺物

ある。床面直上に白色粘土ブロックを含む黒褐色シルトが薄く堆積し、沈下した床面の嵩上げ土もしくは床面機能時の堆積土と考えられる。これを覆う堆積土は地山・白色粘土粒を含む黒褐色粘質シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕なし

〔周溝・壁材〕カマドが付設される住居東辺を除く住居壁面に沿って周溝を確認した。上幅 10~34cm、底幅 3~13cm、深さ 9~18cm で横断面形は不整なU字形を呈する。底面は西へ向かって傾斜している。住居西辺と東辺の一部では住居壁面より外側へ 10cm 程度張り出している。堆積土は地山粒を含む黒色粘質シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居東辺中央やや北寄りに付設する。燃烧部底面の痕跡とみられる赤色硬化範囲と、煙道部が残存する。煙道は幅 22~45cm、長さ 64cm である。煙道底面は先端へ向かって緩やかに立ち上がる。煙道部

は住居東辺から幅 82cm、奥行 45cm の範囲を方形に張り出させ、住居掘方埋土および焼土ブロック・炭化物粒・灰を含む暗褐色シルトで埋め戻した後に掘り抜いて構築している。

〔貯蔵穴〕なし

〔床下土坑〕住居南東部で土坑 3 基 (K1-K3) を確認した。K1 は平面形が長軸 114cm、短軸 98cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 24cm の逆台形を呈する。K2 は平面形が長軸 48cm、短軸 44cm の略円形を呈し、断面形は深さ 20cm のU字形を呈する。K3 は平面形が長軸 150cm、短軸 86cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 20cm の不整な逆台形を呈する。堆積土はいずれも地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

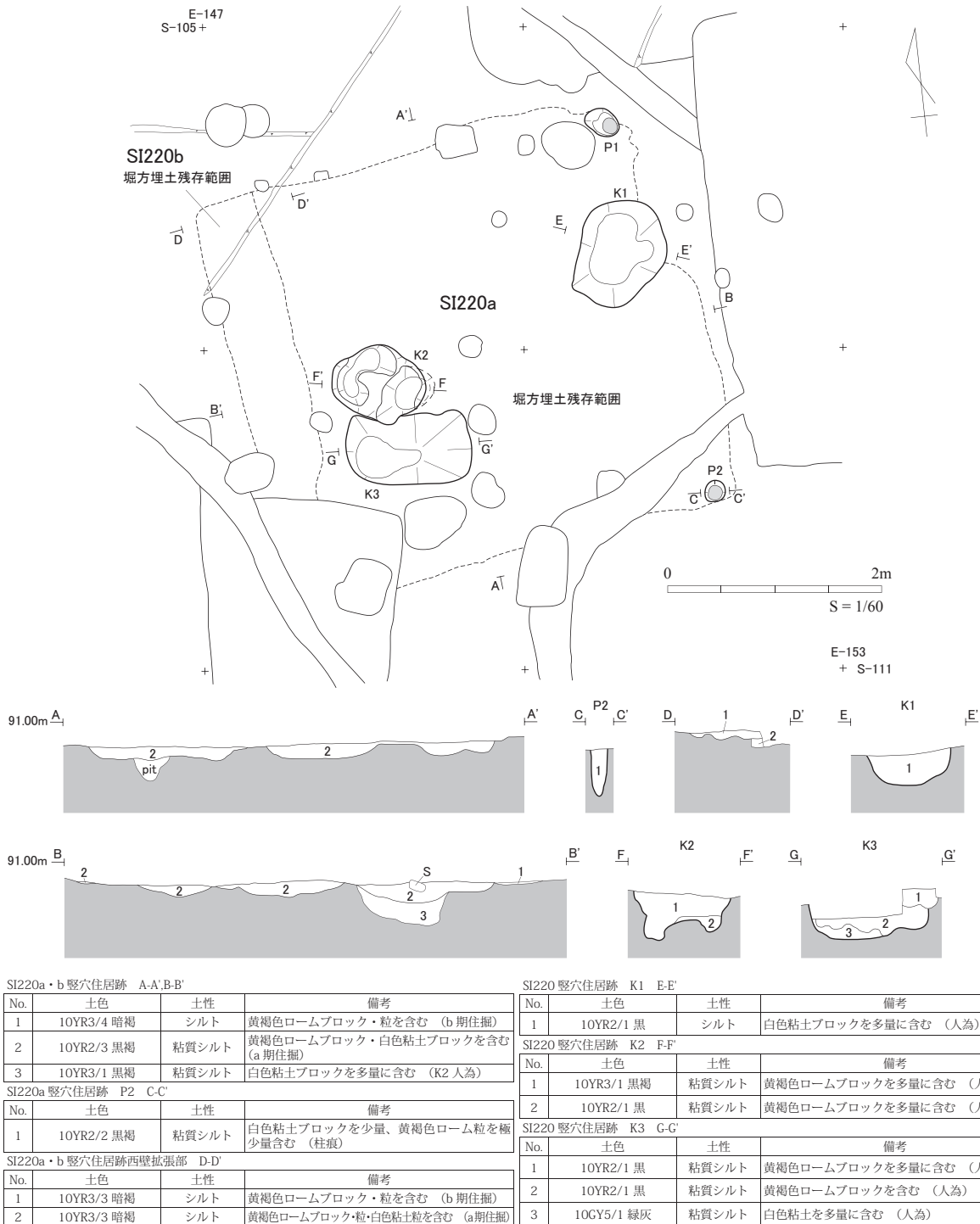
〔外延溝〕住居南西隅で周溝と接続して住居外へ延びる溝跡 (D1) を確認した。上幅 20~33cm、底幅 9~15cm、深さ 25cm で横断面形がV字形を呈し、南西方向へ直線的に 2.7m 以上延びている。底面は南へ



第 129 図 SI219 竪穴住居跡

向かって傾斜する。また、住居南西隅から40cmは地山をトンネル状に掘り抜いており、横断面積は幅40cm、高さ15cmの凸レンズ形を呈する。トンネル状部分の南端から70cmは溝の上幅が50cmまで広がっており、トンネル掘削の作業によるものと考えられる。堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。
 [出土遺物] 住居内堆積土よりロクロ土師器坏(第128図1)・小型甕(第128図5)、須恵器坏(第128図2)、

住居掘方埋土よりロクロ土師器甕(第128図4)、土師器鉢(第128図3)、羽口(第128図6)が出土した。
 ロクロ土師器坏(第128図1)は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がやや外反する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位～底部に不鮮明ながらケズリによる再調整を施すとみられる。口縁部の内面に油煙の付着が見られる。小型甕(第128図5)は胴部上位に最大径を持ち、口縁部が短く外傾する。甕(第



第130図 SI220a・b 竪穴住居跡

128 図 4) は胴部上端に最大径を持ち、口縁部が短く外傾する。内外面にロクロナデ調整の後、外面の胴部上位・下位にヘラケズリ調整、内面の胴部下位にナデ→ヘラケズリ調整を施す。土師器鉢(第 128 図 3) は口縁部が内弯する。外面の口縁部にヨコナデ→体部にハケメ→ナデ調整、内面の口縁部にヨコナデ、体部にナデ調整を施す。須恵器坏(第 128 図 2) は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反気味に外傾する。底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。羽口(第 128 図 6) は先端部側の破片で、使用時の二次被熱による変色が見られる。なお、土師器鉢(第 128 図 3) は型式学的に見て他の出土土器よりも古い様相を示しており、先行する遺構堆積土などからの混入と考えられる。

このほか、カマド崩落土・K1 堆積土・住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器坏・甕、ロクロ土師器甕、須恵器坏・高台付坏が出土した。土師器坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施す。外底面に木葉痕を持つものがある。ロクロ土師器甕は内面に同心円文アテ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。須恵器高台付坏は外底面に回転ヘラ切り痕が見られる。

【SI219 竪穴住居跡】(第 129 図、写真図版 45)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕SK253 → SI219 → SB277・SK252・SD242

〔規模・形状〕長軸 5.10m 以上、短軸 3.90m 以上／方形

〔方向〕北辺：N-88°-E

〔壁面〕地山を壁として床面から外傾気味に立ち上がる。残存壁高は最大 5cm である。

〔床面・堆積土〕北東部の一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は焼土粒・白色粘土ブロックを含む黒色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕不明

〔周溝・壁材〕住居北壁に沿って周溝を確認した。上幅 9~18cm、底幅 5~14cm、深さ 6cm で横断面形は V 字形を呈する。堆積土は地山ブロックを含む黒色シルトで、自然堆積土と考えられる。壁材痕跡は確認されなかった。

〔カマド〕住居南東部の東壁に接する長軸 44cm、短軸 32cm の範囲で被熱による赤色化が認められた。床面は削平を受けており、カマドとの関係は不明である。

〔貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋

土より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。土師器坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施すものと、無段丸底で内面にヨコナデ調整を施すものがある。土師器甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位に手持ちヘラケズリによる再調整を施すものがある。須恵器坏は外底面に回転ヘラ切り痕が見られる。

【SI220a 竪穴住居跡】(第 130-131 図、写真図版 34・65)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI220a → SI217・SI220b・SI228・SI229・SB262・SA279

〔規模・形状〕長軸 3.80m、短軸 3.50m／方形

〔方向〕西辺：N-9°-W

〔壁面・床面・堆積土〕残存しない

〔主柱穴〕なし

〔壁柱穴〕住居北東隅で 1 か所 (P1)、南東隅で 1 か所 (P2) 確認した。柱穴掘方の平面形は長軸 20~30cm、短軸 20~24cm の略円形・楕円形を呈する。深さ 36~44cm でいずれの柱穴でも平面形が直径 12~14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド・貯蔵穴〕不明

〔床下土坑〕住居北東部で土坑 1 基 (K1)、南西部で重複する土坑 2 基 (K3 → K2) を確認した。いずれも住居掘方底面から掘り込まれている。K1 は平面形が長軸 102cm、短軸 80cm の不整楕円形を呈し、断面形は深さ 35cm の U 字形を呈する。堆積土は白色粘土ブロックを多量に含む黒色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。K2 は平面形が長軸 88cm、短軸 68cm の不整楕円形を呈する。断面形は深さ 46cm の逆台形を呈し、底面に凹凸が見られる。堆積土は地山・白色粘土ブロックを多量に含む黒色・黒褐色の粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。堆積土中に一側面が被熱した砂岩の小片を多く含む。K3 は平面形が長軸 118cm、短軸 66cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 33cm の U 字形を呈する。堆積土は地山ブロックを含む黒色・緑灰色粘質シルトで人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕K3 堆積土より土師器甕(第 131 図 4)、住居掘方埋土より土師器坏(第 131 図 1・2)・大型坏(第 131 図 3) が出土した。

土師器坏は有段丸底坏で口縁部が内弯するもの(第 131 図 1) と、体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が外傾し口縁部がやや外反するもの(第 131 図 2)

とがあり、いずれも黒色処理を施さない。第131図1は外面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整を施す。第131図2は内外面の口縁部にヨコナデ調整を施す。大型坏（第131図3）は体部中位に段を持ち、体部が外傾し口縁部が内彎気味に外傾する。外面の体部にハケメ→ナデ→口縁部にヨコナデ調整、内面にヨコナデ→ヘラミガキ→黒色処理を施す。（第131図4）は無底式の甑の破片で、外面にヘラケズリ調整、内面にヘラケズリ→ナデ調整を施す。

このほか、遺構確認面・住居掘方埋土より土師器坏・甕が出土した。土師器坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ調整を施すものがある。

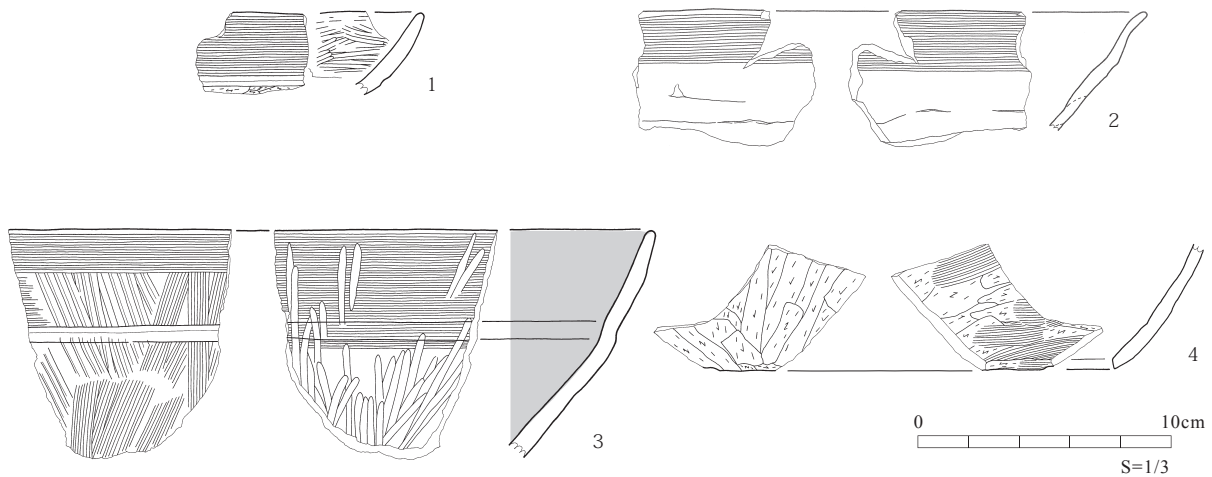
【SI220b 竪穴住居跡】（第130図、写真図版34）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

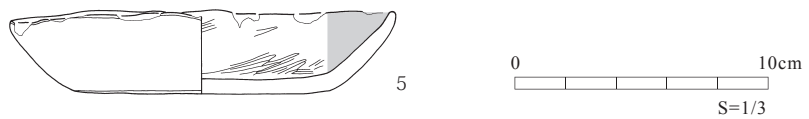
〔重複〕SI220a → SI220b → SI228・SI229・SB262・SA279

〔規模・形状〕SI220a 竪穴住居跡を西側へ約60cm拡張／長軸4.10m、短軸3.80m／方形

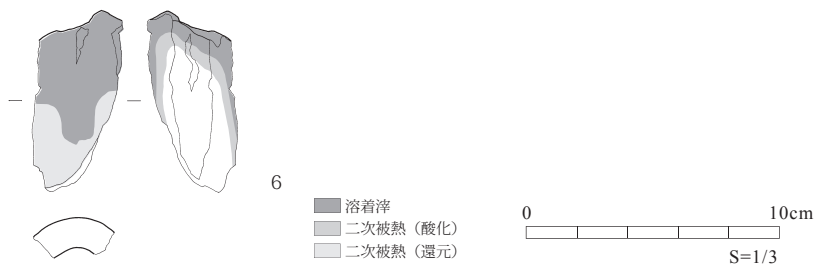
〔方向〕西辺：N-9° -W



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI220a	住居掘方埋土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ、外面：(口)ヨコナデ、(体)ヘラケズリ	-	-	(3.3)	一部	108	65-7
2	SI220a	住居掘方埋土	土師器	坏	内外面：(口)ヨコナデ	-	-	(5.4)	一部	106	65-8
3	SI220a	住居掘方埋土	土師器	大型坏	内面：(口)ヨコナデ→(口~体)ヘラミガキ→黒色処理、外面：(体)ハケメ→ナデ→(口)ヨコナデ	-	-	(9.0)	一部	105	65-9
4	SI220a	K3堆積土	土師器	甑	内面：ヘラケズリ→ナデ、外面：ヘラケズリ	-	-	(5.1)	一部	107	65-10



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
5	SI221	確認面	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：(底)ヘラケズリ、※内外面共に磨滅	15.3	10.1	3.3	2/3	109	65-12



No.	遺構	層位	種類	特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
					長	幅	厚			
6	SI222	炉内堆積土	羽口	先端付近、先端側外面：溶着滓、内外面：使用時の二次被熱による変色(還元・酸化)	(7.2)	(3.3)	(1.2)	一部	245	65-15

第131図 SI220a・221・222 竪穴住居跡出土遺物

〔残存状況〕 住居掘方埋土のみ残存する。

〔出土遺物〕 なし

【SI221 竪穴住居跡】(第104・131図、写真図版34・65)

〔位置〕 5区西部／南向緩斜面／未精査

〔重複〕 SI222 → SI221 → SI217・SI223

〔規模・形状〕 長軸 5.30m 以上、短軸 2.50m 以上／方形

〔方向〕 東辺：N-7.3° -E

〔施設〕 未精査のため住居内の施設等については不明。

〔外延溝〕 住居南東隅から住居外へ延びる溝跡を確認した。上幅 15~23cm で南東方向へ直線的に 5.75m 以上延びている。

〔出土遺物〕 遺構確認面より土師器坏(第131図5)が出土した。平底で体部から口縁部にかけて内弯す

る。外底面にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ調整 → 黒色処理を施す。

このほか、住居内堆積土・遺構確認面より土師器坏・甕が出土した。土師器坏は有段丸底・無段丸底で内面にヘラミガキ調整 → 黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ調整を施す。

【SI222 竪穴住居跡】(第104・131図、写真図版34・65)

〔位置〕 5区西部／南向緩斜面／部分精査

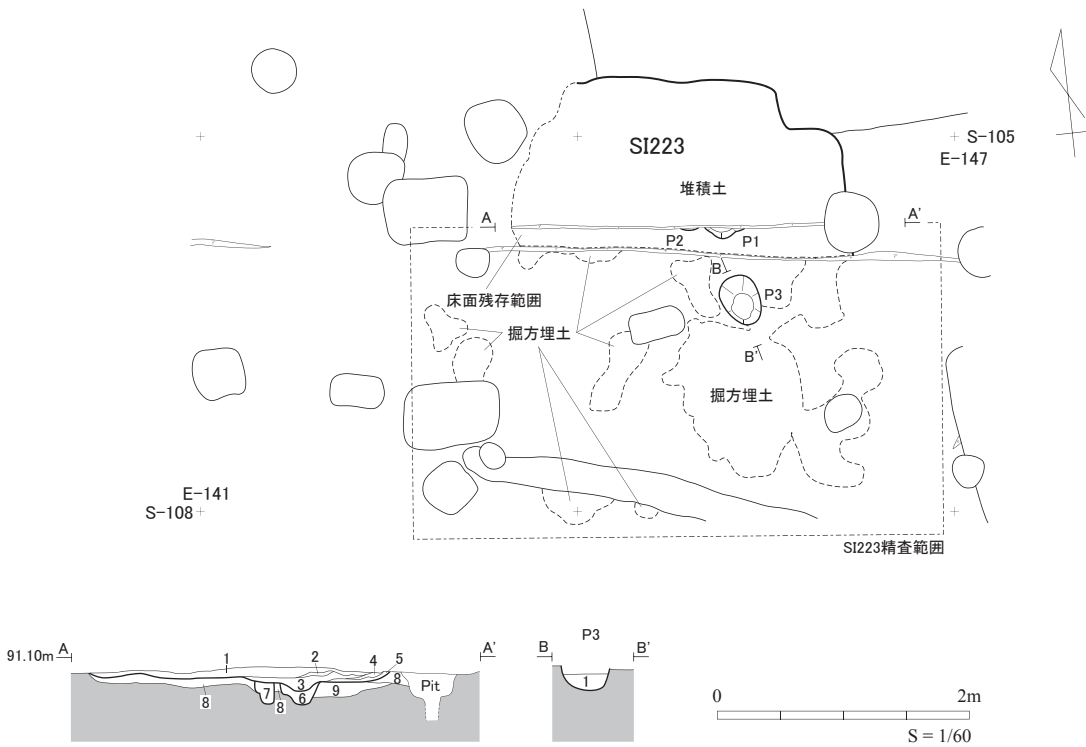
〔重複〕 SI222 → SI217・SI221

〔規模・形状〕 長軸 4.60m、短軸 2.30m 以上

〔方向〕 東辺：N-2.3° -E

〔施設〕 未精査のため住居内の施設等については不明。

〔炉〕 住居南部中央部で炉跡を確認した。平面形は長



SI223 竪穴住居跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住堆)
2	10YR5/3 にぶい黄褐	シルト	灰層 炭化物粒を少量含む (竈堆?)
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	炭化物粒を多量に含む (竈堆?)
4	10YR5/3 にぶい黄褐	シルト	灰層 炭化物粒・焼土粒を少量含む (竈堆?)
5	7.5YR4/4 褐	粘質シルト	焼土層 炭化物粒を少量含む (竈堆?)
6	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (P1 堆)

No.	土色	土性	備考
7	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (P2 堆)
8	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)
9	10YR7/8 黄橙	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)

SI223 竪穴住居跡 P3 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒を含む



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI223	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：ロクロナデ、(底)回転系切り? ※内外面：(体下~底部)磨滅	(16.4)	(10.6)	(4.8)	一部	110	65-13

第132図 SI223 竪穴住居跡，出土遺物

軸 45cm、短軸 28cm の楕円形を呈し、断面形は深さ 8cm の播鉢状を呈する。底面に被熱による赤色硬化が見られる。

〔出土遺物〕 炉内堆積土より羽口（第 131 図 6）が出土した。先端部付近の破片で、使用時の二次被熱による変色と外面に溶着滓が見られる。

このほか、床面・炉内堆積土・遺構確認面より土師器環・甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SI223 竪穴住居跡】（第 132 図、写真図版 65）

〔位置〕 5 区西部／南向緩斜面／部分精査

〔重複〕 SI221 → SI223 → SB275

〔規模・形状〕 長軸 3.63m 以上、短軸 3.54m 以上／方形？

〔方向〕 不明

〔壁面〕 地山を壁とする。

〔床面・堆積土〕 北部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山粒を含む黒色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴・周溝・壁材〕 不明

〔カマド〕 住居東辺中央付近の住居主断面で地山・焼土・炭化物粒、灰を含む堆積層を確認した。カマド内堆積土の可能性はあるが、詳細は不明である。

〔貯蔵穴〕 不明

〔その他の施設〕 住居床面中央付近で柱穴 3 か所（P1~P3）を確認した。P1・P2 は床面から掘り込まれており、P3 も同様であったと推定される。

〔出土遺物〕 住居内堆積土よりロクロ土師器環（第 132 図 1）が出土した。外部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。内面にヘラミガキ→黒色処理を施し、底部の切り離しは不鮮明ながら回転糸切りとみられる。

このほか、住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器環・甕が出土した。甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にケズリ調整またはハケメ調整を施すものがある。

【SI224 竪穴住居跡】（第 104 図）

〔位置〕 5 区西部／南向き緩斜面／未精査

〔重複〕 SI224 → SI225・SI244

〔規模・形状〕 長軸 4.80m 以上、短軸 3.00m 以上／方形

〔方向〕 東辺：N-3.3° E

〔施設〕 未精査のため住居内の施設等については不明。

〔出土遺物〕 住居内堆積土・遺構確認面より土師器環・甕が出土した。坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ調整を施す。

【SI225 竪穴住居跡】（第 133-136 図、写真図版 35・44・66）

〔位置〕 5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕 SI224・SI226・SI231・SB277 → SI225 → SI218・SI244・SB247

〔規模・形状〕 長軸 4.86m、短軸 3.82m／方形

〔方向〕 東辺：N-10° E

〔壁面〕 地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大 34cm である。

〔床面・堆積土〕 地山および住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。なお、床面直上に地山ブロックを含む黒色シルトが薄く堆積し、床面機能時の堆積土と考えられる。これを覆う堆積土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色シルトで、住居廃絶以降の自然堆積土と考えられる。

〔支柱穴〕 なし

〔壁柱穴〕 住居壁沿いに 14 か所（P1~P14）確認した。東西・南北のほぼ対応する位置に配置されている。平面形は長軸 10~26cm、短軸 8~14cm で住居内外方向に長軸を持つ楕円形または略円形を呈する。住居床面からの深さは 9~38cm である。

〔周溝・壁材〕 カマドが付設される住居北辺中央東寄り周辺を除く住居壁面に沿って壁材痕跡を確認した。上幅 4~20cm、底幅 2~10cm、深さ 6~9cm で、横断面形は U 字形を呈する。堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、住居北西部の一部で幅 12cm の壁材掘方を確認した。

〔カマド〕 住居北辺東寄りに付設する。燃烧部・煙道が残存する。燃烧部は幅 90cm、奥行 82cm で、焚口幅は 45cm である。燃烧部底面は幅 45cm、奥行 62cm で、床面より 3cm ほど皿状に窪む。側壁は長さ 30~42cm、幅 15~32cm、残存高 23cm である。奥壁は住居北壁に一致する。側壁構築土は白色粘土ブロックを主体とする暗褐色シルトを用いている。

〔貯蔵穴〕 カマド右側の住居北東隅で土坑 1 基（K1）を確認した。平面形が長軸 80cm、短軸 73cm の隅丸方形を呈し、断面形は深さ 24cm の U 字形を呈する。堆積土は 2 層に細分され、1 層は均質な黒色シルト、2 層は地山ブロック、炭化物粒、焼骨片、灰を含む黒褐色シルトで、1 層は自然堆積土、2 層は人為的埋土と考えられる。

〔床下土坑〕 住居北西部の住居掘方底面で重複する土坑 2 基（K3 → K2）、中央部で 1 基（K4）を確認した。K2 は平面形が長軸 85cm、短軸 59cm の隅丸長方形を呈し、断面形は深さ 32cm の不整形を呈する。堆積土は地山ブロック・粒を多く含む黒褐色シルトで、人為

的埋土と考えられる。K3は平面形が長軸48cm、短軸39cmの楕円形を呈し、断面形は高さ27cmの箱形を呈する。堆積土は地山ブロック・粒を多く含む黒褐色・灰褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。K4は平面形が長軸72cm、短軸65cmの不整隅丸方形を呈し、断面形は高さ26cmの逆台形を呈する。堆積土は地山ブロックを多く含むオリブ黒色粘質シルトである。人為的埋土と考えられ、住居掘方埋土と類似している。〔暗渠溝〕住居掘方底面で溝一条(D1)を確認した。床下土坑K2と一部重複する(D1→K2)。住居北辺西側から南東隅に向かって概ね直線的に5.1m延びる。上幅23-43cm、底幅12-18cm、高さ9-15cmで横断面形がU字形を呈する。底面は南東へ向かって傾斜する。堆積土は地山ブロックを多く含む黒褐色・灰黄色シルト～粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。堆積土の状況から、床面と平坦に埋め戻された暗渠と考えられる。

〔外延溝〕住居南東隅でD1と接続して住居外へ延びる溝跡(D2)を確認した。D1の延長上から弧を描くように南へ8.16m以上延びている。上幅19-36cm、底幅8-18cm、高さ9-15cmで、横断面形はU字形を呈する。底面は住居内のD1より10cm程度低く、凹凸が見られる。また、住居南東隅から75cm以上が地山をトンネル状に掘り抜いており、横断面形は直径20-22cmの略円形を呈する。堆積土は白色粘土ブロック・粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕床面より土師器環(第135図3-6)・壺(第136図9)・甕(第136図7)・甑(第136図8)、K1堆積土より土師器環(第135図1)、K2堆積土より土師器環(第135図2)が出土した。

土師器環は内面に黒色処理を施す有段丸底環(第135図2・3)と黒色処理を施さない無段あるいは体部が屈曲する丸底環(第135図1・4-6)がある。第135図3は体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。外面の体部下位に段を持ち、口縁部にヨコナデ・底部にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ→黒色処理を施す。第135図2は体部が内湾し口縁部が直線的に外傾する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、口縁部にヨコナデ・体部～底部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、内面にヘラミガキ→黒色処理を施す。第135図1は体部が内湾し口縁部が内湾気味に外傾する。外面の体部と口縁部の境に屈曲を持ち、口縁部にヨコナデ・体部～底部にヘラケズリ調整、内面にヨコナデ→ヘラミガキ調整を施す。第135図4は平底気味の

丸底で体部が内湾し口縁部が外反する。外面の口縁部にヨコナデ・体部下位～底部にヘラケズリ調整、内面にナデ→ヨコナデ調整を施す。第135図5は体部が内湾し口縁部が外反する。外面の口縁部にヨコナデ→体部～底部にヘラケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ→体部～底部にヘラナデ→ヘラミガキ調整を施す。第135図6は平底気味の丸底で体部が内湾気味に立ち上がり口縁部がそのまま外傾する。外面の口縁部にヨコナデ→体部～底部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、内面の口縁部にヨコナデ・体部にヘラミガキ調整を施す。壺(第136図9)は平底で胴部に丸みを持つ。外面の胴部にナデ→ヘラケズリ調整、外底面に木葉痕→ケズリ調整、内面にヘラナデ調整を施す。甕(第136図7)は胴部中位に最大径を持ち、長胴形を呈する。外面の頸部に段を持たず、胴部にヘラナデ→口縁部にヨコナデ・胴部下位にヘラケズリ調整、内面の口縁部にヨコナデ→胴部にヘラナデ調整を施す。甑(第136図8)は胴部が内湾気味に外傾し、口縁部が外反する。外面の口縁部と胴部の境に段を持ち、口縁部にヨコナデ調整、内面の口縁部にヨコナデ・胴部にナデ→ヘラミガキ調整を施す。

このほか、床面・カマド崩落土・周溝内堆積土・P4柱穴堆積土・D2堆積土・K1・K2堆積土・住居内堆積土より土師器環・甕が出土した。

【SI226 竪穴住居跡】(第137図、写真図版42・65)

〔位置〕5区西部/南向緩斜面

〔重複〕SI226→SI225・SK274

〔規模・形状〕長軸2.50m以上、短軸2.08m以上/方形?

〔方向〕カマド中軸線:N-87.8°-E

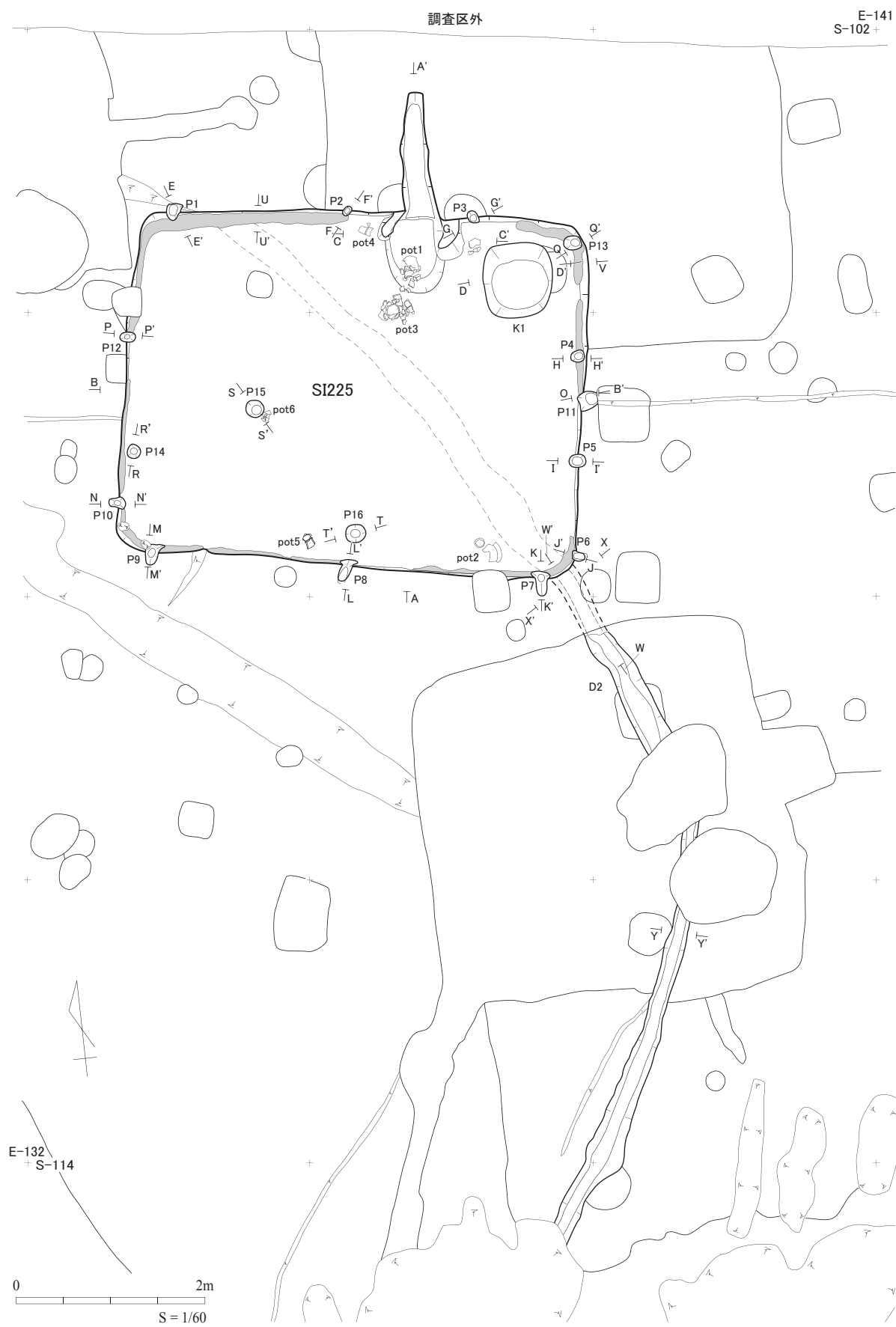
〔壁面〕東辺の一部のみ残存する。地山を壁としてほぼ垂直に立ち上がり、残存壁高は最大10cmである。

〔床面・堆積土〕一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

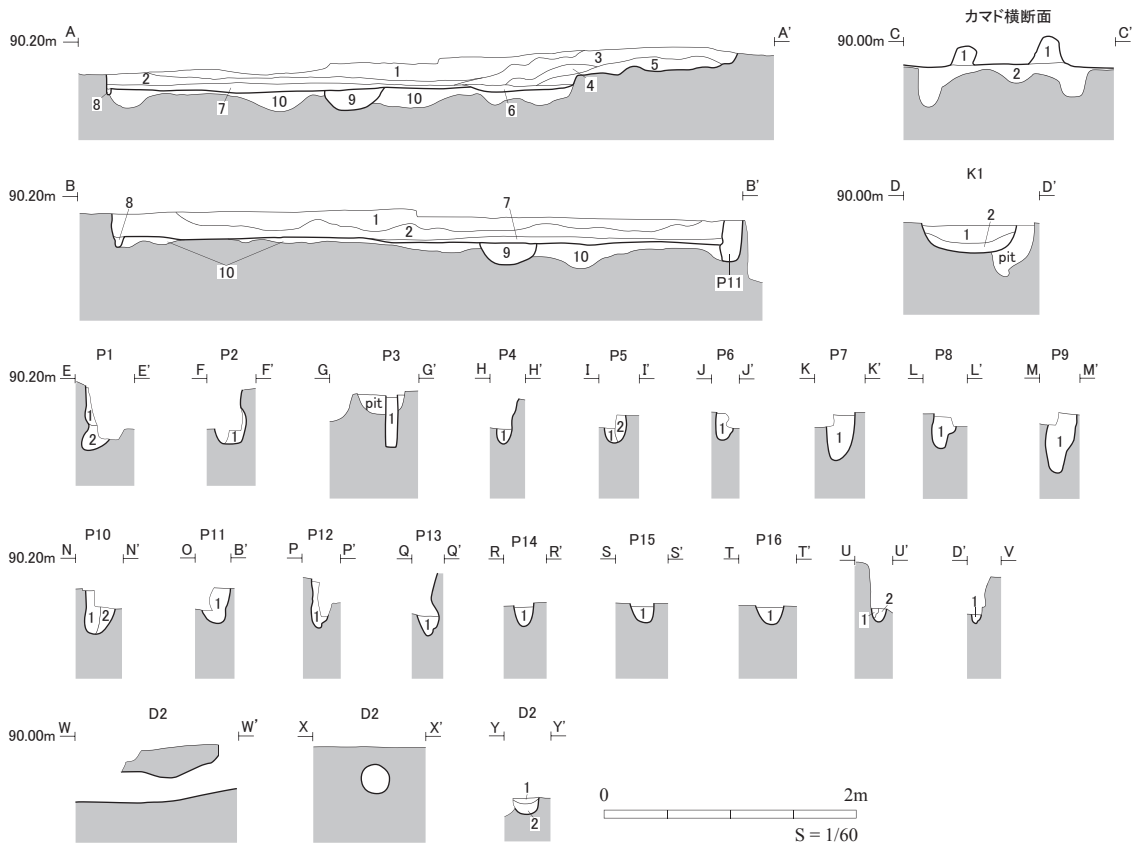
〔主柱穴〕不明

〔周溝・壁材〕不明

〔カマド〕住居東辺に付設する。燃焼部・煙道・煙出しピットが残存する。燃焼部は幅91cm、奥行50cmで、焚口幅は43cmである。燃焼部底面は幅45cm、奥行50cmで、赤色硬化面が形成されている。床面からほぼ平坦である。側壁は長さ52-54cm、幅19-24cm、残存高12cmである。奥壁は住居東壁と一致する。側壁構築土は白色粘土ブロックを主体とする褐灰色シルトを用いている。煙道は燃焼部奥壁



第133図 SI225 竪穴住居跡 (1)



SI225 竪穴住居跡 A-A',B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む (住堆)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (住堆)
3	10YR4/1 褐灰	シルト	粘土ブロックを多量に含む (竈崩)
4	5YR3/6 暗赤褐	シルト	灰・粘土ブロックを含む (竈崩)
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・焼土粒・灰を含む (煙道機能時堆)
6	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・焼土粒・灰・焼骨片を含む (竈堆)
7	2.5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック粒を含む (住居機能時堆)
8	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック粒を含む (壁材痕)
9	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (D1①1層対応)
10	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘・カマド横断面2層対応)

SI225 竪穴住居跡 P7 K-K'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む

SI225 竪穴住居跡 P8 L-L'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI225 竪穴住居跡 P9 M-M'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

SI225 竪穴住居跡 P10 N-N'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む (柱痕)
2	2.5Y3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱掘)

SI225 竪穴住居跡 P11 O-O'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む

SI225 竪穴住居跡 P12 P-P'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI225 竪穴住居跡 P13 Q-Q'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SI225 竪穴住居跡 P14 R-R'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SI225 竪穴住居跡 P15 S-S'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SI225 竪穴住居跡 P16 T-T'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI225 竪穴住居跡周溝 U-U'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	7.5GY2/1 緑黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SI225 竪穴住居跡周溝 D'-V'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む

SI225 竪穴住居跡 D2 Y-Y'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)

SI225 竪穴住居跡カマド横断面 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/1 褐灰	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (竈構)
2	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘・主断面10層対応)

SI225 竪穴住居跡 K1 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む (人為)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	灰を多量に含む 黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む 上部に焼骨片を含む (人為)

SI225 竪穴住居跡 P1 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	層上部に黄褐色ローム粒を多量に含む
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SI225 竪穴住居跡 P2 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む

SI225 竪穴住居跡 P3 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む

SI225 竪穴住居跡 P4 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む

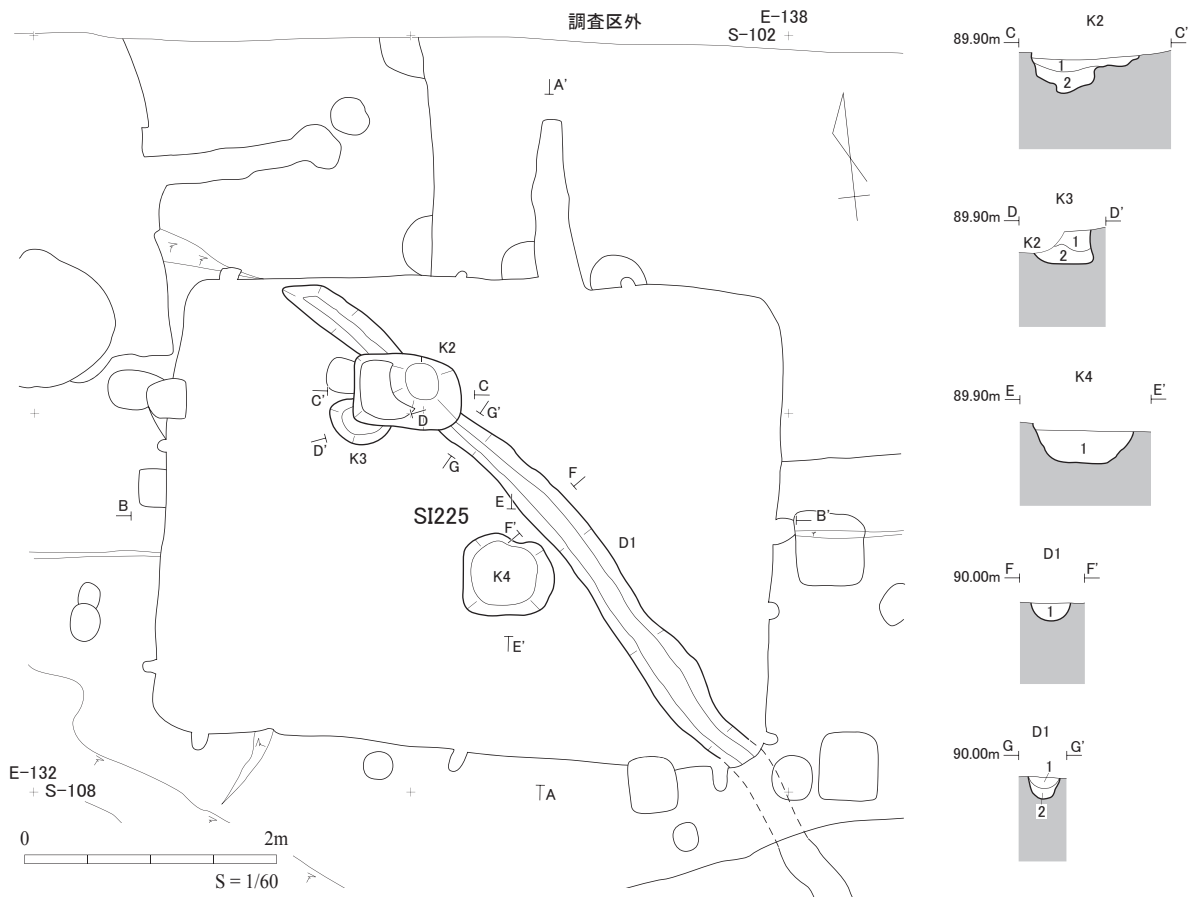
SI225 竪穴住居跡 P5 I-I'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SI225 竪穴住居跡 P6 J-J'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む

第134図 SI225 竪穴住居跡 (2)



SI225 竪穴住居跡 K2 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (人為)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SI225 竪穴住居跡 K3 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (人為)
2	10YR4/1 褐灰	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SI225 竪穴住居跡 K4 E-E'

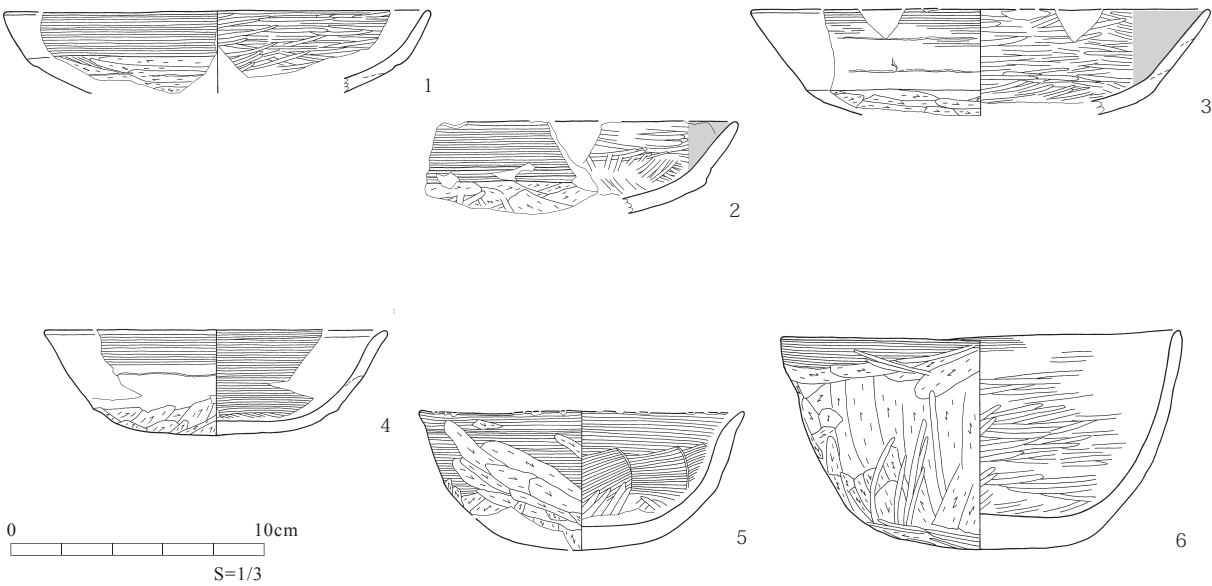
No.	土色	土性	備考
1	7.5Y2/2 オリーブ黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)

SI225 竪穴住居跡 D1 F-F'

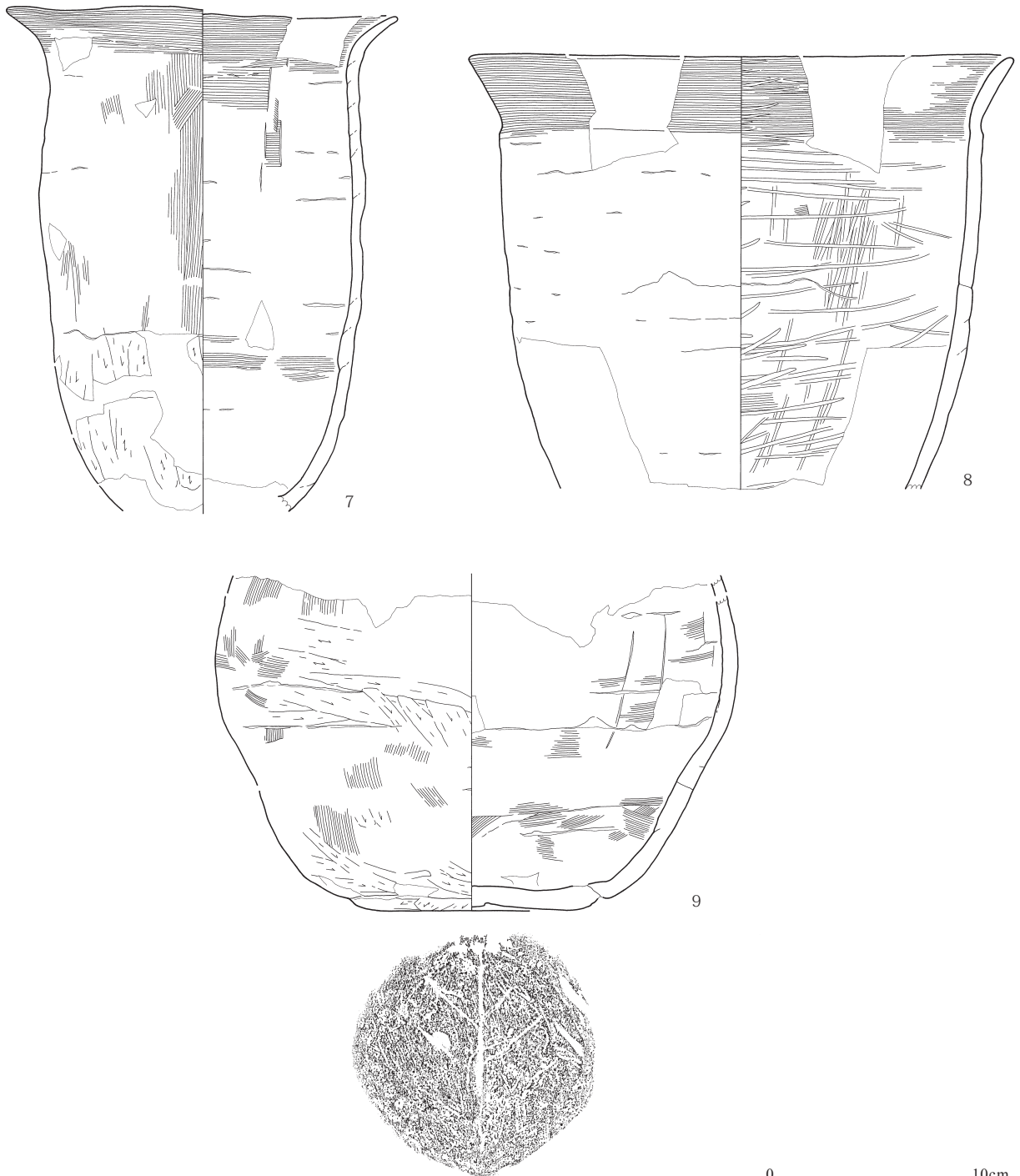
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住居主断面9層対応)

SI225 竪穴住居跡 D1 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む
2	7.5Y6/1 灰	シルト	黒褐色土ブロックを少量含む (人為)



第135図 SI225 竪穴住居跡 (3), 出土遺物 (1)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI225	K1 堆積土	土師器	坏	内面：(口)ヨコナデ→(口~体)ヘラミガキ, 外面：(口)ヨコナデ, (体~底)ヘラケズリ, ※内面 5YR 6/6 橙色	(17.0)	-	(3.2)	1/8	113	66-1
2	SI225	K2 堆積土	土師器	坏	内面：横方向ヘラミガキ→(底)縦方向ヘラミガキ→黒色処理, 外面：(口)ヨコナデ, (体~底)ヘラケズリ→ヘラミガキ	-	-	(3.6)	一部	112	66-2
3	SI225	床面直上 Pot.6	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理, 外面：(口)ヨコナデ, (底)ヘラケズリ	(18.2)	-	(4.2)	一部	111	66-3
4	SI225	床面直上	土師器	坏	内面：(体~底)ナデ→(口)ヨコナデ, 外面：(口)ヨコナデ, (体~底)ヘラケズリ	(13.6)	(8.3)	4.2	1/3	114	66-4
5	SI225	床面直上	土師器	坏	内面：(口)ヨコナデ→(体~底)ヘラナデ→ヘラミガキ, 外面：(口)ヨコナデ→(体~底)ヘラケズリ	(12.9)	-	5.6	1/2	115	66-5
6	SI225	床面直上	土師器	坏	内面：(口)ヨコナデ, (体)ヘラミガキ, 外面：(口)ヨコナデ→(体~底)ヘラケズリ→ヘラミガキ	15.9	-	8.4	2/3	116	66-7
7	SI225	床面直上 Pot.5	土師器	甕	内面：(口)ヨコナデ→(胴)ナデ・ヘラナデ, 外面：(胴)ヘラナデ→(口)ヨコナデ, (胴下)ケズリ, ※内外面：磨滅, 酸化鉄付着	18.6	-	(24.1)	4/5	117	66-9
8	SI225	床面直上 Pot.2	土師器	甕	内面：(口)ヨコナデ・(胴)ナデ→ヘラミガキ, 外面：(口)ヨコナデ	(26.0)	-	(25.0)	一部	126	66-6
9	SI225	床面直上 Pot.3	土師器	壺	内面：ヘラナデ, 外面：ナデ→ヘラケズリ, (底)木葉痕→ケズリ	-	11.3	(15.9)	一部	127	66-8

第136図 SI225 竪穴住居跡出土遺物 (2)

から1.2m延び、先端部に煙出しピットが位置する。煙道底面は中ほどまで緩やかに立ち上がり、やや凹凸を持ちながら先端側は煙出しピットに向かって傾斜する。煙出しピットの底面は煙道先端部の底面より約18cm深い。

〔貯蔵穴〕不明

〔出土遺物〕カマド崩落土よりロクロ土師器小型甕（第137図1）が出土した。胴部中位に最大径を持ち、回転糸切りによる底部の切り離し後は再調整を施さない。

このほか、カマド崩落土・住居内堆積土・住居掘方埋土より土師器環・甕、ロクロ土師器高台付坏が出土した。土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。ロクロ土師器高台付坏は回転糸切りによる底部の切り離し後に高台部付加→ロクロナデ調整を施す。

【SI227 竪穴住居跡】（第104図）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕長軸6.50m以上、短軸3.50m以上／方形？

〔方向〕不明

〔残存状況〕住居掘方埋土のみ残存する。

〔出土遺物〕住居内堆積土・遺構確認面より土師器環・甕が出土した。土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

【SI228 竪穴住居跡】（第138図、写真図版34・65）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI220a・SI220b → SI228 → SI217・SI229・SB262・SD234

〔規模・形状〕長軸3.12m、短軸1.72m以上／方形？

〔方向〕西辺：N-4°-W

〔残存状況〕住居掘方埋土のみ残存する。

〔出土遺物〕遺構確認面・住居掘方埋土より土師器環・甕が出土した。土師器環は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面にハケメ調整を施す。

【SI229 竪穴住居跡】（第138図、写真図版67）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI220a・SI220b・SI228・SI230 → SI229 → SB262・SB275・SD234

〔規模・形状〕長軸3.35m、短軸2.84m／方形

〔方向〕東辺：N-16°-E

〔残存状況〕住居掘方埋土のみ残存する。

〔出土遺物〕遺構確認面よりロクロ土師器環（第138図1）が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離しは回転糸切り→無調整である。

このほか、遺構確認面・住居掘方埋土より土師器環・

甕、ロクロ土師器高台付坏、須恵器小型品が出土した。土師器環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持ち、胴部にハケメ調整を施すものがある。須恵器小型品は内面に同心円文アテ具痕が見られる。

【SI230 竪穴住居跡】（第139図、写真図版34・43・67）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI230 → SI229・SB262・SB275・SA279・SD234

〔規模・形状〕長軸6.12m、短軸3.47m／長方形

〔方向〕西辺：N-5°-W

〔壁面〕地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大4cmである。

〔床面・堆積土〕住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は白色粘土粒を少量含む黒色粘質シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴・周溝・壁材・カマド・貯蔵穴〕なし

〔出土遺物〕床面より土師器甕（第139図1）・砥石（第139図2）、遺構確認面よりロクロ土師器環（第138図2）が出土した。

土師器甕（第139図1）は平底で外面にハケメ→ナデ調整、外底面にケズリ調整、内面に不鮮明ながらミガキ調整を施すとみられる。ロクロ土師器環（第138図2）は体部が内弯気味に立ち上がり、回転糸切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。内面にヘラミガキ→黒色処理を施す。砥石（第139図2）は凝灰岩製で角柱状を呈する。各側面を砥面とし、線状の研磨痕が認められる。一端を正面側からの衝撃により折損し、折損面にも線状の研磨痕が認められる。

このほか、住居内堆積土・遺構確認面・住居掘方埋土より土師器環・甕が出土した。環は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持つものと持たないものがあり、胴部にハケメ調整を施す。

【SI231 竪穴住居跡】（第140-141図、写真図版35・45・67）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI231 → SI218・SI225・SD273

〔規模・形状〕長軸5.28m、短軸4.66m／方形

〔方向〕東辺：N-6°-E

〔壁面〕住居北東隅周辺のみ残存する。地山を壁として床面から垂直に立ち上がる。残存壁高は最大15cmである。

〔床面・堆積土〕住居北東隅の一部のみ残存する。住居掘方埋土を床とし、ほぼ平坦である。床面を覆う堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトで、住居廃絶後の自然堆積土と考えられる。

〔主柱穴〕住居平面形の対角線上に4か所（P1-P4）

を確認した。掘方の平面形は長軸 40~56cm、短軸 36~50cm の略円形を呈する。深さは 50~70cm で、いずれも平面形が直径 16~18cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。また、P1-P3 の柱痕跡下部に柱材の一部が残存していた。

〔柱材寸法〕 3か所 (P1~3) で確認した。幅 20.0~20.1cm、厚さ 6.7~10.0cm、長さ 18.1~34.3cm の板状を呈する。いずれも割材で、木取りは柂目、柂目の芯持、板目の辺材がある。

〔周溝・壁材〕 なし

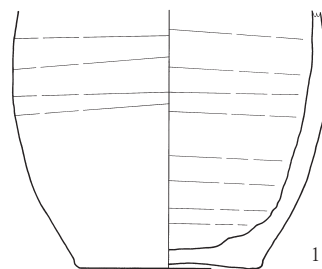
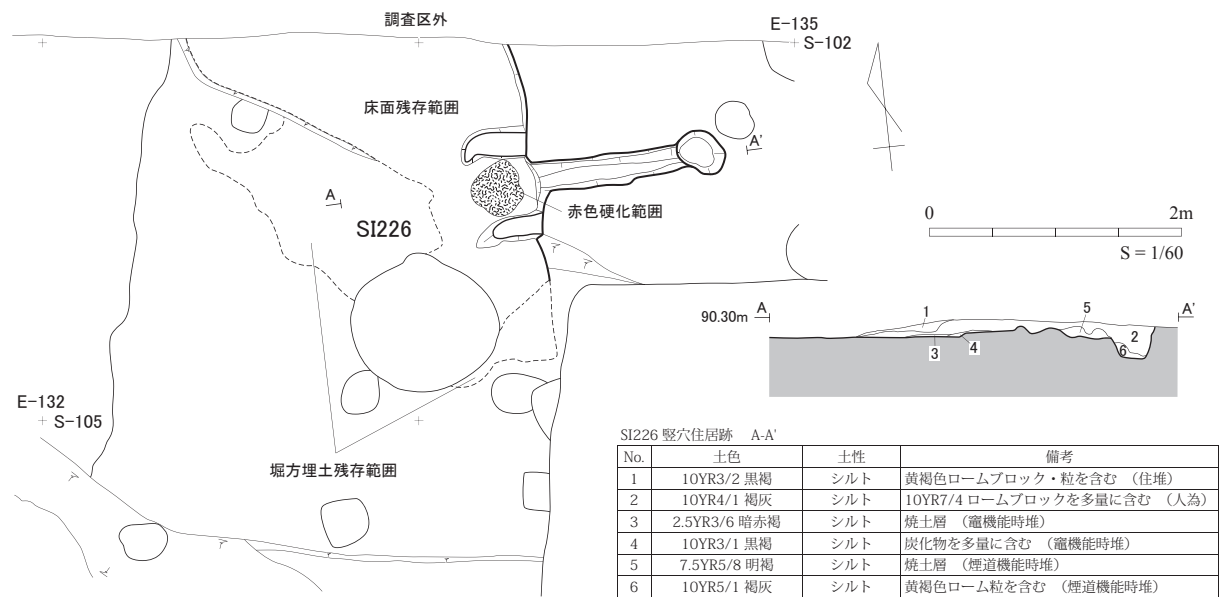
〔カマド・貯蔵穴〕 不明

〔床下土坑〕 住居南東隅で土坑 1 基 (K1) を確認した。

平面形は長軸 98cm、短軸 94cm の略円形を呈し、断面形は深さ 18cm の皿状を呈する。堆積土は白色粘土ブロックを多く含む黒褐色シルトで、人為的埋土と考えられる。また、住居掘方埋土と類似する。

〔その他の施設〕 住居東辺に沿って柱穴 2 基 (P5・P6) を確認した。平面形は長軸 90~74cm、短軸 36~44cm の不整楕円形を呈する。深さは 30~34cm で、P5 で平面形が直径 10cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。P6 は柱材が抜き取られたと見られる。

〔出土遺物〕 床面より土師器壺 (第 141 図 3)、P2 堆積土より土師器高坏 (第 141 図 1)、K1 堆積土より土師器甕 (第 141 図 2)、住居掘方埋土より土師器甕 (第



0 10cm
S=1/3

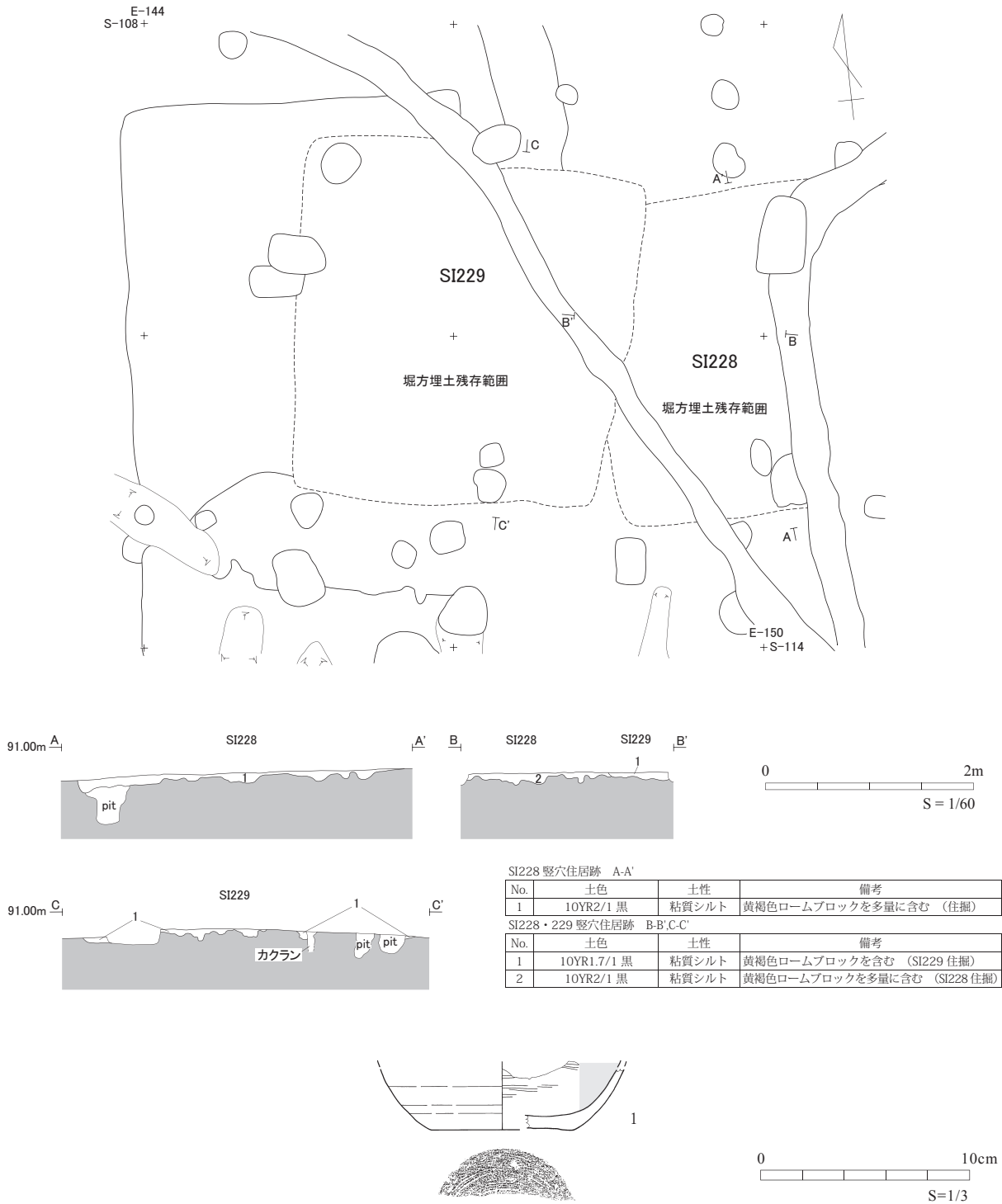
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI226	カマド崩落土	ロクロ土師器	小型甕	内外面：ロクロナデ、(底) 回転糸切り→無調整	-	(7.0)	(10.3)	一部	118	65-14

第 137 図 SI226 竪穴住居跡，出土遺物

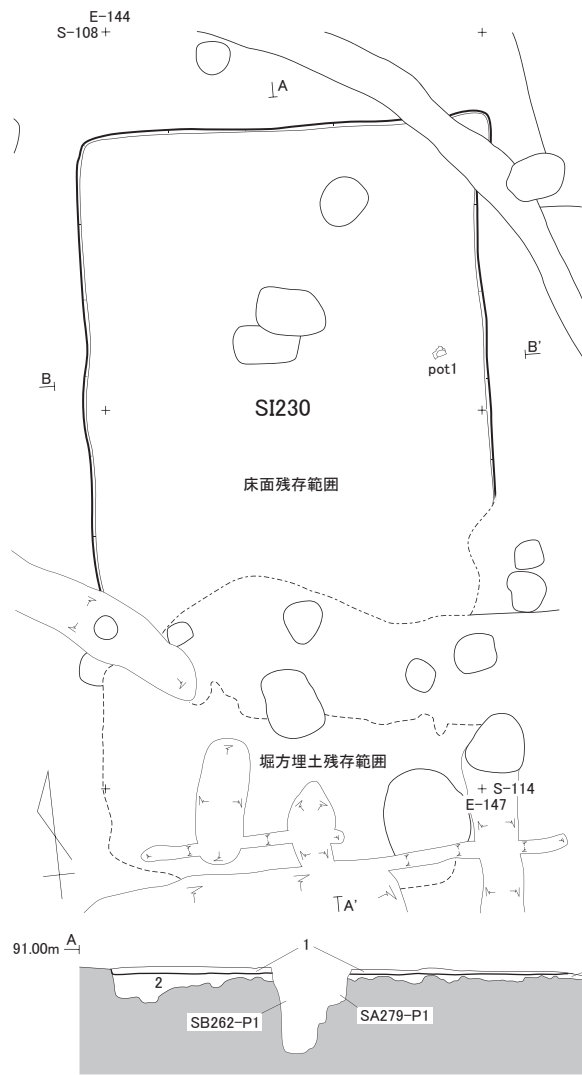
141 図 4) が出土した。

土師器高環 (第 141 図 1) は坏部の破片で、外面にヘラケズリ調整、内面にヘラミガキ→黒色処理を施す。壺 (第 141 図 3) は平底で胴部に丸みを持ち、胴部下位寄りに最大径を持つ。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ・胴下部～底部にヘラケズリ調整、

内面にヘラナデ調整を施す。甕 (第 141 図 2・4) はいずれも外面の頸部に痕跡的な段を持ち、胴部中位に最大径を持つ長胴形を呈する。第 141 図 2 は外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ調整、内面の胴部にヘラナデ→一部ハケメ→口縁部にヨコナデ調整を施す。第 141 図 4 は外面の胴部にハケメ→口縁部にヨ



第 138 図 SI228・229 甕穴住居跡, SI229 甕穴住居跡出土遺物



コナデ→胴部にヘラミガキ調整、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ調整を施す。

このほか、K1 堆積土・住居内堆積土・住居掘方埋土より土師器坏・甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外底面に木葉痕を持つものがある。

【SI244 竪穴住居跡】(第 142 図)

〔位置〕5区西部/南向緩斜面

〔重複〕SI224・SI225 → SI244 → SB247

〔規模・形状〕長軸 3.05m 以上、短軸 1.16m 以上/方形?

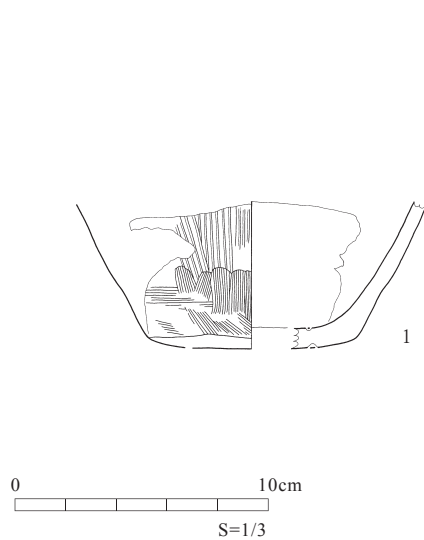
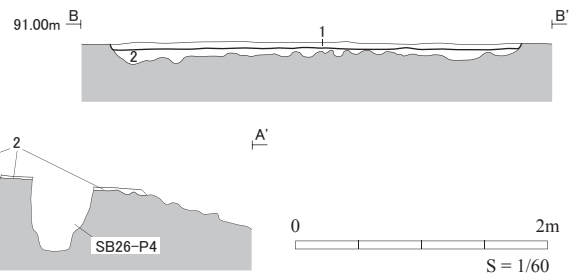
〔方向〕北辺: N-66° -W

〔残存状況〕住居掘方埋土のみ残存する。

〔出土遺物〕住居掘方埋土・遺構確認面より土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。土師器坏は有段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。

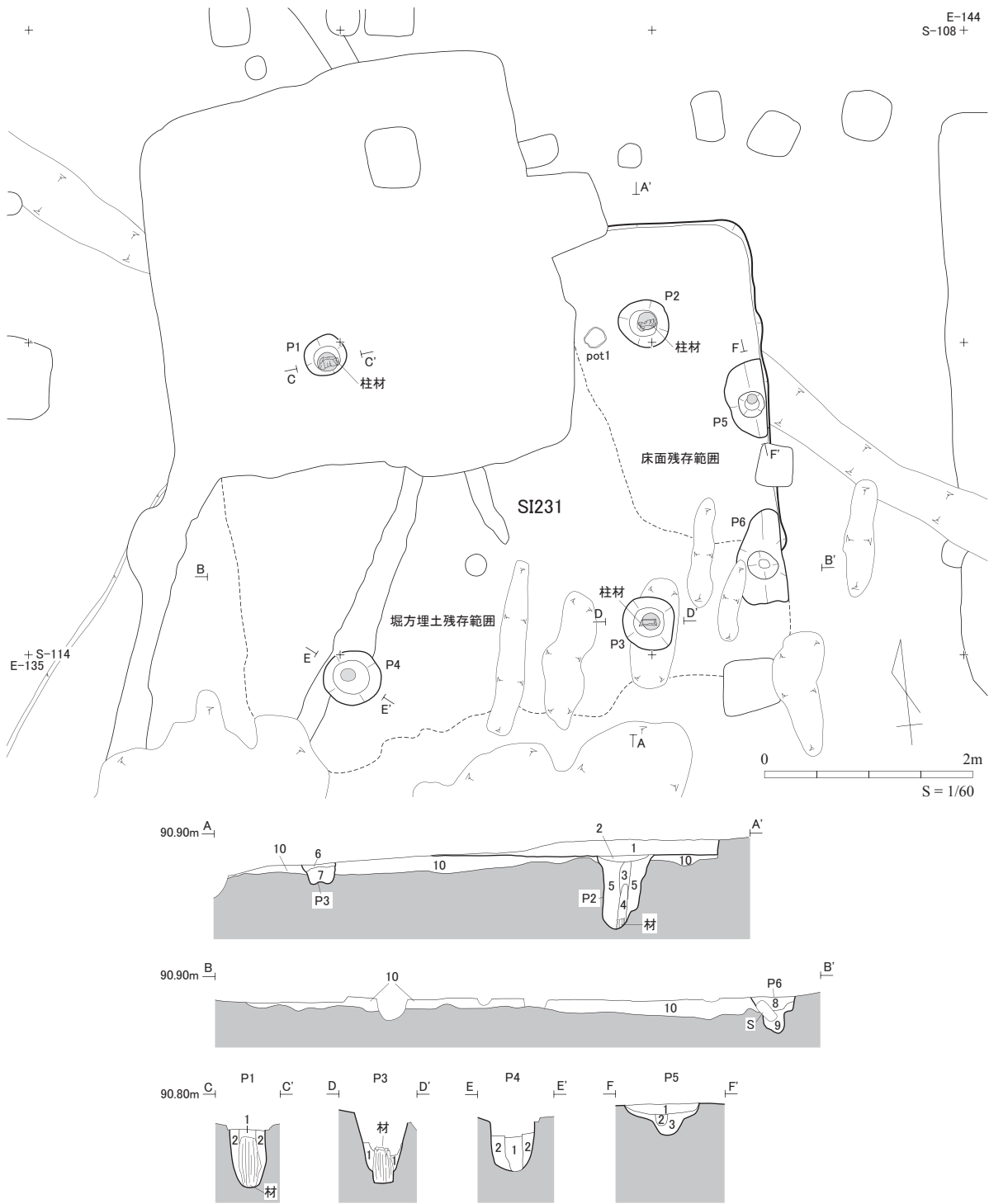
SI230 竪穴住居跡 A-A'・B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を少量含む (住堆)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (住掘)



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
						口径	底径	器高				
1	SI230	床面直上 Pot.1	土師器	甕	内面: ミガキ? 磨滅により不明, 外面: ハケメ→ナデ, (底) ケズリ		(8.3)	(5.8)	一部	121	67-8	
No.	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
2	SI230	床面直上	砥石	凝灰岩	砥面数 5, 下半部折損→研磨痕	110.1	66.8	43.9	367.0	一部欠	202	67-9

第 139 図 SI230 竪穴住居跡, 出土遺物



SI231 竪穴住居跡 A-A',B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む (住掘)
2	7.5YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を含む (P2 柱切)
3	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	白色粘土ブロック・黒色土を含む (P2 柱痕)
4	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を含む (P2 柱痕)
5	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (P2 柱掘)
6	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (P3 柱掘)
7	10YR1.7/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック主体 (P3 柱掘)
8	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を少量含む (P6 柱掘)
9	10YR1.7/1 黒	シルト	白色粘土粒を含む (P6 柱掘)
10	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (住掘)

SI231 竪穴住居跡 P1 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱痕)
2	7.5GY5/1 緑灰	粘質シルト	10YR3/1 の黒褐色土を含む (柱掘)

SI231 竪穴住居跡 P3 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック主体 (柱掘・住居断面7層対応)

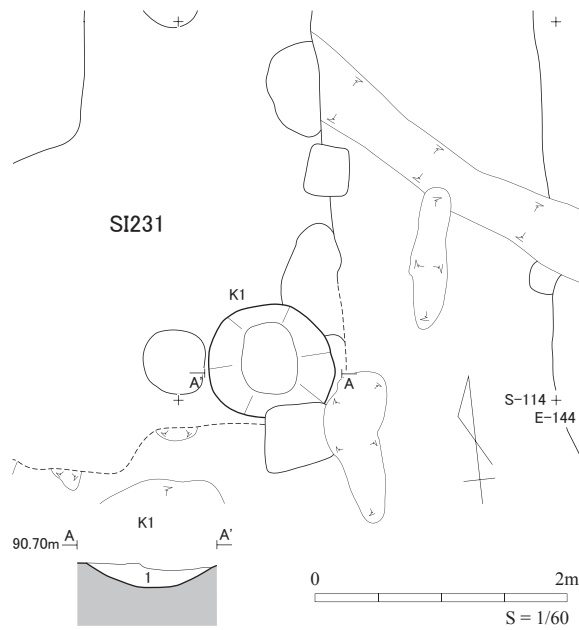
SI231 竪穴住居跡 P4 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック主体 (柱掘)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック主体 (柱掘)

SI231 竪穴住居跡 P5 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土 (柱痕)
3	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

第140図 SI231 竪穴住居跡 (1)



SI231 竪穴住居跡 K1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)

(2) 掘立柱建物跡

【SB247 掘立柱建物跡】(第143図、写真図版34・35・46)

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI218・SI225・SI244・SB275 → SB247 - SA254

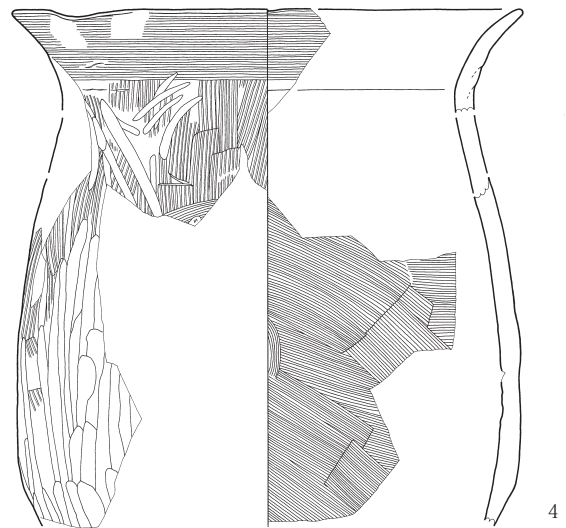
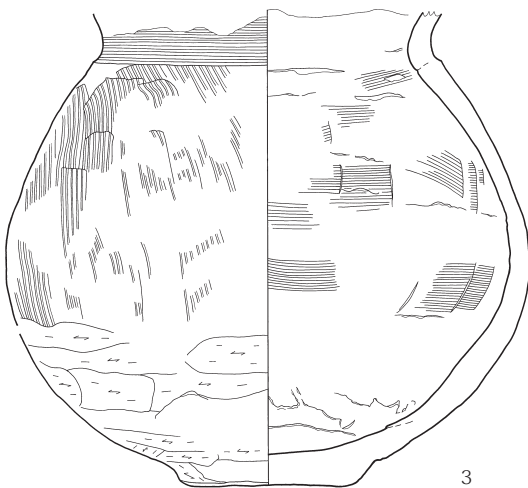
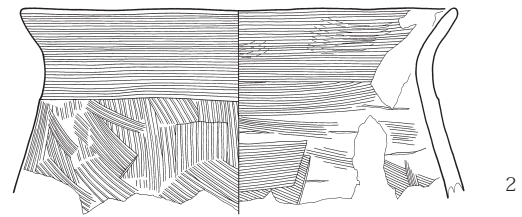
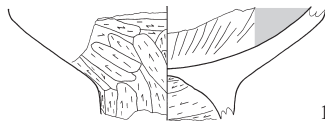
〔規模・形状〕東西2間(総長4.50m)・南北2間(総長3.20m)／東西棟側柱建物

〔方向〕東側柱列：N-1°-E

〔柱穴〕8か所確認した。東・西側柱列では掘方の平面形が長軸48~75cm、短軸44~52cmの隅丸方形を基調とし、深さ28~60cmである。南・北側柱列の内柱では掘方の平面形が長軸22cm、短軸20cmの略円形を呈し、深さ13~28cmである。掘方埋土は地山ブロックを多量に含む黒色・黒褐色・灰黄褐色粘質シルトである。5か所で柱材の抜き取り痕跡、4か所で平面形が直径12~30cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から(200)-240cm

西側柱列：北から(176)-144cm



0 10cm
S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SI231	P2 堆積土	土師器	高坏	内面：(坏) ヘラミガキ→黒色処理、(脚) ヘラケズリ、外面：ヘラケズリ	-	-	(4.5)	一部	122	67-4
2	SI231	K1 堆積土	土師器	甕	内面：(胴) ヘラナデ→一部ハケメ→(口) ヨコナデ、外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ	(17.3)	-	(8.1)	一部	123	67-5
3	SI231	床面直上 Pot.1	土師器	壺	内面：ヘラナデ、外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ・(胴下) ヘラケズリ、(底) ヘラケズリ	-	7.0	(18.9)	3/5	125	67-3
4	SI231	住居掘方埋土	土師器	甕	内面：(口) ヨコナデ、(胴) ヘラナデ、外面：(胴) ハケメ→(口) ヨコナデ→(胴) ヘラミガキ	(20.4)	-	(20.5)	一部	124	67-6

第141図 SI231 竪穴住居跡 (2), 出土遺物

〔出土遺物〕P2・P7 柱穴堆積土より土師器壺、ロクロ土師器甕が出土した。土師器壺は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

【SB256 掘立柱建物跡】(第144-145図、写真図版38・46・47・68)

〔位置〕5区東部/南向緩斜面

〔重複〕SI206・SB259 → SI205 - SK255

〔規模・形状〕東西4間(総長6.81m)・南北2間(総長5.07m) / 西・南柱列付属東西棟床束建物(建物西・南面にほぼ平行して各2間分の柱列が付属)

〔方向〕東側柱列：N-24° -E

〔柱穴〕建物で15か所(うち床束3か所)、柱列で6か所を確認した。建物の柱穴は、南・北側柱列の両端各1間分は2か所の掘方が連結し、長軸220~308cm、短軸52~92cmの布掘状を呈する。柱材の抜き取りが行なわれており平面形は不整な楕円形を呈するが、掘方は隅丸長方形を基調としている。深さは中央部で6~50cm、両端の柱位置で18~85cmである。中央部が浅く両端の柱位置が深いことから、あらかじめ溝状に掘り下げた後に柱位置周辺をさらに掘り下げたと考えられる。東・西側柱列中央の柱穴掘方は平面形が長軸102cm、短軸48~58cmの隅丸長方形を呈し、深さ50~55cmである。南・北側柱列中央の柱穴各1か所は平面形が長軸38~55cm、短軸30~38cmの楕円形を呈し、深さ8~12cmである。他の側柱と比較して規模が小さく、深さもごく浅い。床束の柱穴掘方は平面形が長軸52~64cm、短軸45~48cmの略円形を呈し、深さ20~28cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒色・黒褐色・黄褐色・明黄褐色粘質シルトなどである。12か所で柱材の抜き取り痕跡、9か所で平面形が直径16~42cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、1か所で柱痕跡下部に柱材の一部が残存していた。このほか、2か所の柱材抜き取り痕跡でそれぞれ柱材・礎板の一部とみられる木片が残存していた。付属柱列は建物西・南側柱列から0.80mの位置にそれぞれ平行して2間分を確認した。いずれも3か所の掘方が連結し、長軸121~145cm、短軸

20~44cmの隅丸長方形を基調とした布掘状を呈し、深さ30~48cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘質シルトなどである。4か所で柱材の抜き取り痕跡、3か所で平面形が13~23cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱材寸法〕2か所(P1・P3)で確認した。このうち、P3柱材は直径24.3cm、長さ28.3cmで、芯持材の丸柱である。

〔柱間寸法〕東側柱列：北から222-285cm

北側柱列：西から182-182-(182)-(135)cm

西側付属柱列：北から(96)-(112)cm

南側付属柱列：西から(106)-142cm

〔出土遺物〕南側付属柱列(P16~18)の柱穴掘方埋土より土師器壺(第145図1)が出土した。胴部に丸みを持ち外面の頸部に段を持つ。外面の胴部にハケメ→口縁部にヨコナデ調整、内面の胴部にヘラナデ・口縁部にヨコナデ→頸部にハケメ調整を施す。

このほか、P1・P5~7・P16~21 柱穴柱材抜き取り痕跡・P6 柱穴柱痕跡・P18 柱穴堆積土・P8 柱穴遺構確認面・P16~18 柱穴掘方埋土より土師器甕が出土した。

【SB259 掘立柱建物跡】(第143図、写真図版38・46・48)

〔位置〕5区東部/南向緩斜面

〔重複〕SI206 → SB259 → SB256 - SK255

〔規模・形状〕東西2間(総長4.6m)・南北2間(総長3.6m) / 東西棟側柱建物

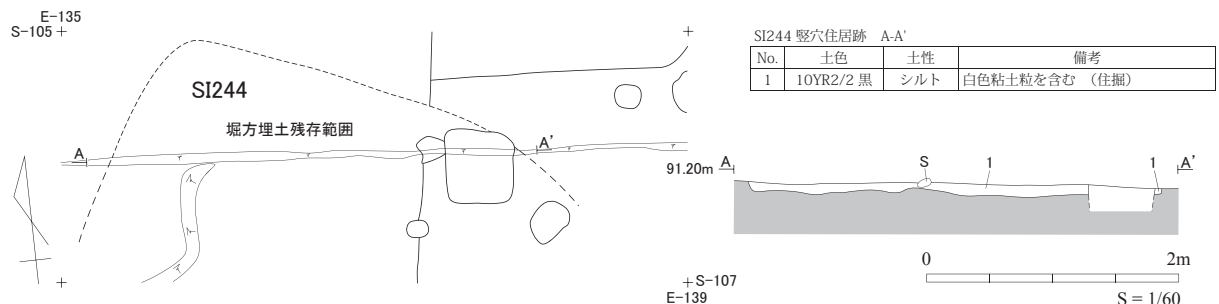
〔方向〕西側柱列：N-23° -E

〔柱穴〕6か所確認した。掘方の平面形は長軸40~76cm、短軸34~50cmの隅丸方形を基調とし、深さ34~50cmである。掘方埋土は地山ブロックを多量に含む黒褐色・黄褐色粘質シルトなどである。5か所で柱材の抜き取り痕跡、3か所で平面形が直径14~28cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。また、1か所の掘方底面で礎板を確認した。

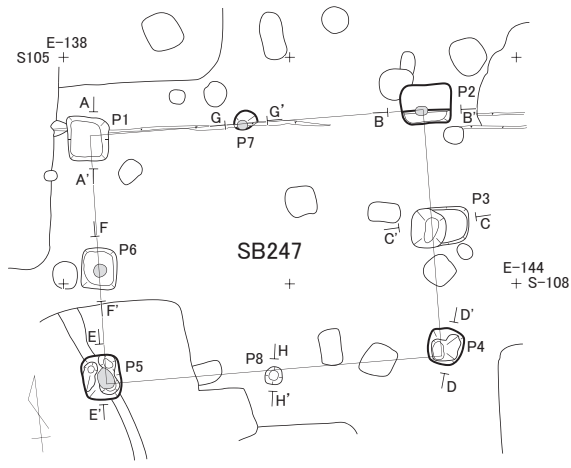
〔柱間寸法〕南側柱列：西から(244)-(216)cm

西側柱列：北から(174)-(186)cm

〔出土遺物〕P5・P8 堆積土・P5 柱痕跡より土師器



第142図 SI244 竪穴住居跡



SB247 掘立柱建物跡 P1 A-A'

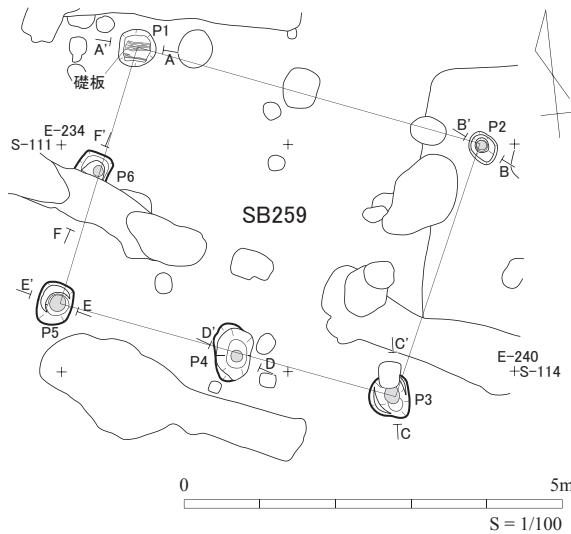
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱拔)

SB247 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB247 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱拔)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱拔)



SB259 掘立柱建物跡 P1 A-A'

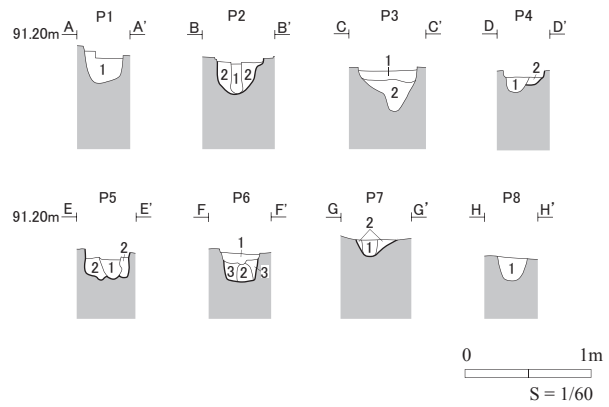
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱拔)
2	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (柱拔)
3	10YR5/4 にぶい黄褐	粘質土	白色粘土を極めて多量に含む (柱掘)

SB259 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロック・粒を含む (柱拔)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土を極々少量含む (柱痕)

SB259 掘立柱建物跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒・炭化物粒を含む (柱拔)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土粒を含む (柱拔)
3	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)



SB247 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を含む (柱拔)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘土	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB247 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
2	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB247 掘立柱建物跡 P6 F-F'

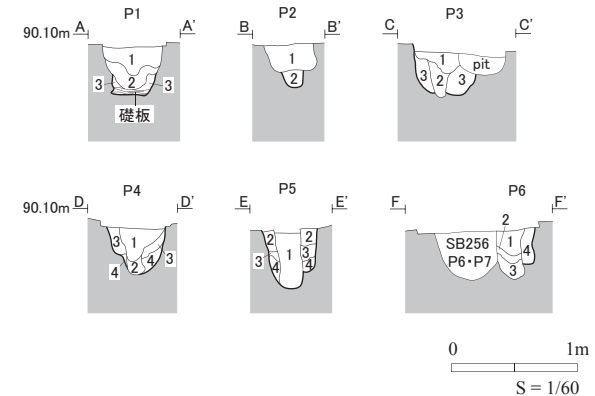
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱拔)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む (柱痕)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱掘)

SB247 掘立柱建物跡 P7 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SB247 掘立柱建物跡 P8 H-H'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む



SB259 掘立柱建物跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱拔)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 炭化物粒を含む (柱拔)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (柱掘)
4	10YR6/6 明黄褐	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱掘)

SB259 掘立柱建物跡 P5 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱痕)
2	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ロームブロック・炭化物粒を含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む 炭化物粒を少量含む (柱掘)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極少量含む (柱掘)

SB259 掘立柱建物跡 P6 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む 白色粘土粒・黄褐色ローム粒を含む (柱拔)
2	10YR4/4 褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱拔)
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱拔)
4	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ローム粒を含む (柱掘)

第143図 SB247・259 掘立柱建物跡

襖が出土した。外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

【SB262 掘立柱建物跡】(第146図、写真図版34・48)

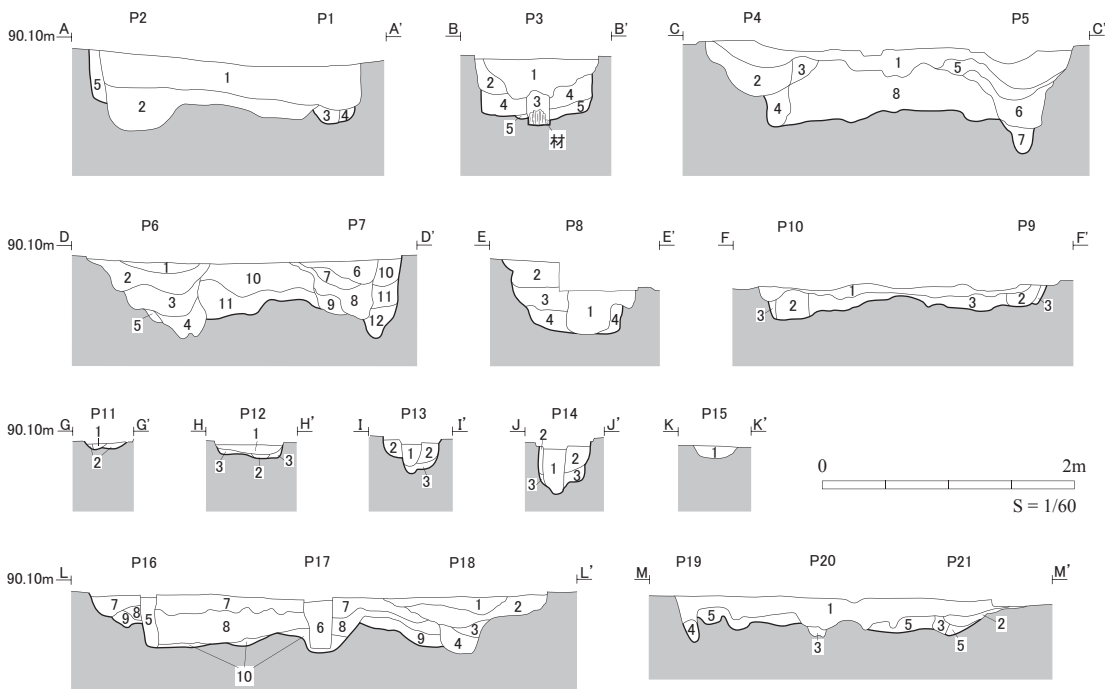
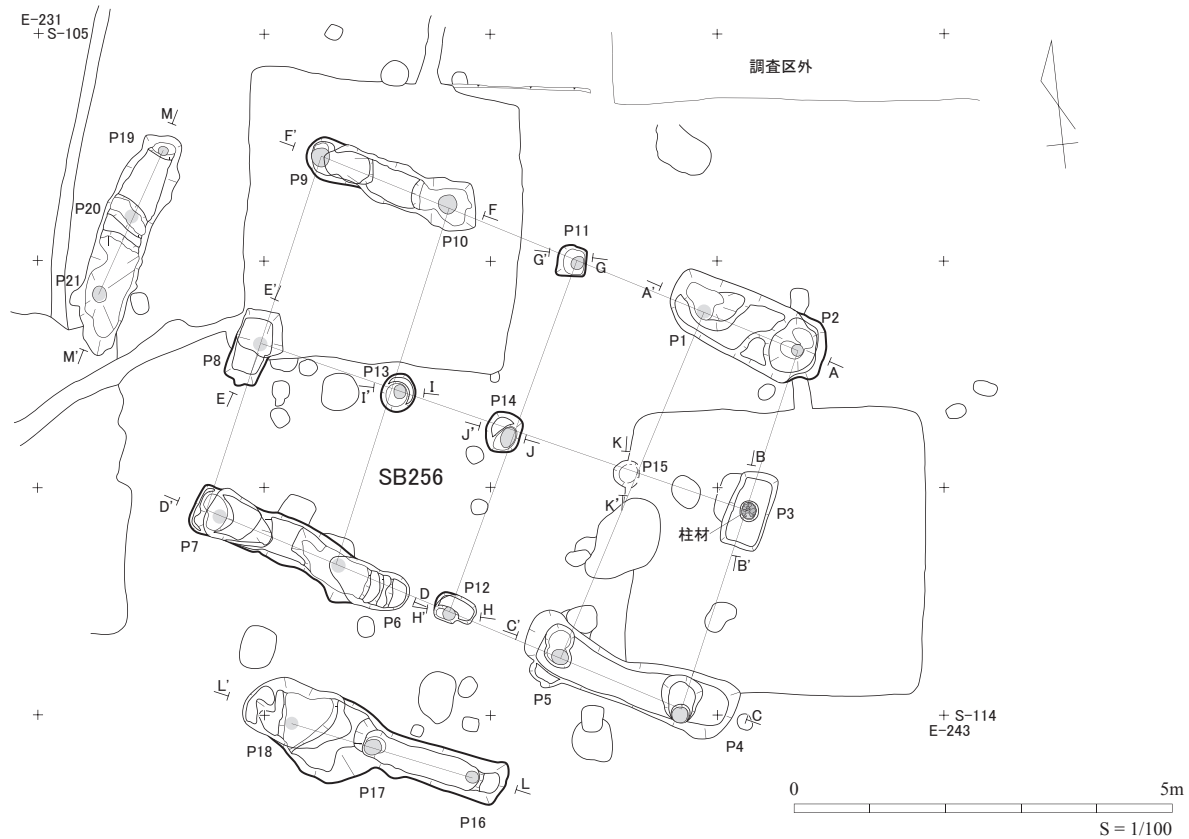
〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI220a・SI220b・SI228・SI229・SI230・SA279・SD234 → SB262

〔規模・形状〕東西1間(総長3.00m)、南北1間(総長3.00m)／側柱建物

〔方向〕西側柱列：N-5°-E

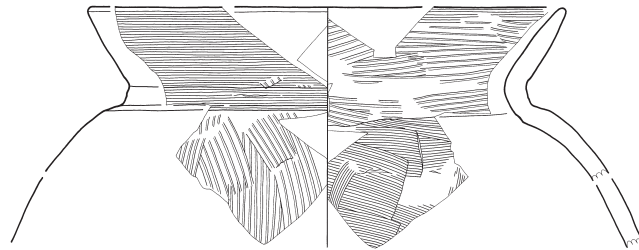
〔柱穴〕4か所確認した。掘方の平面形は長軸45-56cm、短軸28-40cmの隅丸方形を基調とし、深さ54-57cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む



第144図 SB256 掘立柱建物跡 (1)

黒褐色・緑灰色粘質シルトである。2か所で柱材の切り取り痕跡、4か所で平面形が直径14cmの円形または長軸22~34cm、短軸6~10cmの長楕円形を呈する柱痕跡を確認した。柱痕跡の下部には柱材の一部が残存し、いずれも掘方底面から8~24cm打ち込まれていた。
〔柱材寸法〕4か所（P1~4）で確認した。幅16.1~22.2cm、

厚さ5.0~7.4cm、長さ7.8~23.6cmの板状を呈する。いずれも割材で木取りは板目・柾目がある。
〔出土遺物〕P4柱穴堆積土よりロクロ土師器環が出土した。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。
【SB275掘立柱建物跡】（第146図、写真図版34・48）
〔位置〕5区西部／南向緩斜面



1 0 10cm
S=1/3

No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SB256	P16~18掘方埋土	土師器	壺	内面:(胴)ヘラナデ・(口)ヨコナデ→(頸)ハケメ、外面:(胴)ハケメ→(口)ヨコナデ	(19.0)	-	(9.5)	一部	145	68-7

SB256掘立柱建物跡 P1・P2 A-A' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	炭化物・白色粘土小ブロックを多量に含む (柱抜)
2	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む (柱抜)
3	10YR2/1 黒	シルト	均質土 (P1柱痕)
4	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (P1柱痕)
5	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (P2柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P3 B-B' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土小~大ブロックを含む炭化物粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (柱抜)
3	10YR3/1 黒褐	シルト	均質土 (柱痕)
4	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)
5	2.5Y3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P4・P5 C-C' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む (柱抜)
3	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
4	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
5	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
6	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む炭化物粒をごく少量含む (柱抜)
7	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)
8	10YR6/6 明黄褐	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P6・P7 D-D' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む炭化物粒を少量含む (柱抜)
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒・白色粘土ブロックを含む炭化物粒を少量含む (柱抜)
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
5	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
6	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
7	10YR6/4 にぶい黄橙	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱抜)
8	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を含む (柱抜)
9	10YR5/3 にぶい黄橙	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱抜)
10	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)
11	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱痕)
12	10YR6/3 にぶい黄橙	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P8 E-E' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土小ブロックを多量に含む (柱抜)
2	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土大ブロックを含む (柱痕)
3	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土小ブロックを少量含む (柱痕)
4	5Y4/2 灰オリーブ	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む砂を多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P9・P10 F-F' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む炭化物粒を含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む (柱痕)
3	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P11 G-G' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)
2	10YR6/8 明黄褐	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む黄褐色ロームブロックを少量含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P12 H-H' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱抜)
2	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土粒を少量含む (柱痕)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P13 I-I' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む (柱痕)
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む黄褐色ローム粒・炭化物粒を少量含む (柱痕)
3	10YR5/6 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P14 J-J' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む 黄褐色ローム粒・白色粘土粒・炭化物粒を極少量含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む炭化物粒をごく少量含む (柱痕)
3	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)

SB256掘立柱建物跡 P15 K-K' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む (柱抜)

SB256掘立柱建物跡 P16・P17・P18 L-L' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	白色粘土小ブロック・炭化物粒を多量に含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を含む (柱抜)
3	10YR2/1 黒	シルト	白色粘土小ブロック極少量含む (柱抜)
4	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土大ブロックを多量に含む (柱抜)
5	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土・炭化物粒を含む (柱痕)
6	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土小ブロック・炭化物粒を少量含む (柱痕)
7	10YR3/2 黒褐	シルト	白色粘土小ブロック・粒を含む (柱痕)
8	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒を含む (柱痕)
9	10YR4/3 にぶい黄橙	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱痕)
10	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱痕)

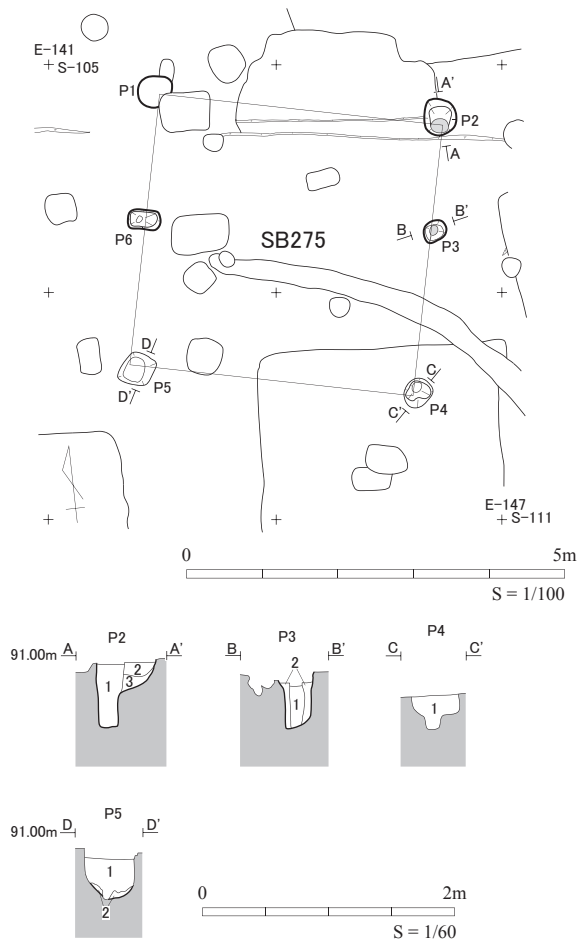
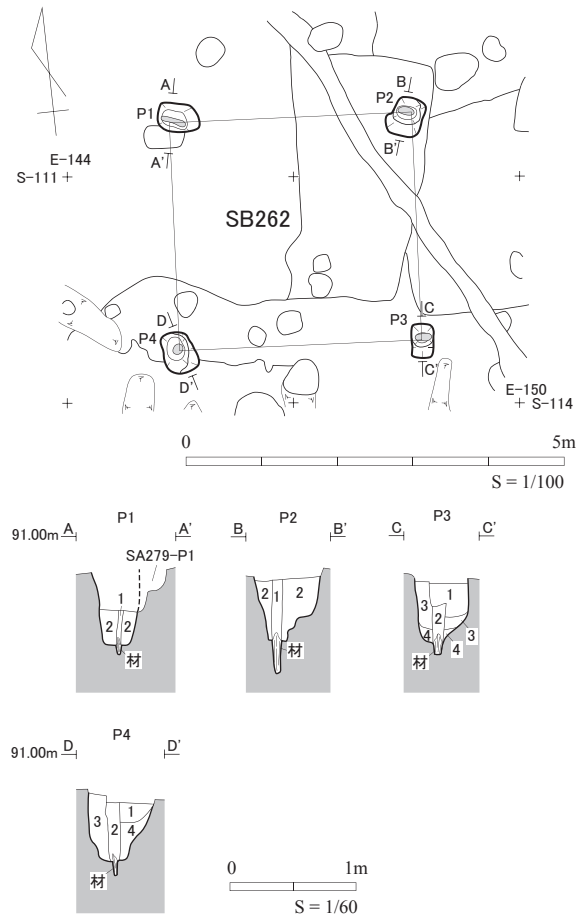
SB256掘立柱建物跡 P19・P20・P21 M-M' (第144図)

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む炭化物粒を少量含む (柱抜)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱抜)
3	10YR5/1 褐灰	粘土	白色粘土ブロックを極めて多量に含む (柱抜)
4	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (柱痕)
5	10YR5/4 にぶい黄橙	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む黄褐色ロームブロックを含む (柱痕)

第145図 SB256掘立柱建物跡(2), 出土遺物

〔重複〕 SI223・SI229・SI230 → SB275 → SB247 - SD234
 〔規模・形状〕 東西1間（総長3.85m）・南北2間（総長3.50m）／南北棟側柱建物
 〔方向〕 東側柱列：N-11° - E
 〔柱穴〕 6か所を確認し、このうち5か所を精査した。掘方の平面形は長軸34~48cm、短軸25~44cmの隅丸方形・楕円形を呈し、深さ28~52cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、黒色・黒褐色粘質シルトである。2か所で柱材の抜き取り痕跡、2か所で平面形が直径14~23cmの円形を呈する柱痕跡

を確認した。
 〔柱間寸法〕 東側柱列：北から140- (210) cm
 〔出土遺物〕 P1・P3・P5 柱穴堆積土・P2 柱穴掘方埋土より土師器坏・高台付坏・甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施す。
 【SB277 掘立柱建物跡】（第147図）
 〔位置〕 5区西部／南向緩斜面
 〔重複〕 SI219 → SB277 → SI225・SB277・SA278・SK253・SD242



SB262 掘立柱建物跡 P1 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（柱痕）
2	10GY5/1 緑灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）

SB262 掘立柱建物跡 P2 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロック少量含む（柱痕）
2	10GY4/1 暗緑灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む（柱掘）

SB262 掘立柱建物跡 P3 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を含む（柱切）
2	10GY4/1 暗緑灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む（柱痕）
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土（柱掘）
4	10GY4/1 暗緑灰	粘質シルト	白色粘土粒ブロックを多量に含む（柱掘）

SB262 掘立柱建物跡 P4 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む（柱切）
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	均質土（柱痕）
3	10GY4/1 暗緑灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む（柱掘）
4	10GY4/1 暗緑灰	粘質シルト	白色粘土粒を含む（柱掘）

SB275 掘立柱建物跡 P2 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	上層部に黄褐色ローム粒・下層部に黄褐色ロームブロックを含む（柱痕）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒・ブロックを含む（柱掘）
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む（柱掘）

SB275 掘立柱建物跡 P3 B-B'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	上層部に黄褐色ローム粒・下層部に黄褐色ロームブロックを含む（柱痕）
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む（柱掘）

SB275 掘立柱建物跡 P4 C-C'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロック・粒を少量含む（柱抜）

SB275 掘立柱建物跡 P5 D-D'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土粒を少量含む（柱抜）
2	10YR5/2 灰黄褐	粘土	黄褐色ローム粒を多量に含む（柱掘）

第146図 SB262・275 掘立柱建物跡

〔規模・形状〕東西3間(総長4.70m)・南北2間(総長4.88m)／東西棟総柱建物

〔方向〕北側柱列：E0°-W

〔柱穴〕9か所確認した。掘方の平面形は長軸28~42cm、短軸24~40cmの隅丸方形を基調とし、深さ16~49cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色・暗褐色・黄褐色粘質シルト、にぶい黄橙色粘土である。2か所で柱材の抜き取り痕跡、2か所で

平面形が直径12cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

〔柱間寸法〕北側柱列：西から(150)-(160)-(160)cm

東側1間目柱列：(244)-(244)cm

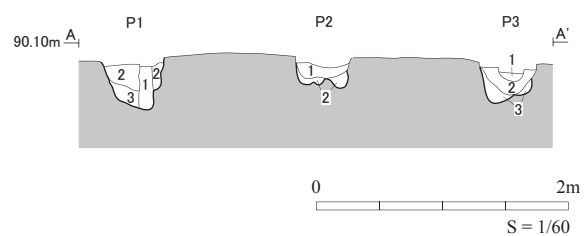
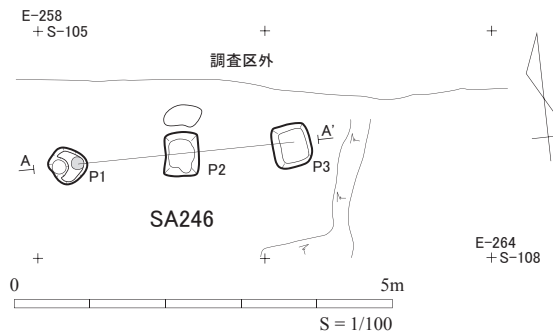
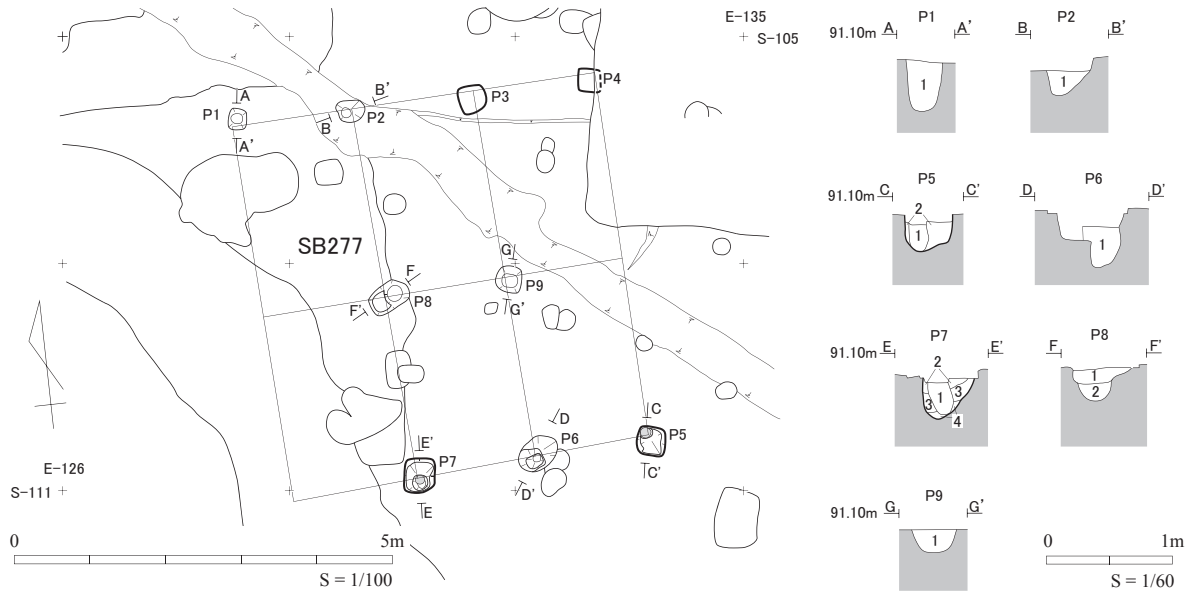
〔出土遺物〕なし

(3) 柱列跡

【SA246 柱列跡】(第147図、写真図版48)

〔位置〕5区東部／南向緩斜面

〔重複〕なし



SB277 掘立柱建物跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SB277 掘立柱建物跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SB277 掘立柱建物跡 P5 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒を多量に含む (柱掘)

SB277 掘立柱建物跡 P6 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む 炭化物粒を少量含む (柱拔)

SB277 掘立柱建物跡 P7 E-E'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土粒・炭化物粒を少量含む (柱痕)
2	10YR5/6 黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを含む (柱掘)
4	10YR7/4 にぶい黄橙	粘土	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SB277 掘立柱建物跡 P8 F-F'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む 白色粘土粒を少量含む (柱拔)
2	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱拔)

SB277 掘立柱建物跡 P9 G-G'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SA246 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	層下部に極少量の白色粘土粒を含む (柱痕)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (柱掘)
3	10YR3/3 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (柱掘)

SA246 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを極少量含む (柱拔)
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ロームブロックを含む (柱掘)

SA246 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを含む (柱拔)
2	10YR1.7/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む (柱拔)
3	10YR4/4 褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土ブロックをごく少量含む (柱掘)

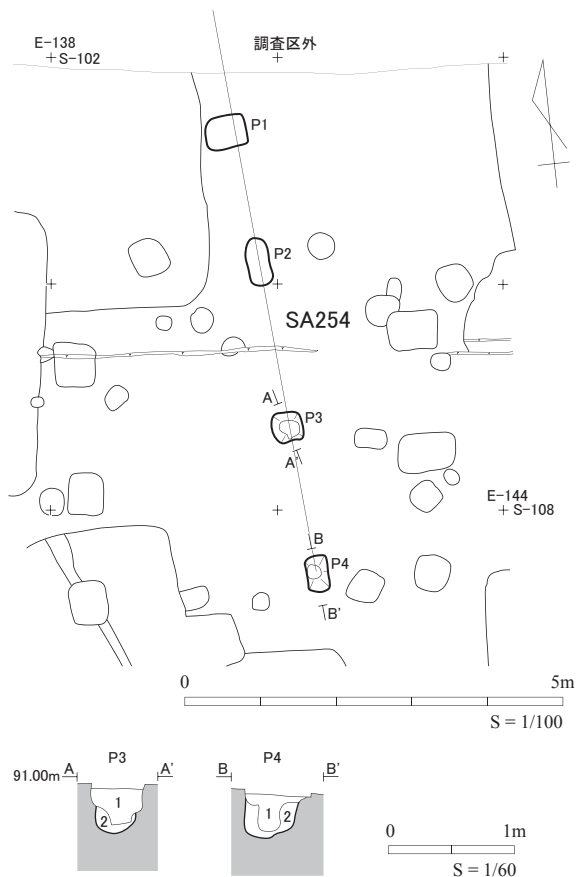
第147図 SB277 掘立柱建物跡, SA246 柱列跡

〔規模・形状〕東西2間（総長2.90m）
 〔方向〕E-0°-S
 〔柱穴〕3か所確認した。掘方の平面形は長軸46~58cm、短軸44~50cmの隅丸方形を呈し、深さ24~50cmである。掘方埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色・褐色シルト、暗褐色・にぶい黄褐色粘質シルトである。2か所で柱材の抜き取り痕跡、1か所で平面形が直径15cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。
 〔柱間寸法〕西から（140）-（150）cm
 〔出土遺物〕なし
〔SA254 柱列跡〕（第148図、写真図版49）
 〔位置〕5区西部／南向緩斜面
 〔重複〕SA254 - SB247
 〔規模・形状〕南北4間（総長6.00m）以上
 〔方向〕N-5°-W
 〔柱穴〕4か所確認し、このうち2か所を精査した。掘方の平面形は長軸40~48cm、短軸26~38cmの隅丸方形を基調とし、深さ38~40cmである。掘方埋土は

地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。2か所で柱材の抜き取り痕跡を確認した。
 〔柱間寸法〕北から（180）-（220）-（200）cm
 〔出土遺物〕P3柱穴掘方埋土より土師器片が出土した。外面にハケメ調整を施す。

（4）材木堀跡

〔SA235 材木堀跡〕（第151図、写真図版35-38・49・50）
 〔位置〕5区東部／南向緩斜面
 〔重複〕SA235 → SI209
 〔規模・形状〕東西方向に直線的に41.8m延び、東端で90°の角度で屈曲して北へ直線的に13.0m延びる。延長54.8mを確認し、調査区外の西・北側へ延びている。上幅35~42cm、底幅18~28cm、深さ10~80cmの布掘の掘方の中に、平面形が直径10~28cmの円形・楕円形を呈する柱痕跡を列状に確認した。掘方の横断面形はU字形を呈し、柱痕跡はその中央に位置する。柱痕跡は東辺で21か所、南辺で70か所の計91か所を確認し、このうち25か所（①~⑯・㉑~㉒）で下部に柱材の一部が残存していた。また、一か所（㉑）で掘方底面に板材が残存していた。柱痕跡は3~15cm

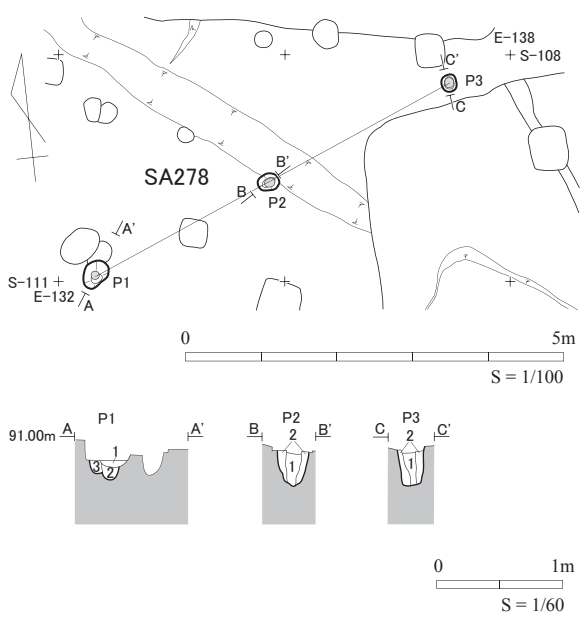


SA254 柱列跡 P3 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を含む（柱抜）
2	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）

SA254 柱列跡 P4 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（柱抜）
2	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）



SA278 柱列跡 P1 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を少量含む（柱抜）
2	10YR3/3 暗褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）
3	10YR3/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）

SA278 柱列跡 P2 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む（柱痕）
2	10YR3/4 暗褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 黄褐色ロームブロックを含む（柱掘）

SA278 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を含む（柱痕）
2	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）

第148図 SA254・278 柱列跡

間隔で連続する部分と、22~45cm 間隔となる部分がある。柱痕跡には掘方底面に達しないものがあり、間隔の開いている部分は削平によって柱痕跡が失われた可能性がある。掘方底面は階段状の凹凸が見られる。掘方埋土は下部が地山ブロックを主体とする黒褐色粘質シルト、上部が地山ブロックを含む黒色・暗褐色シルト、黒色粘質シルトなどである。

〔柱材寸法〕 25 か所で確認し、計測できたものは 23 点である。幅 4.3~21.0cm、厚さ 0.5~13.5cm、長さ 5.3~36cm の割材（芯去材） 22 点、直径 9.2cm、長さ 5.3cm の丸柱（芯持材） 1 点で、横断面形は円形・半円形・三角形・台形を呈するものがある。

〔方向〕 東辺：N-21° -E / 南辺：W-23° -N

〔出土遺物〕 遺構確認面・掘方埋土より土師器甕、須恵器甕が出土した。土師器甕は外面の胴部にハケメ調整を施すものがある。

(5) 井戸跡

【SE258 井戸跡】（第 150 図、写真図版 50・68）

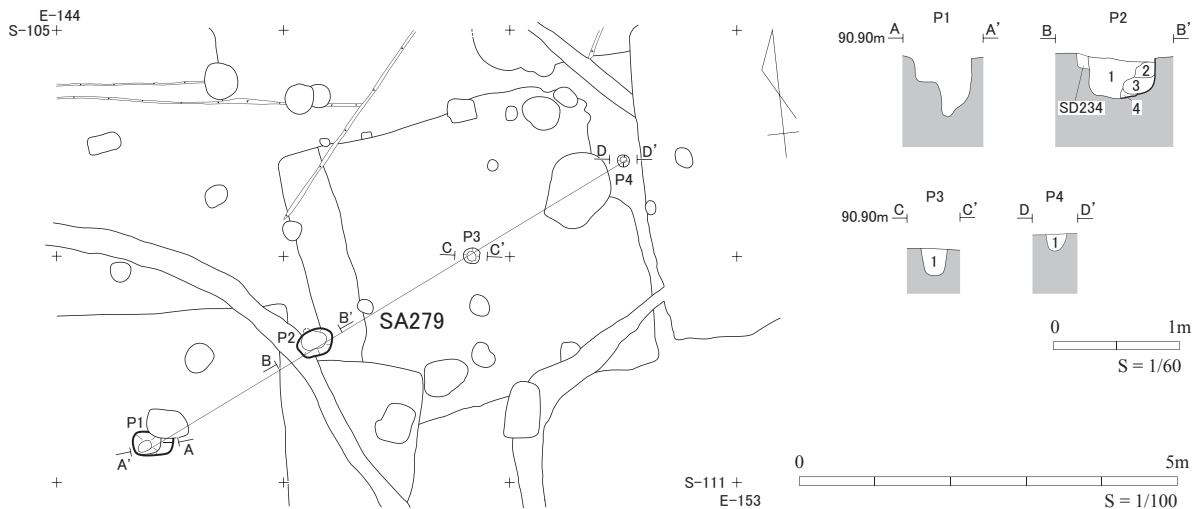
〔位置〕 5 区東部 / 南向緩斜面

〔重複〕 なし

〔規模・形状〕 平面形が長軸 148cm、短軸 144cm の隅丸方形を呈する掘方内の北辺に井戸側材の一部が残存していた。掘方の横断面形は深さ 109cm の逆台形を呈する。底面は長軸 64cm、短軸 52cm の不整楕円形を呈し、平坦である。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

〔堆積土〕 下部は均質な黒色シルト、上部は地山ブロックを少量含む黒褐色・暗褐色シルトで、井戸側抜き取り後の自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土 2 層よりロクロ土師器坏（第 150 図 1）、須恵器甕が出土した。体部がやや内弯気味に立ち上がり、口縁部はそのまま外傾する。内面にヘラ



SA279 柱列跡 P2 B-B'

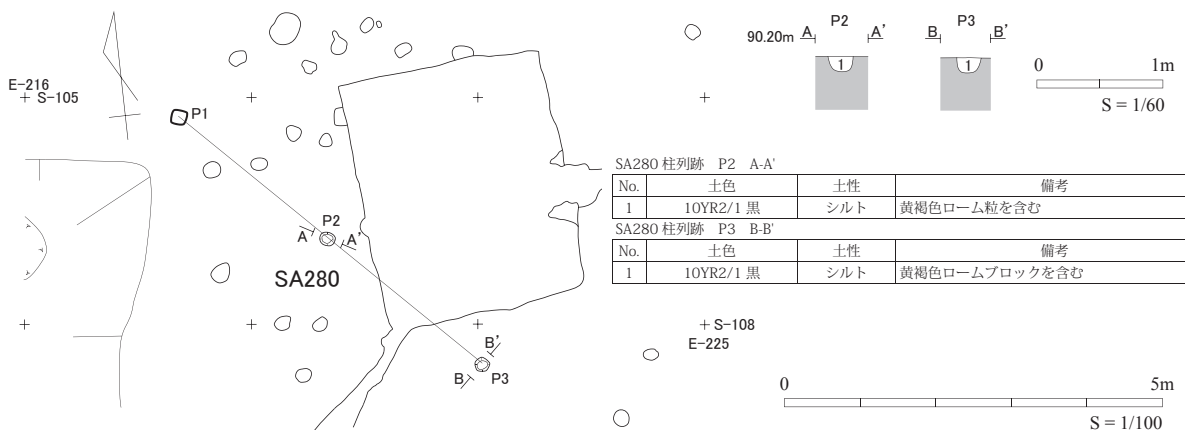
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極少量含む 黄褐色ローム粒を多量に含む（柱抜）
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む（柱掘）
4	5Y5/4 オリーブ	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む（柱掘）

SA279 柱列跡 P3 C-C'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SA279 柱列跡 P4 D-D'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む



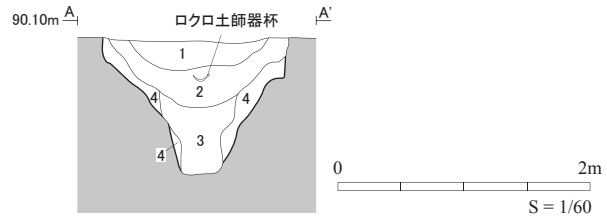
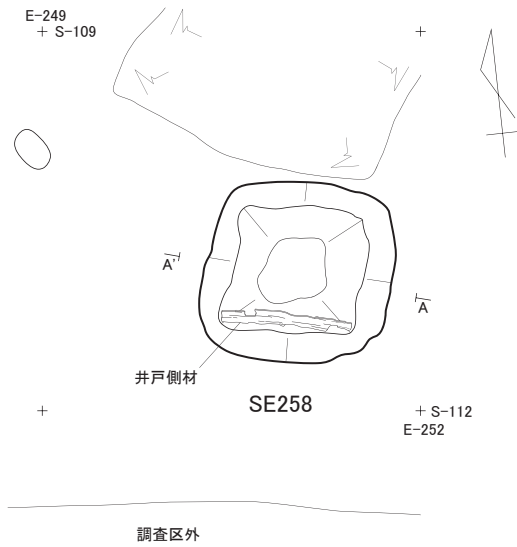
SA280 柱列跡 P2 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ローム粒を含む

SA280 柱列跡 P3 B-B'

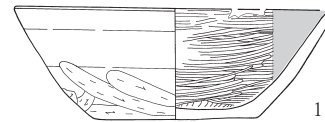
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

第 149 図 SA279・280 柱列跡

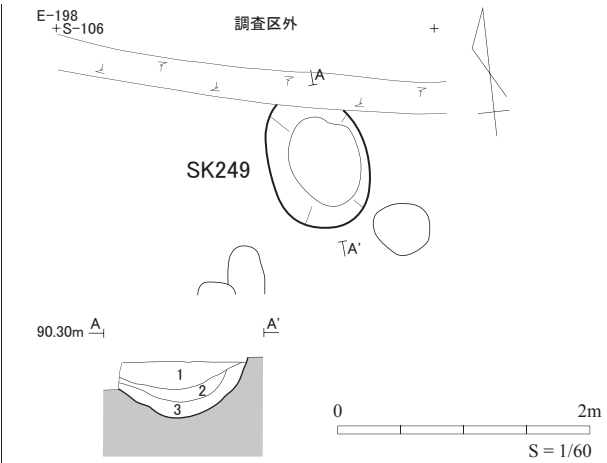
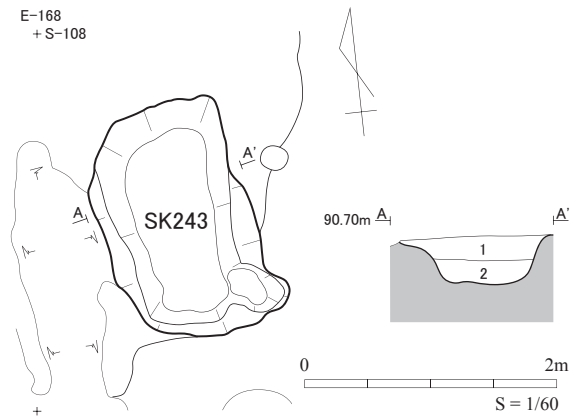


SE258 井戸跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土粒を少量含む (井戸側抜)
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを少量含む (井戸側抜)
3	2.5Y2/1 黒	シルト	均質土 (井戸側抜)
4	2.5Y3/1 黒褐	シルト	白色粘土ブロックを含む (井戸側掘)



No.	遺構名	層位	種類	器種	法量 (cm)			残存	登録	写真
					口径	底径	器高			
1	SE258	堆積土	ロクロ土師器	杯	12.7	6.5	4.4	略完形	146	68-8
器面調整・特徴										
内面:放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理, 外面:ロクロナデ→(体下)手持ちヘラケズリ, (底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ, (底)墨書「本」										



SK243 土坑 A-A'

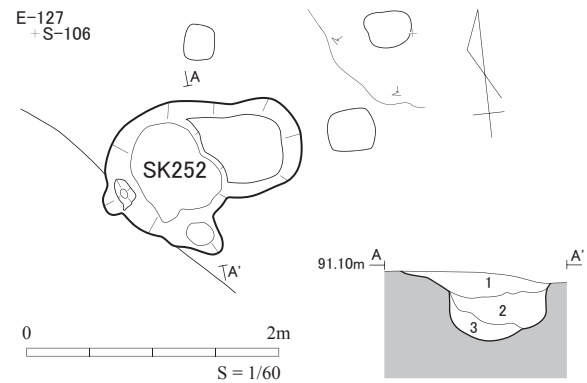
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	砂粒を含む
2	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・砂粒を含む

SK249 土坑 A-A'

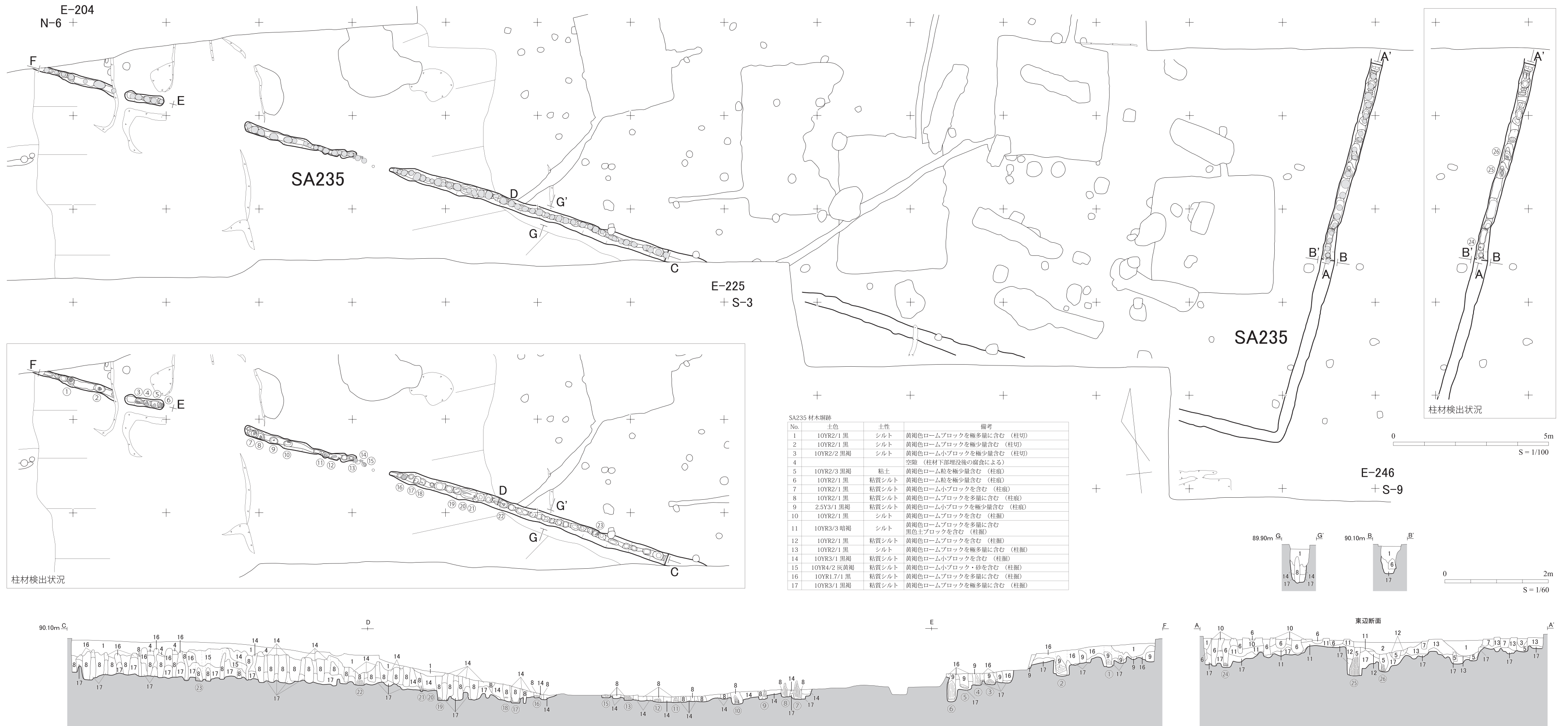
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロック・粒を少量含む
2	5Y3/1 オリーブ黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む
3	5Y2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

SK252 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	炭化物粒・焼土粒を含む (人為)
2	10YR2/1 黒	シルト	炭化物粒・焼土ブロック・被熱した凝灰岩片を多量に含む (人為)
3	10YR2/1 黒	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)



第150図 SE258 井戸跡, SK243・249・252 土坑, SE258 井戸跡出土遺物



第151図 SA235 材木堀跡

ミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に体部下位～底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。また外底面に墨書「本」がみられる。須恵器甕は外面に平行タタキ目が見られる。

(6) 土坑

【SK243 土坑】(第 150 図、写真図版 51)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI213 → SK243

〔規模・形状〕平面形は長軸 190cm、短軸 112cm の不整形、横断面形は深さ 41cm の逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕地山ブロック・砂を含む黒色・黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器小型品が出土した。土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持つ。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。須恵器小型品は外面に回転ヘラケズリ調整を施すもの、平行タタキ目が見られるものがある。

【SK249 土坑】(第 150 図、写真図版 51)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸 110cm、短軸 78cm の楕円形、断面形は深さ 54cm の碗形を呈する。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多量に含む黒色粘質シルト、上部は地山ブロックを少量含む黒褐色シルトなどで、自然崩落土および自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土よりロクロ土師器坏・甕が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。

【SK252 土坑】(第 150 図)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI219 → SK252 → SD242 - SB277

〔規模・形状〕平面形が長軸 168cm、短軸 80cm の不整楕円形、断面形は深さ 55cm の U 字形を呈する。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多く含む黒色粘質シルト、上部は炭化物・焼土粒、被熱した凝灰岩礫片を含む黒色・黒褐色シルトで、いずれも人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏、須恵器坏が出土した。土師器甕は内外面にヘラミガキ調整を施すものがある。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位に回転ヘラケズリによる再調整を施す。須恵器坏は外底面に回転ヘラ切り痕が見られる。

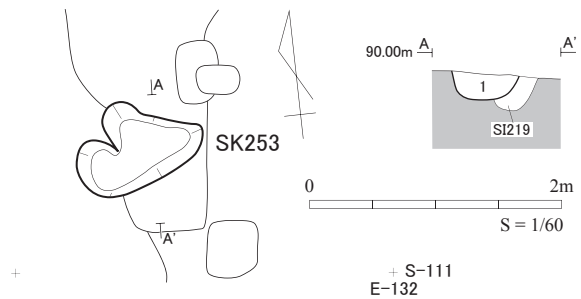
【SK253 土坑】(第 152 図、写真図版 67)

〔位置〕5 区西部／南向緩斜面

〔重複〕SB277 → SK253 → SI219・SD242

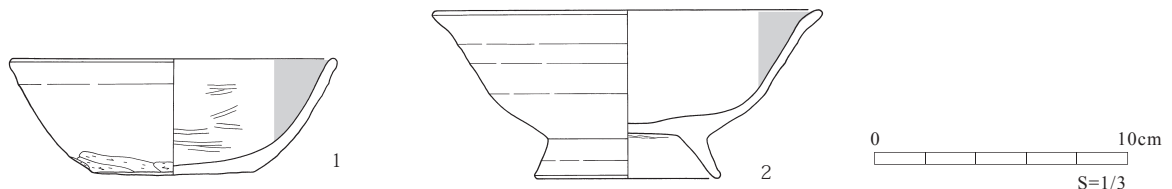
〔規模・形状〕平面形が長軸 92cm、短軸 76cm の不整形、断面形は深さ 23cm の逆台形を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕地山ブロック、灰、焼土・炭化物粒、被熱した礫を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。



SK253 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・焼土粒・炭化物粒・焼礫・灰を含む



No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK253	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ、(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(13.0)	(6.5)	4.7	1/4	147	67-10
2	SK253	堆積土	ロクロ土師器	高台付坏	(坏部) 内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：ロクロナデ→高台取付→ロクロナデ、(高台部) 内面：ロクロナデ、外面：ロクロナデ 内外面：摩滅	(15.5)	7.4	6.7	1/3	148	67-11

第 152 図 SK253 土坑，出土遺物

〔出土遺物〕堆積土よりロクロ土師器坏(第152図1)・高台付坏(第152図2)が出土した。坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位に手持ちヘラケズリによる再調整を施す。高台付坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部に八字形に開く高台を付加する。

このほか、ロクロ土師器甕が出土した。内外面にロクロナデ調整を施し、口縁端部が受口状となるものがある。

【SK257 土坑】(第153図、写真図版51・68)

〔位置〕5区東部/南向緩斜面

〔重複〕SI205a・SI205b・SI207・SI208 → SK257

〔規模・形状〕平面形が長軸128cm、短軸100cmの不整楕円形、断面形は深さ35cmの不整なU字形を呈する。

〔堆積土〕地山ブロック・礫を含む黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器甕、ロクロ土師器坏(第153図1)が出土した。土師器甕は外面の頸部に段を

持ち、胴部にハケメ調整を施す。ロクロ土師器坏(第153図1)は外部が内弯気味に立ち上がり、口縁部はそのまま外傾する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリ調整を施す。

【SK267 土坑】(第153図、写真図版51・68)

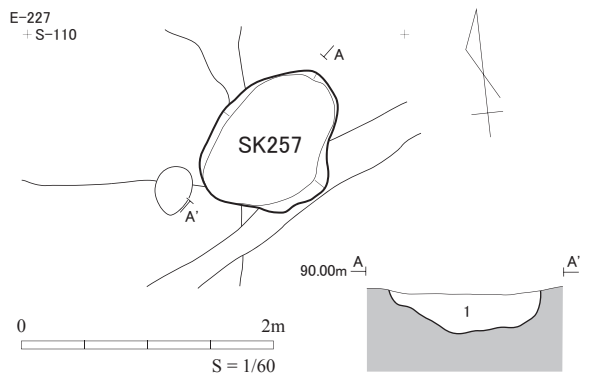
〔位置〕5区東部/南向緩斜面

〔重複〕なし

〔規模・形状〕平面形が長軸262cm、短軸228cm以上の不整楕円形で、北側が調査区外へ延びる。断面形は深さ43cmの逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で東へ向かって傾斜している。

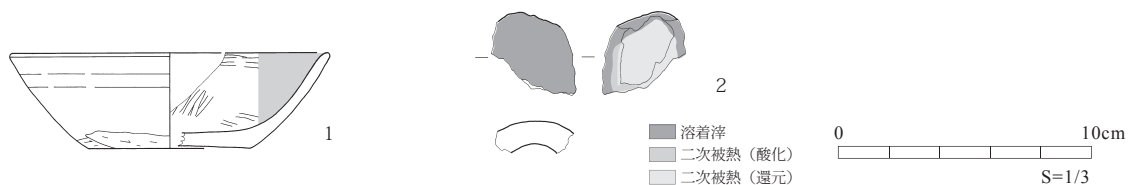
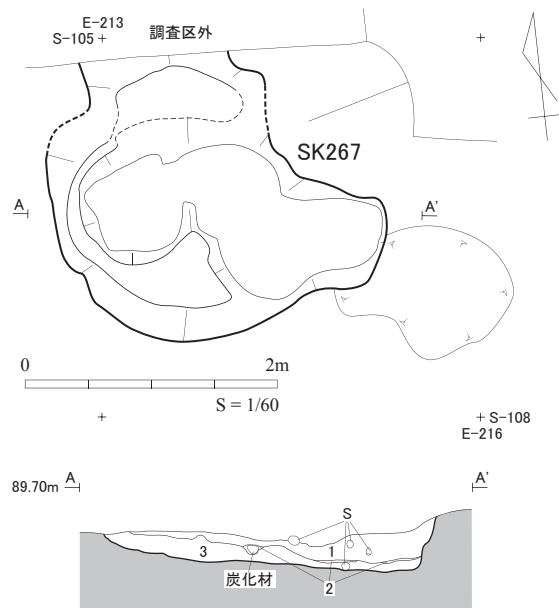
〔堆積土〕地山ブロック・礫・炭化木片を含む黒色・黒褐色粘質シルトで、人為的埋土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器甕、須恵器甕、羽口(第153図2)が出土した。土師器甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ調整を施すものがある。須恵器甕は内面に同心円文アテ具痕、外面に平行タキ目が見ら



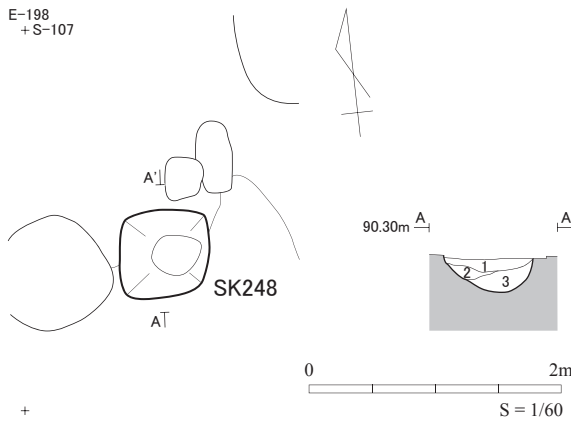
SK257 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックと礫を含む

SK267 土坑 A-A'			
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む φ 4cm-12cm 程度の礫を極少量含む
2	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒・炭化物粒を含む
3	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・粒を多量に含む 白色粘土粒を極少量含む φ 5cm 程度の礫を含む



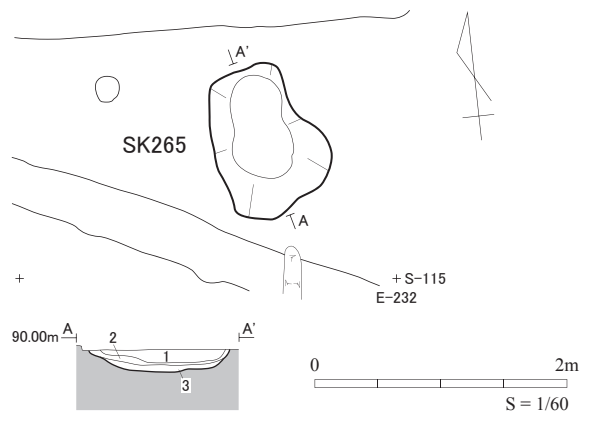
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	SK257	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理、外面：ロクロナデ→(底付近)手持ちヘラケズリ、(底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(12.7)	(6.4)	3.8	1/4	149	68-6
No.	遺構	層位	種類	特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
					長	幅	厚				
2	SK267	堆積土	羽口	先端側、先端～外面：溶着滓、内面：使用時の二次被熱による変色(還元・酸化)	(3.3)	(3.2)	(0.9)	一部	244	68-4	

第153図 SK257・267 土坑, 出土遺物



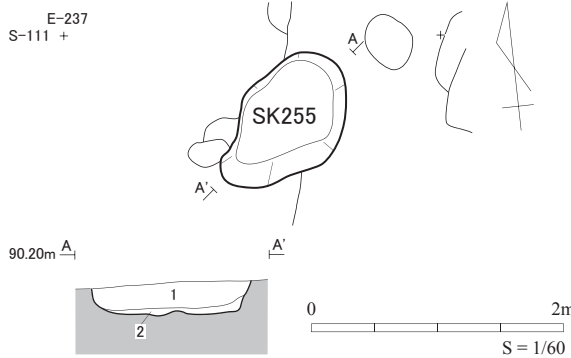
SK248 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを少量含む 焼土粒・灰・炭化物粒を含む (人為)
2	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む (人為)
3	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを極めて多量に含む (人為)



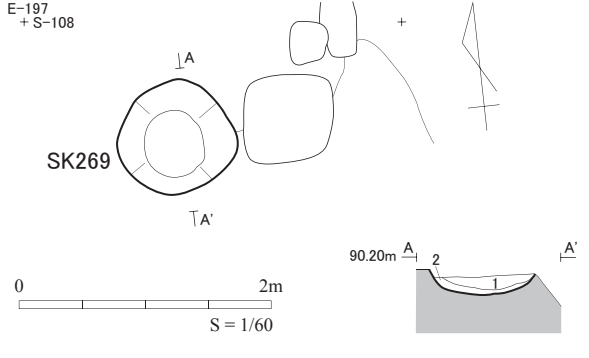
SK265 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3 暗褐	シルト	白色粘土ブロックを多量に含む 炭化物粒を少量含む (人為)
2	10YR2/1 黒	シルト	炭化物層 焼土粒を多量に含む
3	10YR4/1 褐灰	粘質シルト	白色粘土ブロックを少量含む (人為)



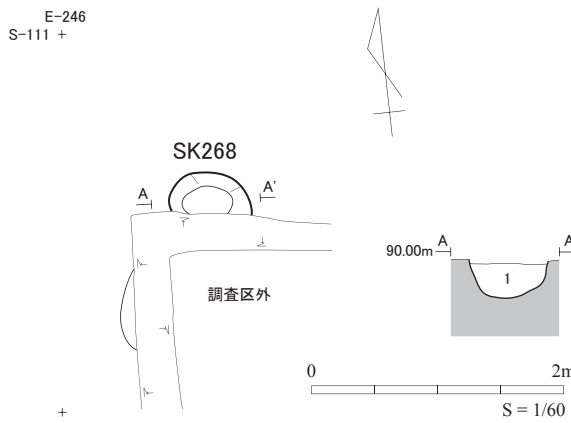
SK255 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを極めて多量に含む



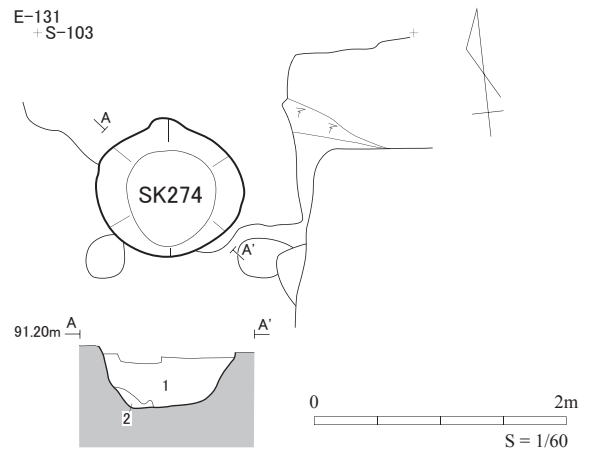
SK269 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む 白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む (人為)
2	10YR4/2 灰黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物粒を少量含む (人為)



SK268 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ローム粒を極少量含む



SK274 土坑 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを含む (人為)
2	5CY7/1 明オリブ灰	粘質シルト	黄褐色ロームブロックを多量に含む

第154図 SK248・255・265・268・269・274土坑

れる。羽口（第153図2）は先端部付近の破片で、使用時の二次被熱による変色と外面に溶着滓が見られる。

(7) 溝跡

【SD234 溝跡】（第155図）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI228・SI229・SI230 → SD234 → SI217・SB262・SB275・SA279

〔規模・形状〕北西から南東方向へ緩やかに弧を描きながら延びる。長さ11.1mを確認した。北西端は削平により消失した可能性もあるが、SB246東側柱列中央付近に位置し、南東側は旧河川による浸食を受けて消失している。上幅18-47cm、底幅8-34cm、深さ23cmで、横断面形は逆台形を呈する。底面は平坦で、南東方向へ向かって傾斜している。

〔堆積土〕地山ブロックを含む黒褐色シルトで、自然堆積土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土より土師器杯・甕、須恵器小型品が出土した。土師器杯は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の胴部にハケメ調整を施し、外底面に木葉痕が見られるものがある。

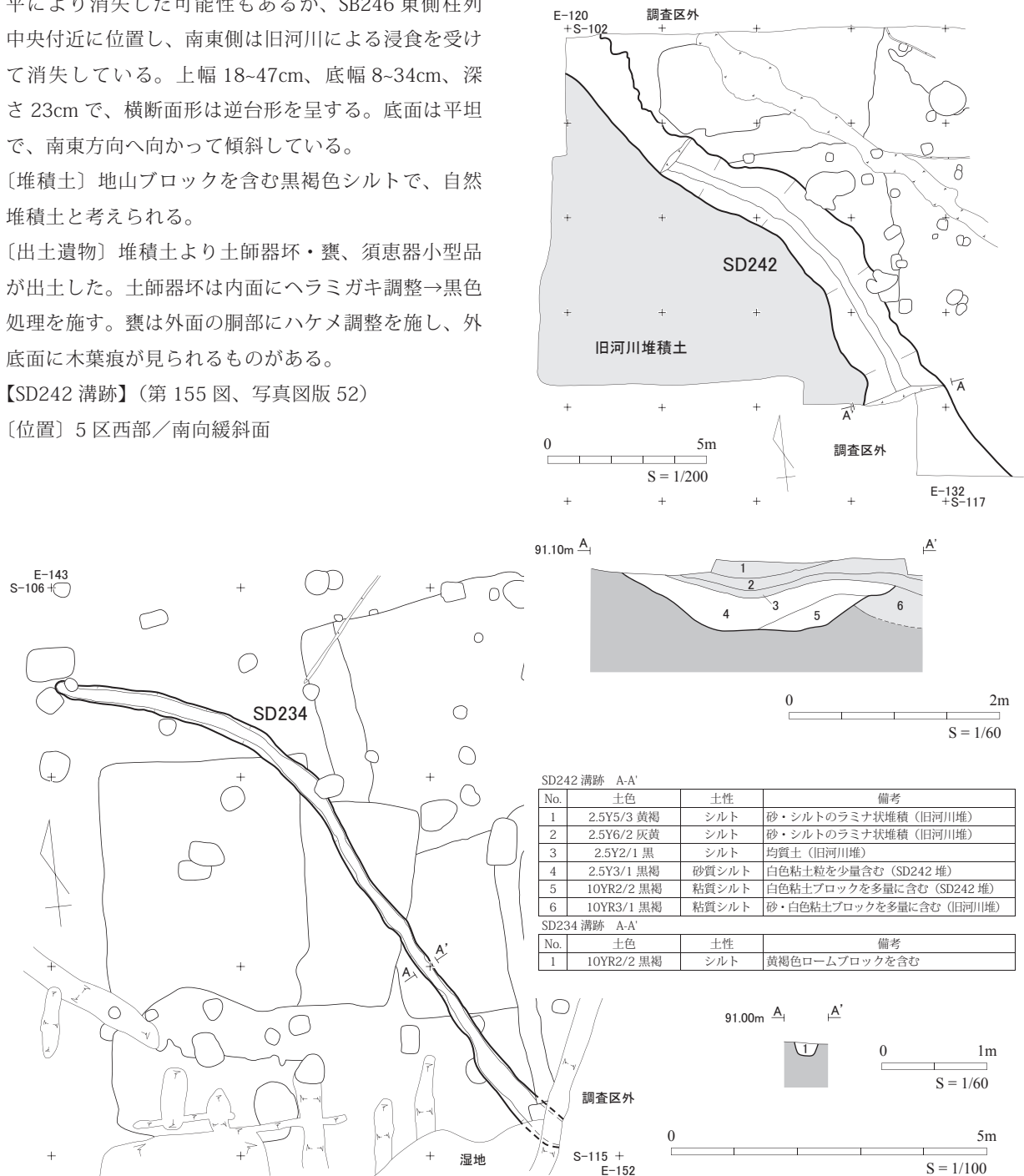
【SD242 溝跡】（第155図、写真図版52）

〔位置〕5区西部／南向緩斜面

〔重複〕SI219・SB277・SK252・SK253 → SD242

〔規模・形状〕北西から南東方向へ蛇行しながら延びる。長さ20.0mを確認した。西側は旧河道による浸食を受け、一部を消失しているが、調査区外の北西・南東側へ延びている。上幅120-260cm、底幅26-52cm、深さ62-85cmで、横断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕下部は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質シルト、地山粒を少量含む黒褐色砂質シルトで、壁際



SD242 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	2.5Y5/3 黄褐	シルト	砂・シルトのラミナ状堆積 (旧河川堆)
2	2.5Y6/2 灰黄	シルト	砂・シルトのラミナ状堆積 (旧河川堆)
3	2.5Y2/1 黒	シルト	均質土 (旧河川堆)
4	2.5Y3/1 黒褐	砂質シルト	白色粘土粒を少量含む (SD242 堆)
5	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	白色粘土ブロックを多量に含む (SD242 堆)
6	10YR3/1 黒褐	粘質シルト	砂・白色粘土ブロックを多量に含む (旧河川堆)

SD234 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

第155図 SD234・242 溝跡

の自然崩落土および自然流入土と考えられる。上部は黄褐色・灰黄色の砂・シルトの互層、均質な黒色シルトで、旧河道跡と一連の堆積土である。

〔出土遺物〕堆積土・遺構確認面より土師器坏・甕、ロクロ土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。土師器坏は無段丸底で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕は外面の頸部に段を持たず、胴部にハケメ調整を施すもの、外底面に木葉痕を持つものがある。ロクロ土師器坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すものと、外底面にナデ調整を施すものがある。

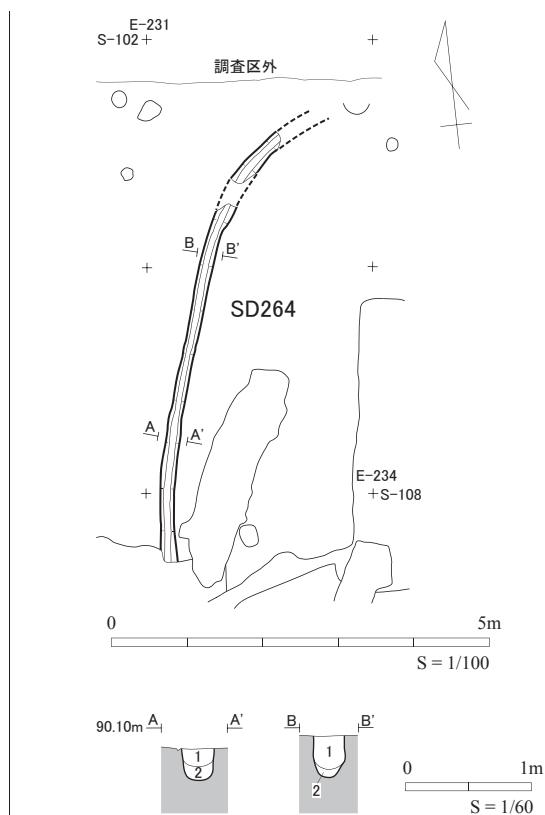
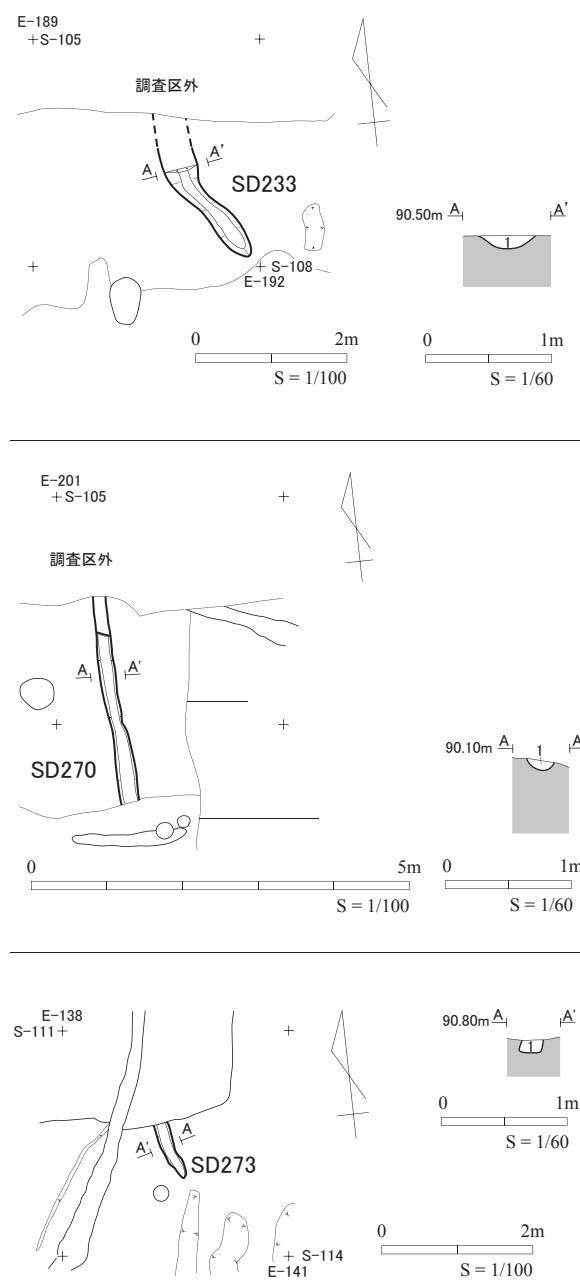
。高台付坏は内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、静止糸切りによる底部の切り離し後に高台部付加→ロクロナデ調整を施す。須恵器坏は回転糸切りによる底部の切り離し後に再調整を施さないものと、外底面にナデ調整を施すものがある。

6. その他の出土遺物

(1) 組み合わない柱穴跡 (第157図、写真図版68・69)

1区P60柱穴跡堆積土より種実遺体(モモの核、長軸2.4cm、写真図版69-2)が出土した。

3区P304柱穴跡堆積土より須恵器甕(第157図7)



SD233 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1 黒	シルト	黄褐色ロームブロックを含む

SD264 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化物粒を含む
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む (人為)

SD264 溝跡 B-B'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ローム粒・白色粘土ブロックを少量含む
2	10YR5/1 褐灰	粘土	白色粘土ブロックを多量に含む (人為)

SD270 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/3 黒褐	粘質シルト	黄褐色ロームブロック・白色粘土ブロックを含む (人為)

SD273 溝跡 A-A'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2 黒褐	シルト	黄褐色ローム粒を含む

第156図 SD233・264・270・273 溝跡

が出土した。胴部の破片で内面に波状アテ具痕、外面に平行タタキ目→平行沈線を施文する。また、P366 柱穴底面より須恵器甕が出土した。内面に同心円文アテ具痕、外面に平行タタキ目が見られる。礎板として転用された可能性がある。

4区 P128 柱穴跡確認面より砥石（第157図10）、P131 柱穴跡堆積土よりロクロかわらけ皿（第157図6）、P159 柱穴跡堆積土より転用砥（第157図8）が出土した。157図10は凝灰岩礫を素材とし、各側面を砥面とする。砥面には溝状・線状の研磨痕が認められる。また、上下端に敲打痕が認められ、下端側からの加撃によって一側面を欠損している。第157図6は平底で口縁部～体部が短く外傾する。内外面にロクロナデ調整→内面に不鮮明ながらナデ調整を施す。外底面には不鮮明ながら回転糸切り痕がみられ、底部の切り離し後は再調整を施さない。第157図8は中世陶器甕の破片を素材とする。

5区 P384 柱穴跡堆積土・P417 柱穴跡確認面より土師器坏（第157図1~2）、P385 柱穴跡堆積土よりロクロ土師器坏（第157図3）、P449 柱穴跡柱痕跡・P483 柱穴跡堆積土より赤焼土器坏（第157図4・5）が出土した。土師器坏のうち第157図1は平底の盤状坏で、外面の体部下端に段を持つ。体部から口縁部にかけて内弯し、内面にヘラミガキ調整→黒色処理、外面の口縁部にヨコナデ調整、底部にケズリ調整を施す。体部外面に粘土紐の輪積み痕跡を多く残す。第157図2は有段丸底坏の破片で、体部が内弯し口縁部が内弯気味に直立する。外面の体部と口縁部の境に段を持ち、内面の対応する位置で屈曲する。外面の口縁部にヨコナデ、体部にヘラケズリ→ヘラミガキ調整、内面の口縁部～体部にヨコナデ調整を施し、黒色処理を施さない。ロクロ土師器坏（第157図3）は体部から口縁部まで直線的に外傾する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後に外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリ調整を施す。赤焼土器坏は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がそのまま外傾するもの（第157図4）と、外反するもの（第157図5）とがある。内外面にロクロナデ調整を施し、回転糸切りによる底部の切り離し後は調整を施さない。第157図4は外底面にヘラ書きと墨書がある。

5区 P483 柱穴跡堆積土より砥石（第157図9）が出土した。凝灰岩製で台形状を呈し、各側面を砥面とする。正面・裏面側の砥面に線状の研磨痕が見られる。

（2）遺構外出土遺物（第158-162図、写真図版69-73）

土器類では土師器坏（第158図1~2）・高坏（第158図9）・甕？（第158図10）、ロクロ土師器坏（第158図3~7）、赤焼土器坏（第158図8）、須恵器有耳壺（第158図11）、縄文土器（第161図1）、陶磁器類では中世陶器鉢（第159図1~3・6）・甕（第159図4・7~9）・壺（第159図5）、陶器皿（第160図4）・碗（第160図5~6）・袋物（第160図8）・播鉢（第160図9）、磁器皿（第160図3・7）・碗（第160図1~2）、青磁皿（第159図10）、土製品類では羽口（第162図4~5）、金属製品類では刀子（第160図12）、鉄釘（第160図11）、寛永通宝（第160図10）、石製品類では石製模造品（剣）（第162図1）、砥石（第162図2~3）、石器類では石鍬（第161図6~7）、石鍬（第161図2~3）、石匙（第161図4~5）、剥片、磨石が出土した。

土師器坏はいずれも有段丸底坏で、内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。第158図2は体部から口縁部が内弯気味に外傾する。外面の体部にヘラナデ→体部～口縁部にヨコナデ→底部にヘラケズリ調整を施す。第158図1は底部から口縁部まで内弯する。外面の体部～底部にヘラケズリ、口縁部にヨコナデ調整を施す。高坏（第158図9）は八の字形に外下方にのびる脚部で、脚裾部は平坦な接地面をもつ。坏部内面にヘラミガキ調整→黒色処理、脚柱状部の内外面にヘラケズリ調整、脚裾部の上面にヨコナデ→ヘラケズリ調整を施す。甕？（第158図10）は外傾する口縁部から口唇部が直立して立ち上がる。外面の口縁部にハケメ？→ヨコナデ調整、内面の口縁部にヨコナデ調整を施す。

ロクロ土師器坏は体部から口縁部まで内弯気味に立ち上がるもの（第158図3）と、体部が内弯気味に立ち上がるもの（第158図7）、体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がそのまま外傾するもの（第158図4）、体部が内弯気味に立ち上がり、やや外反するもの（第158図5~6）とがある。いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し後は外面に再調整を施さないもの（第158図5・7）と、外面の体部下位～底面に手持ちヘラケズリ調整を施すもの（第158図3~4・6）とがある。底部の切り離しは第158図4・5・7が回転糸切りで、第158図7は外底面にヘラ書き「×」がある。

赤焼土器坏（第158図8）は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が外反する。回転糸切りによる底部の切り離し後は外面に再調整を施さない。

須恵器有耳壺（第158図11）は胴部上位の破片で内外面にロクロナデ調整の後、外面の胴部に横方向の耳を付加する。外面に自然釉が見られる。

縄文土器（第161図1）は深鉢の体部破片で外面に縄文（RL）を施文する。

中世陶器は鉢（第159図1~3・6）・壺（第159図5）・甕（第159図4・7~9）がある。陶器皿（第160図4）は大堀相馬産、碗（第160図6）は小野相馬産、袋物（第160図8）は肥前産である。磁器皿は切込または肥前産（第160図3）、中国青花（第160図7）があり、碗（第160図1~2）は瀬戸美濃産、青磁皿（第159図10）は中国青磁である。

羽口（第162図4~5）は内外面にケズリ・ナデ調整を施し、先端側に使用時の二次被熱による変色が認められる。第162図4は吸気部付近の破片で、外面にヘラケズリ調整、内面にナデ調整を施す。

刀子（第160図12）は刃部の先端を欠損する。

石製模造品（第162図1）は滑石製で、両面と両側縁に研磨による調整が加えられているが、未製品の可能性がある。砥石はいずれも凝灰岩製で角柱状を呈するもの（第162図2）と、自然礫を素材とするもの（第162図3）とがある。第162図2は両端を折損する。各側面に線状の研磨痕が見られる。第162図3は一部に剥離による整形を施し、各側面を砥面とする。正面・裏面側の砥面は中央部が浅く窪み、溝状の研磨痕が見られる。

石鍬（第161図6~7）はいずれも扁平な安山岩製で基部側を折損している。両面の刃部~両側縁に剥離による周縁加工を施す。刃部の平面形状は第161図

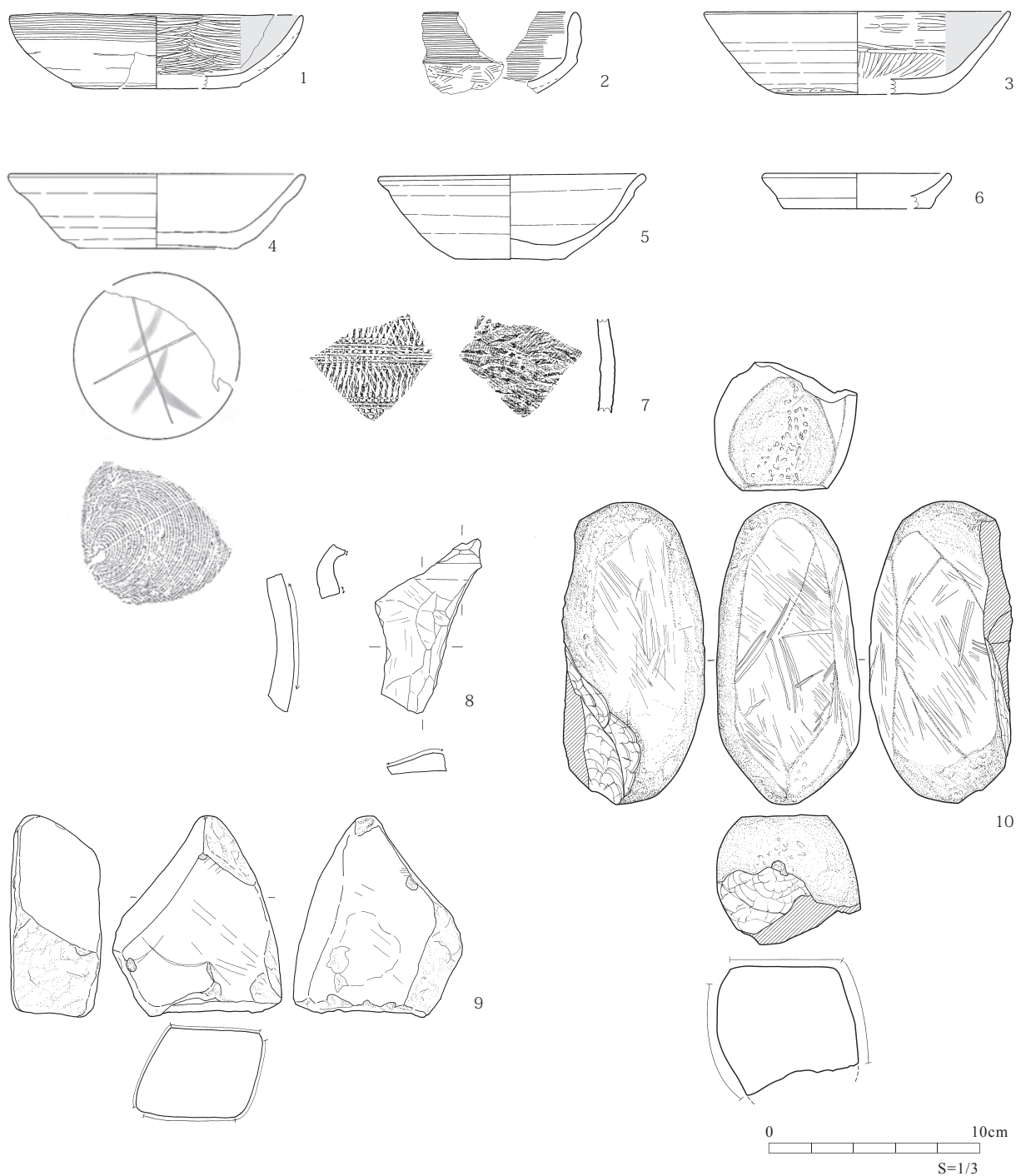
6が円刃、第161図7が直刃を呈し、正面観はいずれも平刃である。第161図7は刃部に摩耗が見られる。

石鏃（第161図2~3）はいずれも珪質頁岩製である。第161図2は凸基有茎で、先端部と茎部を折損する。第161図3は平基無茎の未製品で製作中の剥離事故によって先端部を欠損している。

石匙（第161図4~5）はいずれも剥片を素材とする縦型石匙である。第161図4は玉髓製で、素材剥片の周縁に両面から押圧剥離による調整を施し、打面側に基部を作出する。第161図5は珪質頁岩製で、素材剥片の腹面側の側縁に施した急角度剥離面を打面として、背面側に平坦な押圧剥離を施し、打面側に基部を作出する。刃部先端側を折損後に腹面側から再加工を施している。また、基部側の右側縁を被熱による焼けハジケで欠損する。

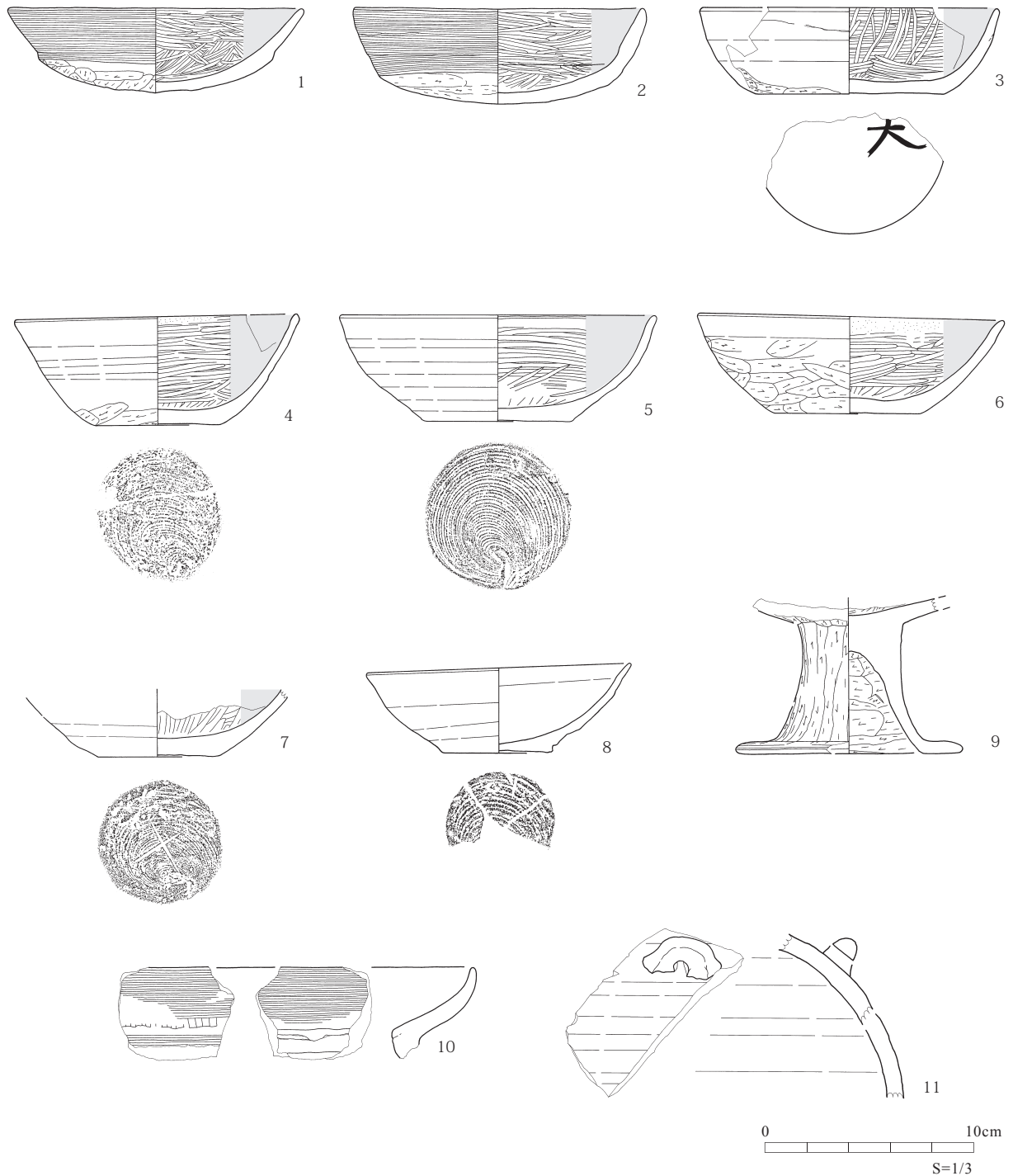
剥片は黒曜石製、磨石は安山岩製である。

このほか、土師器坏・高台付坏・壺・甕・甑、ロク口土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・高台付坏・壺・甕、赤焼土器坏・高台付坏、中世陶器鉢・甕、近世陶器蓋または小皿・皿または鉢・碗・袋物・鉢・甕・壺・搦鉢、磁器小坏・皿・輪花皿・碗、土師質土器焙烙・甕・不明品が出土した。近世陶器碗・袋物は相馬産？、甕は堤産？、搦鉢は岸産？、磁器小坏は瀬戸美濃産、皿・碗は肥前産のものがある。



No.	調査区	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真	
							口径	底径	器高				
1	5区	P384	堆積土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口)ヨコナデ，(底)ケズリ	(14.0)	(8.0)	3.6	1/4	077	68-3	
2	5区	P417	確認面	土師器	坏	内面：(口～体)ヨコナデ，外面：(口)ヨコナデ，(体)ヘラケズリ→ヘラミガキ	-	-	(3.9)	一部	151	68-2	
3	5区	P385	堆積土	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(底付近)手持ちヘラケズリ，(底)切り離し不明→手持ちヘラケズリ	(14.6)	(7.8)	3.9	1/3	152	68-5	
4	5区	P449	柱痕跡	赤焼土器	坏	内外面：ロクロナデ，外面：(底)回転糸切り→無調整，(底)ヘラ書き「×」，墨書「人人」	14.2	7.7	3.6	1/2	150	68-1	
5	5区	P483	堆積土	赤焼土器	坏	内外面：ロクロナデ，外面：(底)回転糸切り→無調整	12.8	5.2	4.1	完形	153	68-9	
6	4区	P131	堆積土	ロクロかわらけ	皿	内面：ロクロナデ→ナデ？，外面：ロクロナデ，(底)回転糸切り？ ※内外面 5YR 6/6 橙色	(9.0)	(7.0)	1.7	1/8	163	69-1	
7	3区	P304	堆積土	須恵器	甕？	内面：波状アテ具痕，外面：平行タタキ目→平行沈線	-	-	-	一部	166	69-3	
No.	調査区	遺構	層位	種類	器種	特徴				部位	登録	写真	
8	4区	P159	堆積土	中世陶器 (転用砥)	甕	内面：ロクロナデ 外面：研磨痕，両側縁：使用後の折損				頸部～体部	260	69-5	
No.	調査区	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
9	5区	P483	堆積土	砥石	凝灰岩	砥面数 4	長	幅	厚	重	完形	203	69-4
							96.00	80.50	42.10	420.0			
10	4区	P128	確認面	砥石	凝灰岩	砥面数 3，円礫素材，両端に敲打痕， 下端側からの衝撃により裏面側の側面を欠損	143.00	67.00	61.40	764.0	一部欠	207	68-10

第157図 柱穴跡出土遺物



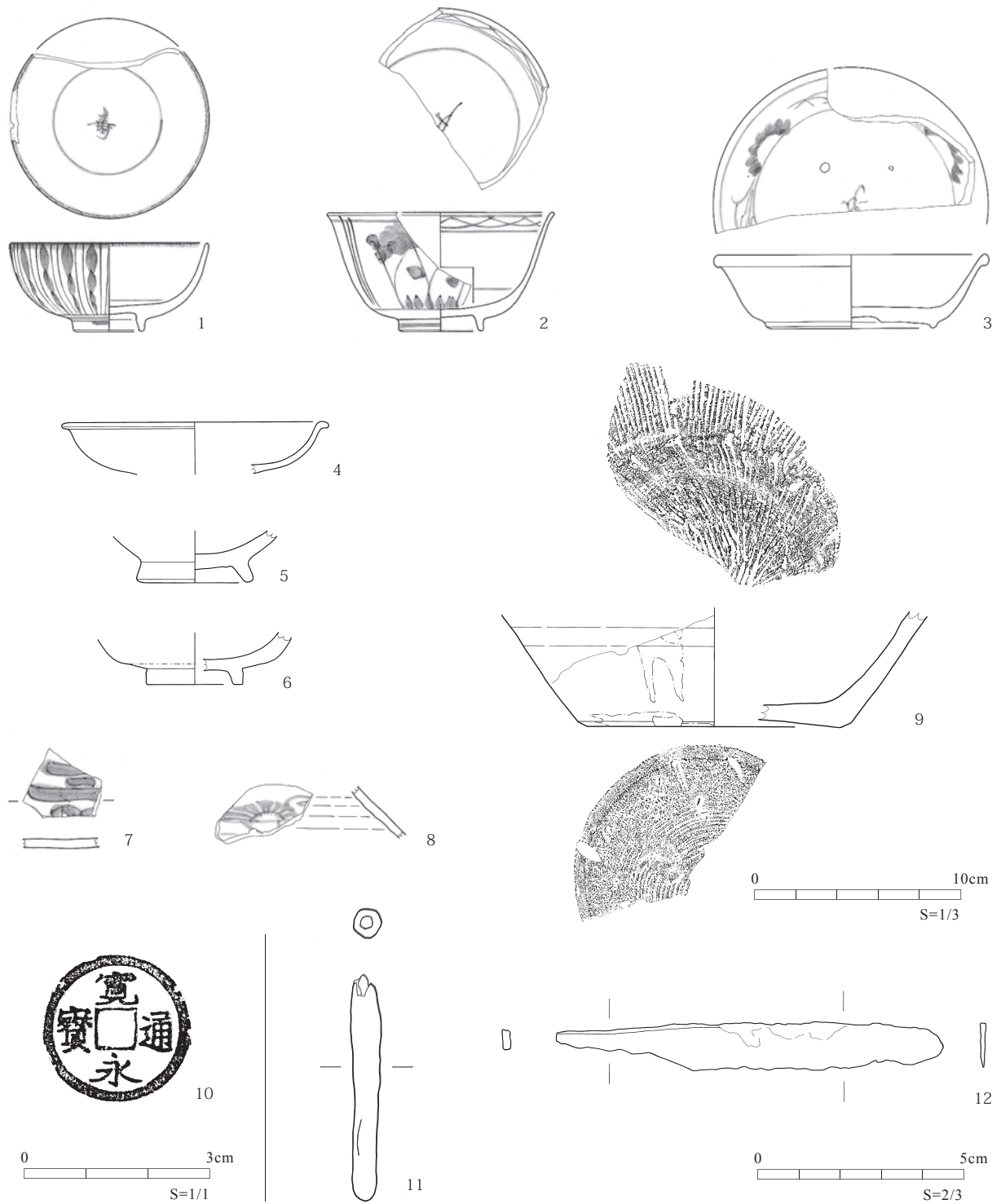
No.	遺構名	層位	種類	器種	器面調整・特徴	法量 (cm)			残存	登録	写真
						口径	底径	器高			
1	2区	表土	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(口) ヨコナデ・(体～底) ヘラケズリ	(14.2)	-	4.1	3/4	164	69-6
2	4区	攪乱	土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：(体) ヘラナデ→(口～体) ヨコナデ，(底) ヘラケズリ	14.0	-	4.5	4/5	033	69-7
3	5区	表探	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ，外面：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ，(底) 切り離し不明→ケズリ，(底) 墨書「大」	(14.4)	(9.1)	4.2	1/4	157	69-10
4	1区	攪乱	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→(底付近) 手持ちヘラケズリ，(底) 回転糸切り→ヘラケズリ	13.7	6.0	5.3	2/3	062	69-13
5	1区	確認面	ロクロ土師器	坏	内面：横方向ヘラミガキ，(底) 放射状ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整	15.3	7.3	5.0	1/2	061	69-9
6	1区	攪乱	ロクロ土師器	坏	内面：放射状ヘラミガキ→横方向ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ，(底) 切り離し不明→手持ちヘラケズリ	14.8	7.0	4.6	略完形	063	69-8
7	5区	確認面	ロクロ土師器	坏	内面：ヘラミガキ→黒色処理，外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整，(底) ヘラ書き「X」	-	5.9	(3.3)	一部	167	69-14
8	5区	確認面	赤焼土器	坏	内外面：ロクロナデ，(底) 回転糸切り→無調整	12.7	5.3	4.1	1/2	119	65-11
9	5区	確認面	土師器	高坏	内面：(环部) ヘラミガキ→黒色処理，(脚柱状部) ヘラケズリ，外面：(脚裾部) ヨコナデ→(脚柱状部) ヘラケズリ	-	(10.9)	(7.5)	2/3	155	69-11
10	5区	確認面	土師器	甕?	内面：ヨコナデ，外面：(口) ハケメ?→ヨコナデ	-	-	(4.4)	一部	154	69-12
11	5区	確認面	須恵器	有耳壺	内外面：ロクロナデ，外面：耳部貼付 ※外面：上部に自然釉	-	-	(8.1)	一部	156	69-15

第 158 図 遺構外出土遺物 (1)



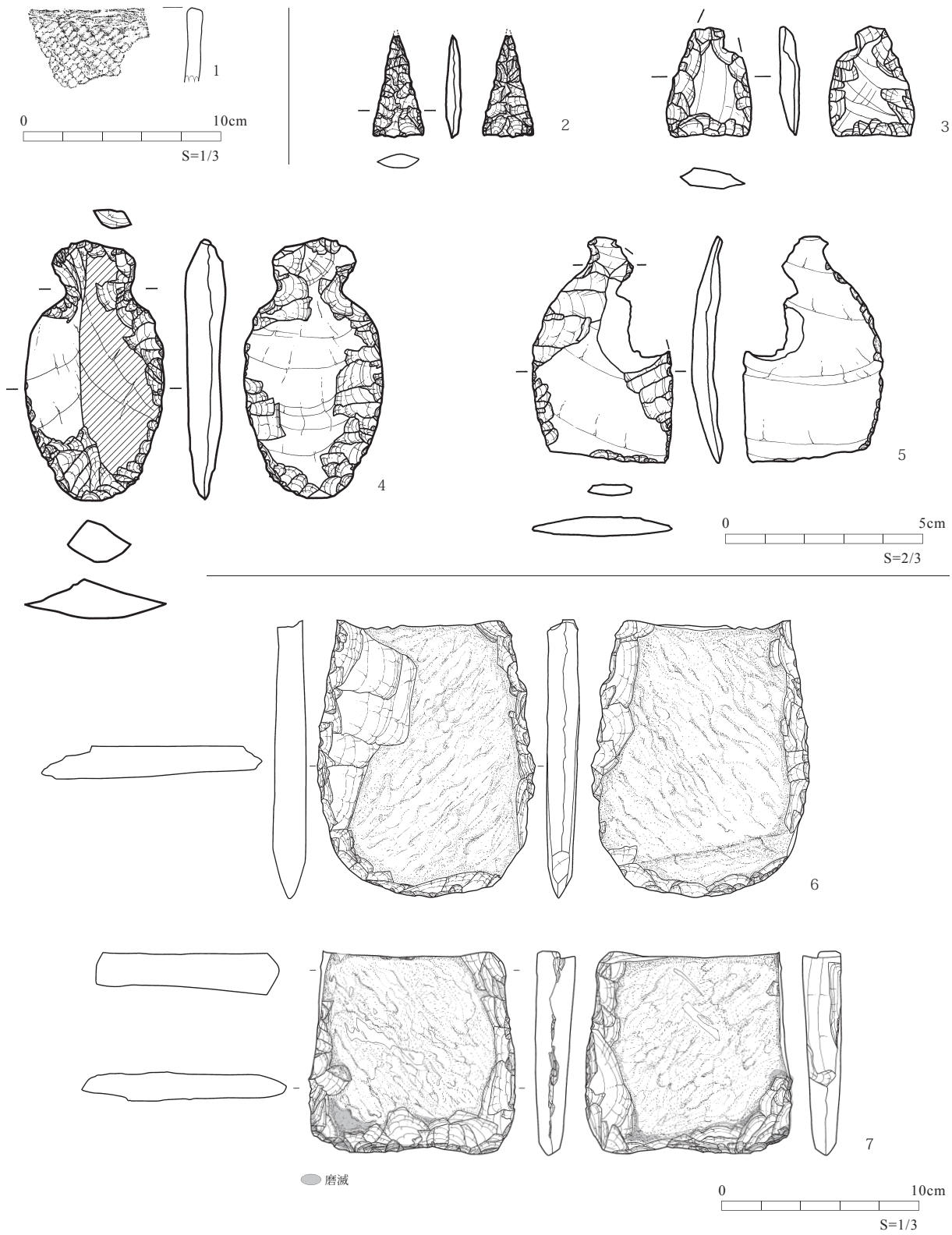
No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	部位	登録	写真
1	4区	攪乱	中世陶器	鉢	内面：ナデ、自然釉 外面：ナデ	口縁部	270	70-1
2	4区	攪乱	中世陶器	鉢	内面：ナデ、口唇部一部自然釉 外面：ロクロナデ	口縁部	271	70-2
3	4区	表土	中世陶器	鉢	内面：ロクロナデ、ヘラ書き 外面：ロクロナデ	口縁部	273	70-5
4	4区	攪乱	中世陶器	甕	常滑産、内外面：ナデ、自然釉 常滑編年5型式期	口縁部	269	70-9
5	4区	攪乱	中世陶器	壺	常滑産、有筋壺、内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、沈線一条、自然釉	体部(肩)	272	70-4
6	4区	遺構確認面	中世陶器	鉢	内面：ロクロナデ、自然釉、一部磨滅 外面：ロクロナデ、回転ヘラケズリ、磨滅 転用か	体部～高台部	266	70-3
7	3区	遺構確認面	中世陶器	甕	常滑産、内面：ナデ、積み痕顕著 外面：自然釉	頸部～体部	265	70-7
8	4区	遺構確認面	中世陶器	甕	内面：ナデ 外面：ヘラナデ	胴部	267	70-8
9	4区	遺構確認面	中世陶器	甕	常滑産、内面：ナデ(回転による)、自然釉 外面：ヘラナデ	底部	268	70-6
10	4区	遺構確認面	青磁	皿	中国青磁、内面：緑釉 見込みに陰刻 草花文か 外面：底面無釉 ロクロ削り	底部	277	70-11

第159図 遺構外出土遺物(2)



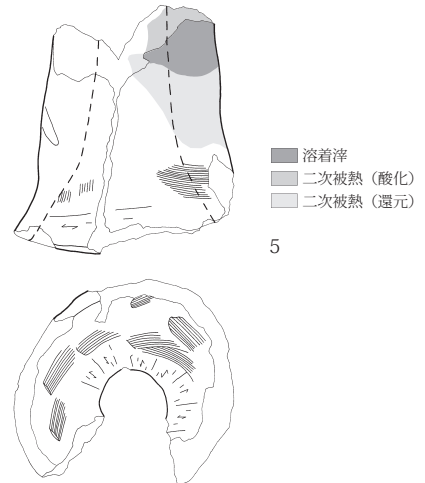
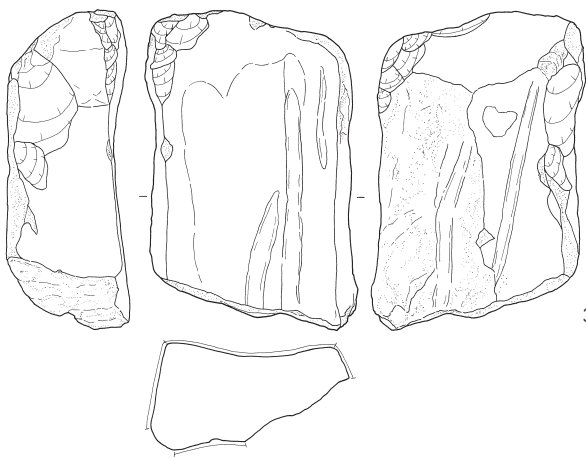
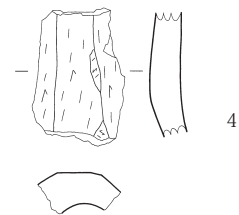
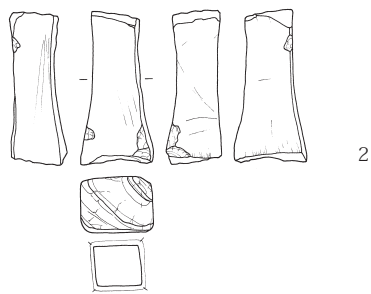
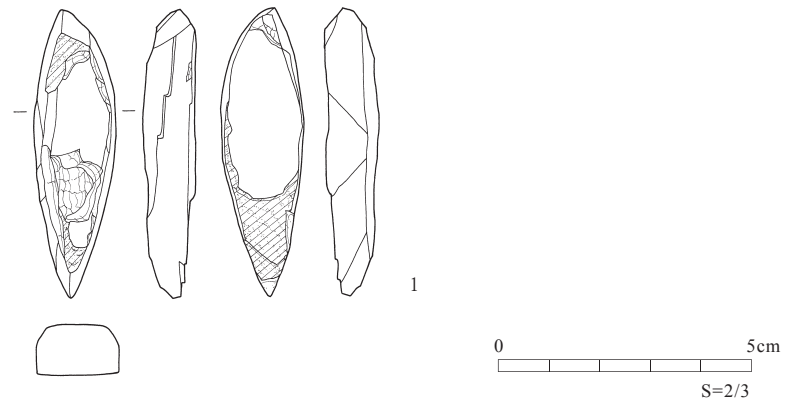
No.	遺構	層位	種類	器種	特徴	法量 (cm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	1区	表土	磁器	碗	瀬戸美濃産, 内面: 口唇部染付、圏線、見込みに「寿」字文 外面: よろけ縞文	略完形	(9.70)	(3.55)	(4.30)	262	71-1	
2	1区	表土	磁器	碗	瀬戸美濃産, 内面: 口縁部に格子状文、見込み文様不明 外面: 草花文	口縁~底 1/2	(11.00)	(4.10)	(5.75)	263	71-2	
3	1区	表土	磁器	皿	切込または肥前産, 内面: 見込みに昆虫文か 外面: 透明釉、蛇の目凹高台	口縁~底 1/2	(13.40)	(8.25)	(3.55)	264	71-3	
4	1区	表土	陶器	皿	大堀相馬産, 内面: 灰釉、見込みに「松樹文」 外面: 灰釉 玉緑皿	口縁~体	(13.00)	-	(2.50)	276	71-4	
5	5区	攪乱	陶器	碗	内外面: 緑釉	体~高台	-	(5.60)	(2.50)	279	71-5	
6	5区	攪乱	陶器	碗	小野相馬産, 内外面: 淡青色釉	体~高台	-	-	-	280	71-6	
7	4区	表土	磁器	皿	中国青花, 内面: 透明釉、染付、見込みに「寿」字文 外面: 透明釉、高台裏にカンナ痕	底部	-	-	-	274	71-8	
8	5区	遺構確認面	陶器	袋物	肥前産, 陶胎染付, 内面: ロクロ目 外面: 透明釉、染付、草花文	体部	-	-	(2.45)	278	71-7	
9	5区	表土	陶器	掃鉢	内面: 櫛目1条7本 外面: 鉄釉、重ね焼きの道具痕?、底部: 回転糸切り	胴下~底	-	(13.30)	(5.70)	275	71-9	
10	1区	表土	寛永通寶	銅		長	幅	厚	重	完形	284	70-12
11	3区	確認面	釘	鉄		(5.5)	(0.7)	(0.6)	(2.9)	一部欠	288	73-1
12	4区	確認面	刀子	鉄	茎幅: (0.6) cm, 茎厚: (0.2) cm	(9.4)	(1.2)	(0.1)	(7.0)	一部欠	292	73-2

第160図 遺構外出土遺物(3)



No.	遺構名	層位	種類	石材	器種	器面調整・特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
							長	幅	厚	重			
1	SD162	堆積土	縄文土器		深鉢	口縁部, 外面: 縄文(LR), 内面: ナデ				一部	231	70-10	
2	SI51d	堆積土	石鏃	珩質頁岩		凸基有茎, 押圧剥離調整(両側縁→基部), 先端・茎部折損				略完形	215	72-1	
3	SI217	堆積土	石鏃	珩質頁岩		未製品, 平基無茎, 押圧剥離調整(側縁→基部), 両面に素材面残置, 剥離事故により先端部欠損(裏面左側縁上部からの加圧による)→再加工				一部欠	201	72-2	
4	4区	確認面	石匙	玉髓		縦型石匙, 押圧剥離調整, 素材剥片打面側にツمامミ部作出, 平坦打面				完形	216	72-3	
5	SI205	堆積土	石匙	珩質頁岩		縦型石匙, 押圧剥離調整, 素材剥片打面側にツمامミ部作出, 線打面, 下端部折損後再加工, 被熱による焼けハジケで正面右側縁上部欠損				一部欠	206	72-4	
6	1区	表土	石鏃	安山岩		節理割れによる板状素材, 刃部平面形: 円刃, 基部折損				1/2	208	72-5	
7	SD162	堆積土	石鏃	安山岩		節理割れによる板状素材, 刃部平面形: 直刃, 基部折損, 両面: 刃部磨滅				1/2	209	72-6	

第161図 遺構外出土遺物(4)



No.	遺構	層位	種類	石材	特徴	法量 (mm・g)				残存	登録	写真
						長	幅	厚	重			
1	3区	表土	石製模造品(剣)	滑石	未製品か、両面・両側縁：研磨痕、両面：節理よる剥落	56.9	16.5	10.5	11.4	完形	214	73-3
2	5区	遺構確認面	砥石	凝灰岩	砥面数4、両端折損	61.1	28.6	21.6	46.0	一部欠	204	73-4
3	5区	表土	砥石	凝灰岩	砥面数4、両面：溝状研磨痕、下部折損	116.0	80.5	45.8	538.0	一部欠	205	73-5
No.	遺構	層位	種類	特徴	法量 (mm)			残存	登録	写真		
					長	幅	厚					
4	5区	遺構確認面	羽口	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ	(5.5)	(3.6)	(1.5)	一部	249	73-6		
5	5区	遺構確認面	羽口	吸気部側、内外面：ヘラケズリ→ナデ、先端部側内径：(2.5～2.7) cm、先端側外面：溶着滓・使用時の二次被熱による変色(還元)、先端側内面：使用時の二次被熱による変色(酸化)	(9.8)	(8.0)	(2.2)	1/3	242	73-7		

第162図 遺構外出土遺物(5)

第3表 遺構観察表 竪穴住居跡

区	遺構名	位置	方向	規模(m)	残存壁高(cm)	構造			施設			床下土坑	その他施設	出土遺物	重構関係	時期	図	
						主柱穴	壁柱穴	周溝・壁材	カマド・炉	貯蔵穴	外延溝/長(m)							
1区	SI163	平坦面	西辺: N-43°-E	7.70	6.40	在掘	なし	なし	周溝	西カマド	北東1	貯蔵穴	北東4・南東1	-	土師器	SK186・SK187より新、SB358・SD181より古	Ⅰ期	8
	SI165	平坦面	東辺: N-20°-E	(4.50)	(4.00)	貼床	4基	なし	なし	東カマド	南東1	-	-	土師器	なし	Ⅳ期	11	
	SI2	平坦面	東辺: N-18°-E	(6.00)	(4.40)	在掘	(3基)	なし	なし	-	-	-	-	-	土師器	なし	Ⅱ期	28
3区	SI51	平坦面	竈軸: N-12°-W	8.00	6.70	在掘	4基	なし	壁材	北カマド	なし	なし	満2条 柱穴6か所	土師器	SI52・SK136・SK156・SK157・SK202・SK203・ SK135・SK137・SK188・SK211より新 SA225・SK326・SK119・SD38・SD114より古	Ⅱ期	38	
	SI52	平坦面	竈軸: N-12°-E	4.50	4.40	在掘	なし	なし	壁材	北カマド	北西1・北東1	なし	なし	土師器・刀子・貯蔵器	SK188・SK211より新、SI51より古	Ⅱ期	38	
	SI113	平坦面	北辺: E-16°-S	(2.20)	(2.10)	在掘	(2基)	-	壁材・掘方	-	-	-	-	土師器	SD114・SD115・SD116より古	Ⅱ期	40	
	SI4	平坦面	竈軸: N-7°-E	4.30	4.10	在掘	4基	なし	壁材	北カマド	北東1	なし	なし	土師器	なし	Ⅱ期	66・67	
	SI5a	東向緩斜面	竈軸: N-21°-W	5.10	4.65	8	地山	なし	なし	北カマド	なし	なし	なし	なし	土師器	SI5b・SI5cより古	Ⅱ期	69
	SI5b	東向緩斜面	東辺: N-21°-W	5.74	4.74	-	-	4基	なし	北カマド	北東1	なし	なし	なし	土師器	SI5aより新、SI5cより古	Ⅱ期	70
SI5c	東向緩斜面	東辺: N-21°-W	5.90	5.22	9	在掘	4基	なし	北カマド	北東1	なし	なし	なし	土師器	SI5a・SI5bより新	Ⅱ期	71	
SI6	東向緩斜面	西辺: N-21°-W	(2.70)	(2.50)	-	在掘	-	-	-	-	-	-	-	土師器	なし	Ⅱ期	71	
SI9	平坦面	西辺: N-32°-W	(6.50)	(6.30)	8	在掘	(3基)	なし	周溝	-	-	-	-	土師器・須臾器	SB312より新、SB305・SB308・SB311・ SB373・SA310・SK60・SD8・SD74より古	Ⅱ期	73	
SI10	平坦面	西辺: N-1°-W	5.00	4.30	7	在掘	なし	なし	壁材	北カマド	北東1	なし	なし	土師器・刀子	SB295・SB373・SB374・SD63より古	Ⅱ期	75	
SI205a	南向緩斜面	西辺: N-8°-E	3.88	3.58	7	在掘	なし	なし	なし	北カマド	なし	暗渠溝2条	暗渠溝2条	土師器・須臾器	SI207・SB256より新、SI205b・SK257より古	Ⅱ期	105・106	
SI205b	南向緩斜面	竈軸: N-12°-E	3.88	3.58	6	在掘	なし	なし	壁材・掘方	北カマド	なし	暗渠溝2条	暗渠溝2条	土師器・須臾器	SI205a・SI207・SB256より新、SK257より古	Ⅱ期	107・108	
SI206	南向緩斜面	竈軸: N-7°-E	3.92	3.80	12	在掘	なし	なし	周溝	北カマド	北東1	なし	なし	土師器・須臾器	SB256・SB259・SK255より古	Ⅱ期	109・110	
SI207	南向緩斜面	竈軸: N-9°-E	4.44	3.54	9	在掘	なし	なし	なし	北カマド	なし	3基	なし	土師器・ロクロ土師器	SD264より新、SI205a・SI205b・SK257より古	Ⅱ期	111・112	
SI208	南向緩斜面	西辺: N-6°-E	4.80	(3.33)	-	在掘	4基	なし	周溝	-	-	-	-	土師器・須臾器	SK257より古	Ⅱ期	113	
SI209a	南向緩斜面	竈軸: E-21°-N	3.30	2.90	20	在掘	なし	なし	壁材	東カマド	南東1	なし	なし	なし	SI209bより古	Ⅱ期	114・115	
SI209b	南向緩斜面	竈軸: E-21°-N	3.30	2.90	6	在掘	なし	なし	壁材	東カマド	なし	満2条 柱穴1か所	満2条 柱穴1か所	ロクロ土師器・須臾器	SI209a・SA235より新	Ⅱ期	116	
SI213	南向緩斜面	西辺: N-14°-W	(5.32)	4.94	12	在掘	(3基)	なし	周溝	北カマド	北東2	2基	暗渠溝1条	土師器	SK243より古	Ⅱ期	118・119	
SI214	南向緩斜面	西辺: N-42°-W	(3.80)	(3.20)	-	在掘	-	-	周溝	-	-	-	-	土師器	SI216より新	平安	120	
SI215	南向緩斜面	竈軸: N-84°-E	3.32	3.28	7	在掘	なし	なし	なし	東カマド	北東1	3基	土坑1基	土師器	なし	Ⅱ期	121・122	
SI216	南向緩斜面	-	(1.70)	(1.60)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	SI214より古	古代	-	
SI217	南向緩斜面	竈軸: N-7°-E	5.60	4.36	26	在掘	なし	4基	周溝	北カマド	北東1・北東1	2条/(5.30・7.08)	暗渠溝1条 柱穴2か所	ロクロ土師器・須臾器	SI220a・SI221・SI222・SI228・SD234より新	Ⅱ期	123・124	
SI218	南向緩斜面	竈軸: N-71°-E	4.05	3.74	20	在掘	なし	なし	周溝	東カマド	なし	3基	なし	土師器・ロクロ土師器・ 須臾器・轆轤口	SI225・SI231・SD273より新、SB247より古	Ⅱ期	126・127	
SI219	南向緩斜面	北辺: N-88°-E	(5.10)	(3.90)	5	在掘	-	-	周溝	-	-	-	-	土師器	SK253より新、SB277・SK252・SD242より古	平安	129	
SI220a	南向緩斜面	西辺: N-9°-W	3.80	3.50	-	-	なし	2基	-	-	-	3基	-	土師器	SI217・SI220b・SI228・SI229・SB262・ SA279より古	Ⅱ期	130	
SI220b	南向緩斜面	西辺: N-9°-W	4.10	3.80	-	-	-	-	-	-	-	なし	-	なし	SI220aより新、SI228・SI229・SB262・SA279 より古	Ⅱ期	130	
SI221	南向緩斜面	東辺: N-7°-E	(5.30)	(2.50)	-	-	-	-	-	-	-	1条/(2.50)	-	土師器	SI222より新、SI217・SI223より古	Ⅱ期	-	
SI222	南向緩斜面	東辺: N-2°-E	4.60	(2.30)	-	-	-	-	-	中央炉	-	-	-	土師器・轆轤口	SI217・SI221より古	Ⅱ期	-	
SI223	南向緩斜面	東辺: N-4°-W	(3.63)	(3.54)	-	在掘	-	-	-	-	-	-	-	土師器・ロクロ土師器	SI221より新、SB275より古	Ⅱ期	132	
SI224	南向緩斜面	東辺: N-3°-E	(4.80)	(3.00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	SI225・SI244より古	Ⅱ期	-	
SI225	南向緩斜面	東辺: N-10°-E	4.86	3.82	34	住掘・地山	なし	14基	壁材・掘方	北カマド	北東1	3基	暗渠溝1条	土師器	SI224・SI226・SI231・SB277より新、SI218・ SI244・SB247より古	Ⅱ期	133-135	
SI226	南向緩斜面	竈軸: N-88°-E	(2.50)	(2.08)	10	在掘	-	-	-	東カマド	-	-	-	土師器・ロクロ土師器	SI225・SK274より古	平安	137	
SI227	南向緩斜面	-	(6.50)	(3.50)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	なし	Ⅱ期	-	
SI228	南向緩斜面	西辺: N-4°-W	3.12	(1.72)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	SI220a・SI220bより新、SI217・SI229・ SB262・SD234より古	Ⅱ期	138	
SI229	南向緩斜面	東辺: N-16°-E	3.35	2.84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器	SI220a・SI220b・SI228・SI230より新、 SB262・SB275・SD234より古	Ⅱ期	138	
SI230	南向緩斜面	西辺: N-5°-W	6.12	3.47	4	在掘	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	土師器・ロクロ土師器・砥石	SI229・SB262・SB275・SA279・SD234より古	Ⅱ期	139	
SI231	南向緩斜面	東辺: N-6°-E	5.28	4.66	15	在掘	4基	なし	なし	なし	1基	柱穴2か所	なし	土師器	SI218・SI225・SD273より古	Ⅱ期	140・141	
SI244	南向緩斜面	北辺: N-66°-W	(3.05)	(1.16)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器・須臾器	SI224・SI225より新、SB247より古	古代	142	

第4表 遺構観察表 掘立柱建物跡(1)

区	遺構名	位置	方向	構造	間数 桁×梁	総長 桁行×梁行 (m)	柱間寸法(北・西より)		柱六 (cm)				出土遺物	重複関係	時期	図
							桁行 (cm)	梁行 (cm)	平面形	長軸	短軸	深さ				
1区	SB352	平垣面	N-20°-E	南北棟側柱建物	1×(1)	3.16×(3.14)	316	314	楕円形・隅丸方形	29~32	25~31	13~16	なし		Ⅷ期	15
	SB353	平垣面	N-2°-E	東西棟側柱建物	1×(1)	2.42×(1.07)	242	107	楕円形・隅丸方形	23~25	20~22	10~14	なし		Ⅷ期	15
	SB354	北東向緩斜面	N-9°-W	東西棟側柱建物	2×2	6.58×(4.02)	(352)・(306)	(190)・(212)	楕円形・楕円形	26~36	23~32	16~22	なし		Ⅷ期	13
	SB355	北東向緩斜面	E-38°-N	南北棟側柱建物	2×1	(4.42)×(2.08)	(235)・(207)	(208)	楕円形・楕円形	23~32	17~26	16	なし		Ⅷ期	15
	SB356	平垣面	N-26°-E	南北棟側柱建物	(1)×1	(3.99)×(2.40)	(399)	(240)	楕円形・楕円形	18~37	15~24	10~16	なし	SA28より新	Ⅷ期	15
	SB358	平垣面	N-10°-E	南北棟側柱建物	1×1	(3.52)×(2.32)	(352)	(232)	楕円形	21~28	18~24	17~28	なし	SI163・SK187より新	Ⅷ期	14
	SB359	平垣面	N-45°-W	東西棟側柱建物	2×1	(6.34)×(2.82)	(312)・(322)	(282)	不整楕円形	20~34	20~29	18~31	なし	SD162より新	Ⅷ期	14
	SB360	平垣面	N-33°-E	東廂(縁)付 南北棟側柱建物	(2)×1	(4.47)×(3.81)	(226)・(221)	(381)	楕円形	20~28	18~24	13~37	なし	SK164より古	Ⅷ期	14
	SB361	平垣面	N-4°-W	東西棟側柱建物	1×1	(2.00)×(1.05)	(200)	(105)	楕円形	30~41	24~29	16	なし		Ⅷ期	15
	SB365	平垣面	N-30°-E	南北棟側柱建物	(2)×(1)	(3.50)×(2.12)	(174)・(176)	(212)	不整楕円形・隅丸方形	28~32	24~28	10~15	なし		Ⅷ期	31
	SB366	平垣面	N-4°-E	南北棟側柱建物	2×(1)	(5.01)×(3.04)	(238)・263	304	楕円形・楕円形	28~42	24~36	16~20	なし		Ⅷ期	31
	SB367	平垣面	N-15°-E	南北棟側柱建物	3×2	5.43×3.64	(349)・2間分・(194)	(182)・(182)	隅丸方形	25~74	23~58	12~24	土師器	SD49より古	Ⅱ期	29
	SB369	平垣面	N-10°-E	南北棟側柱建物	3×2	(4.67)×(3.92)	160-151・(156)	(195)・(197)	不整楕円形・楕円形	24~51	22~44	14~18	土師器	SK39・SK190より古	古代	29
	SB370	平垣面	N-7°-E	南北棟側柱建物	1×(1)	(3.40)×(2.16)	(340)	216	不整楕円形	25~39	19~32	10~30	なし		Ⅷ期	30
	SB371	平垣面	N-6°-W	側柱建物	1×1	3.68×3.60	368	360	不整楕円形	29~34	26~30	10~14	土師器		Ⅷ期	30
SB372	平垣面	N-9°-E	不明建物	2×(1)	(3.64)×(1.84)	(188)・(176)	(184)	隅丸方形	58~78	48~51	18~29	なし	SM40より新	古代	30	
SB106	平垣面	N-12°-E	東西棟側柱建物	3×1	6.30×3.00	230-180-220	300	隅丸方形・楕円形	32~42	24~28	17~38	なし		Ⅷ期	42	
SB107	平垣面	N-36°-E	南北棟側柱建物	2×1	2.70×2.50	140-130	250	隅丸方形・楕円形	26~37	24~35	36~48	土師器		Ⅷ期	43	
SB138	平垣面	N-13°-E	不明建物	(1)×(1)	(3.20)×(3.10)	320	(310)	楕円形	98~118	-	24~65	土師器・須恵器	なし	Ⅷ期	43	
SB139	南西向緩斜面	N-12°-E	三廂(縁)付 東廂(縁)の出： 東1.24・南1.26・北1.24	(2)×2	(6.14)×4.85	302-312		楕円形・隅丸方形	26~60	20~50	8~19	なし	SK131より新	Ⅷ期	44	
SB195	南西向緩斜面	N-14°-E	南北棟側柱建物	2×1	4.30×3.30	205-225	330	楕円形・楕円形	24~41	21~34	20~48	なし		Ⅷ期	45	
SB327	平垣面	N-5°-E	西廂(縁)・東出付 南北棟側柱建物	3×1	10.87×1.64 廂(縁)の出：0.50 東出：1.90(1間)	368-367-352	164	隅丸方形・楕円形	20~44	18~33	11~45	土師器	SD105より新	Ⅷ期	45	
SB328	平垣面	N-28°-W	南北棟側柱建物	2×(1)	3.55×(1.92)	194-161	192	楕円形	26~36	22~29	25~49	なし	SK119・SD116より新	Ⅷ期	48	
SB331	平垣面	N-13°-E	南北棟側柱建物	2×1	(3.50)×(1.96)	(172)・(178)	(196)	楕円形・楕円形	18~33	18~33	15~28	16	ロク口土師器	SD105より新	平安	46
SB342	南西向緩斜面	N-17°-E	東西棟側柱建物	1×1	(2.00)×1.80	(200)	180	楕円形	30~52	24~44	15~47	16~19	土師器・須恵器	なし	Ⅷ期	46
SB343	南西向緩斜面	N-11°-E	南北棟側柱建物	2×1	3.58×1.40	183-175	140	隅丸方形	28~30	23~28	15~27	12~17	土師器	なし	Ⅷ期	47
SB344	南西向緩斜面	E-15°-N	東西棟側柱建物	2×1	(5.00)×(2.93)	(256)・244	(293)	楕円形・隅丸方形	39~60	32~52	13~72	17~21	なし		古代	48
SB345	平垣面	N-15°-E	東西棟側柱建物	3×1	7.16×2.44	(232)・(238)・(246)	244	隅丸方形・楕円形	36~52	27~43	5~44	16	土師器・ロク口土師器・須恵器	なし	平安	47
SB20	平垣面	N-6°-E	東西棟側柱建物	3×2	(4.80)×(3.50)	(160)・(130)・(190)	(170)・180	隅丸方形	46~62	34~50	28~38	14~22	土師器		Ⅱ期	77
SB21	平垣面	N-7°-W	南北縁・廂付 東西棟側柱建物	3×2	6.22×3.97 縁の出：北1.36・南(1.53) 廂の出：北1.34・南(0.74)	224-204-194	163-234	楕円形・隅丸方形	24~70	20~56	11~76	13~22	土師器	SB295・SB304・SK67・SD63・SX62より新	Ⅷ期	79
SB22	平垣面	N-2°-E	東西棟側柱建物	2×1	4.70×3.80	220-250	380	楕円形・隅丸方形 ・隅丸方形	23~40	20~31	17~35	13~15	なし	SD8より新	Ⅷ期	80
SB23	平垣面	N-11°-E	四廂(縁)付 南北棟側柱建物	3×1	5.80×2.50 廂(縁)の出：0.42~1.04	190-210-180	250	楕円形・楕円形	22~40	20~34	15~50	10~20	土師器・鉄釘		Ⅷ期	81
SB281	平垣面	N-5°-E	南北棟側柱建物	1×1	(2.92)×1.60	(292)	160	楕円形	22~26	20~24	22	12~15	土師器	SD317より新	Ⅷ期	87
SB283	平垣面	W-50°-N	東西棟側柱建物	2×2	(3.15)×1.97	152-163	104-93	楕円形・楕円形	25~37	24~32	20~22	12~21	土師器		Ⅷ期	82
SB284	平垣面	N-7°-E	東西棟側柱建物	2×(1)	(4.41)×2.52	(224)・217	252	楕円形・隅丸方形	28~40	25~33	23~51	13~20	土師器		Ⅷ期	87
SB285	平垣面	N-8°-E	西廂(縁)付 南北棟側柱建物	(5)×1	(6.96)×(1.36) 廂(縁)の出：0.86	190-187-185-170・(164)	(136)	楕円形・隅丸方形	22~48	20~31	16~42	10~16	なし	SB364より古	Ⅷ期	82
SB286	平垣面	N-4°-E	南北棟側柱建物	2×2	3.32×2.90	170-162	136-154	楕円形	22~32	18~26	16~26	12~16	なし		Ⅷ期	82
SB287	平垣面	N-7°-E	南北棟側柱建物	2×1	5.40×1.98	268-272	198	楕円形・隅丸方形	21~26	20~24	13~29	12~14	土師器		Ⅷ期	87
SB288	平垣面	N-8°-E	南北棟側柱建物	1×1	(2.40)×(1.58)	(240)	(158)	楕円形・隅丸方形	26~30	22~28	15~22	-	土師器		Ⅷ期	87
SB290	平垣面	N-38°-E	側柱建物	(1)×1	(2.02)×(2.01)	(202)	(201)	楕円形	22~28	20~27	-	-	なし		Ⅷ期	87

第5表 遺構観察表 掘立柱建物跡(2)

区	遺構名	位置	方向	構造	間数 桁×梁	総長 桁行×梁行(m)	柱間寸法(北・西より)		平面形	柱穴(cm)			出土遺物	重層関係	時期	図	
							桁行(cm)	梁行(cm)		長軸	短軸	深さ					柱間跡径
4区	SB291	平垣面	N-31°-W	南北棟側柱建物	3×1	(5.60)×2.42	188-(202)-(170)	242	略円形・楕円形・隅丸方形	23~42	20~30	29~39	9~16	ロクロ土師器		平安	88
	SB294	平垣面	N-30°-E	東西棟側柱建物	1×1	1.34×1.00	134	100	略円形・楕円形	21~34	18~28	-	15~19	なし	SD63・SD318より新	Ⅷ期	88
	SB295	平垣面	N-7°-W	東西棟側柱建物	2×1	4.14×3.00	210・204	300	略円形・楕円形	28~31	22~29	8~39	12~16	なし	SI10・SD63・SK62より新 SB21より古	Ⅷ期	88
	SB298	平垣面	N-28°-E	東西棟側柱建物	1×1	1.31×1.12	131	112	楕円形	22~27	22~24	-	14~19	なし	SK204より新、SA297より古	Ⅷ期	88
	SB299	平垣面	E-23°-N	東西棟側柱建物	3×1	(5.38)×1.76	196-(184)-(158)	176	略円形・不整楕円形	21~34	18~30	13	16~28	土師器		Ⅷ期	89
	SB301	平垣面	N-17°-W	南北棟側柱建物	2×2	(4.50)×(1.88)	(226)-(224)	(96)-(92)	略円形・隅丸方形・不整楕円形	24~40	22~30	15	16	なし	SA300より古	Ⅷ期	89
	SB302	平垣面	N-37°-E	南北棟側柱建物	1×1	1.48×1.46	148	146	不整楕円形・隅丸方形	28~32	19~28	11~25	13~20	なし		Ⅷ期	88
	SB304	平垣面	N-46°-E	南北棟側柱建物	3×(1)	(6.31)×(2.20)	(203)-(198)-(230)	(220)	不整楕円形・楕円形	22~56	20~48	12~17	14	なし	SB21より古	Ⅷ期	89
	SB305	平垣面	N-5°-W	東西棟(緑)付 床束建物	(3)×2	(7.55)×4.46 (緑)の出:西1.15・東1.20	(240)-(256) -259	225・220	略円形・楕円形	28~56	20~38	10~59	12~20	土師器	SI9・SD8より新 SB373・SE60より古	Ⅷ期	83
	SB306	平垣面	N-19°-W	南北棟側柱建物	(1)×1	(3.09)×2.20	309	220	楕円形・隅丸方形	28~36	20~27	14~30	12~16	なし	SD8より新	Ⅷ期	90
	SB307	平垣面	N-14°-E	東西棟側柱建物	2×1	3.02×1.52	146・156	152	略円形	20~28	24~24	25~31	10~15	なし	SD8・SD74より新	Ⅷ期	91
	SB308	平垣面	N-6°-W	南北棟側柱建物	2×1	(2.25)×(1.52)	(106)-(119)	(152)	略円形	20~24	17~20	24~38	12	なし	SI9より新	Ⅷ期	89
	SB309	平垣面	W-6°-N	北・東棟(緑)付 建物	2×-	4.62× (緑)の出:北1.90・東1.92	(224)-(238)	-	隅丸方形・楕円形	25~57	25~44	21~40	12	土師器	SD8より新、SK58より古	Ⅷ期	83
	SB311	平垣面	N-11°-E	東西棟側柱建物	2×1	(4.68)×2.68	224・244	268	略円形・隅丸方形	19~41	16~34	9~34	14~20	土師器	SI9・SB312より新、SE60より古	Ⅷ期	90
SB312	平垣面	N-5°-E	南北棟側柱建物	1×1	(2.68)×(2.22)	(268)	(222)	不整楕円形・隅丸方形	42~56	24~38	19~21	17~22	なし	SI9・SB311・SB313・SB314・ SA310・SE60より古	Ⅷ期	91	
SB313	平垣面	N-8°-E	南北棟側柱建物	2×2	(2.08)×(2.34)	(208)-(212)	(111)-(127)	隅丸方形	20~46	20~45	20~25	-	土師器・中世陶器	SB312より新、SB314より古	Ⅷ期	84	
SB314	平垣面	N-29°-W	東西棟床束建物	(2)×(2)	(2.88)×(3.78)	128-(160)	(174)-204	略円形・不整楕円形	24~43	23~34	10~24	15~17	土師器	SB312より新、SB313より新	Ⅷ期	90	
SB364	平垣面	N-9°-E	南北棟側柱建物	2×1	3.65×2.00	192・173	200	略円形・楕円形	26~33	19~28	7~34	14~28	なし	SB285より新	Ⅷ期	90	
SB373	平垣面	E-2°-S	南・北棟(緑)付 東西棟床束建物	3×2	8.31×4.34 (緑)の出:北1.24・南1.12	279-263-(289)	(248)-(186)	略円形・楕円形	20~40	18~33	14~37	12~17	土師器	SI9・SI10・SB305・SK68・ SK80・SD8より新	Ⅷ期	85	
SB374	平垣面	N-35°-W	南北棟側柱建物	3×2	(8.38)×(5.58)	(268)-(288)-(282)	(280)-(278)	楕円形	24~40	18~30	12~34	15	土師器	SI10・SD8より新	Ⅷ期	86	
SB247	南向緩斜面	N-1°-E	東西棟側柱建物	2×2	(4.50)×(3.20)	(200)-240	(176)-144	隅丸方形	22~75	20~52	13~60	12~30	土師器 ロクロ土師器	SI218・SI225・SI244・SB275 より新	平安	143	
SB256	南向緩斜面	N-24°-E	西・南棟列付 東西棟床束建物	4×2	6.81×5.07 西側付属柱列:2.08 南側付属柱列:2.48	182・182-(182) (195) 西側付属柱列: (96)-(112) 南側付属柱列: (106)-142	222・285	身舎側柱: 220~308 隅丸長方形(桁幅) 38~102 身舎床束: 52~64 付属柱列: 121~145	身舎側柱: 52~92 30~58 身舎床束: 45~48 付属柱列: 20~44	身舎: 6~85 8~55 20~28 30~48	16~42 付属柱列: 13~23	土師器	SI206・SB259より新 SI205より古	Ⅱ期	144		
SB259	南向緩斜面	N-23°-E	東西棟側柱建物	2×2	4.60×3.60	(244)-(216)	(174)-(186)	隅丸方形	40~76	34~50	34~50	14~28	土師器	SI206より新、SB256より古	Ⅱ期	143	
SB262	南向緩斜面	N-5°-E	側柱建物	1×1	3.00×3.00	300	300	隅丸方形	45~56	28~40	54~57	6~34	ロクロ土師器	SI220a・SI220b・SI228・ SI229・SI230・SA279・SD234 より新	Ⅲ期	146	
SB275	南向緩斜面	N-11°-E	南北棟側柱建物	2×1	(3.85)×(3.50)	(385)	140-(210)	隅丸方形・楕円形	34~48	25~44	28~52	14~23	土師器	SI223・SI229・SI230より新、 SB247より古	平安	146	
SB277	南向緩斜面	E-0°-W	南北棟側柱建物	3×2	(4.88)×(4.70)	(244)-(244)	(150)-(160)-(160)	隅丸方形	28~42	24~40	16~49	12	なし	SI219より新、SI225・SD242 より古	平安	147	

第6表 遺構観察表 柱列跡・材木堀跡

区	遺構名	位置	方向	構造	間数	総長 (m)	柱間寸法 (北・西より) (cm)	柱穴 (cm)				出土遺物	重複関係	時期	図	
								平面形	長軸	短軸	深さ					柱間距離
1区	SA351	平垣面	N-14°-E	南北柱列	2間	(2.97)	(146) - (151)	楕円形	23 ~ 27	18 ~ 24	10 ~ 18	-	なし		VI期	16
	SA357	平垣面	N-16°-E	南北柱列	2間	(4.36)	224 - (212)	略円形・楕円形	25 ~ 31	24 ~ 28	13 ~ 20	14 ~ 16	なし		VI期	16
2区	SA40	平垣面	N-10°-E	南北柱列	2間	(4.06)	(160) - (246)	略円形・楕円形	30 ~ 50	35 ~ 44	13 ~ 64	16	なし	SR372より古	古代	30
	SA368	平垣面	N-28°-E	南北柱列	(3間)	(7.45)	(252) - (243) - (250)	楕円形・略円形	31 ~ 39	29 ~ 37	29 ~ 41	14	なし		VI期	32
	SA111	平垣面	W-11°-N	東西柱列	2間	(3.80)	200 - (180)	略円形・楕円形	41 ~ 46	37 ~ 42	29 ~ 39	22 ~ 24	土師器		II期	49
	SA324	平垣面	W-6°-N	東西柱列	4間	(4.56)	(124) - (102) - (98) - (132)	略円形・楕円形	23 ~ 46	21 ~ 38	15 ~ 42	14	土師器・中世陶器		VI期	49
	SA325	平垣面	東西：W-40°-N 南北：N-41°-E	東西・南北柱列	3間	(10.88)	北側柱列：(380) - (356) - 352 南側柱列：(274) - (316) - (304) - (315)	略円形・楕円形	22 ~ 42	20 ~ 33	5 ~ 37	12 ~ 28	土師器・陶器	S151より新	VI期	50
	SA326	平垣面	N-8°-E	南北柱列	3間	(1.64)	(56) - (52) - (56)	略円形	20 ~ 23	19 ~ 22	17 ~ 25	-	なし	S151より新	VI期	49
	SA329	平垣面	W-14°-N	東西柱列	2間	(3.86)	(184) - (202)	略円形	37 ~ 40	37 ~ 38	20 ~ 30	16	土師器	なし	VI期	51
	SA330	平垣面	W-13°-N	東西柱列	2間	(3.58)	(176) - (182)	楕円形	32 ~ 44	32 ~ 37	24 ~ 33	14	土師器	SD24・SD109より新	VI期	51
3区	SA334	南面向緩斜面	N-22°-E	南北柱列	2間	4.07	198-208	楕円形	37 ~ 42	32 ~ 40	27 ~ 28	18 ~ 19	なし		VI期	52
	SA335	南面向緩斜面	N-18°-E	南北柱列	2間	(4.29)	147-170	略円形	25 ~ 31	20 ~ 28	10 ~ 25	10 ~ 16	土師器	なし	VI期	51
	SA336	南面向緩斜面	E-2°-N	東西柱列	2間	3.68	200-168	略円形	29 ~ 39	22 ~ 38	11 ~ 22	11 ~ 24	なし		VI期	52
	SA337	南面向緩斜面	E-13°-N	東西柱列	2間	4.08	200-168	楕円形・略円形	30 ~ 42	25 ~ 41	28 ~ 51	16 ~ 18	土師器	SK131より新	VI期	52
	SA338	南面向緩斜面	N-3°-E	南北柱列	2間	4.08	(312) - (336)	略円形	30 ~ 42	22 ~ 38	11 ~ 22	11 ~ 24	なし		VI期	53
	SA340	南面向緩斜面	E-4°-S	東西柱列	2間	4.81	208-200	略円形	28 ~ 32	25 ~ 28	25 ~ 59	16 ~ 17	なし		VI期	53
	SA341	平垣面	N-18°-E	南北柱列	2間	4.78	232-246	略円形	26 ~ 34	22 ~ 27	23	11 ~ 14	なし		VI期	52
	SA34	平垣面	W-16°-N	東西柱列	3間	4.70	(150) - (140) - 180	楕円形・略円形	24 ~ 28	24 ~ 27	10 ~ 25	12 ~ 24	なし		平安	52
4区	SA282	平垣面	W-11°-N	東西柱列	4間	7.05	152-200 - (198) - (155)	楕円形	34 ~ 40	29 ~ 34	30 ~ 58	11 ~ 15	なし		VI期	93
	SA289	平垣面	E-21°-N	東西柱列	4間	(3.72)	(88) - 96 - 100 - 88	楕円形	24 ~ 42	22 ~ 31	-	12 ~ 24	土師器		II期	91
	SA292	平垣面	N-46°-E	南北柱列	2間	(2.88)	(142) - (146)	不整形楕円形・楕円形	24 ~ 32	20 ~ 30	11 ~ 24	14	なし		VI期	91
	SA293	平垣面	N-11°-E	南北柱列	3間	(7.70)	(266) - (250) - (254)	略円形・楕円形・不整形楕円形	25 ~ 36	24 ~ 35	32	24	土師器	SD63・SD318より新, SX53より古	VI期	92
	SA296	平垣面	N-7°-W	南北柱列	5間	(9.25)	(180) - (224) - (183) - (158) - (180)	略円形・不整形楕円形	18 ~ 28	16 ~ 25	29	12	なし	SD63・SD318より新, SX53より古	VI期	92
	SA297	平垣面	E-5°-N	東西柱列	2間	(4.38)	(214) - (224)	略円形・楕円形	32 ~ 37	28 ~ 29	-	-	なし	SR298より新	VI期	91
	SA300	平垣面	E-5°-N	東西柱列	2間	(4.48)	(225) - (223)	不整形楕円形	32 ~ 38	24 ~ 28	19	-	なし	SK68・SD63・SX62より新, SX53より古	VI期	92
	SA303	平垣面	E-3°-N	東西柱列	3間	6.42	217-207-218	略円形	25 ~ 30	23 ~ 29	12 ~ 29	14 ~ 17	なし	SK68・SD63・SX62より新	VI期	91
	SA310	平垣面	N-2°-W	南北柱列	4間	8.54	216-200-246-192	略円形・楕円形	20 ~ 27	18 ~ 24	22 ~ 39	8 ~ 16	なし	SR301・SD63・SX62より新, SX53より古	VI期	92
	SA315	平垣面	N-19°-E	南北柱列	3間	(5.09)	(164) - (161) - (184)	不整形楕円形	24 ~ 40	21 ~ 28	23 ~ 24	-	須恵器	SR312より新	VI期	93
5区	SA246	南面向緩斜面	E-0°-S	東西柱列	2間	(2.90)	(140) - (150)	略円形	46 ~ 58	44 ~ 50	24 ~ 50	15	なし		古代	147
	SA254	南面向緩斜面	N-5°-W	南北柱列	3間	(6.00)	(180) - (220) - (200)	略円形	40 ~ 48	26 ~ 38	38 ~ 40	-	土師器		古代	148
	SA278	南面向緩斜面	E-22°-N	東西柱列	2間	5.32	260-272	不整形楕円形・楕円形	22 ~ 28	20 ~ 24	29 ~ 37	12 ~ 14	土師器		平安	148
	SA279	南面向緩斜面	E-26°-N	東西柱列	3間	(7.38)	(258) - (240) - (240)	略円形・不整形楕円形・楕円形	16 ~ 52	16 ~ 34	13 ~ 46	-	なし	S1220a・S1220b・S1230・SD234より新, SR262より古	III期	149
	SA280	南面向緩斜面	W-43°-N	南北柱列	2間	(5.24)	(256) - (268)	略円形・楕円形	20	16 ~ 18	7 ~ 11	-	なし		-	149
区	遺構名	位置	方向	構造	柱列跡	総長 (m)	掘方 (cm)	出土遺物	重複関係				時期	図		
1区	SA28	平垣面	W-23°-N	東西柱列	30か所	(14.00)	幅 43 ~ 52 深さ 29 ~ 59	柱間距離 18 ~ 28	土師器				III期	18		
	SA167	平垣面	N-6°-E	南北柱列	18か所	(6.40)	幅 19 ~ 33 深さ 10 ~ 22	柱間距離 19 ~ 43	なし				古代	18		
4区	SA76	東面向緩斜面	N-25°-E	南北柱列	31か所	(14.00)	幅 27 ~ 58 深さ 30 ~ 40	柱間距離 13 ~ 43	なし				II期	94		
	SA235	南面向緩斜面	N-21°-E	南北柱列	21か所	(13.00)	幅 35 ~ 42 深さ 10 ~ 80	柱間距離 10 ~ 28	土師器・須恵器				II期	151		
5区	SA235	南面向緩斜面	W-23°-N	東西柱列	70か所	(41.80)	幅 35 ~ 42 深さ 10 ~ 80	柱間距離 10 ~ 28	土師器・須恵器				II期	151		

第7表 遺構観察表 土坑(1)

区	遺構名	位置	形状			規模(m)			出土遺物	重複関係	時期	図	
			平面	横断面	底面	長	幅	深					
1区	SK12	北東向緩斜面	-	皿状	凹凸あり	(0.90)	(0.55)	0.06	なし	なし	-	20	
	SK16	北東向緩斜面	溝状	逆台形	平坦	1.66	0.16	0.12	なし	なし	-	20	
	SK17	北東向緩斜面	楕円形	皿状	平坦	0.95	0.90	0.10	なし	なし	-	20	
	SK19	平坦面	溝状	皿状	平坦	2.40	0.30	0.19	なし	なし	-	20	
	SK26	平坦面	円形	逆台形	平坦	0.78	0.72	0.55	なし	SK45より新	-	20	
	SK27	平坦面	溝状	逆台形	平坦(段有)	1.92	0.32	0.21	なし	なし	-	20	
	SK29	北東向緩斜面	楕円形	逆台形	平坦	0.95	0.65	0.25	なし	なし	-	21	
	SK30	北東向緩斜面	楕円形	逆台形	平坦	0.69	0.60	0.30	なし	なし	-	21	
	SK32	北東向緩斜面	楕円形	皿状	皿状	0.63	0.42	0.11	なし	なし	-	21	
	SK33	北東向緩斜面	楕円形	逆台形	平坦	0.90	0.50	0.17	なし	なし	-	21	
	SK45	平坦面	溝状	V字型	皿状	1.98	0.47	0.33	なし	SK26より古	-	21	
	SK164	平坦面	不整楕円形	逆台形	凹凸あり	2.16	1.97	0.50	土師器・ロクロ土師器	SB360・SK172より新	平安	19	
	SK170	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦	1.66	1.55	0.40	なし	なし	-	21	
	SK172	平坦面	楕円形	浅い皿状	平坦	(1.20)	0.89	0.08	土師器・ロクロ土師器	SK164より古	平安	-	
	SK173	平坦面	-	逆台形	平坦	1.40	(0.60)	0.70	なし	なし	-	21	
	SK174	平坦面	楕円形	逆台形	平坦	1.36	1.02	0.85	なし	なし	-	21	
	SK175	平坦面	不整円形	逆台形	皿状	0.61	0.60	0.34	なし	なし	-	22	
	SK176	平坦面	楕円形	皿状	平坦	0.68	0.55	0.15	なし	なし	-	22	
	SK178	平坦面	隅丸方形	U字状	皿状	0.66	0.56	0.22	土師器	なし	-	22	
	SK180	平坦面	-	皿状	凹凸あり	(0.80)	0.91	0.16	土師器	なし	Ⅱ期	20	
	SK183	平坦面	-	皿状	平坦	(0.85)	(0.48)	(0.21)	なし	SD162より古	-	22	
	SK184	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦(段有)	1.08	0.86	0.72	なし	なし	-	22	
	SK186	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦	0.82	0.42	0.40	なし	SI163より古	-	22	
	SK187	平坦面	溝状	-	-	2.64	0.30	-	-	SI163・SB358より古	-	22	
	SK196	平坦面	隅丸方形	皿状	平坦	1.20	0.70	0.13	なし	SK169より古	-	22	
	SK197	平坦面	楕円形	皿状	逆台形	0.90	0.70	0.10	なし	なし	-	22	
	SK200	平坦面	楕円形	皿状	平坦	0.66	0.55	0.12	なし	SD162・SD201より新	-	22	
	SK362	平坦面	溝状	-	-	3.40	0.30	-	なし	-	-	-	
	SK363	平坦面	隅丸方形	-	-	1.10	1.10	-	なし	なし	-	-	
	2区	SK39	平坦面	隅丸方形	逆台形	凹凸あり	2.00	1.63	0.30	土師器	SB369より新	V期	32
		SK41	平坦面	-	逆台形	凹凸あり	(2.45)	0.83	0.62	ロクロ土師器・須恵器	なし	V期	32
		SK44	平坦面	不整方形	箱形	平坦	(0.86)	0.86	0.50	土師器	なし	V期	32
		SK47	平坦面	楕円形	逆台形	皿状	8.20	4.10	0.38	なし	SD1より古	Ⅱ期	32
SK190		平坦面	隅丸方形	皿状	平坦	2.39	1.74	0.30	なし	SB369より新、SK191より古	V期	35	
SK191		平坦面	楕円形	逆台形	平坦	0.91	0.76	0.46	なし	SK190より新	-	35	
SK192		平坦面	不整楕円形	逆台形	平坦	1.43	1.13	0.43	なし	なし	-	35	
SK194		平坦面	隅丸方形	皿状	平坦	2.04	0.94	0.28	なし	なし	-	35	
SK101		平坦面	不整楕円形	U字状	平坦(段有)	2.04	1.34	0.78	土師器	SK102・SK103より新	古代	55	
SK102		平坦面	-	逆台形	東に緩く傾斜	(1.86)	(1.22)	0.52	土師器	SK103より新、SK101より古	古代	55	
SK103	平坦面	-	逆台形	西に緩く傾斜	0.66	(0.90)	0.63	なし	SK101・SK102より古	古代	55		
SK108	平坦面	溝状	漏斗状	皿状(段有)	(2.44)	0.49	0.60	なし	なし	-	58		
SK110	平坦面	-	-	-	(0.49)	(0.27)	(0.08)	なし	SE36より新	-	-		
SK112	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦	0.53	0.44	0.28	土師器	なし	Ⅱ期	56		
SK117	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦(段有)	0.57	0.51	0.19	なし	SI113と重複	-	56		
SK118	平坦面	不整円形	台形	中央部が高い	0.88	0.84	0.19	土師器・中世陶器	なし	-	56		
SK119	平坦面	不整方形	浅い皿状	平坦	1.15	0.76	0.09	土師器	SI51・SX137より新、SB328より古	-	58		
SK120	平坦面	隅丸方形	箱形	平坦	0.77	0.61	0.47	土師器	なし	-	-		
SK125	平坦面	不整楕円形	皿状	東に緩く傾斜	1.12	0.82	0.14	土師器・中世陶器	SD123より新	Ⅶ期	56		
SK126	平坦面	不整方形	皿状	東に緩く傾斜	0.82	0.38	0.06	土師器	なし	-	58		
SK128	平坦面	-	逆台形	皿状(段有)	(1.05)	(0.53)	0.48	土師器	なし	-	58		
SK131	南西向緩斜面	不整楕円形	浅い皿状	平坦	1.64	1.02	0.09	土師器	SB139・SA337より古	-	56		
SK133	平坦面	不整方形	-	-	0.59	0.41	-	なし	なし	-	-		
SK134	平坦面	不整形	皿状	皿状	0.89	0.65	0.10	土師器・須恵器	なし	-	58		
SK136	平坦面	隅丸方形	逆台形	平坦	(0.86)	0.68	0.35	土師器	SK156より新、SI51より古	Ⅱ期	57		
SK140	南西向緩斜面	隅丸方形	箱形	平坦	0.70	0.58	0.19	なし	なし	-	58		
SK142	南西向緩斜面	隅丸方形	逆台形	平坦	0.81	0.61	0.26	土師器・ロクロ土師器	SK143・SD132より古	平安	56		
SK143	南西向緩斜面	不整形	V字型	皿状	(0.60)	0.53	0.39	ロクロ土師器・須恵器	SK142より新	平安	56		
SK147	南西向緩斜面	楕円形	逆台形	平坦	1.10	0.76	0.09	なし	なし	-	58		
SK148	平坦面	隅丸方形	逆台形	北に緩く傾斜	0.79	0.62	0.15	なし	なし	-	59		
SK149	平坦面	不整方形	皿状	平坦	0.62	0.34	0.09	なし	なし	-	58		
SK150	平坦面	隅丸方形	浅い皿状	平坦	0.55	0.44	0.06	なし	なし	-	58		
SK152	平坦面	楕円形	箱形	平坦	0.73	0.27	0.34	なし	SD114・SD115・SD129より古	-	57		
SK153	平坦面	円形	逆台形	平坦	0.87	0.80	0.33	なし	なし	-	58		
SK154	平坦面	不整方形	逆台形	平坦	0.92	0.64	0.14	なし	なし	-	57		
SK156	平坦面	-	皿状	皿状	(1.21)	(0.85)	0.15	なし	SI51・SK136より古	Ⅱ期	57		
SK157	平坦面	不整方形	皿状	南側窪む	1.26	0.79	0.21	なし	SK202より新、SI51・SD114・SD115より古	Ⅶ期	59		
SK158	平坦面	不整形	U字状	皿状	(1.96)	0.58	0.32	なし	SD116より古	-	59		
SK159	平坦面	-	皿状	皿状	0.72	0.38	0.15	なし	なし	-	-		
SK160	平坦面	不整円形	皿状	皿状	0.58	0.56	0.25	なし	なし	-	59		
SK202	平坦面	-	U字状	皿状	(0.63)	(0.61)	0.36	なし	SK203より新、SI51・SK157・SD115より古	Ⅱ期	59		
SK203	平坦面	-	逆台形	平坦	(0.93)	(0.37)	0.56	なし	SI51・SK202より古	Ⅱ期	59		
SK212	平坦面	隅丸方形	U字状	皿状	0.24	0.20	0.13	土師器・須恵器	-	Ⅱ期	56		
4区	SK3	平坦面	楕円形	皿状	平坦	0.65	0.53	0.12	土師器	なし	-	97	
	SK7	平坦面	楕円形	-	-	0.84	0.50	-	土師器	なし	-	-	
	SK55	平坦面	隅丸方形	皿状	平坦	1.15	0.39	0.05	土師器	なし	-	97	
	SK58	平坦面	不整方形	逆台形	平坦(段有)	0.79	0.72	0.45	砥石・漆器	SB309より新	Ⅶ期	97	
	SK64	平坦面	円形	円筒形	皿状	0.75	0.69	0.58	土師器	なし	-	98	
	SK67	平坦面	不整方形	逆台形	平坦(段有)	2.54	1.00	0.45	なし	SB21・SK80・SX62より新	-	98	
	SK68	平坦面	不整方形	逆台形	平坦	1.60	0.84	0.44	なし	SB373・SA303より古	-	98	
	SK69	平坦面	不整楕円形	逆台形	平坦	2.60	1.70	0.85	土師器	なし	-	99	
	SK70	平坦面	楕円形	円筒形	皿状	0.89	0.69	0.74	なし	なし	-	99	
SK71	平坦面	隅丸方形	U字状	皿状	1.06	0.90	0.65	曲物	なし	-	97		
SK78	東向緩斜面	楕円形	皿状	皿状	0.75	0.65	0.18	なし	なし	-	99		

第8表 遺構観察表 土坑(2)・溝跡(1)

区	遺構名	位置	形状			規模(m)			出土遺物	重複関係	時期	図
			平面	横断面	底面	長	幅	深				
4区	SK80	平坦面	楕円形	皿状	皿状	0.89	0.56	0.08	なし	SK67より新、SB373より古	-	98
	SK204	平坦面	隅丸方形	-	-	1.22	1.18	-	土師器	SB298より古	-	-
	SK319	平坦面	-	-	-	(0.62)	0.68	-	なし	なし	-	-
	SK320	平坦面	-	-	-	0.76	(0.26)	-	なし	なし	-	-
	SK321	平坦面	-	-	-	1.18	(0.52)	-	なし	なし	-	-
	SK322	平坦面	不整形	皿状	平坦	0.68	0.58	0.15	なし	SD8より新	-	99
	SK323	平坦面	隅丸方形	-	-	0.72	0.66	-	なし	-	-	-
	SK346	平坦面	-	-	-	(1.76)	(1.42)	-	なし	SE11より古	-	-
	SK347	平坦面	溝状	-	-	2.66	0.46	-	なし	なし	-	-
	SK348	平坦面	円形	逆台形	北に緩く傾斜	0.66	0.60	0.28	なし	-	-	99
SK349	平坦面	-	-	-	2.02	(1.10)	-	なし	なし	-	-	
SK350	平坦面	円形	-	-	1.08	1.08	-	なし	なし	-	-	
5区	SK243	南向緩斜面	不整形	逆台形	平坦	1.90	1.12	0.41	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI213より新	平安	150
	SK248	南向緩斜面	隅丸方形	U字状	皿状	0.72	0.68	0.29	ロクロ土師器	なし	平安	-
	SK249	南向緩斜面	楕円形	U字状	皿状	(1.10)	0.78	0.54	ロクロ土師器	なし	-	150
	SK252	南向緩斜面	不整形	逆台形	皿状(段有)	1.68	0.80	0.55	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI219より新、SD242より古	平安	150
	SK253	南向緩斜面	不整形	逆台形	平坦	0.92	0.76	0.23	ロクロ土師器	SI219・SD242より古	VI期	152
	SK255	南向緩斜面	不整形	逆台形	凹凸あり	1.28	0.88	0.28	なし	SI206より新	-	154
	SK257	南向緩斜面	不整形	逆台形	北に緩く傾斜(段有)	1.28	1.00	0.35	土師器・ロクロ土師器	SI205a・SI205b・SI207・SI208より新	III期	153
	SK265	南向緩斜面	不整形	皿状	皿状	1.20	0.70	0.21	なし	なし	-	154
	SK267	南向緩斜面	不整形	逆台形	東に緩く傾斜	2.62	(2.28)	0.43	土師器・須恵器・羅臼口	なし	古代	153
	SK268	南向緩斜面	楕円形	U字状	皿状(段有)	0.64	(0.32)	0.31	なし	なし	-	154
SK269	南向緩斜面	不整形	皿状	皿状	0.96	0.94	0.21	なし	なし	-	154	
SK274	南向緩斜面	不整形	逆台形	西に緩く傾斜	1.18	1.10	0.48	なし	SI226より新	-	154	

区	遺構名	位置	方向	規模(m)				断面形	出土遺物	重複関係	時期	図
				検出長	上端幅	下端幅	深					
1区	SD13	北東向緩斜面	S-N	4.10	0.20~0.30	0.08~0.10	0.06	皿状	なし	SD14より新	-	25
	SD14	北東向緩斜面	NW-SE	2.20	0.22~0.25	0.08~0.12	0.02~0.04	皿状	なし	SD13より古	-	25
	SD15	北東向緩斜面	S-N	1.30	0.18~0.28	0.09~0.20	0.05	皿状	なし	なし	-	25
	SD161	平坦面	E-W・S-N	東西:21.60 南北:8.50	0.55~1.07	0.24~0.82	0.20~0.50	逆台形	中世陶器・ロクロ土師器・須恵器	SD162より新	VII期	23
	SD162	平坦面	E-W	52.80	2.10~3.50	0.62~2.30	0.53~0.88	逆台形	土師器・ロクロ土師器	SK183・SD201より新、SB359・SK200・SD161より古	II期	23
	SD166	平坦面	S-N	12.70	1.00~(1.30)	0.55~(1.15)	0.20~0.44	逆台形	なし	なし	古代	23
	SD168	平坦面	NW-SE	12.50	0.20~0.35	0.08~0.10	0.04~0.12	逆台形	なし	SA167・SX169より古	-	25
	SD177	平坦面	NE-SW	5.00	0.28~0.36	0.14~0.22	0.09~0.15	皿状	土師器	なし	-	23
	SD179	平坦面	NW-SE	4.00	0.56~1.00	0.48~1.00	0.01~0.11	皿状	なし	なし	-	23
	SD181	平坦面	S-N	5.40	0.18~0.26	0.11~0.15	0.06~0.10	U字状	土師器	SI163より新	-	23
SD185	平坦面	NE-SW	1.90	0.92~1.00	0.64~0.68	0.36~0.50	逆台形	土師器	SA28より新	II期	23	
SD198	平坦面	S-N	3.80	0.18~0.28	0.09~0.13	0.02~0.04	皿状	なし	なし	古代	25	
SD199	平坦面	S-N	1.60	0.20~0.40	0.15~0.20	0.04~0.10	皿状	なし	なし	-	25	
SD201	平坦面	NE-SW	2.60	0.22~0.36	0.08~0.15	0.10~0.11	皿状	なし	SD162・SK200より古	-	25	
2区	SD1	平坦面	E-W	8.20	1.20~1.54	0.73~1.00	0.30~0.38	皿状	ロクロ土師器	SK47より新	II期	36
	SD42	平坦面	NE-SW	1.20	0.32~0.40	0.22~0.26	0.35	U字状	土師器	なし	-	36
	SD49	平坦面	E-W・S-N	東西:7.00 南北:2.50	0.90~1.42	0.70~2.16	0.14~0.40	逆台形	土師器	SB367より新	II期	36
	SD189	平坦面	E-W	2.40	0.44~0.52	0.20~0.26	0.07~0.24	U字状	なし	なし	-	36
	SD193	平坦面	E-W	3.70	0.31~0.38	0.15~0.18	0.04~0.13	皿状	なし	なし	-	36
3区	SD24	平坦面	S-N	10.00+4.50	1.12~1.37	0.20~0.37	0.36~0.52	逆台形	土師器・須恵器・紡錘車	SD50・SD109より新、SA330より古	VI期	60
	SD38	平坦面		東西:4.00+3.50 南北:6.90+0.30	0.19~0.39	0.10~0.23	0.07~0.15	皿状	土師器・ロクロ土師器・赤焼土器	SI51より新、SD116より古	VI期	-
	SD50	平坦面		東西:9.00+1.50 南北:2.50+4.00	0.29~0.78	0.17~0.54	0.24~0.48	逆台形	土師器・須恵器	SD24・SD109・SD155より古	II期	-
	SD105	平坦面	NW-SE	11.00	0.26~0.41	0.19~0.28	0.09~0.21	逆台形	土師器	SB327・SB331より古	-	-
	SD109	平坦面	S-N	10.00+4.50	0.32~0.60	0.13~0.35	0.29~0.50	逆台形	なし	SD50より新、SA330・SD24より古	VI期	60
	SD114	平坦面	S-N	5.50	0.14~0.27	0.06~0.17	0.05~0.09	皿状	土師器	SI51・SI113・SK152・SK157・SD115・SD129より新、SD114より古	-	-
	SD115	平坦面	S-N	6.00	0.20~0.30	0.10~0.20	0.05~0.20	皿状	土師器	SI113・SK152・SK157・SK202・SD129より新、SD114より古	-	-
	SD116	平坦面	E-W	7.50	0.89~1.12	0.66~0.76	0.16~0.22	逆台形	ロクロ土師器	SI113・SK158・SD38より新、SB328より古	VI期	-
	SD122	平坦面	S-N	10.00	1.17	0.28~0.98	0.10~0.35	逆台形	土師器・中世陶器・砥石	SD123より新	VI期	60
	SD123	平坦面	S-N	10.00	1.36~1.80	0.20~0.75	0.69~0.85	逆台形	なし	SK125・SD122より古	VI期	60
SD124	平坦面	S-N	10.00+4.50	1.12~1.37	0.02~0.37	0.36~0.52	逆台形	土師器	なし	VI期	-	
SD129	平坦面	E-W	1.70	0.36~0.40	0.22~0.32	0.10~0.15	逆台形	なし	SK152より新、SD114・SD115より古	-	-	
SD132	南西向緩斜面	E-W	4.80	0.18~0.30	0.08~0.22	0.08~0.10	皿状	土師器	SK142より新	-	-	
SD155	平坦面	NW-SE	4.50	0.13~0.29	0.10	0.03~0.08	皿状	なし	SD50より新	VI期	-	
4区	SD8	平坦面	S-N	11.00	1.25~1.82	0.94~1.16	0.50~0.58	逆台形	土師器・ロクロ土師器	SI9より新、SB22・SB305・SB306・SB307・SB309・SB373・SB374・SK322より古	VI期	100
	SD63	平坦面	NE-SW	17.40	0.19~0.98	0.13~0.68	0.06~0.17	皿状	なし	SI10より新、SB21・SB294・SB295・SA293・SA296・SA300・SA303・SE57・SD318・SX53・SX62より古	-	101
	SD72	平坦面	S-N	3.10	0.16~0.26	0.11~0.18	0.02~0.04	皿状	なし	なし	-	101
	SD74	平坦面	S-N	8.88	0.22~0.43	0.12~0.33	0.03~0.14	皿状	なし	SI9より新、SB22・SB305・SB306・SB307・SB373・SB374より古	-	100
	SD75	平坦面	S-N	4.30	1.40~2.20	1.10~1.50	0.42	逆台形	なし	なし	-	101
SD316	平坦面	S-N	4.24	0.20~0.32	-	-	-	なし	なし	-	-	

第9表 遺構観察表 溝跡(2)・井戸跡・性格不明遺構

区	遺構名	位置	方向	規模(m)				断面形	出土遺物	重複関係	時期	図
				検出長	上端幅	下端幅	深					
4区	SD317	平坦面	S-N	2.20	0.18~0.26	-	-	-	なし	SB281より古	-	-
	SD318	平坦面	NE-SW	3.36	0.46~0.76	-	-	-	なし	SD63より新、SB294・SA293・SA296より古	-	-
5区	SD233	南向緩斜面	S-N	1.72	0.44~0.22	0.16~0.10	0.02~0.15	皿状	土師器	なし	-	156
	SD234	南向緩斜面	S-N	11.13	0.18~0.47	0.08~0.34	0.01~0.23	逆台形	土師器・須恵器	SI228・SI229・SI230より新、SI217・SB262・SA279より古	Ⅲ期	155
	SD242	南向緩斜面	S-N	20.04	2.60~1.20	0.52~0.26	0.62~0.85	逆台形	土師器・ロクロ土師器・須恵器	SI219・SB277・SK252・SK253より新	平安	155
	SD264	南向緩斜面	S-N	6.16	0.14~0.22	0.06~0.08	0.09~0.30	U字状	なし	SI207より古	古代	156
	SD270	南向緩斜面	S-N	2.30	0.14~0.26	0.10~0.18	0.04~0.08	皿状	なし	なし	-	156
	SD273	南向緩斜面	S-N	0.96	0.10~0.16	0.08~0.12	0.06~0.26	箱形	土師器	SI231より新、SI218より古	古代	156

区	遺構名	位置	種別	形状			規模(m)			出土遺物	重複関係	時期	図
				平面	横断面	底面	長	幅	深				
1区	SE18	平坦面	井戸跡	楕円形	漏斗型	皿状	1.08	0.90	0.80	土師器	なし	Ⅶ期	19
3区	SE36	平坦面	井戸跡	円形	漏斗型	平坦	1.14	1.04	0.85	土師器	SK110より古	Ⅶ期	54
	SE144	南南向緩斜面	井戸跡	楕円形	逆台形	平坦	1.20	(0.96)	1.02	土師器・須恵器	なし	Ⅶ期	54
4区	SE11	削平面	井戸跡	不整楕円形	-	-	2.10	2.63	-	中世陶器	SK346より新	Ⅶ期	94
	SE57	平坦面	井戸跡	円形	円筒形	平坦	0.27	1.17	1.00	なし	SD63より新、SX53より古	Ⅶ期	94
	SE59	平坦面	井戸跡	隅丸方形	箱形	平坦	1.07	1.05	0.87	土師器・石製品	なし	Ⅶ期	95
	SE60	平坦面	井戸跡	不整方形	漏斗型	皿状	1.80	1.40	1.08	土師器・種子	SI9・SB305・SB312より新、SB311より古	Ⅶ期	95
	SE65	平坦面	井戸跡	隅丸方形	箱形	平坦	1.45	1.02	1.22	なし	なし	Ⅶ期	95
	SE66	削平面	井戸跡	不整楕円形	朝顔形	平坦(段有)	5.50	3.60	1.25	木製品・種子	なし	Ⅶ期	96
5区	SE258	南向緩斜面	井戸跡	隅丸方形	漏斗型	平坦	1.48	1.44	1.09	ロクロ土師器・須恵器	なし	Ⅲ期	-

区	遺構名	位置	種別	形状			規模(m)				出土遺物	重複関係	時期	図
				平面	横断面	底面	長	幅		深				
								上端幅	下端幅					
1区	SX169	平坦面	畝溝状遺構	溝状	薄い皿状	皿状	1.20~3.90	0.13~0.25	0.07~0.14	0.03~0.09	土師器	SK196・SD168より新	-	26
3区	SX135	平坦面	竪穴住居跡?	方形?	逆台形	平坦	(0.63)	(0.32)		0.40	なし	SI51より古	Ⅱ期	-
	SX137	平坦面	竪穴住居跡?	方形?	逆台形	平坦	(0.76)	(0.36)		0.38	土師器	SI51・SK119より古	Ⅱ期	-
	SX188	平坦面	竪穴住居跡?	不整方形?	-	-	(3.20)	(1.80)		-	なし	SI51・SI52より古	Ⅱ期	-
	SX211	平坦面	溝状遺構?	溝状?	-	凹凸あり	(0.36)	(0.24)		0.12	なし	SI51・SI52より古	Ⅱ期	-
4区	SX53	平坦面	水溜め状遺構	北側:不整円形 南側:溝状	北側:皿状 南側:-	北側:中央部窪む 南側:平坦(段有)	北側:4.57 南側:(4.50)	北側:3.50 南側:0.90~2.50		北側:0.69 南側:0.48	土師器・中世陶器	SA293・SA296・SA300・SE57・SD63より新	Ⅶ期	103
	SX62	平坦面	畝溝状遺構	溝状	逆台形 薄い皿状	平坦	4.70	0.35~0.53	0.26~0.42	0.01~0.06	土師器	SK67・SD63より新、SB21・SB295・SA300・SA303より古	-	102

第5章 考察

第4章で記載した本遺跡の発掘調査結果を踏まえて、あらためて遺構と遺物について検討を加え、遺構の時期と変遷、遺跡の性格などについて考察する。なお、今回の発掘調査で出土した遺構と遺物は縄文時代から近世までのものがあるが、主体となるのは古墳時代中期から中世にかけてのものである。

第1節 遺物の特徴と編年的位置づけ

出土した遺物は、古墳時代中期から平安時代にかけての土器類（土師器・ロクロ土師器・須恵器）が主体を占める。このほか、中世の土器・陶磁器、木製品、近世陶磁器、縄文土器、石器、石製品、土製品、金属製品などがある。ここでは、出土状況などからある程度の一括性が認められる遺構出土土器について検討し、編年的な位置づけを試みることとする。

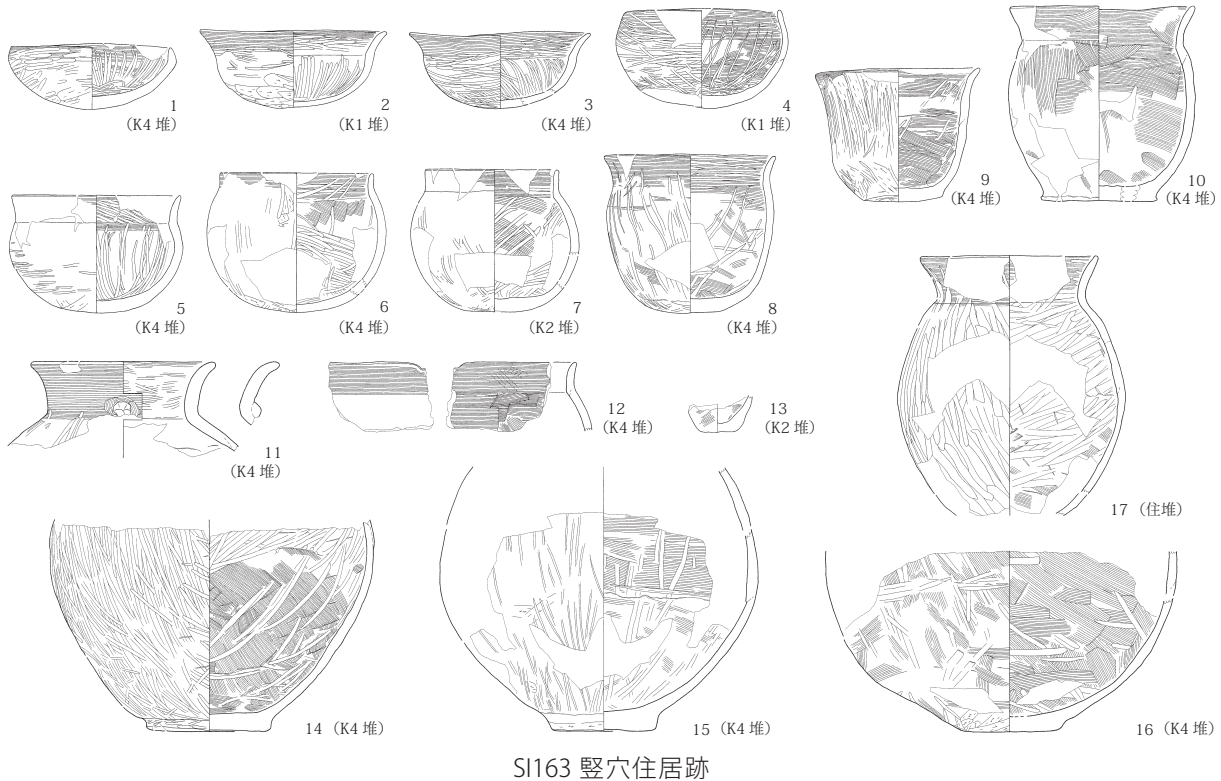
なお、宮城県内ではこれまでの調査・研究によって各時期の土器編年が提示されている。本遺跡出土土器に関連するものとして、古墳時代中期については高橋誠明氏（1999）・吾妻俊典氏（2003）による宮城県の編年、古墳時代後期～奈良時代については辻秀人氏を研究代表者とする広域編年（辻編 2007、註1）のうち村田晃一氏（2007）による宮城県中・南部の編年、菅原祥夫氏（2007a-d）による福島県の編年、平安時代については村田晃一氏（1994・1995）・柳澤和明氏（1994）による多賀城周辺の編年などが挙げられる。これらの先行研究に基づいて本遺跡の各遺構出土土器の特徴を検討し、第1~8群の土器群を設定した。以下、各土器群の特徴と編年的位置づけについて述べる。

1. 第1群土器

SI163 竪穴住居跡出土土器で構成され、土師器坏・鉢・小型甕・甕・ミニチュア土器がある（第163図1~17）。坏はいずれも丸底で、体部から口縁部にかけて内弯するもの（1・4）、体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が内弯して口縁部が外反するもの（2・3）、体部と口縁部の境に屈曲を持ち、体部が内弯して短い口縁部が直立または外反するもの（5~8）がある。いずれも内面にヨコナデ→ヘラミガキ調整、外面にヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラミガキ調整を施す。（9）は体部から口縁部にかけて逆八の字状に開く鉢で、内面の体部にユビナデ・口縁部にヨコナデ→体部～口縁部に粗いヘラミガキ調整、外面の口縁部にヨコナデ→体部に縦方向のヘラケズリ→粗いヘラミガキ調整を施す。小型甕（10）は平底で胴部中位に最大径を持ち、胴部最大径と器高がほぼ等しい。外面の口縁部にヘラナデ→ヨコナデ調整、体部に縦方向のヘラナデ→横方向のヘラナデ調整を施す。甕は平底で胴部中位に最大径を持ち、球胴状のもの（15・16）と、長胴気味のもの（11・14・17）とがある。いずれも内面にヘラナデ→ヘラミガキ調整、外面にヘラナデまたはケズリ→ヘラミガキ調整を施す。

これらは器種構成とその形態的特徴から古墳時代中期の引田式（氏家 1957）の範疇に含まれる。なお、引田式については先行型式の南小泉式新段階に包括されるとする見解もある（加藤 1989）。高橋誠明氏の編年（1999）では、1・4は坏E1、2・3は坏B2、5~8は坏G、15・16は甕A、11・14・17は甕Cにそれぞれ該当し、その形態的特徴などからⅡ-2段階に位置づけられる。吾妻俊典氏による編年（2003）では土器組成3とされた土器群であり、南小泉式新段階とされた山元町合戦原遺跡第2群土器（岩見 1991）の一部、藤沢敦氏による編年（1992）で引田式新段階とされた土器群にほぼ対応す

る。これらの類例は合戦原遺跡第4号住居跡出土土器（宮城県教育委員会 1991a）、仙台市藤田新田遺跡 SI245 住居跡出土土器（宮城県教育委員会 1994b）、下ノ内遺跡 SI16 住居跡出土土器（仙台市教育委員会 1990）などがあり、須恵器共伴例（TK208~TK23 型式）との検討などから5世紀中頃～後半とされている。このことから、本群土器は5世紀中頃～後半に位置づけられる。



SI163 竪穴住居跡

第163図 第1群土器

S=1/6

2. 第2群土器

(1) 土器の分類とその特徴

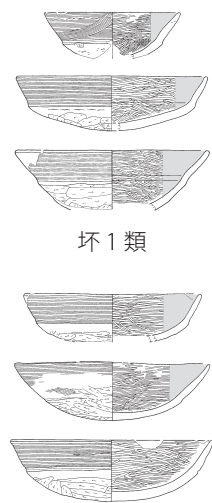
本遺跡において主体を占める土器群であり、SI4・SI5b・SI5c・SI6・SI9・SI10・SI51・SI52・SI206・SI207・SI218・SI213・SI215・SI220・SI225・SI230・SI231 竪穴住居跡、SB256 掘立柱建物跡、SA282 柱列跡、SA28 材木堀跡、SK112・SK180・SK212 土坑、SD162・SD185 溝跡出土土器などで構成される（第169~171図）。土師器・高坏・鉢・小型甕・甕・小形壺・壺・甔、須恵器坏があり、以下のように分類できる（第164~168図）。

<土師器>

坏1類：第169図4-2・6-1・7-2・8-1、第170図2-1・5-1・8-3、第171図5-2・6-1
丸底で体部が屈曲し、口縁部が外傾あるいは外反する有段丸底坏。口縁部と体部の境の外面に段を形成し、内面の対応する位置が屈曲する。口縁部は内弯気味に外傾するものが多く、内面の屈曲は明瞭なものやや不明瞭なものがある。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施す。

坏2類：第169図1-3・6-2・7-1、第170図4-1・8-2、第171図5-1

丸底で体部が屈曲して口縁部が内弯する有段丸底坏。坏1類と同



坏1類

坏2類

S=1/6

第164図 第2群土器分類図(1)

様に口縁部と体部の境の外面に段を形成するが、内面に屈曲が認められない。内面にヘラミガキ調整→黑色処理を施し、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施す。なお、内面がヘラミガキ調整で仕上げられ黑色処理を施さないもの（第169図1-3）が少数認められる。

坏3類：第170図13、第171図2

平底で外面の体部下端に段を形成する盤状坏。内面にヘラミガキ調整→黑色処理を施し、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施すもの（第170図13）、外面の口縁部～底部にヘラケズリ調整→粗いヘラミガキ調整を施すもの（第171図2）がある。

坏4類：第170図12

扁平な丸底で体部が屈曲し、口縁部が短く直立気味に外傾する有段丸底坏。口縁部と体部の境の外面に段を形成し、内面の対応する位置が屈曲する。内面にヘラミガキ調整→黑色処理を施し、外面の口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施す。

坏5類：第169図5-1、第170図2-2・5-2・5-3・6-1・14

坏1・2類と同様の有段丸底坏で、内面がヨコナデ調整（第170図2-2・5-2・5-3・14）あるいはヘラミガキ調整（第169図5-1、第170図6-1）で仕上げられ黑色処理を施さない。外面の口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施すものが主体だが、体部～底部にヘラミガキ調整を施すもの（第170図5-2・14）がある。胎土が明赤褐色を呈するもの（第170図5-2・5-3）がある。

坏6類：第169図1-1、第170図8-6、第171図1・4-1

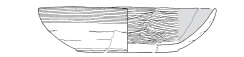
丸底で体部が内弯し口縁部が外傾する無段丸底坏。内面にヘラミガキ調整→黑色処理を施すもの（第171図4-1）と、内面がヘラミガキ調整で仕上げられ黑色処理を施さないもの（第169図1-1、第170図8-6）とがある。外面は口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施す。器壁がやや厚手で外面に粘土紐の輪積み痕跡を残すもの（第169図1-1）がある。

坏7類：第169図1-2・6-3、第170図6-2・8-4・8-5

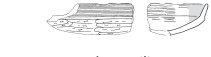
丸底（第170図8-5）あるいは平底気味の丸底（第169図1-2・6-3、第170図8-4）で、体部が内弯し口縁部が外反する無段丸底坏。内面にヘラミガキ調整→黑色処理を施すもの（第169図1-2）と、内面がヨコナデ調整で仕上げられ黑色処理を施さないもの（第169図6-3、第170図6-2・8-4・8-5）とがある。外面は口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施す。器壁がやや厚手で外面に粘土紐の輪積み痕跡を残すもの（第169図1-2、第170図8-4）がある。

坏8類：第169図5-2・7-3、第170図8-1・11、第171図3

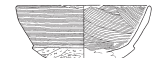
平底気味の丸底で、体部が内弯気味に立ち上がり口縁部が外傾する



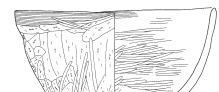
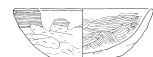
坏3類



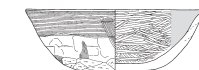
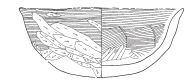
坏4類



坏5類



坏6類



坏7類



坏8類 S=1/6

第165図 第2群土器分類図(2)

無段丸底坏。外面の口縁部と体部の境に稜を形成する。内面がヨコナデ調整（第171図3）あるいはヘラミガキ調整（第169図7-3、第170図8-1・11）で仕上げられ、黒色処理を施さない。外面は口縁部にヨコナデ調整、体部～底部にヘラケズリ調整を施すもの（第169図7-3、第170図8-1、第171図3）、ヘラミガキ調整を施すもの（第170図11）がある。胎土が浅黄橙色を呈するもの（第171図3）がある。

大型坏1類：第170図6-3

体部から口縁部にかけて内弯気味に外傾する有段丸底坏。外面の口縁部と体部の境に段を形成し、内面の対応する位置が屈曲する。内面の口縁部にヨコナデ調整→体部～口縁部にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。外面は体部にハケメ調整→ヘラナデ調整→口縁部にヨコナデ調整を施す。

大型坏2類：第169図5-4

体部が内弯し口縁部が短く直立気味に外傾する無段丸底坏。外面の口縁部と体部の境に稜を形成し、内面の対応する位置が屈曲する。内面の口縁部がヨコナデ調整、体部が幅広のヘラミガキ調整で仕上げられ、黒色処理を施さない。外面は口縁部にヨコナデ調整、体部にハケメ調整を施す。

高坏1類：第169図1-4

坏1類を乗せる。脚部は中空で外下方へ八字状に開き、裾部が広がらない。

高坏2類：第171図4-2・5-3

坏部は不明。脚部は中空で外下方へ八字状に開き、裾部が広がる。

高坏3類：第169図1-5

大型坏2類を乗せる。脚部は不明。

鉢1類：第169図5-3・6-4、第170図3

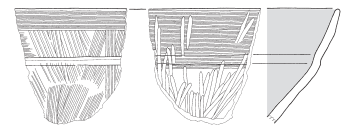
底部は不明。体部から口縁部にかけて内弯する。内外面の口縁部にヨコナデ調整、外面の体部にハケメ調整あるいはナデ調整を施す。

鉢2類：第170図1

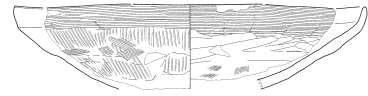
平底で体部が内弯し口縁部がごく短く直立する。内外面の口縁部にヨコナデ調整、外面の体部にヘラケズリ調整を施す。

鉢3類：第169図7-4、第170図4-3

平底で体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がそのまま外傾する。内外面の口縁部にヨコナデ調整、体部にナデ調整を施す。外底面に木葉痕が見られる。



大型坏1類



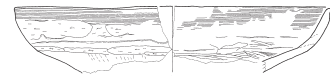
大型坏2類



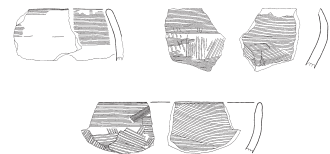
高坏1類



高坏2類



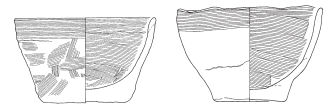
高坏3類



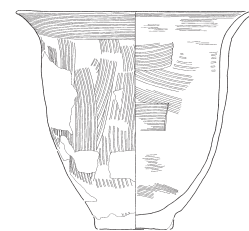
鉢1類



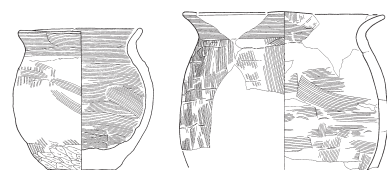
鉢2類



鉢3類



小型甕1類

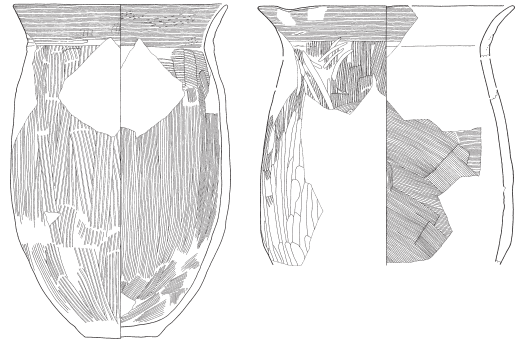


小型甕2類 S=1/6

第166図 第2群土器分類図(3)

小型甕1類：第169図3

胴部上半が直立して口縁部が外反する。外面の口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施し、頸部の段は不明瞭である。



甕1類

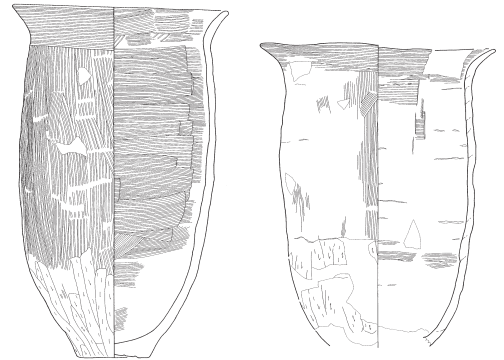
甕2類

小型甕2類：第169図6-5、第171図6-3

胴部中位に最大径を持ち、口縁部が短く外反または外傾する。外面の口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施し、頸部の段は不明瞭である。

甕1類：第169図4-1

長胴で胴部に丸みのある楕円形を呈する。口径と胴部最大径がほぼ同じで、口縁部は短く外反する。外面の頸部に段を形成し、口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施す。



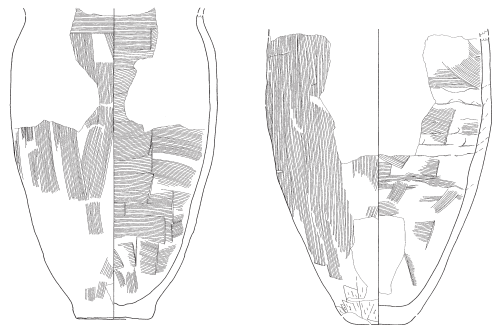
甕3類

甕2類：第170図4-4・9-2・9-4

長胴で胴部下位の丸みが強く下膨れ形を呈する。口径と胴部最大径がほぼ同じか胴部径が大きく、口縁部は短く外反あるいは外傾する。外面の頸部に段を形成し、口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整あるいはハケメ調整→ヘラミガキ調整を施す。

甕3類：第169図1-6・2・5-8・7-6、第170図5-5・8-7

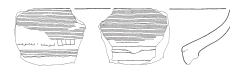
長胴で胴部上半の丸みが弱く円筒形を呈し、下半がすぼまる。外面の頸部に段を形成せず、口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施す。



甕4類

甕4類：第169図1-7・6-6

長胴で胴部上位の丸みが強く下半がすぼまる倒卵形を呈する。外面の頸部に段を形成せず、口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施す。



甕5類

S=1/6

第167図 第2群土器分類図(4)

甕5類：第171図5-4

頸部が屈折して外傾し口縁部が内弯して受口状に立ち上がる。胴部以下は不明。口縁部内面にヨコナデ調整、外面にハケメ調整→ヨコナデ調整を施す。

小型壺：第170図5-4

平底で胴部下位に最大径を持つ。外面の頸部に弱い段を形成し、口縁部にヨコナデ調整、胴部にナデ調整を施す。

壺：第169図5-7・7-5、第170図8-9・9-3・10

平底で胴部の丸みが強く球胴状を呈する。胴部中位から下位に最大径を持ち、広口で口縁部は短く外傾する。外面の頸部に段を形成し、口縁部にヨコナデ調整、胴部にハケメ調整を施す。

甌1類：第170図8-8

底部は不明。胴部が逆ハ字状に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。外面の頸部に段を形成し、口縁部の内外面にヨコナデ調整、胴部の内面にヘラミガキ調整を施す。

甌2類：第169図8-2

底部は不明。体部上半は直線的で口縁部が短く外反する。外面の口縁部と体部の境に痕跡的な段を形成する。内面の口縁部にヨコナデ調整、体部にヘラミガキ調整を施し、外面は口縁部にヨコナデ調整、体部にヘラケズリ調整を施す。外面の口縁部に連続する刻目状痕跡が見られる。

甌3類：第169図6-7、第170図6-4、第171図4-3

無底式で内面にヘラナデ調整、外面にヘラケズリ調整を施す。体部下端に複数の貫通孔を穿つもの（第169図6-7、第171図4-3）がある。

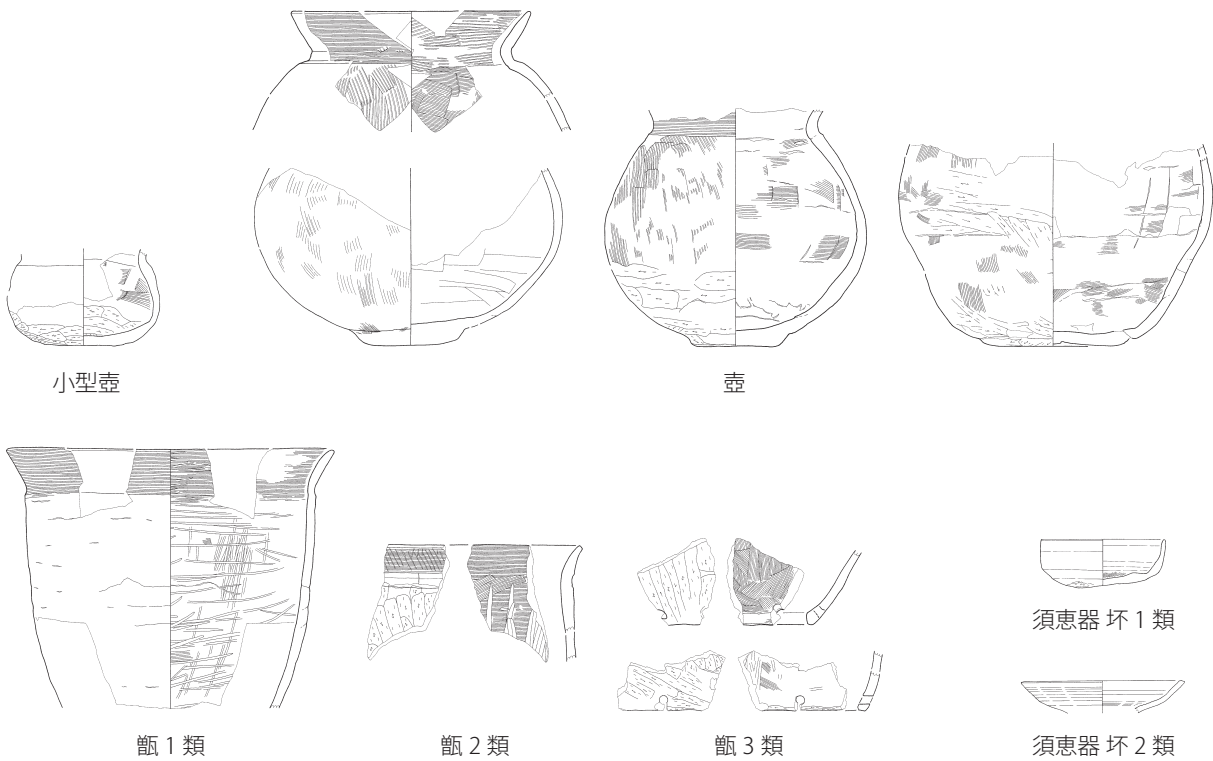
<須恵器>

坏1類：第171図6-2

丸底風平底の底部から強く内弯して立ち上がり、口縁部が直立する。外底面にヘラケズリ調整を施す。口径9.8cm。

坏2類：第169図5-5

底部は不明。体部下位が屈曲して口縁部が外傾する。口径約13.0cm。



第168図 第2群土器分類図(5)

S=1/6

(2) 土器群の様相とその編年的位置づけ

第2群土器は土師器坏1~8類・高坏1~3類・鉢1~4類・小型甕1~2類・甕1~6類・小形壺・壺・甌、須恵器坏1~2類で構成される。土師器坏・甕・壺を安定的に組成し、坏に多様性が認められることが特徴的である。須恵器は僅少である。第2群土器には、製作技法と形態的特徴から大きく二つのまとまりが識別できる。一つは、内面にヘラミガキ調整→黒色処理技法を用いる有段丸底坏と、外面にハケ

メ調整技法を用いる長胴甕を主要器種として構成される伝統的な在地の土師器であり、もう一つは、これとは異なる製作技法あるいは形態的特徴を有する外来の土師器である。以下に、そのまとめりと特徴、編年的位置について検討する。

在地の土師器 内面にヘラミガキ調整→黒色処理技法を用いる有段丸底坏（坏1・2類）、平底で体部下端に段を形成する盤状坏（坏3類）と、外面にハケメ調整技法を用いる長胴甕（甕1~4類）によって特徴づけられる。これらはその製作技法と形態的特徴から、栗圀式（氏家1957）の範疇に含まれるものである。

分類した型式のうち、在地の土師器は坏1~3類、大型坏1類、高坏1・2類、鉢1・2・3類、小型甕1・2類、甕1~4類、小形壺・壺で構成される。村田晃一氏（2007）による宮城県中・南部の編年における細別器種分類では、坏1類が坏B、坏2類が坏C、坏3類が坏F、大型坏1類が鉢A、高坏1・2類が高坏B、鉢1・2・3類が鉢B、小型甕1類が甕C1、小型甕2類が甕C2、甕1類が甕A2、甕2類が甕A3、甕3類が甕A4、甕4類が甕A5、小形壺・壺が壺D1にそれぞれ該当する。

村田編年では古墳時代後期～奈良時代の土器群を8段階の変遷で捉えている。坏1類にみられる有段丸底坏は村田編年1段階以前の古墳時代中期から認められ、2~4段階で坏の主要器種となり、5段階以降は減少するが7段階まで認められる。体部外面の段あるいは稜の形態に着目すると、1~3段階が顕著で、4段階以降は前者ほど目立たなくなる。また、これに対応する体部内面の屈曲は、3段階までほとんどものに認められるが、4段階になると屈曲を持つものと持たないものが共存し、5段階以降は屈曲が認められなくなる。このように村田編年において明らかにされている各型式の形態変化から、本群土器の形態的特徴は村田編年4段階との共通性が高い。また、有段丸底坏における内面の稜や、長胴甕における頸部の段の不明瞭化などから、4段階の中でも後出的な様相を示していると考えられる。

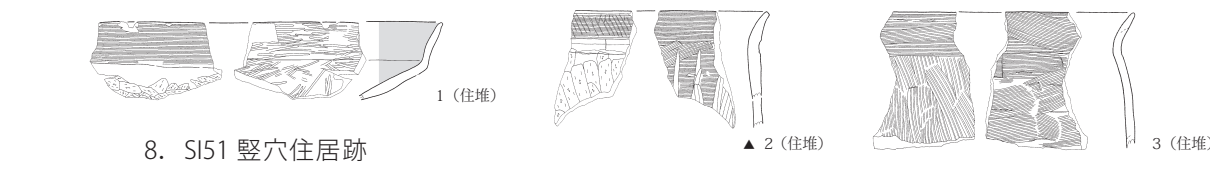
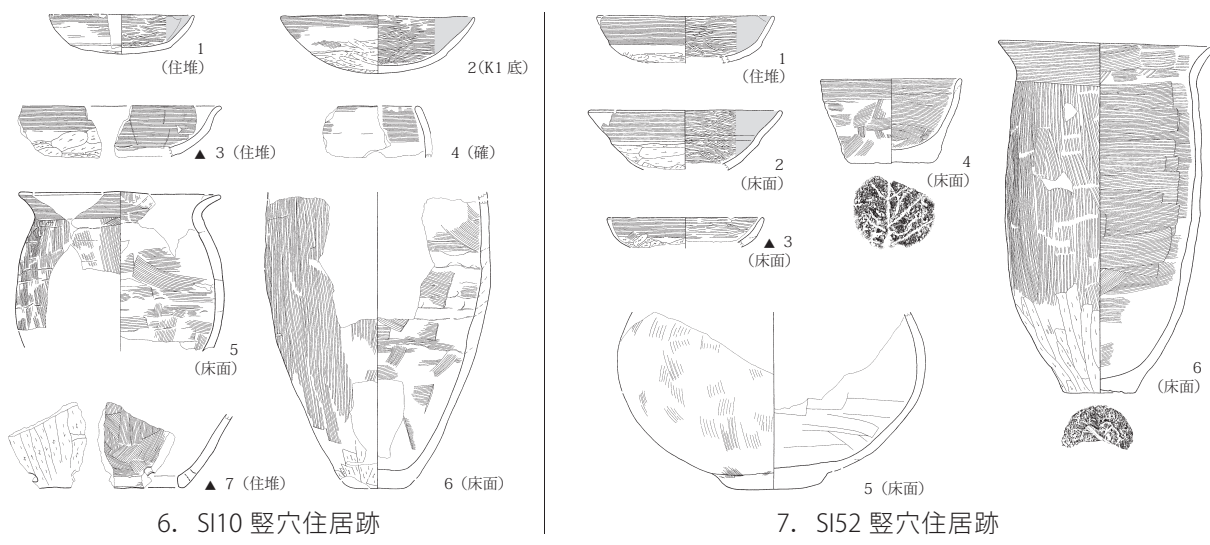
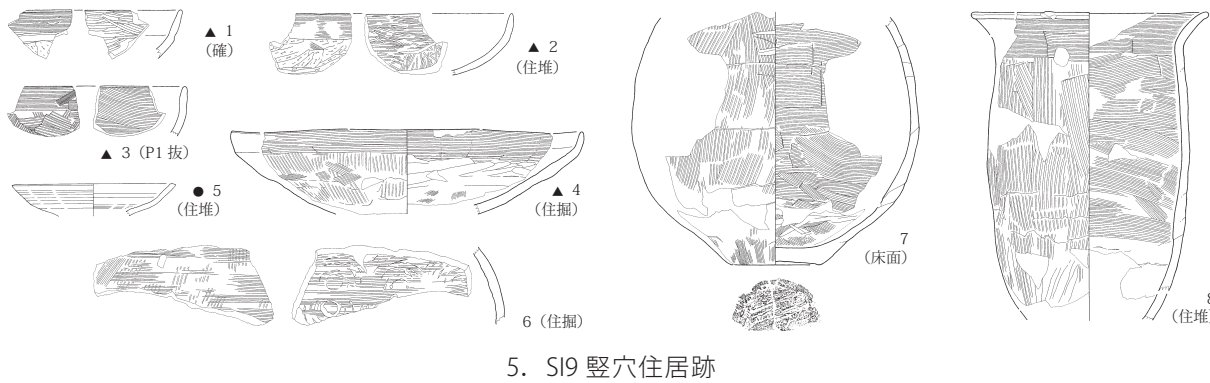
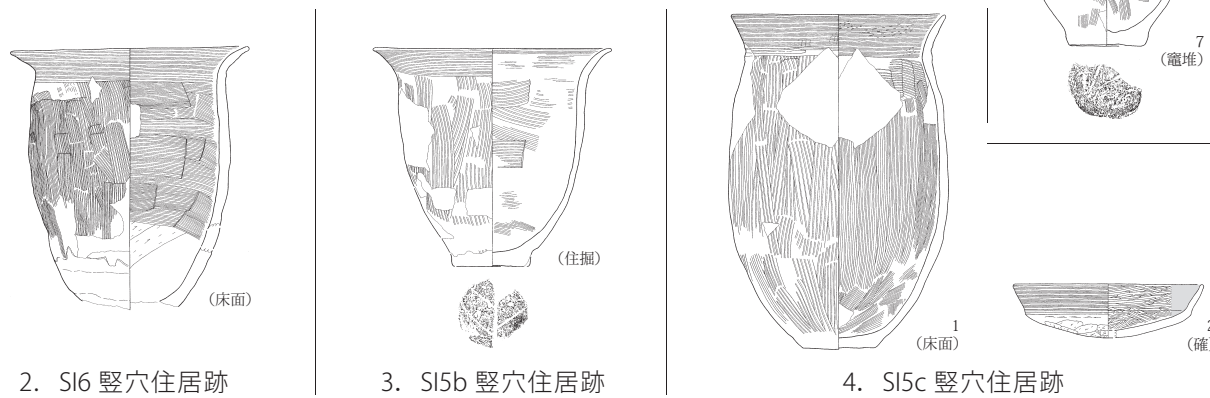
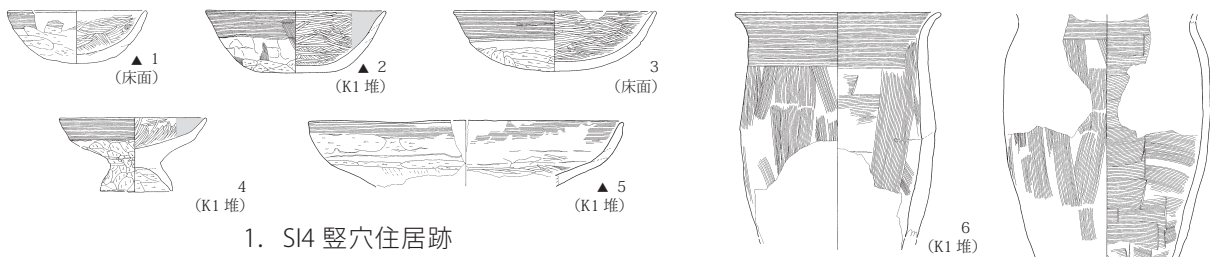
類例としては蔵王町塩沢北遺跡第1・2号住居跡（宮城県教育委員会1980a）、多賀城市山王遺跡SD2050河川跡第1層（宮城県教育委員会2001）、東松島市赤井遺跡SI263住居跡（矢本町教育委員会2001）、仙台市郡山遺跡I期官衙に伴うSI1870住居跡（仙台市教育委員会2001）、SX2093遺構（仙台市教育委員会2004）出土土器などが挙げられる（註2）。

外来の土師器 在地の土師器とは異なる製作技法あるいは形態的特徴を有するものとして、坏4・5・6・7・8類、大型坏2類、高坏3類、甕2・5類、小形壺、甌1~3類がある。これらは在地の土師器の栗圀式の範疇には含まれないものであり、外来の土師器と考えられる。

分類した型式のうち、坏4類は関東地方における当該期の鬼高式土師器に類似する形態的特徴が見られるが、内面にヘラミガキ調整→黒色処理技法を用いる点で在地化した特徴が指摘できる。蔵王町都遺跡（蔵王町教育委員会2005）、東松島市赤井遺跡SI292住居跡（矢本町教育委員会2001）、大崎市名生館官衙遺跡SK1529土坑（古川市教育委員会2000）、福島県喜多方市内屋敷遺跡第4号方形区画・第72号住居跡（塩川町教育委員会2004）出土土器などに類例が見られる（註3）。

坏5類は在地の栗圀式に類似する有段丸底を基調とした形態であるが、内面がヨコナデ調整で仕上げられ、東北地方に伝統的なヘラミガキ調整→黒色処理技法を用いない。こうした調整技法は在地の栗圀式土師器には認められないものであり、関東地方の当該期土師器の影響下にあるものと考えられる。外面の段は弱い段あるいは屈曲となるものが多い。赤井遺跡SI292・293・263住居跡（矢本町教育委員会2001）、大和町一里塚遺跡SI36住居跡（宮城県教育委員会1999）出土土器などに類例が見られる。

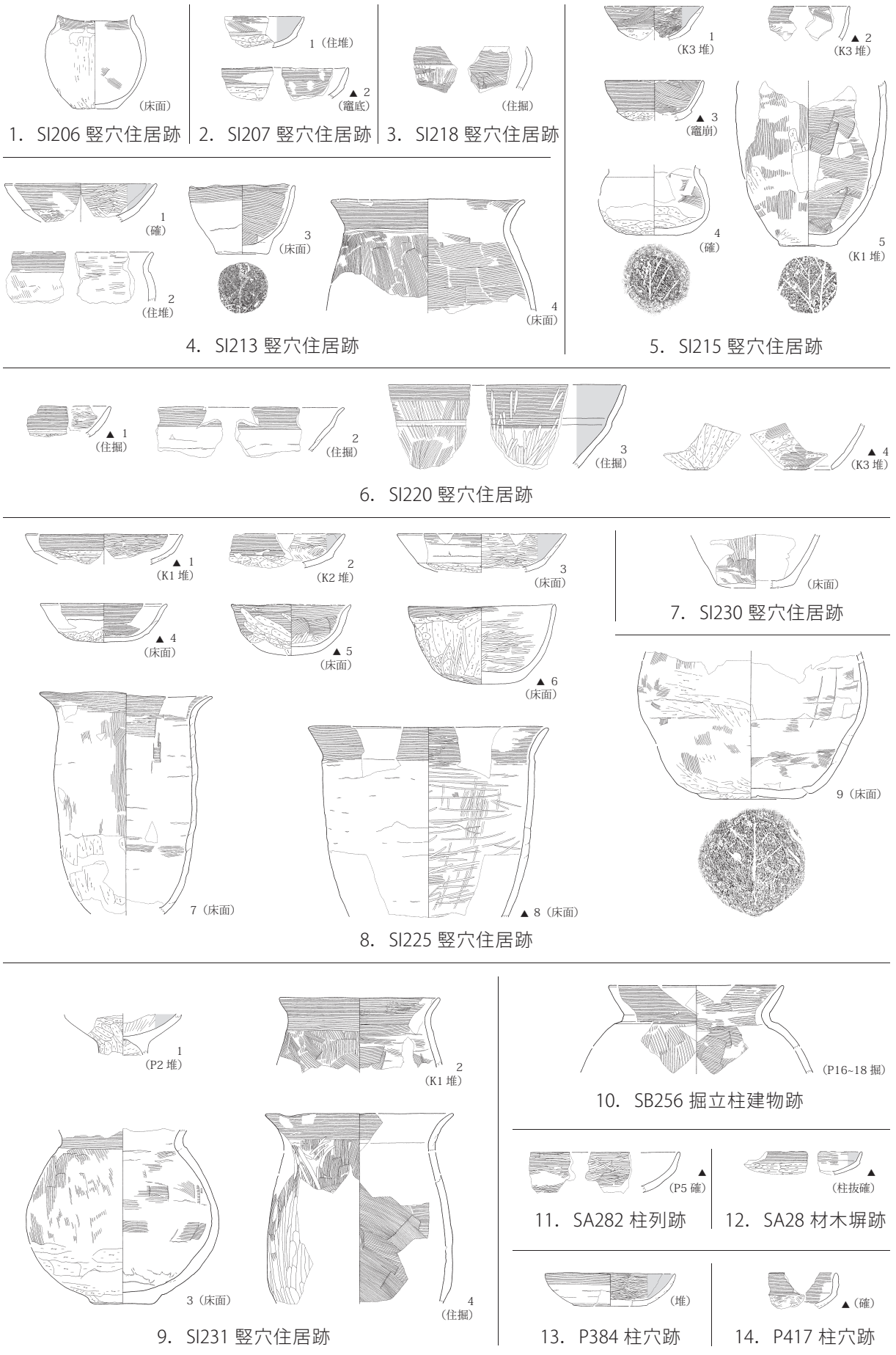
坏6・7類は深身の半球形を呈する無段丸底坏で、在地の栗圀式土師器には認められない形態である。銅椀などの金属器を模倣したものと考えられ、関東地方に広く分布することから関東地方の当該期土師器の影響下にあるものと考えられる。坏6類は赤井遺跡SI265・292住居跡（矢本町教育委員会2001）、福島県本宮市高木遺跡IX区85号住居跡（福島県教育委員会2002）出土土器など、坏7類は



第169図 第2群土器(1)

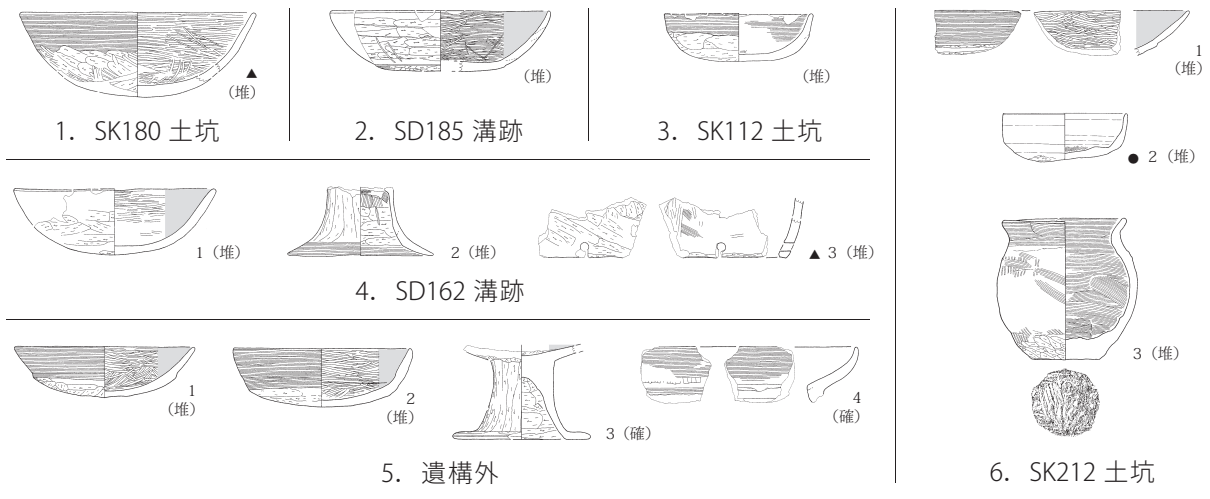
S=1/6

▲関東系土師器 ●須恵器



第170図 第2群土器(2)

S=1/6 ▲関東系土師器



第171図 第2群土器(3)

S=1/6 ▲関東系土師器 ●須恵器

蔵王町堀の内遺跡 11号住居跡(蔵王町教育委員会 1997)、戸ノ内遺跡 SI24 住居跡(蔵王町教育委員会 2009、註 4)、六角遺跡 SI753 住居跡(蔵王町教育委員会 2008)、大和町一里塚遺跡 SI11 住居跡(宮城県教育委員会 1999)、高木遺跡 IX区 85号住居跡などに類例が見られる。

坏 8 類はやや扁平な無段丸底坏で、坏 6・7 類と同様に在地の栗囲式土師器には認められない形態であり、関東地方の当該期土師器の影響下にあるものと考えられる。赤井遺跡 SI263 住居跡、大和町一里塚遺跡 SI15 住居跡(宮城県教育委員会 1999)、高木遺跡 IX区 16号住居跡(福島県教育委員会 2002)などに類例が見られる。

大型坏 2 類、高坏 3 類は坏部の形態と調整技法が共通し、在地の栗囲式土師器には認められない。また、内面がヨコナデ調整→ヘラミガキ調整で仕上げられ、黒色処理技法を用いていないことや、坏 5・6・7 類などと併伴していることから、関東地方の当該期土師器の影響下にあるものと考えられる。

甕 2 類は外面の体部中位から下位にかけて縦方向のヘラミガキ調整を施すもので、東北地方北部の当該期土師器の調整技法に類似するが、外面に段を形成しない。

甕 5 類は頸部が屈折して外傾し口縁部が内弯して受口状に立ち上がるもので、在地の栗囲式土師器には認められない形態である。東北地方北部の当該期土師器の形態に類似するが、頸部以下が不明である。

甌 1~3 類は体部の内面にヘラミガキ調整、外面にヘラケズリ調整を施すもので、体部下端に複数の貫通孔を穿つものがある。体部外面にハケメ調整を施す在地の栗囲式土師器とは調整技法が異なり、関東地方の当該期土師器の影響下にあるものと考えられる。赤井遺跡 SI263 住居跡に類例が見られる。

以上のように、本群土器において外来の土師器として認識したものの中には、関東地方の土師器と類似した特徴を持つものが多く、これらは東北地方南部で関東系土師器と呼称されている土器群に包括されるものと考えられる。ただし、本群土器の関東系土師器については以下のことが指摘できる。①坏が主体で、甕などの煮炊具は在地の土師器を基本としている。②形態的特徴と製作技法などに当該期の関東地方の土師器との共通点が多く認められるものの、関東地方の中で特定の地域の土師器と個別に比定できるものはない。③坏の内面調整に在地の技法である黒色処理技法を取り入れているものが見られる。④肉眼観察の限り、胎土の特徴が在地の土師器と異なる関東系土師器はごく少数であり、基本的には共通している。このことから、本群土器の関東系土師器は関東地方から直接搬入されたものである可能性は低く、関東地方に出自を持つ集団が在地化して製作したか、在地の集団が関東地方の坏などを模倣して製作したと考えられる。

なお、仙台平野以北の関東系土師器の多くは、関東地方における伝統的な土師器である鬼高式土師器と、畿内産土師器の影響のもとに出現する新型土師器坏である北武蔵型暗文坏や、北武蔵型坏に類似す

る半球形の坏に類似する特徴を持つものであり、東関東から北関東地域に出自が求められている（高橋 2009・長島 2009・村田 2009）。一方、本群土器の関東系土師器には鬼高式土師器との関係が窺えるものがごく少数存在するものの、ほとんどは上述のとおり関東地方の中で特定の地域の土師器と個別に比定できないものである。このような関東系土師器は、宮城県域では本遺跡周辺を除けば管見の限り東松島市赤井遺跡（矢本町教育委員会 2001）、栗原市御駒堂遺跡（宮城県教育委員会 1982）、大和町一里塚遺跡（宮城県教育委員会 1999）に見られるのみであり、各遺跡の関東系土師器の中に占める割合は大きくない。本遺跡は阿武隈川水系の小河川に面した立地環境にあるが、福島県本宮市の阿武隈川右岸に立地する高木遺跡群（福島県教育委員会 2002、註 5）では、本群土器の坏 6・7・8 類に類似する関東系土師器が安定的に認められ、本遺跡との密接な関連が窺われる（註 6）。

須恵器 本群土器における須恵器は坏 1・2 類が各 1 点と、分類できない小片数点があるのみであり、極めて僅少である。このうち坏 1 類は、福島県相馬市善光寺遺跡 2B 号窯跡（福島県教育委員会 1988）、大和町一里塚遺跡 SI14b・SI54 住居跡（宮城県教育委員会 1999）などに類例が見られる。中村浩氏（1978・2001）による大阪府陶邑窯跡群の編年でⅢ型式 1 段階にみられ、宝珠形のつまみを持つ蓋と組み合う平底風丸底の坏と特徴が一致する。田辺昭三氏による陶邑窯跡群の編年ではⅢ期 TK217 型式に、西弘海氏（1986）による飛鳥編年では飛鳥Ⅱ期に相当すると考えられる。

第 2 群土器の年代 本群土器における在地の土師器は栗囲式土師器の後半期の特徴を持つものであり、村田編年 4 段階に位置づけられる。村田編年 4 段階は蔵王町塩沢北遺跡 1 号住居跡や仙台市王ノ壇遺跡 SI201 住居跡（仙台市教育委員会 2000）、利府町八幡崎 B 遺跡Ⅲ層一括資料（利府町教育委員会 1988）で陶邑 TK217 型式に位置づけられる須恵器が相伴していること、土器様相が共通する仙台市郡山遺跡Ⅰ期官衙の年代が 7 世紀中頃～680 年代前半頃（仙台市教育委員会 2005）に位置づけられていることから、7 世紀中頃～後半と考えられている。本群土器に相伴する須恵器は僅少であるが、陶邑 TK217 型式あるいは飛鳥Ⅱ期に位置づけられる。TK217 型式は西暦 616 年以後～7 世紀後半中頃、飛鳥Ⅱ期は西暦 640～660 年代と考えられており、福島県相馬市善光寺遺跡 2B 号窯跡は 7 世紀後葉に位置づけられている。以上のことから、本群土器の年代は 7 世紀中頃～後半と考えられる。

3. 第 3 群土器

SD50 溝跡出土須恵器蓋がある（第 172 図）。天井部から口縁部にかけて内弯し、口縁端部が短く内折して直立する。器壁が厚くやや器高がある。つまみ部の形態は不明であるが、村田町北日ノ崎 2 号窯跡（村田町教育委員会 1988）、利府町硯沢窯跡 B 地区 3・10・16 号窯跡（宮城県教育委員会 1987）などが類例と考えられる。北日ノ崎 2 号窯跡は 7 世紀末～8 世紀初頭、硯沢 B 地区 3・10・16 号窯跡は 8 世紀第 1 四半期～第 2 四半期頃と考えられており、本群土器の年代は概ね 7 世紀末～8 世紀前半頃と考えられる。



第 172 図 第 3 群土器

4. 第 4 群土器

SI209b・SI217・SI218・SI221・SI223 竪穴住居跡、SE258 井戸跡、SK257 土坑出土土器で構成され、土師器坏、ロクロ土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏がある（第 173 図 1~7）。土師器坏（3）は平底で底径が大きく、体部が外傾し口縁部が内弯する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。ロクロ土師器坏は体部から口縁部にかけてわずかに内弯しながら外傾するもの（6・7）、体部から口縁部にかけて内弯するもの（4）、体部が内弯し口縁部がわずかに外反するもの（1-1・2-1・5）がある。底部の切り

離しと再調整は回転糸切り→体下部に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(1-1~2)、回転糸切り→再調整不明のもの(2-1・3)、切り離し不明→外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(6・7)がある。いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。小型甕(2-3)は体部に丸みを持つ。甕(2-4)は体部上半がわずかに内弯しながら外傾する。須恵器坏(1-3~4・2-2)は体部から口縁部にかけてわずかに内弯する。底部の切り離しと再調整は回転ヘラ切り→再調整不明のもの(1-3)、切り離し不明→外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(1-4・2-2)がある。

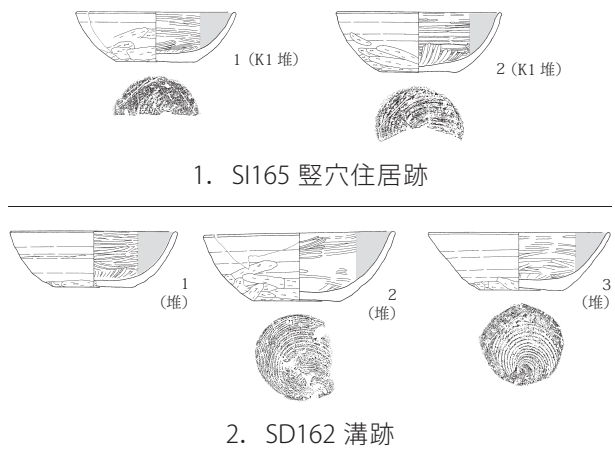
これらのうち土師器・ロクロ土師器は器種構成と形態的特徴、製作技法から表杉ノ入式(氏家1957)の範疇に含まれる。表杉ノ入式期はほぼ平安時代全般に対応するものと考えられているが、主に坏類の形態と製作技法からいくつかの段階が設定されている。本群土器の土師器・ロクロ土師器坏は、先行型式の国分寺下層式新段階における平底の土師器坏と形態が類似していることから、表杉ノ入式の初期に位置づけられる。宮城郡の9~11世紀代を7段階に細分する村田晃一氏(1994)の編年では1群土器段階(8世紀第4四半期~9世紀第1四半期前半)、多賀城内の土器の検討から9~10世紀代を9段階に細分する柳澤和明氏(1994)の編年では9世紀第1四半期頃に位置づけられる。また、須恵器坏は利府町大貝窯跡1・16号窯跡(利府町教育委員会2004)、山元町北名生東窯跡(宮城県教育委員会1991)などに類例が見られる。大貝1・16号窯跡は8世紀末~9世紀初頭、北名生東窯跡は8世紀第4四半期に位置づけられている。以上のことから、本群土器の年代は8世紀末~9世紀初頭と考えられる。

5. 第5群土器

SI165 竪穴住居跡、SD162 溝跡出土土器で構成され、ロクロ土師器坏がある(第174図)。体部から口縁部にかけてわずかに内弯しながら外傾するもの(2-3)、体部から口縁部にかけて内弯するもの(1-1・2-1~2)、体部が内弯し口縁部がわずかに外反するもの(1-2)がある。底部の切り離しと再調整は回転糸切り→体下部~外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(1-1・2-3)、回転糸切り→体下部に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの(1-2・2-2)、切り離し不明→外底面に手持ちヘラケズリ調整を施すもの



第173図 第4群土器 S=1/6 ●須恵器



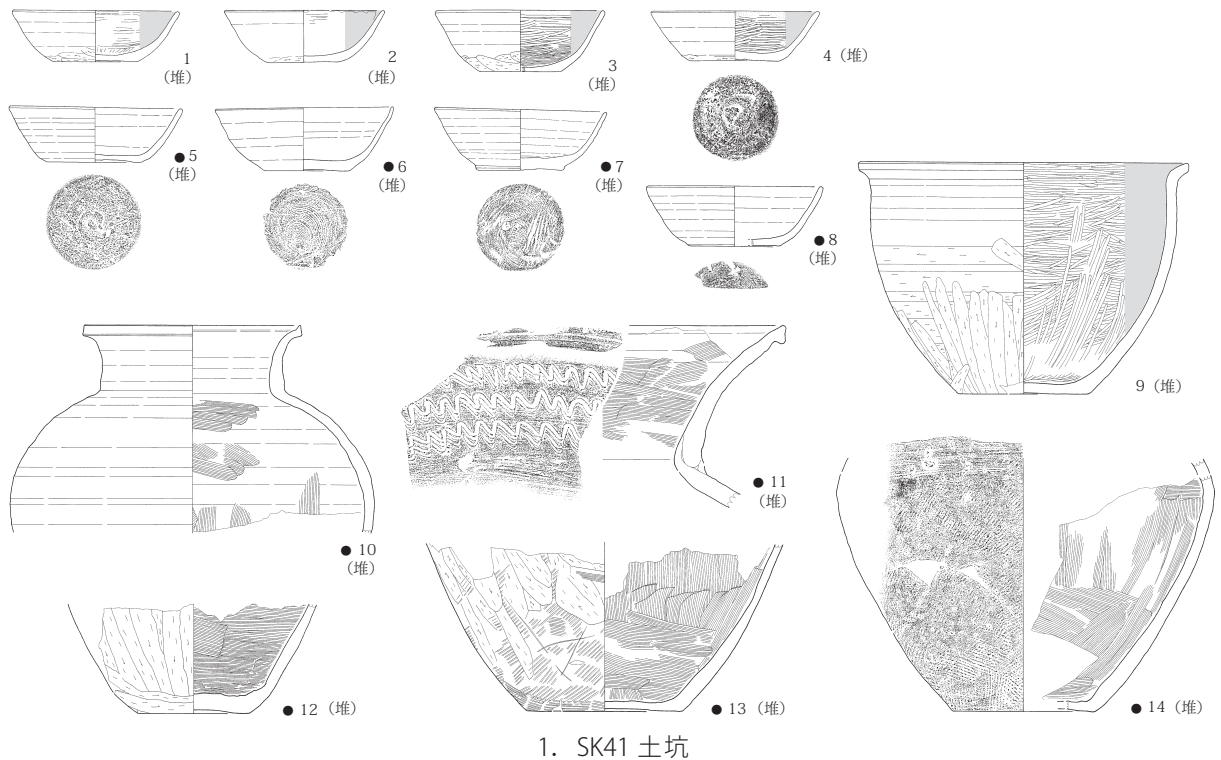
第174図 第5群土器 S=1/6

(2-1) がある。いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。

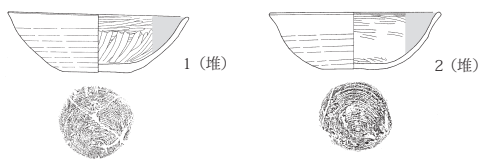
これらは表杉ノ入式の範疇に含まれ、村田晃一氏（1994）の編年では2~3群土器段階（9世紀第1四半期後半～第3四半期）、柳澤和明氏（1994）の編年では9世紀第2四半期～9世紀中葉頃に位置づけられる。このことから、本群土器の年代は9世紀前葉～中葉と考えられる。

6. 第6群土器

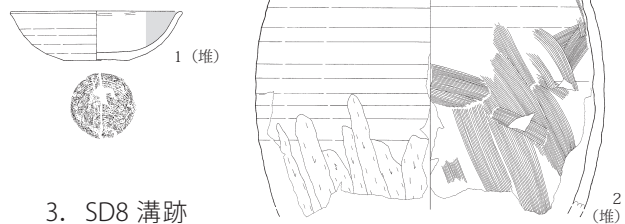
SK41 土坑、SD8・SD162 溝跡出土土器で構成され、ロクロ土師器杯・鉢・甕、須恵器杯・甕がある（第175図1~3）。ロクロ土師器杯は体部が内弯し口縁部が外傾するもの（1-1~3・2-1）、体部が内弯し口縁部が外反気味のもの（2-2・3-1）、体部から口縁部にかけてわずかに内弯しながら外傾するもの（1-4）がある。底部の切り離しと再調整は回転ヘラ切り→体下～外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの（1-4）、回転糸切り→無調整のもの（2-1・3-1）、切り離し不明→体下部～外底面に手持ちヘラケズリによる再調整を施すもの（1-1~3）がある。いずれも内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。鉢（1-9）は体部下半が内弯して立ち上がり、体部上半が直立気味となる。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。甕（3-2）は胴部に丸みを持ち、口径と胴部最大径がほぼ同じである。須恵器杯（1-5~8）は体部から口縁部にかけてわずかに内弯しながら外傾する。底部の切り離しと再調整は回転ヘラ切り→



1. SK41 土坑



2. SD162 溝跡



3. SD8 溝跡

第175図 第6群土器

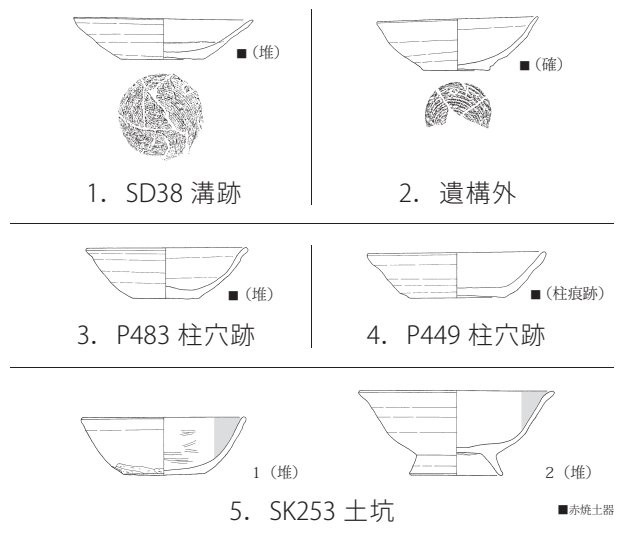
S=1/6 ●須恵器

無調整のもの(1-5)、回転糸切り→無調整のもの(1-6~8)がある。甕は口縁部に波状文を施文するもの(1-11)、胴部が丸みを持ち頸部が直立し、口縁部が外反するもの(1-10)、胴部に平行タタキ目→ヘラケズリ調整を施すもの(1-12~14)がある。

これらは表杉ノ入式の範疇に含まれ、村田晃一氏(1994)の編年では3~4群土器段階(9世紀第3四半期~第4四半期)、柳澤和明氏(1994)の編年では9世紀第3四半期~9世紀第4四半期頃に位置づけられる。また、須恵器環は石巻市関ノ入遺跡2・10・14号窯跡(河南町教育委員会1990・1993・2004)、福島県福島市大鳥城跡1・2・4号住居跡(福島市教育委員会1993)、頸部が直立する甕は大鳥城跡1・2号住居跡などに類例が見られる。関ノ入2号窯跡は9世紀中葉、10・14号窯跡は9世紀第3四半期、大鳥1・2・4号住居跡は9世紀後半に位置づけられている。以上のことから、本群土器の年代は9世紀中葉~後半と考えられる。

7. 第7群土器

SD38 溝跡、SK253 土坑、5区 P483・P449 柱穴跡出土土器で構成され、ロクロ土師器環・高台付環、赤焼土器環がある(第176図1~5)。ロクロ土師器環(5-1)は体部が内弯し口縁部が外傾する。内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施し、底部の切り離し不明→体下部~外底面に手持ちヘラケズリ調整による再調整を施す。高台付環(5-2)は体部が内弯しながら立ち上がり、口縁部が外反する。底部の切り離しが不明で、外に開く高台が付加されている。環部内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。赤焼土器環は体部が内弯しながら立ち上がり、口縁部がわずかに外反するもの(2・3)と、体部から口縁部が直線的に外傾するもの(1・4)とがある。内外面ロクロナデ調整で、底部の切り離しと再調整は回転糸切り→無調整である。



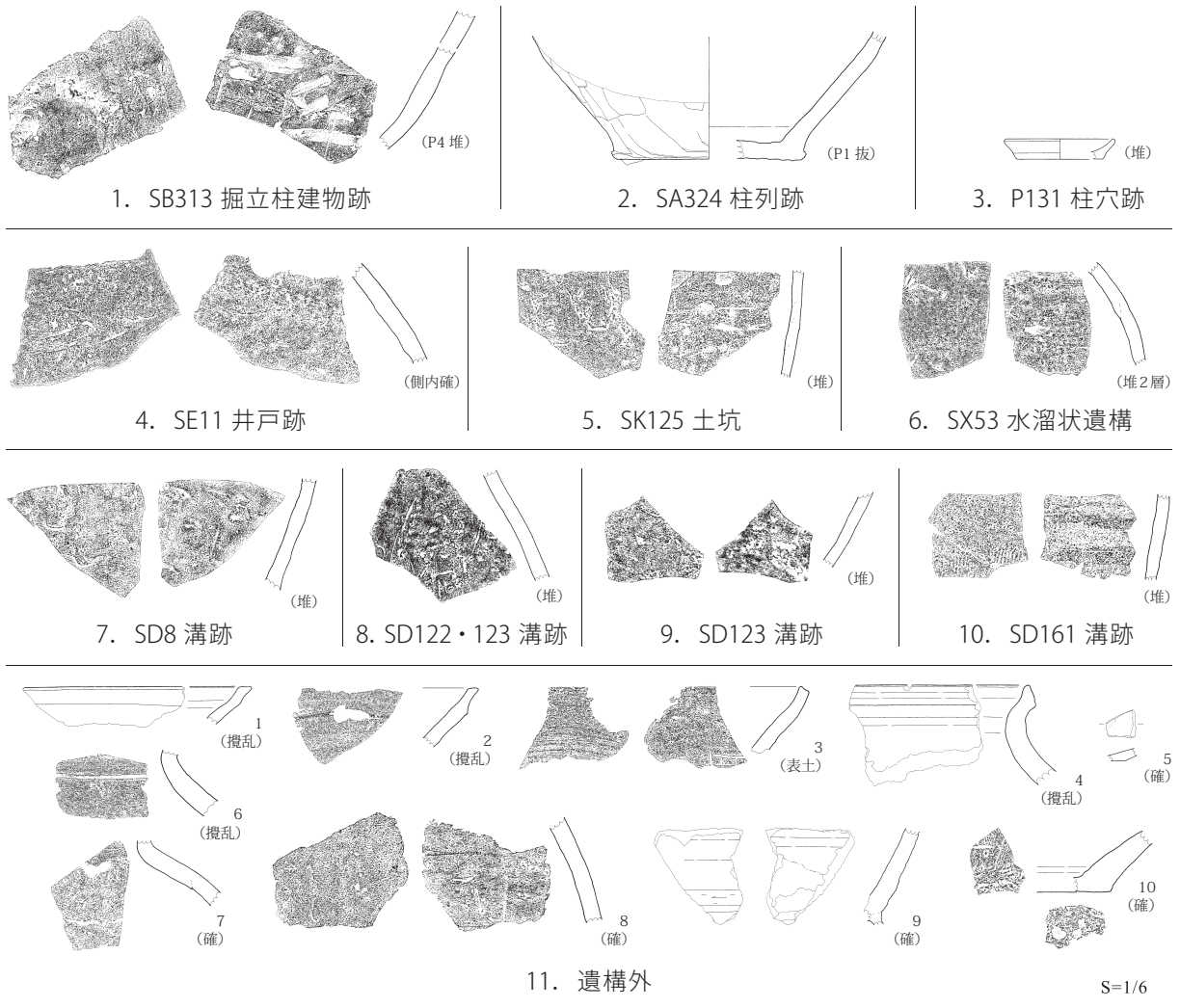
第176図 第7群土器 S=1/6

これらのうちSK253土坑出土土器(第176図5-1~2)は表杉ノ入式の範疇に含まれ、村田晃一氏(1994)の編年では5~7群土器段階(10世紀前葉~10世紀末)に位置づけられる。また、赤焼土器は4~8群土器段階(9世紀第4四半期~11世紀前半)に伴っており、SD38溝跡出土土器(1)は10世紀代のものと形態が類似している。以上のことから、本群土器は9世紀末~11世紀前半の年代幅が考えられる。

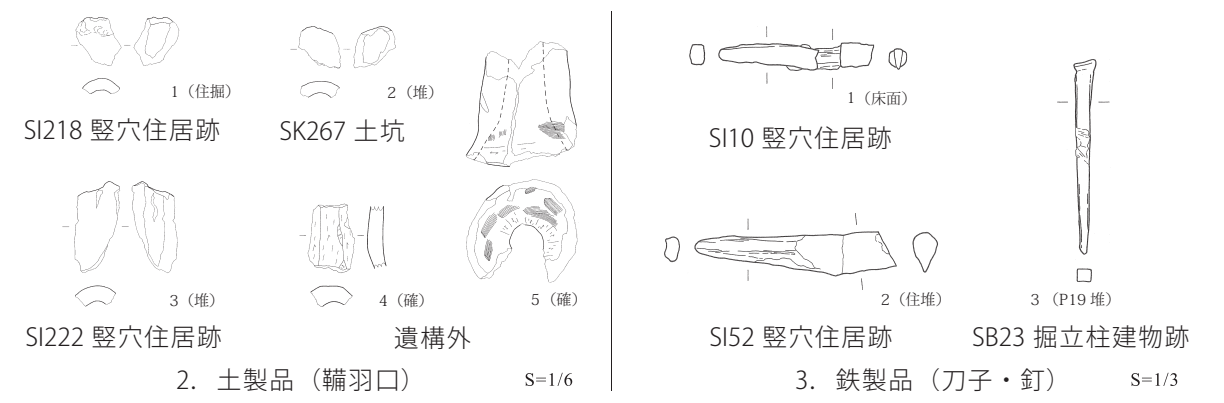
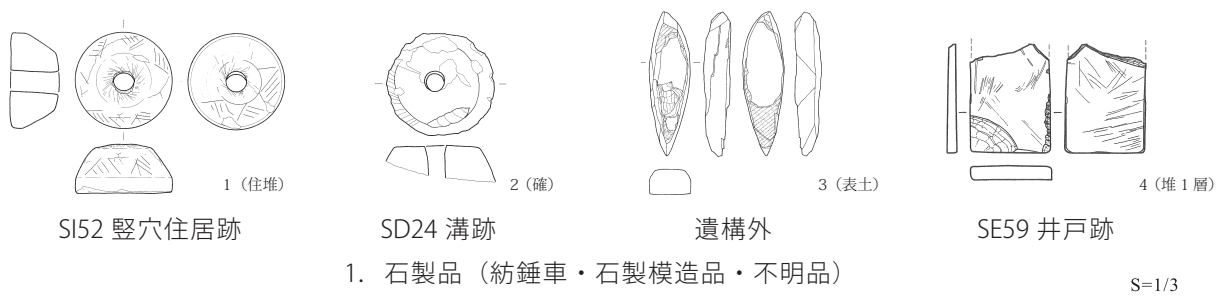
8. 第8群土器(中世の土器・陶磁器)

SB313 掘立柱建物跡、SA324 柱列跡、SE11 井戸跡、SK125 土坑、SD8・SD123・SD161 溝跡、SX53 水溜め状遺構、4区 P131 柱穴跡などから出土しており、ロクロかわらけ小皿、中世陶器鉢・壺・甕類、青磁皿がある(第177図1~11)。

いずれも小片で年代を検討できる資料は僅少であるが、ロクロかわらけ小皿(3)の形態は仙台中野高柳遺跡SX1397遺物包含層下層(宮城県教育委員会2006)、岩手県平泉町柳之御所遺跡28次調査SE16井戸跡(岩手県埋蔵文化財センター1995)、52次調査SE7井戸跡(岩手県教育委員会2001)などに類例が見られる。中野高柳SX1397下層は13世紀前半~中頃、柳之御所SE16井戸跡は12世紀第4四半期後半、SE7井戸跡は12世紀第2四半期に位置づけられている。



第177図 第8群土器（中世の土器・陶磁器）



第178図 石製品・鉄製品・土製品

また、遺構外出土の中世陶器鉢（11-1~3）・甕（11-4）の口縁部形態は赤羽一郎・中野晴久両氏（1995）による愛知県知多市常滑窯跡群の編年で5型式期（1220~1250年）に位置づけられているものと類似している。甕・壺・播鉢などを在地で生産した白石市の白石古窯跡群のうち、一本杉窯跡群（宮城県教育委員会 1996）では甕の口縁部形態などが常滑編年5~6a型式期に類似することから、操業年代は13世紀後半頃と考えられている。青磁は名取市川上遺跡（名取市教育委員会 1990）で中国浙江省龍泉窯産の碗が出土し、13~14世紀に位置づけられている。

以上のことから、本遺跡で出土した中世の土器・陶磁器のうちロクロかわらけは概ね12世紀中頃~13世紀中頃、陶磁器は概ね13~14世紀頃の年代が考えられる。

9. 石製品・土製品・金属製品

石製品には紡錘車（第178図1-1~2）・石製模造品（剣・第178図1-3）・不明石製品（第178図1-4）・砥石などがある。1-1は泥質岩製で縦断面が側面と上面に膨らみを持つ台形を呈し、側面に稜を持つ。研磨によって仕上げられ、底面に円文と鋸歯文、側面に鋸歯文の線刻を施す。また、底面と上面の穿孔部の周囲に放射状の線条痕が見られる。線条痕は底面の円文の一部を磨滅させていることから、使用による痕跡の可能性はある。側面に鋸歯文を線刻する紡錘車は蔵王町都遺跡（蔵王町教育委員会 2005）の遺構外でも出土している。1-3は研磨によって長方形の板状に仕上げられている。用途は不明である。1-1はSI52 竪穴住居跡で出土し、第2群土器の土師器坏・鉢・甕と共伴している。

土製品には鞆羽口（第178図2-1~5）があり、いずれも5区で出土している。2-1はSI218 竪穴住居跡で出土し、第4群土器のロクロ土師器坏・小型甕・甕と共伴している。

金属製品には刀子（第178図3-1~2）・釘（第178図3-3）・銅銭（寛永通宝）がある。3-1はSI10 竪穴住居跡で出土し、第2群土器の土師器坏・鉢・甕・甗と共伴している。3-2はSI52 竪穴住居跡で出土し、第2群土器の土師器坏・鉢・甕と共伴している。

10. 小結 — 遺構出土遺物の年代 —

第4章で記載した調査結果と本節で行なった主要な遺構出土遺物の検討を踏まえて各遺構出土遺物の年代を整理すると、第10表のようにまとめられる。年代が確定できない出土遺物については、各遺構の主體的な出土遺物の特徴によって大まかに分類した。

年代の明らかな遺構出土遺物としては飛鳥時代後半に位置づけられる第2群土器が最も多い。年代が確定できない遺構出土遺物のうち、有段丸底形態で内面にヘラミガキ調整→黒色処理を施す土師器坏、胴部外面にハケメ調整を施す土師器甕なども第2群土器に属する可能性が考えられる。また、詳細な特徴が不明なその他の土師器については年代を特定することが難しいが、第4群~第7群土器で主体を占めるのはロクロ土師器であり、非ロクロ調整の土師器は第4群土器に少数が伴うのみであることから、非ロクロ調整の土師器の大半が第2群土器に含まれるものと推測される。

また、平安時代に位置づけられる第4群~第7群土器、中世前半に位置づけられる第8群土器にもそれぞれ一定のまとまりが認められる。年代が確定できない遺構出土遺物のうち、ロクロ土師器は第4群~第7群土器のいずれかに属し、陶器甕は第8群土器に属する可能性が考えられる。

以上の検討によって判明した各遺構の出土遺物の年代を基に、これらが出土した各遺構の機能時期についての検討を次節で行なう。

第10表 各遺構出土遺物の年代

年代	土器群	遺構出土遺物
5世紀中頃～後半	第1群土器	SI163
7世紀中頃～後半	第2群土器	SI4/SI5b/SI5c/SI6/SI9/SI10/SI51/SI52/SI206/SI207/SI213/SI218/SI215/SI220/SI225/SI230/SI231/SB256/SA28/SA282/SK112/SK180/SK212/SD162/SD185
7世紀末～8世紀前半	第3群土器	SD50
8世紀末～9世紀初頭	第4群土器	SI209b/SI217/SI218/SI221/SI223/SE258/SK257
9世紀前半～中葉	第5群土器	SI165/SD162
9世紀中葉～後半	第6群土器	SK41/SD8/SD162
9世紀末～11世紀前半	第7群土器	SD38/SK253/P483/P449
13～14世紀	第8群土器	SB313/SA324/SE11/SK125/SD8/SD123/SD161/SX53/P131
年代不確定	土師器	(有段丸底坏) SI2/SI224/SA111
		(ハケメ調整甕) SI205a/SI208/SI227/SB21/SB259/SB275/SB283/SB287/SB299/SB305/SB314/SB369/SB371/SA235/SA254/SE60/SE144/SK3/SK39/SK64/SK69/SK102/SK118/SK128/SK131/SD42/SD49/SD181/SD234/SD273
	ロクロ土師器	SI113/SI205b/SB20/SB107/SB138/SB281/SB284/SB288/SB311/SB327/SB342/SB343/SB373/SB374/SA293/SA315/SA329/SA330/SA335/SA336/SA338/SE18/SE36/SK7/SK44/SK55/SK101/SK119/SK120/SK126/SK134/SK136/SK204/SK178/SD24/SD105/SD114/SD115/SD124/SD132/SD177/SD233/SX62/SX137/SX169
	陶器甕	SI214/SI219/SI226/SI229/SB247/SB291/SB309/SB331/SB345/SA278/SK142/SK143/SK164/SK172/SK243/SK248/SK252/SD1/SD116/SD242
		SA325

第2節 遺構の特徴と遺跡の性格

確認した遺構は、竪穴住居跡 41 軒、掘立柱建物跡 66 棟、柱列跡 38 条、井戸跡 10 基、土坑 107 基、溝跡 47 条、水溜め状遺構 1 基、畝溝状遺構 1 基、性格不明遺構 5 基、柱穴多数である。これらの遺構について、第1節で検討した出土遺物の年代と、出土柱材などの放射性炭素年代（「十郎田遺跡2」第3章第1節）、および各遺構の新旧関係などから機能時期を推定する。

1. 放射性炭素年代

遺構に伴って出土した木製遺物（柱材、礎板、木製品）を試料として実施した放射性炭素年代測定（AMS測定）の結果について検討し、遺構の機能時期を推定する。測定試料はSI231 竪穴住居跡出土柱材 3 点、SB21 掘立柱建物跡出土柱材 4 点・礎板 1 点、SB138 掘立柱建物跡出土柱材 2 点、SB262 掘立柱建物跡出土柱材 4 点、SB256 掘立柱建物跡出土柱材 2 点・礎板 1 点、SB305 掘立柱建物跡出土柱材 3 点、SA28 材木堀跡出土柱材 5 点、SA76 材木堀跡出土柱材 2 点、SA235 材木堀跡出土柱材 5 点、SE66 井戸跡出土木製品 5 点である。いずれも樹皮は認められず、残存する最外年輪から試料を採取した。測定試料の炭素含有量はSB21 掘立柱建物跡出土柱材 1 点が約 45% と低い以外は、すべて 50～60% であり、十分な値であった。化学処理、測定に問題は認められていない（「十郎田遺跡2」第3章第1節）。ここでは、¹⁴C年代を基にして得られた暦年較正年代（1σ）を使用して遺構の機能時期を検討する。

SI231 竪穴住居跡主柱穴出土柱材の暦年較正年代は、539～641calADの範囲に示された。本遺構の柱材は横断面が長方形を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。このため、柱材に使用された樹木の伐採年代は西暦 640 年頃よりやや新しく、本遺構の機能時期は 7 世紀後半か、それ以降と推定される。

SB21 掘立柱建物跡柱穴出土柱材・礎板の暦年較正年代は、1052～1262calADの範囲に示された。本遺構の柱材は横断面が正方形・六角形・八角形を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。このため、柱材に使用された樹木の伐採年代は西暦 1260 年頃よりやや新しく、本

遺構の機能時期は 13 世紀中頃か、それ以降と推定される。

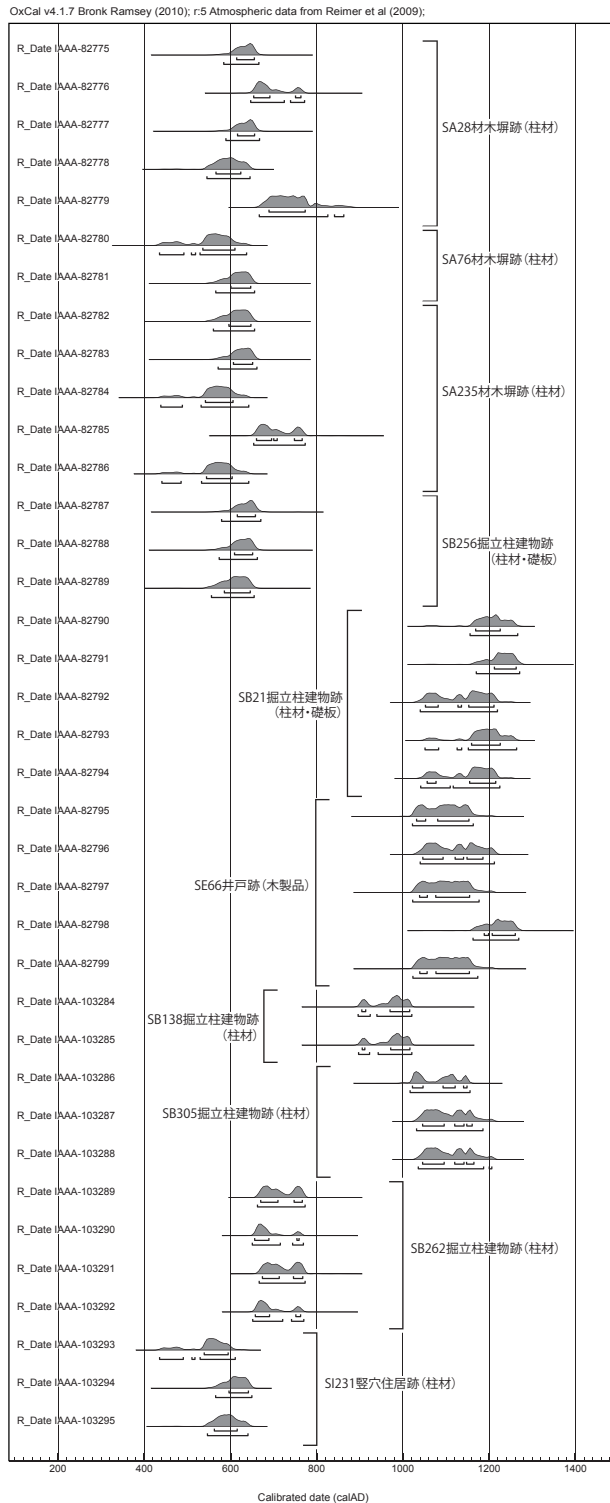
SB138 掘立柱建物跡柱穴出土柱材の暦年較正年代は 904~1016calAD の範囲に示された。各試料に二つの範囲を持ち、904~913calAD、970~1016calAD の範囲に示されている。比較的残存状態の良好であった P2 柱穴の柱材では、芯去材の丸柱の最外年輪から試料が採集されており、使用された樹木の伐採年代に近い値が示されたと考えられる。このため、本遺構の機能時期は 10 世紀代か、それ以降と推定される。

SB256 掘立柱建物跡柱穴出土柱材・礎板の暦年較正年代は、585~657calAD の範囲に示された。比較的残存状態の良好であった P3 柱穴の柱材では、芯持材の丸柱の最外年輪から試料が採集されており、使用された樹木の伐採年代に近い値が示されたと考えられる。このため、本遺構の機能時期は 7 世紀後半か、それ以降と推定される。

SB262 掘立柱建物跡柱穴出土柱材の暦年較正年代は、656~767calAD の範囲に示された。各試料に二つの範囲を持ち、656~713calAD と 746~767calAD の範囲に示されている。本遺構の柱材は柾目・板目の板状を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。このため、柱材に使用された樹木の伐採年代は各暦年較正年代範囲よりやや新しく、本遺構の機能時期は 8 世紀代か、それ以降と推定される。

SB305 掘立柱建物跡柱穴出土柱材の暦年較正年代は 1022~1164calAD の範囲に示された。各試料に三つの範囲を持ち、1022~1095calAD、1093~1141calAD、1140~1164calAD の範囲に示されている。本遺構の柱材は横断面が五角形、六角形、八角形を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。このため、柱材に使用された樹木の伐採年代は各暦年較正年代範囲よりやや新しく、本遺構の機能時期は 12 世紀代か、それ以降と推定される。

SA28 材木堀跡の暦年較正年代は、566~773calAD の範囲に示された。やや古く 566~655calAD の範囲に示されるものが 3 点、やや新しく 653~773calAD の範囲に示されるものが 2 点ある。本遺構の柱材は横断面形が楕円形・半円形・三角形・台形を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。SA76 材木堀跡の暦年較正年代は、535~646calAD の範囲に示された。本遺構の柱材は横断面形が三角形・台形を呈する割材であり、辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。



第 179 図 各遺構の暦年較正年代範囲

SA235 材木堀跡の暦年較正年代は、541~766calAD の範囲に示された。やや古く 541~651calAD の範囲に示されるものが4点、やや新しく 660~766calAD の範囲に示されるものが1点ある。本遺構の柱材は横断面形が円形・半円形・三角形・台形を呈する割材と、芯持材の丸柱であり、多くは辺材部の樹皮に近い部分が除去された可能性がある。

SA28・SA76・SA235 材木堀跡の暦年較正年代は、535~766calAD の範囲に示され、このうちやや古く 535~655calAD の範囲に示されるものが12点、やや新しく 653~766calAD の範囲に示されるものが3点である。これらの暦年較正年代範囲は良く一致し、特にやや古く示されている一群についてはほぼ同一の年代を示している可能性が高い。このことから、柱材に使用された樹木の伐採年代は西暦 650 年代よりやや新しく、本遺構の機能時期は7世紀後半か、それ以降と推定され、やや新しい年代を示す少数の一群については造営後の部分的な改修などの可能性が考えられる。

SE66 井戸跡出土木製品の暦年較正年代は、1031~1260calAD の範囲に示された。本試料は井戸跡の廃絶後に水溜めとして機能した窪地に一括して搬入された木製品のうち小皿未製品5点から採取されたものである。また、これらは挽物皿の素材となる荒型であり、ケヤキの同一個体を分割して製作された可能性が高く、芯部や辺材部の樹皮に近い部分は除去されたと考えられる（「十郎田遺跡2」第4章）。このため、木製品に使用された樹木の伐採年代は1260年代よりやや新しく、13世紀中頃と推定される。本遺構の井戸跡としての機能時期はこれよりやや古いと考えられるが、概ね上述の年代に収まるものと考えられる。

以上の検討を踏まえると、各遺構の機能時期として推定される年代は第11表のようにまとめられる。

第11表 放射性炭素年代測定結果から推定される遺構の機能時期

遺構	測定試料	推定機能時期（上限）	遺構出土の土器群
SI231 竪穴住居跡	P1・P2・P3 柱穴出土柱材	7世紀後半	第2群土器
SB21 掘立柱建物跡	P1 柱穴出土礎板 P2・P3・P4・P7 柱穴出土柱材	13世紀中頃	-
SB138 掘立柱建物跡	P1・P2 柱穴出土柱材	10世紀代	-
SB256 掘立柱建物跡	P1 柱穴柱材抜き取り痕跡出土柱材 P3 柱穴出土柱材 P8 柱穴柱材抜き取り痕跡出土礎板	7世紀後半	第2群土器
SB262 掘立柱建物跡	P1・P2・P3・P4 柱穴出土柱材	8世紀代	-
SB305 掘立柱建物跡	P7・P9・P12 柱穴出土柱材	12世紀代	-
SA28 材木堀跡	柱材②・③・⑤・⑦・⑨	7世紀後半	第2群土器
SA76 材木堀跡	柱材①・②	7世紀後半	-
SA235 材木堀跡	柱材①・②・③・④・⑤	7世紀後半	-
SE66 井戸跡	井戸廃絶後の水溜内出土木製品	13世紀中頃	-

2. 遺構の時期と特徴

本遺跡で確認した遺構について、第1節で検討した出土遺物の年代と、前項で検討した出土柱材などの放射性炭素年代、および各遺構の新旧関係などから機能時期を推定すると、第12表に示すようにA~G期の遺構期に分類できる。掘立柱建物跡については出土する遺物が小片であることが多く、遺物から遺構期を特定することが難しいことから、周辺の出土遺物および建物構造、柱穴の規模・形状などから分類を行なった。ここでは、各遺構期の特徴と様相を述べる。

(1) I期（5世紀中頃～後半）

竪穴住居跡1軒があり、第1群土器を保有する。SI163 竪穴住居跡は1区の丘陵平坦面に立地する。7.70m × 6.40m の規模で住居西壁中央にカマドを付設するとみられる。残存状況が良好でないためカ

第12表 遺構の機能時期と土器群

遺構期	時代・時期	年代	土器群	帰属遺構	
I期	古墳時代 中期後半	5世紀中頃～後半	第1群土器	1区	SI163
II期	古墳時代 後期後葉 (飛鳥時代 後半)	7世紀中頃～後半	第2群土器	1区	SA28/SK180/SD162/SD185
				2区	SI2/SB367/SK47/SD1/SD49
				3区	SI51/SI52/SK112/SK212/SD50/SI113/SA111/SK136/SK156/SK157/SK202/SK203/SX135/SX137/SX188/SX211
				4区	SI4/SI5a/SI5b/SI5c/SI6/SI9/SI10/SA76/SA282/SB20/SB312
				5区	SI206/SI207/SI213/SI215/SI220a/SI220b/SI225/SI230/SI231/SB256/SA235/SI205a/SI205b/SI208/SI222/SI224/SI227/SI228/SB259
III期	平安時代 初頭	8世紀末～9世紀初頭	第4群土器	5区	SI209a/SI209b/SI217/SI218/SI221/SI223/SB262/SE258/SK257/SI229/SA279/SD234
IV期	平安時代 前葉前半	9世紀前葉～中葉	第5群土器	1区	SI165
V期	平安時代 前葉後半	9世紀中葉～後半	第6群土器	2区	SK41/SK39/SK44/SK190
VI期	平安時代 中葉	9世紀末～11世紀前半	第7群土器	3区	SB138/SD38/SD116/SD155
				5区	SK253
VII期	中世 前半中頃 (鎌倉時代 中頃)	13世紀中頃	第8群土器	1区	SD161/SB352/SB353/SB354/SB355/SB356/SB358/SB359/SB360/SB361/SA351/SA357/SE18
				2区	SB365/SB366/SB370/SB371/SA368
				3区	SA324/SK125/SD123/SB106/SB107/SB139/SB195/SB327/SB328/SB342/SB343/SA325/SA326/SA329/SA330/SA334/SA335/SA336/SA337/SA338/SA339/SA340/SE36/SE144/SD24/SD109/SD122/SD124
				4区	SB21/SB305/SB313/SE11/SE66/SK58/SD8/SX53/SB22/SB23/SB281/SB283/SB284/SB285/SB286/SB287/SB288/SB290/SB294/SB295/SB298/SB299/SB301/SB302/SB304/SB306/SB307/SB308/SB309/SB311/SB314/SB364/SB373/SB374/SA34/SA282/SA289/SA292/SA293/SA296/SA297/SA300/SA303/SA310/SA315/SE57/SE59/SE60/SE65
機能時期不確定		平安時代		1区	SK164/SK172
				3区	SB331/SB345/SA341/SK142/SK143
				4区	SB291
				5区	SI214/SI219/SI226/SB247/SB275/SB277/SA278/SK243/SK248/SK252/SD242
				1区	SA167/SD166/SD198
		古代		2区	SB369/SB372/SA40
				3区	SB344/SK101/SK102/SK103
				5区	SI216/SI244/SA246/SA254/SK267/SD264/SD273
				不明	1区
		2区			SK191/SK192/SK194/SD42/SD189/SD193
		3区			SK108/SK110/SK117/SK118/SK119/SK120/SK126/SK128/SK131/SD114/SD115/SD132/SK133/SK134/SK140/SK147/SK148/SK149/SK150/SK152/SK153/SK154/SK158/SK159/SK160/SD105/SD129
		4区			SK3/SK7/SK55/SK64/SK67/SK68/SK69/SK70/SK71/SK78/SK80/SK204/SK319/SK320/SK321/SK322/SK323/SK346/SK347/SK348/SK349/SK350/SD63/SD72/SD74/SD75/SD316/SD317/SD318/SX62
		5区			SA280/SK249/SK255/SK265/SK268/SK269/SK274/SD233/SD270

※太字は出土土器群・年代測定・遺構の新旧関係による判定、細字は出土土器の大まかな特徴(土師器・ロクロ土師器など)・遺構の特徴(規模・形状、柱穴掘方の規模・形状など)と配置関係(分布・方位)などによる推定を示す。また、下線は年代測定試料が帰属する遺構を示す。

で真北を基準に21°東に偏する。東郭南東隅(SA235)は88°の角度で屈折する。

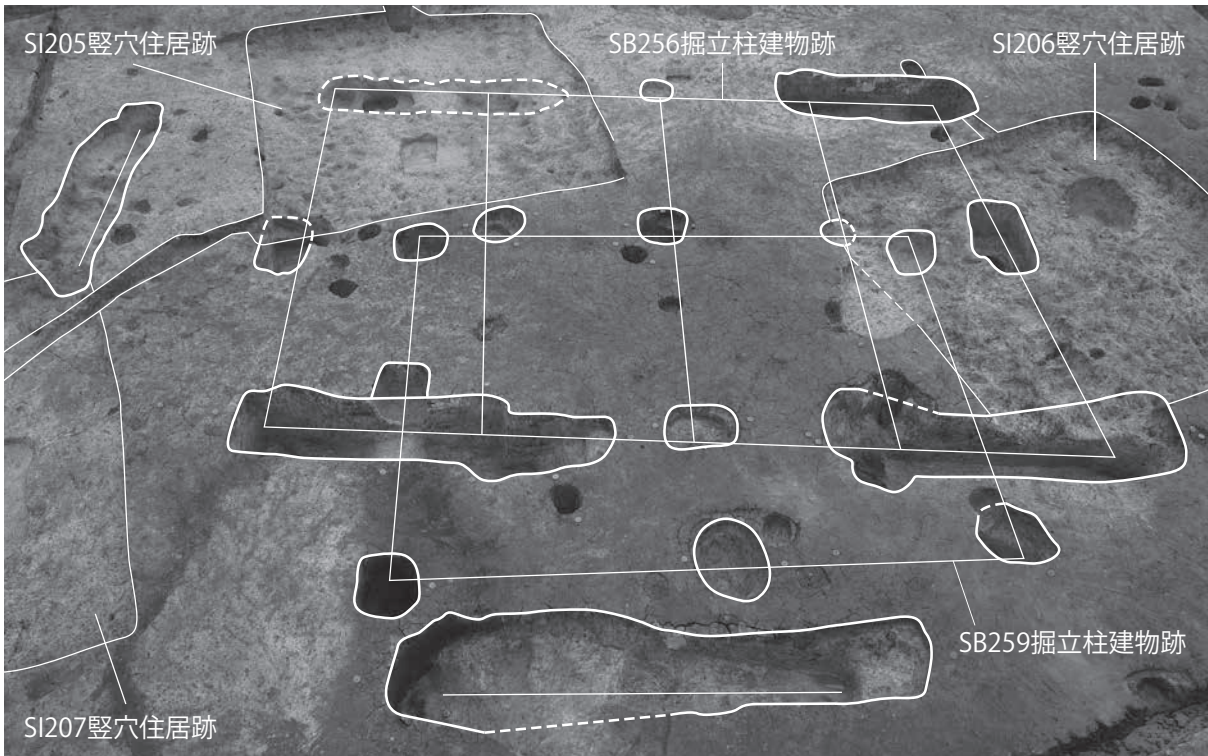
大溝跡 遺跡北西部の1区で東西52.8mを確認したSD162溝跡は、遺跡の立地する低平な舌状丘陵の基部を断ち切るように配置され、造営方向は真東を基準に22°南に偏する。東部で近代の大溝に壊されているが、材木堀区画の西郭北辺と約10m前後の間隔を保ってほぼ平行していた可能性がある。

区画溝跡 遺跡西部の2・3区で各1か所を確認した。2区のSD1・49溝跡は南北29m、東西24m以上の方形区画を形成し、内部に竪穴住居(SI2)を配置する。造営方向は真北を基準に東偏し、材木堀区画の西郭北辺とほぼ一致する。3区のSD50溝跡は東西10.5m以上、南北6.5m以上で、大型竪穴住居(SI51)の北・東側を区画している。東西方向はSI51竪穴住居跡の北辺とほぼ一致する。

掘立柱建物跡 5棟を確認した。2・4区に2棟、5区に3棟が分布する。規模は2×2間が1棟、2×3間が3棟、2×4間が1棟、構造は東西棟側柱建物2棟、南北棟側柱建物1棟、東西棟床束建物1棟、南北棟総柱建物1棟である。主軸方向は真北を基準に東偏するもの4棟、東西方向のもの1棟である。5区で確認したSB256掘立柱建物跡は材木堀区画の東郭南東隅に位置する。2×4間の東西棟床束建物で主軸方向が材木堀区画の東郭東・南辺とほぼ一致する。また、SB256掘立柱建物跡に先行するSB259掘立柱建物跡は2×2間の東西棟側柱建物で、主軸方向は材木堀区画の東郭東・南辺とほぼ一致する。これら2棟の掘立柱建物跡を含めて、主軸方向が東偏する4棟は材木堀区画に伴うものと考えられる。

竪穴住居跡 27軒を確認した。住居の構造について見ると、平面規模は長辺で3.8~6.1m程度の中型のものが主体で、3.3mの小型のもの1軒、8.0mの大型のもの1軒がある。主軸方向はほぼ真北を基準とするもの14軒、真北を基準に東偏するもの3軒、西偏するもの6軒、ほぼ東西方向のもの1軒である。カマドの付設される位置は住居北壁11軒、東壁1軒で、長く伸びる煙道を持つもの5軒、明瞭な煙道を持たないものが4軒ある。柱配置は主柱穴を持つもの9軒、持たないもの11軒で、壁柱穴を持つものは2軒ある。住居内の施設では貯蔵穴を持つもの9軒、暗渠溝を持つもの4軒、床下土坑を持つもの9軒がある。外延溝は4軒で確認した。

こうした特徴について平面分布状況との関係を見ると、2・3・4区には11軒が分布し、このうち3



第181図 SB256・259掘立柱建物跡



第 182 図 II 期 主要遺構配置図

区に大型のSI51 竪穴住居跡が位置する。主軸方向が東偏あるいは西偏して主柱穴を持つものがやや多い。5区には16軒が分布し、主軸方向がほぼ真北を基準とするものが主体で主柱穴を持つものは少なく、床下土坑、暗渠溝、外延溝などの施設を持つものが多い。SI215 竪穴住居跡は小型で東壁にカマドを付設する。暗渠溝と外延溝の有無については地形的要因に起因している可能性もあるが、主軸方向や主柱穴の有無などの住居構造については居住した集団や時期の違いを反映している可能性が考えられる。

材木堀区画との関係について見ると、2・3・4区の11軒は西郭内に位置し、5区では東郭内に5軒、区画外に11軒が位置する。竪穴住居跡と材木堀跡の新旧関係を直接確認できた地点はないが、東郭南東隅に位置するSI206・SI207 竪穴住居跡は、東郭東・南辺の材木堀と方向を合わせるSB259・SB256 掘立柱建物跡に壊されている。このことから、5区に分布し主軸方向がほぼ真北を基準とする竪穴住居跡のうち11軒は材木堀区画の造営に先行する可能性が考えられる。また、西郭内では主軸方向が東偏するSI52 竪穴住居跡が西偏するSI51 竪穴住居跡に壊されていることから、主軸方向が東偏するものから西偏するものへ変遷している可能性が考えられる。

大型竪穴住居跡 3区に位置するSI51 竪穴住居跡は東西6.7m、南北8.0mの規模で、北・東側に区画溝を伴う。住居の主軸方向はやや西偏する。4か所の主柱穴を配し、北壁中央に付設されたカマドは煙道が長く伸びる。南側の旧河川跡を挟んで対向する位置の窪田遺跡では東西・南北8.0mのSI3 竪穴住居跡が確認されており、SI51 竪穴住居跡とほぼ同時期と考えられる。窪田SI3 竪穴住居跡は主軸方向がほぼ南北方向で、6か所の主柱穴を配し、北壁中央にカマドを付設する。窪田遺跡ではほかに竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡10棟などが同時期の遺構と考えられ、いずれも主軸方向はほぼ南北方向である。当該期の十郎田・窪田遺跡において建物の主軸方向が同様に変遷しているとすれば、窪田遺跡の遺構群の形成時期は十郎田5区の住居群と同様に材木堀区画の造営に先行する可能性が考えられる。

(3) III期 (8世紀末～9世紀初頭)

竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、柱列跡1条、井戸跡1基、土坑1基、溝跡1条があり、第4群土器を保有する。遺構はいずれも5区に分布し、竪穴住居と掘立柱建物の主軸方向は東西・南北方向である。カマドの付設される位置は住居北壁1軒、東壁3軒である。住居内の施設では貯蔵穴を持つもの2軒、床下土坑を持つもの3軒、暗渠溝を持つもの1軒がある。外延溝は4軒で確認した。SI218・SI221 竪穴住居跡では鞆羽口が出土しており、5区ではほかに土坑、遺構外で3点が出土していることから、住居内あるいは集落内で小鍛冶が行なわれていたと考えられる。

(4) IV期 (9世紀前葉～中葉)

竪穴住居跡1軒があり、第5群土器を保有する。SI165 竪穴住居跡は1区の丘陵平坦面に立地する。残存状況が良好でないが4.5m×4.0m程度の規模で住居東壁中央やや南寄りにカマドを付設し、側壁の骨材に凝灰岩切石を使用する。住居床面を黄褐色ロームブロックによる貼床で構築し、4か所の主柱穴のうち2か所は住居南壁に接するとみられる。カマド右側の住居南東隅に貯蔵穴1基を持つ。

(5) V期 (9世紀中葉～後半)

土坑4基があり、第6群土器を保有する。いずれも2区に分布する平面形が隅丸方形の土坑である。SK41土坑は平面形が83cm×245cm以上の隅丸方形を呈し、横断面形が深さ62cmの逆台形を呈する。炭化物粒、焼土ブロック、黄褐色ロームブロックを含む堆積土よりロクロ土師器坏2点、甕1点、須恵器坏4点、甕5点などが出土し、一括廃棄土坑と考えられる。

(6) VI期 (9世紀末~11世紀前半)

掘立柱建物跡1棟、土坑1基、溝跡3条があり、第7群土器を保有する。遺構はいずれも3区に分布する。SB138 掘立柱建物跡は調査区外へ延びるため詳細が不明であるが、平面形が直径98~118cmの略円形を呈する大型の柱穴掘方を持ち、柱の太さも直径36cmと推定されることから比較的規模の大きい建物と推定される。

(7) VII期 (13世紀中頃)

VII期の遺構 掘立柱建物跡50棟、柱列跡26条、井戸跡9基、土坑2期、溝跡7条、水溜め状遺構1基があり、第8群土器を保有する。遺構は1・2・3区と4区西部に分布し、3区から4区西部にかけての平坦面では多数の掘立柱建物跡が重複して建てられている。

掘立柱建物跡 1区に9棟、2区に4棟、3区に8棟、4区に28棟が分布する。建物の主軸方向はほぼ南北方向のもの23棟、真北を基準に東偏するもの21棟、西偏するもの7棟である。分布上の大きな偏りは認められないが、西偏するもののうち5棟は4区に分布する。遺構の新旧関係から見ると南北方向のSB305 掘立柱建物跡が東偏するSB309 掘立柱建物跡に、南北方向のSB313 掘立柱建物跡が西偏するSB314 掘立柱建物跡に壊されており、南北方向の建物が相対的に古く位置づけられる可能性がある。規模は1×1間が10棟、2×1軒が13棟、2×2間が5棟、3×1間が6棟、3×2間が3棟、構造は東西棟側柱建物16棟、南北棟側柱建物23棟、廂(縁)の付属する東西棟総柱建物1棟、東西棟床束建物2棟、南北棟側柱建物4棟、南北棟床束建物1棟である。廂(縁)付建物は1区に1棟(SB360)、3区に2棟(SB139・SB328)、4区に6棟(SB21・SB23・SB285・SB305・SB309・SB373)が分布することから、複数の屋敷が営まれ、それぞれの中心的建物として機能したものと考えられる。

井戸跡 1区に1基、3区に2基、4区に6基が分布する。井戸跡の構造は1・3区の3基(SE18・SE36・SE144)、4区の1基(SE57)が素掘りと考えられ、4区の5基(SE11・SE59・SE60・SE65・SE66)は部材の残存状況または掘方の形状、抜き取り痕跡などから井戸側を伴う構造であったと推定される。4区のSE66 井戸跡は井戸の廃絶後に下部が人為的に埋め戻され、上部が水溜めとして利用されていたと考えられる。水溜め内からは一括して搬入されたと考えられる木製挽物椀・皿・小皿の未製品(荒型)180点を含む木製品189点が出土し、木製挽物の製作工程における水漬けが行なわれていた可能性がある(「十郎田遺跡2」)。このことから、屋敷地の一角に挽物製作を行なう工房が存在していた可能性が考えられる。

3. 小結—各時期の様相と遺跡の性格—

I期(5世紀中頃~後半)には、遺跡北西部の舌状丘陵基部に竪穴住居1軒が営まれている。近隣の都遺跡、窪田遺跡にもほぼ同時期の竪穴住居跡1~2軒が分布することから、本遺跡周辺では少数の竪穴住居で構成される小規模な集落が点在していたことが窺える。

II期(7世紀中頃~後半)になると、まず遺跡南東部の舌状丘陵先端部に主軸方向を南北方向に合わせる竪穴住居10数軒が営まれ、その後に遺跡の立地する舌状丘陵のほぼ全域を利用して材木堀区画が造営され、内部に掘立柱建物と竪穴住居などの施設群が配置されたと考えられる。材木堀区画は東西約308m、南北約142mの長方形の西郭の南東部に東西約58m、南北約52mの方形の東郭が付属し、東西の総延長366mに及ぶ大規模なものである。造営方向は舌状丘陵の方位に合わせたものと考えられ、真北を基準にして19~23°東偏する。また、舌状丘陵基部側では材木堀区画北辺に沿って大溝を伴った可能性がある。区画内に配置された施設の主軸方向は真北を基準にして東偏するものと西偏するもの

二者があり、二時期程度の変遷を示している可能性が考えられる。竪穴住居跡出土遺物には在地土師器と異なる製作技法あるいは形態的特徴を持つ外来の土師器が含まれており、福島県域あるいは関東地方との密接な関連が窺われる。このことから、本集落の出現の契機として域外の集団との文化的あるいは政治的な接触があったものと考えられる。

Ⅲ期（8世紀末～9世紀初頭）には、遺跡南東部の舌状丘陵先端部に竪穴住居7軒と掘立柱建物1棟などで構成される集落が営まれている。竪穴住居は4軒に外延溝が付属し、住居内や周辺で鞆羽口が出土していることから、集落内で小鍛冶が行なわれていたものと考えられる。

Ⅳ期（9世紀前葉～中葉）には、遺跡北西部の舌状丘陵基部に竪穴住居1軒が営まれている。

Ⅴ期（9世紀中葉～後半）には、遺跡中央部の丘陵平坦面にロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕などを含む一括廃棄土坑が形成されていることから、周辺に同時期の集落が存在した可能性がある。

Ⅵ期（9世紀末～11世紀前半）には、遺跡中央部の丘陵平坦面に掘立柱建物などが営まれている。掘立柱建物は柱穴掘方・柱材とも規模が大きく、特殊な性格を持つ建物であった可能性がある。

Ⅶ期（13世紀中頃）になると、遺跡西半部の丘陵平坦面に多数の掘立柱建物と井戸跡、溝跡などで構成される複数の屋敷が営まれている。廂（縁）の付属する建物が認められ、屋敷の中心的建物として機能したと考えられる。建物群は遺跡中央部の丘陵平坦面に重複して濃密に分布し、数時期の変遷が窺われる。また、井戸の廃絶後に転用された水溜め内に一括して搬入されたと考えられる木製挽物椀・皿・小皿の未製品（荒型）180点などが出土したことから、屋敷地の一角には挽物製作を行なう工房が営まれていた可能性が考えられる。

本遺跡における人間活動の様相は、以上のような変遷が考えられた。本遺跡の立地する舌状丘陵は少なくとも5世紀中頃～後半以降には集落としての利用が始まったことが判明したが、材木堀区画を伴う集落が営まれるⅡ期を前後する6世紀～7世紀前半および7世紀末～8世紀後半は空白期と言って良い。このことは、次節で述べるようにⅡ期の集落の出現と廃絶の契機における特異性の一端を示唆するものと考えられよう。

第3節 十郎田遺跡の7世紀集落をめぐる諸問題

前節において本遺跡Ⅱ期に位置づけた遺構群は、材木堀による区画施設を伴う7世紀中頃～後半の集落跡である。円田盆地北西部に伸びる低平な舌状丘陵上を区画した材木堀跡は直線的に伸びてほぼ正確な長方形を描き、南東部に方形の小区画が付属していた。材木堀による区画施設の規模は長辺で366m、短辺で142mを測る。北西部の舌状丘陵基部側では、材木堀区画北辺に沿って大溝を伴った可能性がある。区画内には竪穴住居・掘立柱建物などが配置され、区画溝によってさらに区画された一角も存在したと考えられる。また、南東部の舌状丘陵先端部には材木堀区画に先行する可能性のある竪穴住居・掘立柱建物群が分布する。本集落跡は、これまでに宮城県域の仙台平野以北の地域で確認されている「囲郭集落」（村田2002・2005）と考えられる。ここでは、本遺跡Ⅱ期の集落の律令制導入期における位置づけについて若干の考察を行なうこととする。

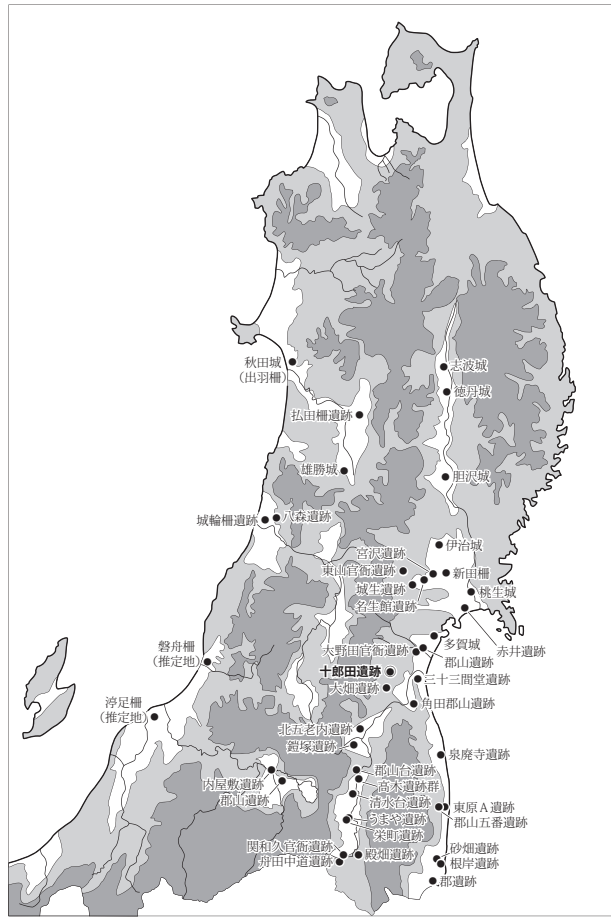
1. 律令制導入期の歴史的背景

9世紀半ばに編纂された「先代旧事本紀」巻十「国造本紀」などによれば、大化改新以前の陸奥には8ないしは10の国造が置かれていた。649・653年には11の評が設置され、653～654年頃に陸奥国が設置されたと考えられている（今泉2005）。太平洋側で国造が置かれていたのは思（巨理）国造（後の

亘理郡)、伊久国造(伊具郡)、信夫国造(信夫郡)など阿武隈川河口以南の地域を北縁としており、十郎田遺跡の位置する円田盆地周辺は国造制施行範囲の外縁地帯であったと考えられる。

最初の陸奥国府とみられる郡山遺跡Ⅱ期官衙の設置は680年代後半頃と考えられており、これに先立つ7世紀中頃には初現期の柵(熊谷2004)とみられる郡山遺跡Ⅰ期官衙が設置された。このことから、大化改新以後の比較的早い段階に仙台平野南部の地域が律令政府の安定した統治下に置かれておいたことが窺える。さらに、724年には仙台平野北部に多賀城が創建され、国府の機能が移された。8世紀前半頃には現在の宮城県南西部から山形県南部にかけての地域に対する律令国家による統治および経営体制の再編が行なわれたと見られる。「続日本紀」によれば、712年には越後国から出羽郡を独立させて出羽国が設置され、陸奥国最上・置賜郡が出羽国に移管されている。

太平洋側の仙台平野以北の地域は、郡山遺跡Ⅰ期官衙の設置を契機とする対蝦夷政策によって律令制下に編入されたと考えられる。一方、仙台平野以南で国造制施行範囲の外縁地帯に位置する円田盆地など白石河流域の盆地群については、721年に陸奥国柴田郡から二郷を分離して苅田郡を設置するという記述が「続日本紀」に見えるが、これ以前に遡り7世紀後半頃とみられる柴田郡成立期の状況は未解明である。また、円田盆地周辺は721年以前の柴田郡域に含まれていたことは確実に考えられるが、苅田郡が分置された721年以後に柴田・苅田のいずれの郡域に属したのかについては判然としていない。なお、円田盆地の南西には白石盆地、東には村田盆地が隣接しているが、白石盆地の白石市大畑遺跡では8世紀前半頃の可能性がある倉庫院跡が確認され、苅田郡衙跡と考えられている(註6)。白石市兀山窯跡は大畑遺跡へ瓦を供給したことが判明している。村田盆地南部の柴田町兎田瓦窯跡では8世紀前半葉に瓦を生産し、未発見の柴田郡衙へ供給したと推定されている。



第183図 東北地方の古代城柵・官衙・関連遺跡

第183図 東北地方の古代城柵・官衙・関連遺跡

2. 円田盆地の考古学的動向

盆地東縁部を中心に4~5世紀代の集落が多く分布し、それらの背後の愛宕丘陵上などに複数の古墳が築造されている。塩釜式期には盆地東縁部の大橋遺跡、伊原沢下遺跡、西縁部の堀の内遺跡、北部の六角遺跡、南小泉式期には東縁部の中沢A遺跡、台遺跡、北部の都遺跡、引田式期には北部の都遺跡、窪田遺跡、十郎田遺跡などで集落を形成している。高塚古墳はいずれも未調査であるが、盆地西縁部の宋膳堂古墳、天王古墳、八幡山古墳、東縁部の愛宕山丘陵上の夕向原古墳群、古峯神社古墳、村田町愛宕山古墳などがある。

6世紀代~7世紀前半の集落は未確認である。

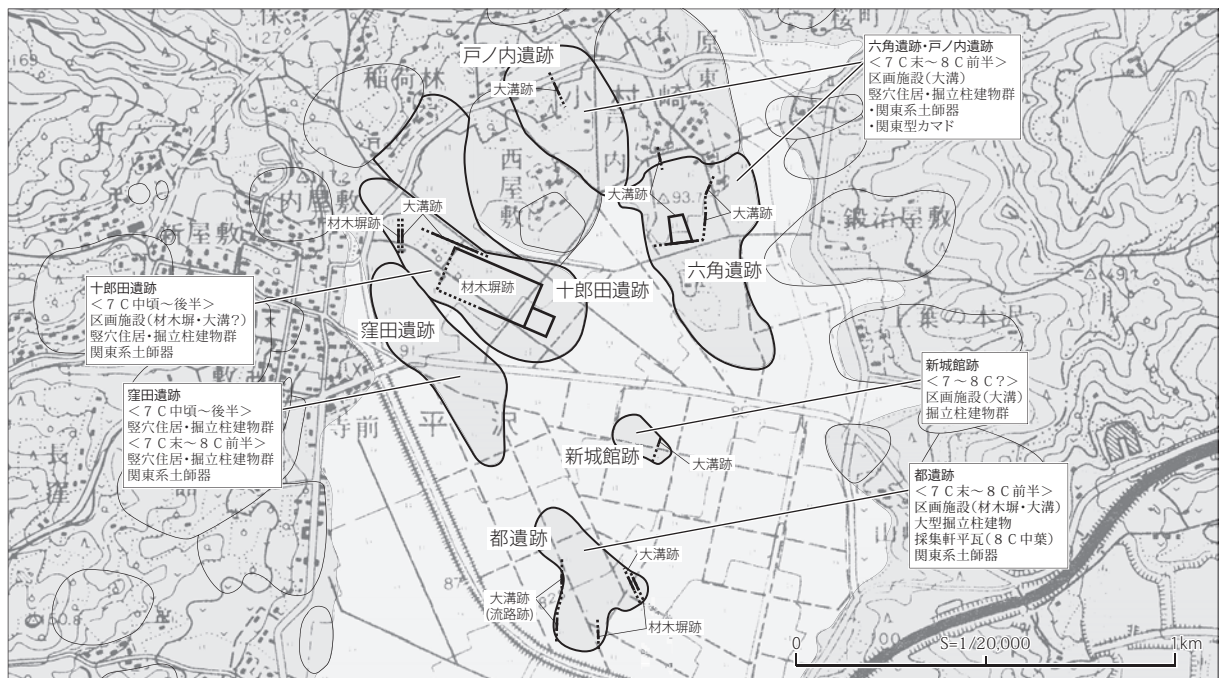
7世紀中頃~後半の集落としては、盆地北部に十郎田遺跡、窪田遺跡、東縁部に塩沢北遺跡がある。

塩沢北遺跡は在地の栗罎式土師器を主体的に保有する一般的な集落と考えられるが、十郎田遺跡は材木堀による区画施設を伴い、掘立柱建物と竪穴住居で構成される集落で、関東系土師器を保有する。窪田遺跡では区画施設は確認されていないが、掘立柱建物と竪穴住居で構成される集落を形成する。

7世紀末~8世紀前半になると、堀の内遺跡、都遺跡、窪田遺跡、新城館跡、六角遺跡、戸ノ内遺跡などに集落が形成される。六角遺跡は大溝による区画施設を伴い、掘立柱建物と竪穴住居で構成される集落で、関東系土師器を主体的に保有する。関東系土師器は堀の内遺跡、都遺跡、窪田遺跡、戸ノ内遺跡にもみられる。都遺跡では多賀城創建期の軒平瓦が採集されているほか、材木堀と大溝による区画施設や大型掘立柱建物が造営されており、官衙関連施設の可能性がある。これらの遺跡の多くは盆地北部に北西から伸びる複数の舌状丘陵上に立地し、材木堀あるいは大溝による区画施設や掘立柱建物の存在、在地の栗罎式土師器に加えて関東系土師器を保有することなどが特徴的で、一般的な単純集落群とは異なる様相を呈する（第184図）。なお、都遺跡で採集された瓦は、白石市兀山窯跡、柴田町兎田窯跡で焼成されたものとは特徴が異なり、円田盆地内に未発見の窯跡の存在が予想される。

8世紀中頃~後半の集落は未確認である。

8世紀末~9世紀の集落は盆地周辺の各所に展開する。盆地北部の前戸内遺跡では、官衙風の配置を形成する掘立柱建物・竪穴住居群が確認されている。盆地東縁部の東山遺跡では、土器溜遺構から灰釉陶器、転用硯、墨書土器などが多数出土している。



第184図 円田盆地北部における律令制導入期の考古学的動向

3. 十郎田遺跡の性格

長方形区画の囲郭集落跡 本遺跡では、舌状丘陵のほぼ全域を材木堀によって区画し、内部に掘立柱建物と竪穴住居などの施設群を配置する集落が7世紀中頃~後半に造営された。遺跡北西部の舌状丘陵基部側では材木堀区画北辺に沿って大溝を伴った可能性がある。材木堀は直線的に伸びてほぼ正確な長方形を描き、東西約308m、南北約142mの長方形の西郭の南東部に東西約58m、南北約52mの方形の東郭が附属し、東西の総延長は366mに及ぶ。造営方向は舌状丘陵の方位に合わせたものと考えられ、真北を基準にして19~23°東偏する。区画施設の開口部あるいは門跡と考えられる遺構は未確認である。

集落を構成する施設は竪穴住居 27 軒、掘立柱建物 5 軒、溝 5 条などがあり、竪穴住居が主体的である。竪穴住居のうち、遺跡南東部の舌状丘陵先端部で材木堀区画の内外に分布し、主軸方向を真北に合わせる竪穴住居 10 数軒は材木堀区画に先行した可能性がある。区画に伴うと考えられる竪穴住居のほとんどは材木堀区画の内部に配置され、主軸方向が真北を基準にして東偏・西偏するものの二者があることから二時期程度に変遷する可能性が考えられる。掘立柱建物は東郭南東隅に 2 棟、西郭内部に 3 棟が配置されている。保有する土器群は在地の栗罎式土師器を基本としながらも、坏類を中心に関東系土師器を安定的に組成していることが特徴的である。

当該期の宮城県域では、仙台市長町駅東遺跡、大和町一里塚遺跡、東松島市赤井遺跡、大崎市権現山・三輪田遺跡などで材木堀と大溝による区画施設を伴ういわゆる「囲郭集落」（村田 2002・2005）が造営されており、本遺跡の集落についてもその構造と土器群の特徴などから同様の性格が考えられる。

クリ材への高い志向性 SA28・76・235 材木堀跡、SB256 掘立柱建物跡出土柱材を対象試料として樹種同定分析を実施した結果、SB256 掘立柱建物跡の柱材 2 点がクリ、礎板 1 点がケンボナシ属であり、SA28 の 11 点、SA76 の 2 点、SA235 の 26 点の合計 39 点のうち SA235 の 2 点（コナラ節とケヤキ）を除く 37 点がクリであった。材木堀跡の総延長は推定 1,068m であり、調査範囲における柱の間隔は平均 45cm であることから、単純計算で 2,350 本の柱材が使用されたと推定される。クリに対する志向性の高さは、掘立柱建物と材木堀の用材が高い計画性に基いて調達されたことを示していると考えられる。また、残存していた柱材のほとんどが割材（芯去材）であり、計画的な製材技術を持つ集団によって造営されたことが窺える。

官衙造営の可能性 これまで確認されている囲郭集落は、いずれも仙台平野以北の地域に位置しており、重複あるいは隣接する位置に並行あるいは後続して城柵・官衙が造営されたことが知られている。長町駅東遺跡と郡山遺跡 I 期官衙、一里塚遺跡と黒川郡家、赤井遺跡と牡鹿柵・郡家、名生館遺跡と玉造柵・郡家などは、相互に強い関連性を持ちながら造営されたことが指摘されている。このため、囲郭集落は律令制支配を前提として設置されたものであり、城柵・官衙の設置や維持と密接に関わった施設と考えられている（村田 2002・2005）。

円田盆地における官衙の存在は未確定であるが、都遺跡、窪田遺跡、新城館跡で確認されている 7 世期末～8 世紀前半頃の掘立柱建物跡群や区画施設跡が官衙関連施設の一部である可能性を考慮しておく必要がある（第 186 図）。その場合、8 世紀前半頃の可能性がある倉庫院跡が確認され、苅田郡衙跡と考えられている白石市大畑遺跡との関係が問題となり、周辺遺跡を含めた相互の遺跡群の性格について検討が必要である。また、柴田郡の建郡当初の経営拠点の位置や、721 年の苅田郡分置以後の苅田・柴田の郡域についても今後検討される必要がある。

4. 囲郭集落にみる歴史的動向

国造制外縁地帯の特異性 7 世紀の宮城県南西部（阿武隈川河口以北～仙台市郡山遺跡以南の地域）の様相については不明な点が多かったが、これまで未発見であった囲郭集落が十郎田遺跡で確認されたことにより、阿武隈川河口以北の国造制未施行範囲に対して一律の政策が採られていたことが窺える。

また、円田盆地では 4-5 世紀代には複数の集落が形成されているものの、6 世紀代～7 世紀前半の集落は未確認である。十郎田遺跡に囲郭集落が出現するまでの百数十年間は空白期であり、また囲郭集落そのものも比較的短期間のうちに廃絶する。十郎田遺跡においては囲郭集落期以前には 5 世紀代の竪穴住居跡 1 軒が確認されているのみであり、囲郭集落期以後は 8 世紀末～9 世紀に集落が営まれるまでの間はほとんど利用された形跡が無い（第 185 図）。

このように、4-5世紀代の集落形成期の後に空白期を挟んで7世紀中頃～後半に律令制導入期の集落遺跡が展開するという経過は、仙台平野以北の囲郭集落を巡る動向と非常に良く一致しており、山形県域の置賜地方東部の状況とも非常に良く似ている。このため、国造制施行範囲の外縁地帯においては、7世紀以前からの集落が継続的に営まれ、伝統的な在地勢力が大きな役割を果たしたと考えられる阿武隈川以南の国造制施行範囲の状況とも、8世紀後半に蝦夷との対立が激化する宮城県北部の状況とも異なる経過を辿った可能性が高い。

外来勢力の移入過程 さて、あらためて円田盆地の集落展開（第185図）を見ると、4～5世紀代には盆地南部に多くの集落が形成され、周辺の丘陵上に古墳が築造されている。盆地北部の利用は低調であり、古墳は築造されていない。なお、後続する6世紀～7世紀前半の集落跡は未確認であり、盆地内に活動の痕跡が認められない空白期である（註7）。7世紀中頃～後半になると、盆地南部の塩沢北遺跡に在地土師器のみを保有する集落が形成され（第187図）、盆地北部の十郎田遺跡には在地土師器に加えて関東系土師器を保有する囲郭集落が出現する。律令制導入に関連する外

	盆地南部	盆地北部
4世紀	大橋遺跡 伊原沢下遺跡 堀の内遺跡 立目場遺跡	吉ヶ沢古墳 六角遺跡
5世紀	中沢A遺跡 堀の内遺跡 立目場遺跡 台遺跡 諏訪館前遺跡	宋膳堂古墳 天王古墳 西脇古墳 中屋敷古墳 鉾付神社古墳 八幡山古墳 都遺跡 窪田遺跡 十郎田遺跡
6世紀 ～ 7世紀前半	< 空白期 >	
7世紀 中頃～後半	塩沢北遺跡	十郎田遺跡 — (囲郭集落) 窪田遺跡
7世紀末 ～ 8世紀前半	堀の内遺跡	六角遺跡 戸ノ内遺跡 都遺跡 窪田遺跡 新城館跡 (大溝区画集落)(官衙関連施設?)
8世紀 中頃～後半	< 空白期 >	
8世紀末 ～ 9世紀	東山遺跡 堀の内遺跡 戸ノ内脇遺跡	前戸内遺跡 窪田遺跡 十郎田遺跡 戸ノ内遺跡 六角遺跡

● 関東系土師器を保有する集落

第185図 円田盆地における古墳時代～律令期の遺跡編年



第186図 円田盆地における律令制導入期の遺跡形成

来勢力によって、盆地北部の空閑地に集落・施設が造営されたと考えられる。

郡山Ⅰ期官衙との共通性 仙台平野以北の囲郭集落に伴う区画施設は地形に沿って不整形に巡るが、十郎田遺跡では直線的に延びる材木堀跡がほぼ正確な長方形の区画を形成し、仙台市郡山遺跡Ⅰ期官衙の区画施設のあり方との共通性が認められる。十郎田遺跡の囲郭集落と仙台平野以北の囲郭集落との間で、造営にあたった集団や施設の機能などに違いがあった可能性がある。こうした区画施設の特徴に加えて、計画的な配置も窺われる掘立柱建物の存在などから、十郎田遺跡の囲郭集落が初現期の柵としての機能を有した可能性についても今後検討される必要がある。

外来勢力の展開と変容 十郎田遺跡の囲郭集落に後続する7世紀末～8世紀前半になると、円田盆地の複数の地域に集落が形成される。六角遺跡・戸ノ内遺跡は大溝による区画施設を伴う集落で、関東系土師器を主体的に保有する（第187図）。関東系土師器はほかに堀の内遺跡、都遺跡、窪田遺跡の集落にも見られ、盆地の全域に外来勢力の影響が及んだことが窺える。

さらに、都遺跡では多賀城創建期とみられる軒平瓦が採集されているほか、材木堀と大溝による区画施設や大型掘立柱建物跡を確認しており、掘立柱建物跡群が確認されている窪田遺跡、新城館跡を含むエリアに官衙関連施設が形成された可能性がある。

この後、8世紀中頃～後半にかけての集落は盆地内では未確認であり、再び空白期となる。外来勢力の移転にとどまらず、在地勢力を含めて断絶している可能性があり、盆地内の集団を対象として他地域への移民が行なわれた結果とも考えられよう。

村田盆地あるいは白石盆地では確認されている7～8世紀代の大規模な群集墳が円田盆地で確認されていないことも、十郎田遺跡の囲郭集落と、これに後続する六角遺跡など複数の集落や都遺跡などの官衙関連施設が、それぞれ世代交代が進行しない程度の短い存続期間しか持たずに廃絶され、盆地内の集団構成の再編が繰り返されたことを示唆しているのかもしれない。

5. 集団が保有した土器群

関東系土師器の展開 十郎田遺跡の出土土器群は基本的に在地の栗囲式土師器に包括されるが、これに伴う関東系土師器の様相からは、仙台平野周辺よりも福島県域との共通性が浮かび上がる。

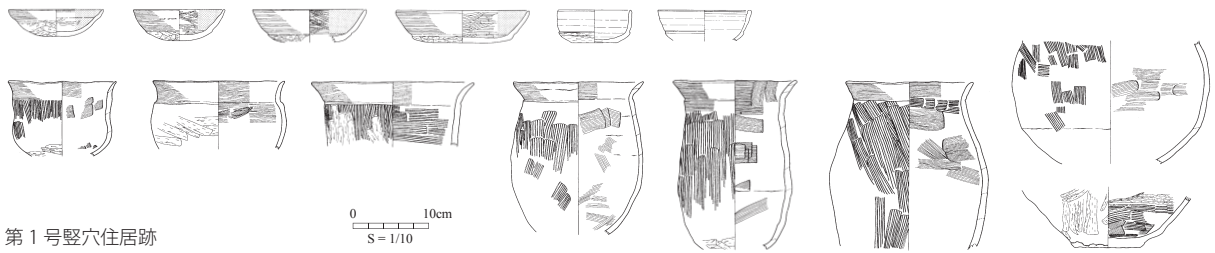
大和町一里塚遺跡、東松島市赤井遺跡、大崎市権現山・三輪田遺跡など仙台平野以北の囲郭集落では多数の関東系土師器を伴うことが知られている。赤井遺跡、権現山遺跡の関東系土師器には坏だけでなく甕などの煮炊具も含まれているが、十郎田遺跡の関東系土師器は坏などの食膳具が主体で、甕などの煮炊具は在地の土師器を基本としている。また、住居形態やカマド構造の点では北壁にカマドを設置し煙道が長く伸びるものが主体であり、基本的に在地の様相を呈する。

一方、後続する8世紀前半には十郎田遺跡の北西約250mに位置する六角遺跡で関東系土師器を主体的に保有する集落が形成される（第186図）。関東系土師器は食膳具だけでなく煮炊具も含む構成となっている（第187図）。集落は大溝による不整形の区画施設を伴っており、住居のカマド方位・構造に多様性が見られるようになる。構築材に白色粘土や凝灰岩切石を多用し煙道が短い関東型カマド（村田2000）を持つ住居も複数見られる。このほか、窪田遺跡、都遺跡、堀の内遺跡など円田盆地の複数の遺跡で関東系土師器を主体的に保有する集落が確認されている。

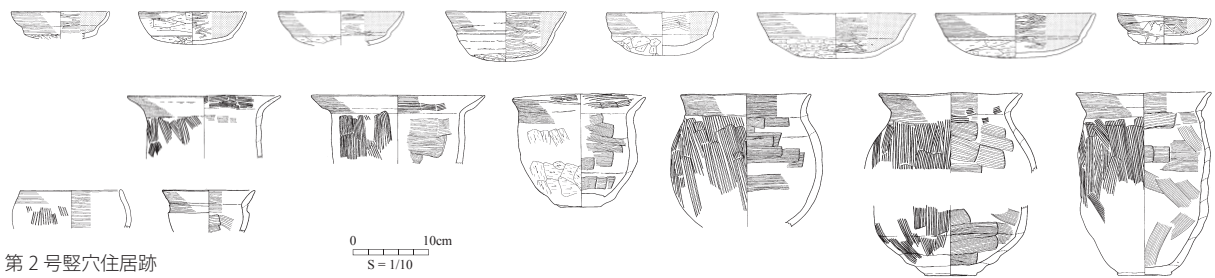
関東系土師器の組成比率とカマドを含む住居構造の点から見ると、十郎田遺跡の集落では外来要素が客体的であり、六角遺跡の集落では外来的な要素がきわめて主体的である。このことから、十郎田遺跡の集落の構成員には在地の人々と外来の人々の双方が含まれていたと考えられるのに対して、六角遺跡などの集落の構成員は主に外来の人々によって占められていたと考えられる。

福島県域との関係性 仙台平野以北で出土している関東系土師器の多くは東関東から北関東地域に出自が求められるのに対して、十郎田遺跡や六角遺跡を含む円田盆地の集落が保有した関東系土師器のほとんどは関東地方の中で特定の地域の土師器と個別に比定ができない。このような関東系土師器は、これまでに仙台平野以北で多数確認されている関東系土師器とは特徴が大きく異なる。宮城県域では東松島市赤井遺跡、栗原市御駒堂遺跡、大和町一里塚遺跡に認められるのみであり、各遺跡の関東系土師器の中に占める割合は大きくない。円田盆地の集落群は阿武隈川水系の小河川に面した立地環境にあるが、福島県本宮市の阿武隈川右岸に立地する高木遺跡群の集落では円田盆地の集落が保有したものに類似する関東系土師器を安定的に保有しており、当地域との密接な関連が窺われる。このことから、円田盆地の集落群を構成した人々は、関東地方からの直接的な移民によるものではなく、関東地方から福島県域へ移住し、生活様式などに一定の在地化を経た後に当地域への再移住が行なわれたと考えたい。

塩沢北遺跡

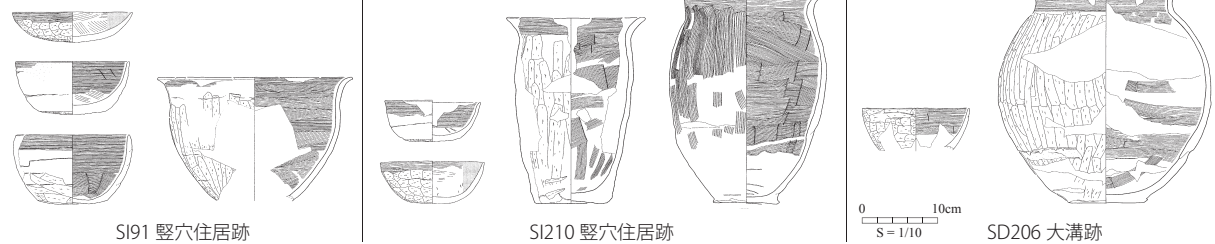


第1号竪穴住居跡



第2号竪穴住居跡

六角遺跡



S191 竪穴住居跡

S1210 竪穴住居跡

SD206 大溝跡

第187図 塩沢北遺跡（7世紀中頃～後半：上・中段）、六角遺跡（7世紀末～8世紀前半：下段）出土土器

6. 小結—律令制導入期の宮城県南西部についての予察—

十郎田遺跡は、阿武隈川下流域に注ぐ白石川支流の小河川に面した円田盆地にある。円田盆地のほか白石・村田・船岡・槻木などの盆地群を擁する白石川流域は、大化改新以前に国造が置かれ、陸奥建国の基礎となった国造制施行範囲の外縁地帯にあたる。十郎田遺跡で7世紀中頃～後半の囲郭集落跡を確認したことにより、これまで律令制導入期の様相が不明であった宮城県南西部（阿武隈川河口以北—仙台市郡山遺跡以南の地域）においても、阿武隈川河口以北の国造制未施行範囲という括りの中で仙台平野以北と軌を一にした「対蝦夷政策」が採られていたことが明らかとなった。

移民を伴う囲郭集落の設置を端緒とする点では一律の政策に基づくことが窺えるが、区画施設の形

状、関東系土師器の組成比率、土器様相などの点では仙台平野以北の状況と異なる点が見られた。関東系土師器については、仙台平野周辺では7世紀後半~8世紀初頭をピークとして8世紀前半には激減する(村田2009)のに対して、円田盆地においては十郎田集落の設置を端緒としながらも、8世紀前半に急増(六角集落、堀の内集落など)するという特異な状況が明らかとなった。

また、十郎田集落を含む円田盆地の集落が保有した関東系土師器については、これまで仙台平野以北で多く確認されてきたものとは異質であり、異なる出自を持ったものと考えられた。円田盆地の集落と共通性の高い関東系土師器は宮城県域の集落では少数であり、福島県域の集落で安定的に認められる。内面黒色処理技法の受容に見られるような在地化の進行を考慮すれば、円田盆地における関東系集落の担い手は、関東地方からの直接的な移民ではなく、関東地方から福島県域へ移住し、生活様式などに一定の在地化を経た後に当地域への再移住が行なわれたと考えられた。

さらに、8世紀前半の集落群に継続性が認められないことから、8世紀中頃には当地域から他地域への移住が行なわれた可能性がある。こうした当地域の集落変遷は、律令政府による対蝦夷政策の一環として、陸奥国内での二次的、三次的な移民が行なわれていたことを示す事例と考えられる。この間、円田盆地という小地域内においては、集団構成の再編が繰り返し起こったであろう。

十郎田集落における関東系土師器は食膳具を主体とし煮炊具までは及んでいないことから、主に在来の生活様式を基盤とする人々によって構成された集団であったと考えられる。この点では当該期の仙台平野周辺の様相と共通性が認められ、本集落に居住した集団が陸奥南部(福島県域)からの移住者と在地の人々によって構成されていたことを示すであろう。一方、8世紀前半の集落群における関東系土師器は量的な増加に加えて、食膳具・煮炊具の双方を含む包括的な器種構成となり、関東型カマドを付設する住居も見られる。集落が外来の生活様式を基盤とする人々によって構成されたことが明らかであり、陸奥南部からの本格的な移住を示している。

8世紀前半は宮城県北部においては坂東諸国からの本格的な移民が行なわれた時期であり、「続日本紀」に見える〈靈龜元年(715年)に相模・上総・常陸・上野・武蔵・下野6国の富民1千戸を陸奥に移配し黒川以北十郡を設ける〉という記事に該当すると考えられている(熊谷2004、今泉2005)。この靈龜元年の富民移配記事については、上総国を除く坂東5国と陸奥南部2郡の国郡名が「黒川以北十郡」の郡・郷名に見られることが指摘されている(今泉2001)。この指摘は富民移配記事の現実性を高めるものであると同時に、文献に記載が見られない陸奥南部の諸郡からの移配も行なわれたことを示唆する点が注目される。「富民千戸」の移配先が陸奥北部の仙台・大崎・石巻平野に広く及び、その一つに円田盆地周辺が数えられた可能性は小さくないであろう。

さて、円田盆地周辺は7世紀後半頃に設置されたとみられる当初の柴田郡に属したが、721年に柴田郡から苅田郡が分置された際にいずれの郡域に属したのかは明確でない。この点に関連する近年の論考として、芳賀寿幸氏(2006)による古代東山道陸奥国柴田駅の所在についての検討がある。氏は里程の検討などから篤借駅(白石市越河)と小野駅(川崎町小野)の間に位置し駅屋の間が30里(約16km)となる蔵王町宮付近を柴田駅の所在地として比定し、柴田駅から小野駅、笹谷峠を経て出羽へ至る駅路が古代以来の官道であり、近世に至るまで街道として機能したと指摘した。さらに、苅田郡分置の際には蔵王町宮から川崎町小野へ向かって北上する駅路を郡界として円田盆地周辺は柴田郡域に属し、中世における伊達氏の刈田郡進出以降に刈田郡域に編入されたとする説を提示した。芳賀氏が柴田駅に比定した蔵王町宮は、阿武隈川水系の白石川とその支流松川との合流点に位置し、南に開けた円田盆地への入口にあたる場所である。当初の柴田郡域内において、律令制導入期の変革として最初期段階に位置づけられるのは十郎田集落の設置であり、円田盆地周辺が柴田郡の中核として機能した可能性を強く補強するものと言える。

郡山遺跡 I 期官衙が設置された仙台平野南部には、弥生時代から古墳時代にかけて仙台平野で最大規模を誇った南小泉遺跡の集落があり、移民を伴う政策によって在地勢力を政治的な支配下としたことが指摘されている（熊谷 2004）。白石川流域では、律令制導入以前の古墳群の分布から見て、白石盆地と村田盆地に在地の二大勢力が存在しており、円田盆地はその中間に位置する。南小泉遺跡のように在地勢力拠点への直接的な移民が行われたことを示す考古学的所見は今のところ見られないが、移民を伴う十郎田集落の設置は、白石・村田盆地の在地勢力を一括して掌握する意図があったと考えられる。これに後続して六角集落、堀の内集落などに本格的な移民が行われていることから、円田盆地が政策上重要視されたことが窺われる。こうした状況から見れば、都遺跡に想定されている官衙施設は柴田郡衙であった可能性が高いと考えられる（註 8）。このように、当初は白石川流域の一括統治を目指して柴田郡を設置し、7 世紀末～8 世紀前半頃には円田盆地にその拠点が置かれたが、その後何らかの理由で不都合を生じ、苅田郡を分離独立させることで従来の在地勢力構造に沿った分割統治へと転換されたと考えられる。これに伴って白石盆地の白石市大畑遺跡に苅田郡衙が新設された可能性が考えられる。また、出土遺物などから見て都遺跡の官衙施設は 8 世紀中葉までは存続していないと考えられるので、苅田建郡後には柴田郡衙が村田盆地側へ遷された可能性がある。なお、大畑遺跡では北武蔵地域に出自を求められる関東系土師器（註 9）が出土しており、苅田建郡と前後する時期の白石盆地には円田盆地とは異なる地域からの移民が行われた可能性がある。

以上のように、十郎田遺跡をはじめとする円田盆地北部における近年の考古学的発掘調査成果から窺える歴史的動向を予察として述べた。それぞれの遺跡について全体像が明らかとなったわけではないし、さらに検討を加えるべき点も多い。いずれにしても、一連の発掘調査は、宮城県南西部の律令制導入期の様相について考察して行く上での新知見を提供し、律令国家の辺境経営についての重要な検討課題が浮き彫りになったと言えよう。本書執筆中の平成 22 年 5 月 13 日、芳賀寿幸氏が急逝された。郷土の歴史解明に精力的に取り組まれ、近年発表された古代柴田駅の所在についての論考からは、本遺跡の性格を考える上で多くの示唆を与えていただいた。謹んでご冥福をお祈りしたい。

円田盆地北部を対象とした県営ほ場整備事業では、事業主体である宮城県大河原地方振興事務所の設計努力により、計画範囲に存在する遺跡の破壊対象範囲を道路・水路部分など一部にとどめ、大部分を未発掘のまま盛土によって保存する工法が採用された。このため、発掘調査は各遺跡に縦横のトレンチ状の調査区を配し、限られた調査面積で遺跡全体の概要を把握することにつながった。この結果、円田盆地北部の遺跡群は、律令国家の形成という日本古代史の序章とも言うべき出来事と直接的に関係する重要な遺跡群であることが明らかとなった。今後はこうした重要な歴史的意義を持つ遺跡群を後世に残すために保護・保存に努め、発掘調査・研究の成果についてわかりやすく町民へ周知していくとともに、埋蔵文化財を貴重な財産として独自性のあるまちづくりに生かしていくことが必要である。

脚注

- 註1 辻秀人氏を研究代表者とする「古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究（科学研究費補助金・基盤研究B）」の成果（辻秀人編 2007）の一部である。本研究によって東北・北海道地域の栗罎式を中核とする土器群の資料集成と広域編年が作製され、地域間の詳細な並行関係や交流関係の検討が可能となった。
- 註2 第2群土器の在り土器について、佐藤敏幸氏によれば、坏類の口縁部に内弯志向が強く、甕類の底部がすぼまる傾向のものがみられる点で宮城県北部地域との共通点が見られ、坏類の口縁部が直線的に外傾あるいは外反するものが多く残る仙台平野の様相と異なる点が指摘できるという。ただし、宮城県北部ではカマド前あるいは炉状施設での使用が考えられている小型の甕類に被熱痕跡が見られないことなど、生活様式については異なる点も窺えるとのことである。
- 註3 赤井遺跡 SI292 住居跡のものは内面がヘラミガキ調整で仕上げられ、黒色処理を施さないが、その他はいずれも本例と同様にヘラミガキ調整→黒色処理を施す。
- 註4 戸内遺跡 SI24 竪穴住居跡出土土器の年代観について、報告書（蔵王町教育委員会 2009）では7世紀後半に位置づけたが、共伴する須恵器の特徴などから7世紀末～8世紀前半と修正する。
- 註5 原・百目木・高木・北ノ脇・山王川原遺跡の総称。阿武隈川右岸の自然堤防上に営まれた拠点集落跡で、650棟以上の竪穴住居跡が調査されている。集落は6世紀後半に急成長し、7世紀全般を通じて周囲とは隔絶した規模を一貫して維持する。集落内には大溝による区画施設を伴う。また、多量の須恵器を保有し、関東系・会津系・東北部系の外来系土器も継続的に使用する。
- 註6 白石市北東部では、鷹巣丘陵上に鷹巣古墳群（5～7世紀）、郡山横穴古墳群（7～8世紀）などが分布し、白石川と斎川に挟まれた自然堤防上に大畑遺跡が立地する。大畑遺跡では掘立柱建物から礎石建物へ変遷する総柱建物跡群が確認され、苅田郡衙を構成する倉庫院跡と考えられている（宮城県教育委員会 1995）。なお、遺構群の年代については8世紀前半代～平安時代の年代幅の中で考えられており、未だ確定的ではないため検討材料の増加が待たれる。
- 註7 盆地南部の台遺跡では9層に重複する水田と用水路跡が確認され、南小泉式期の水田面の上層で確認された水田面から栗罎式前半段階とされる土器器坏2点の出土が報告されているが、集落跡としては未確認である（宮城県教育委員会 1989）。
- 註8 都遺跡では多賀城創建期に位置づけられる瓦が出土している（蔵王町教育委員会 2005）。一方、村田盆地南部に位置する柴田町兎田窯跡（芳賀 1989）では多賀城創建期に先行する仙台市郡山遺跡Ⅱ期官衙段階の瓦が生産されており、この瓦は都遺跡へは供給されていない。兎田窯跡で生産された瓦の供給先が官衙であれば、村田盆地南部の周辺に都遺跡に先行する柴田郡衙の存在を考える必要がある。
- 註9 丸底の底部に短い口縁部が屈曲して直立するもので、外面の体部～底部にヘラケズリ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、内面はナデ調整で仕上げられ黒色処理を施さない。埼玉県北西部から群馬県にかけて分布する北武蔵型坏に該当するものとされている（白石市教育委員会 2008）。

第6章 総括

1. 十郎田遺跡は、宮城県南部の刈田郡蔵王町大字小村崎字十郎田・宮前地内に所在する。遺跡は蔵王町東部の円田盆地北西部に形成された標高約93mの低平な舌状丘陵上に立地している。
2. 今回の発掘調査は県営ほ場整備事業を原因とする事前調査として実施した。調査区は遺跡範囲を東西・南北方向に横断・縦断する道路・水路予定地であり、発掘調査面積は9,099㎡である。
3. 確認した遺構は竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡66棟、柱列跡38条、井戸跡10基、土坑107基、溝跡47条、水溜め状遺構1基、畝溝状遺構1基、性格不明遺構5基、柱穴多数である。
4. 出土した遺物は、土師器（引田式・栗囲式・関東系）、ロクロ土師器（表杉ノ入式）、須恵器、ロクロかわらけ、中世陶磁器、近世陶磁器、縄文土器、石器（石鏃・石匙・石鏃）、石製品（紡錘車・石製模造品・砥石）、土製品（鞆羽口）、木製品（曲物・漆器椀・篋・挽物未製品）、金属製品（刀子・釘・銅銭）である。このうち、主体を占めるのは古墳時代後期（飛鳥時代）の竪穴住居跡などから出土した土師器（栗囲式・関東系）と、平安時代の竪穴住居跡などから出土したロクロ土師器（表杉ノ入式）、中世の井戸跡から出土した木製品（挽物未製品）である。
5. 発掘調査結果を検討した結果、下記のことが明らかとなった。
 - ・古墳時代中期後半の竪穴住居跡1軒が確認され、小規模な集落が営まれていたことが判明した。また、竪穴住居跡の貯蔵穴から一括性の高い土器群が出土し、当時の生活様式の一端が窺われる。
 - ・古墳時代後期後葉（飛鳥時代後半）の竪穴住居跡27軒、掘立柱建物跡5棟、材木堀跡3条などの遺構群が確認され、材木堀による大規模な区画施設を伴う集落が営まれていたことが判明した。竪穴住居跡などから出土した土器群は在地土師器に加えて関東系土師器を含むものであり、その特徴からは関東地方あるいは福島県域との密接な関連が窺われる。
 - ・平安時代の竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟などが確認され、平安時代の初頭、前葉前半、前葉後半、中葉の各時期に集落が営まれていたことが判明した。平安時代初頭の竪穴住居跡から鞆羽口が出土したことから、集落内で小鍛冶が行なわれていたと考えられる。
 - ・中世前半中頃（鎌倉時代中頃）の掘立柱建物跡50棟、井戸跡9基、溝跡7条などが確認され、複数の屋敷が営まれていたことが判明した。掘立柱建物跡には廂（縁）の付属するものが見られ、屋敷内の中心的な建物であったと推定される。また、井戸跡を転用した水溜めから木製挽物の未製品（荒型）180点が出土したことから、屋敷地の一角に挽物製作を行なう工房が存在していたと考えられる。
6. 飛鳥時代後半の材木堀区画を伴う集落はこれまで宮城県域の仙台平野以北で複数確認されており、律令政府による対蝦夷政策の一環として関東地方からの移民を伴って設置され、統治拠点としての官衙造営にあたった人々の集落と考えられているが、県南部では初めての発見である。前代における国造制施行範囲の外縁地帯における律令制導入期の情勢を考察する上できわめて重要である。
7. 今回の発掘調査成果は、円田盆地周辺に居住した当時の人びとの具体的な暮らしぶりを知る上で貴重な手がかりとなるものである。

引用・参考文献

- 会田容弘 2000 「縄文時代の頁岩製石刃製作と流通—東北地方南部のありかた—」山形考古 6-4
- 赤羽一郎・中野晴久 1995 「中世常滑焼の生産地編年」『常滑焼と中世社会』永原慶二編 小学館
- 吾妻俊典 2003 「陸奥南部におけるカマド出現期の土器」宮城考古学 5 宮城県考古学会
- 伊東信雄 1955 「各地域の弥生式土器—東北—」『日本考古学講座 4』河出書房
- 今泉隆雄 2001 「多賀城の創建—郡山遺跡から多賀城へ—」条里制・古代都市研究 17 条里制・古代都市研究会
- 今泉隆雄 2005 「古代国家と郡山遺跡」『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編(1)—』仙台市文化財調査報告書 283
仙台市教育委員会
- 岩手県教育委員会 2001 『柳之御所遺跡—第 52 次発掘調査概報—』
- 岩手県埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡—第 21・23・28・31・36・41 次発掘調査—』岩手県埋蔵文化財調査報告書 228
- 岩見和泰 1991 「考察」『合戦原遺跡』『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書 140
- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」歴史 14 東北大学史学会
- 大阪府近つ飛鳥博物館 2006 『年代のものさし』大阪府近つ飛鳥博物館図録 40
- 大場正善 2004 「宮城県柴田郡村田町新川流域遺跡群について—東北地方南部太平洋側にある後期旧石器時代の玉髓原産地遺跡からの予察—」宮城考古学 6 宮城県考古学会
- 加藤道男 1989 「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢Ⅱ』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会 纂修堂
- 河南町教育委員会 1990 『須江関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書 4
- 河南町教育委員会 1993 『須江窯跡群 関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書 7
- 河南町教育委員会 2004 『関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書 13
- 熊谷公男 2004 『古代の蝦夷と縄柵』歴史文化ライブラリー 178 吉川弘文館
- 国士舘大学考古学会編 2008 『古代社会と地域間交流—土師器からみた関東と東北の様相—』「国士舘大学考古学研究室 40 周年記念シンポジウム」
- 国士舘大学考古学会編 2009 『古代社会と地域間交流—土師器からみた関東と東北の様相—』六一書房
- 蔵王町史編纂委員会 1987 『蔵王町史 資料編Ⅰ』
- 蔵王町史編纂委員会 1994 『蔵王町史 通史編』
- 蔵王町教育委員会 1990 『堀ノ内遺跡』蔵王町文化財調査報告書
- 蔵王町教育委員会 1997 『堀の内遺跡』蔵王町文化財調査報告書 1
- 蔵王町教育委員会 2002 『諏訪館前遺跡』蔵王町文化財調査報告書 2
- 蔵王町教育委員会 2005 『都遺跡ほか(都遺跡・窪田遺跡・新城館跡)』蔵王町文化財調査報告書 3
- 蔵王町教育委員会 2006 『車地蔵遺跡・鍛冶屋敷遺跡ほか』蔵王町文化財調査報告書 4
- 蔵王町教育委員会 2007 『中沢 A 遺跡』蔵王町文化財調査報告書 5
- 蔵王町教育委員会 2008 『六角遺跡—経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備事業)に伴う緊急発掘調査—』蔵王町文化財調査報告書 6
- 蔵王町教育委員会 2009a 『戸ノ内遺跡—経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備事業)に伴う緊急発掘調査—』蔵王町文化財調査報告書 8
- 蔵王町教育委員会 2009b 『青竹遺跡』蔵王町文化財調査報告書 9
- 蔵王町教育委員会 2009c 「蔵王町前戸内遺跡—県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の概要—」『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会 発表要旨』
- 蔵王町教育委員会 2011a 『西浦 B 遺跡—商業施設出店計画に伴う緊急発掘調査—』蔵王町文化財調査報告書 10
- 蔵王町教育委員会 2011b 『窪田遺跡—経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備事業)に伴う緊急発掘調査—』蔵王町文化財調査報告書 11
- 蔵王町教育委員会 2011c 『小原遺跡—特別養護老人ホーム増床事業に伴う緊急発掘調査—』蔵王町文化財調査報告書 12
- 佐藤敏幸 2007 「宮城県北部・沿岸部」「東北・北海道における 6~8 世紀の土器変遷と地域の相互関係」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』辻秀人編
- 佐藤洋一 2005 「都遺跡出土の瓦について」『都遺跡ほか』蔵王町文化財調査報告書 3 蔵王町教育委員会
- 柴田町・村田町・大河原町共同推進事業協議会 1995 『上野山古墳群分布調査報告書—宮城県柴田郡に所在する東

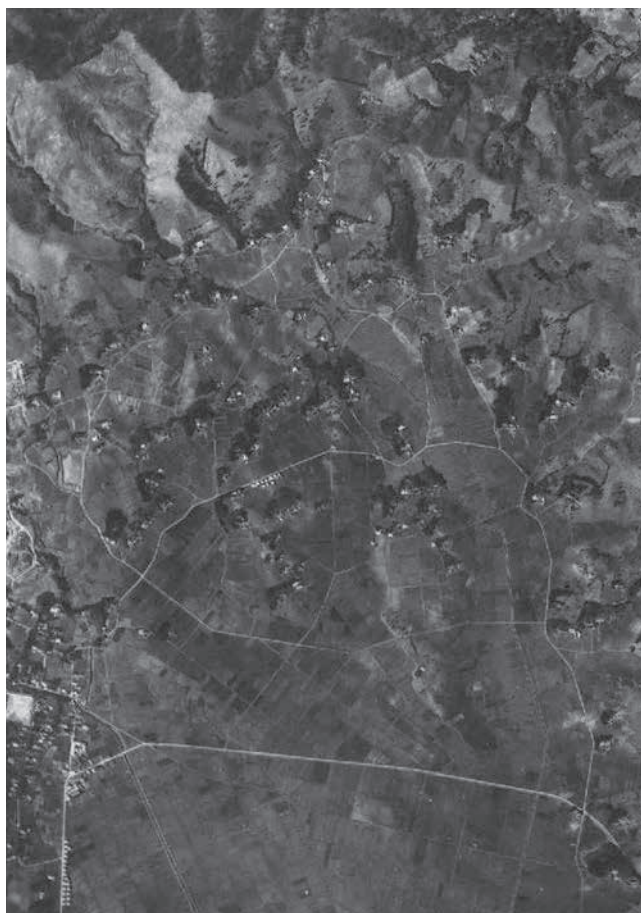
- 北最大規模の高塚古墳群―』
- 塩川町教育委員会 2004 『県営経営体育成基盤整備事業 塩川西部地区遺跡発掘調査報告書 7 内屋敷遺跡』 塩川町文化財調査報告書 12
- 白石市教育委員会 1982 『白石市郡山横穴古墳群』 白石市文化財調査報告書 11
- 白石市教育委員会 2008 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ (大畑遺跡)』 白石市文化財調査報告書 31
- 菅原 祥夫 2007a「i. 福島県中通り地方南部」『第Ⅱ章 東北・北海道における 6-8 世紀の土器変遷と地域の相互関係』 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 辻秀人編
- 菅原 祥夫 2007b「ii. 福島県中通り地方中部」 同上
- 菅原 祥夫 2007c「iii. 福島県浜通り地方南部」 同上
- 菅原 祥夫 2007d「iv. 福島県会津地方」 同上
- 菅原祥夫 2008 「陸奥南部の様相―国造制施行範囲とその西外縁部―」 『古代社会と地域間交流―土師器からみた関東と東北の様相―』 国土館大学考古学研究室 40 周年記念シンポジウム
- 仙台市教育委員会 1990 『下ノ内遺跡―仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ―』 仙台市文化財調査報告書 136
- 仙台市教育委員会 2000 『王ノ壇遺跡―都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡―発掘調査報告書Ⅰ』 仙台市文化財調査報告書 249
- 仙台市教育委員会 2001 『郡山遺跡―第 124 次発掘調査報告書―』 仙台市文化財調査報告書 251
- 仙台市教育委員会 2004 『郡山遺跡 24』 仙台市文化財調査報告書 269
- 仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡発掘調査報告書―総括編(1)―』 仙台市文化財調査報告書 283
- 高橋 誠明 1999 「宮城県における古墳時代中期の土器様相」 東国土器研究 5 東国土器研究会
- 高橋誠明 2007 「律令国家の成立期における境界地帯と関東との一関係―宮城県大崎地方出土の関東系土師器と出土遺跡の意義―」 国土館考古学 3
- 高橋誠明 2009 「古代社会と地域間交流―土器からみた関東と東北の様相―」 『古代社会と地域間交流―土師器からみた関東と東北の様相―』 国土館大学考古学会編 六一書房
- 辻秀人編 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 『東北・北海道における 6～8 世紀の土器変遷と地域の相互関係』 平成 15-18 年度科学研究費補助金(基盤研究 B) 研究成果報告書
- 東北学院大学文学部歴史学科佐川ゼミナール 2006 「賀電沢遺跡 2003-2006 年度発掘調査の成果」 第 20 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集
- 東北古代土器研究会 2005a 『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―<福島>』 研究報告 1
- 東北古代土器研究会 2005b 『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―<宮城>』 研究報告 2
- 東北古代土器研究会 2008a 『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編<陸奥>―』 研究報告 3
- 東北古代土器研究会 2008b 『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編<出羽>―』 研究報告 4
- 中村 浩 1978 「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」 『陶邑Ⅲ』 大阪府文化財調査報告書 30 大阪府教育委員会
- 中村 浩 2001 「和泉陶邑窯の歴史的研究」 芙蓉書房出版
- 長島榮一 2009 「官衙からみた関東系土師器」 『古代社会と地域間交流―土師器からみた関東と東北の様相―』 国土館大学考古学会編 六一書房
- 名取市教育委員会 1990 『川上遺跡―中世における名取熊野那智神社門前宿跡調査―』 名取市文化財調査報告書 25
- 西弘海 1986 『土器様式の成立と展開』 真陽社
- 芳賀寿幸 2006 「東山道陸奥国柴田駅の所在について」 宮城考古学 8 宮城県考古学会
- 羽柴直人 2001 「平泉遺跡群のロクロかわらけについて」 岩手考古学 13 岩手考古学会
- 福島県教育委員会 1988 『国道 113 号バイパス遺跡調査報告Ⅵ (善光寺遺跡)』 福島県文化財調査報告書 192
- 福島県教育委員会 2002 『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告書 2 高木・北ノ脇遺跡』 福島県文化財調査報告書 401
- 福島市教育委員会 1993 『大鳥城跡』 福島市埋蔵文化財報告書 57
- 藤沢 敦 1992 「引田式再論」 歴史 79 東北大学史学会
- 藤沢 敦 1998 「中期古墳の展開と変革―東北―」 『中期古墳の展開と変革』 第 44 回埋蔵文化財研究集会
- 藤沢 敦 2000 「阿武隈川下流域の前方後円墳(その 1)」 宮城考古学 2 宮城県考古学会
- 古川市教育委員会 2000 『名生館官衙遺跡 X X』 古川市文化財調査報告書 27

- 町田洋 1996「八甲田田代平湿原にみられる白頭山苫小牧テフラと十和田 a テフラ」『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』日本第四紀学会
- 宮城県教育委員会 1980a『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ（塩沢北遺跡）』宮城県文化財調査報告書 69
- 宮城県教育委員会 1980b『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ（伊原沢下遺跡・大橋遺跡・持長地遺跡）』宮城県文化財調査報告書 80
- 宮城県教育委員会 1981『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ（東山遺跡）』宮城県文化財調査報告書 81
- 宮城県教育委員会 1982『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅵ（御駒堂遺跡）』宮城県文化財調査報告書 83
- 宮城県教育委員会 1984『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ（二屋敷遺跡）』宮城県文化財調査報告書 99
- 宮城県教育委員会 1987『硯沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書 116
- 宮城県教育委員会 1989『巨理町三十三間堂遺跡ほか（戸ノ内脇遺跡・台遺跡）』宮城県文化財調査報告書 131
- 宮城県教育委員会 1990『寂光寺跡ほか（白山遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 135
- 宮城県教育委員会 1991a『合戦原遺跡ほか（合戦原遺跡）』宮城県文化財調査報告書 140
- 宮城県教育委員会 1991b『合戦原遺跡ほか（中組遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 140
- 宮城県教育委員会 1994a『山王遺跡八幡地区の調査―県道泉塩釜線関連調査報告書Ⅰ―』宮城県文化財調査報告書 162
- 宮城県教育委員会 1994b『藤田新田遺跡』宮城県文化財調査報告書 163
- 宮城県教育委員会 1995『大畑遺跡ほか（大畑遺跡）』宮城県文化財調査報告書 168
- 宮城県教育委員会 1996『一本杉窯跡群』宮城県文化財調査報告書 172
- 宮城県教育委員会 1999『一里塚遺跡―第 44・47 次発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書 179
- 宮城県教育委員会 2001『山王遺跡八幡地区の調査 2―古墳時代後期SD2050B 河川跡編―』宮城県文化財調査報告書 186
- 宮城県教育委員会 2002『名生館遺跡ほか（窪田遺跡・都遺跡・新城館跡）』宮城県文化財調査報告書 188
- 宮城県教育委員会 2003『壇の越遺跡ほか（十郎田遺跡ほか）』宮城県文化財調査報告書 195
- 宮城県教育委員会 2006『中野高柳遺跡Ⅳ―宮城県仙台港背後地土地区画整理事業関連調査報告書Ⅳ―』宮城県文化財調査報告書 204
- 宮城県教育委員会 2010『鍛冶沢遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書 222
- 村田晃一 1994「土器からみた官衙の終末―東北地方の場合―」『第 3 回東日本埋蔵文化財研究会 古代官衙の終末をめぐる諸問題 第 I 分冊 問題提起・各地方の概要』東日本埋蔵文化財研究会
- 村田晃一 1995「宮城郡における 10 世紀前後の土器」福島考古 36 福島県考古学会
- 村田晃一 2000「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺―移民の時代―」宮城考古学 2 宮城県考古学会
- 村田晃一 2002「7 世紀集落研究の一視点（1）」宮城考古学 4 宮城県考古学会
- 村田晃一 2005「7 世紀における陸奥北辺の様相―宮城県域を中心として―」『シンポジウム 2 7 世紀の東日本―東日本の諸相―』『日本考古学協会 2005 年度福島大会 シンポジウム資料集』
- 村田晃一 2007「宮城県中部から南部」「東北・北海道における 6-8 世紀の土器変遷と地域の相互関係」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』辻秀人編
- 村田晃一 2008「宮城県の様相」『古代社会と地域間交流―土師器からみた関東と東北の様相―』『国士舘大学考古学研究室 40 周年記念シンポジウム』国士舘大学考古学会
- 村田晃一 2009「律令国家形成期の陸奥北辺経営と坂東―在土師器・関東系土師器・囲郭集落の検討から―」『古代社会と地域間交流―土師器からみた関東と東北の様相―』国士舘大学考古学会編 六一書房
- 村田町教育委員会 1988『北日ノ崎窯跡』村田町文化財調査報告書 6
- 村田町教育委員会 1991『新峯崎遺跡』宮城県村田町文化財調査報告書 9
- 村田町教育委員会・千塚山古墳測量調査団 1992『千塚山古墳測量調査報告書』宮城県村田町文化財調査報告 11
- 柳澤和明 1994「東北の施釉陶器―陸奥を中心に―」『古代の土器研究 - 律令的土器様式の西・東 3 施釉陶器 - 』『古代の土器研究会 第 3 回シンポジウム』古代の土器研究会
- 矢本町教育委員会 2001『赤井遺跡Ⅰ』矢本町文化財調査報告書 14
- 利府町教育委員会 1988『八幡崎 B 遺跡』利府町文化財調査報告書 4
- 利府町教育委員会 2004『大貝窯跡群』利府町文化財調査報告書 12

写真図版



1. 円田盆地北部 航空写真



2. 円田盆地北部 航空写真 (1956年米軍撮影)



3. 十郎田遺跡 遠景 (東から)



4. 十郎田遺跡 近景 (南西から)



1. 1区西部 遺構確認状況（東から）



2. 1区中央部 遺構確認状況（東から）



3. 1区西部から中央部 遺構確認状況（西から）



1. 1区東部 遺構確認状況 (東から)



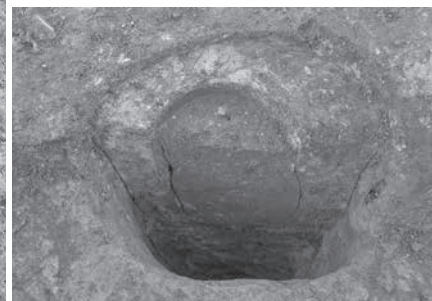
2. 1区東部 遺構確認状況 (北から)



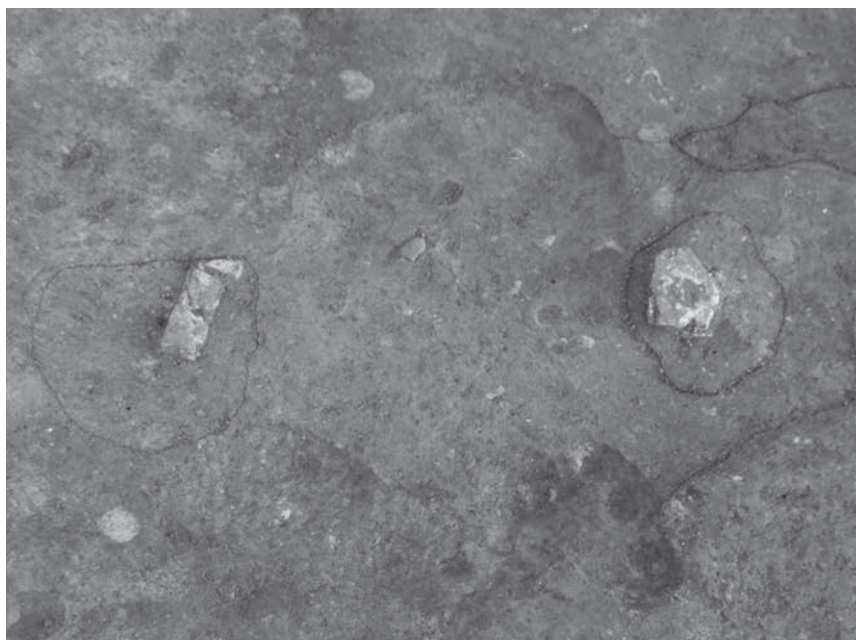
3. SI165 竪穴住居跡 (西から)



4. SI165 竪穴住居跡 P1 断面 (北から)



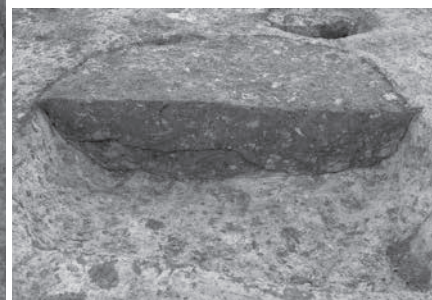
5. SI165 竪穴住居跡 P2 断面 (南から)



6. SI165 竪穴住居跡 カマド (西から)



7. SI165 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)

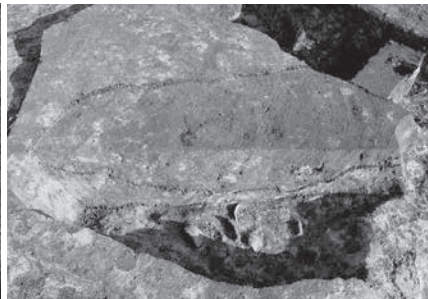
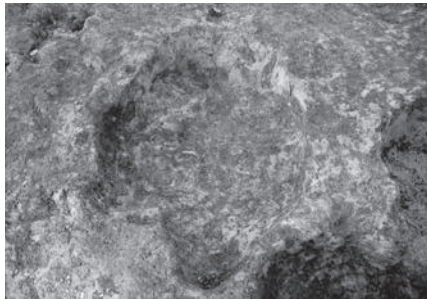


8. SI165 竪穴住居跡 南西隅掘方 (西から)



1. SI163 竪穴住居跡 (南東から)

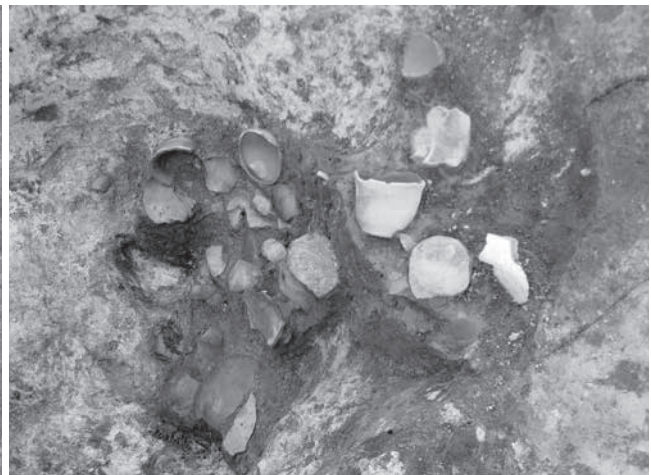
2. SI163 竪穴住居跡 K4 調査風景 (東から)



3. SI163 竪穴住居跡 K2 完掘状況 (南から)

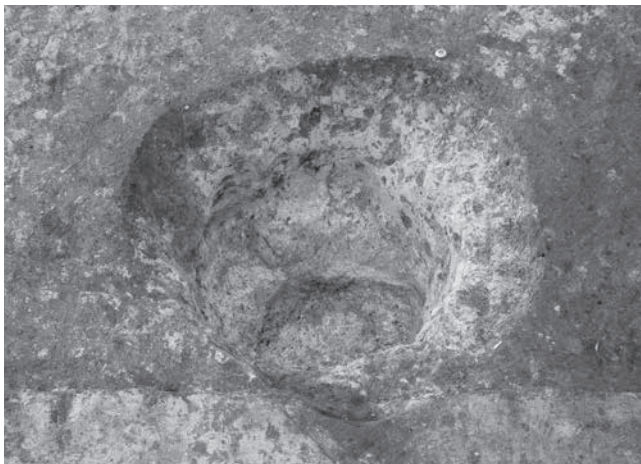
4. SI163 竪穴住居跡 K2 断面 (西から)

5. SI163 竪穴住居跡 K5 断面 (東から)



6. SI163 竪穴住居跡 K4 遺物出土状況 (西から)

7. SI163 竪穴住居跡 K4 遺物出土状況 (南から)



8. SI163 竪穴住居跡 K4 完掘状況 (東から)

9. SI163 竪穴住居跡 K4 断面 (南から)



1. SA28 材木堀跡 (東から)



2. SA28 材木堀跡 完掘状況 (東から)



3. SA28 材木堀跡 中央部縦断面 (南から)



4. SA28 材木堀跡 西部縦断面 (南から)



5. SA28 材木堀跡 柱材残存状況 (南から)



6. SA28 材木堀跡 横断面 (西から)



1. SA167 材木堀跡 (南から)



2. SA167 材木堀跡 完掘状況 (南から)



3. SA167 材木堀跡 南部縦断面 (東から)



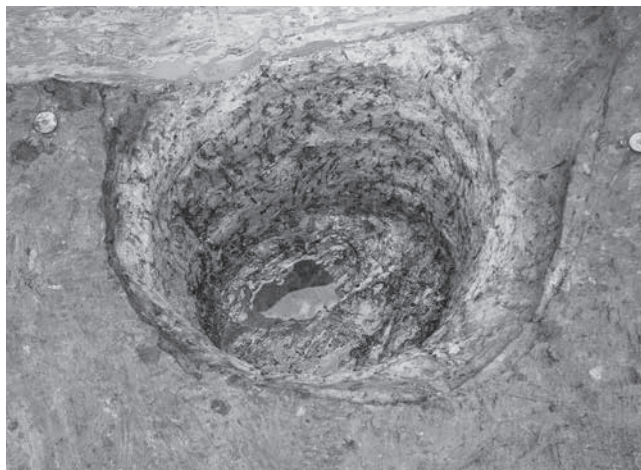
4. SA167 材木堀跡 南側横断面 (北から)



5. SD166 溝跡 完掘状況 (南から)



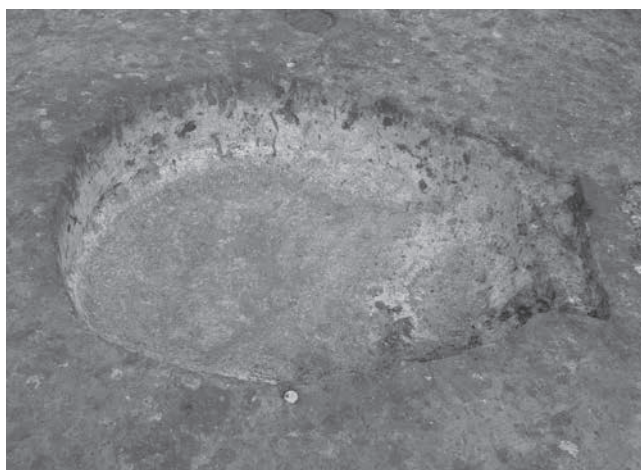
6. SD166 溝跡 断面 (北から)



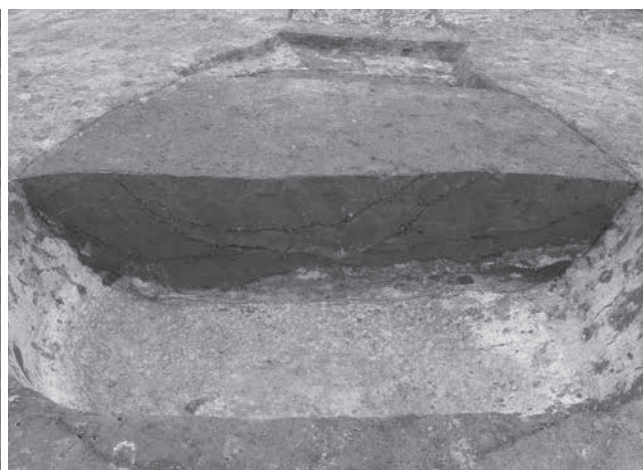
1. SE18 井戸跡 完掘状況 (西から)



2. SE18 井戸跡 断面 (西から)



3. SK164 土坑 完掘状況 (西から)



4. SK164 土坑 断面 (北から)



5. SK170 土坑 断面 (西から)



6. SK173 土坑 断面 (北から)



7. SK174 土坑 断面 (南から)



8. SK184 土坑 断面 (南東から)



1. SD162 溝跡 (東から)



2. SD161 溝跡 断面 (南西から)



3. SD161・162 溝跡 断面 (西から)



4. SD162 溝跡 西部断面 (東から)



5. SD162 溝跡 中央部断面 (東から)



6. 1区東部 攪乱溝跡 断面 (西から)



7. 2区北半部 調査風景 (南から)



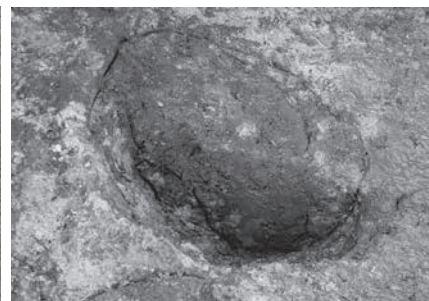
1. 2区 遺構確認状況 (北から)



2. 2区 遺構確認状況 (SB369・SB372 掘立柱建物跡、南から)



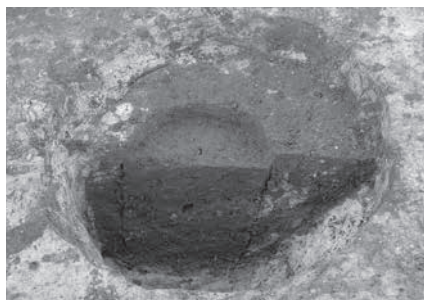
3. SI2 竪穴住居跡 (西から)



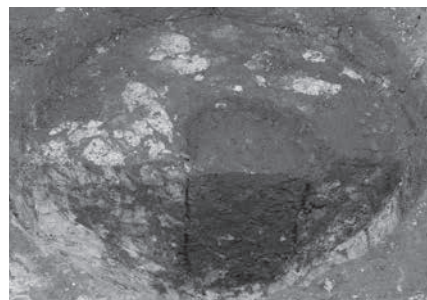
4. SI2 竪穴住居跡 P1 断面 (東から)



5. SI2 竪穴住居跡 P3 断面 (西から)



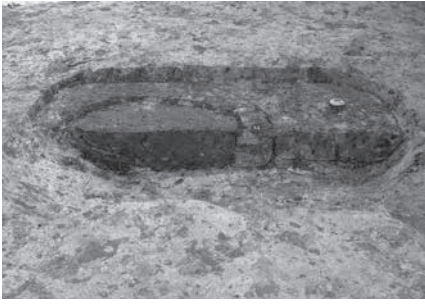
6. SB366 掘立柱建物跡 P4 断面 (東から)



7. SB371 掘立柱建物跡 P1 断面 (南から)



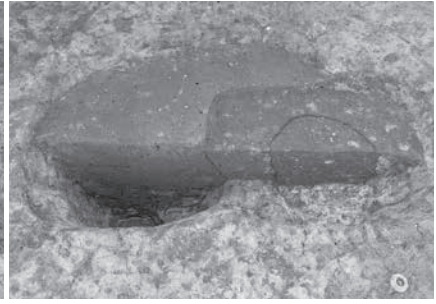
8. 2区 調査風景



1. SB372 P1・SA40 P1 断面 (西から)



2. SB372 P2・SA40 P2 断面 (西から)



3. SB372 P3・SA40 P3 断面 (東から)



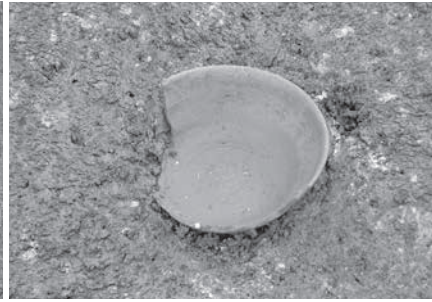
4. SK41 土坑 完掘状況 (西から)



5. SK41 土坑 断面 (西から)



6. SK41 土坑 遺物出土状況 (東から)



7. SK41 土坑 遺物出土状況 (西から)



8. SK41 土坑 遺物出土状況 (東から)



9. SD49 溝跡 断面 (西から)



11. SB345 掘立柱建物跡、SA336・SA341 柱列跡 確認状況 (西から)



10. SI51・SI52 竪穴住居跡、SA111 柱列跡 確認状況 (南から)



1. 3区南北調査区 遺構確認状況 (SI51・SB328・SA325、南から) 2. 3区南北調査区 遺構確認状況 (北から)



3. 3区中央部 遺構確認状況 (SB327・SB331・SA324・SA329・SA330、北から)



1. SB342・SB343 掘立柱建物跡、SA335・SA339・SA340 柱列跡 確認状況（東から）



2. SI51 竪穴住居跡（南から）



1. SI51 竪穴住居跡 カマド (南から)



2. SI51 竪穴住居跡 P1 断面 (北西から)



3. SI51 竪穴住居跡 P3 断面 (南西から)



4. SI51 竪穴住居跡 集合写真 (東西 6.7m・南北 8.0m の大型竪穴住居跡、南から)



5. SI51 竪穴住居跡 調査風景 (南から)



6. SI52 竪穴住居跡 調査風景 (南から)



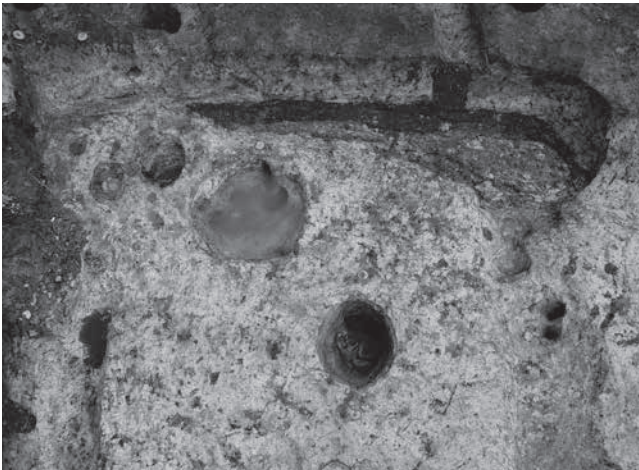
7. SI52 竪穴住居跡 (南から)



1. SI52 竪穴住居跡 カマド (南西から)



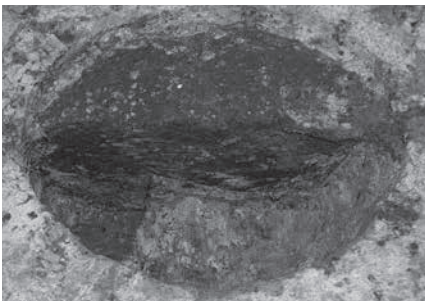
2. SI52 竪穴住居跡 K2 断面 (南から)



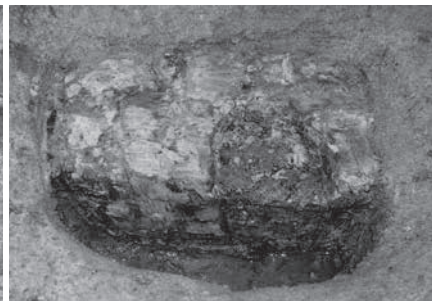
3. SI113 竪穴住居跡 (南から)



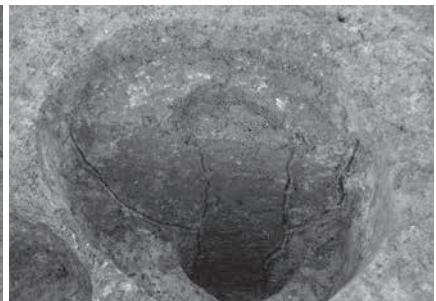
4. SI113 竪穴住居跡 (西から)



5. SI113 竪穴住居跡 P1 断面 (西から)



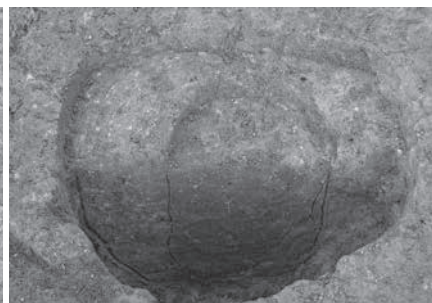
6. SI113 竪穴住居跡 P2 断面 (西から)



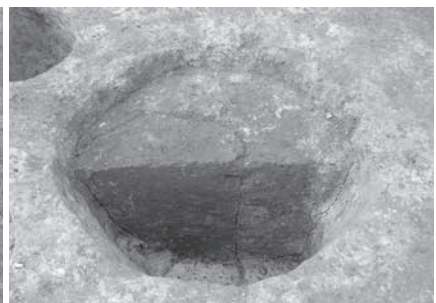
7. SB106 掘立柱建物跡 P2 断面(南から)



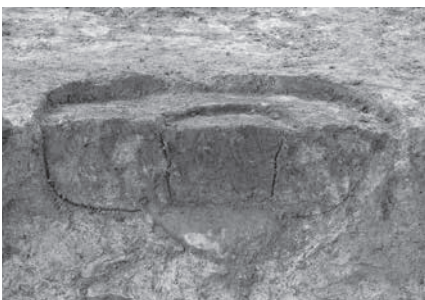
8. SB106 掘立柱建物跡 P3 断面 (南から)



9. SB106 掘立柱建物跡 P4 断面 (南から)



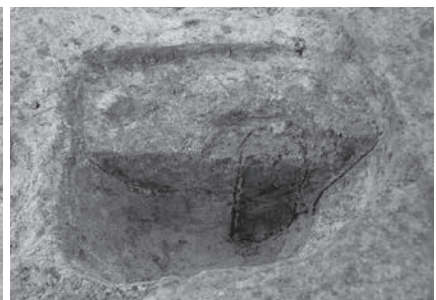
10. SB139 掘立柱建物跡 P1 断面 (北東から)



11. SB139 掘立柱建物跡 P6 断面 (北から)



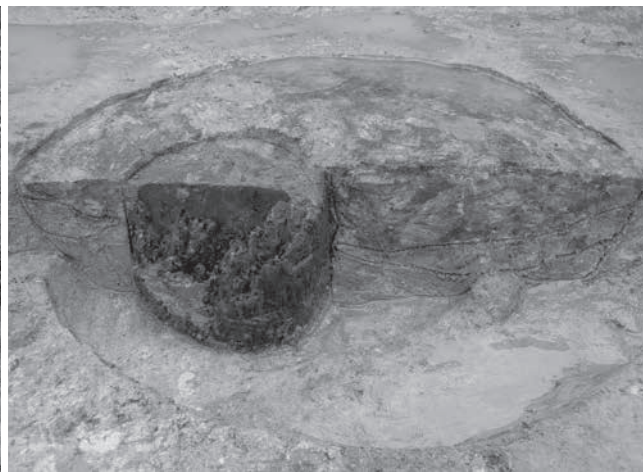
12. SB139 掘立柱建物跡 P7 断面 (西から)



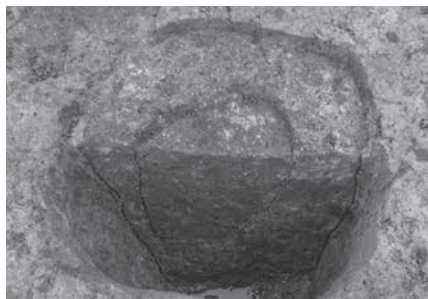
13. SB139 掘立柱建物跡 P9 断面 (東から)



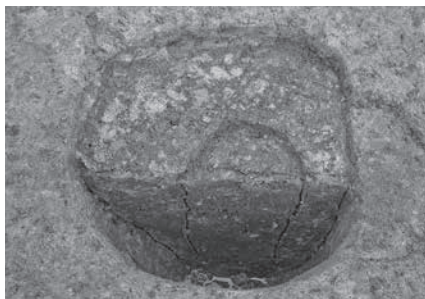
1. SB138 掘立柱建物跡 確認状況 (南東から)



2. SB138 掘立柱建物跡 P2 断面 (東から)



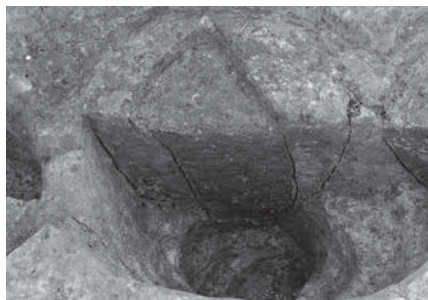
3. SB107 掘立柱建物跡 P5 断面 (北西から)



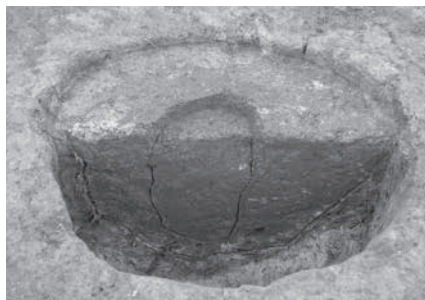
4. SB107 掘立柱建物跡 P6 断面 (北西から)



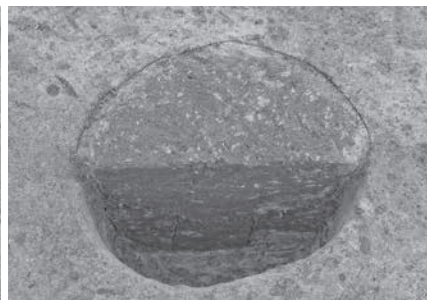
5. SB328 掘立柱建物跡 P2 断面 (南から)



6. SB328 掘立柱建物跡 P4 断面 (南東から)



7. SB327 掘立柱建物跡 P6 断面 (東から)



8. SB345 掘立柱建物跡 P5 断面 (北から)



9. SB107・327 掘立柱建物跡、SA324 柱列跡 確認状況 (東から)



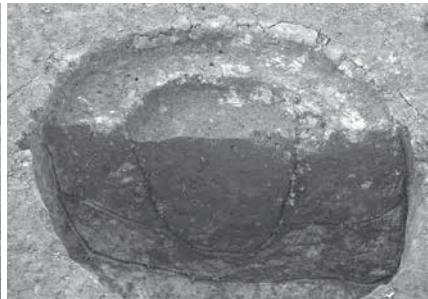
2. SB106・SB327 掘立柱建物跡・SD50 溝跡 確認状況 (東から)



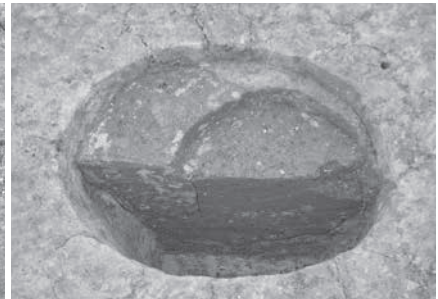
1. SB139・SB195・SB342・SB343 掘立柱建物跡、SA334・SA335・SA338 柱列跡 (東から) 3. SB345 掘立柱建物跡、SA336・SA341 柱列跡 確認状況 (南から)



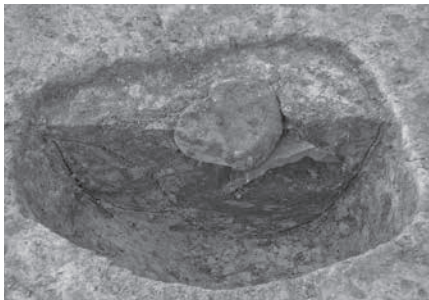
4. SA111 柱列跡 P1 断面 (南から)



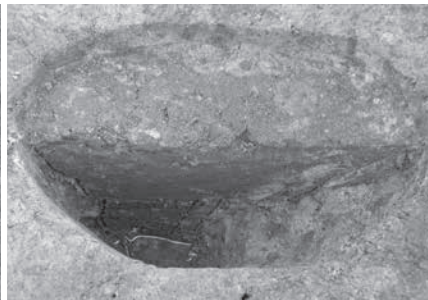
5. SA111 柱列跡 P2 断面 (南から)



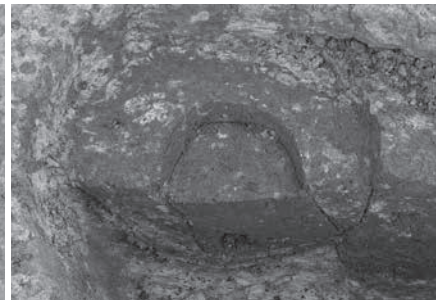
6. SA325 柱列跡 P6 断面 (南西から)



7. SA324 柱列跡 P1 断面 (東から)



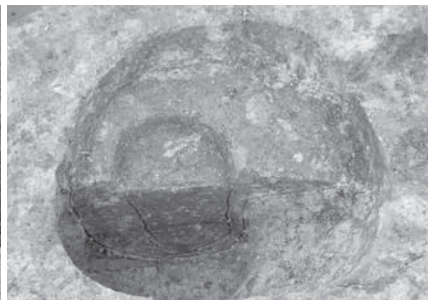
8. SA324 柱列跡 P5 断面 (西から)



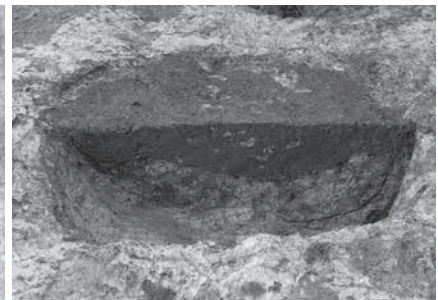
9. SA329 柱列跡 P3 断面 (東から)



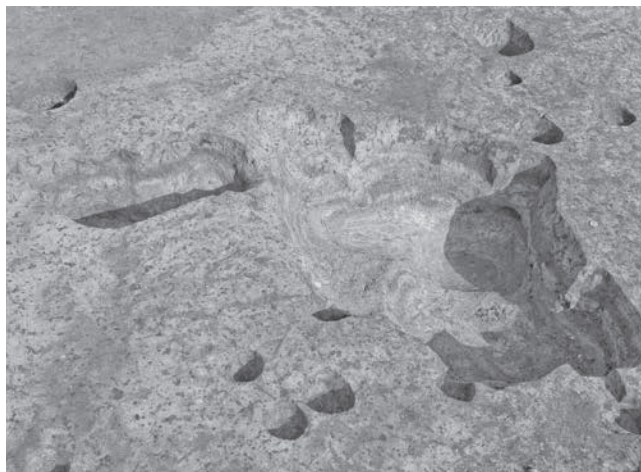
10. SA330 柱列跡 P2 断面 (北から)



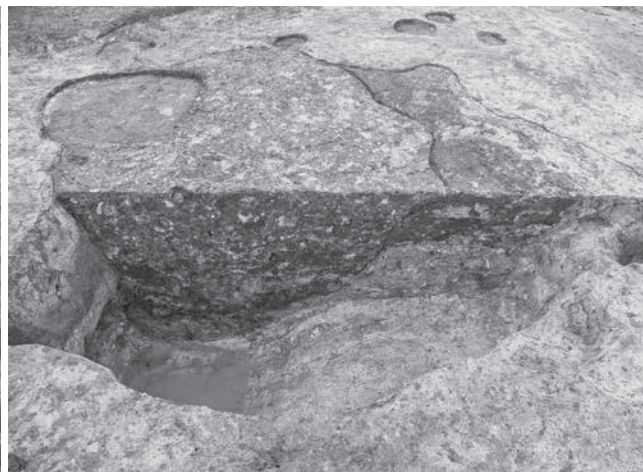
11. SA341 柱列跡 P3 断面 (東から)



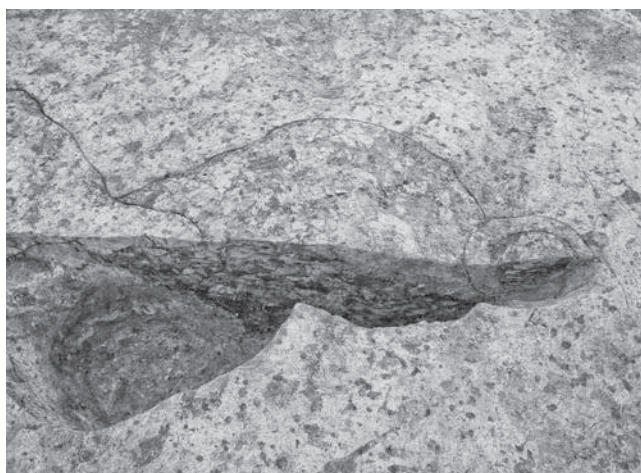
12. 土坑 SK117 断面 (東から)



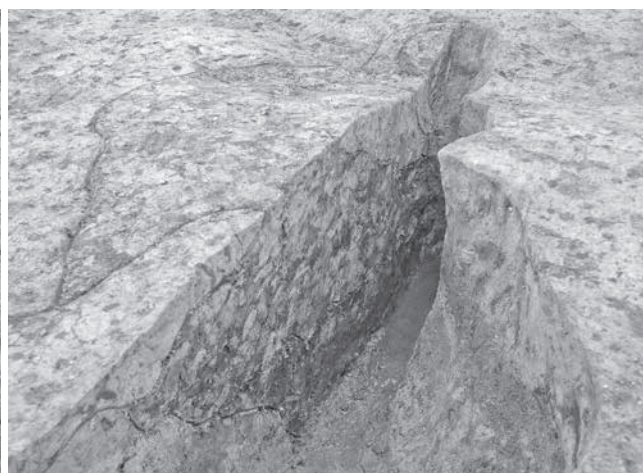
1. SK101・SK102・SK103 土坑 完掘状況 (北から)



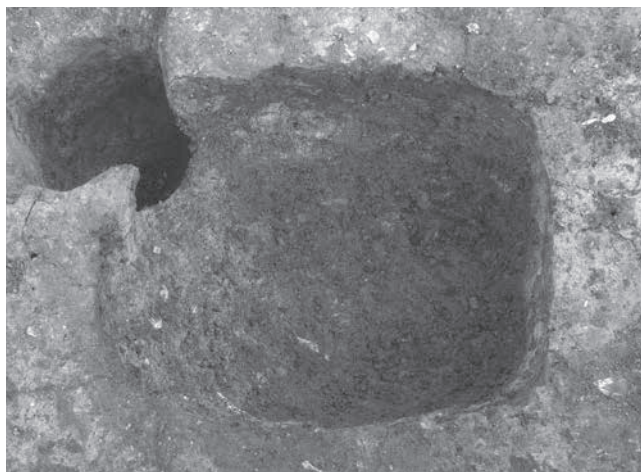
2. SK101・SK102 土坑 断面 (北から)



3. SK103 土坑 断面 (北から)



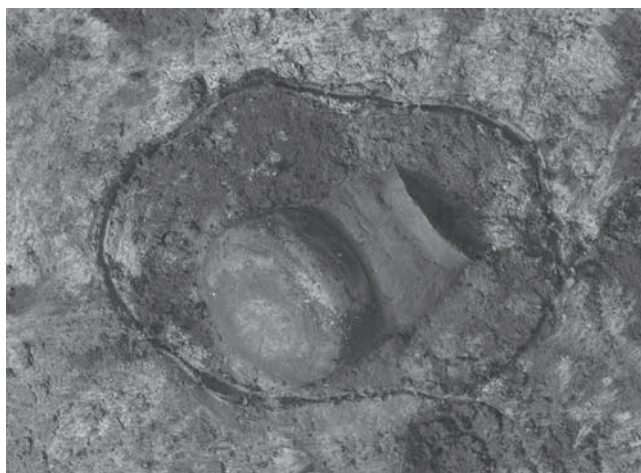
4. SK103 土坑 断面 (北東から)



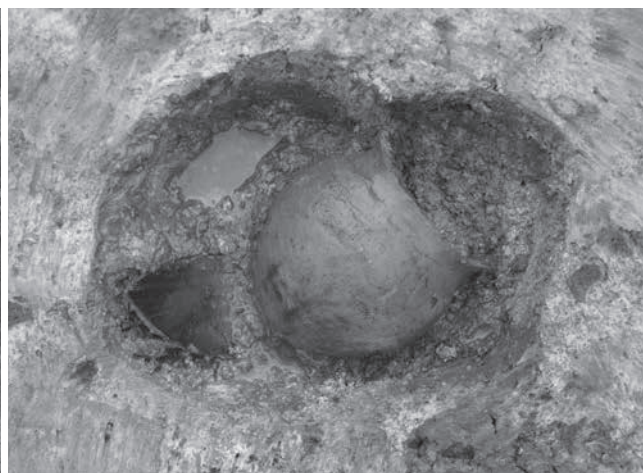
5. SK112 土坑 完掘状況 (南から)



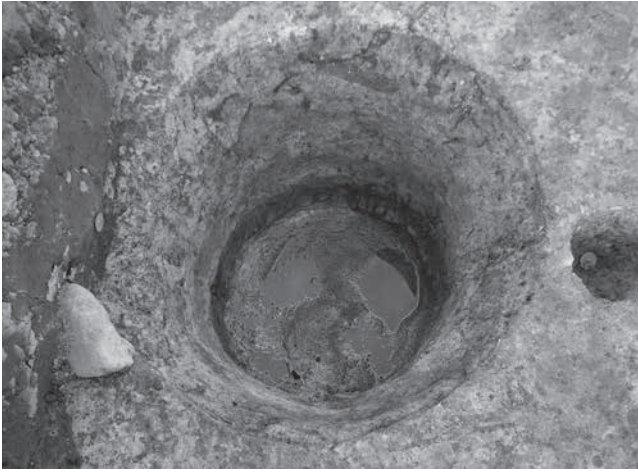
6. SK112 土坑 断面 (南から)



7. SK212 土坑 遺物出土状況 (東から)



8. SK212 土坑 遺物出土状況 (東から)



1. SE36 井戸跡 完掘状況 (南から)



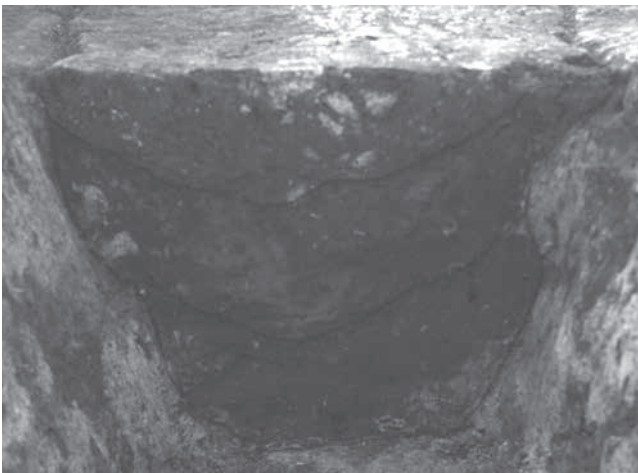
2. SE36 井戸跡 断面 (北から)



3. SE144 井戸跡 断面 (南から)



4. SD38 溝跡 南端部 遺物出土状況 (東から)



5. SD50 溝跡 北辺部断面 (東から)



6. SD24・SD109 溝跡 断面 (北から)



7. 2区 調査風景



8. SD122・SD123 溝跡 断面 (北から)



1. 4区 遺構確認状況（西から）



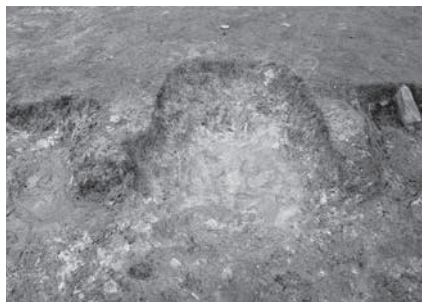
2. 4区東部 遺構確認状況（西から）



3. 4区 遺構確認状況（東から）



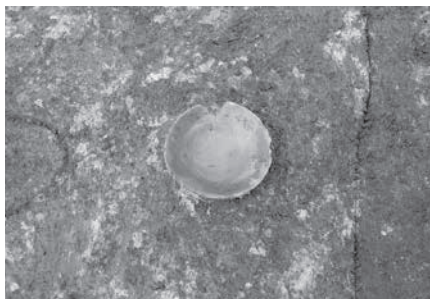
1. SI4 竪穴住居跡 (南から)



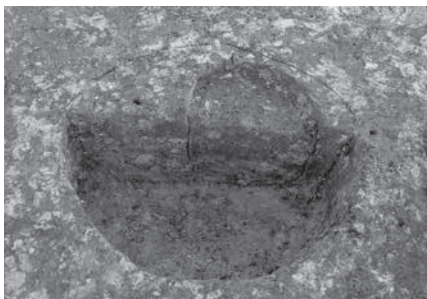
2. SI4 竪穴住居跡 カマド (南から)



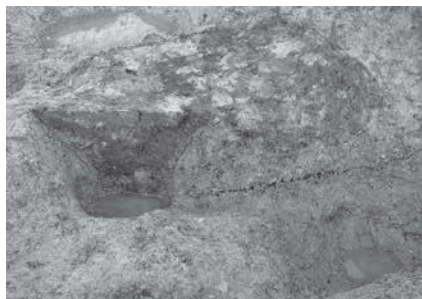
3. SI4 竪穴住居跡 K1 断面 (東から)



4. SI4 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



5. SI4 竪穴住居跡 P3 断面 (西から)



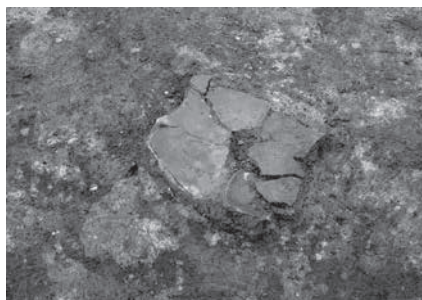
6. SI4 竪穴住居跡 K5 断面 (南から)



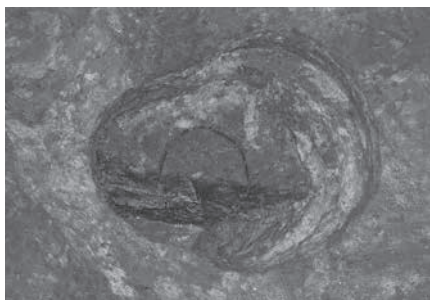
7. SI5b・c 竪穴住居跡 (南から)



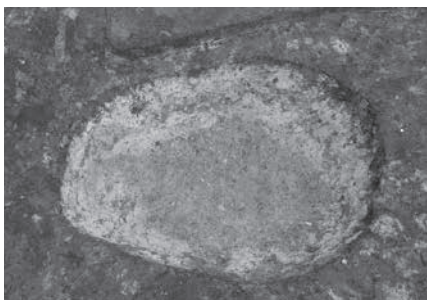
8. SI5c 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



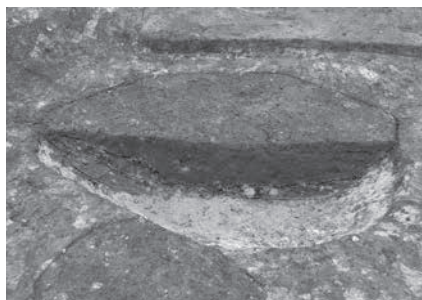
9. SI5c 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



10. SI5b・c 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



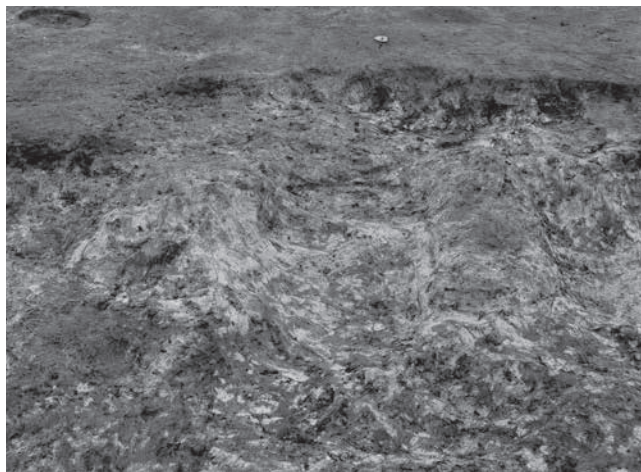
11. SI5b・c 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



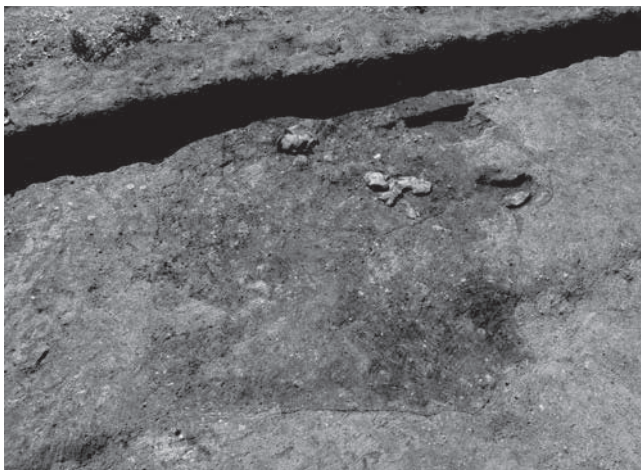
12. SI5b・c 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



1. SI5a 竪穴住居跡 (南から)



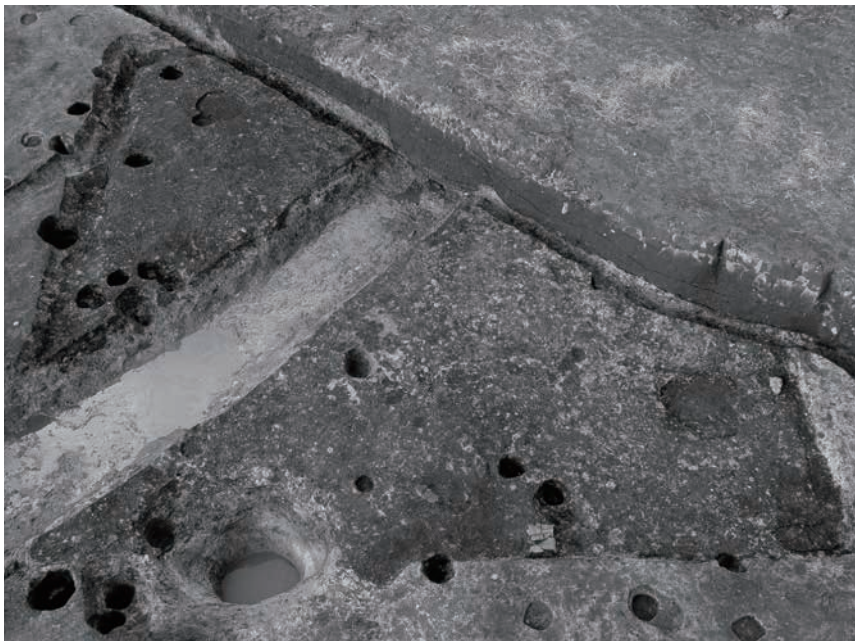
2. SI5a 竪穴住居跡 カマド (南から)



3. SI6 竪穴住居跡 (北から)



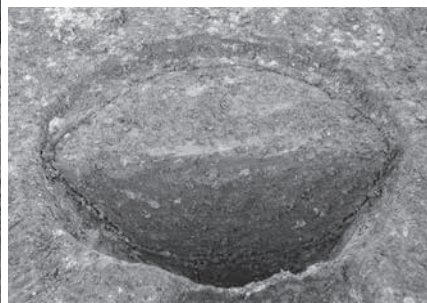
4. SI6 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



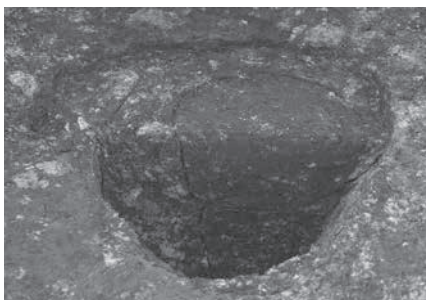
5. SI9 竪穴住居跡 (南東から)



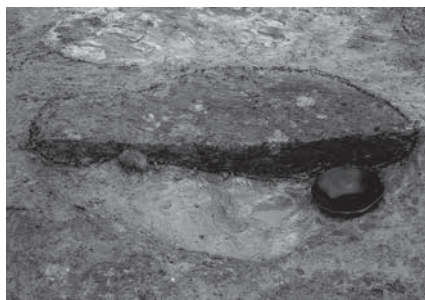
6. SI9 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南西から)



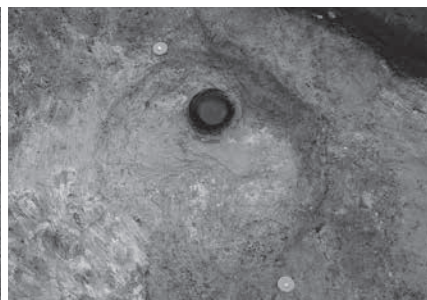
7. SI9 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



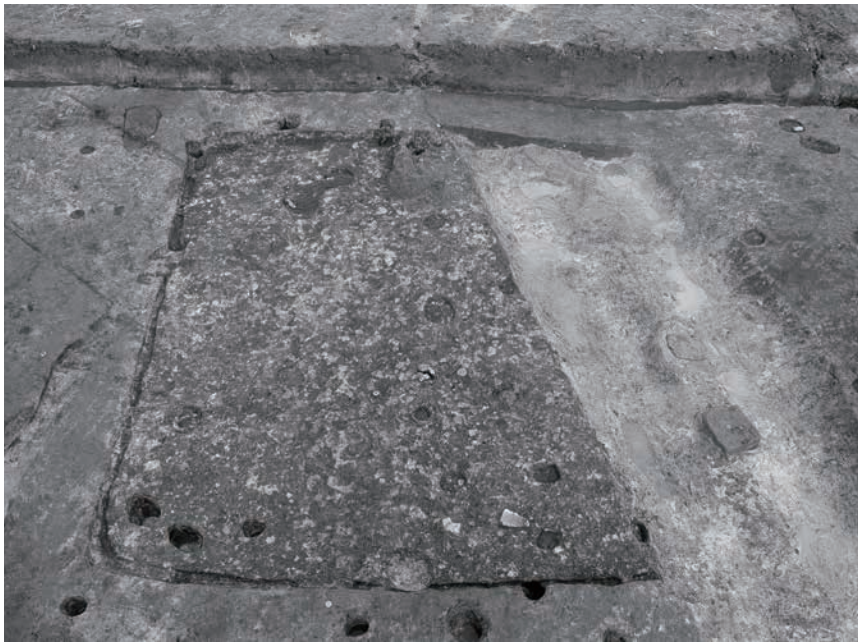
8. SI9 竪穴住居跡 P2 断面 (北から)



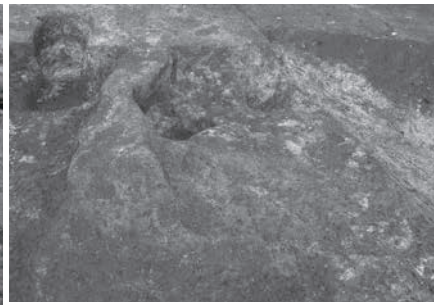
9. SI10 竪穴住居跡 K1 断面 (北東から)



10. SI10 竪穴住居跡 K1 遺物出土状況 (南東から)



1. SI10 竪穴住居跡 (南から)



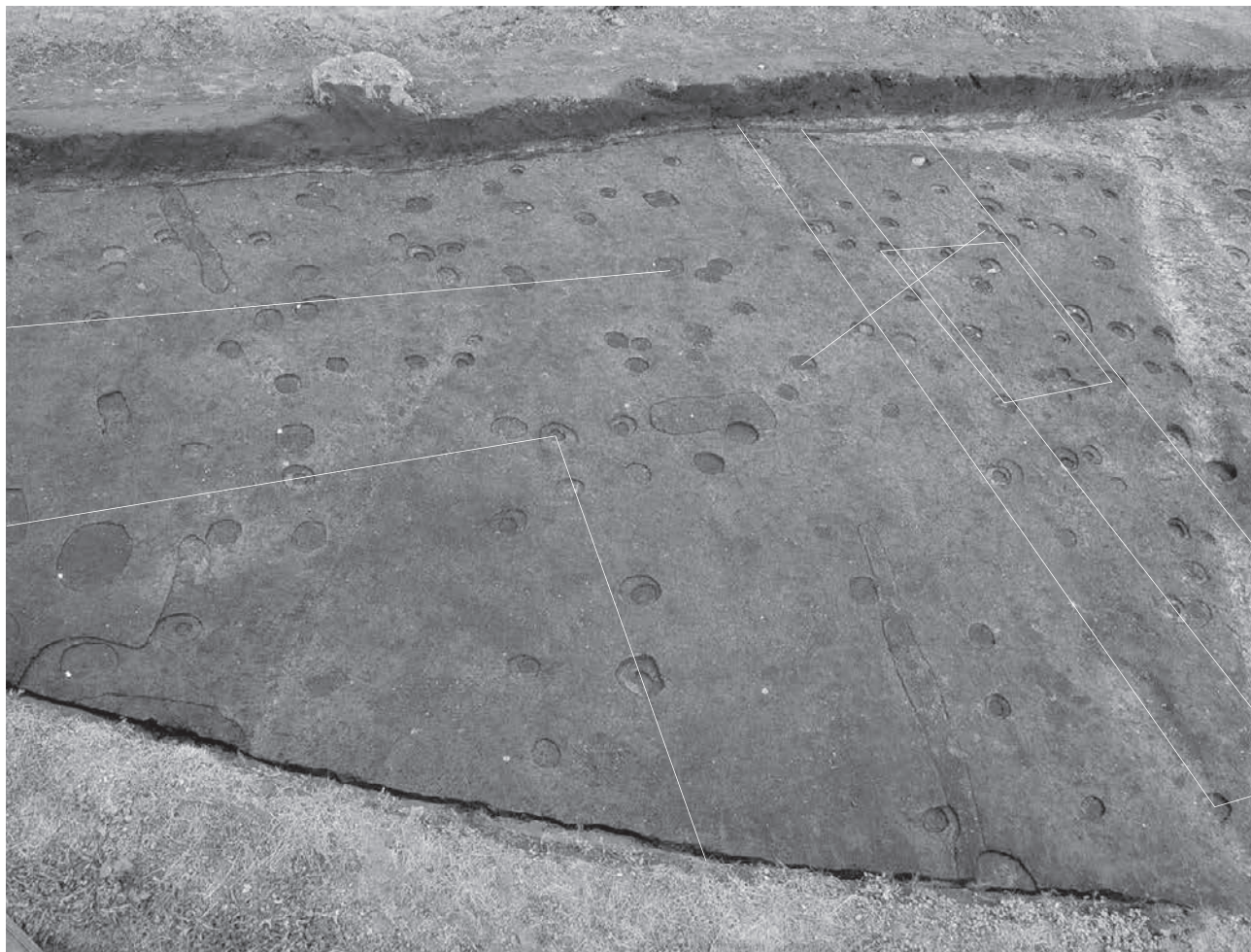
2. SI10 竪穴住居跡 カマド (南から)



3. SI10 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



4. SB21・SB23・SB291・SB285・SB364 掘立柱建物跡、SA292・SA296 柱列跡 確認状況 (西から)



1. SB284・SB285・SB288 掘立柱建物跡、SA282・289 柱列跡 確認状況（南から）



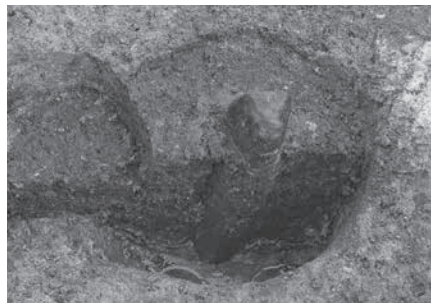
2. SB290・SB291 掘立柱建物跡、SA292・SA293・SA296 柱列跡、SX53 水溜め状遺構 確認状況（南から）



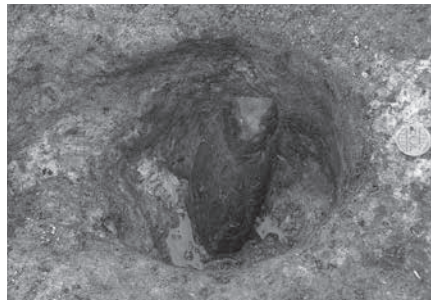
1. SB304・SB373 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



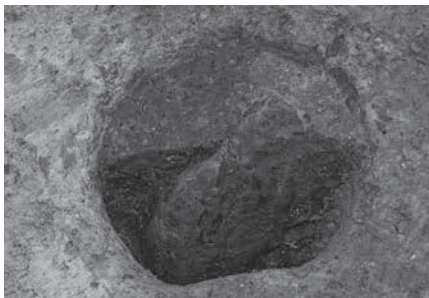
2. SB305・SB311・SB312・SB313 掘立柱建物跡、SA310 柱列跡 確認状況 (南から)



3. SB305 掘立柱建物跡 P7 断面 (南西から)



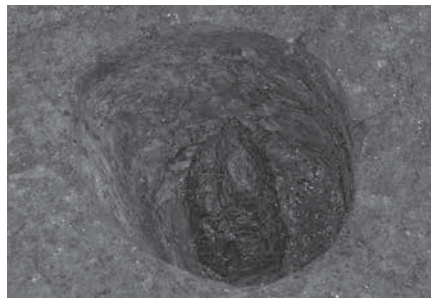
4. SB305 掘立柱建物跡 P7 柱材残存状況 (南西から)



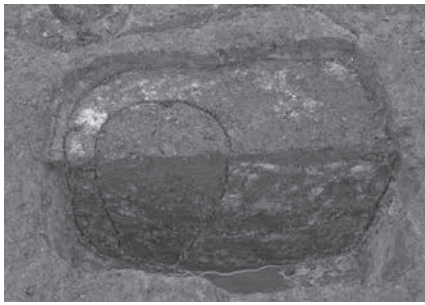
5. SB305 掘立柱建物跡 P12 断面 (南から)



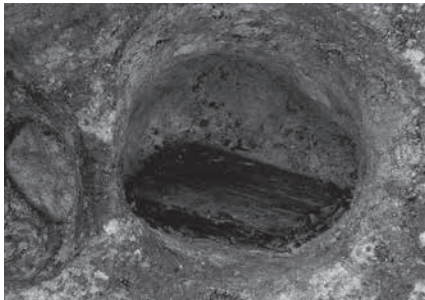
6. SB305 掘立柱建物跡 P12 柱材残存状況 (西から)



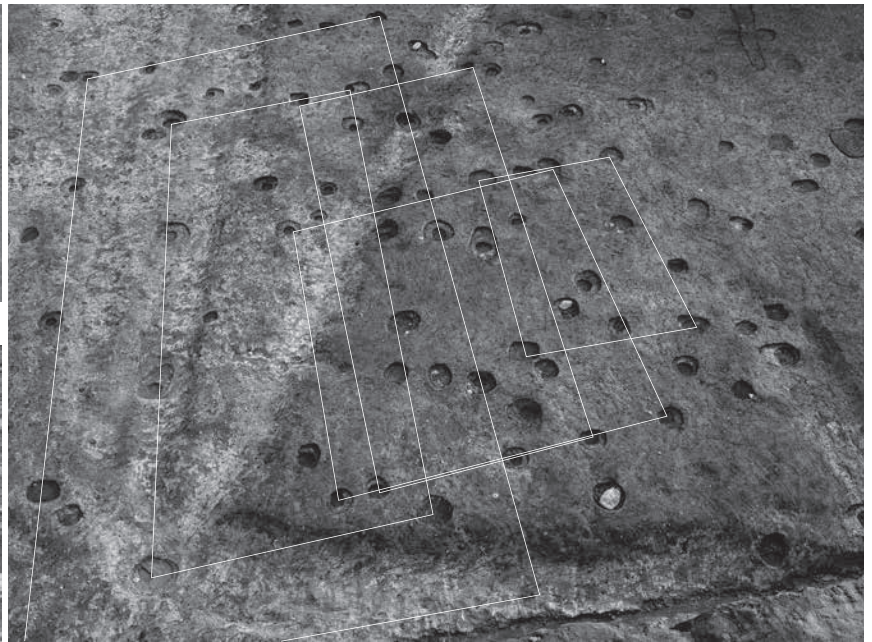
7. SB305 掘立柱建物跡 P9 柱材残存状況 (東から)



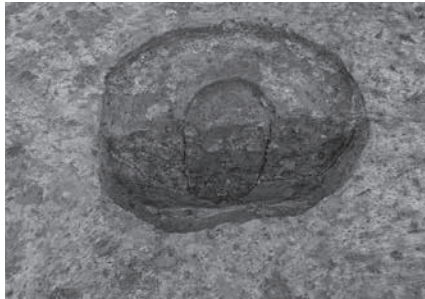
1. SB309 掘立柱建物跡 P4 断面 (東から)



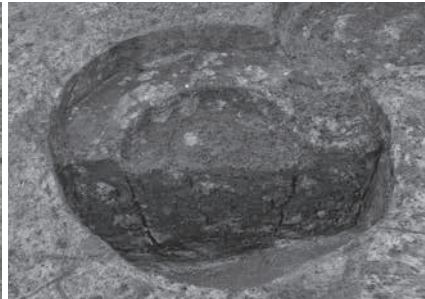
2. SB311 掘立柱建物跡 P6 礎板残存状況 (東から)



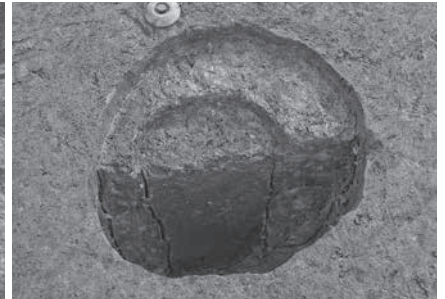
3. SB23・SB286・SB287・SB288 掘立柱建物跡 確認状況 (北から)



4. SB23 掘立柱建物跡 P4 断面 (南から)



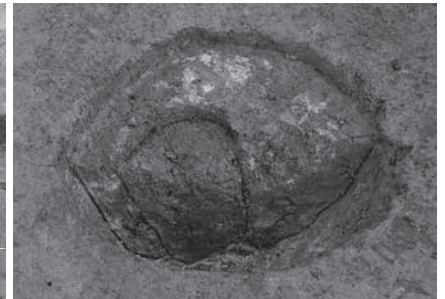
5. SB23 掘立柱建物跡 P5 断面 (南から)



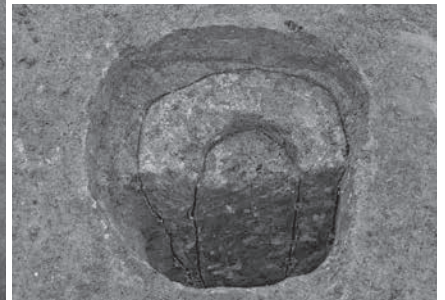
6. SB23 掘立柱建物跡 P18 断面 (西から)



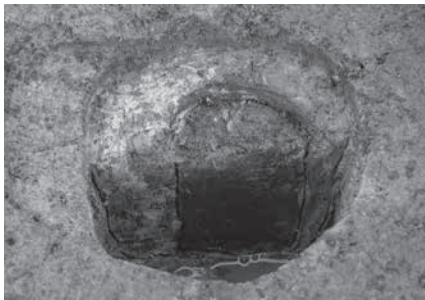
7. SB281・SB283・SB284 掘立柱建物跡、SA282 柱列跡 確認状況 (南から)



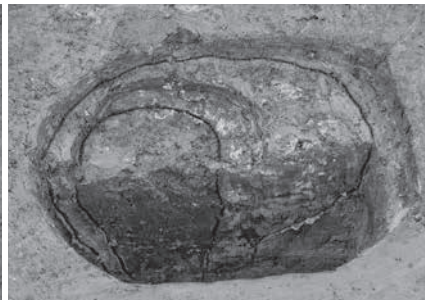
8. SB284 掘立柱建物跡 P3 断面 (西から)



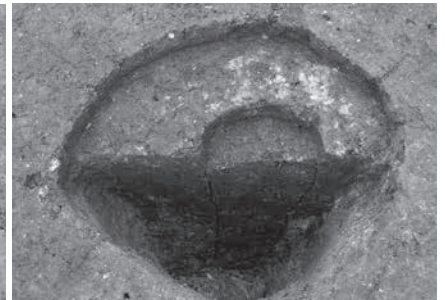
9. SB284 掘立柱建物跡 P4 断面 (南から)



10. SB285 掘立柱建物跡 P10 断面 (南から)



11. SB285 掘立柱建物跡 P12 断面 (南から)



12. SB291 掘立柱建物跡 P3 断面 (北から)



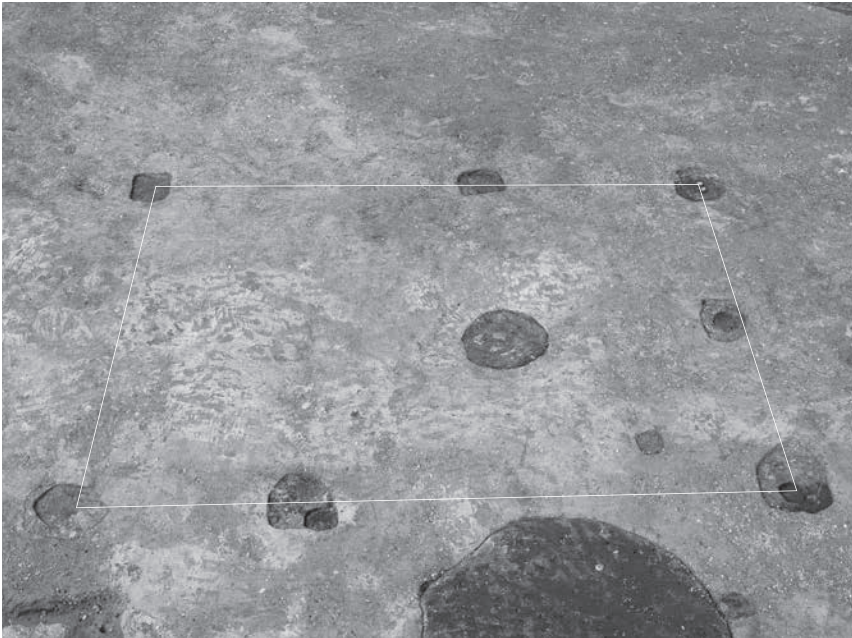
1. SB305 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



2. SB20 掘立柱建物跡 P1 断面 (東から)



3. SB20 掘立柱建物跡 P5 断面 (西から)



4. SB20 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



5. SB20 掘立柱建物跡 P6 断面 (東から)



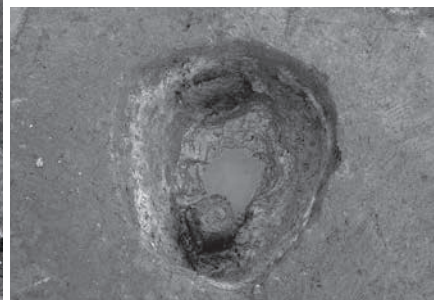
6. SB20 掘立柱建物跡 P7 断面 (北西から)



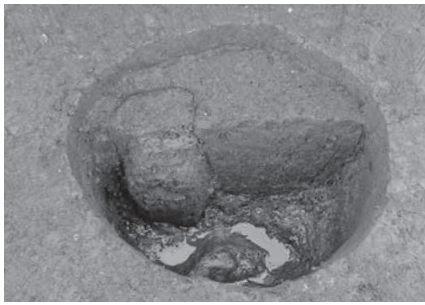
7. SB21 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



8. SB21 掘立柱建物跡 P2 断面 (北から)



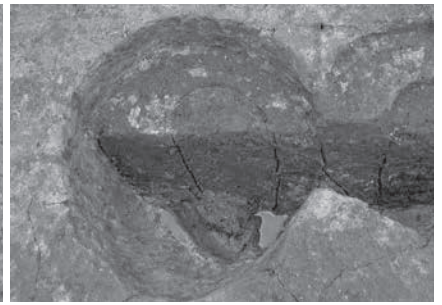
9. SB21 掘立柱建物跡 P2 柱材残存状況 (東から)



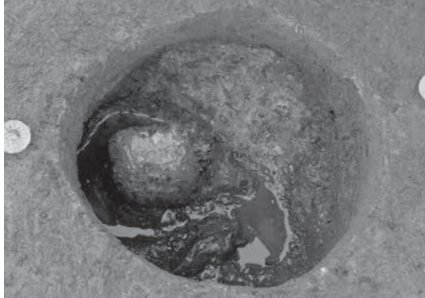
1. SB21 掘立柱建物跡 P3 断面 (北から)



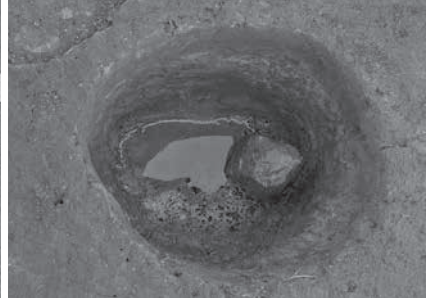
2. SB21 掘立柱建物跡 P7 断面 (南から)



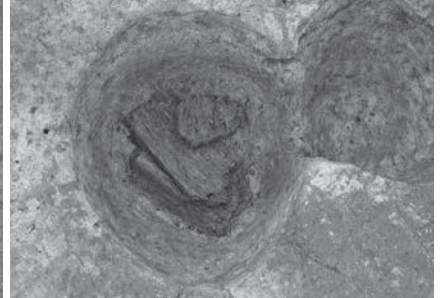
3. SB21 掘立柱建物跡 P15 断面 (北東から)



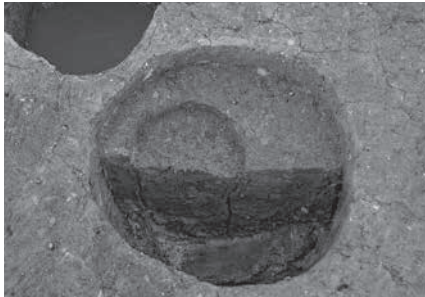
4. SB21 掘立柱建物跡 P3 柱材残存状況 (北から)



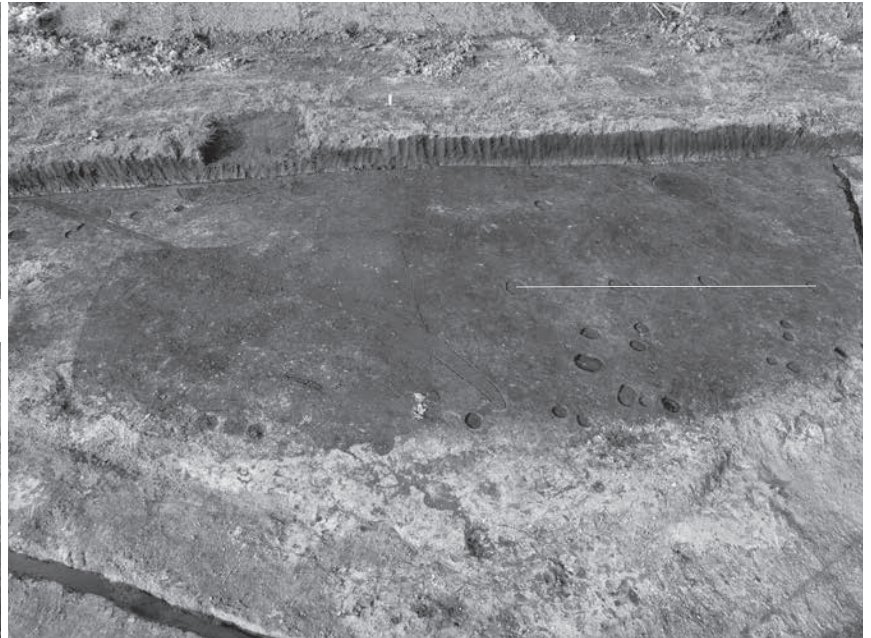
5. SB21 掘立柱建物跡 P7 柱材残存状況 (北から)



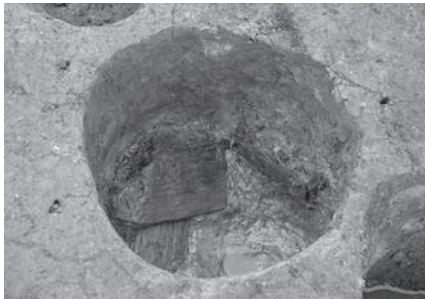
6. SB21 掘立柱建物跡 P15 礎板残存状況 (北東から)



7. SB21 掘立柱建物跡 P16 断面 (北から)



8. SB21 掘立柱建物跡 P16 礎板残存状況 (南から) 9. SA4 竪穴住居跡、SA34 柱列跡 確認状況 (南から)



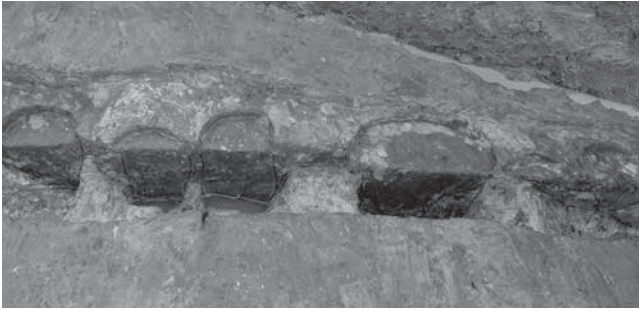
8. SB21 掘立柱建物跡 P16 礎板残存状況 (南から)



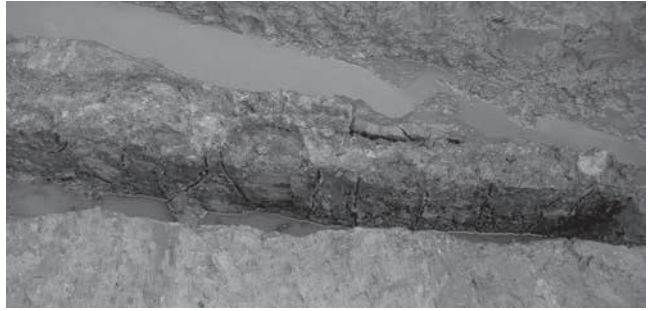
10. SA76 材木堀跡 (北から)



11. SA76 材木堀跡 完掘状況 (北から)



1. SA76 材木塀跡 北半部縦断面 (西から)



2. SA76 材木塀跡 南半部縦断面 (西から)



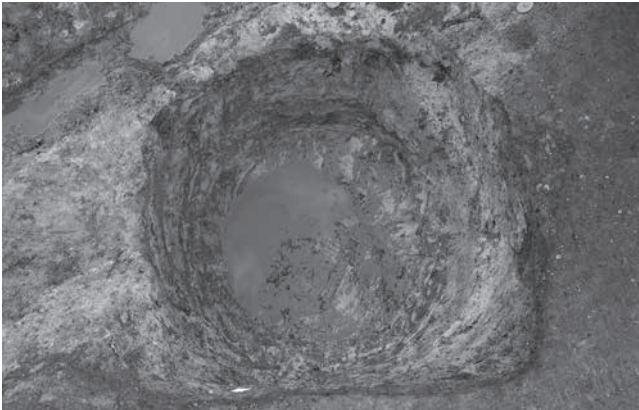
3. SA76 材木塀跡 南側横断面 (北から)



4. SA76 材木塀跡 中央部横断面 (北から)



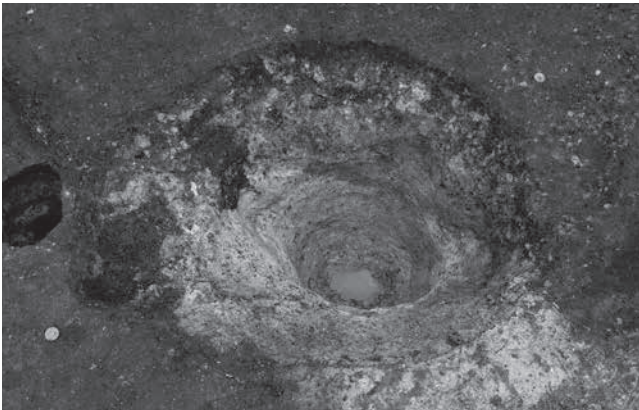
5. SA76 材木塀跡 柱材残存状況 (北から)



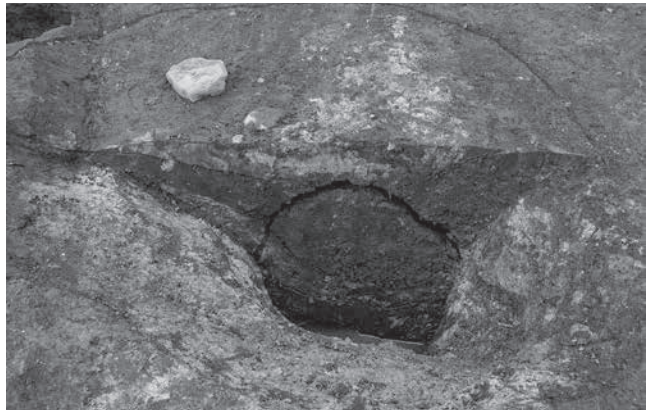
6. SE59 井戸跡 完掘状況 (北東から)



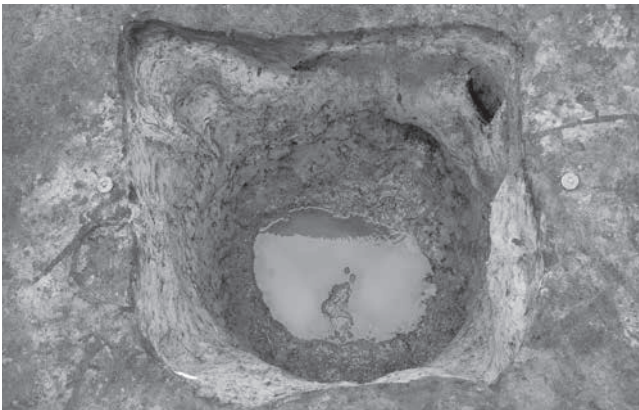
7. SE59 井戸跡 断面 (北東から)



8. SE60 井戸跡 完掘状況 (東から)



9. SE60 井戸跡 断面 (東から)



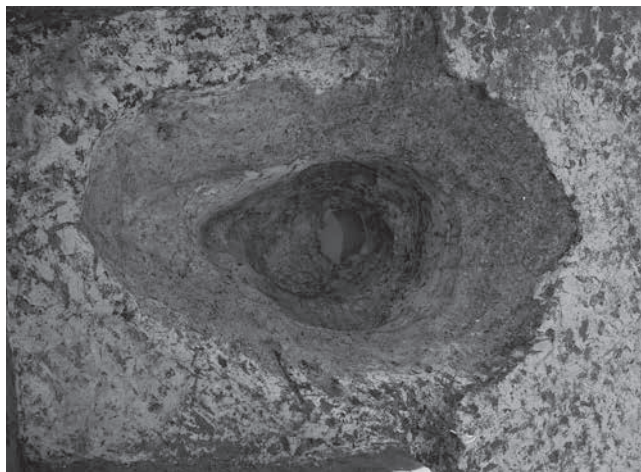
10. SE65 井戸跡 完掘状況 (東から)



11. SE65 井戸跡 断面 (西から)



1. SE66 井戸跡 遺物出土状況 (東から)



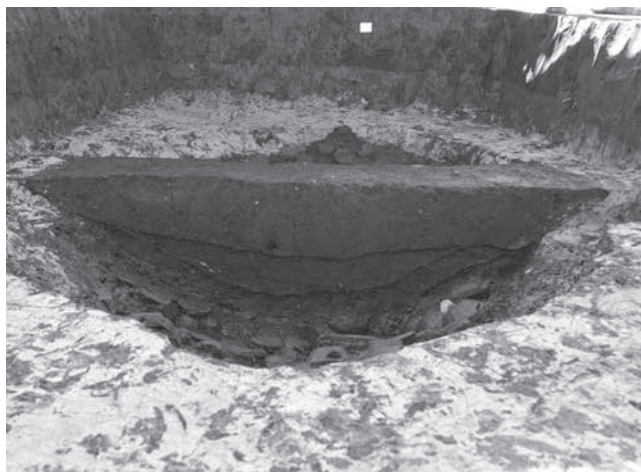
2. SE66 井戸跡 完掘状況 (東から)



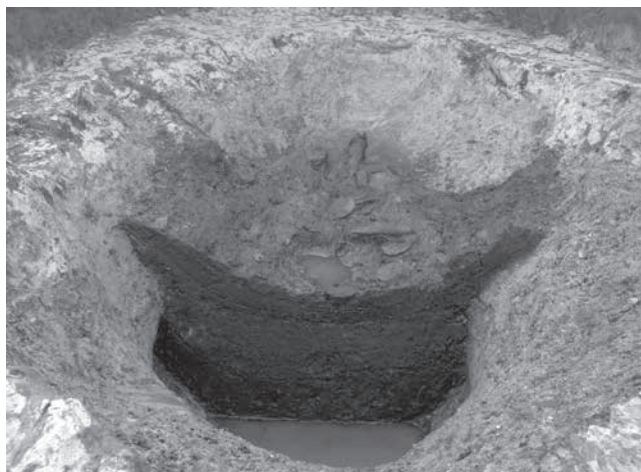
3. SE66 井戸跡 遺物出土状況



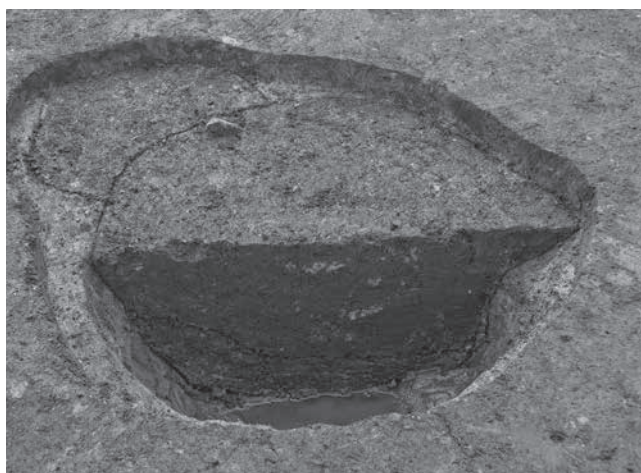
4. SE66 井戸跡 遺物出土状況



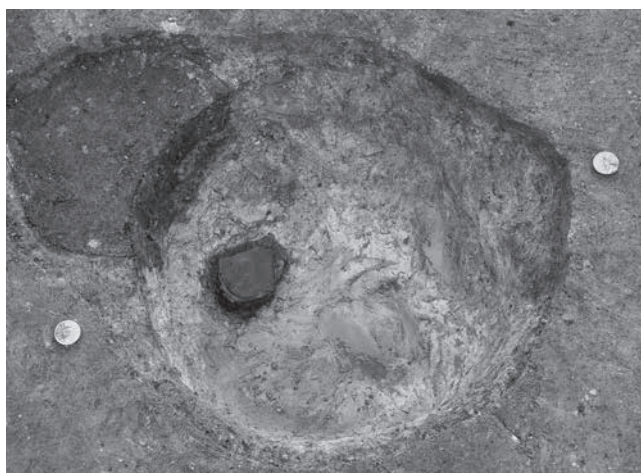
5. SE66 井戸跡 断面 (1~3 層・北から)



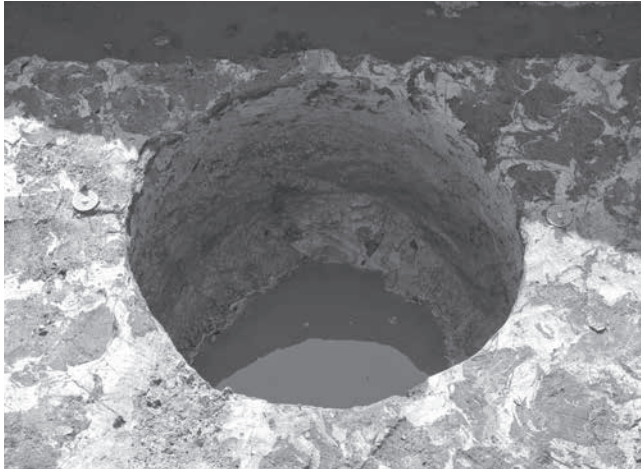
6. SE66 井戸跡 断面 (4~7 層・北から)



7. SK58 土坑 断面 (北から)



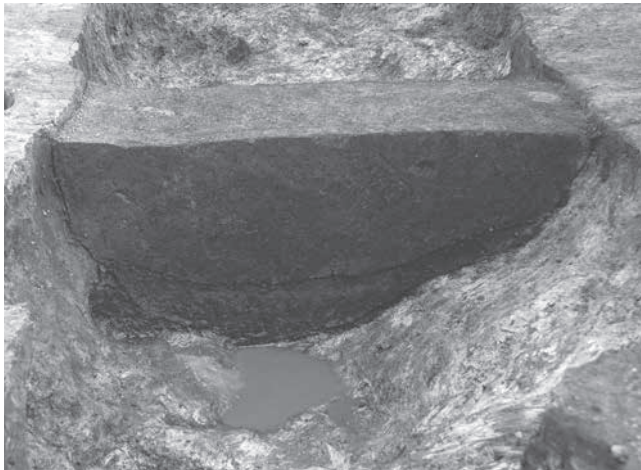
8. SK58 土坑 遺物出土状況 (北から)



1. SK64 土坑 完掘状況 (北から)



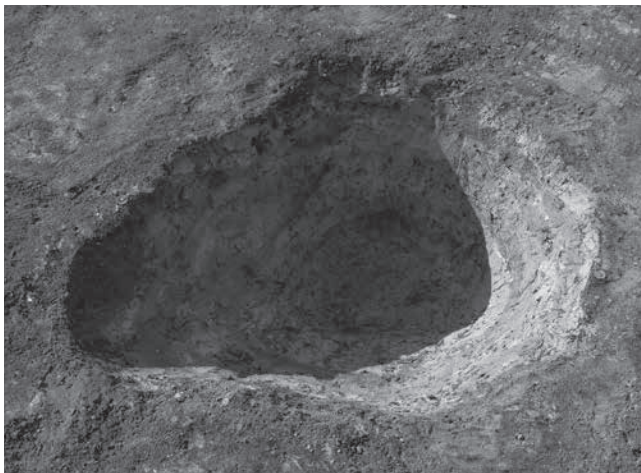
2. SK64 土坑 断面 (北から)



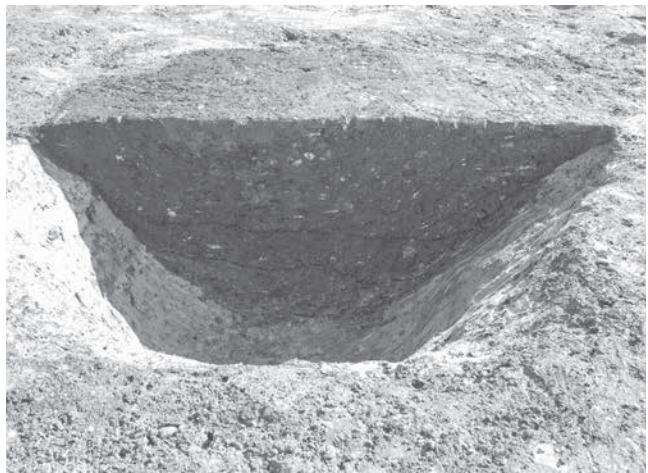
3. SK67 土坑 断面 (西から)



4. SK68 土坑 断面 (東から)



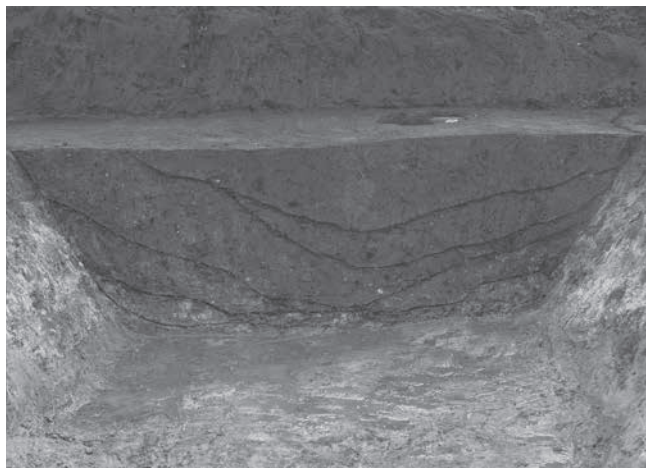
5. SK69 土坑 完掘状況 (東から)



6. SK69 土坑 断面 (西から)



7. SK71 土坑 断面 (東から)



8. SD8 溝跡 断面 (北から)



1. SX53 水溜め状遺構 堰部断面 (東から)



2. SX53 水溜め状遺構 断面 (北から)



3. 5区 遺構精査状況 (西から)



1. 5区西部 遺構確認状況 (西から)



2. 5区西部 遺構確認状況 (東から)



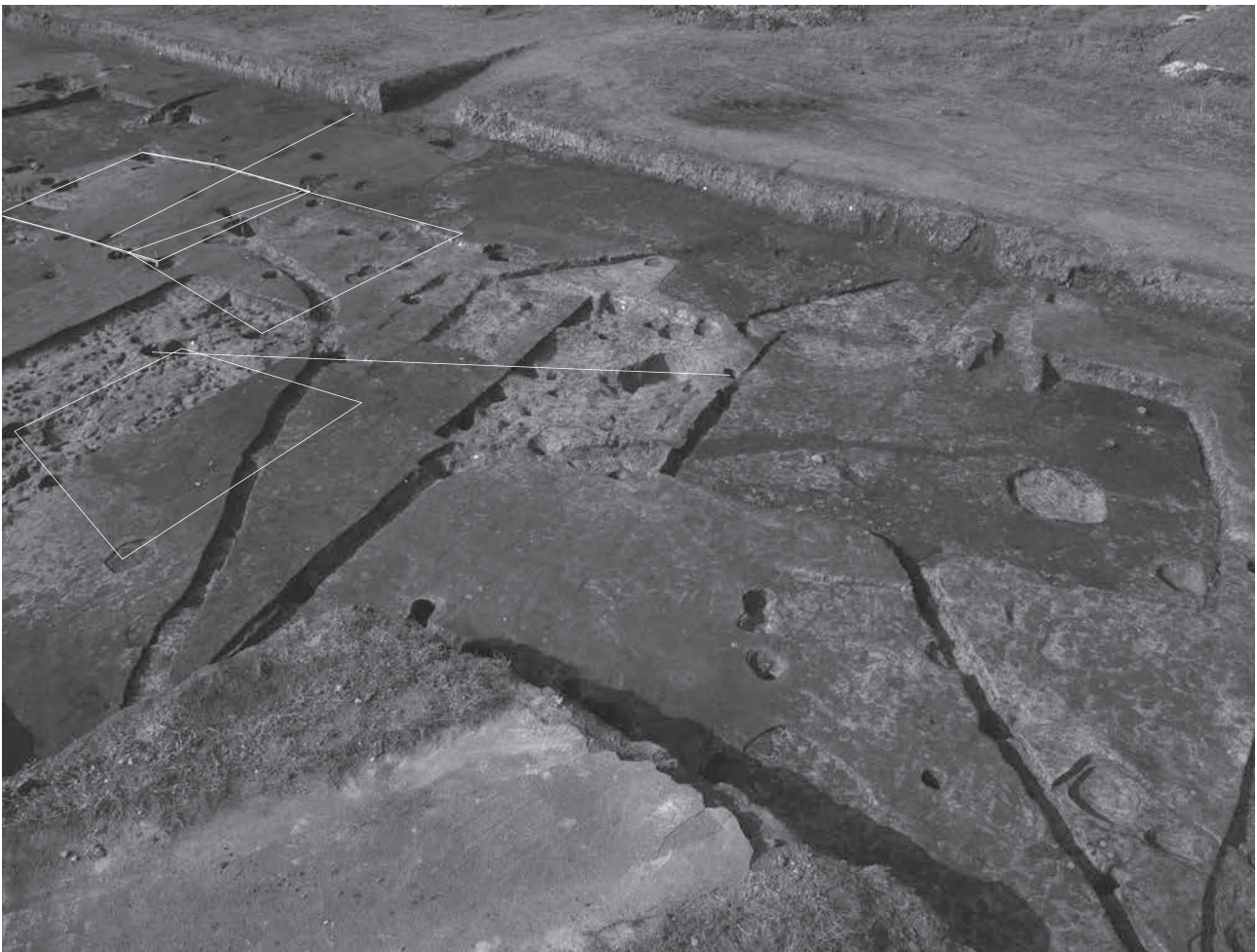
1. 5区西部 遺構精査状況（東から）



2. 5区西端部 遺構精査状況（南東から）



1. SI213・SI214・SI215・SI216・SI217 竪穴住居跡 確認状況（南西から）



2. SI217・SI220・SI221・SI222・SI228・SI230 竪穴住居跡、SB247・SB262・SB275 掘立柱建物跡、SA254・SA279 柱列跡（南西から）



1. SI218・SI225・SI231 竪穴住居跡、SB247 掘立柱建物跡（南西から）



2. 5区 遺構確認状況（東から）



1. 5区東部 遺構確認状況（西から）



2. SI205b・SI207・SI208・SI209b 竪穴住居跡 確認状況（南西から）



1. 5区 遺構確認状況（東から）



2. 5区東部 遺構確認状況（南東から）



1. SI205b・SI206・SI207・SI208・SI209b 竪穴住居跡、SB256・SB259 掘立柱建物跡、SA235 材木堀跡 精査状況（東から）



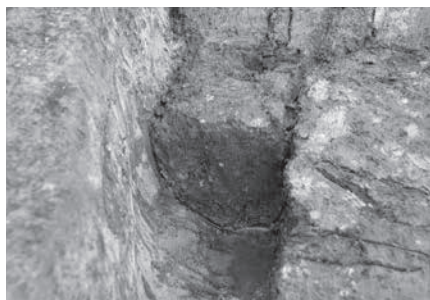
2. SI205b 竪穴住居跡（南から）



3. SI205b 竪穴住居跡 カマド（南から）



4. SI205b 竪穴住居跡 炭化材確認状況（北から）



5. SI205b 竪穴住居跡 壁材痕跡 断面（西から）



6. SI205a+b 竪穴住居跡 外延溝D3 断面（西から）



7. SI205b 竪穴住居跡 K1 断面（西から）



1. SI205b 竪穴住居跡 外延溝確認状況 (南から)



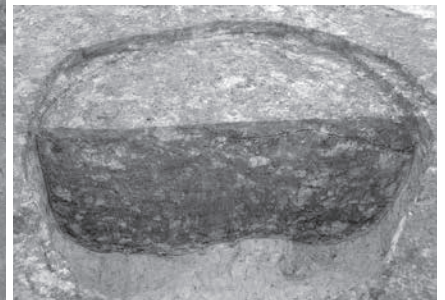
2. SI205a 竪穴住居跡 (南から)



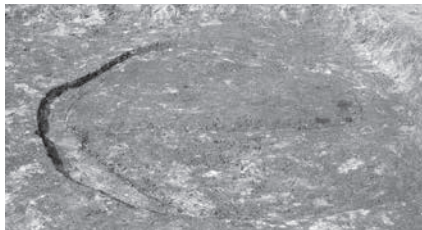
3. SI206 竪穴住居跡 (南から)



4. SI206 竪穴住居跡 カマド (南から)



5. SI206 竪穴住居跡 K2 断面 (南から)



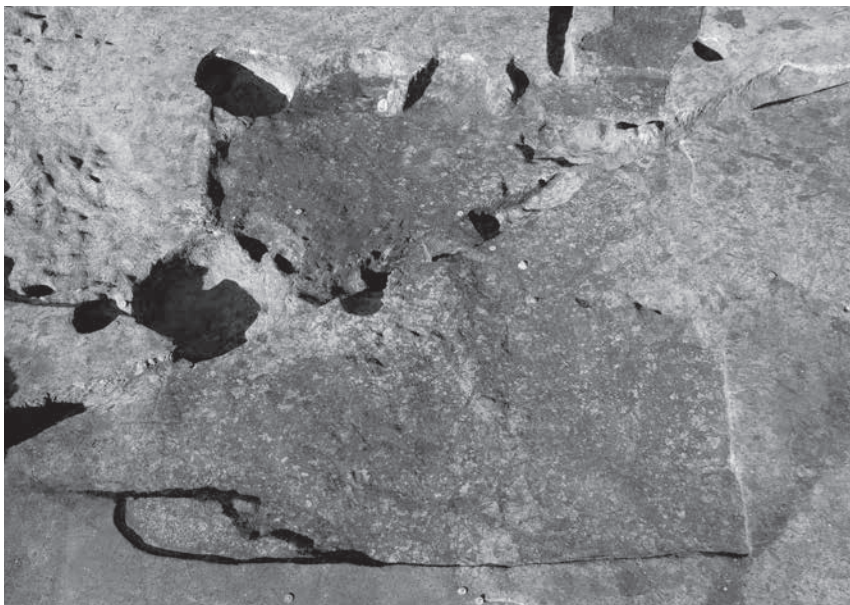
6. SI206 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



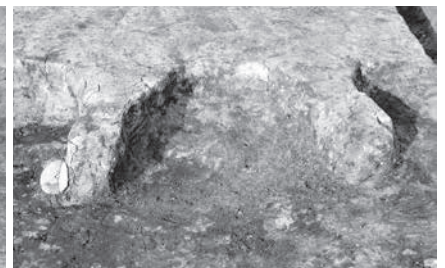
7. SI207 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



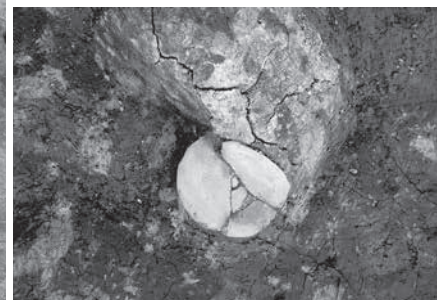
8. SI207 竪穴住居跡 K3 断面 (南から)



9. SI207 竪穴住居跡 (南から)



10. SI207 竪穴住居跡 カマド (南から)



11. SI207 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南西から)



1. SI208 竪穴住居跡 (東から)



2. SI208 竪穴住居跡 外延溝 D1 断面(西から)



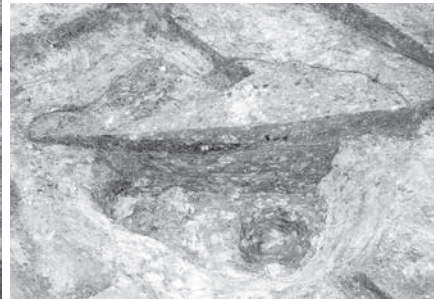
3. SI209b 竪穴住居跡 (西から)



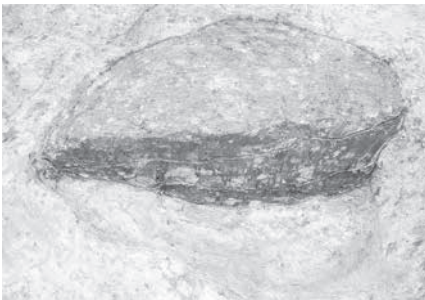
4. SI209a 竪穴住居跡 (西から)



5. SI209a 竪穴住居跡 カマド 横断面(西から)



6. SI209a 竪穴住居跡 K1 断面 (北東から)



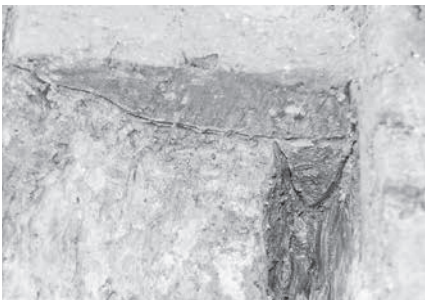
7. SI209a 竪穴住居跡 K2 断面 (北東から)



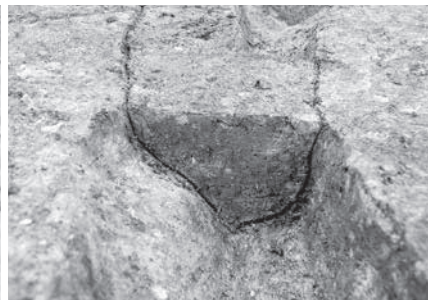
8. SI209b 竪穴住居跡 D1 確認状況 (南から)



9. SI209b 竪穴住居跡 D1 断面 (南から)



10. SI209b 竪穴住居跡 壁材痕跡 断面(東から)



11. SI209 竪穴住居跡 外延溝 D2 南東部 断面(北東から)



12. SI209 竪穴住居跡 外延溝 D3 北東部 断面(北東から)



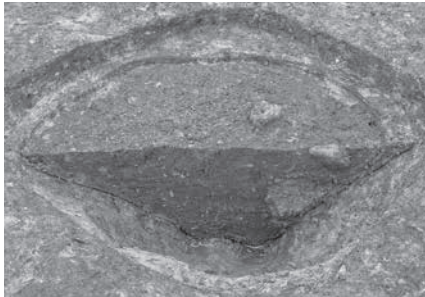
1. SI213 竪穴住居跡 (南から)



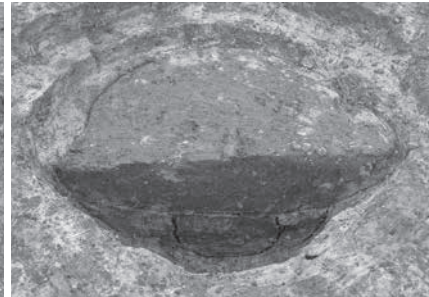
2. SI213 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



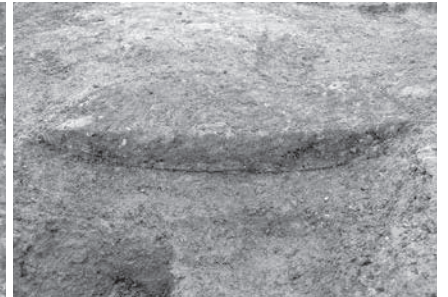
3. SI213 竪穴住居跡 K1・K2 断面 (南から)



4. SI213 竪穴住居跡 P1 断面 (西から)



5. SI213 竪穴住居跡 P3 断面 (北から)



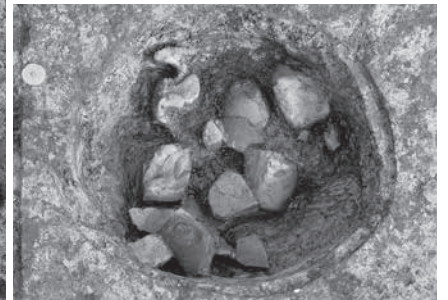
6. SI213 竪穴住居跡 K2 断面 (東から)



7. SI215 竪穴住居跡 (西から)



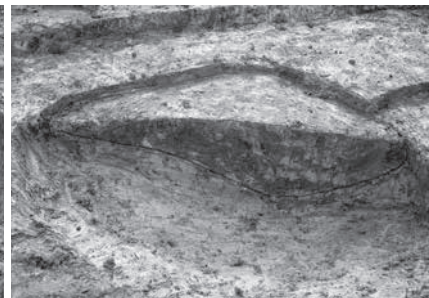
8. SI215 竪穴住居跡 K1 断面 (西から)



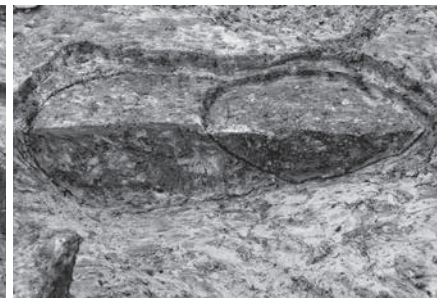
9. SI215 竪穴住居跡 K1 凝灰岩片出土状況 (西から)



10. SI215 竪穴住居跡 K2 断面 (西から)



11. SI215 竪穴住居跡 K3 断面 (西から)



12. SI215 竪穴住居跡 K4・K5 断面 (東から)



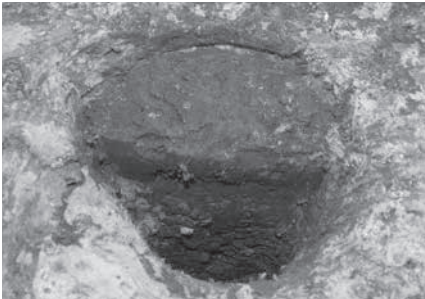
1. SI217 竪穴住居跡 (南から)



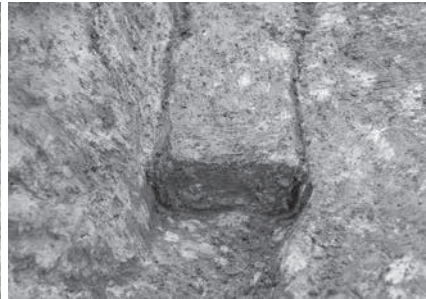
2. SI217 竪穴住居跡 カマド (南から)



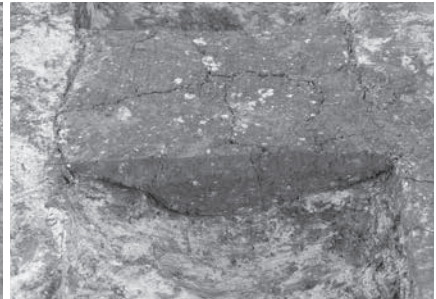
3. SI217 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



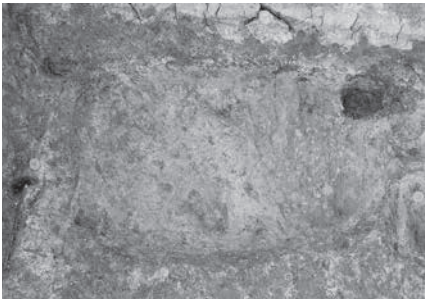
4. SI217 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



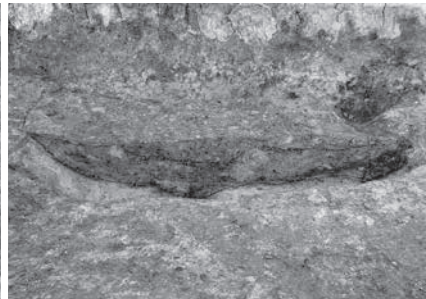
5. SI217 竪穴住居跡 周溝 断面 (東から)



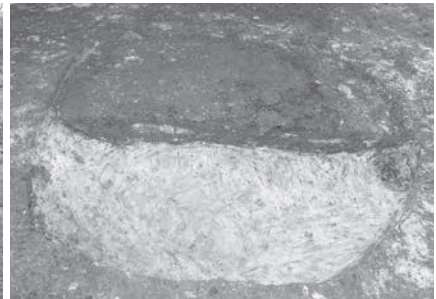
6. SI217 竪穴住居跡 D1 断面 (北東から)



7. SI217 竪穴住居跡 K1 完掘状況 (南から)



8. SI217 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



9. SI217 竪穴住居跡 K3 断面 (北から)



10. SI217 竪穴住居跡 周溝・外延溝 D3 接続部断面 (南西から)



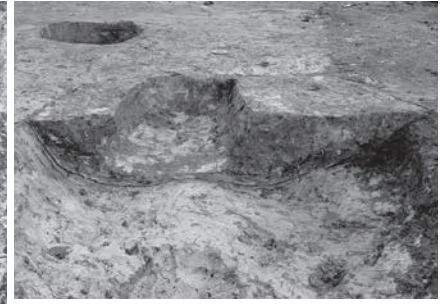
11. SI226 竪穴住居跡 カマド (西から)



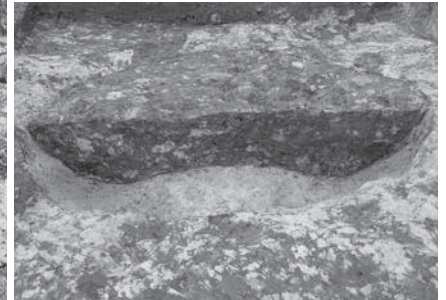
12. SI226 竪穴住居跡 (西から)



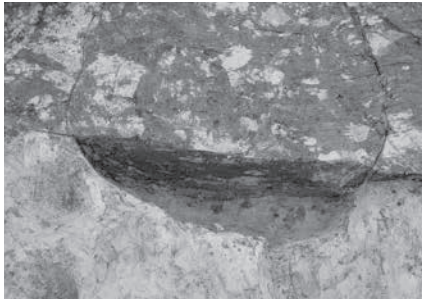
1. SI218 竪穴住居跡 (西から)



2. SI218 竪穴住居跡 カマド 断面 (西から)



3. SI218 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



4. SI218 竪穴住居跡 K2 断面 (西から)



5. SI218 竪穴住居跡 外延溝 D1 断面 (南から)



6. SI218・SI225・SI231 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



7. SI218 竪穴住居跡 周溝・外延溝 D1 接続部 (北から)



8. SI218 竪穴住居跡 周溝・外延溝 D1 接続部 (南から)



9. SI230 竪穴住居跡 (南から)



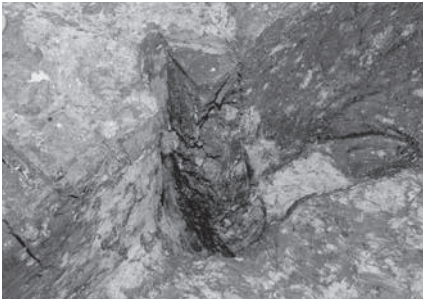
1. SI225 竪穴住居跡 (南から)



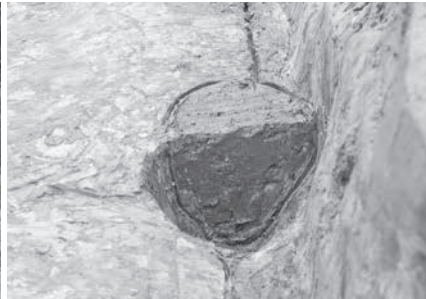
2. SI225 竪穴住居跡 カマド (南から)



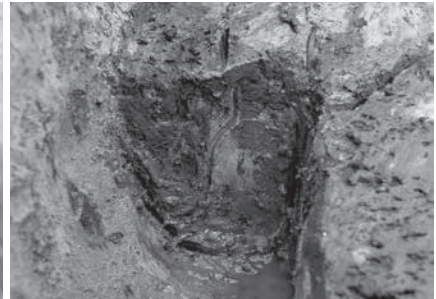
3. SI225 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



4. SI225 竪穴住居跡 P1 断面 (西から)



5. SI225 竪穴住居跡 P4 断面 (南から)



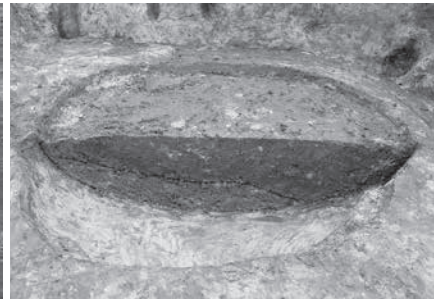
6. SI225 竪穴住居跡 壁材痕跡 断面 (西から)



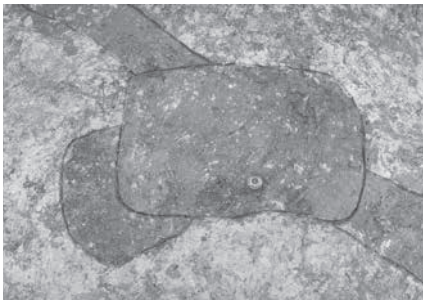
7. SI225 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北から)



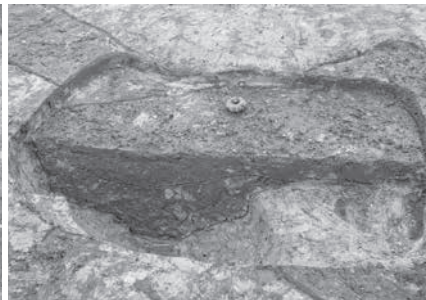
8. SI225 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



9. SI225 竪穴住居跡 K1 断面 (南から)



10. SI225 竪穴住居跡 K3 確認状況 (南から)



11. SI225 竪穴住居跡 K2 断面 (北から)



12. SI225 竪穴住居跡 K3 断面 (北から)



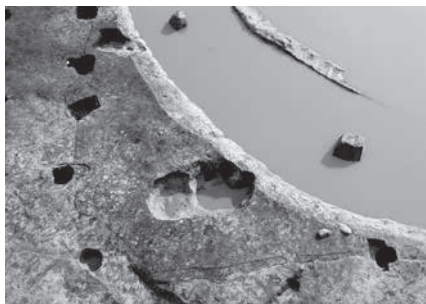
13. SI225 竪穴住居跡 K4 断面 (西から)



14. SI225 竪穴住居跡 D1 断面 (南東から)



15. SI225 竪穴住居跡 D1・外延溝 D2 接続部 (北から)



1. SI219 竪穴住居跡 (北から)

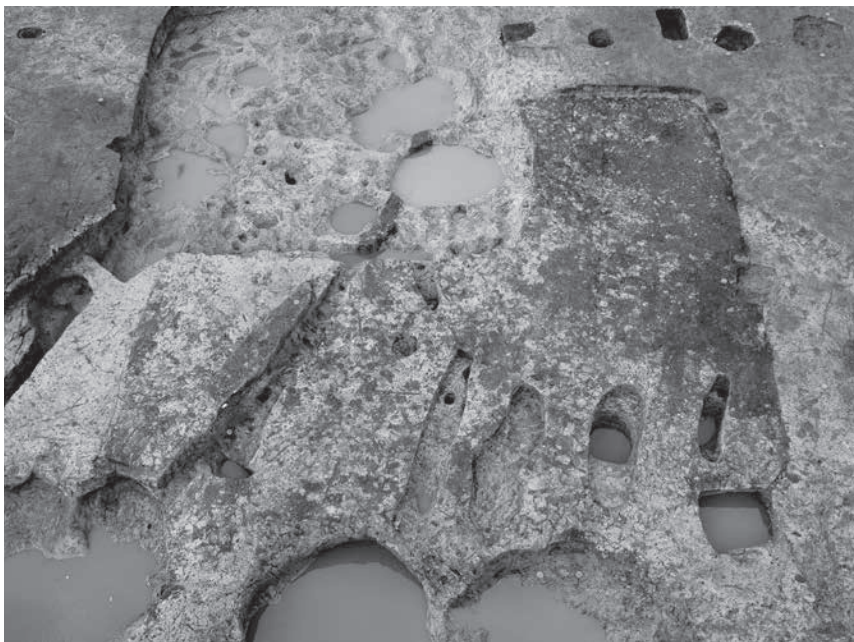


2. SI219 竪穴住居跡 周溝 断面 (東から)

3. SI220・SI228・SI229 竪穴住居跡 完掘状況 (南から)



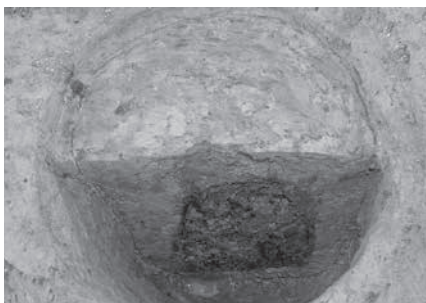
4. SI231 竪穴住居跡 (南から)



5. SI231 竪穴住居跡 出土遺物状況 (南から)



6. SI231 竪穴住居跡 P3 断面 (南から)



7. SI231 竪穴住居跡 P1 断面 (南から)



8. SI231 竪穴住居跡 P2 断面 (東から)



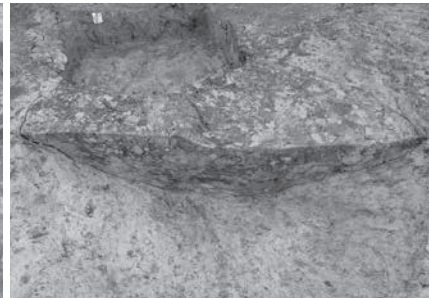
9. SI231 竪穴住居跡 P3 柱材残存状況 (南から)



10. SI231 竪穴住居跡 P4 断面 (南から)



11. SI231 竪穴住居跡 P5 断面 (西から)



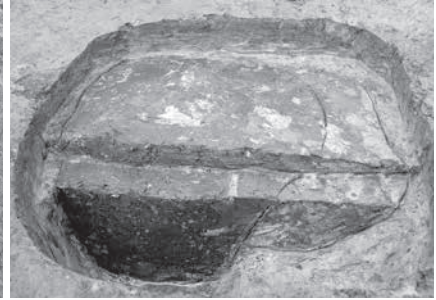
12. SI231 竪穴住居跡 K1 断面 (北から)



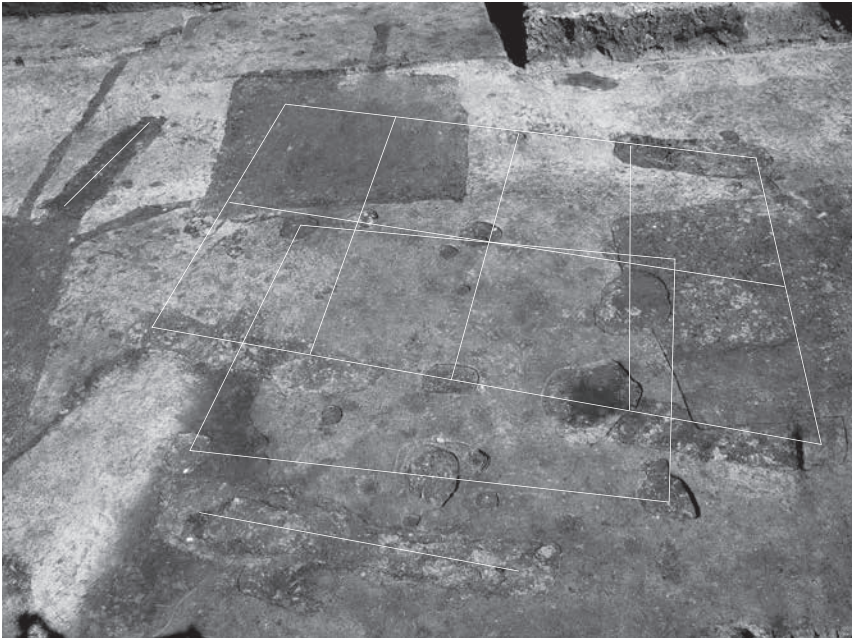
1. SB247 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



2. SB247 掘立柱建物跡 P2 断面 (南から)



3. SB247 掘立柱建物跡 P4 断面 (東から)



5. SI205b 竪穴住居跡、SB256・SB259 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



4. SB247 掘立柱建物跡 P5 断面 (西から)



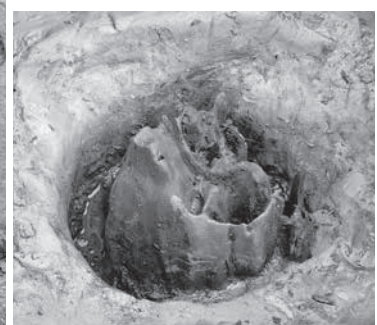
6. SB256 掘立柱建物跡 P3 断面 (西から)



7. SI205a・b 竪穴住居跡、SB256・SB259 掘立柱建物跡 完掘状況 (南から)



8. SB256 掘立柱建物跡 P3 完掘状況 (西から)



9. SB256 掘立柱建物跡 P3 柱材残状況 (西から)



1. SB256 掘立柱建物跡 P4・P5 断面（東から）



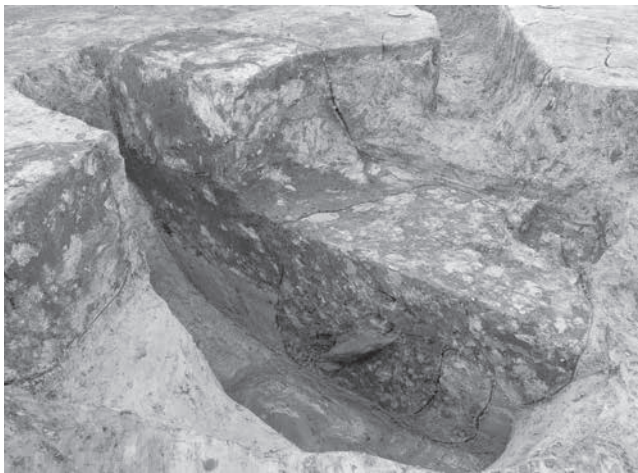
2. SB256 掘立柱建物跡 P5 断面（北から）



3. SB256 掘立柱建物跡 P6・P7 断面（北から）



4. SB256 掘立柱建物跡 P7 断面（北から）



5. SB256 掘立柱建物跡 P8 断面（北東から）



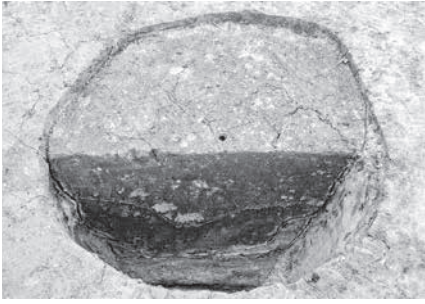
6. SB256 掘立柱建物跡 調査風景（西から）



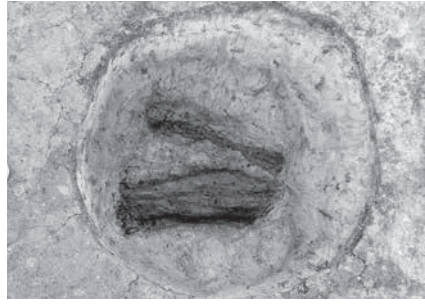
7. SB256 掘立柱建物跡 P16・P17・P18 断面（北から）



8. SB256 掘立柱建物跡 P17 断面（北から）



1. SB259 掘立柱建物跡 P1 断面 (北から)



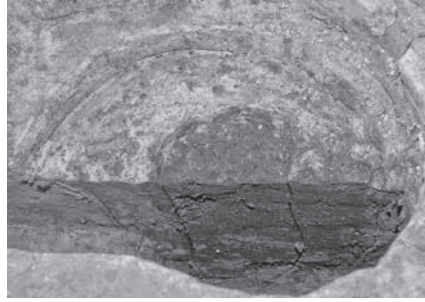
2. SB259 掘立柱建物跡 P1 礎板残存状況(北から)



3. SB259 掘立柱建物跡 P4 断面 (北から)



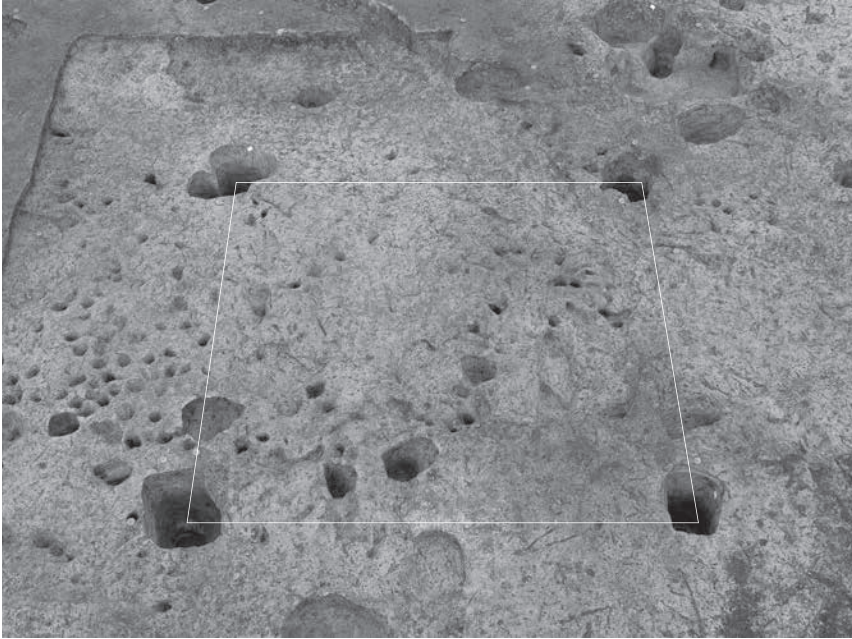
4. SB259 掘立柱建物跡 P5 断面 (北から)



5. SB275 掘立柱建物跡 P3 断面 (南から)



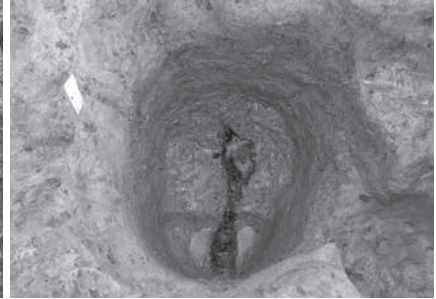
6. SB275 掘立柱建物跡 P5 断面 (西から)



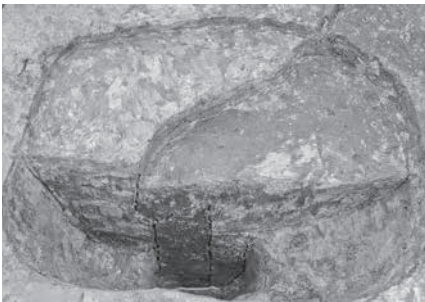
7. SB262 掘立柱建物跡 完掘状況 (南から)



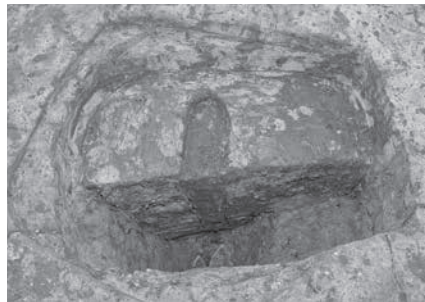
8. SB262 掘立柱建物跡 P1 断面 (西から)



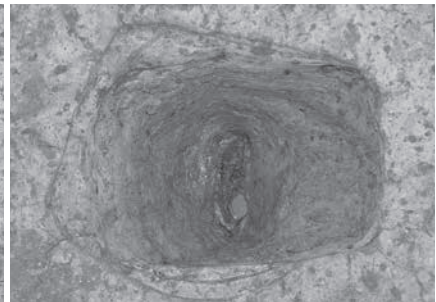
9. SB262 掘立柱建物跡 P1 柱材残存状況(西から)



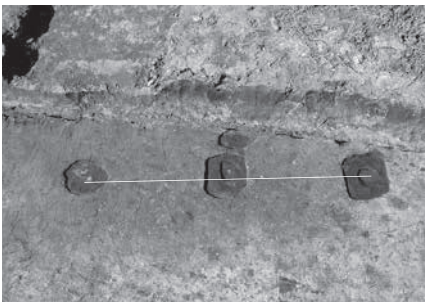
10. SB262 掘立柱建物跡 P3 断面 (西から)



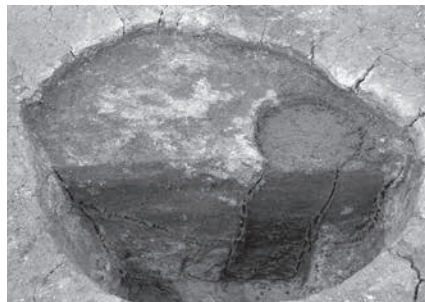
11. SB262 掘立柱建物跡 P4 断面 (西から)



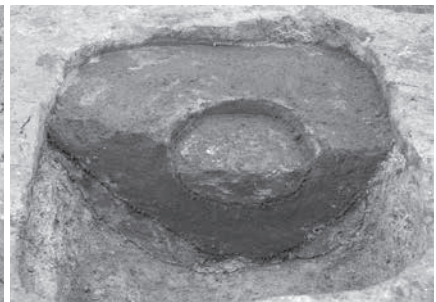
12. SB262 掘立柱建物跡 P4 柱材残存状況(西から)



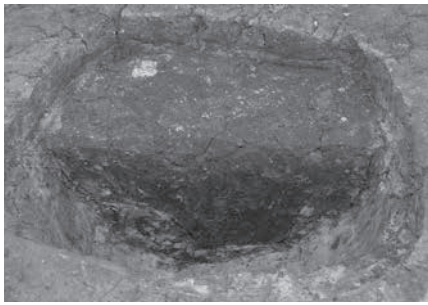
13. SA246 掘立柱建物跡 確認状況 (南から)



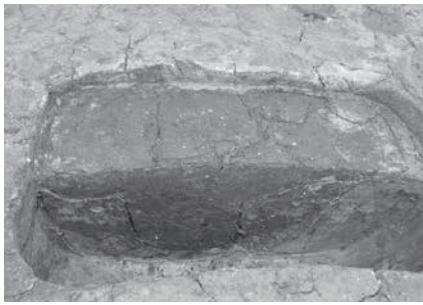
14. SA246 掘立柱建物跡 P1 断面 (南から)



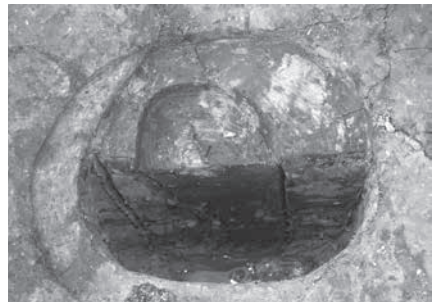
15. SA246 掘立柱建物跡 P3 断面 (南から)



1. SA254 掘立柱建物跡 P3 断面 (西から)



2. SA254 掘立柱建物跡 P4 断面 (西から)



3. SA278 掘立柱建物跡 P3 断面 (東から)



4. SA235 材木堀跡 南東隅 確認状況 (南から)



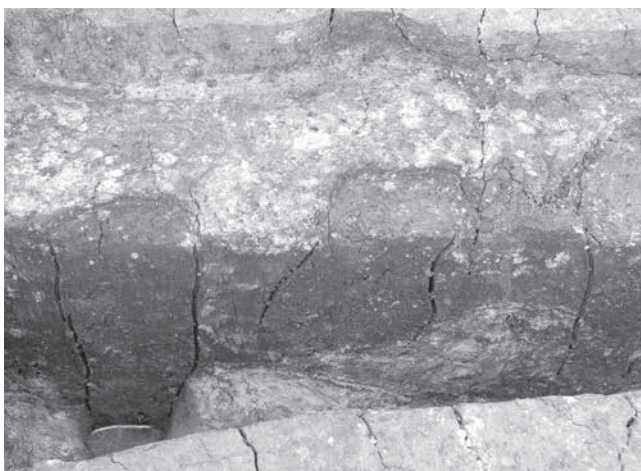
5. SA235 材木堀跡 南辺 完掘状況 (西から)



6. SA235 材木堀跡 東辺 縦断面 (東から)



7. SA235 材木堀跡 東辺 柱材残存状況 (東から)



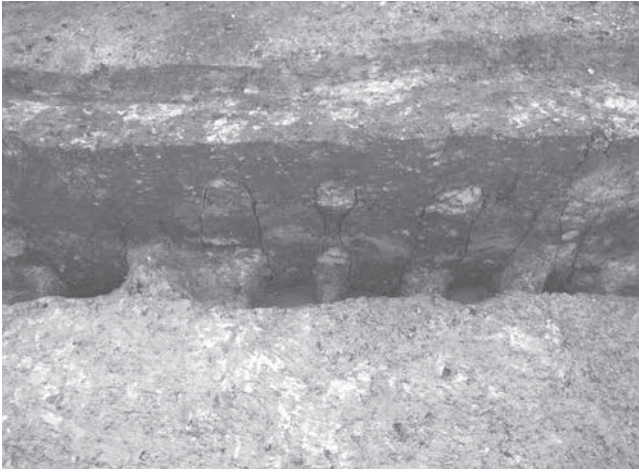
8. SA235 材木堀跡 東辺 縦断面 (東から)



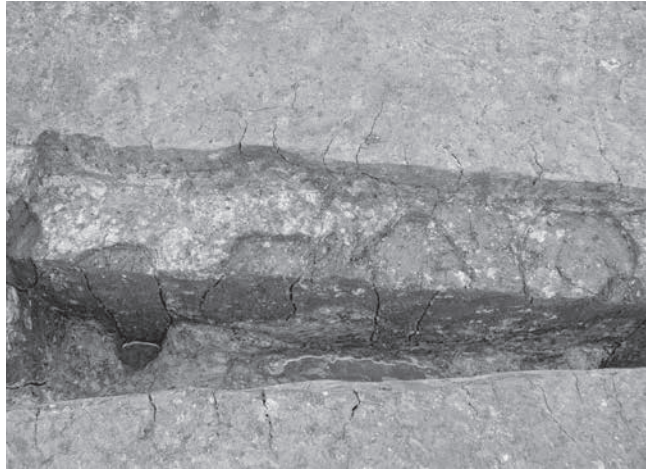
9. SA235 材木堀跡 東辺 横断面 (北から)



10. SA235 材木堀跡 東辺 柱材残存状況 (北から)



1. SA235 材木堀跡 南辺中央部 縦断面 (北から)



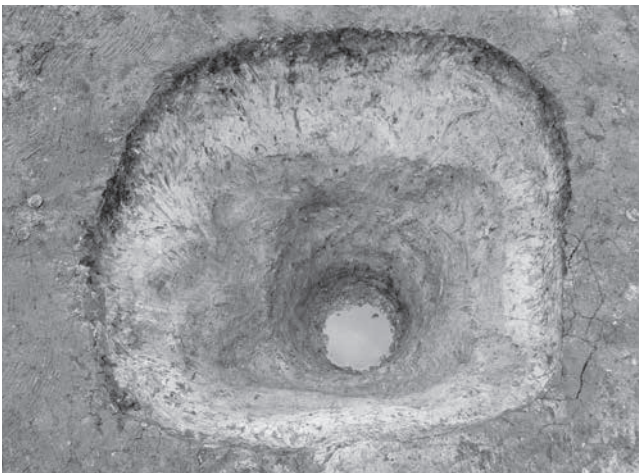
2. SA235 材木堀跡 南辺 縦断面 (南から)



3. SA235 材木堀跡 南辺 横断面 (東から)



4. SA235 材木堀跡 柱材残存状況 (北から)



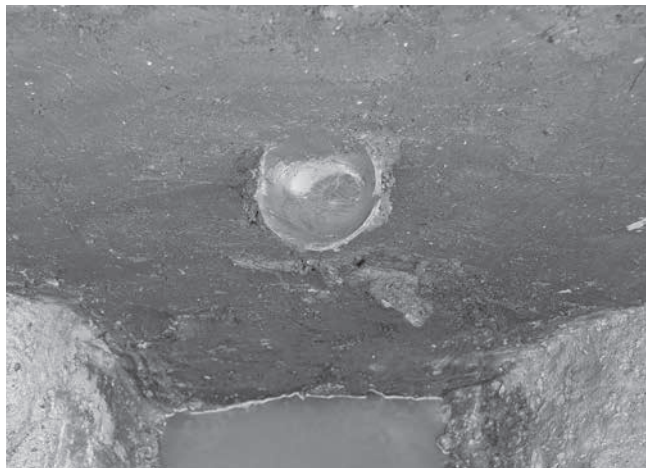
5. SE258 井戸跡 完掘状況 (北から)



6. SE258 井戸跡 断面 (北から)



7. SE258 井戸跡 側板出土状況 (北から)



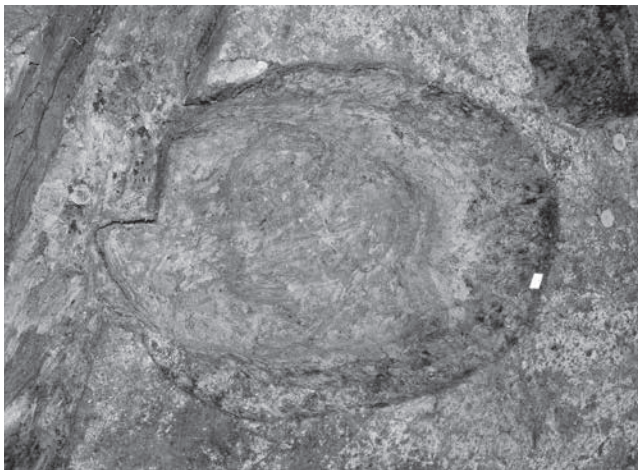
8. SE258 井戸跡 遺物出土状況 (北から)



1. SK243 土坑断面 (2層・南から)



2. SK253 土坑断面 (西から)



3. SK249 土坑完掘状況 (西から)



4. SK249 土坑断面 (西から)



5. SK257 土坑完掘状況 (北西から)



6. SK257 土坑断面 (北西から)



7. SK267 土坑完掘状況 (東から)



8. SK267 土坑断面 (南から)



1. SD242 溝跡 断面 (北から)



2. 5区西端部 旧河川跡 断面 (西から)



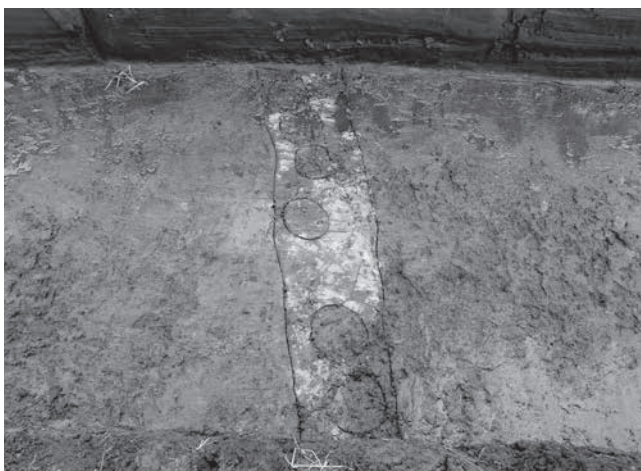
3. 遺構深度調査 T9 材木堀跡 確認状況 (西から)



5. 遺構深度調査 T11 材木堀跡 確認状況 (東から)



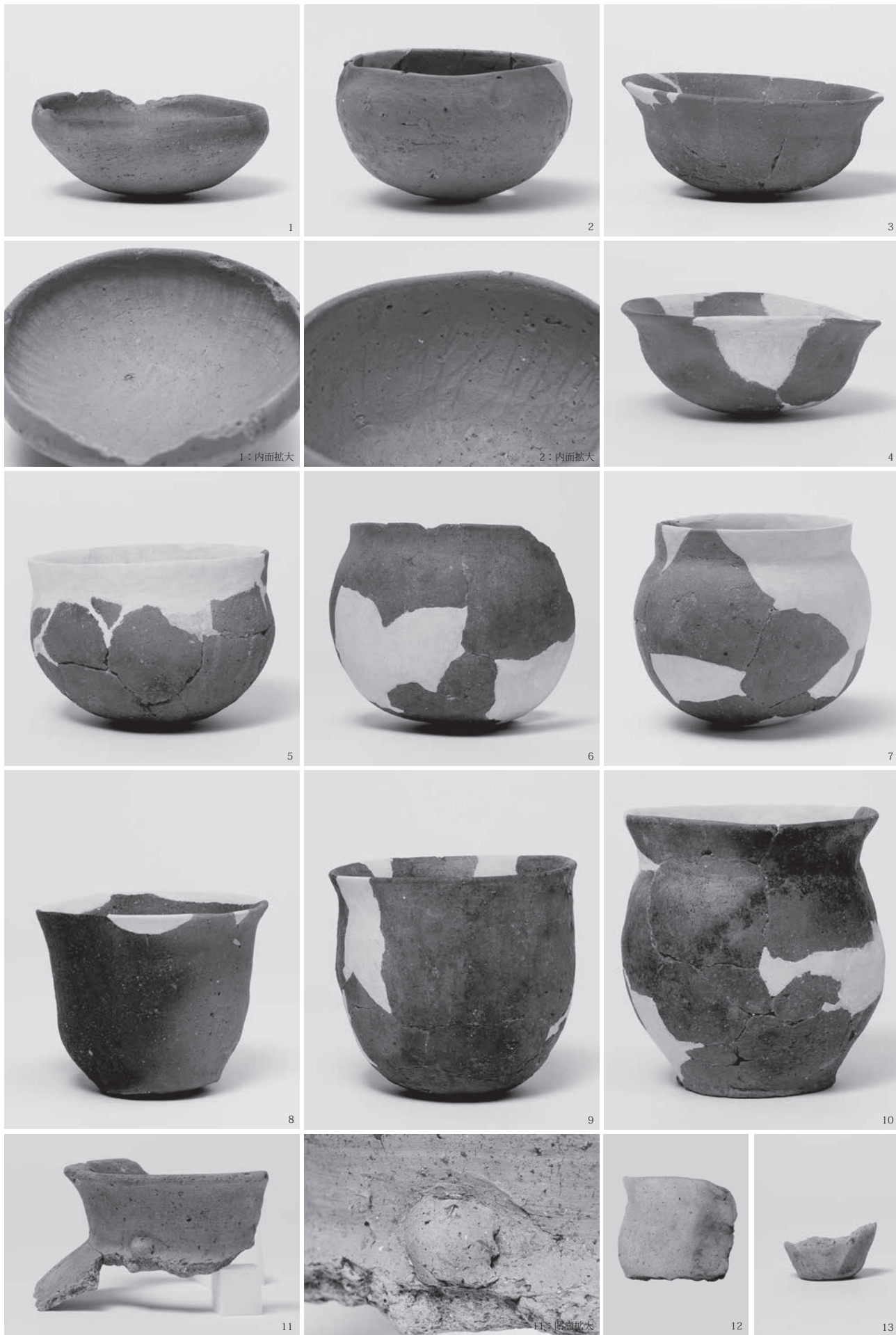
4. 遺構深度調査 T25 材木堀跡 確認状況 (東から)



6. 遺構深度調査 T39 材木堀跡 確認状況 (西から)

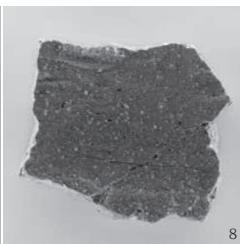
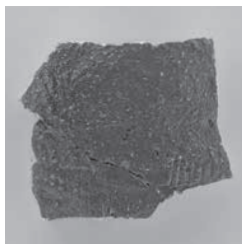


7. 5区東部 調査風景 (東から)



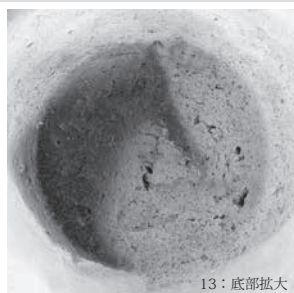
SI163 竪穴住居跡出土遺物 (1)
(第9図)

(S ≒ 1/3)

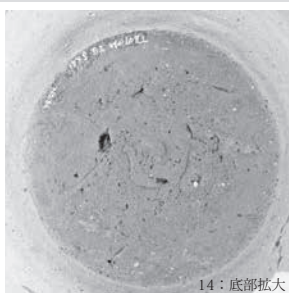


(S ≒ 1/3)

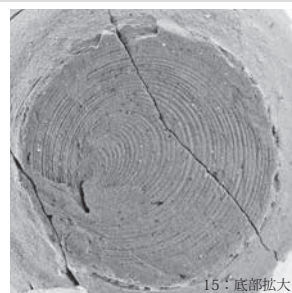
SI163 豎穴住居跡出土遺物 (2) SI165 豎穴住居跡、SA28 柱列跡、SD161 溝跡、SK180 土坑出土遺物
(1~4: SI163・第10図、5~6: SI165・第12図、7: SA28・第17図、8: SD161・第23図、9: SK180・第20図)



13: 底部拡大



14: 底部拡大



15: 底部拡大

SD162 溝跡、SD185 土坑出土遺物 SK41 土坑出土遺物 (1)

(1~8: SD162・第24図、9: SD185・第24図、10~15: SK41・第33図)

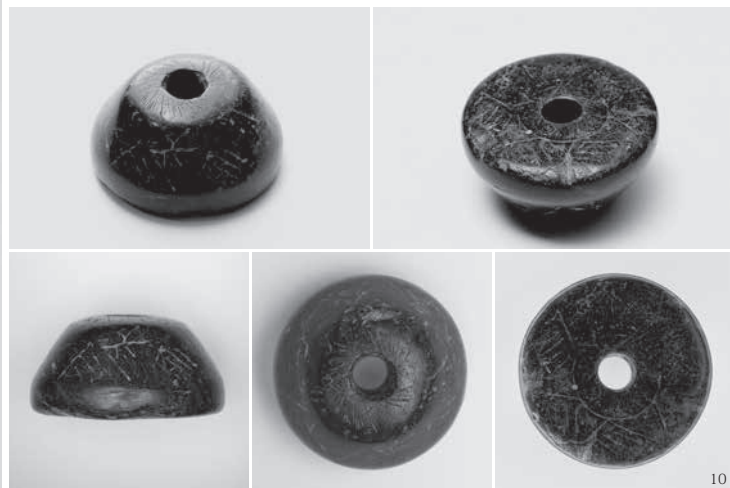
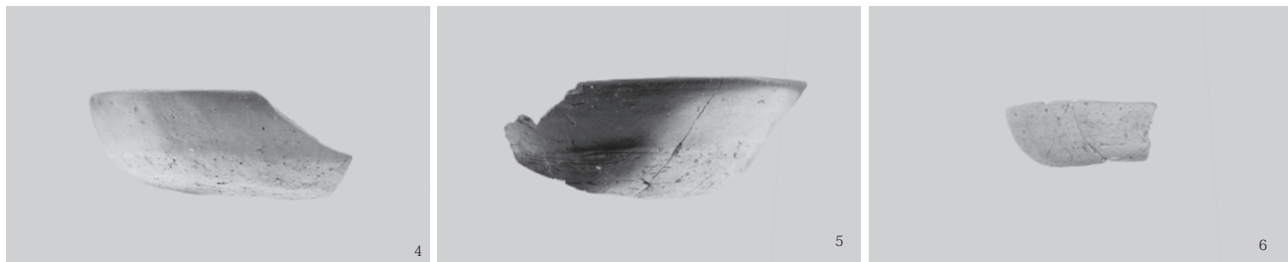
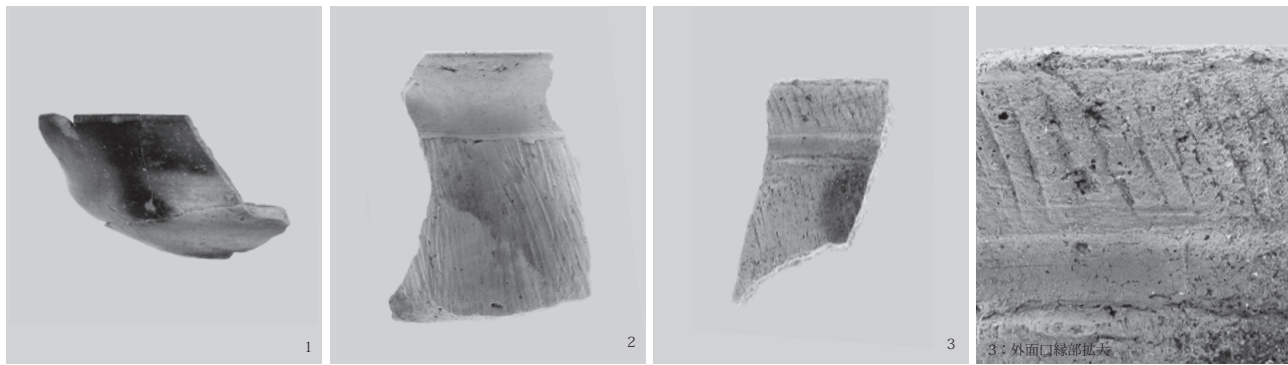
(S ≒ 1/3)



(S ≒ 1/3)

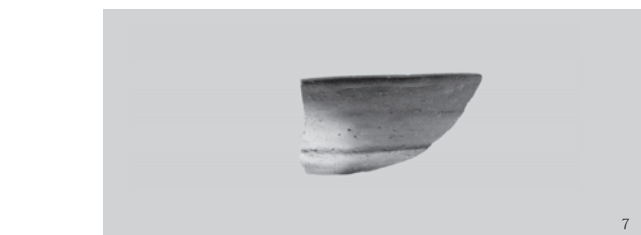
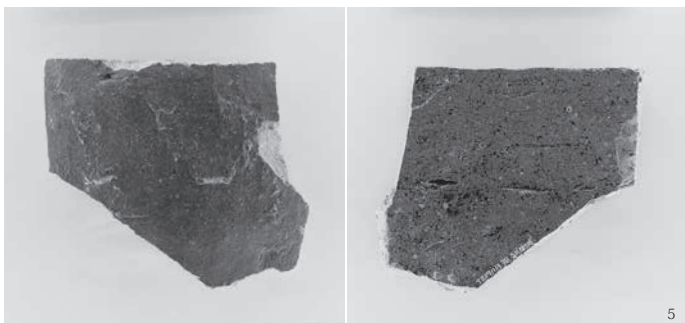
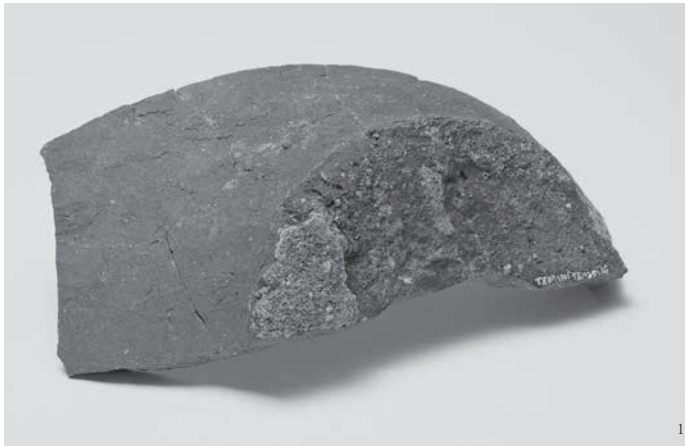
SK41 土坑出土遺物 (2)

(1・2・7・8：第33図、3~6：第34図)



(1~9: S ≒ 1/3 10・11: S ≒ 2/3)

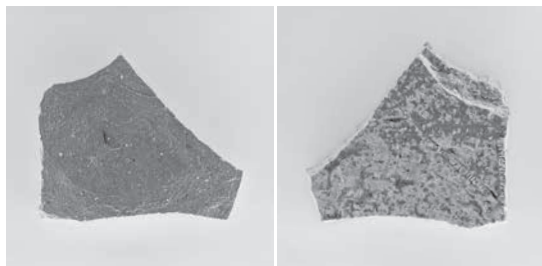
SI51・SI52 竪穴住居跡出土遺物
(1~3: SI51・第39図、4~11: SI52・第41図)



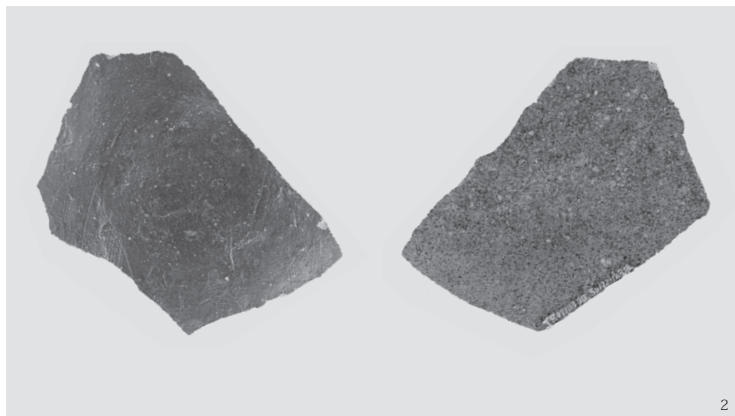
(1~3・5~9: S ≒ 1/3 4: S ≒ 2/3)

SA324 柱列跡、SD24・SD38・SD50 溝跡、SK112・SK125・SK212 土坑出土遺物

(1: SA324・第49図、2: SK112・第57図、3: SD38・第63図、4: SD24・第63図、5: SK125・第57図、6: SD50・第63図、7~9: SK212・第57図)



1



2



3



4



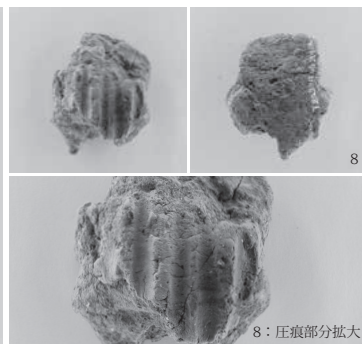
5



6



7



8

8: 圧痕部分拡大



9

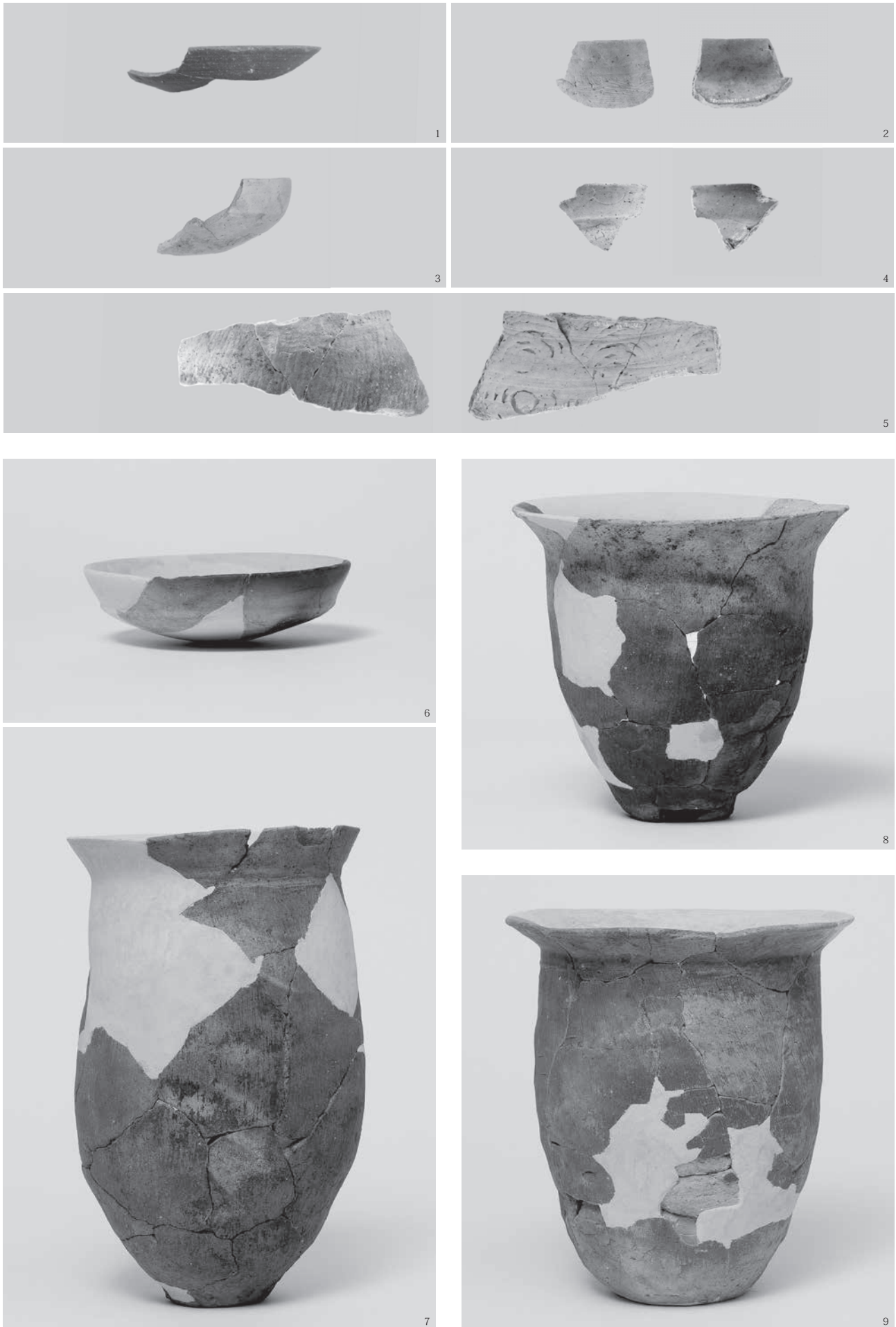


10

SI4 竪穴住居跡、SD122・SD123 溝跡出土遺物

(1: SD123、2: SD122~123・第63図、3~7・9・10: SI4・第68図、8: SI4)

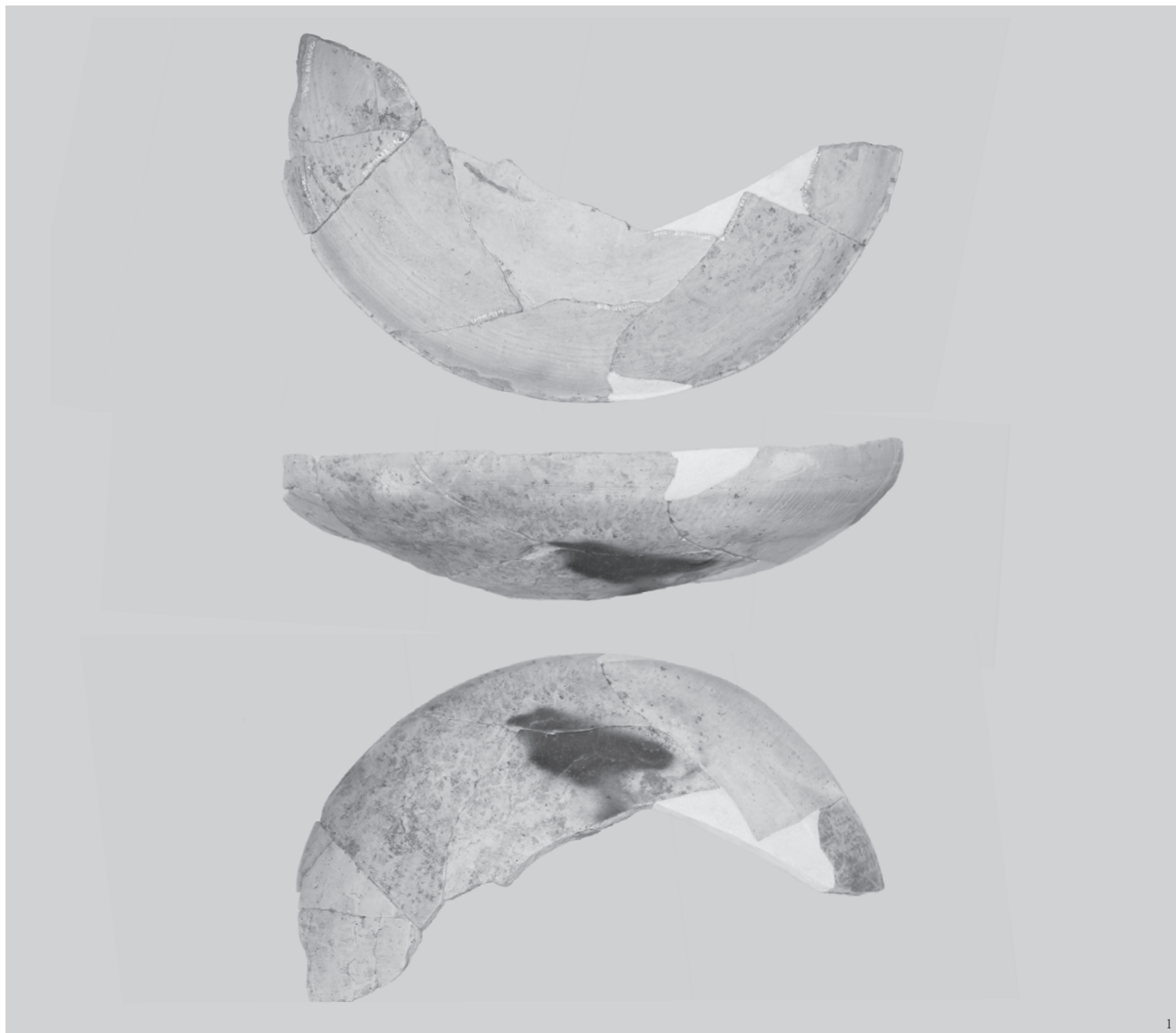
(S ≒ 1/3)



SI5b・SI5c・SI6 竪穴住居跡出土遺物 SI9 竪穴住居跡出土遺物 (1)

(1~5 : SI9・第74図、6・7 : SI5c・第72図、8 : SI5b・第72図、9 : SI6・第72図)

(S ≒ 1/3)



1



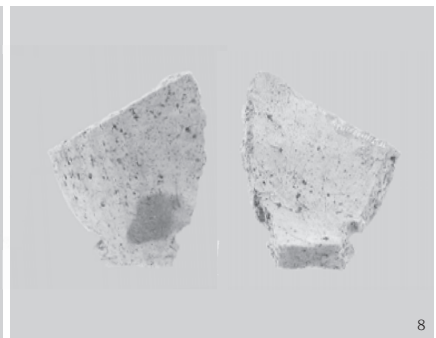
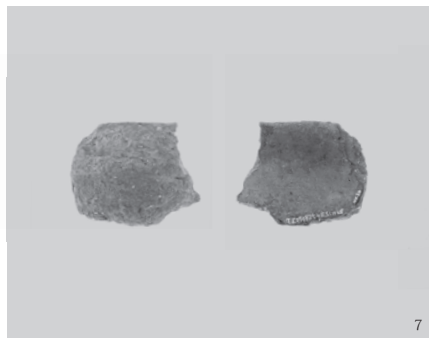
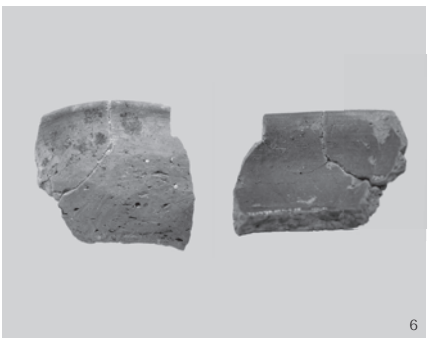
2



3

S19 豎穴住居跡出土遺物 (2)
(第 74 図)

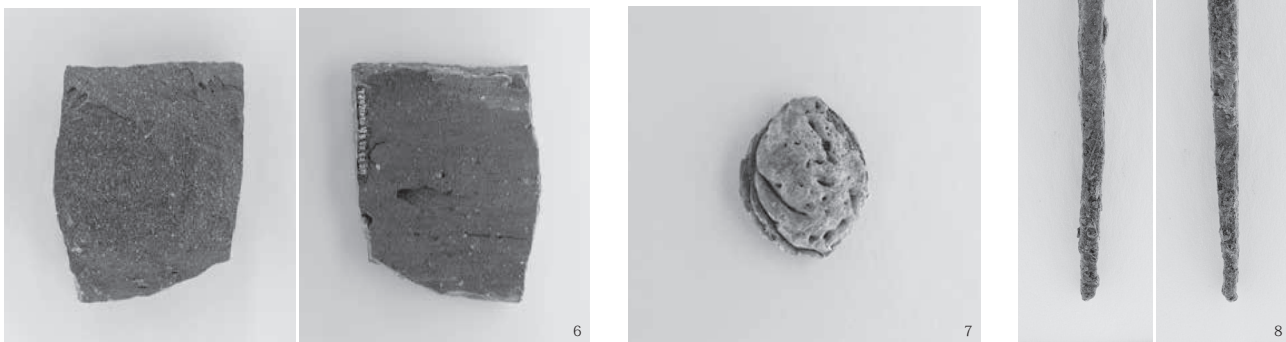
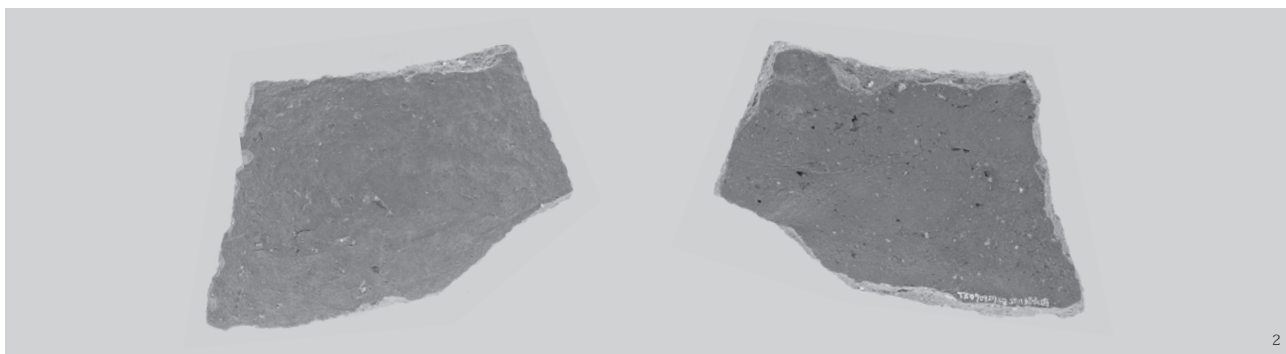
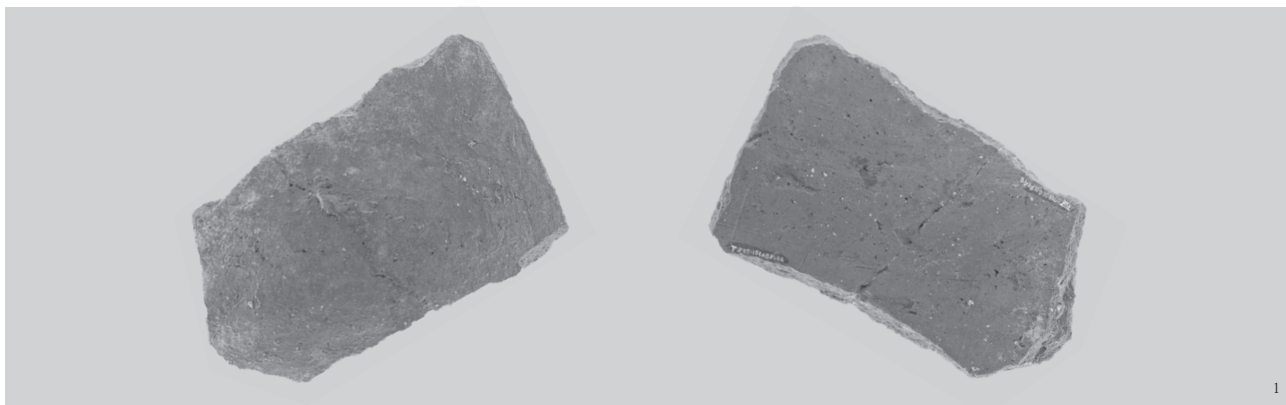
(S ≒ 1/3)



(1・3～10 : S ≒ 1/3 2・11 : S ≒ 2/3)

SI10 竪穴住居跡、SA282 柱列跡、SE59 井戸跡、SK58 土坑出土遺物

(1~8 : SI10・第76図、9 : SA282・第91図、10 : SK58・第98図、11 : SE59・第95図)



(1~6: S ≒ 1/3 7: S ≒ 1/1 8: S ≒ 2/3)

SB313・SB23 掘立柱建物跡、SE11・SE60 井戸跡、SD8 溝跡、SX53 水溜め状遺構出土遺物

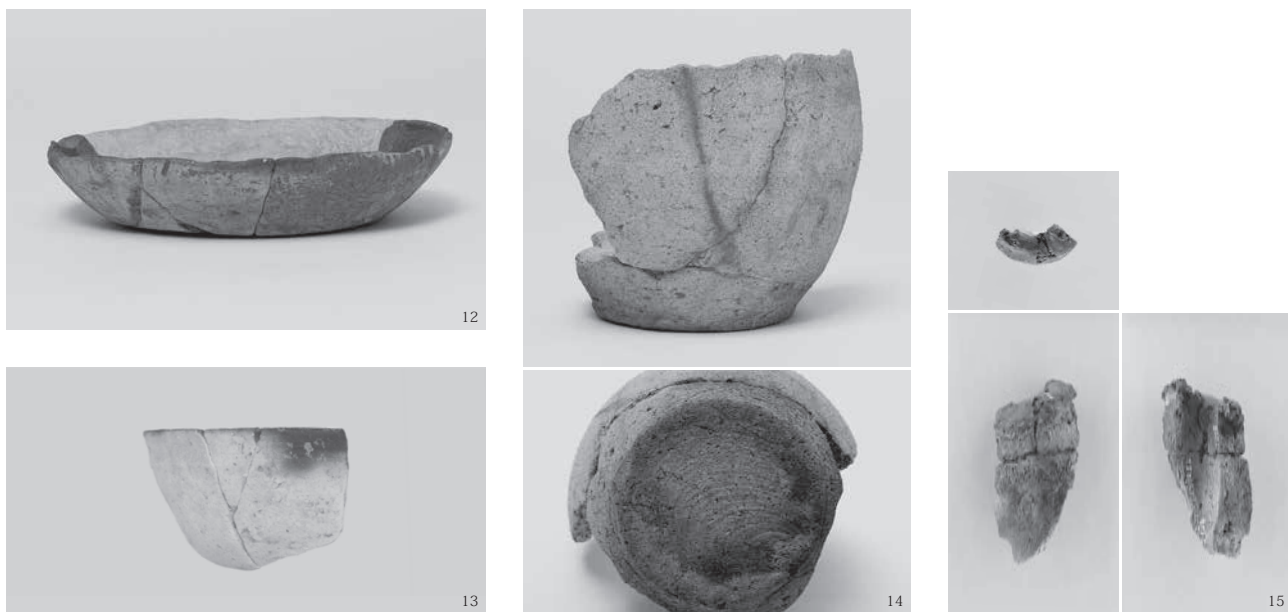
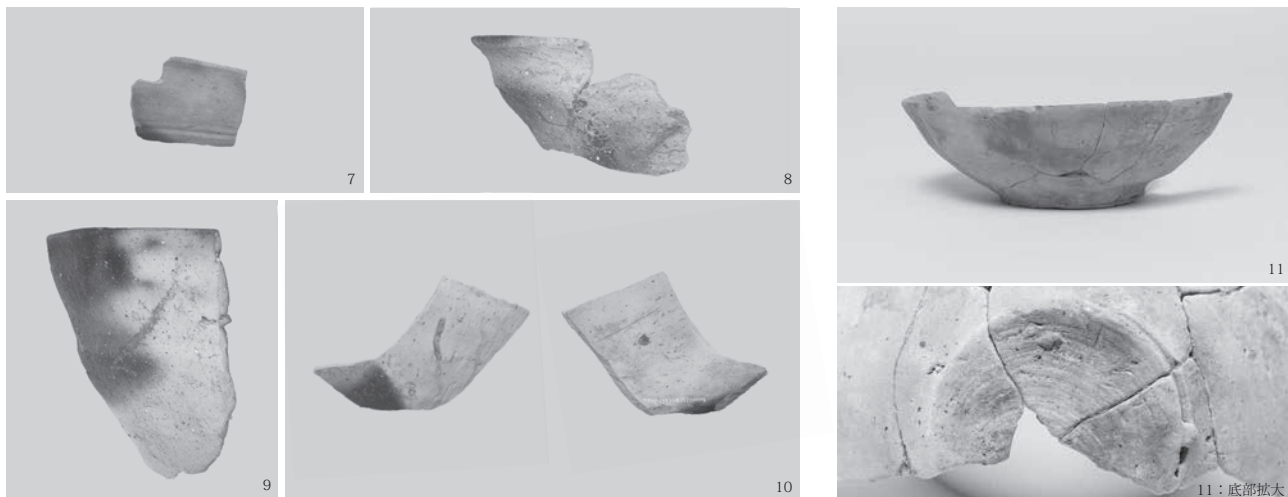
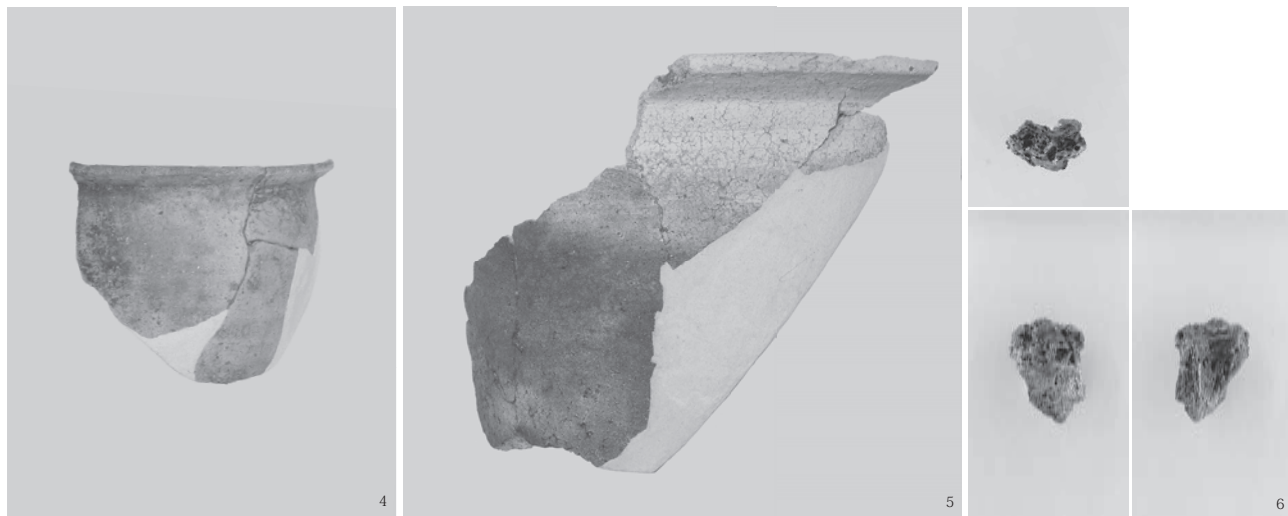
(1: SB313・第84図、2: SE11・第94図、3~5: SD8・第100図、6: SX53・第103図、7: SE60、8: SB23・第81図)



(S ≒ 1/3)

SI206・SI207・SI209b・SI213・SI215・SI217 竪穴住居跡出土遺物

(1: SI206・第110図、2・3: SI207・第112図、4: SI209b・第117図、5~8: SI213・第119図、9~13: SI215・第122図、14~17: SI217・第125図)



(S ≒ 1/3)

SI218・SI220a・SI221・SI222・SI223・SI226 竪穴住居跡、遺構外出土遺物

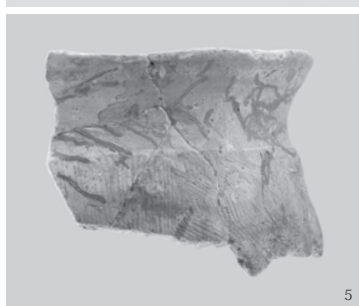
(1~6: SI218・第128図、7~10: SI220a・第131図、11: 遺構外・第158図、12: SI221・第131図、13: SI223・第132図、14: SI226・第137図、15: SI222・第131図)



(S ≒ 1/3)

SI225 豎穴住居跡出土遺物

(1~6: 第135図、7~9: 第136図)



SI229・SI230・SI231 竪穴住居跡、SK58・SK71・SK253 土坑出土遺物

(1: SK71・第98図、2: SK58・第98図、3~6: SI231・第141図、7: SI229・第138図、8・9: SI230・第139図、10・11: SK253・第152図)

(S ≒ 1/3)



1



1: 底部拡大



1: 底部墨書拡大 (赤外線写真)



8



8: 底部墨書拡大 (赤外線写真)



9



2



3



4



5



6

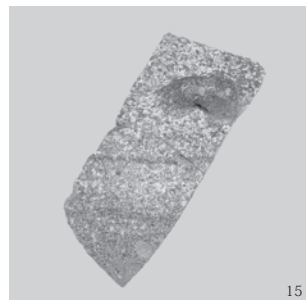
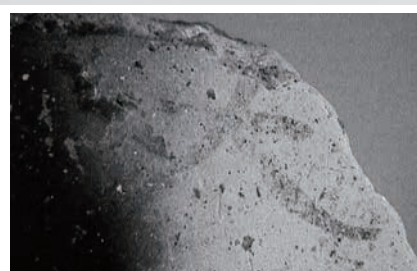
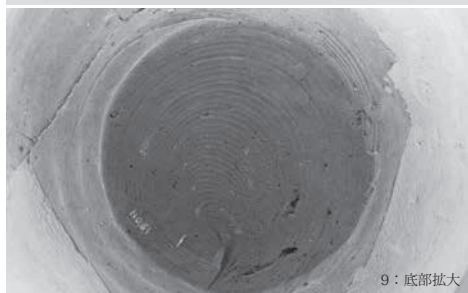
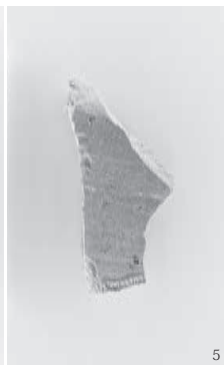
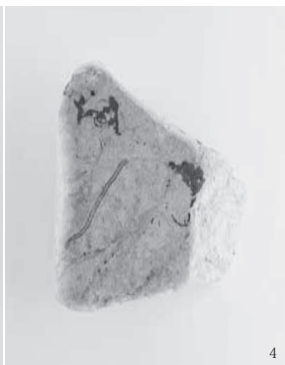
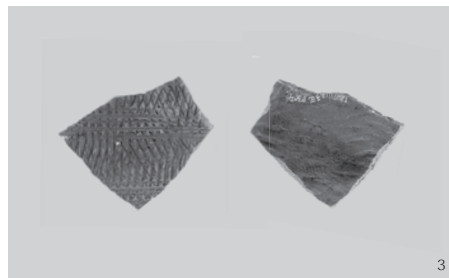
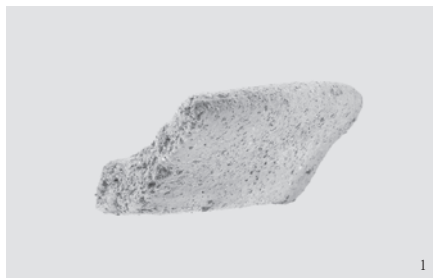


7



10

(S ≒ 1/3)



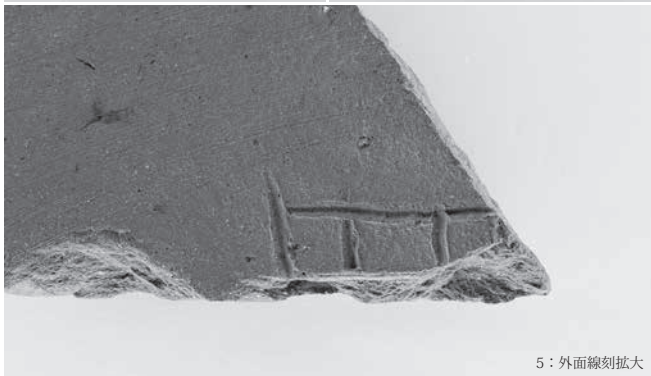
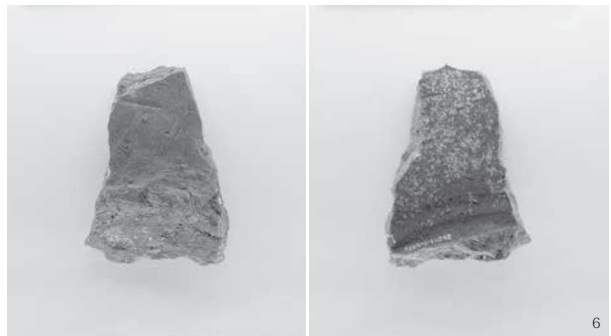
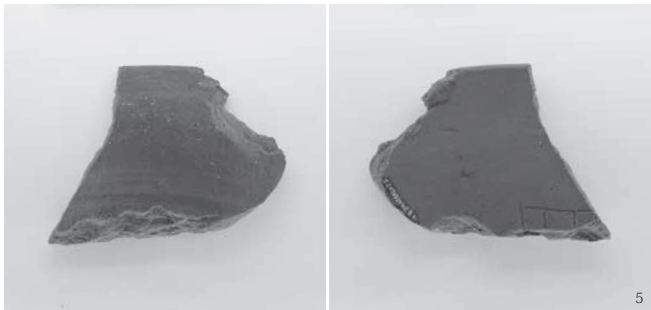
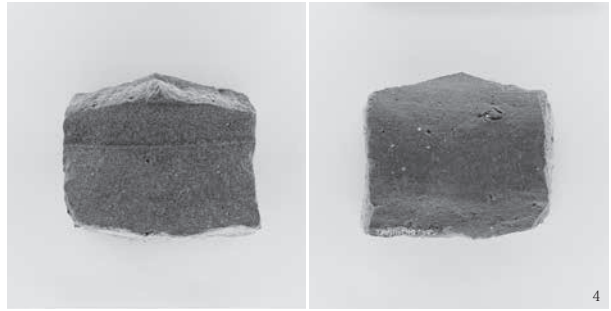
9: 底部拡大

10: 底部墨書拡大 (赤外線写真)

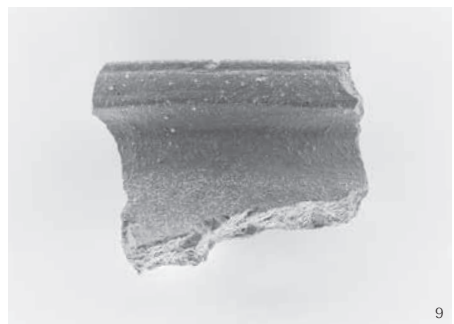
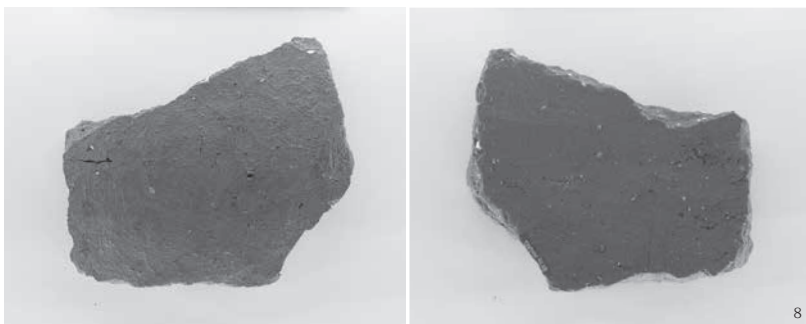
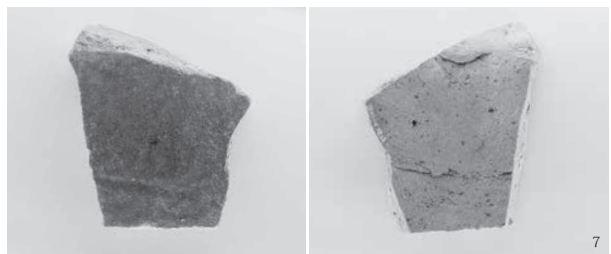
(1・2: S ≒ 1/1 3~15: S ≒ 1/3)

柱穴跡、遺構外出土遺物

(1・3~5: 柱穴跡・第157図、2: 柱穴跡、6~15: 遺構外・第158図)



5：外面線刻拡大



(1 ~ 10 : S ≒ 1/3 11 · 12 : S ≒ 1/1)

遺構外出土遺物

(1~9・11：第159図、10：第161図、12：第160図)



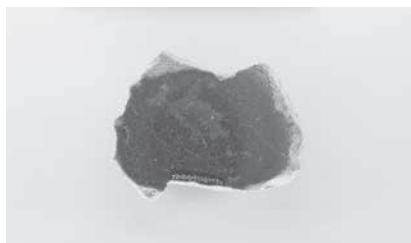
1

2

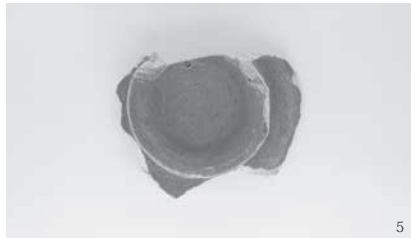
3



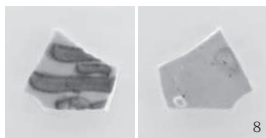
4



6



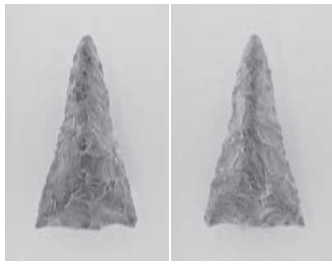
7



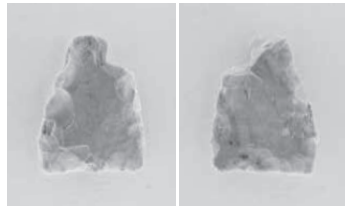
8

5

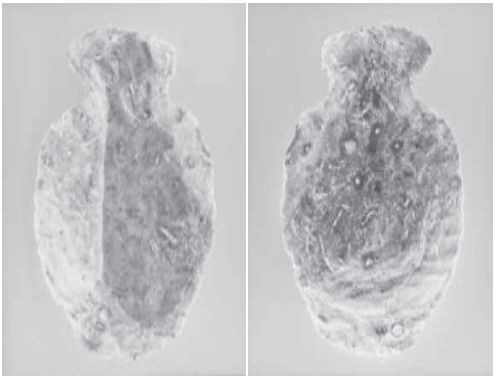
9



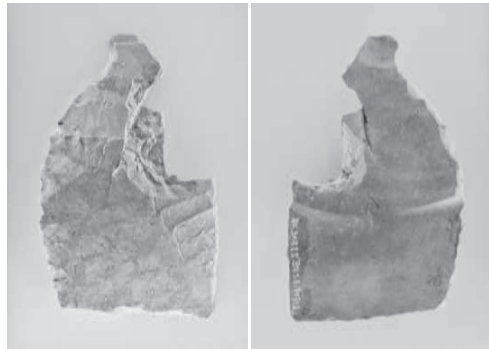
1



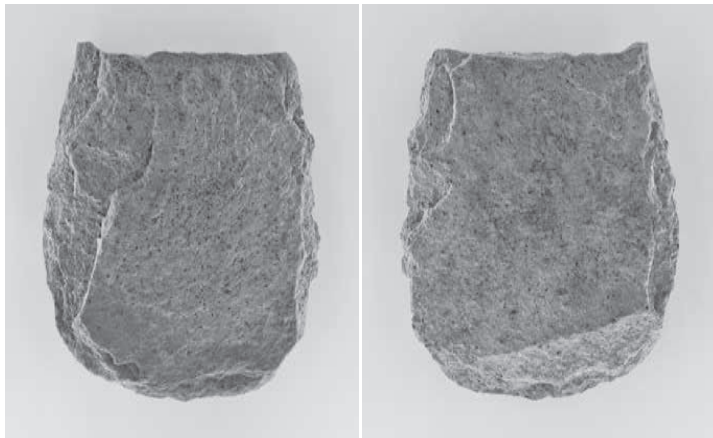
2



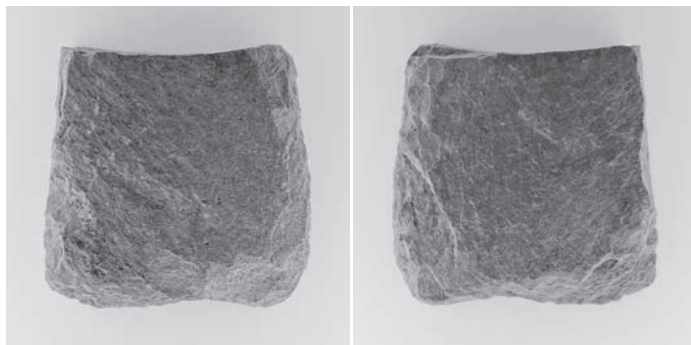
3



4



5

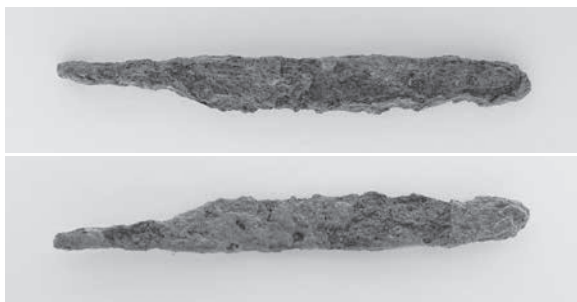


6

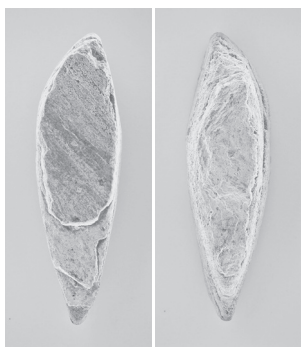
(1 ~ 4 : S ≒ 2/3 5 · 6 : S ≒ 1/3)



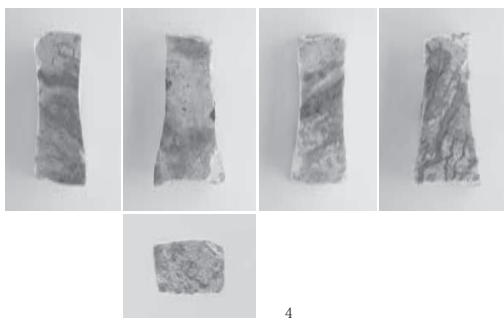
1



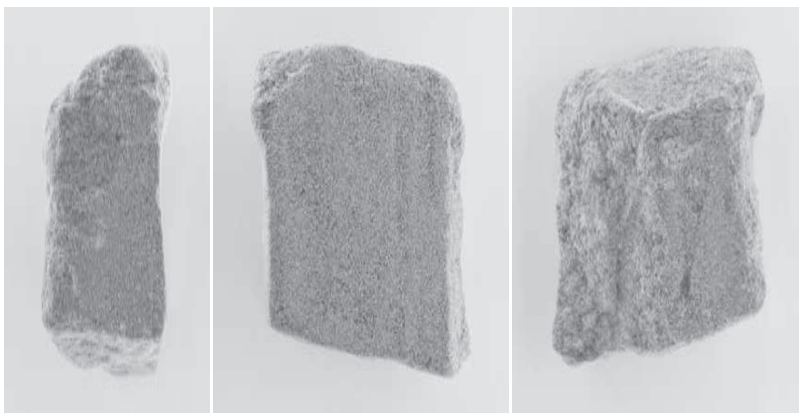
2



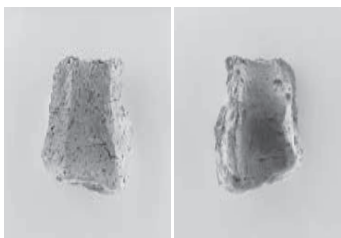
3



4



5



6



7

(1~4 : S ≒ 2/3 5~7 : S ≒ 1/3)

遺構外出土遺物

(1・2 : 第160図、3~7 : 第162図)

【 解 説 】

かけがえのない遺跡を未来へ

私たちの足もとには、昔の人々が暮らした家の跡や、そこで使われた土器や石器などの道具が埋もれている場所があります。このように、昔の人々の生活の跡が残されている場所を、「遺跡」と呼んでいます。遺跡は、長い歴史の中で大地に刻み込まれた私たち人間の生活の記憶なのです。

蔵王山麓の豊かな自然環境に恵まれた蔵王町には、私たちの祖先が残した多くの遺跡があります。人々がいつ、どのようにして郷土蔵王に住み着いたのか。彼らは日々の生活をどのように送り、何歳まで生きたのか。土器づくりは誰の仕事だったのか。興味の尽きないテーマです。

遠い昔の人々が残した遺跡を調べることは、時として私たち現代人が抱える課題を解決するヒントを与えてくれることもあります。私たちにとって未曾有の大災害であった平成 23 年東日本大震災では、大津波によって多くの人々がかけがえのない命や財産を失い、今も不自由な生活を強いられている人々がいます。実はこのような大災害は、歴史上初めてではありませんでした。仙台平野や松島湾の遺跡には、私たちが経験したものと同くらい大規模な津波が過去に幾度かにわたって押し寄せ、そのたびに復興を成し遂げた跡が残されていたのです。江戸時代の街道の道筋は、津波が到達した地点より内陸を通過していたことも分かって来ました。

私たちの蔵王町でも、縄文時代の人々のムラが松川などの氾濫による水害を避けるように高台を巧みに選んだことが分かります。このように遺跡には、大自然の脅威にさらされながら、たくましく生き延びた人々の歴史と知恵が刻まれているのです。遺跡を調べることで昔の人々の知恵に学び、私たちの歴史や文化を良く知ることは、私たち自身の生活を見直したり、将来を考えるためにとても重要な役割を果たしています。そのためには、長い歴史を経て伝えられてきた大切な遺跡を、私たち国民共有の財産として、未来の子どもたちの世代へ守り伝えていかななくてはなりません。

遺跡を記録に残すための発掘調査

十郎田遺跡は、小村崎地区のなだらかな丘の上につくられた昔の人びとのムラの跡です。小村崎・平沢地区の円田盆地では、水田や畑を使いやすく作り変えるほ場整備工事が計画されました。できるだけ遺跡を壊さないで工事を行なうために、地元地権者の皆さんでつくる蔵王町土地改良区や工事を行なう宮城県大河原地方振興事務所ではたくさんの工夫をしました。それでも、どうしても遺跡が壊れてしまう部分では、工事を行なう前にどのような遺跡が残されているのかを詳しく調べ、その様子を写真や図面に記録するために、蔵王町教育委員会が発掘調査を行なうことになりました。発掘調査では、たくさんの発掘作業員の皆さんが汗を流しました。このように、たくさんの人々の努力によって、十郎田遺跡の記録を残すことができたのです。



町内最大規模！大型竪穴住居跡の調査

当時の普通の住居の約 4 倍、幅 6.7m、長さ 8.0m もある大型の竪穴住居跡も発見されました。



発掘調査に参加した調査員や作業員の皆さん

発掘された大型住居跡での記念撮影。20 人以上が入っても余裕の広さがあるのが分かります。

十郎田の丘につくられた飛鳥時代の集落

ここに刊行した「十郎田遺跡発掘調査報告書」をひも解くと、雄大な蔵王山麓に抱かれた円田盆地に暮らした人々の歴史であり、さらには蝦夷と呼ばれた当時の東北地方の人々と、遠く近畿地方から勢力を広げ、新しい国づくりをめざした大和朝廷とのダイナミックな古代史の1ページを知らせてくれるとても重要な遺跡だったことが分かります。発掘調査では、今から約1300年ほど前の飛鳥時代と、1100年ほど前の平安時代のムラの跡、700年ほど前の鎌倉時代の屋敷の跡などが発見されました。十郎田の丘には様々な時代の人々の足跡が残されていたのです。さてここでは、飛鳥時代の集落の様子をのぞいてみましょう。

飛鳥時代の半ばを過ぎたころ、西から東に細長くのびる十郎田の丘の東の端に、数軒の竪穴住居が建てられました。竪穴住居は当時の普通の人々の住まいで、地面を掘り窪めたところに柱を立て、その上から地面まで届くように屋根をかけた建物です。林か草原のような場所だった十郎田の丘に、新しいムラ—十郎田ムラが誕生したのです。十郎田ムラをつくった人々の中には、蔵王山麓に昔から住んできた人々の一族ではなく、現在の関東地方が福島県あたりから移り住んだ人々も含まれていたようです。ですから、使っていた土器や住んでいた家のつくりかたは蔵王山麓の人々と同じものもあれば、違うものもありました。人々の間にはどんな交流があったのでしょうか。

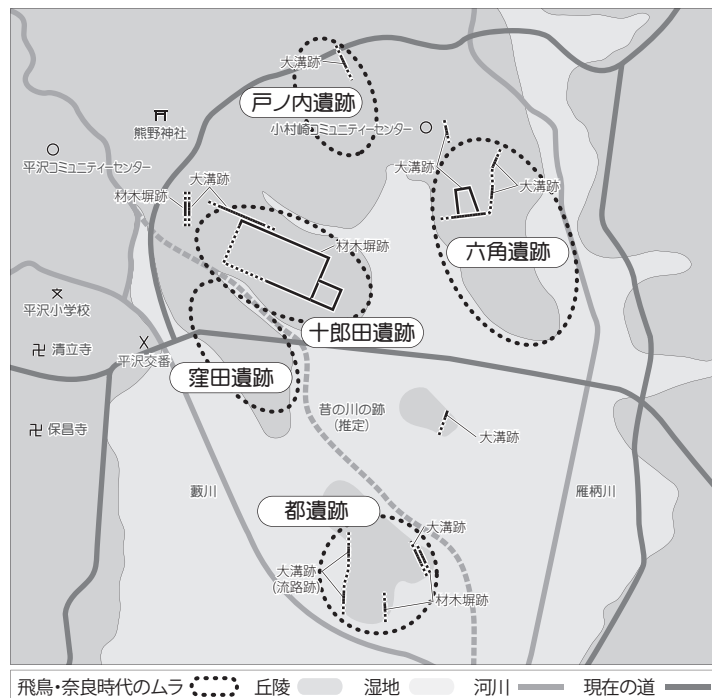
十郎田ムラの人々は、自分たちの家を建て終わるとすぐに土木工事を始めました。まわりの山々でクリの木を切り倒し、皮をはぎ、縦に割ってたくさんの材木をこしらえて十郎田の丘へ運びました。人々は十郎田の丘の全体を取り囲むように溝を掘り、そこに材木を立て並べていきます。十郎田の丘は瞬く間に材木の塀で取り囲まれ、塀の中にはたくさんの竪穴住居や掘立柱建物が建てられました。掘立柱建物は周囲に柱を立てて壁を作り、その上に屋根をかけた建物で、当時は役所や寺院などにしかない特別な建物でした。

十郎田の丘にムラができた頃、南側に川をはさんで向かい合う窪田の丘にも新しいムラが作られました。窪田ムラには丘を囲む塀はありませんが、竪穴住居や掘立柱建物が多く建てられました。それからやや時が過ぎて奈良時代の初めころになると、窪田の丘の



十郎田遺跡の発掘調査

遺跡のある円田盆地の西には青麻山、そして蔵王連峰を望むことができます。



小村崎・平沢地区につくられた飛鳥・奈良時代のムラはじめて十郎田・窪田の丘に移民の人々のムラが作られました。その後、都の丘に役所のような施設ができると、十郎田ムラの人びとは姿を消し、周辺の窪田・六角・戸ノ内などの丘に新しくやってきた移民の人々のムラが作られました。

南側に溝と塀の囲いが作られ、中に大きな掘立柱建物が建てられました。考古学者はこの遺跡を、当時の役所のような特別な施設だったと考えています。そしてそのころ、十郎田ムラの人々は忽然と姿を消し、十郎田ムラの人々と入れ替わるかのように、現在の関東地方が福島県あたりからたくさんの人々が移り住み、窪田・六角・戸ノ内などに新しいムラをつくったらしいのです。

そして、それからさらに数十年が過ぎた奈良時代の半ばまでには、窪田のムラや周辺のムラも、役所のような施設もなくなり、元の草原へと戻ってしまったのです。やがて長い時間が過ぎて畑が作られるようになると、役所のような施設が作られていた場所では瓦や土器がたくさん出土するので、後の人々はここを昔の都の跡だと考え、「都」という地名で呼ぶようになりました。

十郎田遺跡から日本の歴史が見えてきた

十郎田ムラの人々は、なぜ遠く離れた故郷から移り住み、ムラを取り囲む塀をつくり、掘立柱建物を建て、そして姿を消したのでしょうか。

同じ頃、もっと遠く離れた奈良・飛鳥の都では、法律に基づいて治める新しい国（律令国家）の建設を目指して中大兄王子や中臣鎌足らが政治改革（大化の改新）を進めていました。これによって、これまで地域の有力者（朝廷から国造に任命された豪族）に任されていた地方の支配は、中央から派遣された国の役人（国司）が行なうようになりました。律令国家はこのような制度を東北地方へ広げ、蝦夷の暮らしていた地域をも支配下に治めるために、当時既に支配下にあった関東地方や福島県あたりの人々を宮城県あたりへ次々に送り込み、新しい役所や軍事基地をつくりました。

考古学者や古代史学者は、十郎田ムラのような塀で囲まれた移民のムラが宮城県で多く見つかっているため、新しい役所や軍事基地を作るために律令国家によって派遣された人々のムラだと考えています。だとすると、「都」の丘につくられた施設は、やはり律令国家の役所だったのででしょうか。十郎田ムラを後にした人々は、さらに北にある蝦夷の本拠地を制圧するための前線基地へと派遣されたのでしょうか。この謎は、これからの考古学や古代史の研究によって解き明かされていくのかもしれませんが、謎を解く重要なカギは発掘せずに保存された遺跡にまだ眠っているのかもしれませんが。

このように十郎田遺跡は、現在の日本の国の最初の形がつくられた時代のことを私たちに教えてくれる、大切な遺跡のひとつであることが分かりました。ここに記録された十郎田遺跡の考古学的成果は、地域の歴史を解き明かすカギとしてとても貴重なものです。



竪穴住居跡の調査

土層観察用のあぜを残しながら掘り下げます。



発見された材木塀の跡

太さ 20cm ほどの柱を立て並べて作られていました。



材木塀と掘立柱建物の跡

材木塀跡(右)の内側で建物の跡が見つかりました。

報告書抄録

ふりがな	じゅうろうたいせき 1							
書名	十郎田遺跡 1							
副書名	経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査							
巻・次								
シリーズ名	蔵王町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 13 集							
編著者名	鈴木 雅							
編集機関	蔵王町教育委員会							
所在地	〒 989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北 10 TEL 0224-33-3008 Fax0224-33-3831							
発行年月日	西暦 2011 年（平成 23 年）1 月 20 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
じゅうろうたいせき 十郎田遺跡	宮城県刈田 郡蔵王町大 字小村崎字 十郎田・宮 前地内	43010	05105	38° 7' 27"	140° 41' 16"	2007.8.24) 2008.1.15 2008.7.7) 2008.11.7	9,099m ²	経営体育成 基盤整備事業 （県営ほ場整 備事業・円田 2 期地区）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
十郎田遺跡	集落跡 散布地	古墳 飛鳥 平安 中世	竪穴住居跡 41 軒 掘立柱建物跡 66 棟 柱列跡 38 条 井戸跡 10 基 土坑 107 基 溝跡 47 条 水溜め状遺構 1 基 畝溝状遺構 1 基 性格不明遺構 5 基 柱穴多数		土師器（引田式・粟田式・関東系） ロクロ土師器（表杉ノ入式） 須恵器 ロクロかわらけ 中世陶磁器 近世陶磁器 縄文土器 石器（石鏃・石匙・石鏡） 石製品（紡錘車・石製模造品・砥石） 土製品（鞆羽口） 木製品（曲物・漆器碗・篋・挽物未製品） 金属製品（刀子・釘・銅銭） 総量：コンテナ 120 箱分		・SE66 井戸跡出土木製品（挽物 椀・皿・小皿未製品 180 点ほ か）については別編「十郎田 遺跡 2」で詳細を報告する。 ・本発掘調査で遺構に伴って出 土した木製遺物（柱材・礎板・ 木製品）を試料として実施し た放射性炭素年代測定（AMS 測定）および樹種同定分析の 結果については別編「十郎田 遺跡 2」で詳細を報告する。	
要約	古墳時代後期後葉（飛鳥時代後半、7 世紀中頃～後半）の竪穴住居跡 27 軒、掘立柱建物跡 5 棟、材木堀跡 3 条などの遺構群が確認され、材木堀による区画施設を伴う集落が営まれていたことが判明した。材木堀は直線的に延びてほぼ正確な長方形を描き、東西 308m、南北 142m の長方形の西郭の南東部に東西 58m、南北 52m の方形の東郭が付属し、東西の総延長は 366m に及ぶ大規模なものである。竪穴住居跡などから出土した土器群は在地土師器に加えて関東系土師器を含むものであり、その特徴からは関東地方あるいは福島県域との密接な関連が窺われる。当該期の材木堀区画を伴う集落は律令政府による対蝦夷政策の一環として移民を伴って設置され、統治拠点としての官衙造営にあたった人々の集落と考えられているが、宮城県南部では初めての発見である。前代の国造制施行範囲の外縁地帯における律令制導入期の情勢を考察する上できわめて重要である。 このほか、平安時代初頭～中葉の竪穴住居跡 8 軒、掘立柱建物跡 2 棟などが確認され、各時期の集落が営まれていたことが判明した。また、中世前半中頃（鎌倉時代中頃、13 世紀中頃）の掘立柱建物跡 50 棟、井戸跡 9 基、溝跡 7 条などが確認され、複数の屋敷が営まれていたことが判明した。掘立柱建物跡には廂（縁）の付属するものが見られ、屋敷内の中心的な建物であったと推定される。							

蔵王町文化財調査報告書 第13集

十郎田遺跡 1

—経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）に伴う緊急発掘調査—

2011年（平成23年）11月20日 印刷・発行

発行 蔵王町教育委員会

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町円田字西浦北10

TEL 0224-33-3008 FAX 0224-33-3831

印刷 株式会社 津田印刷

〒989-1236 宮城県柴田郡大河原町字東原町13-5

TEL 0224-52-5550 FAX 0224-52-3097
